新潟県埋蔵文化財調査報告書　第224集

日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書ＸＸＸⅦ

長　割　遺　跡

本　文　編

２０１１

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書ＸＸＸⅦ

長割（ながわり）遺跡

本　文　編

２０１１

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

日本海沿岸東北自動車道は、新潟市を起点に日本海に沿って北上して青森県に至る高規格幹線道路です。新潟県内では平成 14 年度に胎内市の中条インターチェンジまでが開通しました。

高速自動車道建設を取り巻く状況は厳しく、平成 15 年度末の国土開発幹線自動車道建設会議（国幹会議）において、日本海沿岸東北自動車道の中条－朝日 I.C 間は、日本道路公団が有料道路として建設を進めることとなりました。その後、公団の民営化に伴い、平成 17 年 10 月に設立された東日本高速道路株式会社に引き継がれましたが、平成 18 年 2 月の国幹会議において、荒川－朝日 I.C 間は国土交通省が新直轄道路として建設することとなりました。

日本海沿岸東北自動車道は、この地域内外の経済的な交流･連携を促進するだけではなく、救急患者の搬送・災害時の緊急輸送等「命の高速道」としての役割を期待されており、早期の開通が望まれます。

本書は､この高速自動車道建設に先立って発掘調査を実施した「長割遺跡」の報告書です。調査によって、縄文時代後期前葉の集落跡と中期前葉の生活痕跡を検出しました。後期前葉の集落跡ではおびただしい量の遺構を確認しましたが、日常の住まいと思われる円ないし方形等の建物が 166 棟、特別な日に使用されたと思われる長方形で高床の掘立柱建物 21 棟などがあります。この中には、長さ約 18m、幅 5m と床面積が県内最大級の掘立柱建物 3 棟が含まれます。今回の発掘調査範囲に加え、未調査区に広がりが予想されるムラの規模は 4 万 m^2 程で､県内でも最大級の縄文集落であることが確認できました。膨大な出土品には、土器・石器のほか動・植物の食糧残骸もあり、県内はもとより全国的にも注目される縄文集落を検出したと考えています。

今回の報告及び出土資料が県内のみならず、全国的視野で研究資料として活用され、埋蔵文化財の理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、発掘調査に参加された方々や地元区長並びに村上市教育委員会には、多大なご協力とご援助をいただきました。また調査から報告書刊行に至るまで、格別の配慮をいただいた国土交通省北陸地方整備局羽越河川国道事務所及び東日本高速道路株式会社、三面川沿岸土地改良事務所には、厚くお礼を申し上げます。

平成 23 年 3 月

新潟県教育委員会

教 育 長　武　藤　克　己

例　　言

1　本書は、村上市大字下相川字長割に所在する長割遺跡の発掘調査記録である。

2　この調査は、日本海沿岸東北自動車建設に伴い、国土交通省北陸地方整備局羽越河川国道事務所から新潟県教育委員会（以下、「県教委」とする）が受託したものである。

3　発掘調査は、県教委が主体となり、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、「埋文事業団」とする）が受託して、平成 19・20 年度に実施した。

4　整理作業及び報告書作成に係る作業は、平成 21・22 年度に埋文事業団が行った。

5　出土遺物及び調査・整理作業に係る各種資料（含む観察データ）は、一括して県教委が保管・管理している。遺物の注記は「ナガワ」とし、出土地点・層位を併記した。

6　本書の図中で示す方位はすべて真北である。基準杭の打設は（有）山武考古学研究所が行った。

7　報告書掲載遺物の番号は上下面と最下面、土器・土製品と石器・石製品に分け、それぞれ通し番号とし、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて一致している。

8　本文中の註は脚註とし、頁ごとに番号を付した。また、引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に［　］で示し、自然科学分析を除いて巻末に一括して掲載した。

9　「第Ⅵ章　自然科学分析」は以下の機関に委託した。

放射性炭素年代測定	株式会社加速器分析研究所
珪藻化石分析	株式会社古環境研究所
動物遺存体の同定	独立行政法人奈良文化財研究所
炭化材の樹種・炭化種実の同定	古代の森研究舎
黒曜石製石器・剥片の原産地分析	有限会社　遺物材料研究所
黒色物の赤外分光分析	株式会社パレオ・ラボ

10　建物の復元には宮本長二郎氏（別府大学客員教授）、石器・石製品の一部の石材は宮島 宏氏・竹之内 耕氏（フォッサ・マグナミュージアム）、縄文土器については小林正史氏（金沢学院大学）、寺﨑裕助氏・宮尾　亨氏（新潟県立歴史博物館）、田中耕作氏（新発田市教育委員会）にそれぞれご教示いただいた。

11　遺構・遺物図のトレース、各種図版作成・本文編集作業の一部を株式会社セビアスに委託し、完成データを印刷業者に入稿した。

12　本書の執筆分担は、委託機関とした自然科学分析を除き、第Ⅱ章、第Ⅴ章 2B・3・4A、第Ⅶ章 1A1）a・b・2）・B を坂上有紀（埋文事業団　嘱託員）、他が滝沢規朗（同　班長）である。編集は滝沢規朗が担当し、校正に藤巻正信（同　調査課長）が加わった。

13　調査の内容については以下の刊行物に概要を報告したが、本書の記述をもって正式な報告とする。また、以下の刊行物と本書に齟齬がある点は、本書の記述をとるものとする。

滝沢規朗　『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』平成 19 年度（2008 年 10 月）、平成 20 年度（2009 年 10 月）（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

滝沢規朗　『埋文にいがた』第 62 号（2008 年 3 月）、第 63 号（2008 年 7 月）、第 67 号（2009 年 6 月）、第 71 号（2010 年 6 月）（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

滝沢規朗　2009「村上市長割遺跡の調査概要」『新潟県考古学会第 21 回大会発表要旨』 新潟県考古学会 6 月

14　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多大なご教示とご協力をいただいた。厚くお礼申し上げる。（五十音順　敬称略）

相羽重徳　石井　寛　上野修一　長田友也　岡村道雄　小林正史　小林　克　小林達雄
木下哲夫　佐々木藤雄　佐藤雅一　鈴木正博　関　雅之　高木公輔　田中耕作　谷藤保彦
寺﨑裕助　野田豊文　宮尾　亨　水澤幸一　宮本長二郎　吉井雅勇　村上市教育委員会

目　　次

第Ⅰ章　序　　章

1　調査に至る経緯……1

2　調査経過……1

A　試掘確認調査……1

B　本発掘調査……3

C　整 理 作 業……6

D　調査・整理体制……6

第Ⅱ章　遺跡をとりまく環境

1　地理的環境……7

2　歴史的環境……8

第Ⅲ章　調査の概要

1　グリッドの設定……13

2　基 本 層 序……14

第Ⅳ章　遺　　構

1　概　　要……17

A　遺構確認面と遺構の掲載方法……17

B　各面における検出遺構と種別……17

2　記述の方法……18

3　遺 構 各 説……19

A　上下面の縄文時代……19

1）竪穴建物……19　2）平地建物……19

3）掘立柱建物……27　4）杭　　列……39

5）柱　　穴……40　6）埋設土器……41

7）袋状土坑……45　8）土　　坑……47

9）自然流路……57　10）不明遺構……58

B　上面の中世……64

C　最　下　面……65

1）地　床　炉……66　2）土　　坑……66

第Ⅴ章　遺　　物

1　遺物の概要と記述の方法……68

2　上・下面の後期の遺物……68

A　土　　器……68

1）土器の出土量と分布傾向……68　2）記述の方法……70

3）分　　類……71　4）時　　期……76

5）各　　説……76

B　土　製　品……92

1）概　　要……92　2）本文・観察表の記載……92

3）各　　説……92

C　石器・石製品……95

1）資料の提示方法……95　2）石器の分類と分析……98

（1）石　鏃……98　（2）石　錐……101　（3）石　匙……102

（4）筌状石器……104　（5）異形石器……104　（6）両極剝離痕のある石器……105

（7）不定形石器……107　（8）石核……112　（9）剝片類……113

（10）磨製石斧……120　（11）石　皿……123　（12）砥　石……125

（13）手持ち砥石……127　（14）台　石……128　（15）磨石類……128

（16）多面体敲石……134　（17）打製石斧……135　（18）板状石器……137

（19）石　錘……138　（20）礫　器……138　（21）石棒類……139

（22）大　珠……140　（23）垂れ玉……140　（24）有孔石製品……141

（25）玦状耳飾り……141　（26）線状痕のある石製品……141　（27）擦痕のある石製品……142

（28）浮　子……143　（29）線刻礫……143　（30）逆Ｔ字形石製品……143

（31）石　刀……144　（32）抉り入り石製品……144　（33）板状石製品……144

（34）三角立方形石製品……145　（35）分類不可……146　（36）特異・自然礫……147

D　そ　の　他……152

3　上面の中世の遺物……153

4　最下面を主体とした中期の遺物……153

A　土　　器……153

1）分　　類……154　2）観察表の記載……155

3）各　　説……156

B　石器・石製品……160

第Ⅵ章　自然科学分析

1　放射性炭素年代……161

2　珪藻化石分析……165

3　焼獣骨と焼人骨……170

4　炭化材の樹種同定……185

5　炭化種実同定……187

6　黒曜石製石器・剝片の原材産地分析……191

7　出土遺物に付着した黒色物の赤外分光分析……203

第Ⅶ章　ま　と　め

1　出土遺物について……207

A　上・下面の遺物……207

1）土器について……207　2）土製品について……229

3）石器・石製品について……232

B　最下面の遺物……236

2　遺構について……240

A　竪穴建物・平地建物……240

B　掘立柱建物……243

C　埋 設 土 器……246

D　袋 状 土 坑……247

3　集落としての長割遺跡……247

A　遺構配置と予想される規模……247

B　遺構配置からみた集落のかたち……248

C　生 産 基 盤……253

《要　　約》

《引用・参考文献》

《観　察　表》

挿 図 目 次

第 1 図 日本海沿岸東北自動車道の路線と長割遺跡の位置……2

第 2 図 長割遺跡の範囲と道路法線……2

第 3 図 試掘確認調査のトレンチ位置と本発掘調査の範囲……3

第 4 図 最下面調査のトレンチ位置……5

第 5 図 遺跡周辺の地形……7

第 6 図 長割遺跡の位置と周辺の縄文時代中・後期の遺跡……9

第 7 図 長割遺跡の位置と周辺の遺跡……10

第 8 図 グリッド設定図……13

第 9 図 基本層序（1）……15

第 10 図 基本層序（2）……16

第 11 図 遺構の平面形・断面形・覆土堆積状況の分類……18

第 12 図 平地建物平面形の計測……20

第 13 図 平地建物の長幅分布図（1）……21

第 14 図 平地建物の長幅分布図（2）……21

第 15 図 平地建物の床面積……21

第 16 図 平面プランによる分類……22

第 17 図 平地建物の主軸……25

第 18 図 掘立柱建物の分類……28

第 19 図 掘立柱建物の計測位置……28

第 20 図 掘立柱建物の床面積……28

第 21 図 掘立柱建物の主軸……28

第 22 図 埋設土器の分布……41

第 23 図 埋設土器の分類模式図……42

第 24 図 袋状土坑の分布……45

第 25 図 土坑の長幅分布図……48

第 26 図 土坑全体の長幅分布図……48

第 27 図 土坑系列ごとの長幅分布図……48

第 28 図 土坑の主軸……49

第 29 図 上・下面の土器重量分布と主な遺構の配置 …… 69
第 30 図 南三十稲場式土器の分類図（1）…… 73
第 31 図 南三十稲場式土器の分類図（2）…… 75
第 32 図 文様表出と文様構成模式図…… 75
第 33 図 突起上面観の模式図と名称…… 75
第 34 図 4 群土器の分類図…… 76
第 35 図 主なスクリーントーンの図示…… 96
第 36 図 石器・石製品出土分布図 …… 96
第 37 図 石鏃分類図 …… 98
第 38 図 石鏃出土分布図…… 99
第 39 図 石鏃の長幅分布図 …… 99
第 40 図 石鏃の厚さ ……100
第 41 図 石鏃の重さ ……100
第 42 図 石錐分類図 ……101
第 43 図 石錐出土分布図……101
第 44 図 石錐の長幅分布図 ……102
第 45 図 石錐の厚さ ……102
第 46 図 石錐の重さ ……102
第 47 図 石匙分類図 ……103
第 48 図 石匙出土分布図……103
第 49 図 石匙の長幅分布図 ……103
第 50 図 石匙の厚さ ……103
第 51 図 石匙の重さ ……103
第 52 図 篦状石器分類図……104
第 53 図 両極剝離痕のある石器分類図……105
第 54 図 両極剝離痕のある石器出土分布図……106
第 55 図 両極剝離痕のある石器の長幅分布図……107
第 56 図 両極剝離痕のある石器の厚さ……107
第 57 図 両極剝離痕のある石器の重さ……107
第 58 図 不定形石器分類図 ……108
第 59 図 不定形石器出土分布図……109
第 60 図 不定形石器の長幅分布図 ……110
第 61 図 不定形石器の厚さ ……111
第 62 図 不定形石器の重さ ……111
第 63 図 石核分類図 ……112
第 64 図 石核出土分布図……112
第 65 図 石核の長幅分布図 ……112
第 66 図 石核の厚さ ……112
第 67 図 石核の重さ ……112
第 68 図 剝片分類図 ……114
第 69 図 剝片出土分布図（1）……115
第 70 図 剝片出土分布図（2）……116
第 71 図 剝片分類別の長幅分布図 ……117
第 72 図 剝片石材別の長幅分布図 ……118
第 73 図 剝片石材別の厚さ ……119
第 74 図 剝片石材別の重さ ……119
第 75 図 P571 出土剝片の属性 ……120
第 76 図 磨製石斧分類図……120
第 77 図 磨製石斧の長幅分布図……121
第 78 図 磨製石斧の厚幅図 ……121
第 79 図 磨製石斧出土分布図……122
第 80 図 磨製石斧の重さ……123
第 81 図 石皿分類図 ……123
第 82 図 石皿出土分布図……124
第 83 図 石皿の長幅分布図 ……124
第 84 図 石皿の厚さ ……124
第 85 図 石皿の重さ ……125
第 86 図 砥石分類図 ……125
第 87 図 砥石出土分布図……126
第 88 図 砥石の長幅分布図 ……126
第 89 図 砥石の厚さ ……126
第 90 図 砥石の重さ ……127
第 91 図 手持ち砥石出土分布図……127
第 92 図 手持ち砥石の長幅分布図 ……128
第 93 図 手持ち砥石の厚さ ……128
第 94 図 手持ち砥石の重さ ……128
第 95 図 磨石類分類図……129
第 96 図 磨石類出土分布図 ……131
第 97 図 磨石類長幅分布図 ……132
第 98 図 磨石類の厚さ……133
第 99 図 磨石類の重さ……133
第100図 多面体敲石出土分布図……135
第101図 多面体敲石の長幅分布図 ……135
第102図 多面体敲石の重さ ……135
第103図 打製石斧分類図……136
第104図 打製石斧出土分布図……136
第105図 打製石斧の長幅分布図……137
第106図 打製石斧の厚さ ……137
第107図 打製石斧の重さ……137
第108図 板状石器出土分布図……138
第109図 板状石器の長幅分布図……138
第110図 板状石器の厚さ……138
第111図 板状石器の重さ……138
第112図 礫器出土分布図……139
第113図 礫器の長幅分布図 ……139
第114図 礫器の厚さ ……139
第115図 礫器の重さ ……139
第116図 石棒類分類図……139
第117図 石棒類出土分布図 ……140
第118図 石棒類の厚さ……140
第119図 各種石製品出土分布図……141
第120図 擦痕のある石製品分類図 ……142
第121図 擦痕のある石製品出土分布図……142
第122図 擦痕のある石製品の長幅分布図 ……143
第123図 擦痕のある石製品の厚さ ……143
第124図 擦痕のある石製品の重さ ……143
第125図 板状石製品分類図 ……144

第126図 板状石製品出土分布図……144
第127図 板状石製品の長幅分布図 ……145
第128図 板状石製品の厚さ ……145
第129図 板状石製品の重さ ……145
第130図 分類不可区分図……146
第131図 分類不可出土分布図……146
第132図 分類不可の長幅分布図……147
第133図 分類不可の厚さ……147
第134図 分類不可の重さ……147
第135図 特異・自然礫（形態）出土分布図……149
第136図 特異・自然礫（石材）出土分布図……150
第137図 特異・自然礫（形態）の長幅分布図……150
第138図 特異・自然礫（石材）の長幅分布図……151
第139図 特異・自然礫（石材）の厚さ……151
第140図 特異・自然礫（形態）の重さ……151
第141図 特異・自然礫（石材）の重さ……151
第142図 土器の部位名称……154
第143図 土器の器形 ……154
第144図 A 群土器の分類……154
第145図 測定試料の採取位置……161
第146図 放射性炭素年代測定の暦年較正年代
グラフ……164
第147図 試料採取位置……165
第148図 珪藻ダイアグラム ……166
第149図 長割遺跡の珪藻……169
第150図 焼骨の遺構種別組成……170
第151図 焼骨の遺構別出土質量……170
第152図 出土した焼骨（上）と亀裂が入った
動物遺存体（下） ……171
第153図 焼骨の出土質量分布図……172
第154図 出土した焼骨の色調……173
第155図 魚類の遺構別出土質量……174
第156図 魚類の種別組成……174
第157図 哺乳類の遺構別出土質量 ……175
第158図 哺乳類の種別組成 ……175
第159図 骨角器の可能性がある資料……176
第160図 焼骨の遺構種別出土組成 ……177
第161図 袋状土坑 SK5686……178
第162図 古人骨の出土地点 ……179
第163図 長割遺跡出土の動物遺存体と古人骨……183
第164図 長割遺跡出土の魚類遺存体……184
第165図 SK3946 から出土した炭化材……186
第166図 出土した炭化種実 ……190
第167図 黒曜石原産地……193
第168図 黒色付着物の赤外分光スペクトル図……204
第169図 黒色物が付着した遺物（1） ……205
第170図 黒色物が付着した遺物（2） ……206
第171図 後期前葉土器の口径分布図……208
第172図 後期前葉土器の底径分布図……208
第173図 編み方模式図……209
第174図 「敷物圧痕」の比率……209
第175図 「敷物圧痕」に見る地域性……210
第176図 長割遺跡の「敷物圧痕」 ……211
第177図 長割遺跡出土土器の各属性……213
第178図 観察結果（1） ……215
第179図 観察結果（2） ……216
第180図 観察結果（3） ……217
第181図 観察結果（4） ……219
第182図 土器使用痕アップ ……220
第183図 長割 1 期の土器……224
第184図 長割 2 期古の土器……224
第185図 長割 2 期新の土器……226
第186図 長割 3 期の土器……228
第187図 アチヤ平遺跡上段の土器 ……228
第188図 本遺跡で特徴的な土器……228
第189図 「石生前系列／西方前類型」の土偶……231
第190図 愛谷遺跡出土の皿状土製品……231
第191図 寺﨑［2009］の時期区分……237
第192図 県内の中期末～後期の竪穴・平地建物 …241
第193図 後期前葉の竪穴建物……241
第194図 竪穴建物・平地建物の法量分布図……243
第195図 掘立柱建物の面積 ……244
第196図 県内における中期末～後期前葉の
掘立柱建物 ……245
第197図 袋（フラスコ）状土坑の法量分布図……246
第198図 長割遺跡の遺構配置模式図……248
第199図 県内の参考集落（1） ……250
第200図 県内の参考集落（2） ……251
第201図 本稿で引用した後期前葉集落位置図……251

挿表目次

第 1 表 周辺の遺跡 …… 11
第 2 表 平地建物の平面形と大きさ…… 22
第 3 表 平地建物の主柱穴と炉…… 22
第 4 表 石器・石製品の出土数と図化率・縮尺率
…… 96
第 5 表 石鏃の分類別出土数と出土分布状況…… 99
第 6 表 石鏃の分類別石材 ……100
第 7 表 石鏃の分類別遺存状況……100
第 8 表 石鏃のアスファルト付着状況……101
第 9 表 石錐の分類別出土数と出土分布状況……101

第 10 表　石錐の分類別石材 ……102
第 11 表　石匙の分類別出土数と出土分布状況……103
第 12 表　石匙の分類別石材 ……103
第 13 表　両極剝離痕のある石器の分類別出土数と
出土分布状況……106
第 14 表　両極剝離痕のある石器の分類別石材……107
第 15 表　不定形石器の分類別出土数と出土分布
状況 ……109
第 16 表　不定形石器の分類別石材 ……110
第 17 表　石核の分類別出土数と出土分布状況……112
第 18 表　石核の分類別石材 ……112
第 19 表　剝片類の分類別出土数と出土分布状況 …114
第 20 表　剝片類の石材別出土数と出土分布状況 …114
第 21 表　剝片類の分類別石材……114
第 22 表　磨製石斧の分類別出土数と出土分布状況
……122
第 23 表　磨製石斧の分類別石材……123
第 24 表　石皿の分類別出土数と出土分布状況……124
第 25 表　石皿の分類別石材 ……125
第 26 表　砥石の分類別出土数と出土分布状況……126
第 27 表　砥石の分類別石材 ……127
第 28 表　磨石類の分類……130
第 29 表　磨石類の分類別出土数と出土分布状況 …131
第 30 表　磨石類の分類別石材……134
第 31 表　磨石類の分類別欠損状況と被熱･付着物…134
第 32 表　多面体敲石の石材 ……135
第 33 表　打製石斧の分類別出土数と出土分布状況
……136
第 34 表　石棒類の分類別出土数と出土分布状況 …140
第 35 表　石棒類の分類別石材……140
第 36 表　各種石製品の分類別出土数と出土分布
状況 ……141
第 37 表　各種石製品の石材 ……141
第 38 表　擦痕のある石製品の分類別出土数と
出土分布状況……142
第 39 表　擦痕のある石製品の分類別石材 ……143
第 40 表　板状石製品の分類別出土数と出土分布
状況 ……145
第 41 表　板状石製品の分類別石材 ……145
第 42 表　分類不可の区分別出土数と出土分布状況
……146
第 43 表　分類不可の区分別石材……147
第 44 表　特異・自然礫の分類別出土数と出土分布
状況 ……148
第 45 表　特異・自然礫の分類別石材……152
第 46 表　石器・石製品の出土数と図化率・縮尺率
……160
第 47 表　放射性炭素年代測定試料一覧……163
第 48 表　放射性炭素年代測定結果 ……163
第 49 表　珪藻分析結果……166
第 50 表　長割遺跡出土動物遺存体種名表 ……171
第 51 表　魚類遺存体の同定結果……181
第 52 表　哺乳類遺存体の同定結果 ……182
第 53 表　SK3946 から出土した炭化材……185
第 54 表　地床炉から出土した炭化種実……187
第 55 表　石囲炉から出土した炭化種実……188
第 56 表　掘立柱建物（P）と袋状土坑（SK5686）
から出土した炭化種実……188
第 57 表　埋設土器（SH）・平地建物（SI）・
柱穴（P）から出土した炭化種実 ……188
第 58 表　各黒曜石原石群の元素比の平均値と標準
偏差値（1）……194
第 59 表　各黒曜石原石群の元素比の平均値と標準
偏差値（2）……195
第 60 表　黒曜石製遺物の元素比の平均値と標準
偏差値……196
第 61 表　出土した黒曜石製石器・剝片の
元素比分析結果 ……198
第 62 表　縄文時代後期前葉出土　黒曜石製遺物の
産地分析結果（1）……200
第 63 表　縄文時代後期前葉出土　黒曜石製遺物の
産地分析結果（2）……201
第 64 表　赤外分光分析を行った遺物付着物と結果
……203
第 65 表　アスファルトの吸収位置と強度 ……203
第 66 表　「敷物圧痕」の集計……209
第 67 表　長割遺跡と関連遺跡の石器組成 ……233
第 68 表　長割遺跡の器種別石材……234
第 69 表　新潟県北部における縄文時代遺跡の剝片
石器石材……235
第 70 表　中期前葉の土器集計表……238
第 71 表　新潟県における中期末葉～後期前葉の
掘立柱建物の種別検出数 ……244
第 72 表　埋設土器の欠損部位と埋設態位 ……246

第Ⅰ章　序　　章

1　調査に至る経緯

日本海沿岸東北自動車（以下、「日沿道」とする）は、新潟中央ジャンクションから日本海に沿って北上し、青森県に至る高規格幹線道路である。新潟県側は新潟空港―中条 I.C 間が平成 14 年度に、中条―荒川 I.C 間が平成 21 年度にそれぞれ開通した。

中条 I.C 以北は平成元年及び平成 3 年に基本計画が決定され、本遺跡が所在する中条―朝日 I.C 間は、平成 10 年 4 月に施工命令が出された。これを受けて、日本道路公団（以下、「道路公団」とする）と新潟県教育委員会（以下、「県教委」とする）との間で、道路法線内の埋蔵文化財の取り扱いについての協議が本格化した。中条―朝日 I.C 間の埋蔵文化財の分布調査は、県教委から委託を受けた財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、「埋文事業団」とする）が、平成 11 年度に実施した。調査により、8 か所の周知遺跡と 27 か所の遺跡推定地が存在することが判明し、これらについて試掘確認調査が必要である旨を県教委に報告した。長割遺跡は村上―朝日 I.C 間の「周知遺跡 4」に当たる。

平成 14 年 12 月 18 日の道路公団、県教委及び埋文事業団との協議で、日沿道早期開通のため、当面は暫定二車線分に本調査範囲を限定することに決定した（以下、「限定協議」とする）。ただし、試掘確認調査は用地買収を行った四車線分を調査対象範囲としている。平成 15 年 10 月 1 日の道路公団・県教委及び埋文事業団との協議で、道路公団が示した平成 16 年度の調査要望は膨大で、工事工程から 17 年度以降もこの調査量が維持されると予想された。県教委と埋文事業団では道路公団の要望に対応できるだけの調査体制を有していないことから、平成 16 年度以降の日沿道建設に伴う本発掘調査に限り、埋文事業団職員の管理･監督のもと、民間調査組織に発掘調査を全部委託して、これに対応するという方針を出した。

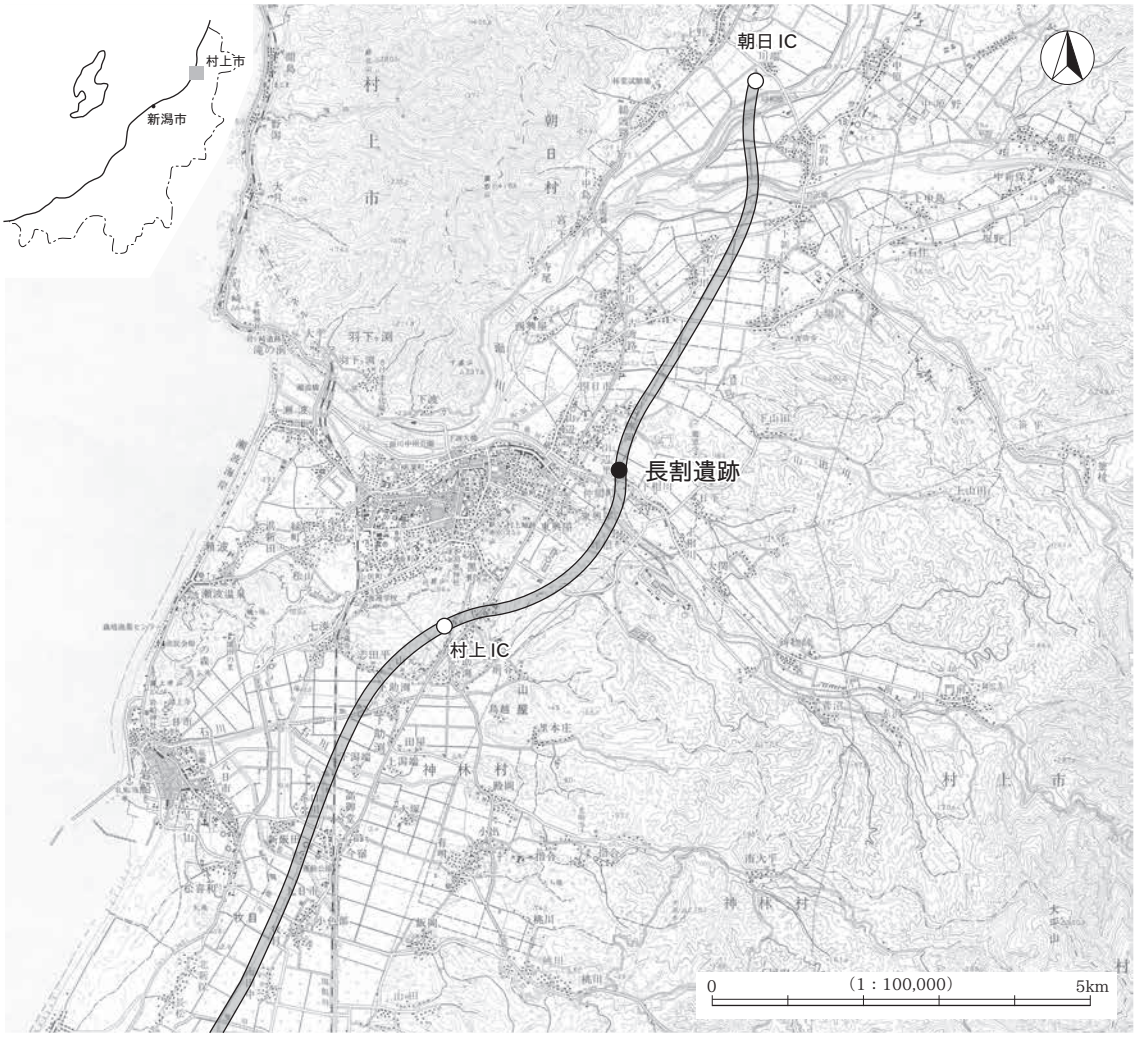
日沿道事業は道路公団の分割民営化に伴い、平成 17 年 10 月 1 日に設立された東日本高速道路株式会社（以下、「東日本高速道路」とする）に引き継がれた。平成 18 年 2 月 7 日の国幹会議により、荒川 I.C 以南は東日本高速道路が「有料道路方式」で、荒川 I.C 以北は国土交通省（以下、「国交省」とする）が「新直轄方式」で整備することとなり、平成 14 年 12 月の限定協議内容も国交省に引き継がれることが確認された。

平成 18 年 3 月に国土交通省から県教委へ、長割遺跡及びその周辺の試掘確認調査要望が提出された。県教委から受託した埋文事業団が実施することとなった。

2　調 査 経 過

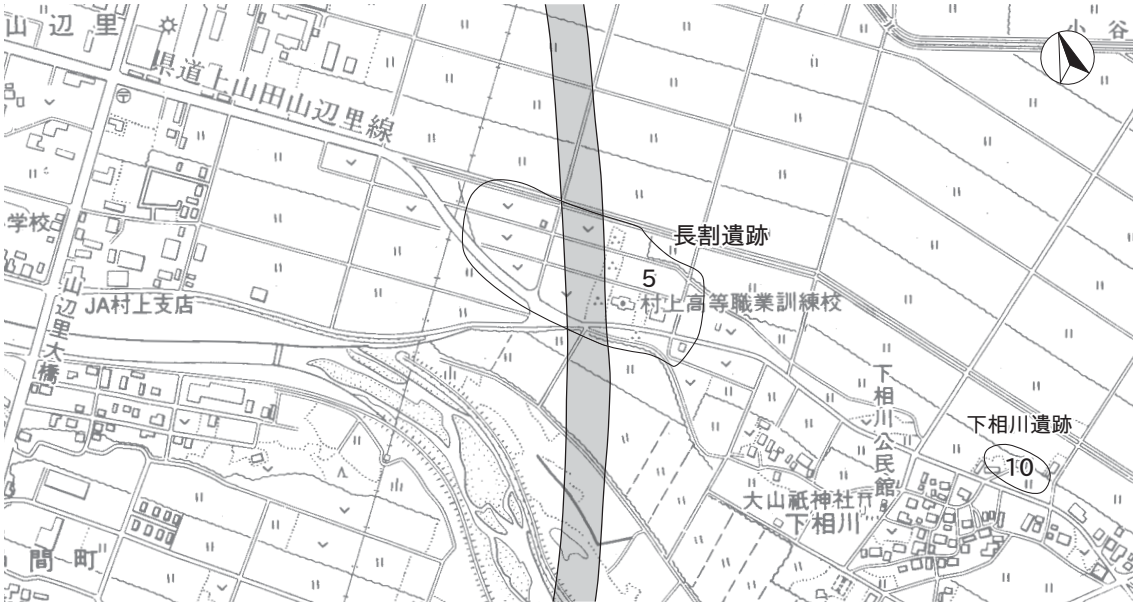
A　試掘確認調査

長割遺跡及びその周辺の試掘確認調査は、平成 18 年 8 月 7 日～ 10 月 26 日に実施した（第 2・3 図）。長割遺跡の周知範囲及び未周知部分は、便宜上「周知 4」とされた。この範囲は総延長約 460m にも及ぶ。調査によって、周知範囲内に設定した試掘坑（トレンチ。以下、必要に応じて「T」とする）では膨大な遺構・遺物が確認された。遺物包含層はⅡ層（黄褐色系シルト層）とⅢ層（褐色礫混じり土層）で、70・72・

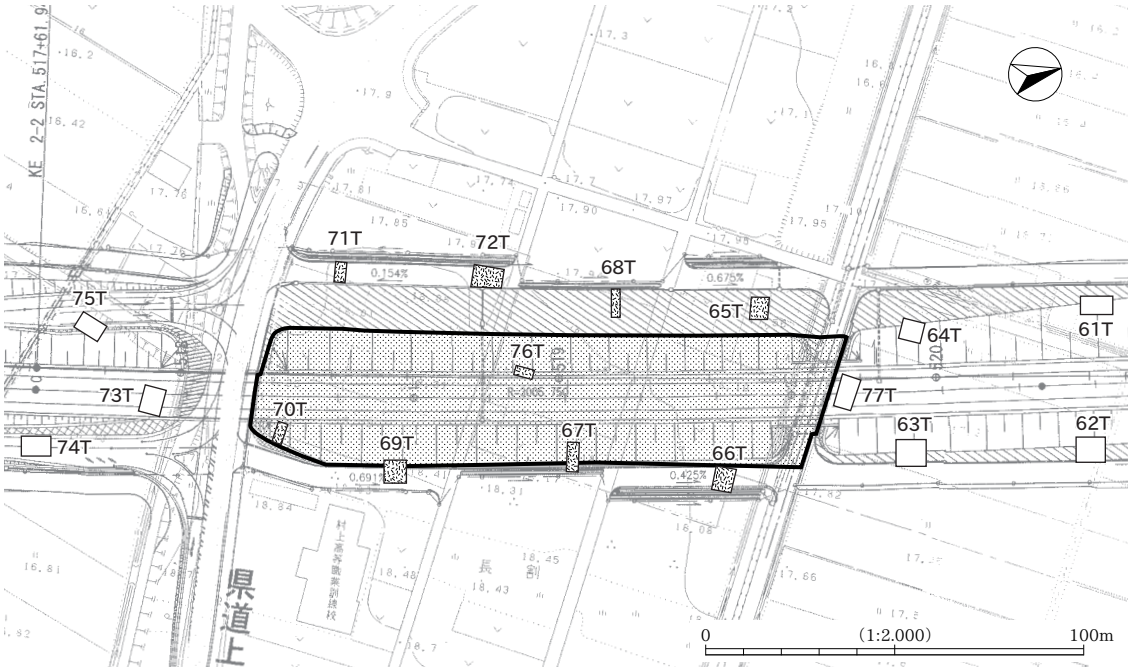


※国土地理院5万分の1地形図（村上・塩野町・小国・中条）を10万分の1にして使用　一部加筆

第 1 図　日本海沿岸東北自動車道の路線と長割遺跡の位置



第 2 図　長割遺跡の範囲と道路法線　（村上市発行「村上市 図2」1:10,000原図）



第３図　試掘確認調査のトレンチ位置と本発掘調査の範囲

76T では出土土器が特に多く、400 点を超える。67T を除く８つのトレンチで遺構を確認した。70T では円形の柱穴列を、69T では地床炉の可能性がある焼土坑を検出した。遺物は縄文時代後期前葉を主体に、わずかに中期前葉の土器が混じる。遺物量が膨大で、遺構の分布が濃密なことから、縄文時代後期前葉の大集落と判断した。遺構確認面はⅡ・Ⅲ層除去後の２面（Ⅲ・Ⅳ層）とし、四車線分を調査対象範囲とした場合には 17,600m²（8,800m² × ２面）を本発掘調査必要範囲とした。

B　本発掘調査

限定協議等に基づき、調査範囲は 10,370m²（5,185m² × ２面）とし（第３図）、平成 19・20 年度で発掘調査を実施することとした。平成16年度以降の日沿道建設に伴う本発掘調査は、埋文事業団職員の管理・監督のもと民間調査組織に全部委託することとしてきた。しかし、本遺跡が県内を代表する縄文時代集落の可能性があるため、遺跡保存・活用の観点から埋文事業団職員が調査担当をすることとなった。このような例は、胎内市野地遺跡についで２遺跡目である。

1）平成 19 年度

計画と調査の視点　本年度の調査は４～11 月に、5,550m² を対象として開始した。調査面積の内訳は、上面が全面の 5,185m²、下面は最北部の 365m² とし、国交省からの要望により調査区最北部の 365m² を８月末までに引き渡すこととした。

後期前葉を主体とする集落遺跡の調査は、県内でも一定の蓄積がある。これまでの調査から、掘り込みが明確でない円形･楕円形プランの建物と、長方形の掘立柱建物の存在が予想された。特に前者については、竪穴建物か平地建物かの検証を目的の一つとした。試掘確認調査では地床炉と考える焼土坑周辺で焼骨を多数検出した。このため炉の土は廃棄せず、篩いを行うこととした。遺物の取り上げは小グリッド・層位ごとを基本とするが、多量の遺物が廃棄された土坑の存在が予想されるため、これらの遺構の数基程度を

目安としてドット処理する方針を立てた。

当初の調査　調査は4月16日から実施した。表土除去後、4月25日から作業員75名を投入した。調査区内には土層等の堆積状況を確認するため、南北方向で1本、東西方向は50mごとに3本のベルトを設置することとした。試掘確認調査では遺構密度が高いため深掘りできなかったことから、調査当初は土層の細別に加え、新たな遺物包含層土層の有無等を確認するため、各ベルトに沿って深掘りを行った。その結果、遺物包含層のⅡ・Ⅲ層は調査区内の各地点で含有物に違いが認められて一様でないことと、細分が可能なことを把握した。また4グリッド付近では、試掘確認調査で把握していない層位で土器を若干確認した。新たな遺物出土地点はⅣ層下約30cmで、大型遺構の覆土内出土の可能性もある。トレンチ内は水はけが悪くて清掃に時間がかかること、遺物量も少ないことから、状況の好転後に判断することとした。

調査はほぼ全面を同時併行で行い、全体の様相把握に努めた。調査区の最北側は遺構・遺物がやや希薄であったが、それ以外の地点では分布の断絶は認められずに遺構・遺物を検出した。

調査計画の変更　年度当初の引き渡し範囲は北側10mのみであったが、6月には国交省から更に30m南側まで拡張して引き渡しが可能かどうか、検討して欲しいとの申し入れがあった。近接する遺構が予想されるため、北側を40m引き渡すには、北側50m程度まで調査を終了させなければならない。調査面積は約1,500m^{2}増加する。対応に苦慮したが、上面全面の遺構配置を把握した後に、南側の遺構掘削範囲を絞り込んで終了面積を減じ、北側の引き渡し要望範囲を着手することとした。北側では下層の包含層（Ⅲ層）は上層（Ⅱ層）に比して遺物量が少ないと予想されること、水はけが良い砂礫層のため雨の日の作業が可能なこと、遺構は多いが取り扱いが困難なものが少ないことから、作業員を15名増加して対応した。

大型掘立柱建物　10月には調査区南側で、直径約1.6m、深さ約1.5m程度の遺構が多数確認された。覆土の認定に苦慮し、柱穴として認定するまでに時間を要した。掘削土量が多いことに加え、柱穴底面からの湧水により調査は難航した。各柱穴は半截段階であったものの、土層断面から予想される柱の太さは50～60cmで、1×5間で棟持柱を持つ掘立柱建物の可能性が想定された。これほどの規模となれば県内では類例がなく、全国的にみても極めて特異と想定された。このため11月には国学院大学 小林達雄名誉教授らの学識者から現地でご指導をいただいた。11月は例年どおり悪天候が続いたことに加え、大型掘立柱建物が位置するか所は調査区内で最も水はけが悪い。このため各柱穴にテントを張って条件を整えて調査を行った。ただし19年度中には柱穴の組み合わせは確定できず、次年度に結論を持ち越すこととした。

平成19年度調査の終了と実績　引き渡しの申し入れがあった調査区北側の調査は、12月上旬に終了し、国交省へ引き渡した。次年度以降も調査が継続するため、大型掘立柱建物の柱穴等、重要な遺構は川砂で埋め戻して保護した。また、次年度の調査対象範囲にはブルーシートをかけて保護した。

19年度は北側の調査を優先したため、南側では一部で上面の調査が完了できなかった。19年度調査終了面積は5,800m^2（上面4,000m^2、下面1,800m^2）である。

2）平成20年度

20年度の調査は4～11月に、4,570m^{2}を対象として開始した。面積の内訳は上面が1,185m^2、下面が3,385m^{2}である。4月3日から作業員を投入して調査を開始した。

大型掘立柱建物　4月当初から作業員50名を投入して調査を再開した。柱穴内の水はけ改善のため、

やや標高が高い地点と、昨年度に行ったベルト付近の深掘を更に進め、柱穴の底面よりも標高の低い地点に地下水を集めることで、水はけの改善をはかった。環境整備後に調査を再開した。調査の進捗に伴い、別府大学 宮本長二郎客員教授から現地でご指導をいただき、当初の想定とおり１×５間で棟持柱をもつ掘立柱建物と断定した。その後、５月 27 日には２度目の現地説明会を実施した。

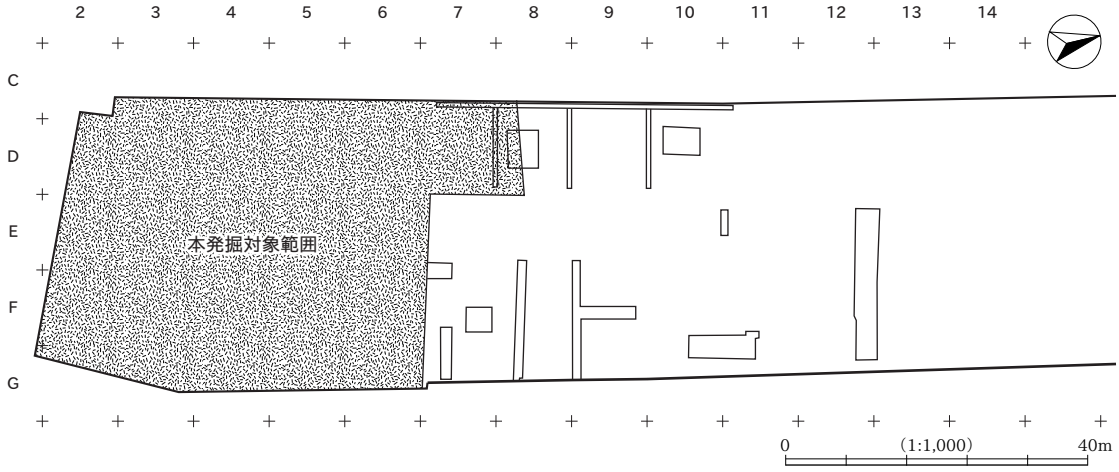
円形の建物など　炉（地床炉・石囲炉）を中心に柱穴が円形・楕円形に巡るものが多い。明確な掘り込みが確認できないため、平地建物の可能性が高いと考えた。調査区南側では掘立柱建物が少なく、また重複も他地区ほど顕著でない。重複が少ない地点で平面プランの特徴を捉え、他地区のモデルとした。

下面の調査　昨年度からの継続中の調査分では、上面の航空撮影が終了した６月初旬から実施した。下面の調査に当たり、上面で検出した炉は島状に残して掘削を行った。これは上面で明確でなかった柱穴が下面で確認できる可能性があるからである。この結果、多数の建物を確認することができた。現地調査終了時点での円形建物の確認数は 99 棟であった。また、調査区の北側では集中して６基の袋状土坑を確認した。確認面において、焼骨の存在が顕著であったことから、SK5686 は覆土のすべてを採取して篩いを行うこととした。なお、土壌サンプルはすべてを水洗いすることなく、分析用に数袋分を保管した。

もう一つの大型掘立柱建物　１×５間の大型掘立柱建物以外にも、大型の柱穴が多数確認できる。下層の調査に移行後、グリッド６ライン付近で柱穴列を確認した。この地区の柱穴覆土は黒色土で、埋土と柱痕の区分が困難なこと、遺構確認面（Ⅳ層）が砂礫質で崩落が著しいことから調査は難航した。５月に宮本長二郎教授、７・９月には元奈良国立文化財研究所の岡村道雄氏から現地で指導していただいた。現地指導と調査の進捗により、１×６間の大型掘立柱建物と判断した（SB7708）。桁行は１間分多いものの、長さ約 18m・幅約 5m は 20m 南に位置する大型掘立柱建物（SB7703）と同様である。

最下面の調査　平成 19 年度に確認したⅣ層の約 30cm 下の遺物の状況を把握するため、６月後半から昨年度掘削分のトレンチの精査と、新たにベルト沿いに深掘りを行ったところ、調査区南側を中心に遺物の広がりが認められた。調査区北側にも広がる可能性があるため、下面の調査終了後、重機と人力を併用して試掘確認調査を実施した（第４図）。その結果、調査区南側の約 2,000m² で縄文時代中期前葉の土器の広がりを確認した。文化行政課と協議の上、下面の調査終了後の９月上旬から調査を行った。遺構・遺物量が少ないことから、10 月上旬で調査を終了した。

平成 20 年度調査の終了と実績　10 月 17 日にすべての調査を終了し、国交省へ引き渡した。20 年度の調査面積は 6,700m²（上面 1,185m²、下面 3,385m²、下面 2,130m²）である。



第４図　最下面調査のトレンチ位置

C 整 理 作 業

出土遺物量は膨大で、整理箱で土器が 1,217 箱、石器・石製品が 112 箱のほか、動植物遺体が約 5 箱である。土器・石器はいずれも調査年度内に洗いと注記を行った。平成 19・20 年度は図面整理、石器の出土量集計等の基礎整理を行い、平成 21 年 4 月から本格的な整理作業を行った。

D 調査・整理体制

各調査の調査体制は以下のとおりである。

【試掘確認調査】 調査期間　平成 18 年 8 月 7 日～ 10 月 26 日

調 査 主 体　新潟県教育委員会（教育長　武藤克己）
調　　査　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括　波多　俊二（事務局長）
管　　理　斎藤　　栄（総務課長）
庶　　務　長谷川　靖（総務課班長）
調 査 総 括　藤巻　正信（調査課長）
指　　導　田海　義正（調査課課長代理）
調 査 担 当　滝沢　規朗（調査課班長）

【本発掘調査】 調査期間　平成 19 年 4 月 16 日～ 12 月 7 日、平成 20 年 4 月 3 日～ 10 月 17 日

調 査 主 体　新潟県教育委員会（教育長　武藤克己）
調　　査　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括　木村　正昭（事務局長）
管　　理　斎藤　　栄（総務課長）
庶　　務　長谷川　靖（総務課班長）
調 査 総 括　藤巻　正信（調査課長）
指　　導　鈴木　俊成（調査課課長代理）
調 査 担 当　滝沢　規朗（調査課班長）
調　査　員　桐原　雅史（調査課主任調査員）
支　　援　有限会社　山武考古学研究所
現場代理人　大滝　一栄（平成 19 年度、平成 20 年 4 ～ 6 月）、斉藤　清（平成 20 年 7 月～ 10 月）
調　査　員　松田政基・宮田和男（19・20 年度）、武部喜充・大越直樹（19 年度）、福山俊彰（20 年度）

【整理作業】

平成 19・20 年度

本発掘調査と同じ。支援は平成 20 年 12 月から、（株）野上建設工業である。

平成 21・22 年度

主　体　新潟県教育委員会（教育長　武藤克己）
整　理　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括　木村　正昭（事務局長）
管　　理　斎藤　　栄（平成 21 年度）・今井　　亘（平成 22 年度）（総務課長）
庶　　務　松原　健二（平成 21 年度）・伊藤　　忍（平成 22 年度）（総務課班長）
整理総括　藤巻　正信（調査課長）
整理指導　高橋　　保（調査課整理担当課長代理）
整理担当　滝沢　規朗（調査課班長）
整理職員　坂上　有紀（調査課嘱託調査員）
作　　業　小熊紀子･小山たか子･室塚真弓（平成 21･22 年度）、小林智美（平成 21 年度）、和泉裕子（平成 22 年度）、
高野智恵子・渡辺和子（平成 21 年 4 ～ 7 月）（調査課嘱託作業員）

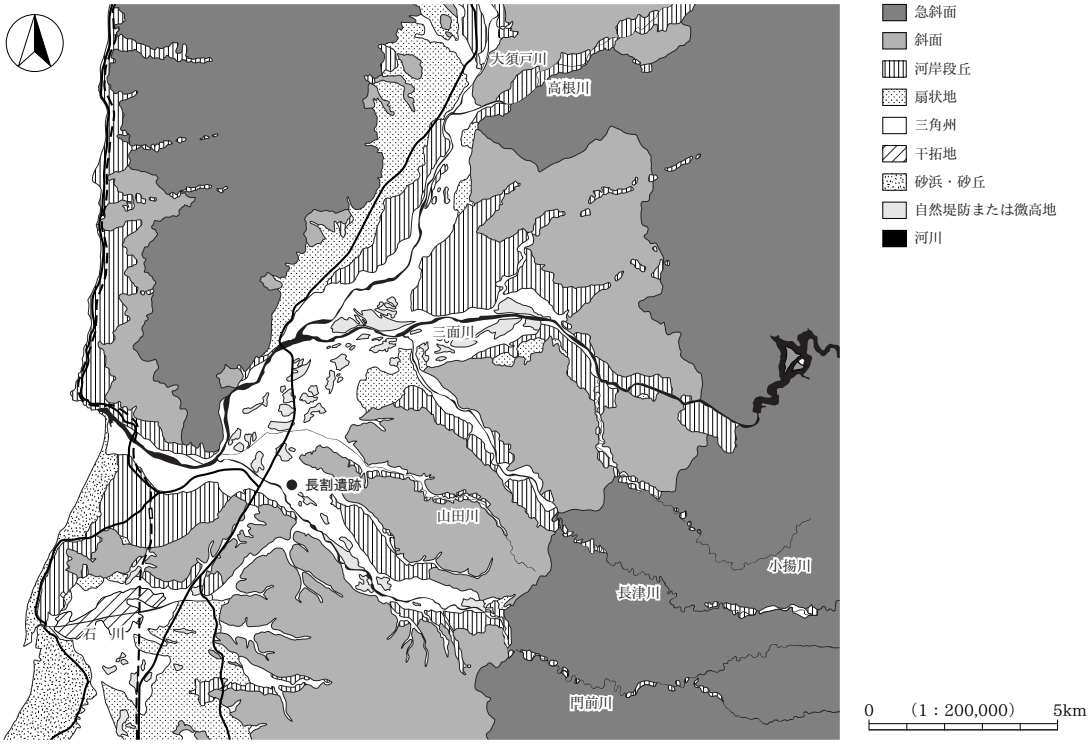
第Ⅱ章　遺跡をとりまく環境

1　地理的環境

長割遺跡が所在する村上市は、新潟県の最北に位置し、平成 20（2008）年の合併により県北部一帯を市域とすることとなった。その面積は 1,174km^2 に及び、県内最大の市であるが、大半は山地である。遺跡周辺の地形を見ると、北・東側の山地、南西側の沖積平野、海岸線に平行して伸びる砂丘列に区分できる。

北と東には朝日山地・飯豊山地といった急峻な山地が連なり、山形県・福島県との県境となっている。東側の山地は村上丘陵へと続くが、三面川の下流域では、川の流れに平行して海岸部まで伸びている。村上丘陵は国道 7 号を境に、東側を岩船丘陵、西側を浦田山丘陵、または瀬波丘陵と呼ばれることもある。浦田山丘陵は標高 60 ～ 95m と低位で緩やかな斜面からなる。最高所は村上城跡のある臥牛山付近で、標高 135m である［新潟県農地部 1989］。浦田山丘陵の南側は越後平野の北端に当たり、北側では山地に囲まれた中に狭小な低地が広がっている。この低地は三面川低地と呼ばれるが、ここには村上丘陵に源を発する三面川とその支流が流れ込む。自然堤防あるいは微高地が多数点在していることから、かつては度重なる流路変更により氾濫原となっていたことがうかがえる。

本遺跡はこの三面川低地内に位置し、三面川の支流、門前川の自然堤防上に立地している。三面川と門前川の合流地点から、2km ほどさかのぼった地点である。門前川は、山形県境近くに源を発し、上流部は綱木川･赤沢川の 2 河川からなり、大栗田集落の東で合流して門前川となる。門前集落よりも下流では、



第 5 図　遺跡周辺の地形
（［新潟県農地部 1989］を転載・改変）

両岸に広い谷底平野と数段の河岸段丘が発達している。河岸段丘は特に右岸中流域で発達しており、高平遺跡・大関上野遺跡などといった縄文時代中期の遺跡が分布している（第７図）。下流においては、左岸側では丘陵が連続するが、右岸では低地が広がり自然堤防及び微高地が点在している。

第６・７図で示されるように、縄文時代中期～後期前半においては、大規模な集落は台地上に営まれるのが一般的であるが、本遺跡は大規模集落であるにも関わらず自然堤防上に立地する。標高は 17.6 ～ 18.0m、周辺に広がる水田との比高はわずか 2m であり、特異な立地と言えよう。

2　歴史的環境

長割遺跡は、縄文時代中期前葉（新保・新崎式併行）、後期前葉（南三十稲場式併行）の２時期にわたって営まれた遺跡である。周辺には本遺跡と同時期、あるいは前後する時期の遺跡が点在している。そこで、縄文時代中期・後期における本遺跡周辺遺跡を概観してみたい。遺跡の分布は第６・７図に示す。

縄文時代中期

門前川流域を見ると、本遺跡から２～３km ほど上流には、大関上野遺跡（60）・山崎遺跡（61）・高平遺跡（58）・お丸山遺跡（59）があり、いずれも右岸の河岸段丘上に立地する。大関上野遺跡・山崎遺跡は共に中期前葉、新保・新崎式併行で、本遺跡の最下面とほぼ同時期である。大関上野遺跡ではフラスコ状土坑が半円状に並んで５基検出された。円の中心は調査区外であることから、同心円状に並ぶとも推測されている［塩原・竹内 2000］。石器は、当該期において阿賀野川以北ではほとんど出土しない打製石斧が多く検出されており、主要石器のうち 57％もの高率を占めることが特筆される。山崎遺跡では後世の攪乱が著しいためか、遺構は検出されていない。いずれの遺跡も集落の外縁に当たる部分を調査したと推測されている［塩原・竹内 2000］。高平遺跡は中期前葉～中葉の大木 7b ～ 8b 式併行期で、大型竪穴建物１棟とそれに伴う３基の石囲炉などが検出された。調査範囲は限定されるが、遺物も土器をはじめとして石器・土製品も多量に出土していることから、拠点的集落と考えられている。また、馬高式土器の出土量は県北地域では最多である［塩原・竹内 2001］［塩原 2003］。

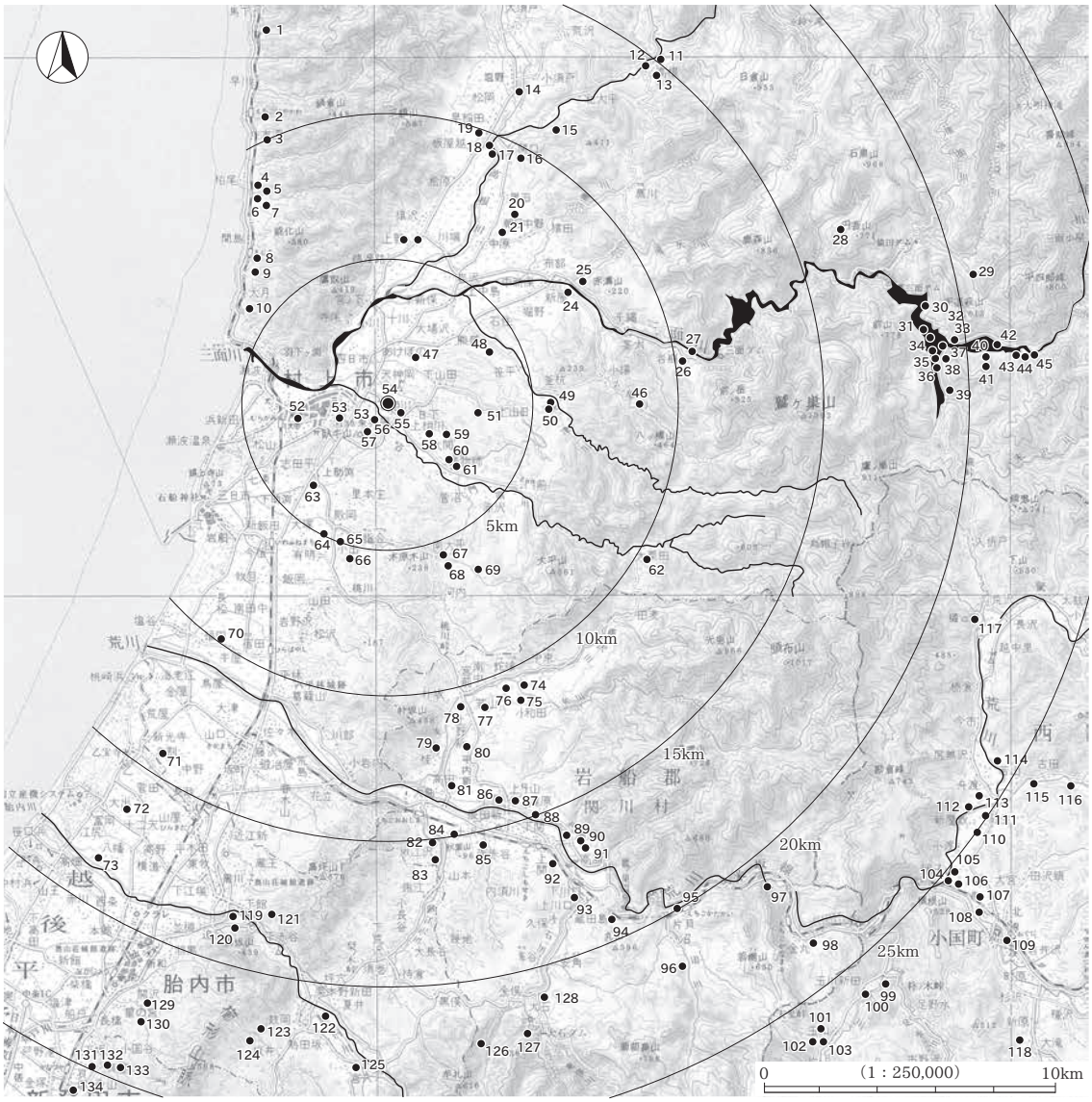
門前川左岸では、本遺跡からわずか 1km の距離に東興屋遺跡（56）がある。丘陵中腹のわずかな平坦地に立地し、時期は中期前葉～中葉である。竪穴住居２棟、竪穴建物[1)] が１棟検出されたほかは遺構・遺物とも希薄である［青木ほか 2009］。しかし特異な立地での竪穴建物の存在は特筆される。

低地では、2km ほど北に古渡路遺跡（47）がある。本遺跡と同様に沖積平野に立地し、前期末葉～中期初頭の土器、中期中葉の埋設土器が確認されている［土橋 2009］。また、5km ほど南方の扇状地には樋渡遺跡・堀下遺跡があり、性格不明遺構から中期初頭の土器がまとまって出土している。

本遺跡から直線距離で約 20km 北東には、奥三面遺跡群（30 ～ 45）がある。中期中葉から晩期末葉まで、拠点的集落（竪穴住居 20 棟以上とされている）の変遷がたどれるが、建物が確認されるのは中期中葉以降で、中期前葉の段階では確認されていない。下ゾリ遺跡・沼ノ沢遺跡で土坑数基と新崎式期の遺物が出土している。

今まで述べてきたように、中期の大規模集落は、現状では門前川右岸の河岸段丘上及び三面川最上流域

1）［青木ほか 2009］では、炉のあるものを竪穴住居、炉のないものを竪穴建物として区別している。



第 6 図　長割遺跡の位置と周辺の縄文時代中・後期の遺跡
（国土地理院　平成 21 年発行「村上」1：200,000 原図）

にあるが、門前川流域では、大関上野遺跡における打製石斧の多量出土、高平遺跡における馬高式土器の多さから県北部では極めて異質な様相を呈している。火焔型土器の中心地域である信濃川上・中流域においては、打製石斧が中期前葉から「爆発的に増加」するといい［鈴木 1998］、この地域と門前川流域との深いつながりが感じられる。

縄文時代後期

門前川流域では、本遺跡の 500m 上流に下相川遺跡（55）があるが、後期の土器が採集されているのみで、詳細は不明である。

本遺跡より南方の低地を見ると、約 5km 離れた扇状地上に立地する城田（しろでん）遺跡（65）が注目される［田辺・大賀 2001］。時期は中期末から後期中葉である。後期前葉では明確な遺構は確認されていないが、南三十稲場式期の土器が多量に出土している。後期中葉では加曽利 B3 式併行期の建物 11 棟・土坑 23 基などが検出された。なお、中期末～後期前葉と後期中葉では集中地点が異なっている。

第 7 図　長割遺跡の位置と周辺の遺跡

（国土地理院　平成 12 年発行「村上」・平成 14 年発行「越後門前」　1：25,000 原図）

番号	遺跡名	時期	番号	遺跡名	時期	番号	遺跡名	時期
1	ヲスカ平	中期	74	蕨野	中～晩期	147	下新保高田	古墳・中世
2	新保山	中期	75	波走	中期	148	堂の前	弥生・中世
3	太田	中期	76	蛇喰	中・後期	149	桂木田	弥生
4	柏尾	後期	77	若山	中期	150	坊山	縄文
5	玄場平	後期	78	宮ノ前	中期	151	下ムクラ	古代
6	小坂	中期	79	桂	中期	152	谷地	縄文（前期）
7	向平	後期	80	長根	中期	153	御所館跡	中世
8	腰元	中期	81	高田	中期	154	天神岡前田	中世
9	野潟上山	中・晩期	82	土沢	中・後期	155	大館跡	中世・縄文・弥生
10	道ヶ崎	中期	83	鍬江沢	前～晩期	156	山辺里	古代
11	丸山	前・中期	84	谷地林	中・後期	157	小堰	中世
12	山口	前・中期	85	南赤谷	中期	158	中ノ平	縄文
13	竜山寺裏	中・後期	86	小見	中期	159	館ノ腰跡	中世
14	一貫地	中期	87	上野山	中期	160	高山	古代（製鉄跡）
15	川向 A	中期	88	滝原	中・後期	161	村上城跡	中世
16	田中	後期	89	湯沢	中期	162	牛沢城跡	中世
17	行塚	前・中期	90	ヤッコハカ	中・後期	163	松山上野	中世
18	古四王林	後・晩期	91	堂ノ前	中～晩期	164	塚の越	古代
19	谷地尻	中・後期	92	玉郷立	中期	165	坂ノ上甲	縄文
20	黒田中道	前・中期	93	上関	中期	166	滝ノ前	弥生
21	向野	後・晩期	94	大内渕	前・中期	167	滝ノ前東	縄文・古代
22	上屋敷	中期	95	片貝	前・中期	168	大平上山	旧石器
23	古寺跡	中・後期	96	大里沢	中期	169	下渡	縄文
24	新屋宮ノ下	前・中期	97	八ツ口	中期	170	下渡山城跡	中世
25	寺尾	後期	98	金丸	中～晩期	171	菅谷城跡	中世
26	上ノ山	後期	99	朝篠	後期	172	松木田	古墳
27	岩崩	中期	100	大川端	中・後期	173	堂の下	古代
28	長者岩屋岩陰	前～晩期	101	玉泉寺	中期	174	三十刈	古墳
29	猿田ダム	中・後期	102	権作岩	後・晩期	175	榎清水	古墳・古代
30	下ゾリ	前～後期	103	三平岩屋	中・後期	176	はげ	古墳
31	竪岩	後・晩期	104	下野	中期	177	岩船大沢	古墳
32	坂巻	前・後期	105	団子山	早・中・後期	178	桜田	古代
33	下クボ	中期	106	才頭	前・中期	179	六枚橋下	古墳
34	沼ノ沢	前～晩期	107	大下	中期	180	永田	古代
35	アチヤ平	前～後期	108	墓窪	前・中期	181	六百地	古代
36	落合向い	前・後期	109	御筒屋	中・後期	182	七湊宮ノ前	古代
37	前田	中期	110	壁田 B	中期	183	道印田	古代
38	樽口	草創～晩期	111	女子雅	前・中期	184	七湊山崎	縄文
39	二又	中期	112	蟹沢	中・後期	185	七湊大沢	縄文
40	元屋敷	早～晩期	113	舟渡堂の前	中～晩期	186	薬師沢	古代
41	本道平	前～晩期	114	赤濁平	前・後・晩期	187	七湊屋敷添	古代
42	上向い	早・中～晩期	115	古田	中期	188	上ノ山	縄文
43	黒渕	草創～後期	116	門松	後期	189	志田平	縄文
44	脇ノ沢	前～晩期	117	中島	中・後期	190	家ノ前	中世・縄文・古代
45	長通り	中・後期	118	大竜寺	前・中期	191	山元	弥生
46	小揚	中期	119	仁谷野	中～晩期	192	八太郎	古代・縄文・中世
47	古渡路	前・中期 / 中世	120	金掘沢	中～晩期	193	丸山	縄文
48	熊登	後・晩期	121	との浦	中・後期	194	上助渕前田	中世
49	中平	中期	122	分谷地 A	早～晩期	195	前ノ平	古代
50	中平南	中期	123	先納沢	中～晩期	196	海老堤	縄文
51	浦白	中期	124	コクゾウ様	中・後期	197	天王前	中世・縄文・古代
52	観音寺裏	後期	125	下野	中期（後葉）	198	水口沢	縄文
53	下渡門	中期	126	金俣	中期	199	大場沢	中世
54	**長割**	**中・後期**	127	大石	中期	200	フケ田	中世
55	下相川	後期	128	安角	中期	201	銅鉄	古代
56	東興屋	中期	129	大沢	前～後期	202	内御堂 C	中世
57	高山東	中期	130	中ノ沢	中～晩期	203	内御堂	古代・中世
58	高平	中期	131	貝屋村西	後・晩期	204	里本庄 B	古代
59	お丸山	中期	132	貝屋 A	中・後期	205	大木戸	中世・古代
60	大関上野	中期	133	貝屋 B	前～後期	206	下引地	縄文
61	山崎	中期	134	貝塚	中・後期	207	宮ノ谷	縄文
62	大栗田	中期	135	釜杭大平	縄文	208	引地	古代・中世
63	八幡山	前・中期 / 弥生	136	上平	縄文	209	糟山	縄文
64	樋渡・堀下	中～晩期	137	浦山	縄文	210	明斉田	古代・中世
65	城田	中・後期	138	西平	縄文	211	本屋敷	古代
66	大聖寺	中期	139	関ヶ平	縄文	212	金曲	弥生
67	南大平家の前	中期	140	熊登山	縄文（草創期）	213	ガラ田	古代
68	稲場下	中期	141	堰平	縄文	214	水尻	古墳
69	開墾地	中期	142	毘沙門平南	縄文	215	宮ノ下	中世
70	中部北	中・後期	143	毘沙門平北	縄文	216	大野地	弥生
71	道端	後・晩期	144	大葉沢城跡	中世	217	家の越	古代
72	江添	後期	145	上山田宮ノ前	縄文	218	岩船弘願寺	中世
73	野地	後・晩期	146	山田家の下	中世			

第１表　周辺の遺跡（塚を除く）

荒川流域の沖積平野では、中部北遺跡（70）・道端遺跡（71）・江添遺跡（72）がある。このうち江添遺跡は、城田遺跡同様、後期前葉の遺構群と中葉の遺構群が南北に隣接して検出された［折井ほか2005］。後期前葉では、建物は検出されなかったが、配石・炉的な焼土・炭化クリの小片を主体とする炭化物集中・炭化クリの小片を含むゴミ穴の集中などで構成される遺構群が検出され、種実類の加工を行う作業区域と推測されている。後期中葉では小型竪穴状遺構や土器捨て場・土坑などが検出され、豊富な種実遺体や動物遺体が出土している。

荒川中流域右岸の段丘上では、ヤッコハカ遺跡（中ノ沢遺跡）（90）が挙げられる。遺物が多く表面採集できることで注目され、昭和55年に発掘調査が行われた。三十稲場式・南三十稲場式土器や東北南部の綱取Ⅱ式の土器が多く出土している［関川村1992］とのことであるが、検出遺構など詳細は不明である。近年でも広い範囲で遺物が多く表面採集できるとのことから、大規模集落である可能性も考えられる。

また、本遺跡の南方約21.5kmには、漆塗容器の出土で有名となった分谷地A遺跡（122）がある［伊東2003・2005］。胎内川の河岸段丘上に立地し、早期から晩期にわたる長期継続型の遺跡であるが、主体は後期前葉で、南三十稲場式期の土器や礫が多量に入った土坑が検出されている。建物は中期末に帰属するものが1棟確認されたのみである。遺物は、土器や石器のほか漆塗りの容器や糸玉・耳飾りなど、漆製品の優品が数多く出土していることが特筆される。

奥三面遺跡群では、最も遺跡数・規模が充実する時期で、13遺跡存在する。中期末葉から後期前葉のアチヤ平遺跡上段（35）では、中央部に複数の配石を伴う直径約60mの環状集落が確認された［富樫ほか2002］。建物は99棟に及び、配石110基、土坑111基、埋設土器133基などが検出された。また、後期前葉から晩期末葉の元屋敷遺跡上段（40）では土器捨て場及び盛土遺構から後期前葉の土器が多量に出土した［滝沢ほか2002］。帰属時期の判明した建物は後期中葉以降で、前葉については判然としない。いずれも磨製石斧を大量生産した遺跡として注目される。南三十稲場式を主体としながらも、東北北部・南部の土器が多量に認められるなど、県北部でも特に東北との交流が多い地域と考えられる。

これらの遺跡のうち、いわゆる拠点的集落と言われる遺跡を見ると、中期末から後期前葉、あるいは中葉まで継続する遺跡（①）と、後期前葉のみで廃絶する遺跡（②）の2パターンに大別できる。①は、アチヤ平遺跡・分谷地A遺跡が分類される。県北部以外でも小千谷市城之腰遺跡［藤巻ほか1991］・阿賀町北野遺跡［高橋雄ほか2005］[1)]などがこれに該当する。

一方、②は本遺跡である。県北部以外では柏崎市十三本塚北遺跡［品田ほか2001］が該当するが、大規模な遺跡は今のところ、これらのみである。このパターン類型を見ても、本遺跡は多数派ではないことがわかる。中期同様、近隣地域とは異なる様相が特徴的となろうが、本報告書では、その辺りを少しでも明らかにしていきたい。

1）　北野遺跡は中期末葉（大木10式古段階）から後期初頭（三十稲場式古段階）を主体とし、中期前葉～中葉・後葉、後期中葉の遺構・遺物が検出されている。後期前葉（南三十稲場式段階）の前段階で集落は廃絶しており、厳密には①パターンと若干異なる。

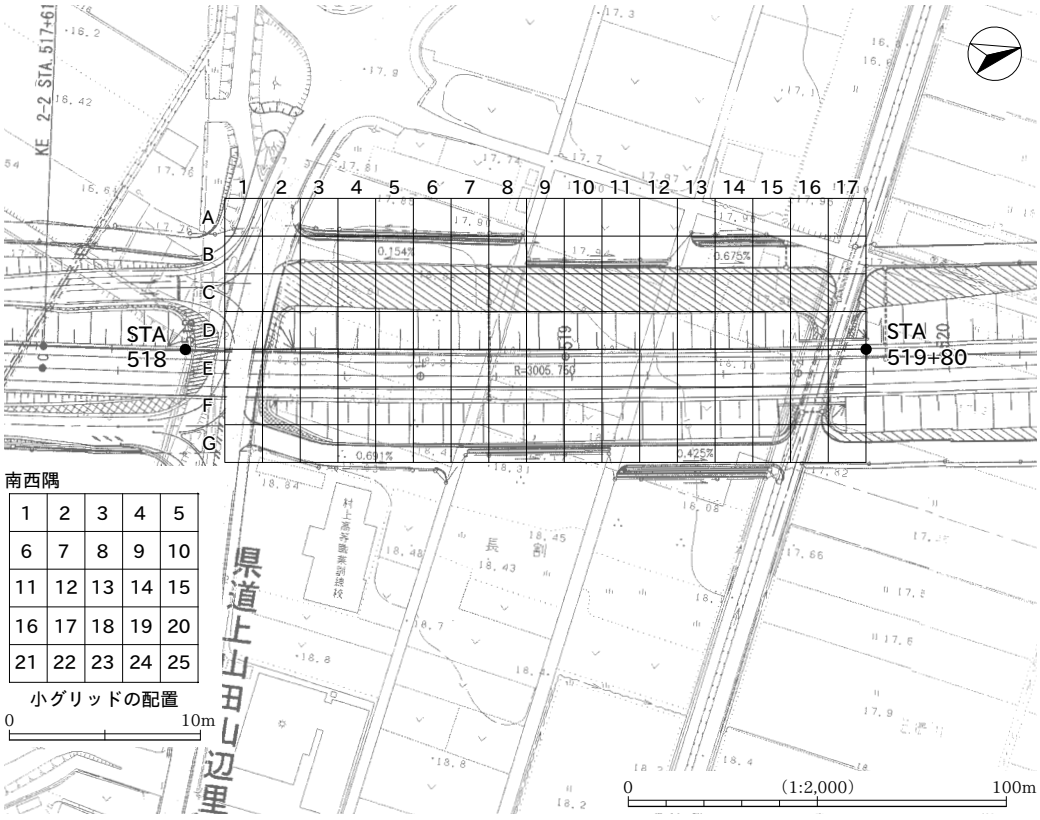
第Ⅲ章　調査の概要

1　グリッドの設定（第８図）

グリッドの設定は、道路法線杭 STA518+00（X = 247151.782、Y = 88113.195）と STA519+80（X = 247328.443　Y = 88147.702）の２点を基準として、主軸の方向を定めた。また、本報告書で用いる「北」は、国家座標第Ⅶ系のＸ軸方向を示しており、実際の真北からおよそ 30 度 92 分 60 秒東偏する。

グリッドは 10m 四方を大グリッドとし、その中を 2m 四方の 25 分割して小グリッドとした。大グリッドの南西隅の杭をグリッド名として、南北方向を南から算用数字の１から、東西方向を西からアルファベットのＡからとした。両者の組み合わせで「2B」「10D」等と呼称している。グリッドは今回の調査区全域を網羅するのに加え、今後、調査する機会に備えて広く網羅できるように設定した。南側は県道－上山田山辺里線の直下が網羅できるように、西側は今回の調査対象外ではあるが、日沿道での用地買収地域内がそれぞれ網羅できるように設定した。このため今回の調査では１ライン、Ａ・Ｂラインは対象外となっている。

小グリッドは南西隅を１として、算用数字で北に向かって２～５、東に向かって６・11・16・21 の順番で付した。大グリッドとの組み合わせで、「5D12」「12E22」などと表記した。



第８図　グリッド設定図

2 基本層序（第9・10図）

本遺跡は、第Ⅱ章の記述のとおり、現在地で南側約200mを東西に流れる門前川によって形成された自然堤防上に位置する。この自然堤防は門前川の流れと平行して東西に細長いが、今回の調査区は東西約35m、南北160mと、自然堤防に直交する東西に細長い調査区である。標高は調査区南東隅を最高地点として、現地表面で約18mであるが、グリッド1～6ラインを最高地点として北へわずかに傾斜している。このため基本層序は一様ではなく、全体的に門前川よりの南側はシルト質、北側は砂礫混じりの土質となっている。南北の層序は若干異なるが、鍵となる層序を基に対応関係を把握することで、発掘調査が有益になると考えたため、以下のように細分した。

Ⅰ　層　灰褐色砂質土層（Hue5YR6/2）　畑耕作土である。やや質が異なるものをⅠｂ層とした。

Ⅱａ層　黄色土層(Hue2.5Y8/6)　粘性･しまりにやや欠ける。橙色ブロックを含む。遺物を若干包含する。調査区南側に分布する。若干色調が暗く（Hue2.5Y6/4)、少量の炭化粒を含む層をⅡa2層とした。

Ⅱｂ層　明黄褐色土層（Hue2.5Y7/6）　やや粘性に欠けるが、しまる。Ⅱａ・Ⅱｃ層に比して暗い色調を呈する。微量の炭化粒を含む。遺物を多量に含む。調査区全域に認められる。

Ⅱｃ層　浅黄色土層（Hue2.5Y7/4）　やや粘性に欠けるが、しまる。微量の炭化粒を含む。遺物を若干包含する。調査区南側に分布する。

Ⅲａ層　にぶい黄色砂質土層（2.5Y6/6）　粘性・しまり共にやや欠ける。径5mm程の礫を多く含む。若干の遺物を含む。調査区中央付近で局部的に認められる。

Ⅲｂ層　全域で多量の遺物を含む。南側では色調、含有物が異なる（第9図①)。

・南側（グリッド1～4ライン)：暗灰黄色土層（Hue2.5Y5/2）　やや粘性に欠けるが、しまる。炭化粒を少量含む。

・中央～北側（グリッド5ライン以北)：黒褐色土層（2.5Y3/2）　やや粘性に欠けるが、しまる。径5mm程度の礫を多く含む。

Ⅳａ層　明黄褐色砂質～シルト質土層（Hue2.5Y7/6）　粘性･しまりに欠ける。Ⅲｂ層と同様に、グリッド5ライン程を境に色調、含有物がやや異なる。下面の遺構確認面である。

Ⅳｂ層　にぶい黄色砂質～シルト質土層（Hue2.5Y6/4）　粘性・しまりにやや欠ける。Ⅳａ層に比してやや暗い色調を呈する。

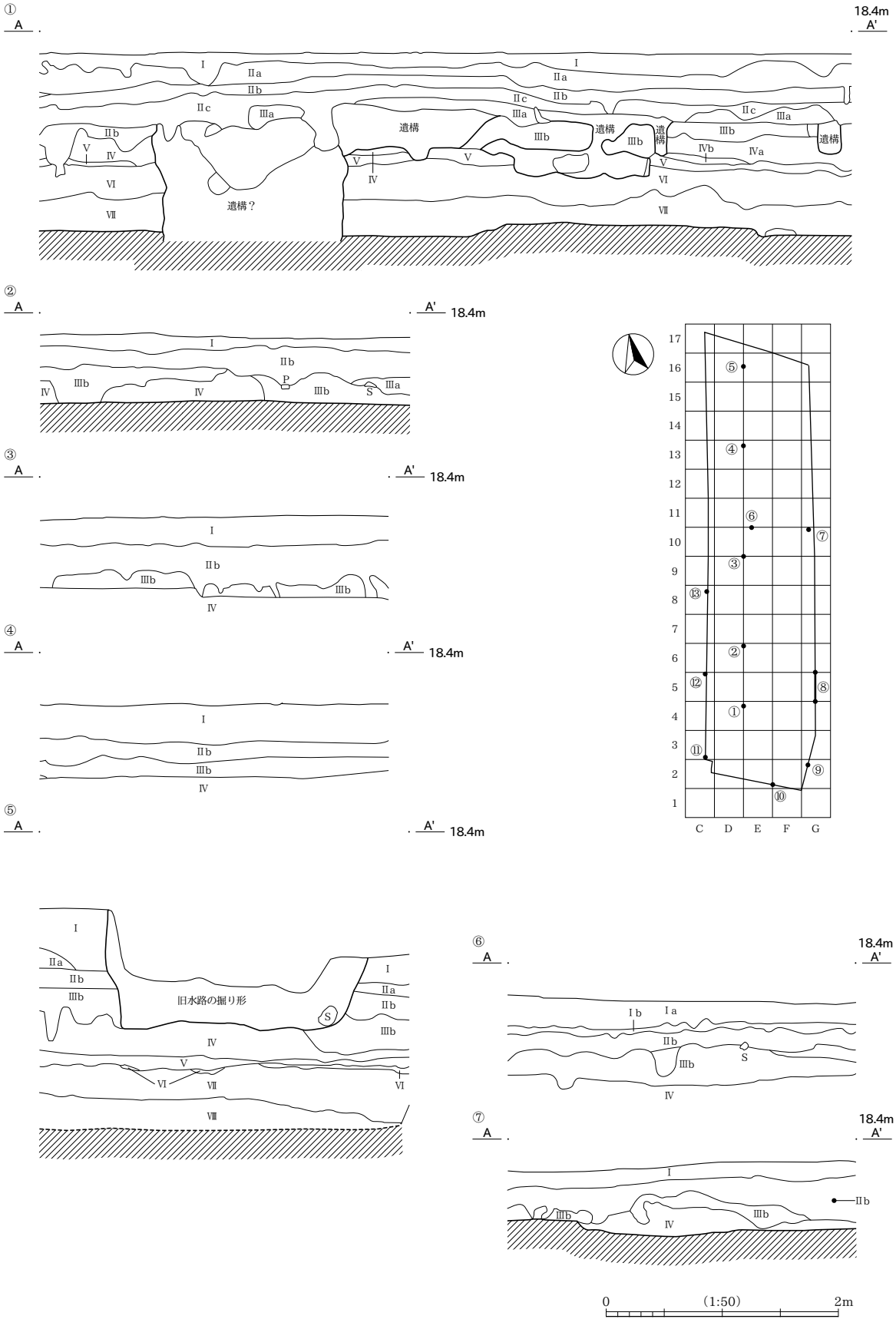
Ⅴ　層　黄灰色砂質～シルト質土層（Hue2.5Y6/1）　粘性に富み、しまる。縄文時代中期前半の遺物包含層である。

Ⅵ　層　灰黄色～浅黄色砂質土層（Hue2.5Y7/2～7/3）　粘性を持ち、しまる。少量の礫を含む。最下面の遺構確認面である。

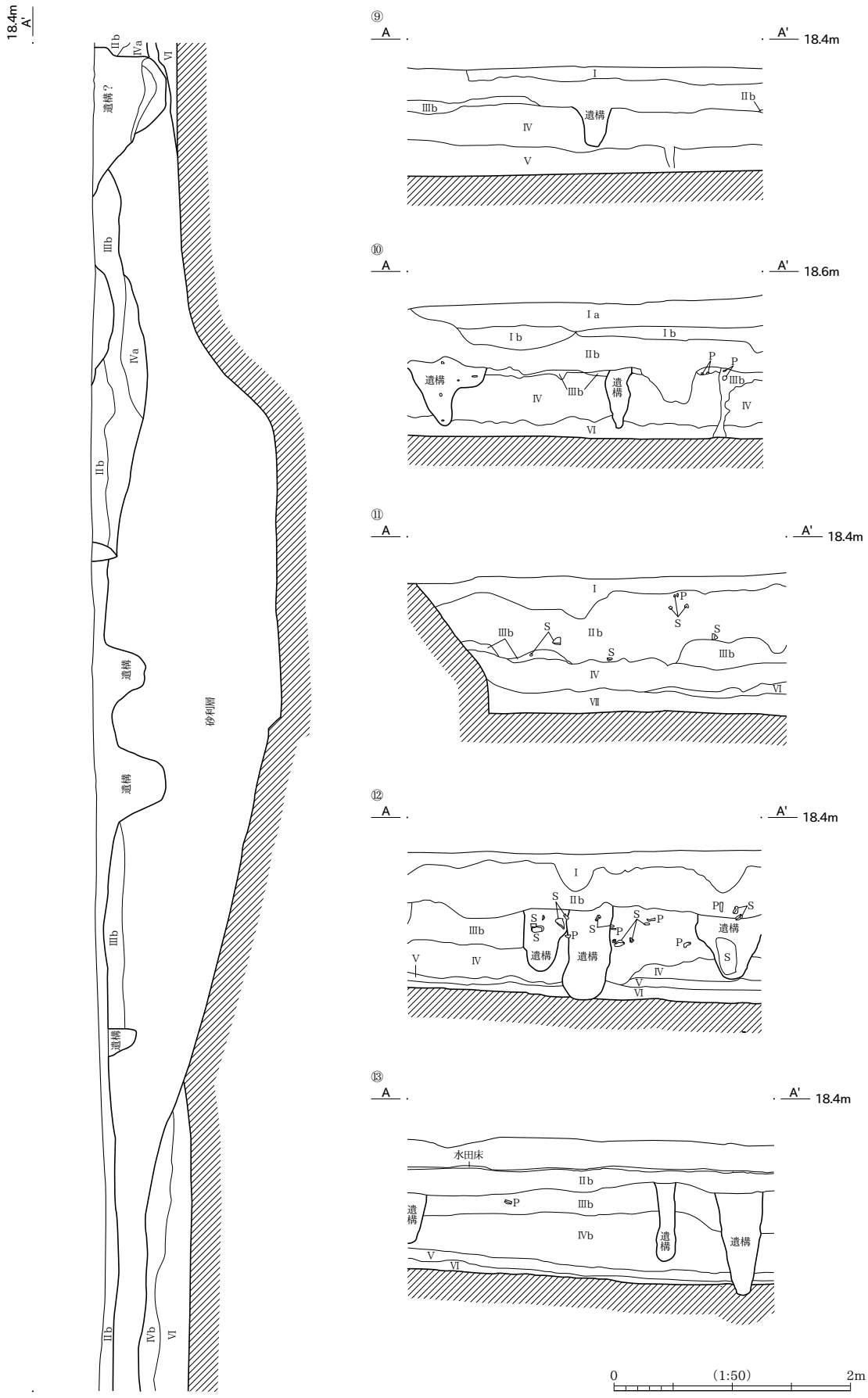
Ⅶ　層　浅黄色砂層～シルト質層（Hue5Y7/3）　粘性をやや持つが、しまりに欠ける。

Ⅷ　層　灰白色砂層（Hue5Y7/1）　粘性・しまりに欠ける。

遺物包含層はⅡ層、Ⅲ層、Ⅵ層であり、Ⅱ・Ⅲ層が縄文時代後期前葉、Ⅵ層が縄文時代中期前葉が主体である。各層は、砂礫質・砂質が多いことから門前川によってもたらされた河川堆積物が多いと考える。第Ⅵ章2に掲載した珪藻化石分析から、門前川の氾濫等が少なく、比較的乾燥化が進んだ時期に遺跡が営まれたことと考える。



第９図　基本層序（1）


18.4m
A'
⑧
A
遺構？
砂利層
遺構
⑨
A
A'
18.4m
遺構
⑩
A
A'
18.6m
遺構
⑪
A
A'
18.4m
⑫
A
A'
18.4m
遺構
⑬
A
A'
18.4m
水田床
遺構
0
(1:50)
2m

第 10 図　基本層序（2）

第Ⅳ章　遺　　構

1　概　　要

A　遺構確認面と遺構の掲載方法

本遺跡では上面（遺構確認面Ⅲｂ層＝遺物包含層）、下面（遺構確認面Ⅳ層＝基本的には無遺物層）、最下面（遺構確認面Ⅵ層＝無遺物層）の三面で遺構を確認した。遺構の時期は出土遺物から上・下面が縄文時代後期前葉を主体に、若干、中世の遺構を含む。最下面は縄文時代中期前葉である。遺構は上・下面では特に膨大で、調査区最北部ではやや希薄なものの、ほぼ満遍なく認められることから、県内を代表する縄文時代後期前葉の集落と考える。最下面では調査区南側に集中しており、全域には広がらないことから定住した集落ではないと考えられる。

縄文時代後期前葉の遺構は上面・下面の二面で検出したが、遺構確認面の違い[1)]が細別時期を示しているか否かは明確にできなかった。要因の一つに遺構確認面の土質がある。上面では包含層であるⅢｂ層を確認面として、その上層であるⅡ層（主にⅡｂ層）が入り込んだものを遺構と認定した。第Ⅲ章２で記述したとおり、Ⅲｂ層は調査区北側で土壌化（黒色化）が進んでいた。このため遺構覆土が黒色の場合、遺構の認定が極めて困難である。一方の調査区南側では、上面の遺構確認面であるⅢｂ層の土壌化（黒色化）が顕著でない。その上層のⅡ層もⅡａ～Ⅱｃ層に細別が可能であったが、顕著な色調の差がないこと、またⅢｂ層との色調の違いも顕著でない地点が多いことから、遺構の認定が特に困難であった。本来は上面で確認できるはずの遺構が、下面（Ⅳ層）で確認したものも多かったと考える。このため遺構全体図・分割図（図版１～16）では上面と下面で検出した遺構をそれぞれ区分して掲載したが、遺構の記述は包含層出土土器をベースに考えた帰属時期から、縄文時代後期前葉以降の上・下面を一括して行い、縄文時代中期前葉の最下面の順で行う。

B　各面における検出遺構と種別

上下面で検出した遺構のうち、縄文時代後期前葉のものは、竪穴建物１棟、柱穴約6,700基、石囲炉23基、地床炉55基、埋設土器12基（建物内１を除く）、袋状土坑６基、土坑170基、流路１条、不明遺構（風倒木痕を含む）33基である。膨大な量が検出された柱穴は、石囲炉・地床炉を中心に円・楕円形、ないしは方形に巡るものがある。明確な掘り込みが確認できなかったことから、平地建物とする。復元した平地建物は、166棟に及ぶ（現地調査時点で99棟、整理作業で67棟を復元）。また、平地建物よりも大型の柱穴も多数確認した。これら大型の柱穴は配列が長方形・方形に復元でき、掘立柱建物と認定したものが21棟ある（現地調査時点で15棟、整理作業で６棟を復元）。また、大型の柱穴が直線的に組み合わさるものがあり、杭列とした。

1）調査時点では当時の生活面を検討した。地床炉・石囲炉の多くはⅢｂ層直上で検出した。これらが平地建物の炉であれば、Ⅲｂ層は当時の生活面に近いと推定した。一方で、地床炉・石囲炉はⅢｂ層中で確認できたものもわずかにある。このためⅢｂ層は細分でき、その中に生活面が存在する可能性を模索した。ただし、調査で明確にすることはできなかった。ここでは遺構確認面と当時の生活面は必ずしも一致しないとして、記述を進める。

この他に上面では中世の遺構として、掘立柱建物１棟、土坑３基、流路１条がある。

最下面では地床炉３基､土坑８基､柱穴 223 基を検出した。地床炉を中心に建物の可能性を検討したが、復元できなかった。

2　記述の方法

遺構の説明は本文・観察表・図版・写真図版で行う。以下では記述方法等について記す。

遺構番号と略号　遺構番号は種別に関係なく、基本的に検出順とした。ただし、整理段階で抽出したものを多く含む平地建物、掘立柱建物は順次空き番号を付した。検出段階で遺構番号を付したが、調査の進展により、後世の撹乱と判断したものは、その番号を欠番とした。

略号は以下のように略号を用いた。SI:竪穴建物･平地建物、SB:掘立柱建物、SA:杭列、SH:埋設土器、SK：土坑・袋状土坑、SX：性格不明遺構、SD：溝・流路（自然を含む)、P：柱穴である。

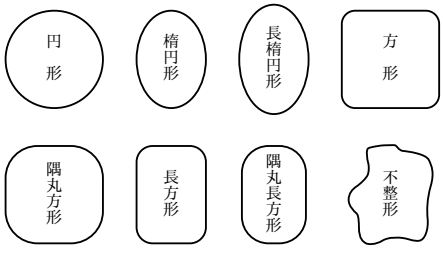
本文・観察表　ほかの遺構との関連が認められない柱穴（特異な遺物が出土したものを除く)・流路を除き、記述した。各遺構は原則として個別ごとに記述したが、検出数が 150 を超える平地建物、土坑はまとめて概要を記した。遺構各説・観察表の平面及び断面の分類は、和泉Ａ遺跡［加藤 1999］を参考にしたが(第 11 図)、数量が多い平地建物・土坑は計測値から遺跡固有の名称を付した。詳細は各説で記す。

遺構観察表　位置・平面形・断面形・計測値・重複関係等を記した。遺構の新旧関係は「＜」･「＞」「＝」の記号を用いた。「Ａ＜Ｂ」は「Ａが Ｂよりも古い」､「Ａ＞Ｂ」は「Ａが Ｂよりも新しい」､「Ａ＝Ｂ」は「Ａと Ｂは重複しているが､新旧関係は不明」である。計測値の（　）が残存部､＜　＞は復元推定値である。平地建物・掘立柱建物のうち、整理作業で復元したものは「備考」に○を付した。

図面・写真図版　図面図版は全体図、分割図、個別図を掲載した。個別図は上下面で縄文時代後期前葉に帰属する竪穴建物、平地建物、掘立柱建物、杭列、他遺構との関連が認められない単独の柱穴（特異な遺物が出土したもののみ)、埋設土器、袋状土坑、土坑、流路、性格不明遺構の順とし、その後に中世の遺構、

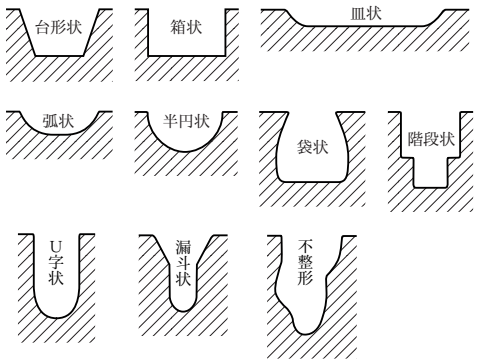
平面形状

円　形	長径が短径の1.2倍未満のもの。
楕円形	長径が短径の1.2倍以上1.5倍未満のもの。
長楕円形	長径が短径の1.5倍以上のもの。
方　形	長軸が短軸の1.2倍未満で、角のあるもの。
隅丸方形	長軸が短軸の1.2倍未満で、角に丸みのあるもの。
長方形	長軸が短軸の1.2倍以上で、角のあるもの。
隅丸長方形	長軸が短軸の1.2倍以上で、角に丸みのあるもの。
不整形	凹凸が激しく一定の平面形をもたないもの。 但し、おおよその形状のわかるものは不整円形、不整楕円形などと呼ぶ。



断面形状

台形状	底部に平坦面をもち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。
箱　状	底部に平坦面をもち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
皿　状	溝を除いた平面長径が深さの10倍以上で、底部に平坦面をもち、緩やかに立ち上がるもの。
弧　状	底部に平坦面をもたない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。
半円状	底部に平坦面をもたない椀状で、急斜度に立ち上がるもの。
袋　状	検出面の径よりも底部の径が大きく、内傾して立ち上がるもの。
階段状	階段状の立ち上がりをもつもの。
Ｕ字状	平面長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
漏斗状	下部がＵ字状、上部がＶ字状の二段構造からなるもの。
不整形	凸凹で一定の断面形をもたないもの。



第 11 図　遺構の平面形・断面形・覆土堆積状況の分類（加藤 1999 から一部改変して転載）

最下面の遺構を上下面の種別順にならい、掲載した。個別図は平面図と断面図からなるが、性格不明遺構のみ断面図のみとした（平面図は分割図を参照）。図面の縮尺は全体図：1/600、遺構分割図：1/150 とし、遺構個別図は建物平面図･エレベーション図:1/80、構成する柱穴断面図:1/40、埋設土器:1/30、土坑･袋状土坑：1/40、性格不明遺構断面図：1/60、流路平面図：1/400・断面図：1/80 等である。

写真図版は図面図版に掲載したものを中心に示した。平地建物を構成する柱穴については代表的なもののみとしたが、掘立柱建物の柱穴は重要性から断面写真を多く掲載した。

3　遺 構 各 説

A　上下面の縄文時代

上下面で検出した遺構には、竪穴建物 1 棟、平地建物 166 棟、掘立柱建物 21 棟、杭列 2 列、ほかの遺構との関連が明確でない柱穴約 6,700 基、埋設土器 12 基（建物内 1 を除く）、袋状土坑 6 基、土坑 170 基、流路 1 条、不明遺構（風倒木痕を含む）33 基がある。以下、種別ごとに各説するが、遺構の時期区分は後期前葉以降を 3 期区分した金子編年［金子 2002c］に準拠し、三十稲場式新段階・南三十稲場式古段階:長割 1 期、南三十稲場式新段階:長割 2 期、南三十稲場式最新段階:長割 3 期とした。詳細は第Ⅴ・Ⅶ章で記す。各遺構の出土遺物は土器・土製品、石器・石製品を主体とし、動・植物遺存体がある。

1）竪 穴 建 物（SI1291）（図版 17・18、248・249）

調査区北側の 12E グリッドに位置する。上面で検出した。残存状況は良好である。平面形は楕円形を呈する。長径 4.3m、短径 3.6m と東西方向に長く、主軸は N82° W である。検出面から床面までの最大深度は 50cm と深いのが特徴である。一方で床面積は 8.1m² と小さく、後述する平地建物の床面積を含めても最少である。このため、当初は土坑として調査を行った経緯がある。

覆土は最上層に堆積した基本層序のⅡｂ層を除き、1 ～ 10 層に区分した。おおむねレンズ状に堆積している。床面はほぼ平坦で、中央付近には地床炉がある。柱穴は 7 基存在するが、いずれも規模が小さい。単独で位置する P7632 を除き、いずれも 2 個 1 組となって 3 か所に分かれて分布する。

出土遺物は多量で、縄文時代後期前葉のものが覆土からほぼ満遍なく出土している。土器の総重量は約 62㎏にも及ぶ。特に 4 層・8 層では大形の破片が多く出土している（図版 162 ～ 164）。床面付近の遺物も多く、このうち図版 164-47 は逆位（口縁部が床面側）に設置された状態で出土している。基本層序のⅡｂ層で長割 3 期の遺物が確認できるが、おおむね長割 2 期のものが多い。

土製品では垂飾品の可能性があるもの（図版 209-1050）がある。石器･石製品も多く、図化したもの（図版 212 ～ 232）では石鏃（12）、両極剝離痕のある石器（45）、不定形石器（58･62･74 など）、石皿（195）、三角立方形石製品（315）などが出土している。

2）平 地 建 物（SI）（図版 19 ～ 87・250 ～ 313）

a　平地建物の認定

県内における当概期集落の調査例は一定の蓄積があるものの、竪穴建物はほとんど確認されていない［品田 1999 など］。このため本遺跡の調査に当たり、壁際に柱穴が円形・方形に巡る建物では掘り込みがあるのかどうか、すなわち竪穴構造となるのか、それとも平地となるのかを明らかにすることが大きな課題で

あった。特定の区域では掘り込みの有無を確認するため、4m ごとに土層セクションベルトを残して発掘した。また、調査区の境界付近で炉を検出した地点では、掘り込みの有無を調査区境界の壁で検討することができた。前述したように竪穴建物を 1 棟検出したが、建物の中央付近に炉があるものの大多数は、掘り込みを確認できなかった。掘り込みが極めて浅いため、後世の浸食等で壁（掘り込み）が検出できない可能性も否定できないが、他遺跡での調査や本遺跡での調査所見から、掘立柱建物に比して小規模な柱穴で、円形・楕円形・方形等に巡るものを、平地建物として記述する。

数千基検出した柱穴のうち、比較的重複の少ない地点で認定した柱穴配置を参考として建物を復元した。具体的には調査区南東端の SI6345 や、その北側に位置する SI2917 等である。これらは、ほぼ中央に炉（石囲炉）があり、径約 20cm の壁柱穴と考えられる柱穴が円形・楕円形に巡る。このような構造の建物は壁立式で、中期終末から増加するとされている［宮本 1996］。平地建物の認定に当たり、1 つで複数の建物の柱穴になる復元は控えた。上記のような方法により、現地調査で 99 棟、その後の整理作業で 67 棟、合計 166 棟の建物を復元した。166 棟のうち、建物中央付近に炉を検出したものは 78 棟で、そのほかは確認していない。なお、このような多数の建物を復元したにも関わらず、組み合わせが明確にできない柱穴も相当数あることは、「更に多くの建物が復元できる可能性」「異なる柱穴配置の建物の可能性」を示唆するものと考える。

b　平面形と大きさの分類

平 面 形　ほぼ全形が分かるものを平面プランから、円形系列と直線的な柱穴配置を示す方形系列に大別した。次に柱穴間を結んだ外形線を第 12 図のように計測して、長径（辺）・短径（辺）を求めた。その後、短径（辺）／長径（辺）× 100 で数値（以下では、「係数」とする）を求めて、第 13 図の折れ線グラフを作成した。

数値化したものは、おおむね調査区域で全形が分かるものである。ただし、観察表には全形の推定が可能なものを記載した。係数は全体では分布の断絶が不明瞭であるが、方形・円形の系列ごとでは比較的明瞭である。分布の断絶から以下のように区分した。

【円形系列】

円　　形　　係数が 88 ～ 100 のもの

楕 円 形　　係数が 81 ～ 87 のもの

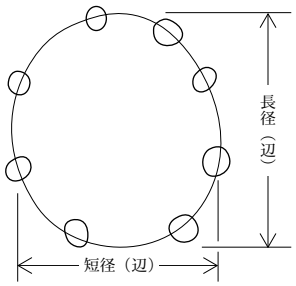
長楕円形　　係数が 78 以下のもの

【方形系列】　角が丸いものを隅丸方形とした。

（隅丸）方形Ⅰ　係数が 91 ～ 100 のもの

（隅丸）方形Ⅱ　係数が 84 ～ 89 のもの

（隅丸）長方形　係数が 82 以下のもの



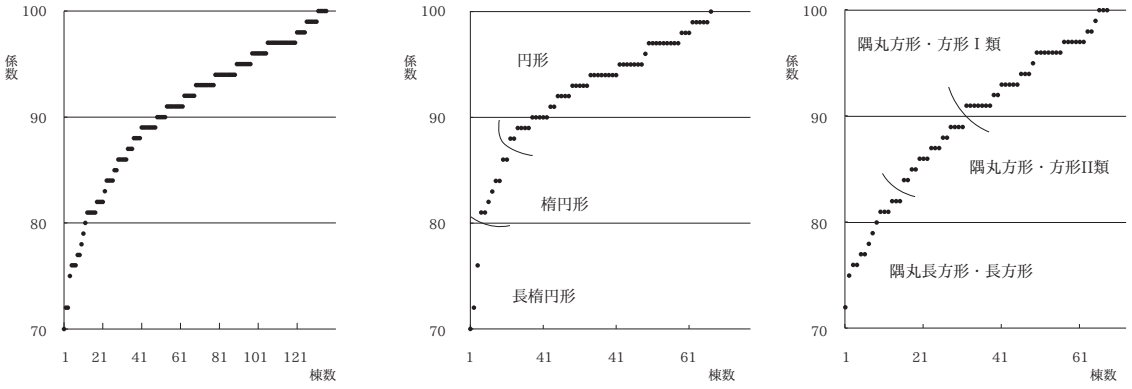
第 12 図　平地建物平面形の計測

大 き さ　壁柱穴間を結んだ輪郭内を床面と捉え、床面積を算出した。対象とした建物は、調査区域内で完結するものである。長径（辺）・短径（辺）による分布図（第 14 図）と、床面積の折れ線グラフ（第 15 図）を作成した。第 15 図の分布の断絶から以下のように区分することとする。

小　型　　25m^2 以下のもの

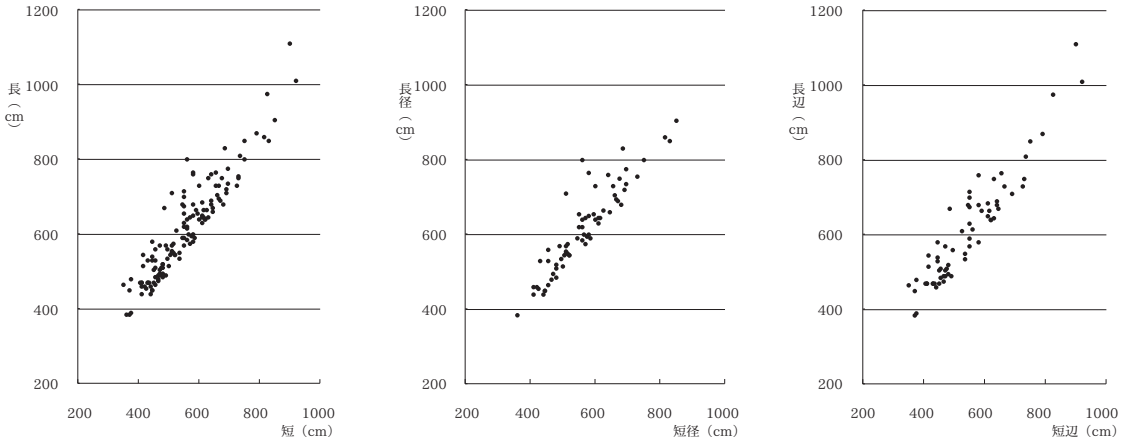
中　型　　26m^2 以上、50m^2 未満のもの。37m^2 未満を中小型、それ以上を中大型とした。

大　型　　50m^2 以上のもの。75m^2 以上を特大型とした。



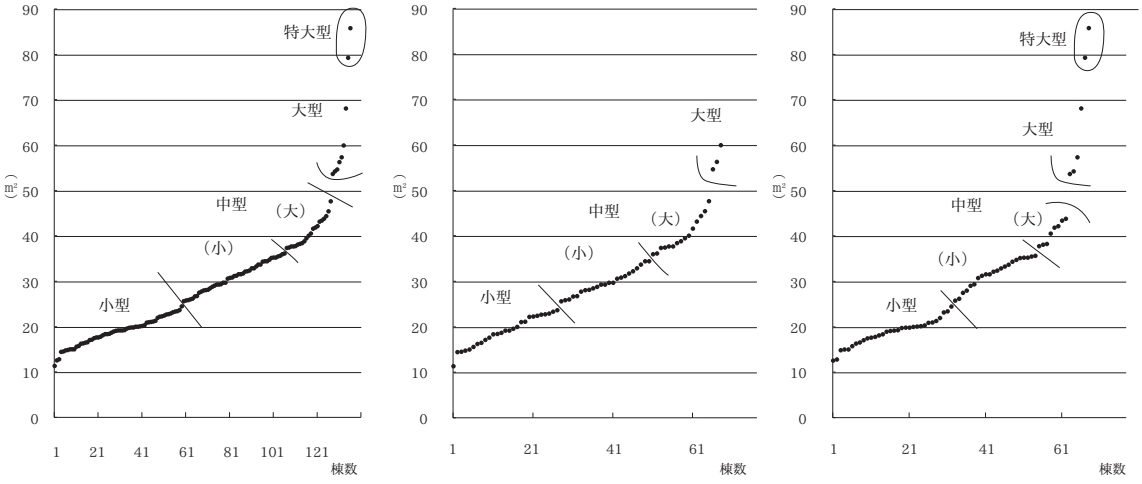
（全　　体）　　（円　　形）　　（方　　形）

第 13 図　平地建物の長幅分布図（1）（短径／長径× 100）



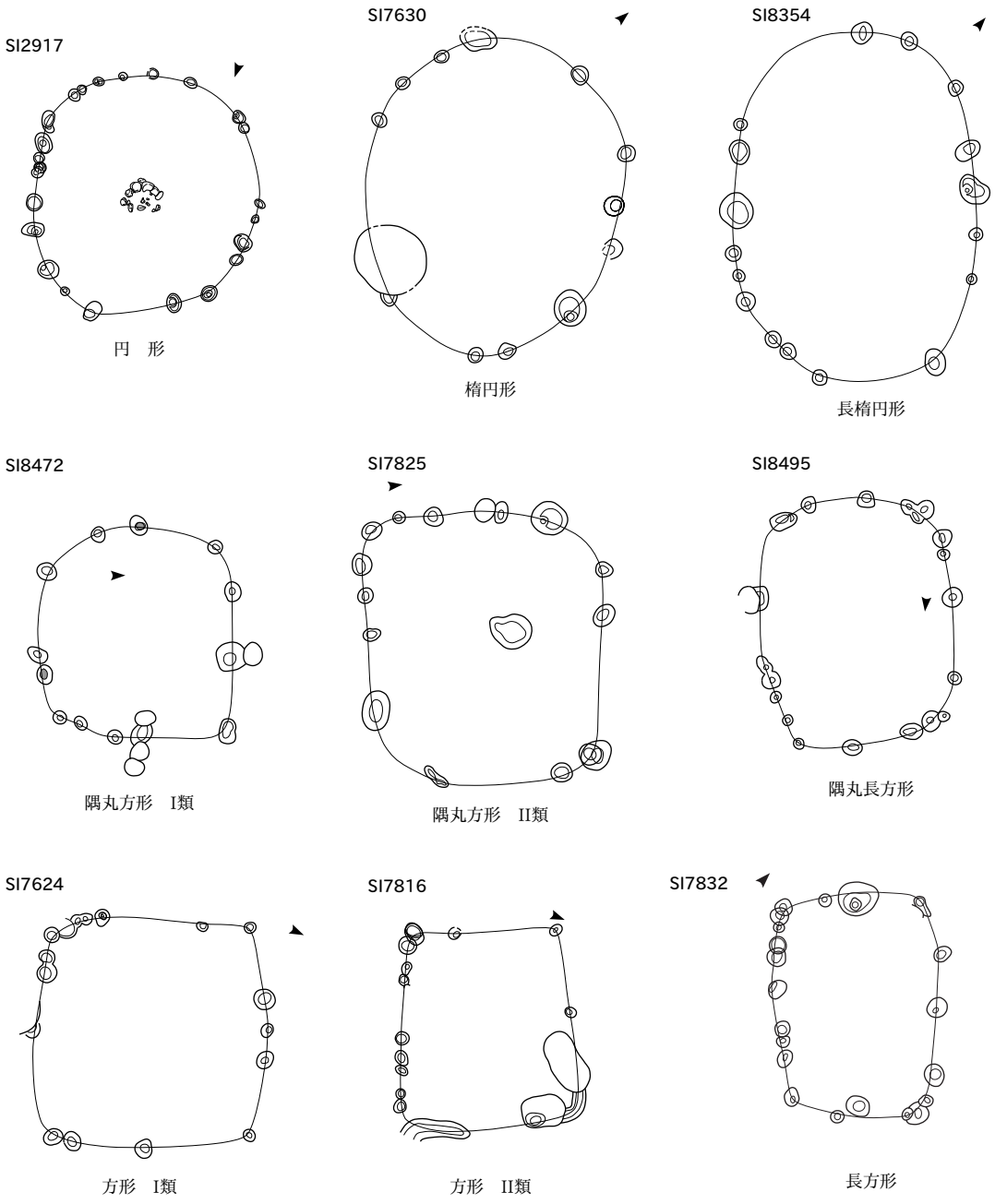
（全　　体）　　（円　　形）　　（方　　形）

第 14 図　平地建物の長幅分布図（2）



（全　　体）　　（円　　形）　　（方　　形）

第 15 図　平地建物の床面積



第 16 図　平面プランによる分類（S = 1/150）

	小型	中型		大型		合計
		小	大		特大	
円形	23	22	9	3		57
楕円形	4	2	2			8
長楕円形		1	2			3
隅丸（方形）Ⅰ	17	13	5	2	1	38
隅丸（方形）Ⅱ	7	4	2	2		15
隅丸（長方形）	8	5	1		1	15
合計	59	47	21	7	2	136

第 2 表　平地建物の平面形と大きさ

	主柱穴			合計	炉			合計
	2・4	8 以上	なし		石囲炉	地床炉	なし	
円形	9	4	44	57	11	20	26	57
楕円形	4		4	8	3	1	4	8
長楕円形			3	3			3	3
隅丸（方形）Ⅰ	2	3	33	38	2	17	19	38
隅丸（方形）Ⅱ		1	14	15		4	11	15
隅丸（長方形）		3	12	15	2		13	15
平面形不明	1		21	22	5	13	4	22
合計	16	11	131	158	23	55	80	158

第 3 表　平地建物の主柱穴と炉

平面形と大きさ、及びその関連　床面積を算出した136棟を対象に、平面形と大きさの区分を第2表・第15図に示した。平面形の大区分では、円形系列・方形系列が、それぞれ68棟存在する。細別では円形が最も多く57棟（41.9%）、隅丸方形・方形（以下、一括する）が38棟（27.9%）で次ぐ。これ以外では（隅丸）方形Ⅱ・（隅丸）長方形がそれぞれ15棟（11.0%）で次ぐが、楕円形・長楕円形は10棟に満たず、全体の6%に満たない。

円・方両系列において、長径（辺）・短径（辺）の差が少ない円形と隅丸方形が、計95棟と全体の約70%を占める。一方で、円形系列では長径・短径の差が少ない円形が68棟中57棟（83.8%）を占めるが、方形系列では長辺と短辺との差が少ない（隅丸）方形が68棟中38棟（55.9%）と高い比率にならない点が特徴である。

大きさでは小型が59棟（43.4%）と最も多く、中型が68棟（50.0%　中小型47棟で34.6%・中大型21棟で15.4%）、大型は9棟（6.6%）である。床面積が50m^{2}未満の小型・中型で全体の90%以上を占めている。

平面形と大きさの関連では、57棟と最も数量が多い円形では、小型・中型・大型の比率はそれぞれ40.3%・54.3%・5.3%とおおむね全体の傾向と一致した状況がうかがえる。数量が円形に次ぐ（隅丸）方形でも顕著な違いは認められず、小型・中型・大型の比率は44.7%・47.3%・7.9%となる。数量が比較的少ないものは、小型・中型に限られる楕円形、中型に限られる長楕円形、わずかに大型の比率が高い（隅丸）方形Ⅱ類、おおむね全体の傾向と一致する（隅丸）長方形に分かれる。一方で、床面積50m^{2}以上の大型の比率は円形系列で3棟、方形系列で6棟と方形系列で多い。また、床面積が75m^{2}と特大型の2棟はいずれも方形系列であるなど、大型の比率はわずかに方形系列が上回る。

C　主　柱　穴

壁柱穴の内側に柱穴が存在するものを主柱穴とした。2本・4本以外に、壁柱穴とほぼ同様の輪郭8本以上で巡るものも主柱穴としたが、このタイプについては課題も残る。主柱穴としたものの多くは、掘り形が壁柱穴と顕著な差異は確認できないものもある。

中期末葉以降に盛行する壁立式建物の場合、主柱穴は存在しないことが多く［宮本1996］、確認できた主柱穴を持つ建物の数量は少ない。建物の大多数が調査区外に伸びる8棟を除く158棟中、主柱穴が確認できたものは27棟と全体の17.1%にとどまる（第3表）。内訳は2本が1棟、4本が15棟、壁柱穴とほぼ同様の輪郭で巡るものが11棟である。平面形の大別では円形系列で2・4本の主柱穴を持つものが13棟（19.1%）なのに対し、方形系列では2棟（2.9%）とかなり低い。一方、壁柱穴とほぼ同様の輪郭8本以上で巡るものは、円形系列では4棟（5.9%）なのに対し、方形系列では7棟（10.2%）とやや比率が高い。

大きさ別では更に顕著な傾向が表れており、主柱穴2本は小型でも最も床面積が小さいSI453、4本は小・中型に限定され、壁柱穴とほぼ同様の輪郭8本以上で巡るものは小型・中型で7棟、大型が4棟であるが、特大型の2棟はいずれもこのタイプである。このことから、本遺跡では主柱穴を欠くものが多く、2・4本主柱穴は小・中型に限定され、壁柱穴とほぼ同様の輪郭で8本以上が巡るものは大型を主体に一部、小型・中型にも認められる。なお、大型・特大型の主柱穴のうち、SI3912（図版60）やSI3913（図版61）のものは比較的規模が大きいものの、SI7818（図版63）のものは小さいなどの違いがある。またSI201（図版80）は、壁柱穴を含め4重であるが、建て替えによるものか否か判断できなかった。

d 炉

焼土ないしは炭化物が堆積する周囲に石が配置されたものを石囲炉、周囲に石が配置されていないものを地床炉とした。石囲炉としたものの中には、1 ～ 2 個程度しか石が残存していないものもある。これらの中には、遺構確認面で本来は石があったと思われるか所に、異なる土層が観察されたものもあった。このため石が抜き取られたものと考え、石囲炉に含めている。具体的にはSI7832の石囲炉2429（図版65）などがある。

検出面は基本層序Ⅱb層掘削後の上面で検出したものが圧倒的に多い。下面で確認したものはないが、SI7617の石囲炉2913（図版44）は、Ⅲb層掘削中に検出しており、他のものとやや異なる。

炉の形態と焼土　石囲炉は炉石が残存するものが多くないが、楕円形（SI1200の石囲炉567-図版24、SI446の石囲炉404-図版30）ないしは方形（SI7617の石囲炉2913-図版44）を呈し、石外縁で長径100cm程度のものが多い。石囲炉内に焼土や、火床と思われる赤化面が検出されたものは、SI6345の石囲炉1056（図版34）やSI446の石囲炉404（図版30）などが挙げられるに過ぎず、少ない傾向にある。焼土・赤化面の形成には基盤層の土質が影響している可能性があるが、焼土・赤化面を検出したのは、調査区南西側が多い。

地床炉の平面形は円・楕円形を基本とするが、不整形も多い。具体的にはグリッド5F ～ Gで検出した6基で、焼土範囲が最大約4mに達するものもある（SI7615の地床炉2915　図版42）。複数の地床炉が重複した可能性もあるが、調査で明らかにできなかった。これら以外では比較的形態が整う。焼土・赤化面は調査区北側の数基を除き、全域で認められる傾向にある点で石囲炉と異なる。また、地床炉の検出時に多数の焼骨を確認したことから、10基程度の覆土をすべて洗浄した。この結果、多数の動物遺存体を検出している（第Ⅵ章3参照）。なお、篩いを行った炉については、観察表に記した。

炉内埋設土器　検出した78基中、15基で炉体内の埋設土器を確認した。種別では石囲炉で23基中13基（56.5%）、地床炉は56基中2基（3.6%）と際だった差異が認められる。炉内埋設土器は1個が圧倒的に多いが、SI446の石囲炉404（図版30）では2個確認されている。炉内埋設土器の位置は、石の抜き取り等で形状が明確でない石囲炉が多いため比率は算出していないが、炉内の片側に偏るものが定量認められる。SI8356の石囲炉919（図版66）などは、ほぼ中央に位置するが、SI1200の石囲炉567（図版24）やSI7645の石囲炉1125（図版29）、SI7617の石囲炉2913（図版44）、SI3912の石囲炉2207（図版60）、SI2000の石囲炉1952（図版81）は炉内の片側に偏る。対となる部分に礫がないものも多い。ここを焚口として、片面からの加熱調理との想定［岩瀬1996］を示唆する可能性もあり、注目される。

炉内埋設土器の器種は深鉢形土器が圧倒的に多いが、ほぼ中央に設置されたSI8356の石囲炉919（図版66）のみ鉢形土器であり、内面には漆の可能性がある黒色付着物が確認できる。

炉と建物平面形・大きさ　調査区外に広がるため炉の有無不明の8棟を除く158棟を対象とした内訳では、石囲炉を持つものが23棟（14.5%）、地床炉を持つものが55棟（34.8%）、炉が検出できなかったものが80棟（50.6%）である（第3表）。炉を持つものと持たないものの内訳はそれぞれ78棟・80棟となり、今回復元した建物の約半数は炉を伴うこととなる。

炉の有無と種別及び平面形との関連では、円形系列が68棟中35棟（51.5%）で炉をもつのに対し、方形系列では68棟中25棟（36.8%）とやや比率が低い。また、石囲炉23基中、14基が円形系列に採用されているのに対し、方形系列では4棟と少ない点も特徴である。平面形不明のうち、炉の有無不明な

もの 8 棟を除いた 22 棟中 18 棟（81.8%）で炉を確認した。このタイプで炉の保有率が高いものは、調査区外に広がるものであっても、炉の存在から建物が復元できたことを示す。

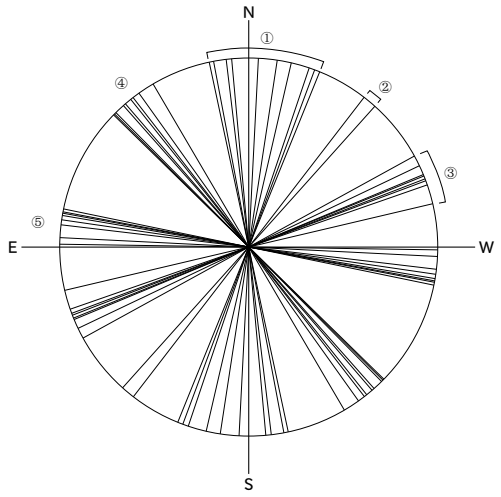
炉の有無と種別及び大きさとの関連では、石囲炉を保有する 23 棟中、床面積不明の 5 棟を除く 18 棟を対象とすると、小型が 7 棟、中型が 8 棟、大型 2 棟、特大型 1 棟となる。一方、地床炉は床面積不明の 13 棟を除く 42 棟を対象とすると、小型 15 棟、中型 21 棟、大型 5 棟、特大型 1 棟となる。炉の保有率は小型 59 棟中 22 棟（37.3%）、中小型 47 棟中 18 棟（38.3%）、中大型 21 棟中 11 棟（52.4%）、大型・特大型 9 棟中 9 棟（100%）と、大型になるほど炉の保有率が高い。

炉石に転用された石器と炉内出土石器　炉石に石器が転用されたものが 2 基で認められた。SI7617 の石囲炉 2913（図版 44）では、磨製石斧（図版 220-162）や石皿（図版 222-187、223-194・196）が、SI3912 の石囲炉 2207（図版 60）では、石皿（図版 222-191）や石棒類（図版 229-283）である。転用された石器は石皿が多いが、石囲炉 2913 の磨製石斧や、石囲炉 2207 の石棒はやや特異である。

炉石と断定できないが、礫石器が出土した石囲炉には磨製石斧（図版 221-176）が出土した SI8356 の石囲炉 919（図版 66）や、多面体敲石（図版 227-256）が出土した SI3908 の石囲炉 998（図版 50）がある。このほか、炉内から出土石器は石鏃（図版 212）が多い。石囲炉や地床炉から数量が少ないながらも認められる（石囲炉 2207-6・15、地床炉 202-13、石囲炉 2225-16、地床炉 819-20）。

e 主　　軸

調査区内で全形が把握できるもののうち、長径（辺）と短径（辺）差が顕著な楕円形・長楕円形、（隅丸）方形Ⅱ類、（隅丸）長方形の 41 棟を対象に長径（辺）方向から建物の主軸を計測した（第 17 図）。長径（辺）と短径（辺）の差が少ない円形、（隅丸）方形Ⅰ類は観察表にのみ記述した。おおむね 5 つの方向に分布が集中するが、特に③ N60 ～ 78° W、④ N30 ～ 45° E、⑤ N78 ～ 90° E で数多くの建物が密集する。



第 17 図　平地建物の主軸

f 重　　複

多くの建物が平地建物同士で重複しており、他の平地建物と重複しないものは、調査区南側のグリッド 6E の SI7806（図版 56）と調査区北側のグリッド 13E・F の SI8497（図版 86）の 2 棟のみである。重複の形態は様々であるが、建物のごく一部が重複するもの（A 類）と、床面積の半数以上が重複するもの（B 類）に区分が可能で、主軸がほぼ一致するもの同士の重複（1 類）、主軸が異なるもの同士の重複（2 類）に細分が可能である。両者の組み合わせから A1 類、B2 類などと呼称する。なお、円形・方形など長径（辺）と短径（辺）の差がないものは、感覚的な印象から判断した。

A1 類　SI7635 と SI7636（図版 8：2・3C・D）、SI3910 と SI3911（図版 11：8・9D・E）など

A2 類　SI7636 と SI7637（図版 8：2・3D）、SI7815 と SI7818（図版 10：7F）など

B1 類　SI453 と SI6345（図版 8：2F）、SI7635 と SI8354（図版 11：5　9・10C・D）など

B2 類　SI7646 と SI446（図版 8：2・3D・E）、SI7801 と SI7619（図版 9：5F）など

g 出土遺物と建物の時期

建物出土土器は図版 165～174-51～292 に、石器・石製品は出土地点による区分をせず、図版 212～232 に掲載した。ここでは主に出土土器の概要を記す。

建物出土土器と認定したものの多くは、炉及び柱穴出土土器である。これに加え、現地調査の包含層掘削段階で、建物の輪郭を把握して取り上げた床面及び覆土と想定される土器を掲載した。ただし、現地調査の後半段階及び現地調査終了後に柱穴の組み合わせを復元した建物については、その輪郭内であってもその建物に帰属する土器とはせず、包含層出土土器としている。これは重複が著しい地点の場合、小グリッド単位で取り上げた遺物の帰属が明確にできないこと、また床面の認定が十分でない建物の場合、その輪郭内で出土した土器が、建物に伴う遺物でない可能性を多分に含むことによる。

上記の作業で建物出土と認定した土器は多くない。包含層上層（Ⅱｂ層）・下層（Ⅲｂ層）出土土器の年代から、縄文時代後期前葉の長割 1 ～ 3 期に帰属すると考えるが、柱穴出土土器は小破片が多いこと、柱材腐蝕に伴って落ち込んだものが多いと考えられることから、各建物の時期比定は困難なものが多い。ここでは炉内埋設土器に加え、柱穴内出土土器のうち比較的大きな破片が出土した建物を中心として、時期比定した結果は以下のとおりである。

長割 1 期：SI3907

長割 1 ～ 2 期：SI3387、SI1200、SI7640、SI446、SI7602、SI7603、SI7822

長割 2 期：SI7605、SI3912、SI8356

長割 2 ～ 3 期：SI7627、SI7801、SI7820、SI7823、SI7824、SI201

長割 3 期：SI2372

平地建物の柱穴の重複から、以下の建物間等での新旧関係が指摘できる。

SI6345 ＞ SI453、SI3912 ＞ SI3913 ＞ SI8361

h 大型建物の分布

本遺跡で大型とした床面積 50m^2 以上の建物は 9 棟存在するが、分布に特徴が認められる。大型建物は調査区南側～中央のグリッド 5 ～ 8 ラインに 8 棟が集中し、北側は 10・11 ラインの SI201 のみである。グリッド 5 ～ 8 ラインに位置する 8 棟は、分布から大きく 3 区分が可能で、①グリッド 5E・F の SI7615・SI7616・SI7617・SI7620（図版 9）、②グリッド 6D に単独で分布する SI7627（図版 10）、③グリッド 7 ～ 9E ～ G の SI3912・SI3913・SI7818（図版 10）である。①・③では重複が著しい。①の特徴は、大型でも床面積が 50 ～ 60m^2 で主柱穴を持たないものが東西ラインで重複する点である。③は大型 1 棟と特大型の 2 棟が分布する。いずれも壁柱穴とほぼ同様の輪郭で主柱穴が巡るタイプである。大型の SI3913 廃絶後に特大型の SI3912 が築造され、前後関係を明確にできなかったが、特大型の SI7818 が一部を重複して分布する。これらは主軸がほぼ一致するなどの特徴を有す。

北側で 1 棟のみ分布する SI201（図版 11）は柱穴配置がやや特異であり、壁柱穴とほぼ同様の輪郭で 4 重の主柱穴が巡る。大型建物の分布は、後述する掘立柱建物の分布とも類似しており、集落内での遺構配置を考える場合に特に重要な要素と考える。

3）掘立柱建物（SB）（図版 88 ～ 126・314 ～ 354）

a　掘立柱建物の認定と概要

多数検出した柱穴のうち、特に規模が大きいものを中心に、長六角形ないしは長方形・正方形に規則的に巡るものがあり、底面の標高や柱穴の規模等を加味して組み合わせを認定した。総数 21 棟である。これらの建物は範囲内に炉を伴わないことから、高床の構造である可能性が高いと考える。現地調査時に認定するように努めたが、SB7700・7701・7706・7707・7709・7710 の 6 棟は整理作業で認定した。今回認定した掘立柱建物のうち、調査区北側に位置する SB7715・7716 以外は南側に偏存する。また、調査区南側のものは柱穴の規模も大きい点で北側のものと異なる。直径 1m 以上の柱穴は、掘立柱建物や後述する杭列として認定した以外にも 10 数基程存在することから、認定したもの以外にも調査区外に伸びるものなど等が存在したものと考える。

b　分　　類（第 18 図）

平面形態及び柱穴配置で分類した。分類に当たって、新発田市青田遺跡の掘立柱建物の分類［宮本 2002］［荒川 2004］等を参考にした。

A 類：長方形の長軸両端に突出する 2 基の柱穴を有し、六角形を呈するものである。両端に突出する主軸柱（以下、その間にある柱穴を含め棟持柱とする）から近接する梁間までの垂直距離（以下、突出長とする）が、両端でほぼ同じものと異なるものがある。前者を A1 類、後者を A2 類とした。更に床面積で細分した。

B 類：主軸柱を持たないものである。長方形のものを B1 類、正方形に近いものを B2 類とした。

c　規模・主軸の計測方法

規模及び面積は、柱穴底面で確認される「柱が設置されたことの根拠となる還元した硬化面」（以下では「アタリ」とする）を中心に、アタリが確認できなかったものは柱穴下端の中心部分を棟点として計測した。計測位置は第 19 図のとおりである。桁行長・梁行長は左右で異なる場合がほとんどである。それぞれ①②として、長い方を①、短い方を②とした。棟持柱が 3 本以上ある場合は、それぞれ間隔を計測した。

床面積は桁・梁行間で求めており、張り出し部分は含めていない。全形が把握できたものは 14 棟で、13.7 ～ 98.6m^2 に分布する（第 20 図）。床面積は分布のまとまりから、10 ～ 20m^2 程度を小型、30 ～ 40m^2 程度を中型、50 ～ 70m^2 を大型、90m^2 以上を特大型とした。

主軸方位は、主軸長の方向から真北を棟準として東西に傾く角度を計測した。

d　時期の認定方法と柱穴の調査方法

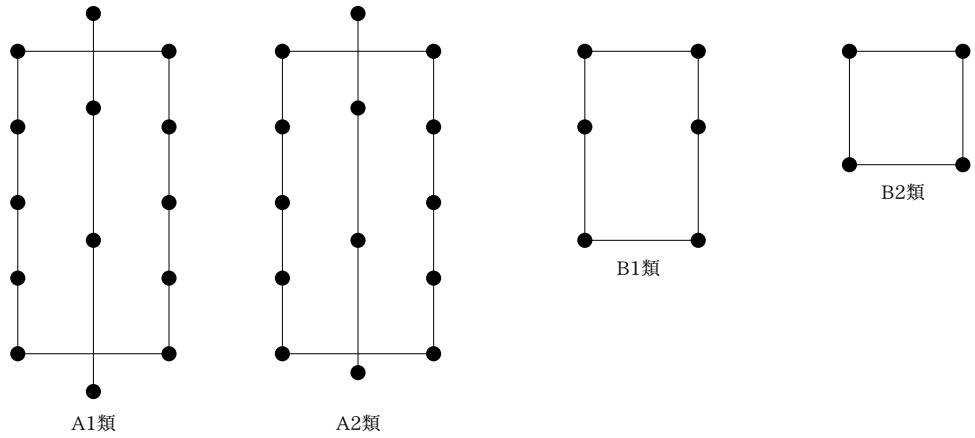
掘立柱建物の年代推定は、調査において床面及びその付近の土器が把握できる場合が少ないことから、どの時代においても困難が伴う。特に本遺跡の掘立柱建物は高床構造の可能性が高いことから、当時の床面で使用された土器を把握することは不可能と考える。各遺構の年代を明らかにすることはできないが、構成する柱穴出土土器が多くの情報を包含する。細別時期の認定は困難であるが、柱穴出土土器が最大の情報の一つと考える。以下では、調査方法と遺物の取り上げ方法を明示して、時期認定までの手続きを示す。

調査方法　以下の手順で行った。

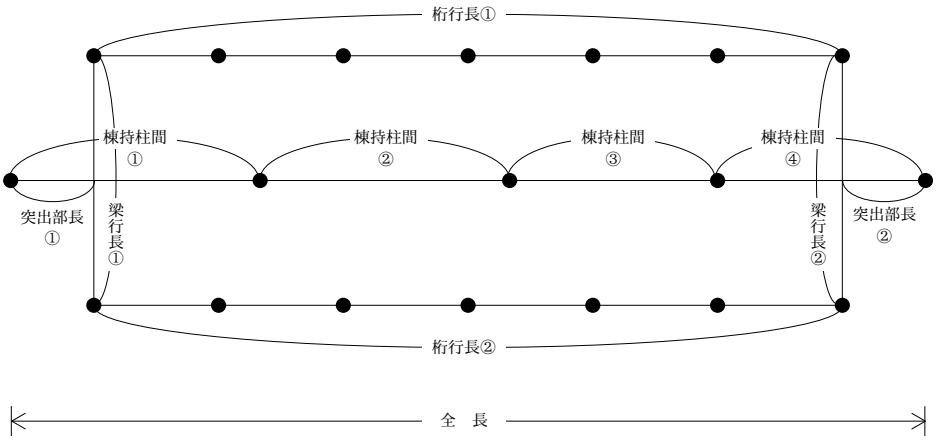
① 平面形の把握。遺構確認面で精査を行い、平面形を把握した。

② 平面形内の掘り下げ（図版 241 右列 1 段目・左列 3 段目）。5cm 単位で平面内の掘り下げを行い、柱痕と埋土を平面で確認するように努めた。おおむね 10cm 程度の掘り下げで確認できたが、埋土の色調からかなり掘り下げるまで確認が困難なものもあった（SB7708-P4013　図版 113）。

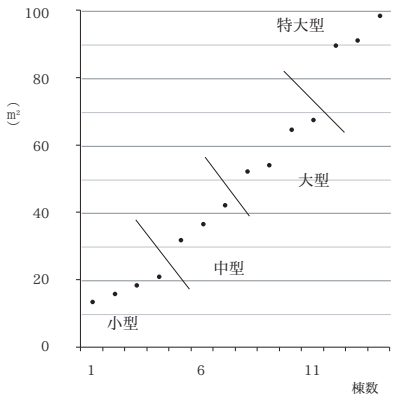
③ この間に出土した遺物は「覆土」として取り上げた。



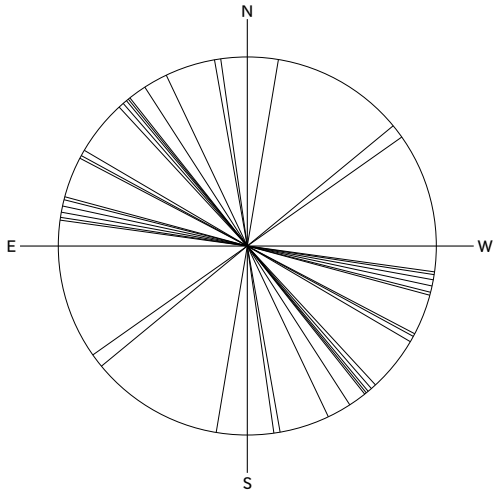
第 18 図　掘立柱建物の分類



第 19 図　掘立柱建物の計測位置



第 20 図　掘立柱建物の床面積



第 21 図　掘立柱建物の主軸

④　半截（図版 241 右列 3 段目）。柱痕と埋土の土層堆積状況が明確になるように、柱穴を半截した。この作業で出土した遺物は、柱痕と埋土に区分して取り上げた。

⑤　完掘（図版 241 右列 2 段目･左列 4 段目）。半截後に堆積土を分層し、層序ごとに遺物を取り上げた。その後、底面でアタリを観察した。

上記の作業から、おおむね柱穴は「柱痕」と柱穴掘削時の発生土を埋めた「埋土」とからなる。遺物の取り上げは、柱痕・埋土のほか、柱痕・埋土の認識ができなかった場合の「覆土」の 3 つである。柱の抜き取りに伴う土層の乱れは確認できなかった。このことは設置された柱が抜き取られることなく、柱穴内の木材が立ち腐れしたことを意味する。

時期の認定　柱穴の土層は、大きく「柱痕」「埋土」に分かれるが、それぞれで出土した遺物を以下のように捉えた。

①　柱　痕　柱に使用された木材の腐蝕に伴い土が落ち込み、周辺の遺物が流れ込んだもの、ないしは人為的に廃棄されたもの。人為的に廃棄された遺物のうち、完形ないしは大型の土器片は掘立柱建物廃絶後の時期を示す可能性が高い。ただし小破片は､この限りではない。

②　埋　土　掘立柱建物構築時に埋土に紛れ込んだもの、ないしは人為的に埋納されたものである。出土土器のうち最も新しい型式が、掘立柱建物の構築時期の上限を示す可能性がある。

多くの柱穴は出土遺物が少ない。また、土器が出土しても柱穴・埋土の両方で、細別時期が把握できたものはごくわずかであり、多くの場合は埋土からの出土である。埋土出土土器のうち、最も新しい型式のものが構築時期の上限を示すとは断定できないが、ここでは発掘調査から得られた情報を最大限に生かすため、上記のように推定して時期認定を行った。

柱穴の組み合わせ等　掘立柱建物を構成する柱穴は、1 基で複数棟にまたがる復元は極力控えた。ただし、P1701 や P455 など、1 基で複数の掘立柱建物の柱穴となるものが多く存在する。このうち 1 つの柱穴で複数のアタリを検出したものに P1701､P1102､P1703､P455 などがあり､複数の柱穴が切り合っている可能性が高いが、P1701 では明確にできなかった。観察表では現場での計測値をそのまま記述し、細分が可能なものについては、本文の記述で触れる。

e　各　　説

SB3491（図版 88・314）

位置・主軸　調査区南西端のグリッド 2D に位置する。主軸は N78° W である。西側にはほぼ同一主軸の SB3492・3493 がある。

分類・規模　南側・西側に更に伸びていると考える。全形は判断できないが、梁行間にも棟持柱と考えられる P3463 が存在することから、A 類と考える。アタリは柱穴 5 基すべてで検出した。全形が把握できないため規模は不明であるが、主軸と片側の桁行の間隔が 1.8m 程、棟持柱の間隔が 3.5m 程であることから、中～大型と考える。

柱　　穴　上面（P1858・1860）と下面（P3479・3463・3024）で検出した。柱穴は桁行が長径 80cm、深さ 50 ～ 80cm 程、棟持柱が直径 50 ～ 80cm、深さ 50 ～ 80cm である。アタリは柱穴底面の中央に設置される傾向にあり、痕跡から推定される柱の太さは 20cm 程度である。

重　　複　SB3492･3493 と重複するが、柱穴が重複していないため、前後関係は明らかにし得なかった。なお、P3479 は同規模の P3004 に切られる。

出土遺物（図版 174-293 ～ 295） P3024（293）、P1858（294）、P3463（295）から土器が出土している。

構築時期 出土土器は 295 が埋土である以外はいずれも覆土で、細片が多い。時期が判別できるものは長割 1 ～ 2 期（293・294）であるが、覆土出土のため、時期の特定はできなかった。

SB3492（図版 89・315）

位置・主軸 調査区南西端のグリッド 2D に位置する。主軸は N82° W である。南側にはほぼ同一主軸で SB3491 があり、SB3493 とは柱穴が重複する。

分類・規模 更に西側に伸びていると考える。全形は判断できないが、棟持柱と考える突出部が確認できないことから、B 類の可能性がある。アタリは柱穴 3 基すべてで検出した。全形が把握できないため規模は不明であるが、検出部において桁行の間隔が 2.5m 程、梁間の間隔が 3.5m 程であること、柱穴の規模から中～大型と考える。

柱　　穴 いずれも下面で検出した。柱穴は長径 2m 以上、深さ 1.5m 程と大きい。アタリは柱穴底面の中央に設置される傾向にあり、痕跡から推定される柱の太さは 50 ～ 60cm と大きい。

重　　複 SB3491・3493 と重複するが、SB3491 とは柱穴が重複していないため、前後関係は明らかにし得なかった。なお、柱が重複する SB3493 との前後関係は、本掘立柱建物が新しい。

出土遺物（図版 174-296 ～ 302、215-78･216-113･231-307） 土器は P3020（296 ～ 298）、P3025（299 ～ 301）、P3395（302）から、石器・石製品は P3020（113・307）、P3025（78）から出土している。

構築時期 出土土器は 301・302 が埋土である以外は、覆土である。このうち 301 は長割 2 期であることから、長割 2 期以降の所産である。

SB3493（図版 90・315）

位置・主軸 調査区南西端のグリッド 2D に位置する。主軸は N80° W である。南側にはほぼ同一主軸で SB3491 があり、SB3492 とは柱穴が重複する。

分類・規模 西側に更に伸びていると考える。全形は判断できないが、棟持柱と考える突出部が確認できないことから、B 類の可能性がある。アタリは柱穴 3 基中、2 基で検出した。全形が把握できないため規模は不明であるが、検出部において桁行の間隔が 3.1m 程、梁間の間隔が 5m 程度であることから、SB3492 よりも間隔が大きい。また柱穴規模からも中～大型と考える。

柱　　穴 いずれも下面で検出した。柱穴は長径 1.2 ～ 2m、深さ 1.5m 程と大きい。アタリは 2 基の柱穴で確認できたが、底面の中央（P3394）と片側（P3021）に設置される傾向にあり、痕跡から推定される柱の太さは 35cm 程度である。

重　　複 SB3491・3492 と重複するが、SB3491 とは柱穴が重複していないため、前後関係は明らかにし得なかった。なお、柱が重複する SB3492 との前後関係は、本掘立柱建物が古い。

出土遺物（図版 175-303・304） 土器で、いずれも P3021 からの出土である。

構築時期 出土土器はいずれも覆土からの出土であり、構築時期を特定できない。SB3492 との新旧関係から長割 2 期以前の所産である。

SB6377（図版 91・92・316）

位置・主軸 調査区南端のグリッド 2・3E にほぼ単独で位置する。主軸は N40° W である。

分類・規模 1 × 1 間で張り出しがない B2 類である。柱穴 4 基中、3 基でアタリの痕跡を検出した。桁行の間隔は南側が 4.6m、北側 4.5m とおおむね一致する。梁間は東西共に 4.1m である。全長 4.6m、床面積は 18.7m^2 で小型である。

柱　　穴　いずれも下面で検出した。柱穴は長径 1.2 ～ 1.6m、深さ 0.9 ～ 1.4m と中型である。アタリを検出した 3 基では、底面の片側に偏る。痕跡から推定される柱の太さは、南側の P6153・6138 が 35 ～ 40cm 程、北側の P6137 はやや細く 30cm 程である。

重　　複　ほかの掘立柱建物とは重複していない。

出土遺物（図版 175-305 ～ 317、214-70･215-91･222-189）　土器は P6005（305 ～ 307）、P6137（308･309）、P6153（310 ～ 314）、P6138（315 ～ 317）から、石器・石製品は P6005（189）、P6138（70・91）から出土している。

構築時期　出土土器は埋土、柱痕跡、覆土に分かれるが、埋土出土のうち時期が判別できるものでは、長割 2 期が下限となることから（306・307・316）、長割 2 期以降の所産である。

SB7700（図版 94・95・317 ～ 319）

位置・主軸　調査区南東のグリッド 2・3F・G に位置する。主軸は N8° W である。SB7703・7704 と北側で重複し、3m 東には主軸がほぼ一致して SB7701 が隣接する。

分類･規模　1 × 4 間で張り出し部がある A1 類である。棟持柱は 3 基で、ほぼ等間隔に配置されている。柱穴 13 基中、5 基でアタリを検出した。桁行は西側が 9.15m、東側が 8.9m と一致しない。また、梁行は北側が 3.75m、南側が 3.65m とおおむね一致するが、胴張の形態で最大 4.2m となる。突出長は 0.5 ～ 0.6m とおおむね一致する。全長 10.0m、床面積は 36.8m^2 で中型である。

柱　　穴　上面で検出したものと、下面で検出したものがおおむね半数である。柱穴は長径 0.7 ～ 1m 程、深さ 1m 程と中型である。アタリは、底面の中央付近から若干片側に偏るものが多い。痕跡から推定される柱の太さは、30 ～ 35cm である。

重　　複　SB7703･7704 の P435 には P7623 が切られる。同じく P435 と P2749 とは重複するが、新旧関係を明らかにできなかった。また、P1701 の南側柱痕は SB7704 と共有するが、新旧関係を明らかにできていない。これは同じく P1701 の北側の柱痕を使用する SB7703 とも同様である。P7623 の重複関係や、後述するが SB7703 と SB7704 の重複関係から、SB7700 ⇒ SB7703 ⇒ SB7704 の順に構築されたと考える。

出土遺物（図版 175・176-326 ～ 340、215-90）　土器は P7623（326）、P1714（327）、P6195（328・329）、P1701（330 ～ 332）、P1712（333 ～ 336）、P6312（337）、P1771（338）、P1760（339･340）から、石器・石製品は P1760（90）、P1714（266、279）が出土している。

構築時期　出土土器は埋土（327・333 ～ 336）、柱痕（338）、覆土（326・328 ～ 332）に区分できる。埋土出土のうち、時期が判別できるものでは長割 2 期（333）が下限となることから、長割 2 期以降の所産と考える。

SB7701（図版 92・93・319・320）

位置・主軸　調査区南東のグリッド 3・4G に位置する。主軸は N10° W である。重複する掘立柱建物はないが、西側 1m には SB7703・7704 が、南西 3m には主軸がほぼ一致する SB7700 がある。

分類・規模　南東側で調査区外に伸びるため明確でないが、P7318 が張り出し部となる A 類である。柱穴 8 基中、2 基でアタリを検出した。棟持柱は 3 本以上あること、梁行は最北側の P2697-P2734 間では 3.2m であること、柱穴規模から、主軸がほぼ一致する SB7700 と同様に、中型の可能性が高いと考える。

柱　　穴　上面で検出したものが多い。柱穴は長径 0.7 ～ 1.3m、深さ 0.7 ～ 1m 程度と中型である。

アタリを検出した2基はいずれも棟持柱である。底面の中央付近から若干片側に偏るものが多い。痕跡から推定される柱の太さは、P7318は約30cm、P2607は約45cmと大きさが異なる。

重　　複　掘立柱建物とは重複していない。

出土遺物（図版175-318～325、210-1052、236-241）　土器がP7341（318～320）、P1777（321）、P2734（322）、P2691（323）、P2607（324・325）から、土製品（土錘）がP2606（1052）から、石器・石製品はP1777から磨石類（241）が出土している。

構築時期　出土土器は埋土（321～323）、柱痕跡（324・325）に区分できる。埋土出土のうち、時期が判別できるものでは、長割1～2期（322）が下限となることから、長割1～2期以降の所産と考える。

SB7702（図版96・319・323・325・326）

位置・主軸　調査区南側のグリッド3・5E・Fに位置する。主軸はN39°Wである。SB7703と北側の桁行は共有し、南側は重複する。

分類・規模　1×2間で張り出し部を持たず、長方形に近いB1類である。柱穴6基中、5基でアタリの痕跡を検出した。桁行長は南西側が6.65m、北東側7.25mと異なるが、梁間も東西ともに6.1mである。全長7.25m、床面積は42.4m^{2}と中型である。

柱　　穴　上面で検出したものが多い。柱穴は長径1.5～2m（P1102・1703・455の南西側は1.6～2m程度）、深さ1.0～1.4mと大型である。アタリは、いずれも底面の中央付近から若干片側に偏るものが多い。痕跡から推定される柱の太さは、45～50cmと大きい。

重　　複　SB7703と南側で重複しており、土層の堆積状況からSB7703に切られる。

出土遺物（図版176-341・342）　P1102（341）、P455（342）から土器が出土している。

構築時期　出土土器はいずれも埋土である。時期が判別できるものでは、長割2期（341）が下限となることから、長割2期以降の所産である。

SB7703（図版97～101・320～329）

位置・主軸　調査区南側のグリッド3～5E・Fに位置する。主軸はN40°Wである。SB7702と北側の桁行は共有し、南側は重複する。SB7704・7700とは重複する。

分類・規模　1×5間で張り出し部を持っており、張り出し部長がほぼ一致するA1類である。柱穴16基のすべてでアタリの痕跡を検出した。桁行長は南西側が17.5m、北東側18.4mと約1m異なるのに対し、梁間は西側が5.05m、東側は4.95mとほぼ一致する。全長18.5m、床面積は89.8m^{2}と特大型である。

柱　　穴　上面で検出したものと、下面で検出したものがある。柱穴は長径1.5～2m（P1102・1703・455の北東側は1.5～2m程度）、深さ1.3～1.6mと大型で、棟持柱はわずかに小さい傾向にある。アタリは、いずれも底面の中央付近から若干片側に偏るものが多い。痕跡から推定される柱の太さは桁・梁が45～60cmと大きく、棟持柱は30～45cmとやや小さい傾向にある。

各柱穴アタリの間隔は南西側が3.1～3.8m、北東側が3.45～3.9mと顕著な差は見出し難い。棟持柱では北西から、6.1m、6.7m、5.7mと中央でやや間隔が広い傾向にある。桁行、梁間、棟持柱ともに、アタリの痕跡はほぼ一直線に並び、極めて整然とした配置となっているのが、本掘立柱建物の大きな特徴である。

重　　複　SB7700・7702・7704と南側で重複しているが、土層の堆積状況からSB7700・7702より新しく、SB7704より古い。

出土遺物（図版175～178-343～378、212-11、224-207・217、228-270・276、229-287）　各柱穴から

土器が出土している。P1102（343 ～ 345）、P1702（349 ～ 352）、P1705（362 ～ 366）、P437（373）など大型の破片も多い。石器･石製品はP433から石鏃（11）が、P458･1701からは砥石（207･217）が、P437から石錘（276）が、その周辺から石棒類（287）が、P1702からは打製石斧（270）がそれぞれ出土している。

構築時期　出土土器は埋土（343・345 ～ 348・352 ～ 356・358 ～ 361・363 ～ 367・369・372・375 ～ 378）と柱痕（357・362・371・374）などに区分できる。埋土出土土器のうち、時期が判別できるものでは長割２期が下限（347・354・358・360・378など）となることから、長割２期以降の所産と考える。

SB7704（図版102 ～ 104・329 ～ 333）

位置・主軸　調査区南側のグリッド３～ 5E・Fに位置する。主軸はN33°Wである。SB7700・7703と重複する。

分類・規模　１×６間で張り出し部を持っており、張り出し部長が南西側と北東側で異なることからA2類である。柱穴19基の16基でアタリの痕跡を検出した。桁行長は南西側が20.1m、北東側19.5mと異なり、梁間も西側が4.1m、東側は4.6mと差異がある。やや歪で、梁間最大長は5.05mである。全長20.9m、床面積は98.6m^{2}と特大型で、本遺跡中最も面積が大きい。

柱　　穴　上面で検出したものが多いが、北西側を中心に下面で検出したものも若干含まれる（P6890･7124・7122・7127・7358など）。柱穴は長径0.8 ～ 1.3m、深さ0.5 ～ 1.4mと重複するSB7703よりも小さいものが多い。アタリは、底面の中央付近のもの（P2748・1708・465）もあるが、若干片側に偏るものが多い。痕跡から推定される柱の太さは、桁・梁はP435で約45cmと大きいが、それ以外は30 ～ 40cmであるのに対し、棟持柱はP1701で35cmと若干小さいが、それ以外は40 ～ 45cmとむしろ大きい点でSB7703と異なる。桁行長が南北で異なる点はSB7703と同様であるが、SB7703とは長・短の方向が逆（SB7703は東側が長く、西側が短い）である点も注目される。

各柱穴のアタリの間隔は南西側が2.9 ～ 3.85m、北東側が2.9 ～ 3.7mと顕著な差は見出し難く、一部を除き、東側で間隔が狭い桁行間は、西側でも狭いなど一致する場合が多い。５基検出した棟持柱の間隔は、北西から6.0m、6.1m、5.6m、3.3mと南側のみ間隔が狭い。桁、梁、棟持柱のいずれも、アタリの痕跡はほぼ一直線に並ばない点もSB7703との違いである。

重　　複　SB7700・7703と重複しているが、土層の堆積状況からSB7700・7703より新しい。

出土遺物（図版178-379 ～ 385）　遺物が出土した柱穴は少なく、いずれも土器である。P1708（379・380）、P1702（381）、P7358（382）、P465（383）、P2748（384）、P1710（385）がある。大型の破片が出土した例にはP1708（380）がある。

構築時期　出土土器は埋土（379 ～ 381・384・385）と柱痕（382）などに区分できる。埋土出土土器のうち時期が判別できるものでは長割２～３期（384）が下限となることから、長割２～３期以降の所産と考える。

SB7705（図版105 ～ 107・333 ～ 336）

位置・主軸　調査区南側のグリッド４～ 6E・Fに位置する。主軸はN39°Wである。SB7709と北側で重複する。また主軸の方向がほぼ一致するSB7703が1.5m南に、主軸の方向がやや一致しないが、SB7704が1m程南に位置する。

分類・規模　１×４間で張り出し部を持っており、張り出し部長が南西側と北東側で異なることからA2類である。柱穴13基の７基でアタリの痕跡を検出した。桁行長は南西側が12.6m、北東側12.4m

とわずかな差異であるが、梁間は北側が 5.5m、南側は 4.85m と差が大きい。ただし歪みはなく、柱筋はおおむね一直線である。全長 13.8m、床面積は 64.8m² と大型である。

柱　　穴　下面で検出したものが圧倒的に多く、上面で確認したものは少ない（P479・2918）。柱穴は長径 1 ～ 1.5m、深さ 0.6 ～ 1.0m と平行して隣接する SB7703 よりも小さく、隣接する SB7704 に近い。アタリは、底面の中央付近のものが多い。痕跡から推定される柱の太さは、P6825 が 50cm と大きいが、その他は 35 ～ 45cm でまとまる。

アタリを検出した柱穴は多くないが、各柱穴の間隔は南西側が 2.8 ～ 3.6m、北東側が 2.2 ～ 3.7m と顕著な差は見出し難く、一部を除き、東側で間隔が狭い桁行間は、西側でも狭いなど一致する場合が多い。3 本検出した棟持柱の間隔は、北西から 7.5m、6.3m とやや間隔が異なる。

重　　複　SB7709 の P879 で重複しているが、土層の新旧関係を明らかにできなかった。

出土遺物（図版 178・179-386 ～ 402、212-21）　遺物が出土した柱穴は多い。土器は P6930（393）、P6825（394・395）、P2918（396 ～ 402）等から出土している。このうち P2918 の柱痕跡からは 398・402 など大型の破片が出土している。石器・石製品は P2918（21）から出土している。

構築時期　出土土器は埋土（389 ～ 392･395）と柱痕（388･396 ～ 402）･覆土（393･394）等に区分できる。埋土出土土器は長割 1 ～ 3 期、柱痕では長割 2 期（399・402 ？）と 3 期（396 ～ 398）であることから、長割 3 期以降の所産と考える。

SB7706（図版 108・337・338）

位置・主軸　調査区南側の西端に当たるグリッド 5・6C・D に位置する。主軸は N25° W である。主軸の方向がほぼ一致する SB7707 が 2m 北に隣接する。

分類・規模　調査区外に伸びることから全形は把握できない。調査区内において張り出し部が確認できないこと、東側の梁間は完結している可能性が高いことから B1 類と考える。柱穴 3 基中、すべてでアタリの痕跡を検出した。東側の梁行長は 4.05m である。

柱　　穴　上面で検出したものと、下面で検出したものがある。柱穴は長径 1.4 ～ 2m、深さ 1.7m 程と大きい。隣接する SB7707 とほぼ同規模である。アタリは、底面の片側に偏る。痕跡から推定される柱の太さは、40 ～ 50cm である。梁間は前述したとおりであり、唯一、計測可能な P307-P1165 間は 6.9m と間隔が広い。

重　　複　ほかの掘立柱建物とは重複していない。

出土遺物（図版 179-403 ～ 409、225-222）　すべての柱穴で土器が出土している。P1837（403 ～ 406）、P307（407）、P1165（408・409）がある。石器・石製品では P1165 から磨石類（222）が出土している。

構築時期　出土土器はいずれも埋土からである。細片が多いが、時期が判別できるものでは長割 2 期（406）が下限であることから、長割 2 期以降の所産と考える。

SB7707（図版 109・110・337 ～ 339）

位置・主軸　調査区南側の西端に当たるグリッド 5・6C・D に位置する。主軸は N33° W である。重複する掘立柱建物はなく、主軸の方向がほぼ一致する SB7706 が 2m 南に位置する。

分類・規模　調査区外に伸びる可能性は否定できないが、北東側の桁行は調査区外には伸びず、完結している可能性が高いと考える。1 × 1 間で、張り出し部がなく、長方形を呈する B1 類である。柱穴 4 棟のすべてでアタリの痕跡を検出した。桁行長は西側が 7.9m、東側 7.5m、梁間は北側が 4.5m、南側は 3.85m といずれも差が大きい。全長 7.9m、床面積は 32.1m² と中型である。桁行の間隔は今回の調査で確認し

た掘立柱建物の中で最も大きい。

柱　　穴　いずれも下面で検出した。柱穴は長径 1.7 ～ 1.9m、深さ 1.1 ～ 1.5m と大きい。アタリは、底面の片側に偏るものが多いが、P6542 のみ底面のほぼ中央に位置する。痕跡から推定される柱の太さは、P4064 は 90cm と最も大きく、P7118 が 70cm、P6542・1617 は 50cm 程と相対的に大きい。

重　　複　SB7709 の P7118 と柱穴を共有するが、前後関係を明らかにできなかった。

出土遺物（図版 179-410 ～ 417、220-164）　すべての柱穴で土器が出土している。P4064（410・411）、P1617（412）、P6542（413 ～ 415）、P7118（416･417）がある。石器･石製品は P4064 から磨製石斧（166）が出土している。

構築時期　出土土器は 416 を除き、埋土からである。細片が多いが、時期が判別できるものでは長割 2 期（410・412 など）が下限となることから、長割 2 期以降の所産と考える。

SB7708（図版 111 ～ 115・339 ～ 344）

位置・主軸　調査区中央からやや南側のグリッド 6・7D ～ F に位置する。主軸は N75° W である。主軸の方向がほぼ一致する SB7709・7710、やや異なる SB7711 と重複する。このうち SB7710 とは P4044 を共有する。

分類・規模　1 × 6 間で、張り出し部長がおおむね一致する A1 類である。柱穴 18 基中、17 基でアタリの痕跡を検出した。桁行長は南側が 18.5m、北側 18.3m と大きな差はない。梁間は西側が 4.6m、東側が 4.4m と大きな差がないが、やや胴張の形態で、梁行最大長は 5.35m である。全長 19.9m、床面積は 91.3m^2 と特大型である。

柱　　穴　いずれも下面で検出した。柱穴は長径 1.3 ～ 2m、深さ 1.2 ～ 1.4m と大きいものが多い。アタリは、底面の片側に偏るものが多いが、P6539・4008 など底面のほぼ中央に位置するものも若干存在する。痕跡から推定される柱の太さは、P4013 は 60cm と最も大きく、そのほかは 30 ～ 55cm で、棟持柱が細い傾向にある。

重　　複　P6515 は SB7709 の P6536 を切り、P4056 は SB7711 の P4060 に、P7065 は SB7710 の P6549 に切られる。一部、不明瞭なものもあるが、SB7709 を切り、SB7710・7711 に切られるものと判断した。

出土遺物（図版 180 ～ 182-418 ～ 485、210-1062、211-1112、217-116、222-182、223-202、229-278）　すべての柱穴で土器が出土している。P7009（418 ～ 420）、P4044（421 ～ 427）、P4398（428 ～ 431）、P4059（432 ～ 440）、P4057（441 ～ 443）、P6539（444 ～ 447）、P3501（448・449）、P4013（450 ～ 457）、P7065（458･459）、P4044（460 ～ 463）、P4050（464 ～ 469）、P4056（470 ～ 476）、P4008（477 ～ 479）、P6805（480・481）、P4351（482）、P6515（484・485）、P4053（486 ～ 488）がある。

土製品は土器片円板が P6539（1062）、ミニチュア土器が P4013（1112）など、石器・石製品は P4044 から石皿（182）が、P4056 から礫器（278）が、P4351 から不定形石器（116）が出土している。

構築時期　出土土器は埋土からが多く、柱痕（444、450･451、464･465 など）や覆土（456 など）は少ない。埋土出土のうち、時期が判別できるものでは長割 2 期（423･424･478･479 など）が下限となることから、長割 2 期以降の所産と考える。

SB7709（図版 116・117・345・346）

位置・主軸　調査区中央からやや南側のグリッド 6・7E・F に位置する。主軸は N80° W である。主軸の方向がほぼ一致する SB7708・7710、やや異なる SB7705・7707 と重複する。このうち SB7705

とはP879を、SB7707とはP7118を共有する。

分類・規模　1×2間（南側は3間）で張り出しを持たず、長方形のB1類である。柱穴7基中、3基でアタリの痕跡を検出した。桁行長は南側が9.7m、北側9.55mと大きな差はない。梁間は西側が5.9m、東側が5.5mと大きな差がないが、やや歪な形態である。全長7.9m、床面積は52.5m²と大型である。

柱　　穴　いずれも下面で検出した。柱穴は長径1.5～2m、深さ1m程と大きい。アタリは、底面の片側に偏るものが多い。痕跡から推定される柱の太さは、約45cmである。

重　　複　複数の掘立柱建物と重複するが、柱穴同士が重複するもののうち新旧関係が明確なものはSB7708のP6515のみであり、P6536がP6515に切られる。それ以外のものとの新旧関係は明らかにできなかった。

出土遺物（図版182-489～503）　P7118・6536を除く柱穴で土器が出土している。P7090（489）、P4062（490）、P879（491～493）、P4041（494～498）、P4058（499～503）がある。

構築時期　出土土器はP4041で柱痕跡（494～496）と埋土（497・498）から出土しているが、P7090･4062･879は覆土からの出土であり、埋土出土はP4058（499～503）と少ない。細片が多いが、埋土出土のうち時期が判別できるものでは、長割2期（501・503）が下限となることから、長割2期以降の所産と考える。

SB7710（図版118・119・346～348）

位置・主軸　調査区中央からやや南側のグリッド6・7E・Fに位置する。主軸はN75°Wである。主軸の方向がほぼ一致するSB7708・7709、やや異なるSB7711と重複する。このうちSB7708とはP4004・4059を共有する。

分類・規模　1×3間（南側は4間）で、両側の張り出し部の計測値が異なるA2類である。柱穴14基中13基でアタリの痕跡を検出した。桁行長は南側が11.45m、北側12.5mと大きく異なる。梁間は西側が4.05m、東側が4.45mとやや差異があり、やや歪な形態である。全長14.1m、床面積は54.4m²と大型である。

柱　　穴　いずれも下面で検出した。柱穴は長径1.4～1.9m、深さ0.8～3mと大きい。アタリは、底面の片側に偏るものが多いが、底面のほぼ中央に位置するものもある（P4060・4008）。痕跡から推定される柱の太さは、35～60cmと異なるが、おおむね張り出し部の両端や桁行北側が大きく、棟持柱でも掘立柱建物輪郭内のものが小さい傾向にある。

重　　複　複数の掘立柱建物と重複するが、柱穴同士が重複するものではSB7708のP4351・P4057・P4053・P4049・P7065がある。このうちP4057・P4053・7065は切るが、P4351に切られ、P4049とは前後関係を明らかにできなかった。P4351とP4058とは重複する部分が少ないため、誤認した可能性もある。このことからSB7710はSB7708を切るものと判断した。それ以外のものとは新旧関係を明らかにできなかった。

出土遺物（図版183・184-504～539、210-1066、223-202、228-275）　P4398・4353・4058・4044・4008を除く柱穴で土器が出土している。P4059（504・505）、P4060（506～508）、P6522（509～511）、P6562（512～515）、P6549（516～522）、P4049（523～527）、P6538（528・532）、P4353（529～531）、P4346（533～535）、P4054（536～539）がある。土製品は土器片円板がP4054（1066）から出土している。

構築時期　出土土器は柱痕跡、埋土、覆土に区分できるが、埋土出土のうち時期が判別できるものでは、

長割２期（520・527・535・536）が下限となることから、長割２期以降の所産と考える。

SB7711（図版 120 ～ 122・348・349）

位置・主軸　調査区中央からやや南側のグリッド 6・7D ～ F に位置する。主軸は N63° W である。主軸の方向がやや異なる SB7708・7710 と重複する。

分類・規模　１×４間で、張り出し部を持つ A 類である。ただし、張り出し部は片側のみであること、梁行線上にあることからやや他のものと形態が異なる。柱穴 12 基中、７基でアタリの痕跡を検出した。桁行長は南側が 13.45m、北側 13.7m と大きな差異はない。梁間も西側が 5.05m、東側が 4.95m と差異がないが、柱穴配置がやや歪な形態である。全長 13.7m、床面積は 67.7m^2 と大型である。

柱　　穴　P997 を除き、下面で検出した。柱穴は長径 0.9 ～ 1.5m、深さ 0.8 ～ 1.3m と、大きいものもあるが、概して中型が多い。アタリは、底面の片側に偏るものが多いが、底面のほぼ中央に位置するものもある（P6548）。痕跡から推定される柱の太さは、25 ～ 55cm と異なり、配置による顕著な傾向は認められなかった。

重　　複　複数の掘立柱建物と重複するが、柱穴同士が重複するもののうち新旧関係が明確なものは SB7708 の P4056 のみである。本掘立柱建物の P4007 が P4056 を切ることから SB7711 ＞ SB7708 となる。

出土遺物（図版 184・185-540 ～ 567、216-102、228-273）　P6634 を除く柱穴で土器が出土している。P3505（540）、P6548（541 ～ 544）、P4016（545）、P4018（546･547）、P4007（548 ～ 554）、P6744（555･556）、P6534（557 ～ 560）、P4408（561 ～ 563）、P4265（564）、P997（565）、P4015（566・567）がある。石器・石製品は P3505 から不定形石器（102）、P6548 から板状石器（275）が出土している。

構築時期　出土土器は柱痕跡、埋土、覆土に区分できるが、柱穴規模が大きくないものが多いことから、覆土として取り上げたものが多い。埋土出土のうち時期が判別できるものでは、長割２期（556）が下限となることから、長割２期以降の所産と考える。

SB7712（図版 123・349 ～ 351）

位置・主軸　調査区南側の東端に当たるグリッド 5・6G に位置する。主軸は N60° W である。主軸の方向がほぼ一致する SB7713 と重複する。

分類・規模　調査区外に伸びるため全形は不明であるが、張り出し部を持つ A 類である。柱穴４基中、３基でアタリの痕跡を検出した。梁間は西側が 5.2m である。全長･床面積は不明であるが、各柱穴規模や、梁間の間隔から大型ないしは特大型の可能性がある。

柱　　穴　いずれも下面で検出した。柱穴は長径 1.4 ～ 1.8m、深さ 1.2m 程度と大きい。アタリは、底面の片側にわずかに偏るが、底面のほぼ中央に位置するものもある（P4009）。痕跡から推定される柱の太さは、50 ～ 60cm と大きい。

重　　複　SB7713 と重複するが、柱穴同士が重複しないことから、前後関係は不明である。

出土遺物（図版 185-568 ～ 575、216-110、223-200）　土器は P4304（568）、P6993（569･570）、P4009（571･572）と P4014（573 ～ 575）から、石器・石製品は P4014 から不定形石器（110）と砥石（200）が出土している。

構築時期　出土土器は柱痕跡、埋土、覆土に区分できるが、埋土出土のうち時期が判別できるものでは、長割２期（574）が下限となることから、長割２期以降の所産と考える。

SB7713（図版 124・351）

位置・主軸　調査区南側の東端に当たるグリッド 5・6G に位置する。主軸は N60° W である。主軸の方向がほぼ一致する SB7712 と重複する。

分類・規模　調査区外に伸びるため全形は不明であるが、張り出し部を持つ A 類である。柱穴 3 基中、2 基でアタリの痕跡を検出した。梁間は西側が 5.1m である。全長・床面積は不明であるが、各柱穴規模や梁間の間隔から大型ないしは特大型の可能性がある。

柱　　穴　いずれも下面で検出した。柱穴は長径 0.9 ～ 1.1m、深さ 1m 程と中型である。アタリは、底面の片側にわずかに偏るもの（P4294）と、底面のほぼ中央に位置するもの（P4293）に分かれる。痕跡から推定される柱の太さは 40cm で、柱穴規模・柱の太さともに重複する SB7712 よりも小さい。

重　　複　SB7713 と重複するが、柱穴同士が重複しないことから、前後関係は不明である。

出土遺物（図版 185-576 ～ 578）　P4294 でのみ土器が出土している（576 ～ 578）。

構築時期　P4294 出土土器はいずれも埋土出土である。時期が判別できるもののうち、長割 3 期（578）が下限となることから、長割 3 期以降の所産と考える。

SB7714（図版 124・125・351・352）

位置・主軸　調査区中央から南側の西端に当たるグリッド 7D に位置する。主軸は N10° E である。

分類・規模　1 × 1 間で張り出し部を持たず、平面形がおおむね正方形の B2 類である。柱穴 4 基中、2 基でアタリの痕跡を検出した。桁行は東側が 4.35m、西側が 4.3m とおおむね同じで、梁間も北側 3.8m、南側 3.7m と差異はない。全長 4.35m、床面積は 16.2m^2 と小型である。

柱　　穴　P962 が上面、そのほかは下面で検出した。柱穴は直径 1 ～ 1.3m、深さ 0.4 ～ 0.9m と中型である。アタリは、底面の片側に偏る。30cm 前後である。

重　　複　ほかの掘立柱建物とは重複していない。

出土遺物（図版 185-579 ～ 586）　P3507 を除く柱穴から土器が出土している。P3506（579 ～ 581）、P962（582・583）、P961（584 ～ 586）がある。

構築時期　いずれも覆土からの出土である。時期が判別できるもののうち、長割 3 期（580）が下限となるが、覆土からの出土であることから細別時期は不明である。

SB7715（図版 125・352・353）

位置・主軸　調査区北側の西端に当たる 13・14D に位置する。主軸は N51° E である。主軸方向がほぼ同じ SB7716 と隣接する。

分類・規模　1 × 1 間で、計測値に大きな差異のない張り出し部を持つ A1 類である。柱穴 6 基中、アタリの痕跡を確認できたものはない。桁行は東側が 4.55m、西側が 4.35m、梁間は北側 3.25m、南側 2.9m と、それぞれわずかに差異がある。全長 5.7m、床面積は 13.7m^2 と小型である。

柱　　穴　いずれも下面で検出した。柱穴は長径 0.6m 程、深さ 0.2 ～ 0.4m と小さい。

重　　複　ほかの掘立柱建物とは重複しない。

出土遺物（図版 185-587）　P5084 のみ土器が出土している。

構築時期　587 は覆土からの出土である。長割 2 期であるが、覆土からの出土であることから細別時期は不明である。

SB7716（図版 126・353・354）

位置・主軸　調査区北側の西端に当たる 14C・D に位置する。主軸は N55° E である。主軸方向がほ

ぼ同じ SB7716 と隣接する。

分類・規模　1 × 3 間で、計測値に大きな差異のない張り出し部を持つ A2 類である。柱穴 10 基中、アタリの痕跡を確認できたものはない。桁行は東西ともに 6.6m である。梁間は北側 3.05m、南側 3.4m と差異がある。全長 7.6m、床面積は 21.3m^2 と小型である。

柱　　穴　いずれも下面で検出した。長径 0.6 ～ 0.8m 程、深さ 0.2 ～ 0.7m と小さい。

重　　複　ほかの掘立柱建物とは重複しない。

出土遺物　土器は出土していない。

構築時期　出土遺物がないため、細別時期は不明である。

4）杭　　列（SA）（図版 127・128・355・356）

直径・深さ共に 1m 前後と掘立柱建物の柱穴としては中型サイズのもののうち、掘立柱建物として組み合わせが明確でなく、ほぼ等間隔で直線的に並ぶものを杭列とし、2 列を認定した。いずれも調査区南側の 6D ～ F ライン付近に隣接する。柱穴は掘立柱建物のものと考えて調査しており、調査方法等は 3）d と同じである。整理作業段階で、掘立柱建物の柱穴組み合わせを確定したのちに認定した。時期比定を含め、記述は掘立柱建物に準じた。

杭列 1（図版 127・355・356）

位置・主軸　調査区南側の 5D ～ F に位置する。主軸は N75° W である。約 5m 北側に位置する SB7709 や、それ以北に位置する SB7708 ～ 7710 と主軸方向がほぼ一致する。

規　　模　6 基で構成されており、全長 15.0m である。柱穴 6 基中、アタリの痕跡を確認できたのは 1 基のみである。各柱の間隔は、2.3 ～ 3.7m と一定しないが、5 つの柱間のうち 3 つが 3.0 ± 0.4m に集中する。

柱　　穴　P1619 を除き、下面で検出した。長径 0.6 ～ 0.9m、深さ 0.7 ～ 1.0m に集中するが、最西側の P1619 のみ 1.3m と深い。P3260 で 1 基のみで検出したアタリは、底面の片側に偏り、痕跡から推定される柱の太さは 40cm 程である。

重　　複　最短距離が西側で 1m 程の杭列 2 とは重複しない。掘立柱建物とは、西側で SB7707 の P1617 と近接するが、重複しない。東側で SB7705 と重複するが、柱穴同士が重複しないため、前後関係は不明である。

出土遺物（図版 185-588）　P7205（588）の埋土から土器が出土しているのみである。

構築時期　出土遺物が少ないが、P7205 の埋土から出土した 588 から、長割 1 ～ 2 期以降の所産と考える。

杭列 2（図版 128・355・356）

位置・主軸　調査区南側の 5・6D ～ F に位置する。主軸は N90° である。周辺に主軸方向がほぼ一致する掘立柱建物はなく、南側 35m 程の SB3491 ～ 3493 に近い。

規　　模　4 基で構成されており、全長 16.6m である。柱穴 4 基中、2 基でアタリの痕跡を確認した。各柱の間隔は、5.5 ～ 5.7m と一致する。

柱　　穴　P1615 を除き、下面で検出した。長径 1.0 ～ 1.3m、深さ 1m でまとまるが、P6734 のみ深さ 0.5m と浅い。アタリはいずれも底面の片側に偏り、痕跡から推定される柱の太さ 30cm 程（P7046）と 40cm 程（P1615）である。

重　　複　最短距離が西側で 1m 程の杭列 1 とは重複しない。掘立柱建物とは、北西側で SB7707 の P1617 と近接するが、重複しない。東側で SB7709 の P4002 と重複するが、前後関係は明らかにできなかった。

出土遺物（図版 185-589 ～ 593）　土器が P1615（589）、P7046（590 ～ 593）から出土している。

構築時期　土器は埋土（589 ～ 592）と覆土（593）から出土している。埋土出土は細片が多いが、時期が判別できるものでは、長割 2 期（589）が下限となることから、長割 2 期以降の所産と考える。

5）柱　　穴（図版 129・130・357 ～ 359）

他遺構との関連が認められない単独の柱穴のうち、①直径 0.8m、深さ 1m 以上と大型のもののうち、底面で当たりの痕跡を検出したものと、②小型であっても特異な遺物の出土状況を示したもののみ概略を記す。いずれも調査区の南側に位置する。

a　大型柱穴

P1865（図版 129・357）

調査区最南のグリッド 2D23 に位置する。上面で検出した。平面形は楕円形で、長さ 1.6m、幅 1.1m、深さ 1.5m である。アタリは底面の長径端の底面よりも若干浮いた地点で検出した。痕跡から予想される柱の太さは 50cm 程である。出土遺物には土器がある（図版 185-594・595）。埋土出土土器（594）から長割 2 期以降の所産と考える。

P302（図版 129・357）

調査区南西端のグリッドに位置する。約半分は調査区外に伸びる。下面で検出した。調査区内では長径約 2.1m、深さ 1.86m と特に大型である。アタリを 2 基確認した。1 つは径約 35cm で、柱底は埋土半ばにあり、柱穴底面までは達しない。もう一つは調査区外に伸びており、調査区区域内では径約 60cm と大きく、柱穴底面より若干浮いた位置にある。これら 2 基のアタリは、一つの柱穴に 2 本の柱が埋められたものか、2 棟の柱穴が重複したものか判断できなかった。出土遺物には土器がある（図版 185-596・597）。いずれも埋土出土で、長割 2 期以降の所産と考える。

P1859（図版 129・358）

調査区南側のグリッド 5D10 に位置する。下面で検出した。長さ 1.9m、幅 1.3m、深さ 1.5m と大型である。杭列 2 を構成する P1615 を切って構築されている。アタリは底面長軸片側の底面よりやや浮いた位置で検出した。痕跡から予想される柱の太さは長径で 80cm 程であるが、短径は 40cm 程である。瓢箪形を呈することから、2 つのアタリが重なっている可能性がある。出土遺物には土器がある（図版 185-598）。覆土出土であり、時期の絞り込みはできなかった。

P304（図版 129・130・358）

調査区南西側のグリッド 6C21 に位置し、後述する P399 に隣接する。上面で検出した。長径 1.7m、短径 1.5m、深さ 1.5m と大型である。アタリは長径端の底面に位置し、痕跡から予想される柱の太さは 40cm 程で、柱穴規模に比して小ぶりである。出土遺物には土器がある（図版 185-599･600）。埋土（599）と覆土（600）出土に分かれ、埋土出土土器から長割 2 期以降の所産と考える。

P399（図版 129・130・358）

調査区南西側のグリッド 6D11 に位置し、P399 に隣接する。下面で検出した。長径 1.0m、短径 0.9m、

深さ 1.34m と、径に比して深い。アタリは底面のほぼ中央に位置し、痕跡から予想される柱の太さは 40cm 程である。出土遺物には埋土出土の土器がある（図版 186-601）。土器の年代から、長割 2 期以降の所産と考える。

P4327（図版 129・130・358）

調査区南側のグリッド 6F5・10 に位置する。下面で検出した。長径 1.0m、深さ 1.0m である。SB7708 を構成する P4056 を切って構築されている。アタリは底面のほぼ中央に位置し、痕跡から予想される柱の太さは 30cm 程である。出土遺物には柱痕出土の土器がある（図版 186-602）。柱痕出土土器であり、時期の絞り込みはできなかった。

b　小型柱穴

P571（図版 130・359）

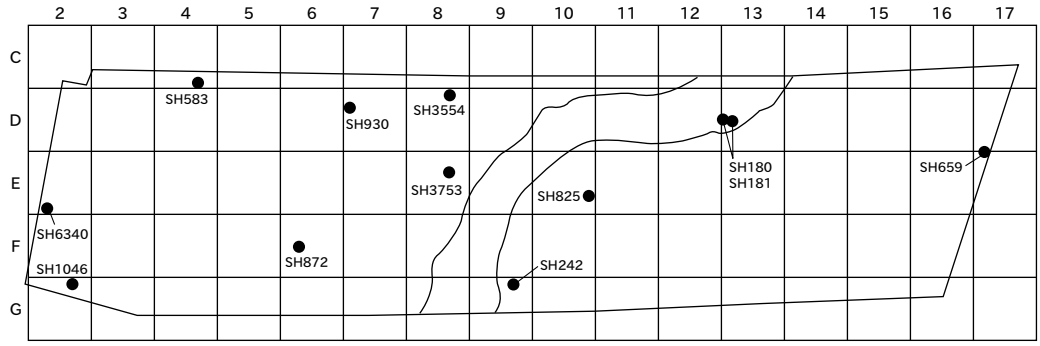
調査区南側端中央のグリッド 3D24 に位置する。上面で検出した。直径 24cm、深さ 64cm である。覆土上層の遺構確認面付近で 24 点の剝片が出土している（図版 219-128 ～ 153）。確認面上端付近で、柱穴の輪郭からわずかに外れるものの、柱材が腐蝕したあとに落ち込んだと思われる礫際に位置することから P571 として扱った。地床炉 550 に隣接しており、SI3388 に伴う遺物の可能性もある。

P1850（図版 130・359）

調査区南側端中央のグリッド 2E3 に位置する。上面で検出した。長径 40cm、短径 35cm、深さ 62cm である。覆土から石棒がやや傾くものの、直立した状態で検出した（図版 229-282）。石棒は欠損している頭部が上位に、基底部が下位にあり、人為的に埋納されたものと考える。石棒基部は柱穴底面には達しておらず、覆土 2 層上面に位置する。石棒以外に覆土から長割 2 期頃の土器（図版 186-604・605）が出土したが、時期の絞り込みはできなかった。

6）埋設土器（SH）（図版 131・361 ～ 363）

竪穴建物内に埋設されたもの（SI446 の SH1064）や炉内埋設土器を除き、埋設される土器の形状よりもやや大きい掘り形を持ち、屋外に埋設されたものないしは、その可能性が高いものを埋設土器とした。埋葬施設の可能性が高いと考える。12 基検出したが、ほぼ調査区全域に及んでおり、約 20cm の間隔で分布する SH180 と SH181 を除く 10 基で群在する状況は確認できなかった（第 22 図）。埋設土器は口縁部～胴部上半を欠損するものが多いため器種の認定が難しいものを含むが、深鉢が圧倒的に多く、壺は 1 点のみである。以下で個別に記述するが、埋設態位・欠損状態・付随物・埋設方法の区分は、原則とし



第 22 図　埋設土器の分布

第 23 図　埋設土器の分類模式図
（古澤 2002 から一部改変して転載）

て古澤 2002（第 23 図）に準じた。

SH6340（図版 131・361）

位置・確認面　調査区最南端のグリッド 2E22 に位置する。下面で検出した。SI6375 の輪郭内にあるが、明確な根拠を欠くため建物の帰属としていない。

掘 り 形　長径 26cm、短径 23cm、深さ 22cm である。

埋設態位・欠損状態　A4 類である。土器は覆土上層に集中しており、掘り形の下面には達していない。復元した土器は胴部下半から底面となり、胴部上半を欠く。

付随物・埋設方法　ａｉ類である。

埋設土器と出土遺物　埋設土器（図版 189-673）以外に出土遺物はない。

時　　期　長割 1 ～ 2 期の所産である。

SH1046（図版 131・361）

位置・確認面　調査区最南東端のグリッド 2G4 に位置する。下面で検出した。SI7605 の輪郭内にあるが、明確な根拠を欠くため建物の帰属としていない。

掘 り 形　長径 20cm、短径 20cm、深さ 9cm である。

埋設態位・欠損状態　A2 類である。土器は、掘り形の底面にまで及ぶ。復元した土器は胴部下半から底面を欠く。

付随物・埋設方法　ａｉ類である。

埋設土器と出土遺物　埋設土器（図版 189-674）以外に出土遺物はない。

時　　期　長割 2 期の所産である。

SH583（図版 131・361）

位置・確認面　調査区南西側のグリッド 4C24 に位置する。上面で検出した。SI3390・3396 の輪郭内にあるが、明確な根拠を欠くため建物の帰属としていない。

掘 り 形　長径 29cm、短径 29cm、深さ 18cm である。

埋設態位･欠損状態　A1 類である。土器は、掘り形の底面にまで及ぶ。胴部下半から底面が残存しており、胴部上半を欠く。

付随物・埋設方法　本遺跡で唯一のｂｉ類である。

埋設土器と出土遺物　埋設土器（図版 189-675・676）以外に出土遺物はない。675 の内部に 676 が入れ子状に出土している。

時　　期　長割 1 期の所産である。

SH872（図版 131・361）

位置・確認面　調査区中央からやや南側のグリッド 6F12 に位置する。上面で検出した。SI7807 の輪郭内にあるが、明確な根拠を欠くため建物の帰属としていない。

掘 り 形　長径 42cm、短径 33cm、深さ 6cm である。

埋設態位・欠損状態　A2 類である。土器は、掘り形の底面にまで及ぶ。胴部のみ残存しており、底部及び胴部上半を欠く。

付随物・埋設方法　ａｉ類である。

埋設土器と出土遺物　埋設土器（図版 189-677）以外に出土遺物はない。

時　　期　長割 2 期の所産である。

SH930（図版 131・362）

位置・確認面　調査区中央からやや南側のグリッド 7D6 に位置する。上面で検出した。SI7626 の輪郭内にあるが、明確な根拠を欠くため建物の帰属としていない。

掘 り 形　長径 38cm、短径 30cm、深さ 30cm である。

埋設態位・欠損状態　A1 類である。土器は、掘り形の底面にまで及ぶ。口縁部～胴部上位を欠く。胴部下半では、最下位を欠き、底面と接合しない。このため 1 類ではなく、4 類の可能性を残す。

付随物・埋設方法　ａｉ類である。

埋設土器と出土遺物　埋設土器（図版 189-678）以外に出土遺物はない。

時　　期　縄文のみ施文された粗製土器のため細別時期は明確でない。長割 1 ～ 3 期の所産と考える。

SH3554（図版 131・362）

位置・確認面　調査区中央の西側であるグリッド 8D4 に位置する。下面で検出した。建物の輪郭外に位置する。

掘 り 形　長径 36cm、短径 30cm、深さ 23cm である。

埋設態位・欠損状態　A2 類である。土器は、掘り形の底面にまで及ぶ。口縁部～胴部上位を欠く。胴部下半のほかに、口縁部を欠く。

付随物・埋設方法　ａｉ類である。

埋設土器と出土遺物　埋設土器（図版 189-679）以外に出土遺物はない。

時　　期　長割 2 期の所産である。

SH3753（図版 131・362）

位置・確認面　調査区中央の西側であるグリッド 8D4 に位置する。下面で検出した。SI3911・7637・7638 の輪郭内に位置するが、明確な根拠がないことから建物の帰属としていない。

掘 り 形　長径 45cm、短径 39cm、深さ 23cm と、ほかの埋設土器の掘り形に比して大きい。

埋設態位･欠損状態　A2 類である。土器は、掘り形の底面にまで及ぶ。胴部下半のほか、口縁部を欠く。

付随物・埋設方法　ｃｉ類である。

埋設土器と出土遺物　埋設土器（図版 189-680）以外に出土遺物はない。

時　　期　長割 1 ～ 2 期の所産である。

SH242（図版 131・363）

位置・確認面　調査区中央の東側に当たるグリッド 9G4 に位置する。上面で検出した。SI8439 などの輪郭内にあるが、明確な根拠がないことから建物の帰属としていない。

掘 り 形　長径 24cm、短径 22cm、深さ 15cm である。

埋設態位・欠損状態　B3 類である。本遺跡で唯一の逆位であり、口縁部のほか、胴下半部を欠く。土器は掘り形の底面付近に達する。

付随物・埋設方法　a ⅰ類である。掘り形内に径 10cm 程の礫が混入していたが、土器内からの出土でないため、a 類とした。

埋設土器と出土遺物　埋設土器（図版 189-682）以外に遺物は出土しなかった。埋設土器は壺形土器であることに加え、逆位である点など、ほかの埋設土器と異なる点が多い。

時　　期　長割 2 期の所産である。

SH825（図版 131・363）

位置・確認面　調査区中央の東側に当たるグリッド 10E20 に位置する。上面で検出した。SI8099・2371 などの輪郭内にあるが、明確な根拠がないことから建物の帰属としていない。

掘 り 形　長径 22cm、短径 18cm、深さ 21cm である。

埋設態位・欠損状態　A2 類である。胴部最下部～底部の破片である。土器は掘り形の上面に位置する。

付随物・埋設方法　a ⅰ類である。

埋設土器と出土遺物　埋設土器（図版 189-681）以外に遺物は出土しなかった。

時　　期　残存部が少ないことから細別時期は判断できない。長割 1 ～ 3 期の所産である。

SH180（図版 131・363）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 13D11 に位置する。上面で検出した。建物の輪郭内ではない。SX131 や SD5186 の輪郭内にあるが、覆土から埋没後に設置されたと判断して帰属としていない。本遺跡では唯一、約 20cm の間隔で隣接して埋設土器（SH181）が築かれている。

掘 り 形　長径 47cm、短径 34cm、深さ 36cm である。ほかの埋設土器の掘り形に比して大きく、深い。

埋設態位・欠損状態　A2 類である。土器は掘り形の上面に位置する。口縁部まで残存する。

付随物・埋設方法　a ⅲ類である。土器内部から磨製石斧が出土している。

埋設土器と出土遺物　埋設土器（図版 189-683）のほか、磨製石斧（図版 221-173）が出土している。土器内面の覆土中位からの出土であり、混入ではなく、埋設土器に伴う遺物と考える。

時　　期　条線のみ施された土器のため、細別時期は明確にできないが、SD5186 埋没後に設置されていることから、長割 2 ～ 3 期頃の所産と考える。

SH181（図版 131・363）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 13D11 に位置する。上面で検出した。建物の輪郭内ではない。SX131 や SD5186 の輪郭内にあるが、覆土から埋没後に設置されたと判断して帰属としていない。本遺跡では唯一、約 20cm の間隔で隣接して埋設土器（SH180）が築かれている。

掘 り 形　長径 36cm、短径 27cm、深さ 18cm である。

埋設態位・欠損状態　A2 類である。土器は掘り形の上面に位置する。隣接する SH180 と同様に、口縁部まで残存する。

付随物・埋設方法　a ⅲ類である。

埋設土器と出土遺物　埋設土器（図版 189-684）以外に遺物は出土しなかった。

時　　期　縄文のみ施文された土器のため、細別時期は明確にできないが、SD5186 埋没後に設置されていることから、長割 2 ～ 3 期頃の所産と考える。

SH659（図版 131・363）

位置・確認面　調査区最北端のグリッド 17D22・17E2 に位置する。上面で検出した。建物の分布圏外であることから、その輪郭内ではない。

掘 り 形　長径 26cm、短径 24cm、深さ 15cm である。

埋設態位・欠損状態　A1 類である。土器は掘り形の上面に位置する。口縁部～胴部上半を欠く。

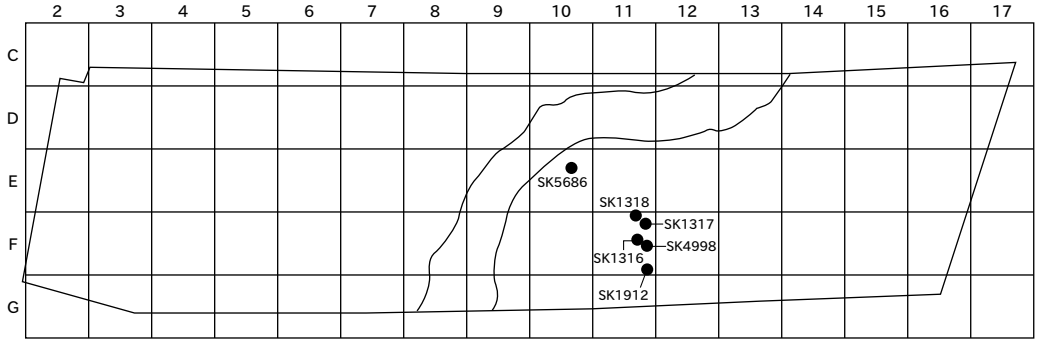
付随物・埋設方法　a ｉ類である。

埋設土器と出土遺物　埋設土器（図版 189-685）以外に遺物は出土しなかった。

時　　期　縄文のみ施文された土器のため、細別時期は明確にできないが、上面で検出したことから、長割 2 ～ 3 期の所産と考える。

7）袋 状 土 坑（SK）（図版 132・133・364 ～ 366）

覆土の堆積状況が中・大型の柱穴と異なることから土坑と認定したもののうち、断面形が上端から下端及び底面付近にかけて下膨れとなるもの及び、下膨れであった可能性が高いものを袋状土坑とした。食糧貯蔵の穴倉の可能性が高いと考える。6 基を検出したが、いずれも調査区北側のグリッド 10 ～ 11E・F に分布する（第 24 図）。このうち 5 基はグリッド 11F に位置しており、更に強い群在性が認められる。グリッド 11F で検出した 5 基のうち SK1318 と SK1317、SK1316 と SK4998 は 10 ～ 20cm 程度と極めて狭い間隔で隣接しており、何らかの関連が予想される。



第 24 図　袋状土坑の分布

遺構確認時に多くの遺物を検出した。レンズ状に堆積した上～下層から出土しているが、土坑底面に設置されたような遺物の出土状況は認められなかったことから、土坑廃絶に伴って廃棄された遺物と判断した。遺構確認時において、多数の遺物が認められた SK5686 は、覆土をすべて洗浄したところ、土器・石器以外に多数の動物遺存体を検出した。

SK5686（図版 132・364・365）

位置・確認面　調査区中央からやや北側のグリッド 10E に位置する。下面で検出した。SI8356・8477・8099 の輪郭に一部が接するが、明確な根拠がないことから建物の帰属としていない。

掘 り 形　長径 132cm、短径 128cm で平面形は円形を呈する。深さ 51cm で、断面形はわずかに下膨れである。

覆　　土　15 層に区分した。レンズ状に堆積している。黄褐色系土は壁際付近でわずかに堆積するのみで、黒色系土の堆積が顕著である。ただし、覆土中位に堆積した 4 層は明赤褐色を呈する焼土層である。このため土坑内での焼成行為があったか否かを検討した。焼土はしまりに欠けること、直下で硬化面が存在しないことから、焼成が行われたのではなく、焼土が廃棄された可能性が高いと判断した。

出土遺物　残存率の高い土器（図版 189・190-686 ～ 691）や、動物遺体が出土している。土器は覆土中層の 4 層から下層の 15 層にまで及ぶ。

時　　期　縄文･条線のみ施文されたものが多いが、時期が判別できるものでは、下限が長割２期（690）であることから、長割２期には廃絶したものと考える。

SK1318（図版 132・365）

位置・確認面　調査区中央からやや北東側のグリッド 11F4 に位置する。上面で検出した。約 10cm 北東には SK1317 が隣接する。SI1951 の輪郭内であり、SI8061 の輪郭と一部で接するが、明確な根拠がないことから建物の帰属としていない。

掘 り 形　長径 172cm、短径 157cm で、平面形は不整円形を呈し、西側と南側の２か所でテラスを有する。深さ 56cm で、断面形は垂直に近いが、土層の堆積状況、法量等が隣接する袋状土坑と酷似することから、袋状土坑とした。

覆　　土　７層に区分した。レンズ状に堆積している。上層は黄褐色系、下層は黒色系の土層の堆積が顕著である。北西側の上位の４層で粘土塊を検出した。

出土遺物　残存率の高い土器（図版 190-692・693）や、動物遺存体が出土している。土器は覆土中層の４層から下層の７層にまで及ぶ。

時　　期　土器はいずれも長割２期であることから、当期には廃絶したものと考える。

SK1317（図版 132・365・366）

位置・確認面　調査区中央からやや北東側のグリッド 11F9 に位置する。上面で検出した。約 10cm 南西には SK1318 が、50cm 東には SK1316 が隣接する。SI1951・8059・8061 の輪郭と一部で接するが、明確な根拠がないことから建物の帰属としていない。

掘 り 形　長径 155cm、短径 152cm で、平面形は円形を呈する。深さ 52cm で、断面形は垂直に近いが、南側はわずかに袋状を呈する。

覆　　土　10 層に区分した。レンズ状に堆積している。上層は黄褐色系、下層は黒色系の土層の堆積が顕著な点は SK1318 と同様であるが、底面に付近には黄褐色系の７層の堆積が認められる点で異なる。

出土遺物　比較的大きな破片の土器（図版 190-694・695）や、動物遺存体が出土している。

時　　期　出土土器は覆土上層の３・５層（694）、更に上層の１層（695）に分かれ、時期差を伴う。694 の年代から長割２期には廃絶したものと考える。

SK1316（図版 133・366）

位置・確認面　調査区中央からやや北東側のグリッド 11F14 に位置する。上面で検出した。約 20cm 北には SK4998 が、50cm 北には SK1317 が隣接する。SI8059 の輪郭内で、SI8061 の輪郭と一部で接するが、明確な根拠がないことから建物の帰属としていない。

掘 り 形　長径 160cm、短径 113cm で、平面形は楕円形を呈する。深さ 69cm で、断面形は袋状を呈する。本遺跡の袋状土坑の中で、深く、断面形が下膨れを呈する。

覆　　土　７層に区分した。下位の４層下位が平坦であるが、その上位はレンズ状の堆積を示す。黒色系と黄褐色系土の交互層である点は隣接する SK4998 と類似し、ほかの袋状土坑の土層堆積状況とやや異なる。

出土遺物　残存率の高い個体を含む多数の土器（図版 190・191-696 ～ 712）や、土製品（ミニチュア土器　図版 211-1089）、動物遺存体が出土している。

時　　期　出土土器は覆土上～下層から出土しており、前期末～中期初頭のもの（708）や、長割３期のもの（696）を含むが、おおむね長割２期のものが主体であることから、長割２期には廃絶したものと

考える。

SK4998（図版 133・366）

位置・確認面　調査区中央からやや北東側のグリッド 11F14 に位置する。下面で検出した。約 20cm 南には SK1316 が隣接する。SI8059 の輪郭内にあるが、明確な根拠がないことから建物の帰属としていない。

掘 り 形　長径 124cm、短径 115cm で、平面形は円形を呈する。深さ 46cm で、断面形は垂直に近いが、南側はわずかに袋状を呈する。

覆　　土　5 層に区分した。最下層の 5 層上位が平坦であるが、その上位はレンズ状の堆積を示す。黒色系と黄褐色系土の交互層である点は隣接する SK1316 と類似する。また、覆土上層で焼土の堆積を確認した（2 層）。土坑内での焼成行為があったか否かを検討した。焼土はしまりに欠けること、直下で硬化面が存在しないことから、焼成が行われたのではなく、焼土が廃棄された可能性が高いと判断した。

出土遺物　残存率の高い土器（図版 191-718 ～ 721）や土器片円板（1071）、動物遺存体が出土している。

時　　期　出土土器は覆土上～下層の 1 ～ 4 層で出土しており、時期が判別できるものは長割 2 期（721）であることから、当期には廃絶したものと考える。

SK1912（図版 133・366）

位置・確認面　調査区中央からやや北東側のグリッド 11F25 に位置する。上面で検出した。約 2m 西には SK4998 が、2.5m 南西には SK1316 がある。SI8059 の輪郭内にあるが、明確な根拠がないことから建物の帰属としていない。

掘 り 形　長径 182cm、短径 142cm で、平面形は楕円形を呈する。深さ 56cm で、断面形は垂直に近いが、北側はわずかに袋状を呈する。

覆　　土　12 層に区分した。おおむねレンズ状の堆積を示す。黒色土系の堆積が多く、黄褐色土系は比較的壁際でわずかに認められるに過ぎない。

出土遺物　比較的残存率の高い土器（図版 191-713 ～ 717）や、動物遺存体が出土している。

時　　期　出土土器は覆土上～下層に及ぶ。時期が判別できるものは長割 2 期（714 ～ 717）であることから、当期には廃絶したものと考える。

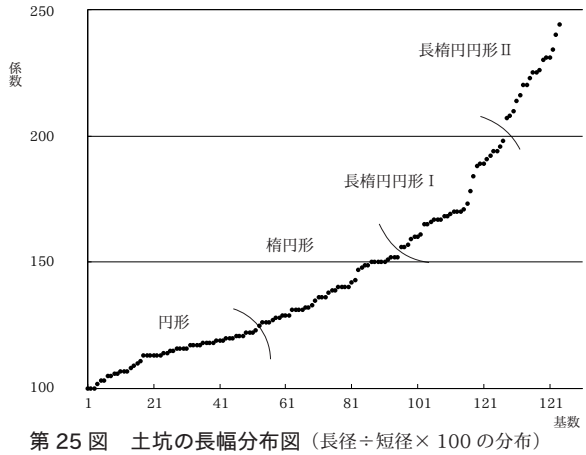
8）土　　坑（図版 134 ～ 150・367 ～ 392）

人為的に掘り込まれた遺構のうち、これまで記述した柱穴・埋設土器・袋状土坑を除き、平面形が比較的整ったものを土坑とした。170 基を認定した。一括して特徴を記し、遺物が多く出土したものや、特定の分類に属するもののみ個別の記述を行う。

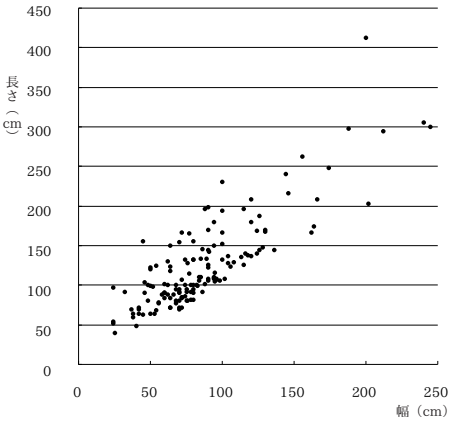
a　平面形の分類と大きさ

平 面 形　ほぼ全形が分かる 148 基を対象として、長径（辺）÷短径（辺）× 100 で係数を求めた（第 25 図）。分布のまとまりから以下のように区分した。

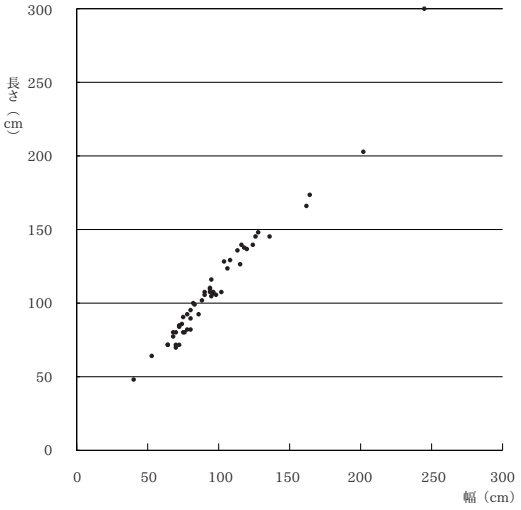
円（方）形系列　　係数が 100 ～ 123 のもの。
楕円（長方）形系列　係数が 125 ～ 152 程度のもの
長楕円系列Ⅰ　　係数が 156 ～ 200 程度のもの
長楕円系列Ⅱ　　係数が 200 以上のもの



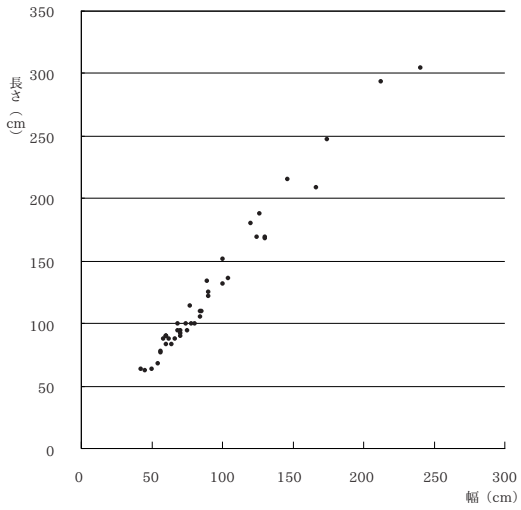
第 25 図　土坑の長幅分布図（長径÷短径× 100 の分布）



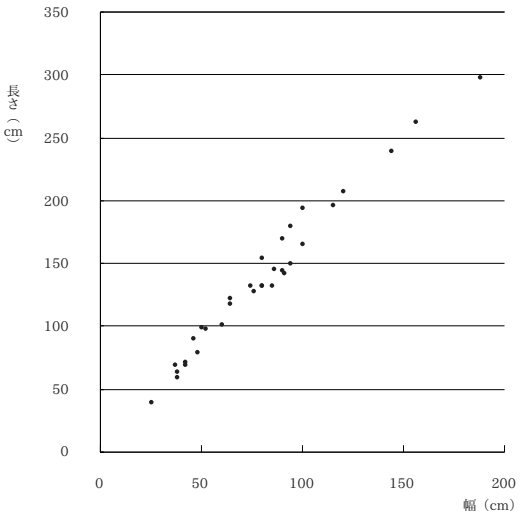
第 26 図　土坑全体の長幅分布図



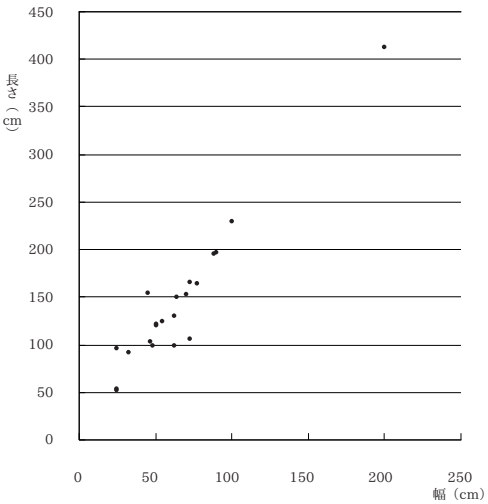
（円形系列）



（楕円形系列）



（長楕円系列Ⅰ）



（長楕円系列II）

第 27 図　土坑系列ごとの長幅分布図

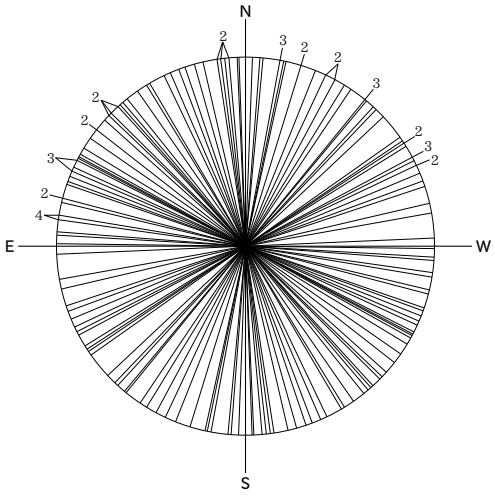
その後、本章の冒頭で述べたように、平面形から不整形、隅丸長方形等と形状を加味して分類した。

計測を行った 148 基の内訳は、円（方）形系列が 53 基（35.8%）、楕円（長方）形系列が 42 基（28.4%）、長楕円系列Ⅰが 32 基（21.6%）、長楕円系列Ⅱが 21 基（14.2%）である。

大 き さ　系列ごとに、長径（辺）・短径（辺）分布図を作成した（第 27 図）。それぞれ分布のまとまりが若干異なる。円（方）形系列は長径（辺）0.8 ～ 1.5m 程にまとまる。楕円（長方）形系列も 0.8 ～ 1.5m 程にまとまるが、長径（辺）1.6 ～ 2m 程度、短径（辺）1.2m 程度にも緩やかな分布のまとまりが認められる。長楕円系列Ⅰは分布範囲が広く、長径（辺）0.6 ～ 2m 程度、短径（辺）0.4 ～ 1.3m 程度と広い範囲で分布がまとまる。こうした傾向は、長幅比が更に大きい長楕円系列Ⅱでも認められ、長径（辺）1 ～ 2m 程度、短径(辺)0.5 ～ 1m の範囲で分布がまとまる。

主　　軸　楕円形・長楕円系列のもののみ図示した（第 28 図）。際だった分布の偏りは認め難いが、① N40 ～ 90° W、② N10° W ～ N15° E、③ N40 ～ 75° E で緩やかな分布のまとまりが認められる。

機　　能　平面形が楕円形・長楕円形系列のものの中には、墓の可能性があるものも含まれると考える。しかし、骨や副葬品、埋土、分布の偏り等が必ずしも明確でないことから、特定の機能を付していない。墓の可能性があるものについては、第Ⅶ章で記す。



第 28 図　土坑の主軸

b 各　　説

SK536（図版 134・367）

位置・確認面　調査区南西端のグリッド 2D に位置する。上面で検出した。約 1.5m 南にはほぼ同様の形態の SK535 がある。SB3492・3493 を構成する P3394・3395 の埋没後に構築されている。

分類・掘り形　長径 230cm、短径 107cm、平面形は長楕円形Ⅱ類で、主軸は N80° W である。深さ 76cm で、断面形は台形状である。覆土上層には径 10cm 未満の礫が多量に認められた。

覆　　土　7 層に区分した。灰色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　土器の小破片（図版 192-722 ～ 725）がある。

時　　期　出土土器は覆土上～下層に及ぶ。いずれも小破片であり、時期が判別できるものは長割 2 期（722）が下限となるが、細別時期を特定することはできなかった。

SK535（図版 134・368・369）

位置・確認面　調査区南西端のグリッド 2D に位置する。上面で検出した。約 1.5m 北にはほぼ同様の形態の SK536 がある。SB3492・3493 を構成する P3020・3021 の埋没後に構築されている。

分類・掘り形　長径 208cm、短径 120cm、平面形は長楕円形Ⅰ類で、主軸は N57° E である。深さ 25cm で、断面形は皿状である。土坑底面及び覆土下層には径 10cm 未満の礫が多量に認められた。SK536 の礫が覆土上層に集中するのに対し、本遺構は土坑底面に多い点で異なる。

覆　　土　3 層に区分した。黄褐色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　土器の小破片（図版 192-726・727）や、石鏃（図版 212-4）がある。

時　　期　出土土器は覆土上～下層に及ぶ。土器はいずれも小破片であり、時期が判別できるものは長割 2 期（726）が下限となるが、細別時期を特定することはできなかった。

SK1861（図版 135・369）

位置・確認面　調査区南西端のグリッド 2D に位置する。上面で検出した。

分類・掘り形　長径 109cm、短径 94cm で、平面形は円形である。深さ 36cm で、断面形は半円形状であるが、南東側がやや急角度で掘り込まれている。

覆　　土　3 層に区分した。灰黄色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　土器やミニチュア土器（図版 192-728 ～ 730、211-1103）がある。

時　　期　出土土器は覆土上～下層に及ぶ。大きめの土器片であり、時期が判別できるものは長割 1 期が下限となり、おおむね当期に廃絶されたと考える。

SK3216（図版 135・369・370）

位置・確認面　調査区南西端のグリッド 3D に位置する。下面で検出した。

分類･掘り形　長径 248cm、短径 181cm、平面形は楕円形で、主軸は N28° E である。深さ 68cm で、断面形は台形状である。

覆　　土　10 層に区分した。灰黄色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　土器は注口土器の完形品と小破片（図版 192-731・732）がある。注口土器の完形品は、押しつぶされた状態で出土した。

時　　期　出土土器は覆土下層の 7・9 層で、731 は完形品であることから、長割 1 期には廃絶されたと考える。

SK1023（図版 135・370）

位置・確認面　調査区南西端のグリッド 2E に位置する。上面で検出した。東側には同様の平面形を呈する SK1026 と重複しており、これに切られる。

分類・掘り形　残存長で長径 124cm、短径 70cm、平面形は長楕円形で、主軸は N82° W である。深さ 22cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　2 層に区分した。黄褐色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　土器の小破片（図版 192-733）と、不定形石器（図版 216-107）がある。

時　　期　出土土器は長割 2 期であるが、小破片であり、細別時期を特定することはできなかった。

SK1026（図版 135・370）

位置・確認面　調査区南西端のグリッド 2E に位置する。上面で検出した。西側には同様の平面形を呈する SK1023 と重複しており、これを切る。

分類・掘り形　長径 119cm、短径 61cm、平面形は長楕円形 I 類で、主軸は N82° W である。深さ 24cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　3 層に区分した。黄褐色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　遺物は出土していない。

時　　期　重複関係から SK1023 構築後の所産であるが、土器が出土していないことから細別時期を特定できなかった。

SK1127（図版 136・372）

位置・確認面　調査区南西端のグリッド 4C・D に位置する。上面で検出した。

分類・掘り形　長径 87cm、短径 65cm、平面形は不整長楕円形Ⅰ類で、主軸は N7°W である。深さ 130cm で、断面形は階段状に近い。

覆　　土　4 層に区分した。最下層の 4 層以外は、おおむねレンズ状の堆積を示す。黄褐色土系の堆積である。

出土遺物　上層から略完形の土器（図版 192-734）がある。

時　　期　出土土器は覆土上層から出土しており、長割 1 期であるため、おおむね当期には廃絶したものと考える。

SK3148（図版 136・372）

位置・確認面　調査区南西端のグリッド 4D に位置する。下面で検出した。

分類・掘り形　長径 104cm、短径 71cm、平面形は長楕円形Ⅱ類で、主軸は N62°W である。深さ 24cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　3 層に区分した。黄褐色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　土器の破片（図版 192-736）がある。

時　　期　出土土器は覆土上～下層に及ぶ。長割 2 期であることから、おおむね当期には廃絶したと考える。

SK473（図版 137・373）

位置・確認面　調査区南西端のグリッド 4G に位置する。上面で検出した。

分類・掘り形　長径 240cm、短径 144cm、平面形は長楕円形Ⅰ類で、主軸は N39°W である。深さ 49cm で、断面形は弧状である。

覆　　土　9 層に区分した。黄褐色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　土器が若干出土したが、小破片のため図示できなかった。

時　　期　土器から細別時期は判断できなかった。

SK6725（図版 137・373）

位置・確認面　調査区南側東端のグリッド 6G に位置する。下面で検出した。SB7712 を構成する P4009、SI7809 の地床炉 884 に切られる。

分類・掘り形　残存部では最大径約 150cm、深さ 44cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　単層で、褐色系土の堆積である。

出土遺物　土器の小破片（図版 192-738・739）がある。

時　　期　時期が判別できるものは長割 2 期（738）が下限となるが、細片のため細別時期を特定することはできなかった。

SK6663（図版 137・373）

位置・確認面　調査区南側東端のグリッド 6G に位置する。下面で検出した。SB7712 を構成する P4009 に切られる。

分類・掘り形　残存部で最大径約 90cm、深さ 30cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　2 層に区分した。褐色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　土器の破片（図版 192-740）がある。

時　　期　出土土器は覆土上～下層に及ぶ。長割 1 期のものであることから、当期には廃絶されたものと考える。

SK3502（図版 137・373）

位置・確認面　調査区やや南側のグリッド 7D に位置する。下面で検出した。

分類・掘り形　長径 126cm、短径 115cm、平面形は円形である。深さ 30cm で、断面形は弧状である。

覆　　土　3 層に区分した。褐色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　土器の破片（図版 193-741 ～ 744）がある。

時　　期　出土土器は覆土上～下層に及ぶ。時期が判別できるものは長割 2 期（741 ～ 743）が下限であり、当期には廃絶したものと考える。

SK3591（図版 137・373）

位置・確認面　調査区中央からやや南側のグリッド 7D に位置する。下面で検出した。

分類・掘り形　長径 146cm、短径 86cm、平面形は長楕円形Ⅰ類で、主軸は N12° E である。深さ 51cm で、断面形は台形状である。

覆　　土　4 層に区分した。黒色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　土器（図版 193-745）がある。

時　　期　出土土器は覆土上～下層に及ぶ。同一個体の半欠品で、長割 2 期であることから、当期には廃絶したと考える。

SK3597（図版 138・374）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 8D に位置する。下面で検出した。

分類・掘り形　長径 92cm、短径 90cm、平面形は円形である。深さ 30cm で、断面形は台形状である。

覆　　土　2 層に区分した。いずれも黒色土系の堆積である。

出土遺物　土坑底面からやや浮いた状態で、残存率の高い深鉢がほぼ直立して出土している（図版 193-748）。接合はしないが、約 10 m東側に位置する SK3754 から口縁部片が出土している。

時　　期　出土土器は縄文のみ施文されたもののため、細別時期は判別できない。

SK3758（図版 138・374・375）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 8E に位置する。下面で検出した。

分類・掘り形　長径 128cm、短径 104cm で、平面形は円形である。深さ 40cm で、断面形は台形状である。

覆　　土　4 層に区分した。黒色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　土器のやや大きな破片（図版 193-751）と、石核（図版 218-127）がある。

時　　期　出土土器は覆土下層から出土しているが、縄文のみ施文された土器のため細別時期は判別できない。

SK3754（図版 138・375）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 8E に位置する。下面で検出した。

分類・掘り形　長径 78cm、短径 61cm、平面形は楕円形で、主軸は N65° E である。深さ 20cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　単層で、黒色土系の堆積である。

出土遺物　覆土上部から土器の大きな破片（図版 193-749）とミニチュア土器（図版 211-1102）がある。このほかに SK3597 出土の 748（図版 193）の口縁部片が出土している。

時　　期　出土土器は縄文のみ施文されたもの、ミニチュア土器は無文のため、細別時期は判別できな

い。

SK3855（図版 138・376）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 8E に位置する。下面で検出した。

分類･掘り形　長径 145cm、短径 140cm、平面形は円形である。深さ 15cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　単層で、黒色土系の堆積である。

出土遺物　覆土上部から磨製石斧の完形品（図版 220-161）が出土している。

時　　期　土器が出土していないため、細別時期は判別できない。

SK3695（図版 139・376）

位置・確認面　調査区中央からやや北側のグリッド 9・10D に位置する。下面で検出した。

分類・掘り形　長径 166cm、短径 162cm で、平面形は円形である。深さ 60cm で、断面形は台形状である。

覆　　土　6 層に区分した。黒色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　土器はやや大きめの破片や半欠品(図版 193-752 ～ 755)など比較的残存率が高いものが多い。石器では、石皿（図版 222-188）・磨石類（図版 226-242）、礫器（図版 228-277）がある。

時　　期　出土土器は覆土上～中層に及ぶ。時期が判別できるものは長割 2 期（752・753）が下限となることから、おおむね当期には廃絶したものと考える。

SK3922（図版 139・377）

位置・確認面　調査区中央からやや北側のグリッド 10D に位置する。下面で検出した。

分類･掘り形　長径 140cm、短径 116cm で、平面形は円形である。深さ 25cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　単層で、黒色土系の堆積である。

出土遺物　土器の小破片（図版 194-756 ～ 759）や、打製石斧の未成品（図版 238-269）がある。

時　　期　出土土器は覆土上～下層に及ぶ。土器は細片であり、時期が判別できるものは長割 1 ～ 2 期（756・757）が下限となるため、おおむね当期には廃絶された可能性が高いと考える。

SK3946（図版 139・377）

位置・確認面　調査区中央からやや北側のグリッド 10D に位置する。下面で検出した。

分類･掘り形　長径 300cm、短径 245cm で、平面形は円形である。深さ 33cm で、断面形は皿状である。土坑底面には径約 25 ～ 35cm のピット 2 基があるが、覆土の堆積状況から、SK3946 に伴う可能性が高い。

覆　　土　3 層に区分した。おおむねレンズ状の堆積を示す。最下層は黄褐色系、上層は黒色系の土層の堆積である。

出土遺物　比較的残存率の高い土器（図版 194-760 ～ 763）や、多数の炭化材が出土した。土器のうち胴部下位から底部が残る 763 は、土坑底面でほぼ直立した状態で出土している。炭化材のうち種別が同定できるものはコナラ属コナラ節とカツラである（第Ⅵ章 4 参照）。

時　　期　出土土器は覆土上～底面に及ぶ。底面で出土したもののうち、時期が判別できるものは長割 2 期（763）が下限となるため、当期には廃絶したものと考える。

SK348（図版 140・378）

位置・確認面　調査区中央からやや北側のグリッド 9D に位置する。上面で検出した。

分類・掘り形　長径 149cm、短径 83cm、平面形は長楕円形Ⅰ類で、主軸は N85° W である。深さ 38cm で、断面形は弧状である。

覆　　土　2層に区分した。おおむねレンズ状の堆積を示す。上層は黄褐色系、下層は褐色系の土層の堆積である。

出土遺物　土器（図版 194-765・766）とミニチュア土器（図版 211-1090）がある。

時　　期　出土土器・土製品は覆土上～下層に及ぶ。やや残存率の高い個体であり、時期が判別できるものは長割2期（766）が下限となることから、おおむね当期の所産と考える。

SK334（図版 140・378）

位置・確認面　調査区中央からやや北側のグリッド 10D に位置する。上面で検出した。

分類・掘り形　長径134cm、短径89cm、平面形は楕円形で、主軸の方向はN17° Eである。深さ23cmで、断面形は皿状である。

覆　　土　2層に区分した。黄褐色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　礫器（図版 229-281）がある。

時　　期　土器が出土していないため細別時期は不明である。

SK125（図版 141・380）

位置・確認面　調査区中央からやや北側の西端に当たるグリッド 11C に位置する。下面で検出した。約半分が調査区外に伸びる。

分類・掘り形　残存径 82cm、深さ 80cm で、断面形は台形状である。

覆　　土　7層に区分した。褐色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　残存率のやや高い土器片（図版 194-769）がある。

時　　期　出土土器は覆土上～下層に及ぶ。残存率は高いが縄文のみ施文されたもののため、細別時期を判別できなかった。

SK122（図版 142・380）

位置・確認面　調査区中央からやや北側のグリッド 11D に位置する。上面で検出した。

分類・掘り形　長辺145cm、短辺126cm、平面形は不整方形である。深さ24cmで、断面形は皿状である。

覆　　土　単層で、黄色土系の堆積である。

出土遺物　土器の細片（図版 194-770・771）がある。

時　　期　出土土器は覆土上～下位に及ぶ。細別時期を判別できるものは長割2期（771）であり、おおむね当期には廃絶したものと考える。

SK156（図版 142・381）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 12D に位置する。下面で検出した。

分類・掘り形　長辺174cm、短辺164cm、平面形は隅丸方形である。深さ83cmで、断面形は弧状である。

覆　　土　7層に区分した。最下層は黒色土系、それ以外はおおむね黄色土系の堆積である。

出土遺物　土器の細片（図版 194-772・773）がある。

時　　期　出土土器は覆土上～下位に及ぶ。長割2期であり、おおむね当期には廃絶したものと考える。

SK123（図版 143・382）

位置・確認面　調査区中央からやや北側のグリッド 11D に位置する。下面で検出した。

分類・掘り形　長径 305cm、短径 240cm、平面形は楕円形で、主軸はN68° Wである。深さ 30cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　2層に区分した。覆土上層は基本層序Ⅱb層に覆われる。黒色系の土層が、おおむねレンズ

状に堆積する。

出土遺物　略完形品を含む多量の土器が出土した（図版 195-776 ～ 786）。

時　　期　出土土器は覆土上～土坑底面に及ぶ。残存率が高い土器を含め時期が判別できるものは長割 2 期（776・777・783）が下限となるため、当期には廃絶されたものと考える。

SK697（図版 144・384）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 12F に位置する。上面で検出した。

分類・掘り形　長径 198cm、短径 90cm、平面形は長楕円形Ⅱ類で、主軸は N25° E である。深さ 18cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　3 層に区分した。黄褐色の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　不定形石器が出土した（図版 216-109）。

時　　期　土器が出土していないため、細別時期は不明である。

SK78（図版 145・384）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 13F に位置する。下面で検出した。SK79 と重複しており、これに切られる。

分類・掘り形　残存径 268cm、深さ 40cm で、断面形は弧状である。

覆　　土　3 層に区分した。褐色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　土器の小破片がある（図版 194-774）。

時　　期　覆土から出土土器は長割 2 期であるが、細片のため廃絶時期を判別できなかった。

SK79（図版 145・384）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 13F に位置する。下面で検出した。SK78 と重複しており、これを切る。

分類・掘り形　長径 211cm、短径 203cm で、平面形は不整円形である。深さ 42cm で、断面形は弧状である。

覆　　土　7 層に区分した。おおむねレンズ状の堆積を示す。上層と最下層が黄色系、それ以外は褐色系の土層の堆積である。

出土遺物　残存率の比較的高い土器が上層（3 層）から出土している（図版 194-775）。

時　　期　出土土器は縄文のみ施されたもののため、細別時期を判別できなかった。

SK5280（図版 146）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 13・14D に位置する。下面で検出した。

分類・掘り形　長径 91cm、短径 67cm で、平面形は不整円形である。深さ 18cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　2 層に区分した。やや特異な堆積状況で、1 層は黄色土系、2 層は褐色土系である。

出土遺物　残存率の高い土器（図版 195-787）がある。

時　　期　出土土器は覆土上～下層に及ぶ。長割 1 期に属するものであることから、当期には廃絶したものと考える。

SK115（図版 146・385）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 14D に位置する。上面で検出した。

分類・掘り形　長径 196cm、短径 115cm で、平面形は長楕円形Ⅰ類で、主軸は N43° E である。深さ 31cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　2層に区分した。黄褐色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　土器片（図版 195-788）と、不定形石器（図版 216-103）がある。

時　　期　出土土器は覆土上～下層に及ぶ。土器は長割 2 期に属するが、細片のため時期を判別できなかった。

SK4816（図版 146・386）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 14E に位置する。下面で検出した。

分類・掘り形　長径 152cm、短径 100cm で、平面形は楕円形で、主軸は N63° W である。深さ 25cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　単層である。黒色系の土層が堆積する。

出土遺物　土器片（図版 195-789）がある。

時　　期　出土土器は覆土上～下層に及ぶ。土器は縄文のみ施文されたもののため時期を判別できなかった。

SK160（図版 147・387）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 14D に位置する。上面で検出した。SK741 と重複しており、これを切る。

分類・掘り形　長径約 270cm、短径 161cm、平面形は長楕円形Ⅰ類で、主軸は N3° W である。深さ 22cm で、断面形は弧状である。

覆　　土　4層に区分した。黄色土系の土層が複雑に堆積している。

出土遺物　土器片（図版 195-790 ～ 792）がある。

時　　期　出土土器は覆土上～下層に及ぶ。土器は長割 2 期に属するが、細片のため時期を判別できなかった。

SK21（図版 148・388）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 14E に位置する。上面で検出した。

分類・掘り形　長径 108cm、短径 102cm で、平面形は円形である。深さ 20cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　2層に区分した。褐色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　略完形の土器（図版 195-793）がある。

時　　期　出土土器は覆土上位を中心に、下位に及ぶ。長割 2 期の所産であることから、当期には廃絶されたものと考える。

SK769（図版 149・390）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 15D に位置する。上面で検出した。

分類・掘り形　長径 129cm、短径 118cm で、平面形は円形である。深さ 22cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　2層に区分した。黄色土系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　土器片（図版 195-794）がある。

時　　期　覆土から出土した土器は長割 2 期の所産であるが、細片のため廃絶時期は不明である。

SK5009（図版 149・390）

位置・確認面　調査区最北のグリッド 17D に位置する。下面で検出した。

分類・掘り形　長辺残存部で 112cm、短辺 108cm で、平面形は隅丸方形である。深さ 28cm で、断面形は弧状である。

覆　　土　単層で、黒色土系の堆積である。

出土遺物　土器片（図版 195-795）がある。

時　　期　覆土から出土した土器は長割 3 期の所産であるが、細片のため廃絶時期は不明である。

SK4645（図版 150・391）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 15・16E に位置する。下面で検出した。

分類・掘り形　長径 219cm、短径 177cm、平面形は不整楕円形で、主軸は N40° W である。深さ 40cm で、断面形は弧状である。

覆　　土　3 層に区分した。黄色土系の堆積である。

出土遺物　土器片（図版 195-796）がある。

時　　期　覆土から出土した土器は長割 2 期の所産であるが、細片のため廃絶時期は不明である。

SK4629（図版 150・392）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 16E に位置する。下面で検出した。東側で SK4643・SK4630 と重複しており、これらに切られる。また、北側は後世の撹乱に切られる。

分類・掘り形　残存径約 3.4m、深さ 32cm で、断面形は弧状である。北西側の坑底には、土坑状の落ち込みがある。

覆　　土　5 層に区分した。黒色土系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　残存率の高い土器（図版 196-797 ～ 801）やミニチュア土器（図版 211-1083）、磨石類（図版 225-236）がある。

時　　期　出土土器は覆土上層～下層に及ぶ。残存率の高い土器のうち、時期が判別できるものは長割 2 期（797・798）であることから、当期には廃絶したものと考える。

9）自 然 流 路（SD5186）（図版 151 ～ 153・393 ～ 396）

調査区のほぼ中央のグリッド 8・9G から 13D まで認められる。総延長約 60m で、幅は約 7 ～ 12m、深さ 0.5m 程である。グリッド 10D 付近で大きく北側に傾き、再びグリッド 12・13D で屈曲して西に向かい調査区外に伸びる。後述するが、最下層からほとんど遺物が出土していないこと、蛇行していることから人為的に構築されたものではなく、自然流路と判断した。底面の標高から、東側から西側への流れを想定している。

覆土は最下層から最大 4 つに区分した（Ⅲ a1・Ⅲ a2・Ⅲ a3・Ⅲ b 層）。覆土上層のⅢ a1 層の堆積で、おおむね周辺との標高差がなくなっていることから、その上層に堆積した基本層序のⅡ b 層は覆土としていない。

遺物の出土状況　多量の遺物が出土した。前述のとおり土器は最下層のⅢ b 層では少なく、Ⅲ a1・Ⅲ a2 層が主体である（図版 196 ～ 201-802 ～ 885）。土製品（図版 209 ～ 211-1033・1040・1049・1059・1077・1078・1085）や、図示した石器・石製品（図版 216 ～ 232-95・96・169・181・219・224・225・233・240・253・257・262・290・304・318）を含めても、ほぼ同様の出土層位である。

SD5186 廃絶の過程　最下層出土遺物が少ないことから、SD5186 が比較的流れが緩やかな湿地状の状態で集落が形成されたと考える。出土土器は長割 1 期のものが少なくないことから（図版 197-813 ～ 820 など）、土層の堆積及び遺物の廃棄が続き、周辺との標高差がほぼなくなったのち、旧流路の上部にも遺構が構築されたものと考える。

10）不明遺構（SX）（図版 154 ～ 156・397 ～ 399）

平面形が不整形を呈し、大型で、深さがそれほどないものや、風倒木の可能性が高いものなど、これまで報告したものに該当しないものを一括して不明遺構とした。調査区南側ではやや少なく、調査区中央付近から北側に多く分布する。平面形は分割図（図版 2 ～ 14）での掲載のみとし、図版 154 ～ 157 に断面図を示した。以下では個別に記述する。

SX（風）6185（図版 154・397）

位置・確認面　調査区南側のグリッド 3E に位置する。下面で検出した。

規　　模　長径 5.3m、短径 3.65m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 29cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　単層で、褐色土系の堆積である。

出土遺物　残存率の高い土器（図版 202-886 ～ 893）や多面体敲石（図版 227-255）が平面プランの中央付近からまとまって出土している。

時　　期　出土土器は覆土上位～下位に及ぶ。残存率の高い土器のうち、時期が判別できるものは長割 2 期（890・891・893）であることから、当期には廃絶したものと考える。

SX1579（図版 154）

位置・確認面　調査区中央からやや南側のグリッド 7・8E に位置する。上面で検出した。

規　　模　長径 4.5m、短径 2.5m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 16cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　単層で、黄色土系の堆積である。

出土遺物　やや大型の土器破片（図版 202-894・895）がある。

時　　期　出土土器は覆土上位～下位に及ぶ。土器は長割 2 期（894）と、縄文時代中期末葉の大木 10 式（895）がある。後者は本遺跡で唯一検出した大木 10 式の土器である。このため廃絶時期は判断できなかった。

SX1554（図版 154）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 8E に位置する。上面で検出した。

規　　模　長径 6.8m、短径 3.0m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 26cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　単層で、黄色土系の堆積である。

出土遺物　土器の破片（図版 202-896）がある。

時　　期　出土土器は覆土上位～下位に及ぶ。土器は長割 2 期であるが、細片のため廃絶時期が明らかにできなかった。

SX1596（図版 154・397）

位置・確認面　調査区中央からやや南側のグリッド 7F に位置する。上面で検出した。

規　　模　長径 4.63m、短径 3.25m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 20cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　単層で、黄色土系の堆積である。

出土遺物　なし。

時　　期　土器が出土していないため、廃絶時期は不明である。

SX1597（図版 154・397）

位置・確認面　調査区中央からやや南側のグリッド 7F に位置する。上面で検出した。

規　　模　長径 3.66m、短径 2.4m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 15cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　単層で、黄色土系の堆積である。

出土遺物　なし。

時　　期　土器が出土していないため、廃絶時期は不明である。

SX1599（図版 154・397）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 8F に位置する。上面で検出した。

規　　模　長径 2.06m、短径 1.5m で、平面形は楕円形を呈する。深さ 12cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　単層で、黄色土系の堆積である。

出土遺物　なし。

時　　期　土器が出土していないため、廃絶時期は不明である。

SX1569（図版 154）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 8・9E に位置する。上面で検出した。SX2207 と重複しており、これに切られる。

規　　模　長径 5.4m、短径 1.12m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 10cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　単層で、黄色土系の堆積である。

出土遺物　なし。

時　　期　土器が出土していないため、廃絶時期は不明であるが、SX207 との重複関係から長割 2 期以前の所産と考える。

SX207（図版 154・397）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 9E・F に位置する。上面で検出した。SX2207 と重複しており、これを切る。

規　　模　長径 2.9m、短径 1.42m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 46cm で、断面形は台形状である。

覆　　土　単層で、黄色土系の堆積である。

出土遺物　やや大型のものを含む土器破片（図版 202-897・898）がある。

時　　期　土器は長割 2 期であり、おおむね当期に廃絶したと考える。

SX2204（図版 154・397）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 8F に位置する。上面で検出した。

規　　模　長径 2.64m、短径 0.72m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 28cm で、断面形は台形状である。

覆　　土　単層で、黄色土系の堆積である。

出土遺物　土器破片（図版 202-899）がある。

時　　期　土器は長割 2 期頃であるが、細片のため廃絶時期は不明である。

SX1576（図版 154・397）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 9E・F に位置する。上面で検出した。SX207 と重複するが、前後関係は明らかにできなかった。

規　　模　長径 4.25m、短径 1.2m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 30cm で、断面形は皿状に近い。

覆　　土　単層で、黄色土系の堆積である。

出土遺物　土器破片（図版 202-900）がある。

時　　期　土器は長割 2 期頃であるが、細片のため廃絶時期は不明である。

SX（風）5892（図版 155）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 9E・F に位置する。下面で検出した。

規　　模　長径 4.5m、短径 3.6m で、平面形は不整楕円形を呈する。深さ 70cm で、断面形は皿状に近い。

覆　　土　22 層に区分した。3・5・7・8・16・18・20 ～ 22 層など、南側で黒色土系の堆積が顕著である。覆土から予想される木の倒れた方向は南である。

出土遺物　比較的残存率の高い土器破片（図版 202-901・902）がある。

時　　期　時期が判別できる土器は長割 2 期（902）であることからが、おおむね当期の所産と考える。

SX（風）5541（図版 155・398）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 11E・F に位置する。下面で検出した。SX（風）5436 と重複しており、これに切られる。

規　　模　長径 4.46m、短径 3.04m で、平面形は楕円形を呈する。深さ 62cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　3 層に区分した。いずれも黄色土系の堆積である。

出土遺物　なし。

時　　期　土器が出土していないため、形成時期は不明である。

SX（風）5436（図版 155・398）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 11E に位置する。下面で検出した。SX（風）1261・SX（風）5541 と重複しており、これらを切る。

規　　模　長径 5.18m、短径 2.26m で、平面形は長楕円形を呈する。深さ 105cm で、断面形は弧状である。

覆　　土　12 層に区分した。4・11 層が黒色土系、それ以外は黄色土系の堆積である。覆土から予想される木の倒れた方向は西である。

出土遺物　土器破片（図版 203-903 ～ 905）がある。

時　　期　土器は長割 2 期（904･905）と長割 3 期（903）があるが、細片のため形成時期は不明である。

SX118（図版 155・398）

位置・確認面　調査区北側の西端であるグリッド 13C に位置する。上面で検出した。調査区外に伸びている。

規　　模　現存長径 1.74m で、短径 1.33m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 40cm で、断面形は箱状に近い。

覆　　土　2 層に区分した。黄色土系の土層が、やや特異な堆積状況を示す。

出土遺物　残存率が高い土器を含む土器破片（図版 203-906 ～ 909）と、磨石類（図版 225-238）、動物

遺存体がある。

時　　期　時期が判別できる土器には長割２期（906）と長割３期（907）があるが、いずれも小破片である。残存率の高い個体の文様は、縄文主体のため、細別時期は明確にできない。このため、廃絶時期は不明である。

SX128（図版 155・398）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 13D に位置する。上面で検出した。

規　　模　長径 2.85m、短径 0.96m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 40cm で、断面形は弧状である。

覆　　土　3 層に区分した。いずれも黄色土系の土層がレンズ状に堆積する。

出土遺物　なし。

時　　期　土器が出土していないため、形成時期は不明である。

SX104（図版 155・398）

位置・確認面　調査区中央の西端に当たるグリッド 12・13C に位置する。上面で検出した。調査区外に伸びている。

規　　模　現存長 3.44m、短径 1.73m で、平面形は不整楕円形を呈する。深さ 24cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　4 層に区分した。いずれも黄色土系の土層がレンズ状に堆積する。

出土遺物　不定形石器（図版 215-77）がある。土器は出土したが、細片のため図示していない。

時　　期　時期が判別できる土器が出土していないため、形成時期は不明である。

SX131（図版 155）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 12・13D に位置する。上面で検出した。

規　　模　長径 4.28m、短径 3.95m で、平面形は不整方形を呈する。深さ 22cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　2 層に区分した。いずれも黄色土系の土層がレンズ状に堆積する。

出土遺物　微量の動物遺存体がある。

時　　期　土器が出土していないため、形成時期は不明である。

SX106（図版 155・398）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 16D に位置する。上面で検出した。

規　　模　長径 4.81m、短径 1.66m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 70cm で、断面形は台形状である。

覆　　土　4 層に区分した。いずれも黄色土系の土層がレンズ状に堆積する。

出土遺物　なし。

時　　期　土器が出土していないため、形成時期は不明である。

SX4789（図版 155）

位置・確認面　調査区中央の東端に当たるグリッド 12G に位置する。下面で検出した。更に東側に伸びる。

規　　模　現存部で長径 4.96m、短径 2.3m で、平面形は隅丸方形を呈する。深さ 82cm で、断面形は皿状に近いが、底面は平坦ではない。

覆　　土　10 層に区分した。覆土下層（3・7・9・10 層）は黒色土系、上層は黄色土系の土層がレンズ状に堆積する。

出土遺物　なし。

時　　期　土器が出土していないため、形成時期は不明である。

SX4788（図版 155）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 13E に位置する。下面で検出した。

規　　模　現存部で長径 4.16m、短径 2.78m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 40cm で、断面形は皿状に近いが、底面は平坦ではない。

覆　　土　7 層に区分した。覆土下層は黒色土系、上層は黄色土系の土層がレンズ状に堆積する。

出土遺物　土器の小破片（図版 203-910）がある。

時　　期　出土土器は長割 2 期であるが、細片のため形成時期は不明である。

SX5127（図版 156・398）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 14D に位置する。下面で検出した。SX5116 と重複し、これを切る。

規　　模　現存部で長径 2.6m、短径 1.6m で、平面形は不整楕円形を呈する。深さ 18cm で、断面形は皿状に近い。

覆　　土　4 層に区分した。黒色・褐色土系の土層がレンズ状に堆積する。

出土遺物　なし。

時　　期　土器が出土していないため、廃絶時期は不明である。

SX5116（図版 156・398）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 14D に位置する。下面で検出した。SX5127 と重複しており、これに切られる。

規　　模　現存部で長径 1.4m、短径 1.0m で、平面形は不整楕円形を呈する。深さ 28cm で、断面形は皿状に近いが、底面は平坦ではない。

覆　　土　4 層に区分した。黒色・褐色土系の土層が複雑に堆積する。

出土遺物　なし。

時　　期　土器が出土していないため、廃絶時期は不明である。

SX1（図版 156・398）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 14E に位置する。上面で検出した。

規　　模　現存部で長径 3.0m、短径 2.7m で、平面形は不整円形を呈する。深さ 45cm で、断面形は皿状に近い。

覆　　土　3 層に区分した。下層は褐色土系、上層は黄色土系の土層がレンズ状に堆積する。

出土遺物　なし。

時　　期　土器が出土していないため、廃絶時期は不明である。

SX33（図版 156・399）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 14E・F に位置する。上面で検出した。SX4766 と重複しており、これを切る。

規　　模　現存部で長径 2.46m、短径 1.44m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 48cm で、断面形は弧状に近い。

覆　　土　3 層に区分した。下位の 2 層が黒色土系、それ以外は黄色土系の土層が、おおむねレンズ状に堆積する。

出土遺物　なし。

時　　期　土器が出土していないため、廃絶時期は不明である。

SX4766（図版 156）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 14E・F に位置する。下面で検出した。SX33 と重複しており、これに切られる。

規　　模　現存部で長径 4.18m、短径 2.45m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 35cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　13 層に区分した。黒色土系と黄色土系の土層が、複雑に堆積する。

出土遺物　なし。

時　　期　土器が出土していないため、廃絶時期は不明である。

SX32（図版 156・399）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 13・14F に位置する。上面で検出した。西側には SX4758 が隣接する。

規　　模　現存部で長径 4.8m、短径 2.5m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 65cm で、断面形は皿状に近い。

覆　　土　8 層に区分した。壁際の 6 層が褐色土系、その他の黄色土系の土層がレンズ状に堆積する。

出土遺物　なし。

時　　期　土器が出土していないため、廃絶時期は不明である。

SX4758（図版 156・399）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 13・14F に位置する。下面で検出した。東側には SX32 が隣接する。

規　　模　現存部で長径 4.0m、短径 2.1m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 83cm で、断面形は台形状である。

覆　　土　10 層に区分した。西側の 7 ～ 10 層が黒色土系、それ以外は黄褐色土系の土層がレンズ状に堆積する。SX32 と同一で、風倒木となる可能性がある。この場合、木の倒れた方向は西となる。

出土遺物　なし。

時　　期　土器が出土していないため、廃絶時期は不明である。

SX4646（図版 156・399）

位置・確認面　調査区北側の東端に当たるグリッド 13・14G に位置する。下面で検出した。更に東側の調査区外に伸びる

規　　模　現存部で長径 3.87m、短径 2.38m で、平面形は不整形を呈する。深さ 32cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　4 層に区分した。黒色系の土層がレンズ状に堆積する。

出土遺物　土器の小破片（図版 203-911）がある。

時　　期　土器は長割 2 期頃であるが、細片のため廃絶時期は不明である。

SX（風）20（図版 156・399）

位置・確認面　調査区北側の東端に当たるグリッド 14F・G に位置する。上面で検出した。更に東側の調査区外に伸びる

規　　模　現存部で長径 5.4m、短径 3.6m で、平面形は不整楕円形を呈する。深さ 110cm で、断面

形は弧状である。

覆　　土　黒色系の土層が北側に堆積していることから、予想される木の倒れた方向は北側である。

出土遺物　なし。

時　　期　土器が出土していないため、廃絶時期は不明である。

SX5010（図版 156）

位置・確認面　調査区北端のグリッド 17D に位置する。上面で検出した。

規　　模　現存部で長径 4.8m、短径 3.7m で、平面形は楕円形を呈する。深さ 90cm で、断面形は弧状に近く、底面は平坦ではない。

覆　　土　11 層に区分した。黄色系の土層がレンズ状に堆積している。

出土遺物　なし。

時　　期　土器が出土していないため、廃絶時期は不明である。

SX117（図版 156・399）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 14D・E に位置する。上面で検出した。

規　　模　現存部で長径 4.7m、短径 2.9m で、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 110cm で、断面形は弧状に近く、底面は平坦ではない。

覆　　土　6 層に区分した。黒色系と黄色系の土層が複雑に堆積している。

出土遺物　土器の小破片（図版 203-912）がある。

時　　期　土器は長割 2 期であるが、細片のため廃絶時期は不明である。

B　上面の中世（図版 157・401・402）

中世の遺構は調査区中央から南側で、上面（Ⅱb・Ⅱc 層）でわずかに確認した。種別では掘立柱建物 1 棟、土坑 3 基、溝 1 条である。グリッド 6・7 ラインの溝は縄文時代後期の包含層を削平して築かれているため、比較的容易に認定できた。それ以外のものは調査区南側のグリッド 3・4D に集中する。遺構内から当期の遺物が出土したことを契機とし、覆土が灰色～灰オリーブ色を呈するものを当時代のものと認定した。以下では数量が少ないことから、一括して記す。

SB545（図版 157・401）

位置・主軸　調査区南側の西端に当たるグリッド 3・4C・D に位置する。主軸は N29° E である。南側には SK523 が隣接する。

規　　模　一部で柱穴が明確でないが、1 × 5 ～ 6 間で、桁行長は約 8m、梁間は 3.2m 程である。

柱　　穴　P517・519 など南側のものが径約 45cm、深さ 30 ～ 60cm 弱と大きいが、それ以外は径 20 ～ 25cm、深さ 20 ～ 30cm 程度と小さい。

出土遺物　なし。

SK521（図版 157・401）

位置・確認面　調査区南側のグリッド 3D に位置する。4 ～ 5m 西側に SB545 や SK522・523 がある。

掘 り 形　長径 75cm、短径 60cm で、平面形は不整円形である。深さ 26cm で、断面形は弧状である。

覆　　土　2 層に区分した。灰オリーブ・黄色土の土層が、おおむねレンズ状に堆積している。

出土遺物　土坑底面から逆位で漆器椀が出土し、その内部から銭貨を検出した（図版 211-9 ～ 11）。

時　　期　漆器の年代からおおむね 15 世紀代の所産と考える。

SK522（図版 157・402）

位置･確認面　調査区南側のグリッド 3D に位置する。2m 北側には SK523 が、5m 東側に SK521 がある。

掘 り 形　長径 162cm、短径 123cm、平面形は楕円形で、主軸は N72° E である。深さ 16cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　3 層に区分した。灰色系の土層が、レンズ状に堆積している。

出土遺物　なし。

時　　期　遺物が出土していないことから、細別時期は不明である。

SK523（図版 157・401）

位置・確認面　調査区南側のグリッド 3D に位置する。2m 南側には SK522 が、4m 東側に SK521 があり、北側に SB545 が隣接する。

掘 り 形　長径 189cm、短径 96cm、平面形は長楕円形で、主軸は N71° W である。深さ 26cm で、断面形は皿状に近い。

覆　　土　2 層に区分した。灰色系の土層が、おおむねレンズ状に堆積している。

出土遺物　なし。

時　　期　遺物が出土していないことから、細別時期は不明である。

SD301（図版 157・402）

位置・確認面　調査区中央からやや南側のグリッド 6・7 ラインに位置する。調査区内を横断しており、調査区外の東西方向に伸びる。

掘 り 形　検出部長約 37m、幅は 3.3 ～ 5.2m、主軸は N78° W である。深さは約 70cm で、断面形は皿状に近い。

覆　　土　4 層に区分した。灰色系の土層で、最下層のみ酸化した暗赤褐色土である。おおむねレンズ状に堆積している。

出土遺物　埋没の過程で縄文土器が多数出土した。ただし、包含層の崩落に伴う流れ込みと判断した。中世の遺物には珠洲焼がある（図版 211-1・2）。いずれも E ラインの覆土から出土した。

時　　期　細片であるが珠洲焼の年代から、15 世紀代に埋没した可能性が高いと考える。

C　最　下　面（図版 158 ～ 161・403 ～ 405）

調査区南側のグリッド 2 ～ 6 ライン及び 7・8C・D の基本層序Ⅵ層で検出した最下面の遺構には、地床炉 3 基、土坑 8 基、柱穴 223 基、自然流路 1 条などがある。上下面から掘削された遺構の掘り込みが、最下面に達するものも少なくない。最下面の遺構覆土は黄褐色～灰褐色のものが多く、一部は上下面の遺構覆土との違いが認識できた。自然流路は上下面で検出した SD5186 と同様に、東側からやや北西側に伸び、屈曲して北側に伸びる。最下面の遺構は、おおむね自然流路の南側のグリッド 2 ～ 4D ～ G ラインに集中する。遺構の構築時期は、出土土器から縄文時代中期前葉と考える。以下では、地床炉と土坑のみ個別に記述を行う。なお遺構の位置については、最下面の調査区内を基準とする。

1）地　床　炉

地床炉 8501（図版 161・404）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 4D に位置する。約 1.5m 南西には地床炉 8502 がある。

掘 り 形　長径 106cm、短径 88cm、平面形は円形である。深さ 12cm で、断面形は皿状に近い。

覆　　土　3 層に区分した。焼土は 1 層で、直下の 2 層は黄色系土層が堆積する。3 層は赤色を呈し、硬化していた。おおむねレンズ状に堆積している。

出土遺物　なし。

地床炉 8502（図版 161・404）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 4D に位置する。約 1.5m 南西には地床炉 8501 がある。

掘 り 形　長径 66cm、短径 55cm、平面形は円形である。深さ 6cm で、断面形は皿状に近い。

覆　　土　単層で、焼土粒を含む黄色系土層の堆積である。

出土遺物　なし。

地床炉 9151（図版 161・404）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 4E に位置する。約 7.5m 北西には地床炉 8501 がある。

掘 り 形　長径 56cm、短径 32cm、平面形は長楕円形を呈する。主軸は N38° E である。深さ 7cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　単層で、赤色土の堆積である。

出土遺物　なし。

2）土　　坑

SK8815（図版 161・404）

位置・確認面　調査区南側のグリッド 2E に位置する。

掘 り 形　長径 122cm、短径 70cm、平面形は不整長楕円形を呈し、主軸は N78° W である。深さ 13cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　3 層に区分した。黄色系の土層がレンズ状に堆積している。

出土遺物　なし。

SK8872（図版 161・404）

位置・確認面　調査区南側のグリッド 2F に位置する。

掘 り 形　長径 144cm、短径 102cm、平面形は楕円形を呈し、主軸は N68° W である。深さ 65cm で、断面形は弧状に近い。

覆　　土　10 層に区分した。黄色系の土層が複雑に堆積している。

出土遺物　不定形石器（図版 237-86）がある。

SK8804（図版 161・404）

位置・確認面　調査区南側のグリッド 2E に位置する。

掘 り 形　推定長径 65cm、短径 40cm、平面形は楕円形を呈し、主軸は N50° W である。深さ 15cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　単層で、黄色系の土層が堆積している。

出土遺物　なし。

SK8805（図版 161・404）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 4D に位置する。

掘 り 形　長径 55cm、短径 50cm、平面形は円形を呈する。深さ 15cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　2 層区分した。黄色系の土層が堆積している。

出土遺物　なし。

SK9111（図版 161・405）

位置・確認面　調査区南側の東端に当たるグリッド 3G に位置する。

掘 り 形　長径 54cm、短径 34cm、平面形は長楕円形を呈し、主軸は N14° W である。深さ 15cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　単層で、灰褐色系の土層が堆積している。

出土遺物　なし。

SK8514（図版 161）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 4・5D に位置する。

掘 り 形　長径 63cm、短径 55cm、平面形は円形を呈する。深さ 9cm で、断面形は皿状である。

覆　　土　単層で、暗褐色系の土層が堆積している。

出土遺物　なし。

SK8515（図版 161）

位置・確認面　調査区中央のグリッド 4・5D に位置する。

掘 り 形　長径 94cm、短径 73cm、平面形は不整円形を呈する。深さ 26cm で、断面形は弧状である。

覆　　土　6 層に区分した。黄色系の土層がおおむねレンズ状に堆積している。

出土遺物　なし。

SK8516（図版 161・405）

位置・確認面　調査区北側のグリッド 5D に位置する。

掘 り 形　長径 96cm、短径 42cm、平面形は不整長楕円形を呈する。深さ 24cm で、西側が落ち込む。断面形は西側が弧状、東側が皿状である。

覆　　土　2 層に区分した。黄色系の土層がおおむねレンズ状に堆積している。

出土遺物　なし。

第Ⅴ章　遺　　物

1　遺物の概要と記述の方法

長割遺跡の調査で出土した遺物は、縄文時代後期前葉を主体に、縄文時代中期、中世のものがある。主体は縄文時代後期前葉で、遺物量は整理箱（54 × 35cm、深さ 10cm）で約 1,200 箱に及ぶ。種別の内訳は土器が 1,110 箱と主体となり、石器・石製品で約 100 箱、土製品・植物遺体で 5 箱程度である。このほかの時期・時代では縄文時代中期前葉の土器と石器・石製品が約 20 箱、中世が 1 箱であった。

後期前葉は夥しい数量の遺構が確認できることからも、県内を代表する当概期の大規模集落と考える。このため、当概期大規模集落の特性を反映できる記述に努めた。以下では①上・下面で検出した後期、②上面の中世、③最下面を主体とした中期前葉で大別し、土器、石器等の種別ごとに記述を行う。

2　上・下面の後期の遺物（図面図版 162 ～ 232、写真図版 406 ～ 464）

A　土　　器（図版 162 ～ 211、406 ～ 449）

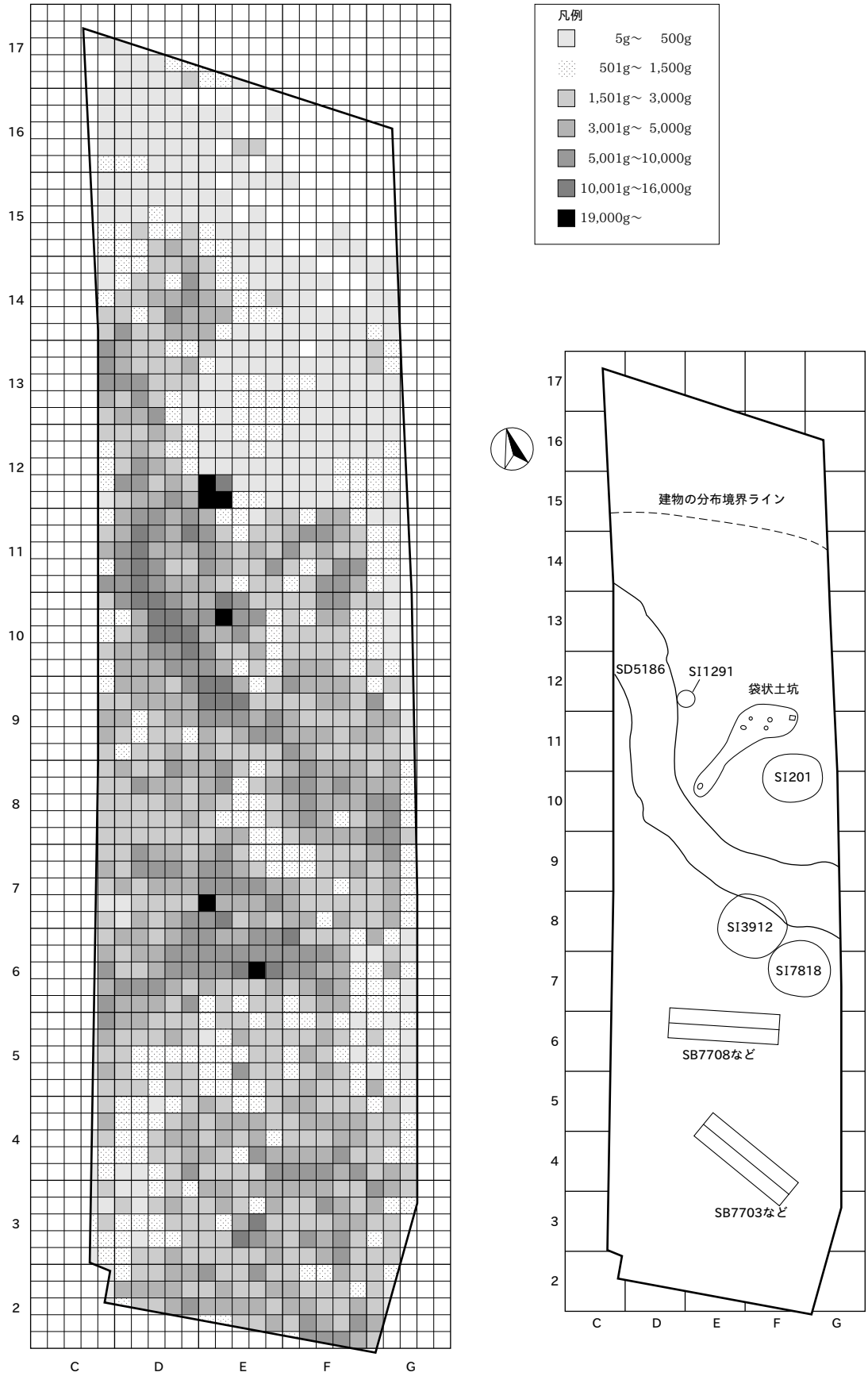
1）土器の出土量と分布傾向

当期の土器は口縁部残存率計測法では 735 個体分、底部残存率計測法では 960 個体分、総重量約 3,560kg にも及ぶ。これは集落全面（33,100m²）を調査した村上市（旧朝日村）の元屋敷遺跡［滝沢ほか 2002］の 434t には遠く及ばないものの、多量の土器を検出したことになる。おおむね同時期の遺跡で出土重量が提示されている遺跡をみると、村上市アチヤ平遺跡上段［富樫ほか 2002］の 13.9t、阿賀町（旧上川村）北野遺跡上層［高橋雄ほか 2005］の 4.4t がある。本遺跡は、2 面で遺構を確認して調査したため面積は合計 10,370m² となるが、平面積は 5,185m² である。単純に出土土器の総重量を平面積で割ると、m² 当たり 0.69kg の土器が出土したことになる。同じような作業で土器重量をみると、アチヤ平遺跡は 0.59kg（13.9t ÷ 23,500m²）、北野遺跡上層は 0.49kg（4.4t ÷ 8,900m²）となり、m² 当たりの土器重量密度は本遺跡が最も高い。これはアチヤ平遺跡・北野遺跡の両遺跡に比して、今回の調査範囲が比較的限定されたことに加え、集落の中央部分を調査したことが反映された結果と考える。

重量による出土分布と主な遺構の配置を第 29 図に示した。土器の重量分布と遺構配置の関連について簡単に記す。遺物量が比較的少ない地点は、平地建物の分布境界とおおむね一致しており、グリッド 16・17 付近が希薄である。

次に、広範囲にわたり特に多くの土器が出土している地点は、南から①グリッド 6・7D ～ F 付近、②グリッド 9 ～ 11D・E 付近がある。①はおおむね SB7708 ～ 7711 など大型掘立柱建物の分布範囲と重なる。一方の②は、SD5186 の範囲内である。次に、局地的に土器の出土量が多い地点には③グリッド 3E12・13・17・18、④グリッド 10E4・5・9・10、⑤グリッド 12E1・2・6・7 がある。③は図示していないが SX6185、④は袋状土坑 SK5686、⑤は SI1291 出土土器の多さを反映した結果である。

主な大型建物と出土土器の重量分布であるが、前述の SB7708 ～ 7711 と同様に分布を示すのが、特大型の平地建物である SI3912 が分布する 8E･F 付近がある。一方、グリッド 4E･F 付近の SB7703 は、



第 29 図　上・下面の土器重量分布と主な遺構の配置

輪郭外に隣接した南側での出土が目立つ。こうした傾向は特大型の平地建物でSI7818（グリッド7F・G）、大型の平地建物であるSI201（グリッド10・11F）などでも認められる。土器の重量分布はここで示した以外の遺構との関連も予想されるが、おおむねの傾向として指摘したい。

2）記述の方法

a　中期前葉の土器の取り扱い

ここで取り扱う土器は、上・下面で出土した後期前葉の土器である。上・下面からは中期前葉の土器が若干出土している。中期前葉の遺物包含層が広がる調査区南側（主にグリッド2～6ライン）に多く、中にはSB7703を構成するP433など遺構から出土したものもある。ただしこれは、①最下面の遺物包含層にまで達する大型柱穴の掘削時に取り上げられたものが後期の遺物包含層に混入したもの、②大型柱穴の調査時に、壁際に露出した中期前葉の土器を取り上げた結果など、と判断して中期前葉の土器図版に掲載した。一方で、最下面の遺物包含層分布圏外に当たる調査区中央～北側（グリッド8ライン以北）の遺構から出土した中期前葉の土器は、そのまま遺構出土として掲載（図版173-246、191-708等）し、本文の記述のみ「4　最下面を主体とした中期の遺物」で行った。

b　記述の方針

土器の説明は、本文・観察表・図面図版・写真図版を用いて行う。観察表に記載したもののうち、代表的な項目を本文で解説することとする。本文の記述は、遺構と包含層出土で区分した。遺構出土の掲載順は、第Ⅳ章での記述順とする。

遺構と包含層出土及び、異なる遺構出土品が接合した例が若干存在する。この事例については、遺構と包含層出土が接合した場合は遺構に、異なる遺構・異なるグリッド間で接合した場合は、より大きな破片が出土した遺構・地点の帰属遺構として掲載した。

c　図化の方法

図の縮尺率は、①断面実測図と拓本図が1／3、②両面実測図が1／5を基本とする。ただし、②のうち口径・器高ともに20cm未満と小型のものは1／3で、1点のみであるが特に大型のものを1／6とした。①で示したものは残存率が低いものが主体であるが、径が推定できるものは中心線を示した。また、拓本図は外面のみが多いが、内面に文様が施されたものは拓本図で示した。裏面の拓本図の上位には、外面を（外）、内面を（内）として、左側から外面の拓本－内面拓本－断面図の順で配置した。（外）（内）と示していない拓本は、いずれも外面のものである。

d　観察表の記載

図面図版に掲載したすべての土器について、観察項目に従いその内容を一覧表にした。出土地点は遺構・グリッド・層位等の順で記した。器種・分類・時期は後述する。器種は「○○形土器」を省略し、深鉢、鉢、壺等と呼称する。法量は口径・器高・底径・胴部最大径（観察表では「胴大」とした）をcm単位で記した。文様は口縁部・胴部の他、地文を加えた。胎土と色調は以下のように区分して記号で記した。

胎土　以下のように区分し、記号を記述した。

1類　精錬された生地に、粒子の細かな混和材が認められるもの。

2類　1類と同様に精錬された生地であるが、やや大きめに混和材や雲母が認められるもの。

3類　大粒の白色粒子（石英、流紋岩・花崗岩？）が主体で、長石・雲母等を伴うもの。

4類　雲母･白色粒子（石英､流紋岩･花崗岩？）､長石などがあり､3類に比して白色粒子が顕著でないもの。

5類　石英・雲母のほか、粘土粒が特に多く入るもの。

6類　海綿骨針が特に多量に認められるもの。

7類　鉄石英（赤）が特に多量に入るもの。

色調は焼成時の黒斑や、土器焼成後の使用によるスス・コゲ付着以外の部位の色調について記した。ただし残存率が低いものでは、黒斑付着部位・使用痕跡部位を観察したものも含まれる。

1類　橙色～赤褐色　　2類　黄橙色～黄色　　3類　灰白～白色

4類　コゲ茶色　　5類　黒色

残存率は口径と底径を36分割で計測して示した。備考には、容量や第Ⅶ章で記述するスス・コゲの付着を観察した土器、スス・コゲ以外の付着物や、底面の圧痕等を記した。

系統は次に示す分類を記した。このうち､非在地とした1群の細別は､堀之内2式～加曽利B1式を「関東」、型式名を明確にできないものは地域名を付した。時期は把握できる範囲で記した。

3）分　　類

本遺跡における上・下面出土の後期の土器は、新潟県を中心に分布する南三十稲場式が主体となる。周辺地域での出土例からも、南三十稲場式が在地の土器となる。南三十稲場式は、資料数の増加や縄文セミナーの会2002での成果を前後して、その様相が把握されつつある。ここではこれらの成果のうち金子優子氏の手法［金子2002b］を参考にして以下の手法で分類した。

本遺跡でまとまって出土した土器のうち中期のもの（246・708・895）を除いた。次に後期前葉の土器のうち、三十稲場式［田中・渡邊1999］と非在地の土器群を除いたものを、仮に南三十稲場式として抽出した。この作業で問題となるのが、部分的に他系統の土器の要素を採用したものである。具体的には関東地方の堀之内1式や、信州地方の金魚鉢形土器、東北南部の綱取式などである。これらについては未消化部分を含むが、村上市（旧朝日村）アチヤ平遺跡［金内2002］・元屋敷遺跡［金子2002b・c］、柏崎市十三本塚北遺跡［品田2001b］などから、同一個体に施されたほかの文様構成や、出土頻度を重視して南三十稲場式に含めたものもある。

1群土器　非在地の土器群を一括した。関東の堀之内式・加曽利B式、東北南部の綱取式、東北北部の十腰内式ないしは、南境式［小林2001］、北陸の気屋式のほか、帰属が不明なもの等がある。

a）深鉢・鉢

堀之内式（4・35・444・525・714など）、加曽利B式（2・3・236など）、綱取式（216・822など）、南境式ないしは十腰内式（209・210・712・1007など）のほか、系統は明確にできないが東北南部に分布の中心があるもの（926など）がある。

b）壺

一部､他器種との区分に課題を残すものもあるが､堀之内式（14･26･27）､十腰内式（51･323）､気屋式（107など）などがある。

c）浅鉢

堀之内2式～加曽利B1式（402･568･860など）がある。数量が少ないため明確にできないが､三十稲場･

南三十稲場式のものよりも、外来系としたものが目立つ。

d）注口

関東の堀之内式（29）、十腰内式の可能性があるもの（991 など）がある。

2 群土器　南三十稲場式を一括した。いずれも新段階［田中・渡邊 1999］に比定できる。確認例が少ないことから、分類せずに特徴のみ記す。

a）深鉢

口縁部には橋状把手があり、胴部に連弧文が施されたもの（978）や、胴部に刺突が施されたもの（609）などがある。

b）注口

口縁部には退化した橋状把手があり、胴部上位には 4 単位の三角形区画内に渦巻き文が施されたものである。胴部区画内は刺突文が顕著である。

3 群土器　上記の手続きで抽出した南三十稲場式を一括した。

器種には深鉢、鉢、浅鉢、注口、器台がある。壺が明確でないが、口縁部無文のもの（4 群）がごくわずかに存在する。

a）深鉢

細別時期差と考えられる文様で大別し、文様構成で細別した。具体的な変遷の方向性は、沈線の細密と集合化とされている［田中 1990・1999、田中・渡邊 1999、金子 2002a・c］。このため、金子 2002b を踏襲して以下のように大別した。

A 類　沈線文系土器群

無文あるいは縄文地上に沈線施文されたもの。沈線は太くて浅いものを主体となる。集合化の認められる細く深いものや、太く浅い沈線で施文後、縄文が磨り消されたものも含む。

B 類　多条沈線文系土器群

基本的には沈線施文後に縄文を充填するものであるが、縄文が磨り消されたものも含む。集合沈線が大半であるが、沈線の細密・集合化によって細分される可能性を含む。

・文様構成（第 32 図）

Ⅰ類　口縁部・胴部で構成されるもの。

Ⅱ類　口縁部・口頸部・頸部・胴部で構成されるもの。

Ⅲ類　口縁部・頸部・胴部で構成されるもの。

Ⅳ類　口縁部・口頸部・胴部で構成されるもの。

Ⅴ類　口縁部・口頸部・頸部・胴部 + 下端区画で構成されるもの。

・文　　様

1 類　縦位の沈線が施文されるもの。

2 類　突起下に 2・3 条の沈線が縦位に施文されるもの。

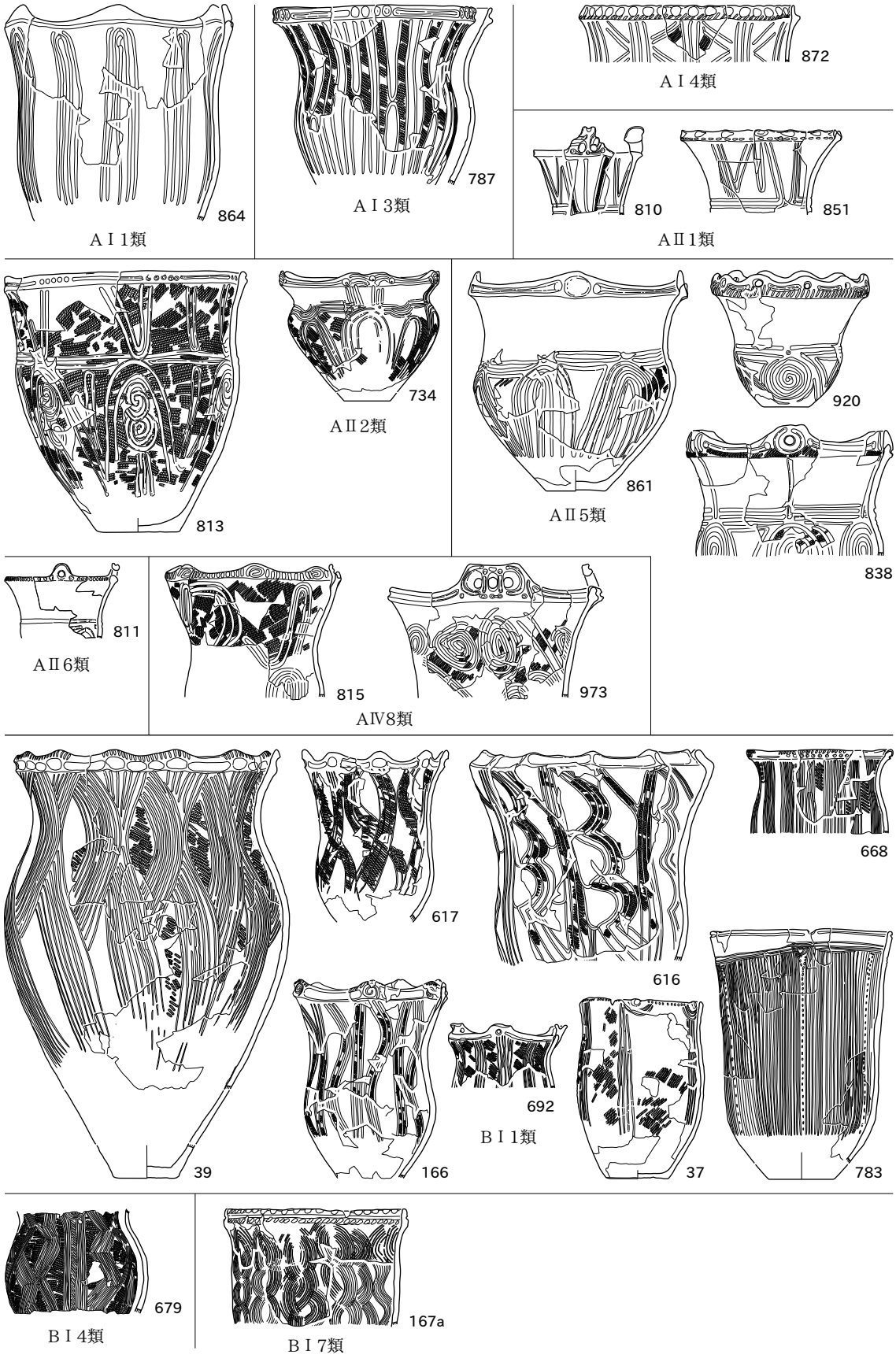
3 類　縦位と楕円あるいは U 字状の沈線文が施されたもの。

4 類　縦位とそれを連結する斜行沈線が施されたもの。

5 類　いわゆる縁帯文を持ち、口頸部が無文のもの。口頸部に 1 条の縦位沈線があるものも含めた。

6 類　口頸部が無文で、胴部に文様が施されたもの。

7 類　条線が施されたもの。



第 30 図　南三十稲場式土器の分類図（1）（深鉢）

8類　口頸部に渦巻き文・楕円形文等が施されたもの。

これらの組み合わせで、Ⅰ1類、Ⅱ3類などと呼称することとする（第30･31図）。A群ではⅡ5類（861･838など）を主体として、Ⅱ2類（813など）が多い。B群ではⅠ1類（39・166など）を主体として、Ⅱ1類（6など）、Ⅳ1類（979など）が多い傾向にある。なお、突起について第33図のように呼称する。

b）鉢

口縁部形状と文様で区分した。全形が把握できるものは少ない。また、文様構成も不明なものが多い。このため文様の区分は深鉢に準じた。

【口縁部形状】（第31図）

Ⅰ類　口縁部がわずかに内湾して立ち上がるもの（28など）。

Ⅱ類　Ⅰ類に比して、口縁部の内湾が著しいもの。胴部中位で屈曲して内傾するものも含む（1029など）。

Ⅲ類　口縁部が内屈するもの（859など）。

Ⅳ類　頸部が括れ、外へ開く口縁部を持つもの（887など）。

c）浅鉢

完形品がないことから鉢との区分に未消化部分を残すが、相対的高さ（口径÷器高×100）が50未満と予想されるものを浅鉢とした。数量が極めて少ないため（8・32など）、分類は行わない。

e）注口

頸部の有無で大別し、深鉢と同様の文様表出で細別した。

【頸部の有無】（第31図）

Ⅰ類　頸部が有るもの（280・654・801など）

Ⅱ類　頸部を欠くもの（84など）。

f）器台

1点のみ出土した（935）。

4群土器　1～3群に該当しない土器群を一括した。3群の粗製的な土器と考える。器種には深鉢・鉢のほか、壺がある。数量が多い深鉢・鉢のみ以下のように区分した。

【文様等】

A類　口縁部にのみ文様が施され、頸部ないしは胴部が縄文、無文のものである。口縁部の文様には楕円形文と口縁端部に刺突が伴うもの（40）、楕円形文（56）等があり、3群土器と共通したものが多い。このことから3群土器の粗製的なものと考える。

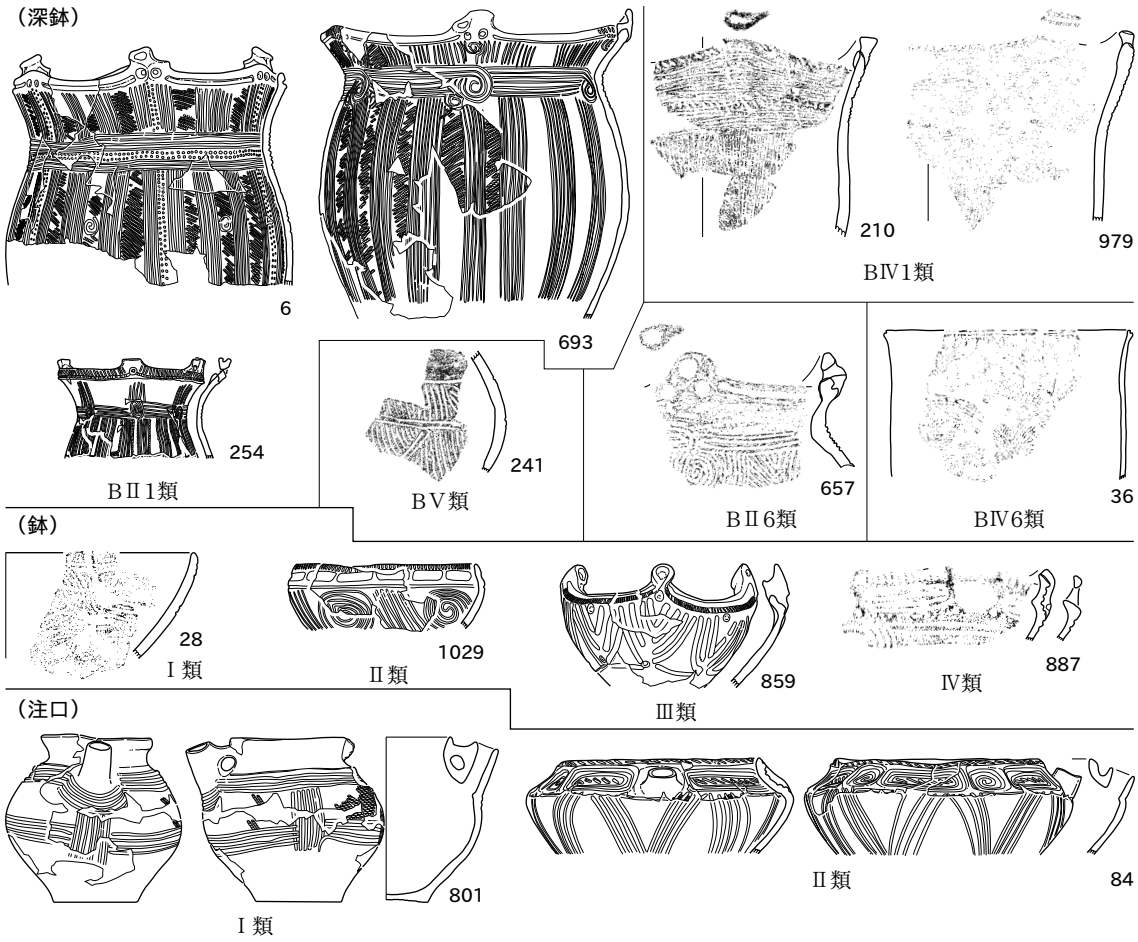
B類　口縁部に文様が施されていないものを一括した。縄文（16など）、鋸歯文（237など）、条線（754など）、無文（86など）がある。

【器　形】

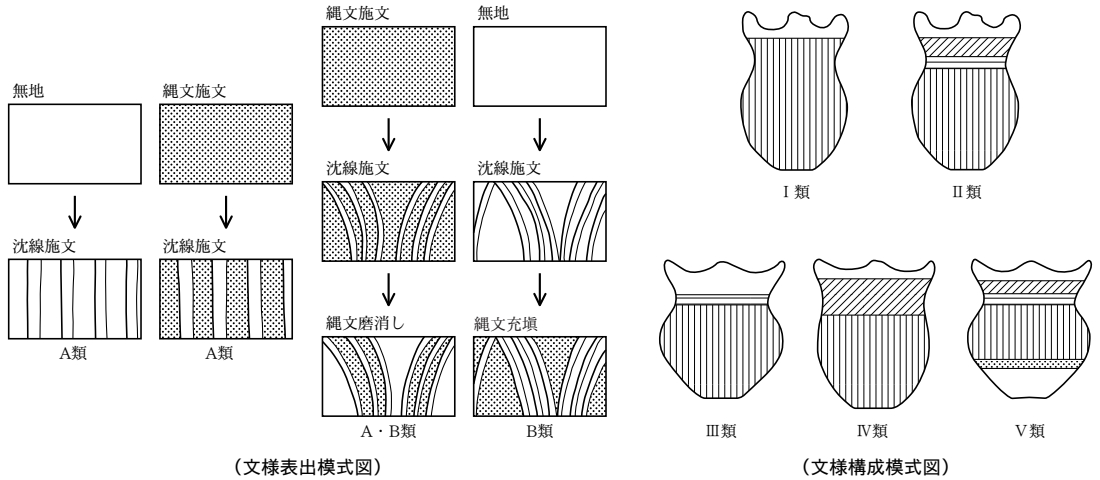
Ⅰ類　胴部上位が括れ、頸部が作出されたもの（40・705など）。

Ⅱ類　胴部上位が括れず、頸部が作出されていないもの（16･30など）。Ⅱ類は平口縁（49･665など）のほか、小波状口縁を有するもの（748など）、小突起を有するもの（48など）がある。

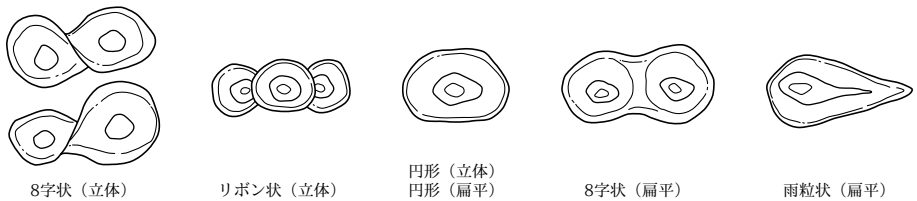
両者の組み合わせで、AⅠ類、BⅡ類などと呼称する（第34図）。BⅡ類が最も多く、このうち縄文のみ施文され、平口縁のものが主体である。



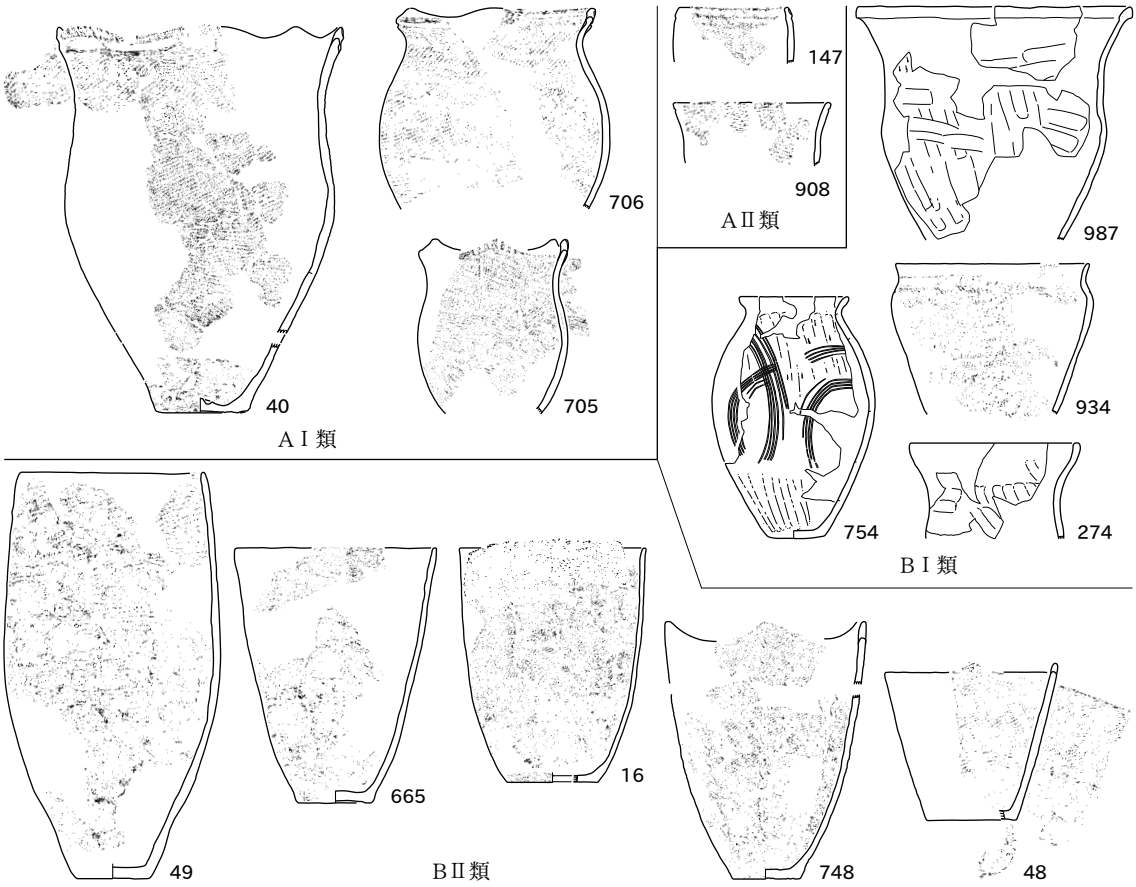
第 31 図　南三十稲場式土器の分類図（2）（深鉢 2・鉢・注口）



第 32 図　文様表出と文様構成模式図



第 33 図　突起上面観の模式図と名称（［金子 2002b］から転載）



第 34 図　4 群土器の分類図

4）時　　期

第Ⅶ章 1A d の時期細分案に準じ、長割〇期と記す。詳細は第Ⅶ章に譲るが、1 期が三十稲場式新段階･南三十稲場式古段階、2 期は南三十稲場式新段階（古と新に区分）、3 期は南三十稲場式新段階である。

5）各　　説（図版 162 ～ 208・406 ～ 449）

a　竪穴建物（SI1291）（図版 162 ～ 164-1 ～ 50）

出土層位は①覆土上層（Ⅱb・Ⅲb 層、1・4 層）出土（1 ～ 4）、②上層～最下層（8 層）程度までの出土が接合したもの（5 ～ 7 など）、③ 2 ～ 4 層（8 ～ 14）、④ 4・5 層及び 3・8 層主体（15 ～ 32）、⑤ 4 ～ 8 層主体（33 ～ 45）、⑥ 8 層主体（46 ～ 50）に分かれる。①を除き、大型の破片が多い。

①上層は 1 が 3 群 B Ⅳ 1 類である以外は、すべて 1 群である。いずれも深鉢で、2・3 は堀之内 2 式～加曽利 B1 式、4 は堀之内 2 式で、長割 2 ～ 3 期と考える。②～⑥は一部を除き、おおむね大きな時期幅を持たない土器群と考える。深鉢を主体に、浅鉢（8・32）、注口土器（29）、注口ないしは壺（50）、壺（14・27）などがある。各器種で 3 群ないしはその粗製品と考える 4 群が主体となるが、1 群も定量認められる（14・18・20・27・29・35）。1 群は系統を明確にできないものもあるが、加曽利 B1 式（20）、堀之内 2 式～加曽利 B1 式（14・18・27・29・35）などがあるが、器種別では壺・注口は 1 群土器が主体となる。深鉢のうち 3 群は B 類でほぼ占められ、B Ⅰ 1 類（10･11･34･37･39）を主体に、B Ⅱ 1 類（6･33）があり、類例に乏しいが B Ⅳ 6 類が 1 点ある（36）がある。4 群は口縁部にのみ文様が施された A

類を含むが（9・40）、主体はＢ類である。Ｂ類は胴部上位が括れたものを１点含むが（47）、その他は括れを持たないⅡ類である。深鉢の傾向として法量が大きなものは３・４群が主体、法量の小さいものに１群が一定量加わる傾向にあり、おおむね長割２期新のまとまりと考える。

b　平地建物（図版 165 ～ 174-51 ～ 292）

平地建物の時期比定を行うため、柱穴出土資料は細片であっても図化した。建物ごとでの出土土器量が比較的多いものは個別に、少ないものはほかの建物とまとめて記述する。後期以外に中期に遡るものがある（246）。各遺構共に３・４群が主体であるが、１群を定量含む。１群は東北の南境２式ないしはその可能性があるもの（51、209、211、212）、北陸の気屋式の可能性があるもの（107）、東北南部の綱取式ないしはその後続（64・215）、堀之内２式～加曽利Ｂ1 式（217・236・248・275・278）などを含む。以下では３・４群でも比較的形態が把握できるものと、１群を中心に記す。

SI7634・7635・7637・3387 ～ 3390・3397・3495・3496（図版 165-51 ～ 71）

３・４群を主体に１群を若干含む（51・64）。51 は口縁部を欠くが、頸部から８条の平行沈線が巡り、１条間隔で LR 縄文が横位に施文される。南境２式と考える。64 は綱取２式で、刺突直下に上開きの孤線が３条施されている。これ以外は３・４群である。細片が多く区分が難しいものもあるが、指頭圧痕が残る 55・68 などは３群Ａ類と考える。４群は多くを図示していないが、Ａ類に属する 56 の口縁部には間延びした楕円形文が施されている。長割１期の可能性があるもの（68）、１～２期古（55）もあるが、２期が主体と考える。

SI1200・7640（図版 166-72 ～ 84）

SI1200 は石囲炉 567 及びピットからやや多くの土器が出土している（72 ～ 80）。刺突を伴う粘土紐が蛇行する 74 は不明であるが、それ以外は３・４群と考える。３群の深鉢は縄文地に縦位の沈線が施されたもの（76・77）はＡ類、その他は沈線が細いことからＢ類と捉えられる。注口土器は器形Ⅰ類で、隆帯区画内は無文である。おおむね長割１期のものが多いと考える。

SI7640 は、いずれも異なる柱穴からの出土土器である（81 ～ 84）。深鉢（81 ～ 83）は３群であるが、細別は困難である。注口土器（84）は胴部下半を欠くが、器形Ⅱ類の良好な資料となる。口縁部の隆帯区画内には斜位の刺突が、胴部には４条を１単位とする集合沈線が施されており、３群Ａ類と考える。時期比定に苦慮するが、注口土器は長割１期、その他は長割１～２期と考える。

SI7641・1810・7642・1190・7644・7646・446・6375・6150・7647・6376（図版 166・167-85 ～ 106）

３・４群に限られる。細片が多いため区分に苦慮するが、３群はＡ類の可能性があるもの（93・96・99・102・106）を除き、Ｂ類と考える。SI7644 の 90 は突起の形状が特異であり、車輪状を呈する。突起下に縦位沈線が施され、両脇にＵ字状の集合沈線が伴う。長割２期新と考える。SI7646 の 96 は太い２条の沈線で縄文が磨り消されており、SI446 の 93 とともに長割１期と考える。SI6150 の 99 は突起下の楕円形文内に横位沈線が施されており、元屋敷遺跡上段（報告番号 1679）に類例がある。SI7647 の 102 も楕円形文内にやや太い斜位の刺突が施されたもので、ともに長割１期の可能性が高い。

SI453・6345・7601（図版 167-107 ～ 118）

３・４群を主体に１群を１点含む。107 は土器の割れ口から傾きを捉えた。縦位の連続刺突が施されている。北陸の気屋式で、壺の可能性があるが明確にできなかった。４群のうち 111 は内外面に漆の可能性がある黒色付着物がある。113 は長割１期、そのほかは長割２期の可能性が高い。

SI2917・7602・7603・7606・7609・7610・7612・7613・7616（図版 168-119 ～ 142）

3・4 群の深鉢を主体に 1 群の可能性があるものを 1 点（133）含む。3 群の深鉢は A 類（120・121・123・131）と B 類（129・142 など）がある。SI2917 の 120 は蛇行する縦位沈線が施されており、長割 1 期と考える。SI7602 の 121 は 4 条の垂下沈線に 3 条一単位の蛇行する沈線が対に配置されている。SI7603 の 123 も同様で、4 条一単位とした縦位・斜位沈線が施されており、1 期～ 2 期古と考える。126 はやや特異な形態で、口縁部の刺突文と楕円形文から南三十稲場式の粗製土器と捉えた。SI7605 の 129 は口縁端部を欠くが、略完形品である。B Ⅱ 3 類で頸部と胴部の境界には楕円形文、胴部には渦巻文が施されており、長割 2 期新と考える。SI7609 の 131 は太い 2 条の沈線で縄文が磨り消されており長割 1 期、SI7616 の 141 も同時期の可能性がある。SI7613 の 139 は器形Ⅱ類の鉢で、胴部の文様から長割 2 期と考える。

SI7618・7617・7619・7620・7621・7623・7627 ～ 7629・3907・3908・7631・8353・8498（図版 169-143 ～ 165）

3・4 群を主体に 1 群（150・165）を若干含む。1 群は堀之内式？（150）と綱取式（165）がある。3 群は A 類ないしはその可能性があるもの（143・158・164）、B 類（144・153）に分かれる。細片が多く、柱穴ごとに時期が異なるもの（SI7618）や、同一柱穴内であっても異なる時期のものが出土したものがある（SI7627 の P6556）。このうち SI7627 の 153 は口縁部と胴部が接合しないが、胎土・色調から同一個体と捉えた。口縁端部には突起の両脇に刺突が巡るが、間に LR 縄文が施されている。口頸部は途切れる横位沈線が巡り、下位は刺突が周回する。胴部破片との整合性に苦慮するが、直下の無文帯を挟んで頸部・胴部位の横位沈線が施されたものと考える。長割 3 期の所産である。これ以外では石囲炉の埋設土器から SI3907 は長割 1 期と考えるが、その他は細片のため時期比定は難しい。

SI7800・3909・7801・8354・7804～7806・7807・7810・7812・7813・7816・7817（図版 170-166～188）

1 群の綱取 2 式の小破片を数点含む（179・184）。3 群は A 類ないしはその可能性があるものを含むが（185・187）、B 類が主体である。略完形品の 166 は B Ⅰ 1 類で、突起下には渦巻き文が施される。3 条一単位で、垂下するものと蛇行する縦位沈線が施されており、長割 2 期と考える。SI3909 の 167 は条線による縦位の文様が施された B Ⅰ 7 類で、本遺跡唯一の出土例である。口縁部の指頭圧痕から長割 2 期古と考える。SI7801 の 169 は口頸部に縄文帯を挟んで横位沈線が施されたもので、長割 3 期である。SI7806 の 177 は口頸・胴部位に横位沈線が施された B Ⅱ 1 類で、突起下には胴部にまで及ぶ渦巻き文が施されている。長割 2 期の所産である。SI7817 の SD6750 は長割 1 期のものがまとまる。2 条の太い沈線内に磨消縄文が残る 185 は長割 1 期、指頭圧痕が残る 187 は長割 1 期～ 2 期古と考える。SI7812 の 182 も胴部沈線がやや太いものの、4 条一単位となることから長割 1 期～ 2 期古と考える。

SI3912・3913・8361・7818・7820 ～ 7824（図版 171-189 ～ 212）

1 群の南境 2 式が SI7822 ～ 7824 の床面出土でまとまる（209・211・212）。それ以外は 3 群 B 類・4 群が多い。特大型建物の SI3912 は、床面から口縁部以外は無文の 4 群 A 類（189）、石囲炉 2207 内の 190 は 3 群 B 類であり、2 期新と考える。192 は鉢又は注口土器の胴部片で、縄文地上に渦巻文が施されている。SI3913 では 196・197 は 3 群 B Ⅰ 1 類で、口縁端部の刺突、直下の楕円形文で共通する。SI7820 の 203 は器形Ⅱ類の注口土器である。残存部から、胴部最大径付近に 2 条の横位沈線で区画され、上下に対向する弧線が施されたものと考える。沈線は細く密であることから 2 期である。SI7822（石囲炉 2429）の 205 はやや太い縦位沈線が 2 本 1 単位で施されており、1 期の可能性が高い。SI7822 ～

7824 床面出土の 208･210 は 3 群ＢⅣ 1 類である。口頸部の横位沈線は、208 が丁寧な施文なのに対し、210 は途切れる部分が多い。共に 3 期である。南境 2 式の 209・211・212 は鉢と考える。いずれも口縁部が緩やかに屈曲して立ち上がる。文様はそれぞれ異なり、209 は多重ないしは渦巻きの区画文が残る。211 は磨消縄文により曲線的なモチーフが描かれる。212 は 3 条の沈線で弧状のモチーフが描かれている。

SI8355・7825・8356・7826・7831・7832・2372・1415・7833・7835・8471・8477（図版 172-213 ～ 239）

1 群には綱取 1 式（216）、東北南部系（215）、堀之内 2 式～加曽利 B1 式（217･220、235?、236）がある。それ以外は 3 群Ｂ類･4 群が主体と考える。SI7825 の 215 は、後述する 926 と同様のモチーフである。上下を多重の横位沈線で区画された内部に、同じく多重の波状文が施されている。

SI8356（石囲炉 919）の 217 は残存部上位の割れ口が摩耗し、内面には漆の可能性がある黒色付着物が認められる。220 は朝顔形の鉢と考える。内面には円形浮文が残る。

SI2372 でも堀之内 2 式ないし加曽利 B1 式の可能性があるものが 2 点まとまる。把手部分の 235 は入念な研磨が施され、色調は黒色に近い。236 は多重の横位沈線に直交する区切文が伴う。薄手で、黒色化が顕著である。237 は 4 群ＢⅡ類で、1 本描きによる格子目文が施されている。

そのほかはいずれも 3 群Ｂ類である。ＢⅠ 1 類ないしはその可能性が高いもの（224･232･234･238）と、ＢⅡ 1 類（218・219・239）がまとまる。

SI8484・8495・8095・2373・8488・2375・8098・7841・8492（図版 173-240 ～ 257）

中期前葉の土器が SI8095 の柱穴から出土（246）している以外は、後期前葉に限られる。1 群を定量含む（248・255）が、それ以外は 3・4 群である。

SI8484 の 241 は、胴部の上下を横位沈線で区画された本遺跡唯一のＢⅤ類と考える。残存部の横位沈線は上位が 1 条、中位が 2 条で、区画内内には縦位沈線が多重に施されている。残存部から 2 期新と考える。SI2373 の 248 は突起部分の 2 破片を同一個体と判断した。残存部には渦巻文が施され、直下に刺突が伴う。

SI8488（地床炉 816）の 251 は胴部下半～底部破片であるが、残存部には 2 条の横線が残り、ＢⅤ類の可能性がある。やや沈線間が広いが 2 期新と考える。SI8098 の 255 も 241 と同様、渦巻き文が残る。SI2375 の 254 はＢⅡ 1 類で、口頸部には 5 条の縦位沈線が 6 単位施され、その間は無文である。頸・胴部位には同じく 6 単位で渦巻き文が施され、4 条の横位沈線でつながれる。胴部文様もやや特異で、縦位沈線間にＵ字状モチーフとなる円形刺突が施されている。

SI201・2000・8473・8061・8092・8465（図版 173・174-258 ～ 292）

SI201 は床面を中心に比較的多くの土器が出土している。深鉢を主体に浅鉢（278）、鉢（279）、注口土器（280）がある。1 群も定量認められ、堀之内 2 式～加曽利 B1 式（275・278）、南境 2 式？（273）が加わる。1 群のうち 278 は浅鉢の口縁部破片で、内面には 4 条の横位平行沈線が施され、突起下は弧状を呈する。273 は頸・胴部位に横位の平行沈線で区画される。口頸部は無文地に蛇行する平行沈線が施され、頸部区画線と共に平行して円形刺突が加えられている。3 群はＢ類を主体に、円形刺突文に斜行刺突が伴うＡ類の可能性が残るもの（270・271）が若干含まれる。ＢⅠ 1 類（258 ～ 263・269）、ＢⅡ 1 類（265）、ＢⅣ 1 類（264・266 ～ 268）がある。ＢⅠ 1 類のうち 258・259 は穿孔された突起下の円文を楕円形文がつなぐ。胴部には 5 ～ 6 条の蛇行する縦位沈線が施されている。262・263 は口縁部の楕円形文内に縦位の細い沈線が加わるもので、本遺跡では定量認められる。ＢⅣ 1 類の口頸部に施された横位沈線は、比較的沈線幅・間隔共に広いもの（264）、沈線幅が狭いもの（266 ～ 268）に分かれる。

後者のうち 267 は横位沈線下に縄文帯が配置されている。280 は注口部を欠くが器形Ⅰ類で、胴部には同心円状の文様が 8 単位で施され、4 条の孤線で結ばれる。1 ～ 2 期古の可能性があるもののほか（270・271・280）、2 期新（258 ～ 263・265・269・272・276・277）、3 期（264・266 ～ 268・275・278）などに分かれる。

SI2000・8473・8061・8092・8465 出土は、いずれも 3・4 群土器である。細片が多いが、3 群はＢⅠ 1 類（282・286）が主体となる。おおむね 2 期新が主体と考える。

c　掘立柱建物（図版 174 ～ 185-293 ～ 587）

平地建物と同様に時期比定を行うため、細片であっても時期比定が可能なものを中心に図化した。建物ごとでの出土土器量が比較的多いものは個別に、少ないものはほかの建物とまとめて記述する。また、3・4 群は比較的形態が把握できるものと、1 群を中心に記す。

SB3491・3492・3493（図版 174・175-293 ～ 304）

小破片のため明確でないが、1 群の可能性があるものを含む（296・298）。3 群は 301 が B 類である以外は、細別が難しい。

SB6377（図版 175-305 ～ 317）

1 群は 1 点のみで堀之内 2 式～加曽利 B 式（315）がある。深鉢のほか、鉢の可能性があるもの（305・313）を含む。3 群土器は A 類の可能性があるものが P6137（308・309）で認められるほかは、B 類が主体である。分類が可能なものはＢⅠ 1 類（306・310・311）であり、2 期新と考える。

SB7701・7700・7702（図版 175・176-318 ～ 342）

1 群は 1 点のみである。323 は東北北部の十腰内 1 式と考える。頸部は無文で、口縁部及び胴部上位には隆帯による円形浮文が施され、それぞれ沈線による楕円形文が施されている。色調も黄褐色を呈しており、ほかの土器とは異なる。主体となる 3 群は A 類が少ない（332・342）。342 は口縁部・胴部共に 3 条 1 単位とした垂下する沈線が間隔を空けて施され、口縁部のみ沈線で逆コ字状のモチーフが描かれている。B 類のうち文様構成が把握できるものはＢⅠ 1 類である（318・328 など）。

SB7703（図版 176 ～ 178-343 ～ 378）

大型掘立柱建物で柱穴が多く、掘り形が大きいことが要因か、数量とともに大型の破片の出土も多い。1 群は明確でなく、3・4 群に限られる。3 群のうち文様が類推できるものはＢ類が主体で、A 類の可能性があるものは少ない（368・376）。文様が把握できるものは多くないが、ＢⅠ 1 類が目立つ（347・357・360・371・372・374・375）。4 群は比較的大きな破片が多く、縦位沈線（352）、やや太めの格子目文（351・365）がある。1 期の可能性があるものは少なく（368・377 など）、2 期新が主体と考える。

SB7704・7705（図版 178・179-379 ～ 402）

いずれも出土量は多くないが、SB7705 の P2918 から比較的まとまって大型の破片が出土している。1 群ないしはその可能性があるものを定量含む（379・383・384・389・402）。

SB7704 は 3 群が 1 点のみで、ＢⅡ 1 類である（382）。2 期新の所産と考える。SB7705 の P2918 は堀之内 2 式の浅鉢（402）と、3 群ＢⅠ 1 類（398）の大型破片が出土しており、共伴資料と考える。398 は口縁部に斜位の刺突が、直下には逆三角形となる縦位沈線が施されている。この胴部モチーフはＢⅠ 1 類では類例に乏しい。402 は連続する小突起を有する口縁部直下には横位沈線が施されているが、ややおおぶりな突起下には円形のモチーフが施されている。399 は胴部の縦位沈線が逆三角形となる可

能性があり、398・402 とともに 3 期の可能性が高い。これ以外にも P6930 の 393、P2918 の 396・397 など 3 期の可能性があるものが多い。

SB7706・7707（図版 179-403 ～ 417）

小破片であるが、1 群の南境式の可能性があるものを 1 点含む（409）。409 は内傾する口縁部上位に 1 条の横位沈線が施され、直下に曲線状のモチーフが展開する。3 群は B 類が目立つが、A 類の可能性があるものを各掘立柱建物とも数個体を含む（403・408・414）含む。1 期（A 類）のほか、2 期（404・406・410・412・415 など）が主体となる。このうち浅鉢の 417 は 5 条の沈線により上向きの弧線文が施されており、沈線の集合化から 2 期の所産と考える。

SB7708（図版 180 ～ 182-418 ～ 488）

SB7703 と同様に大型掘立柱建物である本遺構は、柱穴が多く、掘り形が大きいことが要因か、数量と共に大型の破片も多くの土器が出土している。1 群ないしはその可能性があるものを多く含む。1 群は堀之内 2 式～加曽利 B1 式（431・444）、綱取 2 式（473）、綱取 1 式（485）、南境式？（418）がある。このうち 444 は波状口縁直下に入り組み文状のモチーフが垂下する。特に薄手で、色調は黒色を呈する。

3 群は B 類を主体に、A 類又はその可能性があるものを一定量含む（429・466・474・483 など）。このうち 466 は円形刺突を伴う突起下に、逆 U 字の太い沈線が施される。483 は横位沈線で区画された上下に U 字・逆 U 字状の沈線が施されたものと考える。B 類で文様構成が把握できるものは少ない。424 は口頸部の渦巻き文に加え、上下で方向の異なる斜位沈線によって鋸歯状のモチーフが描かれたものと考える。口縁部端部には斜位の刺突文が、直下の楕円形文には横位沈線が加わる。口縁部の楕円形文内に縦位の刺突や沈線が加わるものは本遺跡でも定量確認できるが、横位沈線が加わるものは少ない。

SB7709（図版 182-489 ～ 503）

1 群（501）・2 群（491）の可能性があるものを各 1 点含む以外は、3・4 群である。501 は上部で屈曲して内に入る胴部上位の破片で、刺突を伴う隆帯が施されている。系統は明確でない。491 は胴部上半の破片で、横位沈線で区画された下位に渦巻文と円形刺突が施されている。形態・器種共に推測の域をでないが、三十稲場式の注口土器と考えた。3・4 群ではやや太めの沈線で 4 条程度を一単位とした縦位施文が目立つ。縄文地に施文されたもの（495）のほか、磨消縄文（498・503）が定量認められる。3・4 群では 1 期～ 2 期古の可能性があるもの（495・500）のほか、2 期（490・499・502）に分かれる。

SB7710（図版 183・184-504 ～ 539）

1 群（525）ないしはその可能性があるもの（533）と、3・4 群である。525 は朝顔形の器形で、胴部上半には磨消縄文で大きめの枠状文が施されており、堀之内 2 式～加曽利 B1 式と考える。533 は剝落した部分が大きいが、残存部では縦位に棒状浮文が施されている。綱取式の可能性がある。

3・4 群は A 類ないしはその可能性があるもの（512・517・519・522・532）のほかは B 類である。P6562 の 515 は浅鉢の可能性が高く、口縁部には 5 条の横位沈線が巡る。P6549 の 517 は貫通する円形文の上下が弧線で囲われ、左右には沈線によって楕円形区画が配置される。大型の破片である 520 は、口縁部が斜位・縦位の刺突文が施され、胴部は 5 条の沈線で縦位のモチーフが描かれている。P4353 の 530 は突起下の貫通する円形文の両脇に、小さな円形刺突が 4 ～ 5 施されており、本遺跡ではほかに類例を欠く。

1 期～ 2 期に遡るものもあるが、主体は 2 期新と考える。

SB7711（図版 184・185-540 ～ 567）

1 群を定量含む（552・553・567）。552 は口縁部に上向きの弧線、直下には対弧状の文様が残る。553 は縄文地に蛇行文が、567 は円形刺突を伴う隆帯が施されており、いずれも綱取 2 式と考える。

3 群では A 類の可能性があるもの（541・545・566）もあるが、細片が多く判断に苦慮する。B 類とできるもの（559･562･564）以外､沈線は太いものが多い。555･560 は口縁部の楕円形区画内に刺突が伴う。

SB7711 ～ 7715（図版 185-568 ～ 587）

各遺構共に出土量は多くない。1 群の浅鉢（568）・鉢（582）以外は、3・4 群である。568 は波状口縁を呈し、口縁部に平行して上下 2 段の帯縄文が作出されている。堀之内 2 式～加曽利 B1 式と考える。582 は口縁上部に帯縄文が施されている。

3 群では A 類で 1 期～ 2 期古の可能性があるものは少なく（575･576･584 など）､おおむね B 類と考える。571 は突起下の口頸部に 6 列の縦位刺突が施されており 2 期新の所産である。B 類では 2 期新を主体に（569・577・583・585・587）、口頸部に横位沈線が施された 3 期のもの（578・580・586）が定量伴う。

d　杭　　列（図版 185-588 ～ 593）

平地建物・掘立柱建物と同様に時期比定を行うため、細片であっても時期比定が可能なものを中心に図化したが、それでも資料は少ない。杭列 1・2 を一括して記す。

杭列 1 は 1 点にとどまる。588 は 3 群 A 類の可能性があり、やや間隔を空けて太い縦位沈線が施されている。杭列 2 では P7046 でまとまって出土している。3 群 B 類のほか、4 群（593）、3・4 群の底部破片がある。592 は内面に漆の可能性がある黒色付着部が確認できる。付着範囲は割れ口にまで及ぶ。

e　大 型 柱 穴（図版 185・186-594 ～ 602）

各柱穴共に出土数が少ないことから、一括して記す。1 群を 1 点含む（600）。600 は堀之内 2 式～加曽利 B1 式の浅鉢で、口縁部には 4 条の横位沈線が残る。594 も 1 群の可能性があるが、細片のため明確にできない。それ以外は 3 群 A 類又はその可能性があるもの（595・602）、B 類（596・598・599・601）に分かれる。前者は口縁部の円形刺突が顕著であり、1 期～ 2 期古、後者は 2 期新と考える。

f　小型柱穴・柱穴（図版 186 ～ 188-603 ～ 672）

P571・1850 は共伴した石器・石製品の時期比定を行うため細片まで対象としたが、その他は比較的大型の破片を中心に図化した。おおむね 1 基柱穴から 1 個体の出土であるが、P414 では 2 個体出土している（610・611）。また、複数の柱穴出土同士が接合したもの（617 など）のほか、包含層出土土器と接合したものもある。中期の可能性があるものを含む（638）。以下では主なものの記述を行う。

石器･石製品が出土した P571 の 603 は条線によって対弧状の文様が施されている。同じく P1850 は、604・605 は 3 群で、やや太い沈線で施文された 605 は 1 期の可能性がある。

606 ～ 672 では分類ごとに記す。1 群ないしはその可能性があるものには、堀之内 2 式～加曽利 B1 式（623・628・634・646・648・650・662・670）、綱取式（625・631 ？・652）がある。堀之内 2 式～加曽利 B1 式では浅鉢（623・648・662）、鉢・深鉢（628・650・670）、壺（634・646）がある。634 は口頸部～胴部にかけて 5 条 1 単位とした横位沈線が施されているが､残存部から胴部上位は枠状文と考える。646 は口頸部に刺突を伴う隆帯が J 字状に施され、胴部最大径付近は渦巻き文が施されている。

綱取式の可能性があるもののうち、625 は上部に刺突を伴う隆帯で区画され、胴部には渦巻き系の文

様が施され、胴部の隆帯はＪ字状に垂下する。631 の文様構成はＢⅡ６類で、口頸部の突起下には逆三角形状の文様が、頸・胴部位の区画線は全周せず、楕円形状となる。胴部は突起下の対弧文間に渦巻き文が施されている。南三十稲場式との区分が難しい。652 は口縁部に貫通する円形文、胴部には同心円文系のモチーフが描かれている。

２群は１点のみである。609 は残存部には刺突文が施されていることから、三十稲場式とした。本遺跡では刺突が施された個体は本例と 731 に限られる。

３群は深鉢を主体に鉢（606・655・672）、注口土器（654）がある。鉢は器形Ⅱ類（655）・Ⅳ類（606・672）がある。655 は縄文地上に２条の横位沈線で区画が行われ、下位には渦巻状の文様が施されている。606 は口縁上端に刺突文が、直下には横位沈線を伴う楕円形区画が施されている。672 は波状下の貫通する円形刺突に同心円文が伴い、無文の頸部と横位沈線間に刺突を伴う区画が配置されており、Ｂ類と考える。注口土器の 654 は器形Ｉ類で、沈線によって区画された胴部には渦巻文と鋸歯状沈線が施されている。文様表出から２期と考える。

深鉢のうち３群Ａ類(又は可能性があるもの)は、文様構成が把握できるものは少ない。縦位沈線が多いが、縄文地上（618・632）、無文地上（630）、磨消縄文（614・615・653）に分かれる。口縁部文様は突起下に短沈線（618）、渦巻き文（632）があり、いずれも左右は楕円形区画文が配置される。632 の楕円形区画内には斜めの刺突文が伴う。

３群Ｂ類は最も数量が多い。文様構成が分かるものはⅠ１類（616・617・658・666・668）を主体に、Ⅱ１類（647・669）、Ⅱ６類（657）がある。Ⅰ１類のうち 616・617 は残存率が高い。616 は口縁部突起間を、617 は突起下の円形文を楕円形区画がつなぐ。616・617 の胴部文様は、主として４条一単位の沈線で表出される。616 は縦位沈線間に蛇行する沈線区画が施されている。縦位沈線には蛇行沈線との接触部分で「し」の字状連結する部分や、口縁部から斜位に連絡する沈線が加えられている。617 の胴部文様はタスキ状に施される。いずれも沈線が細く、集合化が認められるが、後続する２期新より古い様相があり、器形からも２期古と考える。このほか 658 は逆Ｕ字状の刺突文に沿って沈線が加わる単位と、省略された単位が認められる。同じく 668 は縦位沈線間が縄文施文のみと、刺突を伴う短いＵ字沈線が施された単位が交互に配置される。Ⅱ６類は本遺跡でも出土例が少ない。657 は頸・胴部位の横位区画沈線は周回せず、突起下に施された２段の円形刺突を基点に楕円形区画となる。

それ以外のものは２期新が主体と考えるが、本遺跡でやや目立つものに、口縁部の楕円形区画内の刺突文がある。本類でも 629・640 などで認められる。また、数量は少ないが、口縁部に２段にわたって円形刺突が施されたものが定量存在する（626・636・637）。

４群はＡ類の可能性があるものはＩ類である。口縁部の文様は楕円形文(613)、指頭圧痕･円形刺突(624･639・643)、１条の横位沈線（642）に分かれる。いずれも３群の口縁部に認められる文様である。４群Ｂ類(610･611･620･665)はいずれも括れを持たないⅡ類である。胴部文様はRL縄文(610)、LR縄文(611)、RL・LR縄文（665）、撚糸（620）に分かれる。

g　埋設土器（図版 189-673 ～ 685）

数量が少ないため、一括して記す。胴部上半ないしは下半を欠くものが多い。壺は１点（682）のみで、深鉢が多い。３・４群に限られる。682 の口頸・胴部位は、刺突列の上下が横位沈線に刺突列が加わり、区画とされる。深鉢の３群はＡ類ないしはその可能性があるもの（673・675・680）とＢ類（674・677・

679)、4 群（676・678・681・683 ～ 685）がある。673 は磨消縄文、675・680 は縄文地に沈線が施されている。674 は口縁部に楕円形文が連続し、上下に斜位の刺突列が加わる。胴部のやや太い縦位沈線は集合化が認められることから、2 期古と考える。679 は括れ部付近に横位区画が認められないことから、Ⅰ 4 類と考える。括れ部には円形状の文様が施され、直下には刺突列の左右を垂下する沈線で囲われている。左右には集合沈線による鋸歯文が対弧するモチーフとなる。このようなモチーフは本遺跡で数点確認できる（378)。680 は 3 ～ 4 条の沈線で逆 U 字状の文様が施されている。

4 群のうち 683 は条線で文様が施され、横線によって口縁部と胴部が区画され、胴部には縦位と上向きの弧線で文様が表出されている。676 の底面付近には横位の条線が残る。残存部は RL 縄文（676・684)、LR 縄文（678)、無文（685）に分かれる。

h　袋 状 土 坑（図版 189 ～ 191-686 ～ 721）

SK5686（686 ～ 691）：完形・略完形品が多い。3 群（686・690)、4 群 B 類（687 ～ 689・691）がある。3 群のうち 690 はＢⅠ 1 類の可能性が高い。4 群 B 類は縄文施文のみ（687・689)、縦位沈線を基調に施文されたもの（688・691）に分かれる。688 は縦位沈線後に楕円形文や、不規則な施文が加わる。これは 691 も同様で、縦位沈線後に曲線状の文様が施されている。おおむね 2 期新のまとまりと考える。

SK1318（692・693）：3 群 B 類が 2 個体ある。692 はⅠ 1 類、693 はⅡ 1 類である。693 の口頸部は縦位沈線を基本とするが、突起・小波状下に渦巻き文が伴う。渦巻き文は口頸・胴部区画内にも大小の 2 個が認められるが、口頸部のものとは連結しない。2 期新のまとまりと考える。

SK1317（694・695）：いずれも 3 群 B 類で、Ⅱ 2 類（694）とⅣ 1 類（695）がある。695 の口縁部には突起部以外に刺突が施されている。口頸部は途切れ途切れの横位集合沈線が 3 帯認められ、間に縄文帯、刺突列が加わる。

SK1316（696 ～ 712）：前期後半～中期前半のもの（708)、2 群（702）を各 1 点含む。後期前葉では 3・4 群の鉢・深鉢を主体に、1 群を数点含む（698・712)。1 群のうち 698 は堀之内 2 式で、朝顔形の器形を呈し、口縁部は 1 条の横位沈線で区画され縄文が磨り消される。712 は南境 2 式の鉢で、磨消縄文によって胴部には曲線状のモチーフが横位に展開する。3 群の深鉢はＢⅡ 1 類（699 ～ 701・703）を主体に、ＢⅠ 1 類（704）がある。704 は口縁部に渦巻き文が施されている。4 群はＡⅠ類（705･706）とＢⅡ類（697･707・709 ～ 711）に分かれる。ＡⅠ類の口縁部文様は波頂部のみへの刺突（705）と、波頂部の円形刺突を 1 条の横位沈線がつなぐもの（706）に分かれる。B 類の地文は RL 縄文（709)、無文（710・711)、LR 縄文（697)、集合沈線（707）など多様である。小さな破片（702･708）以外は、2 期新のまとまりと考える。

SK1912（713 ～ 717）：1 群（714)、3 群（715 ～ 717)、4 群（713）がある。714 は磨消縄文によって三角文が抽出された堀之内 2 式と考える。3 群は細片の 716 が明瞭でないが、715･717 はＢⅡ 1 類である。717 の口頸・胴部区画内には 3 段の円形刺突列が配置されている。4 群は B 類で、RL 縄文が施されている。おおむね 2 期新のまとまりと考える。

SK4998（718 ～ 721）：3 群（721）と 4 群（718 ～ 720）がある。721 は頸部に横位の刺突列が伴い、ＢⅡ 1 類と考える。4 群はいずれも B 類で、わずかに括れを持つⅠ類（718）と、括れを持たないⅡ類（719･720）に分かれる。いずれも縄文が施文されている。

i　土　　坑（図版 192 ～ 196-722 ～ 801）

比較的残存率の高い個体や大型破片が複数個体出土したもの（① -SK3502・748・754・123・4629）、完形・略完形品が 1 個体程度のもの（② -SK3216・1127・745・5280・21）のほかは、③破片資料が多い。①・②は遺構ごとに、③は図版ごとを基本にまとめて記述する。

SK536・535（図版 192-722 ～ 727）：3・4 群の小破片である。3 群はＡ類ないしはその可能性があるもの（723・724）、Ｂ類の可能性があるもの（722・726）に分かれる。

SK1861（図版 192-728 ～ 730）：3 群（728・729）と 4 群の可能性があるもの（730）がある。3 群はいずれもＡ類と考える。728 はⅠ 1 類で、口縁部にはやや間隔の空いた指頭圧痕が施されている。729 は口縁部に楕円形文が連続して施され、口頸部には縄文地に逆Ｕ字縦位沈線に連絡する斜位沈線が伴う。730 は残存部において沈線状の文様が確認できるが、表出方法は不明である。1 期のまとまりと考える。

SK3216（図版 192-731・732）：2 群の注口土器（731）と 3 群の口縁突起部の破片（732）がある。731 は略完形品で、三十稲場式新段階の注口土器として希少である。器形Ⅱ類で、注口部を基点として 2 条の沈線により上向きの弧線内が描かれ、4 単位の渦巻き文が伴う。

SK1127（図版 192-734）：底面を欠くが、横方向では 2/3 が残存する。3 群ＡⅡ 2 類で、2 個 1 組となる小突起は 4 単位で、直下には 3 個の円形刺突間に弧線が施されている。口頸部は突起下に 3 条 1 単位とした縦位沈線が 2 単位施され、胴部は縄文地上に逆Ｕ字状のモチーフが連続する。口頸・胴部位の区画線は胴部の文様と対応してＵ字状となり、突起下は円形刺突を挟んで口頸部文様と接する。スス・コゲが付着していないことから、煮沸経験がないものと判断した。

SK1023・3220・3148・3147・6725・6663（図版 192-733・735 ～ 740）：1 群（740）、3 群（735 ～ 738）、4 群（733・739）がある。1 群は綱取 2 式で、縄文地上に文様が施文される。口縁部は 1 条の横位沈線で、胴部は縦位沈線で区画され、間に蛇行、曲線状の縦位沈線が伴う。3 群は破片のため細分が困難であるが、Ｂ類の可能性が高い。口縁部文様は指頭圧痕に斜位の刺突が伴うもの（735）、刺突を伴う楕円形区画（737）、貫通する円形文（736）に分かれる。

SK3502（図版 193-741 ～ 744）：3 群（741 ～ 743）と 4 群（744）がある。3 群はＢ類の可能性が高い。741 はⅠ 1 類で、突起下には貫通する円形文が施され、間が楕円形文でつながれる。口頸部は縦位沈線間にＣ字状の曲線が連結する。2 期の所産と考える。

SK3591（図版 193-745）：3 群の注口土器である。口縁部を欠くが、器形Ⅰ類と考える。口頸・胴部には刺突を伴う隆帯で区画され、胴部には渦巻き状の単位文様に、刺突を上下で区画した横位区画が連結したものと考える。胴部下位の区画は明確でなく、縦位沈線が最大径以下にも及ぶ。

SK3754（図版 193-748・749）：残存率の比較的高い 4 群土器である。748 は大波状口縁、749 は平口縁である。地文はいずれも LR 縄文で、748 には縦位の綾繰文が加わる。

SK2338・917・3758（図版 193-746・747・750・751）：3 群（746・747）と 4 群（750・751）である。3 群はＡ類の可能性があるもの（747）とＢ類（746）に分かれる。750 は頸部に RL 縄文が施されていることから 4 群と判断した。突起下には 2 段の円形刺突が残る。

SK3695（図版 193-752 ～ 755）：3 群Ｂ類（752・753）と 4 群（754・755）がある。752 はⅠ 1 類で口縁部には連続する楕円形文が巡る。753 の胴部縦位沈線は下方ですぼまり、逆三角形を呈する。3 期でⅣ 1 類の可能性がある。754 は頸部が括れる特異なプロポーションで、胴部内面に穀粒状の黒色付着コゲが

認められる（図版 409 上段）。胴部外面は条線による曲線が描かれている。

SK3922（図版 193・194-756 ～ 759）：3 群（756・757）・4 群（759）の深鉢と、鉢（758）がある。3 群のうち 756 は A 類の可能性がある。縦位沈線に連絡する斜位の沈線が認められる。758 は突起部の内外面に円形浮文が施されている。

SK3946（図版 194-760 ～ 763）：3 群（760・761・763）と 4 群（762）がある。3 群のうち 761 は A Ⅱ 5 類の可能性を残す。胴部下半の破片である 763 は残存部に渦巻き文が横位に連続する。下端は 2 条の横位沈線で区画されており、B Ⅴ類となる可能性もある。2 期新の所産と考えるが、このような文様構成と表出は本遺跡で唯一である。

SK385・348・340・125・122・156・78・79（図版 194-764 ～ 775）：1 群の可能性があるもの（772）、3 群（764 ～ 768・770・771・773・774）、4 群（769・775）がある。772 は文様構成が明確でないが、口縁部から連続する刺突が縦位に施されていることから、綱取式の可能性がある。3 群は 764 を除き B 類と考える。文様構成が分かるものでは、766 が Ⅰ 1 類で、口縁端部には刺突が、直下には楕円形文が連続する。4 群は口径が 35cm を超える大型品で 769 は LR･RL 縄文が、775 は LR 縄文が施されている。

SK123（図版 195-776 ～ 786）：出土量は最も多い。1 群（779 ～ 781）、3 群（776 ～ 778･782･783）、4 群（784 ～ 786）がある。1 群はいずれも堀之内 2 式で、779 は磨消縄文による枠状文、780 は菱形文ないしは三角文、781 は類例の検索ができていないが対弧文と考える。

3 群はいずれも B 類で、Ⅰ 1 類（776・783）、Ⅱ 1 類（777・778）である。782 は胴部を欠くため明確でないが、Ⅱ 6 類の可能性がある。777 は口頸部が縦位沈線を基調に U 字状、下端が「し」字状になる単位が連続する。胴部も同様で、縦位沈線を基調に渦巻き文 + 逆 U 字、逆 U 字の単位が連続する。783 は上下の横位沈線間が無文であり、3 条の口縁・胴部界に渦巻き文、直下から刺突列が垂下する。渦巻き文は 3 単位、垂下する刺突列は 5 単位で、間に垂下する集合沈線が加わる。

4 群は A 類（785）と B 類（784・786）に分かれるが、785 は器形Ⅱ類の鉢で、口縁部には刺突が周回する。胴部は LR 縄文 L 撚りが施されている。

SK5280（図版 195-787）：3 群 A Ⅰ 3 類である。口縁部には 4 個 1 単位となる円形刺突が 5 単位施され、間をやや幅広な横位沈線でつながれる。胴部文様は U 字・逆 U 字内の縄文が磨り消されている。縦位沈線の間隔から集合化の傾向が認められる。

SK115・4816・160・769・5009・4645（図版 195-788 ～ 792・794 ～ 796）：1 群（795）、3 群（788・790 ～ 792・794・796）、4 群（789）がある。1 群は堀之内 2 式～加曽利 B1 式で、口縁部内面に 2 条の沈線が巡る。3 群は破片資料が多いが、文様が比較的把握できるものは B 類が多い。796 の口縁部に施された楕円形文内には 2 条の横位沈線が巡る。789 は胴部中位で屈曲して内に入り、直立して口縁部に至るプロポーションで、胴部には RL 縄文が施文される。破片資料も多いが、2 期新のまとまりと考える。

SK21（図版 195-793）：3 群 B Ⅱ 1 類である。同類に比して頸部の括れが強い。口頸部は縦位沈線が施されているが、突起下のみ横位の短沈線が加わる。口頸・胴部界には上下 2 条の横位沈線内に 2 段の刺突列が加わる。

SK4629（図版 196-797 ～ 801）：深鉢のほか、1 群の可能性がある鉢（799）、注口土器（801）がある。799 は器形 I 類である。残存部位から磨消縄文による対弧文で、堀之内 2 式の可能性がある。

801 は器形 I 類で、剝落しているが、注口に対向する部分に把手が付くものと思われる。口縁部と胴部は隆帯により区画され、胴部には注口部を基点として 4 単位で縦位集合沈線が施される。胴部は上下

を横位集合沈線で区画され、縄文が磨り消される。深鉢は３群Ｂ類で、Ⅱ１類（797）、Ⅰ１類（800）がある。破片資料を含むが、２期新のまとまりと考える。

ｊ　流　　路（SD5186）（図版 196 ～ 201-802 ～ 885）

調査区中央から北側に位置する自然流路で、覆土上層から残存率の高い土器、大型の破片が多く出土している。特に遺物が集中する３か所は、集中Ⅰ～Ⅲとした。隣接する集中Ⅱ・Ⅲ同士の破片が接合した例もある。以下では集中Ⅰ～Ⅲ、集中外は大グリッドごとに記す。

集中外（８・９ライン）（図版 196-802 ～ 808）：１群ないしその可能性があるもの（802・808）、３群（803 ～ 806）、４群（807）がある。802 は口縁部に楕円形の隆帯が塗付されている。口縁部にはやや太い沈線により文様が表出されている。808 は口縁部から縦位に連続する対弧文と、逆Ｖ字状の文様が施されている。同様の器形は検索できていないが、綱取２式の可能性がある。

３群はＡ類と考える。文様構成は明確でないが、806 の頸部には渦巻き文が、805 は縦位にＶ字状沈線が加わる。口縁部文様は楕円形文が主体になり、805 は突起下の貫通する円形刺突を両側で弧線が囲う。１期の所産と考える。

集中Ⅲ（図版 196 ～ 198-809 ～ 837）：深鉢を中心に、壺・注口土器の可能性があるものを含む（834 ～ 837）。深鉢は１群を１点（822）含む以外は３群で、Ａ類が主体となる。822 は１条の横位沈線で口縁部が磨り消される。突起下に縦列する２個の円形刺突があり、直下の蛇行文を２条の逆Ｕ字状沈線が囲う。綱取２式である。

３群の深鉢はＡⅡ１類（809･810）、ＡⅡ２類（813･814･819）、ＡⅡ５類（816･817･820）、ＡⅡ６類（811･812）、ＡⅣ８類（815）、ＢⅠ１類（821･825）のほか、判別が難しいもの（823･824･826）などに分かれる。

ＡⅡ１類のうち 810 は立体的な突起を伴う。口頸部の縦位沈線は、口頸・胴部位の区画線に一部でつながる表出と考える。ＡⅡ２類のうち 813 は縄文地に広く特に浅い沈線で文様が施文される。口頸部のＵ字状沈線と胴部の逆Ｕ字状沈線は連結しており、口頸・胴部区画線は５単位で途切れる。口頸・胴部区画線が全周しない。突起下で途切れる点はＡⅡ５類も同様である（814）。818 は口縁部には 90 等と同様に車輪状の突起を有し、口頸部には隆帯による縦位のモチーフが表出されている。在地の伝統では理解しがたく、他系統の要素を取り入れた可能性がある。ＡⅡ５類の 814 の胴部には逆Ｕ字状の文様が施され、一部は口頸・胴部位に連結する。突起下部分には円形刺突が加わることで、口頸・胴部区画線は全周しない。Ⅳ８類の 815 は口縁部に刺突が巡り、突起下に渦巻き文が施されている。口頸部には縄文地に方形状と「し」字状の文様が、胴部には逆Ｕ字状の文様が残る。

４群はいずれもＢ類で、Ⅰ類を１点（833）含む。波状口縁も少なくない（831・832）。地紋はＲＬ・ＬＲ縄文（827・829）、ＬＲ縄文（831・833）、ＲＬ縄文（832）、無文（828・830）など多様である。

層をまたいで接合するものが多いが、大型の破片はⅢ a1 層～Ⅲ a2 層が多い。小型破片のうち 823 はⅢ a2 層、ＢⅠ１類の 821 や分類が難しい 824・825 はⅢ a1 層である。このことから、大型の破片はおおむね長割１期のまとまりとして捉えたい。

集中Ⅱ（図版 198 ～ 200-838 ～ 860）：深鉢のほか、鉢･浅鉢がある（855･859･860）。深鉢は３群を主体に、２群を１点含む（853）。853 は突起下に隆帯が施されている。２条の横位沈線による区画された胴部には円形のモチーフが表出されている。

３群はいずれもＡ類で、文様構成が分かるものはＡⅡ２類（840･842）、ＡⅡ５類（838･839）、ＡⅡ１類（851）

がある。ＡⅡ５類のうち 838 は突起下から胴部にかけて１条の沈線が垂下する。突起には貫通する円形刺突があり、綱取式との関連が予想される。また、口縁部に施された横位沈線の両端には円形刺突が施されたものが多く（838 ～ 843・846）、この点も綱取式の要素と考える。集中Ⅰと同様に口頸・胴部位の横位区画線は、全周しない傾向にある（838・843）。

４群はいずれもＢ類で条線（854）、LR・RL 縄文（856）と無文（857・858）に分かれる。浅鉢・鉢は無文のもの（855）、Ｖ字状集合沈線（859）、口縁部に渦巻き文＋刺突を伴う横位沈線（860）に分かれる。このうち 860 は堀之内１式と考える。859 は内外面にスス・コゲが厚く付着しており、煮沸に使用されたものと考える。破片資料はあるものの、おおむね長割１期のまとまりと考える。

集中ⅡとⅢで接合（図版 200-861 ～ 864）：４点確認した。いずれも３群Ａ類と考える。Ⅰ１類（863・864）、Ⅱ５類（861）、Ⅱ６類？（862）に分かれる。861 は４単位の突起下には円文が施され、左右の円形刺突を幅広い横位沈線がつなぐ。胴部は逆Ｕ字状の集合沈線と口頸・胴部区画線から伸びる逆三角形状の沈線が左右に配置される。集中Ⅰ・Ⅱのものと同様に、口頸・胴部区画線は全周しない。864 は１条の横位沈線で区画された口縁部は無文である。胴部は逆Ｕ字状のモチーフが連続するが、逆Ｕ字部に垂下する１条の沈線が加わる部分と、省略された部分が交互に配置される。いずれも長割１期のまとまりと考える。

集中外（10D）（図版 200-865 ～ 871）：2 群の注口土器（871）、3 群（865 ～ 868）の深鉢のほか、浅鉢１点（870）がある。871 は隆帯により口縁部と胴部が区画され、口縁突起部と隆帯を結ぶ橋状把手が確認できる。3 群は明確でない 866 を除いてＡ類である。866 はごく浅い沈線で文様表出されたⅡ２類で、869 と共に口頸･胴部区画線は全周しない。868 は立体的な突起下に斜め方向に貫通する円形刺突が施されたか所（図･右側）や、小さな環状把手や円形刺突が伴う（図・左側）など、やや特異な文様が施されている。870 は口縁部に３条の太い横位沈線が施されている。内面にはコゲが付着しており、煮沸経験を有する。

集中Ⅰ及び 11D 周辺（図版 201-872 ～ 881）：細片のため明確でないが、１群ないしはその可能性があるもの（874･876）、３群（872）･４群ないしはその可能性があるもの（875･877 ～ 880）、鉢（881）がある。874 は口縁突起下の貫通する円形刺突下に上下２個の円形刺突を結ぶ沈線を伴う隆帯が認められるもとから、綱取２式と捉えた。876 は朝顔形の器形で、文様は堀之内２式の枠状文の可能性がある。872 はＡⅠ４類で、口縁部に指頭圧痕が、胴部には垂下する沈線に鋸歯状の斜行沈線が施されている。４群はＡ類（875、877?）、Ｂ類（879･880）がある。地文は RL 縄文（875）、LR・RL 縄文（878）、LR 縄文（879･880）に分かれる。881 は口縁部付近に半截竹官による横位の刺突列が２条施されている。類例が検索できず、系統は不明である。

集中外（12 ～ 13D）（図版 201-882 ～ 885）：3 群Ｂ類（882･883･885）と１群の可能性があるもの（884）がある。882･883 はⅣ１類で、口頸部には横位沈線が施されている。882 は突起下に円形刺突が施され、これと接する横位沈線で口縁部が区画されている。また、突起下にはＵ字状の集合沈線、これに接して縦位沈線が施されるなど、本類ではやや特異である。883 は口頸部の横位沈線間に無文帯を含む。共に胴部は逆三角形となる縦位沈線が施されており、３期と考える。

884 はⅡ類の文様構成となるが、系統が明確でない。口縁部に粘土貼り付けによる突起の両側に楕円形ないしは幅の広い沈線が巡る。口頸部は４条の沈線によって、縦位と上向きの弧線が施されている。

882 はⅡｂ層、883・884 はⅢａ層出土であることから、おおむね調和的な出土状況である。

k　不明遺構（図版 201 ～ 203-886 ～ 912）

残存率の高い個体が複数検出されたものは遺構ごとに、それ以外はまとめて記す。

SX6185（図版 201・202-886 ～ 893）：3 群（886・888 ～ 891）・4 群（892）の深鉢、鉢（887）、壺？（893）がある。3 群の深鉢はⅠ 1 類であるが、A 類と B 類との区分が難しいものを含む。やや太い沈線で、4 ～ 5 条一単位に施文されており、一部で集合化が認められる。886 は立体的な突起を有する。胴部には縦位沈線に連結するタスキ状の文様が表出されており、宮城県二屋敷遺跡［加藤ほか 1984］出土土器等が類似する。口縁部文様は縦位刺突列（889）・貫通する円形刺突（888）間に長方形状の楕円形文が施されたものと、指頭圧痕（890・891）に分かれる。890・891 の胴部文様は、逆 U 字の沈線に縦位沈線が伴うモチーフで共通する。鉢の 887 は括れを持つⅣ類の器形で、口縁部には貫通する大きな円形刺突文と蛇行する沈線を伴う楕円形区画が配置される。胴部には渦巻き状の文様が観察できる。893 は壺ないしは注口土器で、磨消縄文手法によって渦巻き文系のモチーフが表出されている。1 群の南境 2 式の可能性があるが、明確にできない。

これらの土器群は、比較的大型の破片が多く、その特徴は 1 期よりも新しく、2 期の主体となる土器群よりも古い様相が認められることから、その中間に位置する 2 期古のまとまりと考える。

SX1579・1554・207・2204・1576・5892（図版 202-894 ～ 902）：中期末葉の大木 10 式（895）1 点を含むが、その他は後期前葉で、1 群（896・900）、3 群（894・898・902）・4 群（899・901）がある。895 は特に厚手な点で異質である。撚糸を地文とし、方形区画内に円形刺突が施されている。1 群はいずれも南境 2 式と考える。896 は波状口縁下に方形区画が作出され、縄文が磨り消される。900 も磨消縄文によって曲線状モチーフで表出されている。3 群はいずれもⅠ 1 類で、898 は A 類の可能性があるが、そのほかは B 類である。4 群のうち 901 の口縁部には粘土貼り付けにより長方形区画が作出されている。括れ部には焼成後、内外面から穿たれた孔が 1 つ確認できる。

SX5436・118・4788・4646・117（図版 203-903 ～ 912）：1 群の可能性があるもの（912）、3 群（903 ～ 907・910・911）、4 群（908・909）がある。912 は横位の区画線付近に施された上下の円形刺突が沈線で囲われる。胴部は上向きの弧線が集合沈線で表出されており、綱取 2 式と考える。3 群は B 類の可能性が高い。Ⅱ 1 類（904・905・906）とⅣ 1 類（903・907）に分かれる。後者のうち 907 の口頸部の横位沈線は幅・間隔ともに広い。

l　包　含　層（図版 203 ～ 208-913 ～ 1031）

比較的残存率の高いもの、遺構出土では網羅できない文様構成を持つもの等を掲載した。以下では大グリッドによるラインごとで、特徴的なものを中心に記す。

2 ～ 3 ライン（図版 203-913 ～ 920）：注口土器（913）のほか、3 群（915・916・918 ～ 920）・4 群（914・917）の深鉢がある。注口土器は破片資料であるが、胴部には円形浮文と粘土紐貼り付けによる階段状のモチーフが表出されている点で、991 と類似する。突起上面に施された線状の孔は、深鉢の 979 と共通する。系統は明確にできないが、東北北部の可能性がある。920 は 3 群 A Ⅱ 5 類で、金魚鉢形を呈する。信州地方に多い器形であるが、文様表出から 3 群とした。胴部の渦巻き文は 4 単位である。

4 ライン（図版 203・204-921 ～ 928）：1 群ないしはその可能性があるもの（921・926 ～ 928）、3 群（922・924・925）・4 群（923）の深鉢がある。921 は器形Ⅰ類の鉢で、残存部から菱形文内に△状のモチーフ

が施されたものと考える。堀之内２式系統と考えられるが明確でない。926 は横位集合沈線により区画内に２条の波状文が施された単位が２段に及ぶ。「多条横線区画の多条束線連続入り組み文」で、東北南部の加曽利 B1 式併行期に散見されるもの［鈴木 1995］と考える。927 は南境２式の鉢か、928 は加曽利 B1 式の浅鉢と考える。

5 ライン（図版 204-929 ～ 935）:　１群（929）、３群（930 ～ 933）、４群（934）、系統不明（935）がある。929 は加曽利 B1 式の深鉢で胴部文様は横位の条線による。931 は１条の横位沈線で区画され、口縁部は斜位の刺突が施されている。胴部の縦位沈線は下位ですぼまって逆三角形を呈することから、３期と考える。930 も扁平な突起から３期と考える。口頸部は無文帯があり、突起下から口頸・胴部位の横位沈線まで縦位の細かな刺突列が加わる。935 は器台、鉢等の台部の可能性があるが、明確にできない。底面付近には渦巻き状の沈線が施されている。

6 ライン（図版 204･205-936 ～ 948）:大木９式の可能性があるもの（943）、１群の可能性があるもの（939 ～ 942・944・945・947・948）、３群（936・937・946）等がある。１群は堀之内２式～加曽利 B1 式（939 ～ 942・945）のほか、南境２式（947・948）がある。947・948 はいずれも鉢で、磨消縄文により三角形状のモチーフが表出されている。936・937 はＢⅣ１類で３期と考える。

7 ライン（図版 205-949 ～ 957）:１群（951 ～ 955･957）が主体である。堀之内２式～加曽利 B1 式（952･954･957）、綱取２式（951）、東北南部系（953）等がある。951 は蛇行文から、953 は 926 と同一のモチーフであることから判断した。952 は残存部で三角文が確認できることから堀之内２式と考える。955 の浅鉢は残存部で三角文の可能性があるモチーフが表出されている。954 は円形の文様から堀之内２式の影響を模索したいが、返りのある口縁部と共に系譜を明確にできない。956 は器形Ⅱ類の鉢で、渦巻き文が表出されている。

8 ライン（図版 205-958 ～ 964）:１群（958 ～ 961）、３群（962 ～ 964）がある。１群は堀之内２式～加曽利 B1 式が多い。深鉢（958）、鉢（959）と浅鉢（960・961）がある。958 は胴部に渦巻き文が、959 は三角形状の文様が施されている。浅鉢はいずれも加曽利 B1 式で、960 は立体的な球状の突起部分である。突起部分には円形のモチーフが連続する。961 は突起下内面に半円形・円形のモチーフが横位集合沈線の上下に配置されている。３群は貫通する円形文が２個配置された大型の突起をもつ 962 を含め、Ｂ類と考える。963 はＢⅡ１類で、内面上端にも横位沈線が周回する。

9 ライン（図版 206-965 ～ 978）:１群ないしはその可能性があるものに（966･968･972）、２群（978）、３群（965･967・973 ～ 975）・４群（969・970・976）の深鉢のほか、鉢（974）、壺（971・977）がある。１群は堀之内２式～加曽利 B1 式で、鉢・深鉢（966・968）と壺（972）がある。968 は括れを有する器形で、沈線区画内に円形のモチーフが連続する。978 は橋状把手が一部欠損する。胴部には突起下の円形刺突を基点に弧線が連続する。３群はＡ類（973）とＢ類（965・967・975）がある。973 はⅣ８類で、貫通する３つの円文が施された台形状の大きな突起を有する。残存部には渦巻き文が横位に連続する。Ｂ類の 967 は 931 と同様の文様表出で、３期の可能性がある。965・975 はＢⅣ１類で、口頸部文様は 965 がやや太い横位沈線が、975 は横位沈線間にやや乱雑な刺突帯が介在する。壺はいずれも口縁部が無文、胴部には縄文が施文されている粗製品である。974 は器形Ⅰ類で、口縁部の楕円形文内には１条の横位沈線が伴う。

10 ライン（図版 206・207-979 ～ 992）:１群の可能性があるもの（984・985・991・992）、３群（979 ～ 982・986）・４群（983・987 ～ 980）の深鉢がある。984 は突起上面に８字状の円形刺突が施されている

点は3群ＢⅣ1類と共通するが、突起下に刺突を伴う隆帯が垂下する手法は、綱取式の特徴のため1群の可能性があるとした。985は磨消縄文手法による幅広な縄文帯が表出されており、堀之内2式～加曽利B1式と考える。3群はいずれもＢ類である。982以外はＢⅣ1類である。口頸部には横位集合沈線が施されているが、縄文帯（981・986）・刺突列（980）が介在するもの、横位沈線のみのもの（979）がある。横位沈線のみのものは沈線が細密である。986は979と同様に途切れ途切れとなる横位沈線であるが、太い点で異なる。突起上面は扁平な8字状（980・986）と、長方形状の扁平な突起に沈線が加わるもの（979）があり、後者は注口土器である913の突起に類似する。同じく991は口縁部から胴部にかけて階段状の隆帯で文様が表出された点で913と類似する。環状把手には円形刺突を縦位沈線でつなぐ手法が認められることから、十腰内式・綱取式との関連が予想される。992は渦巻き文が施されている突起上面と、三角文が表出された突起から堀之内2式と考える。

11ライン（図版207-993～1007）：1群（998～1002、1005、1007）、3群（993～997）・4群（1003・1004）がある。1群は堀之内2式～加曽利B1式が主体で、南境2式を1点（1007）含む。前者は渦巻き文が施されたもの（1001･1005）、帯縄文（1002）などがある。1007は磨消縄文により曲線状のモチーフが表出され、基点に円形刺突が伴う。4群としたもののうち、1003は残存部に多数の円形刺突が認められる。2群の可能性があるが、突起上面が8字状の円形刺突を伴うことから、3期の粗製土器となる可能性がある。山形県最上町かっぱ遺跡［水戸部2003］に類例を求めたい。また、斜位の短沈線状の文様が施された1004は990と共通する様相であるが、系統は不明である。

12ライン（図版207-1008～1013）：1群の可能性があるもの（1009・1013）・3群（1008・1010・1011）の深鉢と、鉢（1012）がある。1013は刺突を伴う縦位の隆帯から綱取式との関連が予想される。3群はいずれもＢ類で、Ⅳ1類（1010）とⅡ6類（1011）に分かれる。1010の口頸部文様は、弧線を伴う縄文帯 - 横位集合沈線 - 無文帯 - 口頸・胴部位の横位集合沈線となる。胴部は縄文帯に渦巻き文が伴うが、下半は磨り消されている。突起はやや立体的な8字状で、3期の典型例（979など）に比して、古い様相が多い。

13ライン（図版208-1014～1018）：1群の可能性があるもの（1016）、3群（1014･1015･1017）の深鉢、注口土器（1018）がある。1016は括れ部に区画となる横位沈線が施され、「く」の字に屈曲した口縁部には、縄文地にやや角ばった工具による刺突が加わる。円形刺突は密で横位に3条構成となる。1003と同様に山形県かっぱ遺跡旧河道SG21出土のⅣ群土器（加曽利B1式併行で、十腰内1式の一部、2式の一部に類似するもの）とされたものに類似する。1018は注口部を欠くが、渦巻き文を主体に斜位の集合沈線で文様が表出されており、2期の所産と考える。

14ライン（図版208-1019～1029）：1群ないしはその可能性があるもの（1023・1028）、3群（1019～1022・1027）・4群（1024）の深鉢、壺ないしは注口土器（1025）、浅鉢（1026）、鉢（1029）がある。1023は朝顔形の器形で、胴部には磨消縄文による枠状文が表出された堀之内2式である。1028は細い横位沈線で口・胴部が区画され、口縁部は無文である。胴部は逆Ｕ字状の文様に弧線が伴う。系統は明確にできないが、綱取2式の可能性がある。1019は、口頸部上位の無文帯が広いためＢⅡ6類とした。横位集合沈線 - 刺突列 - 口頸・胴部区画の横位集合沈線で文様が表出される。1025は小型で残存する胴部上位には円形刺突が多数施されている。1029は器形Ⅱ類で、胴部には渦巻き文と左下がりの斜位沈線で文様が表出されている。

15・16ライン（図版208-1030・1031）：1群（1030）と3群ＢⅣ1類（1031）である。1030は縄文地

上に描かれた菱形のモチーフ内に刺突を伴う縦位の沈線が施されていることから、「X」字状斜行文系と考える。縦位区画と菱形区画を結ぶ横位区画も確認できる。堀之内２式と考える。1031 は摩耗が著しいものの、口頸部には無文帯が介在すると考える。突起上面は扁平な円形を呈する。

B　土　製　品（図版 209 ～ 211、写真図版 450・451）

1）概　　要

ここでは土器以外の土製品について記す。出土数はミニチュア土器 119 点･土偶 14 個体･耳飾り２点･垂飾２点・蓋形土製品１点・筒状土製品１点・土錘４点・土版１点・土器片円板 19 点・皿状土製品４点・不明１点の計 168 点である。ミニチュア土器・皿状土製品以外は全点図示した。土器の出土量が膨大であることに比べ、土製品は非常に少ないことが特徴的である。

出土分布は SD5186 とその周辺部分が中心であり、14 ～ 17 ライン、また 12・13E ～ G グリッドも希薄である。種類別の分布もほぼ同様である。ただし土器片円板については、12 ～ 17 ラインに加えて３～５ラインも空白となっている。

2）本文・観察表の記載

記載方法は、上・下面出土土器に準じた（第Ⅴ章 2A）。

成　形　ミニチュア土器については、輪積みによるものと手づくねによるものがあり、判断できる個体については記載した。手づくねよりも輪積みが多く見られる。この傾向はアチヤ平遺跡［長田 2002］と同様である。

3）各　　説

土　偶（1032 ～ 1045）　すべて破片資料である。脚部破片が多く、14 点中９点を占める。1032 は腕部片と胴部片が４片接合した。いずれもⅡｂ層からの出土であるが、腕部と胴部では約 30m 離れた地点のものが接合した。形状からハート形土偶と判断できる。腹部は膨らみ、正面や背面幅に比して側面幅が大きい。浅く太い沈線で文様が施される。正面は頭部付近が欠損しているため不明であるが、胸元はＶ字状、腹部下位には菱形状の二重沈線が描かれる。腹部中央には臍（へそ）を表現したものであろうか、略円形の盲孔が付される。背面は、沈線が上腕部と側縁部に沿って描かれ、その中に渦巻状沈線が施される。背面下位は大きく欠損している。肩部は、肩のラインに直交してコの字状または平行沈線が施されているが、摩耗が著しいため詳細は不明である。脚部は 1039 のような形態であったと推測される。

1033 は SD5186 から出土した３片と、約 90m 離れて出土した右脚部が接合した。頭部と右上腕部を欠く。残存長(頸部～脚部)6.3cm と非常に小さいが、つくりは丁寧である。わずかに傾きながらも自立する。全体に細く鋭い沈線で文様が描かれる。肩部周辺や側縁部に平行する沈線が描かれ、その中に菱形文が重ねられる。腰部には正面・背面ともほぼ同じ沈線文様が施される。また、正面正中線上と乳房には刺突文が認められる。断面形は長方形で、全体的に板状を呈する。

1034 と 1035 は上腕部である。1034 は先端が欠損しているが、残存部には円形刺突文と沈線が交互に施される。1035 は 1032 の形態に近似しているが、文様は施されない。1036 は腰部から臀部にかけての破片の可能性が高い。縦・横方向の沈線が施されるが、短沈線の集合を格子目文に見せている。背面は大きく欠損している。

1037 は腰部から脚部上位にかけての破片と判断した。正面には細沈線による渦巻文と平行沈線が施される。内股部分（実測図では下部）は剝離していると考えられ、実際の幅とは若干異なる。

1038 ～ 1042・1044 ～ 1045 は脚部破片である。ハート形土偶に典型的な、腰が張り出す形態のものが 3 点（1038・1039・1041）あるほかは、すべて異なる形態である。1038 は内側を除き全面に沈線が施されるもので、沈線は太く明瞭である。一筆書きのように折り返して描かれている。1039 は摩耗が著しい。側面と足裏に粘土接合痕が残る。1041 はつま先部分が大きく欠損している。内面側にはわずかにケズリが施される。1040 は側面が長靴のような形を呈する。正面はヘラナデにより稜がつくり出され、側面には指頭圧痕が残る。1042 は全面が平滑にされ、つま先部分に沈線が施される。ヘラミガキの単位が明瞭に見えるのはつま先部分のみであるが、大半を欠損している。1043 の断面形は扁平な略三角形を呈する。背面側にはナデ調整の単位が明瞭に見える。1044 はつま先が外側に向いており、つま先部分は面を有する。内側（側面）には連弧状沈線が施され、それらを連結するように正面と背面には円形刺突がなされる。1045 は足裏の形が円形を呈し、正面・側面ともほぼ同じ長さを持つことからずんぐりとした印象を受ける。調整はやや粗雑で指頭圧痕・粘土接合痕が見られる。

不　明（1046）　1046 は種別を特定できなかった。表面には RL 縄文を地文として浅く太い沈線が施されるが、若干屈曲している。土偶の腕部の可能性もあるためここに掲載した。

耳飾り（1047・1048）　2 点出土した。いずれも鼓状を呈する小型品である。1047 は上下面とも周縁部が打ち欠かれたように欠損している。1048 はほぼ完形品である。胎土は 2 点とも同じで、ほかの土製品と比較して非常にきめ細かい胎土である。内外面とも赤彩されている。ベンガラか水銀朱かは不明である。

垂　飾（1049・1050）　1049 は環と直径 5mm の孔を持つ張り出し部とからなる。孔の内部と環の内側にわずかに赤彩が残っていることから、全面に赤彩されていた可能性が高い。1050 は円形の土版状を呈し、上部に 1 か所孔が穿たれたものである。孔の存在からここに分類したが、別種の可能性もある。表面は平滑で中央部分が盛り上がり、断面形は三角形状を呈する。裏面には編物圧痕（飛びござ目編み、2 本超 1 本潜 1 本送）が認められる。土器底部の転用ではなく、あらかじめこの形態を意図して作られている。

筒状土製品（1051）　外面の平坦面が直角をなし、内面は曲面を呈する。残存率が低いため断定はできないが、内面形態が円形を志向していることから、断面形は四角形で円形あるいは略円形の孔を有する筒形になるものと推測する。外面には太く浅い沈線で文様が描かれる。沈線の雰囲気は土偶 1038 と近似している。剝落が著しいものの、端部は上下ともわずかながら残存しており、長さは 8.5cm となる。

土　錘（1052 ～ 1055）　それぞれ異なる形態を有する。孔を持つものは 1 点（1052）で、短軸方向に穿たれている。長軸方向のみ溝が巡る。ほかの 3 点は長軸方向と短軸方向に溝が巡っている。1053・1055 は十字形、1054 は短軸に 2 本と長軸に 1 本巡る。1055 の溝は切り込みに近い。

蓋形土製品（1056）　直径 6cm と小型である。つまみ部分が欠損しているが、本来は小さなリング状のつまみであったと推測できる。縁辺部は若干浮き上がるような形をしている。

土　版（1057）　下半を欠損している。側面は面を有し、幅 7.0cm、厚さ 1.8cm である。残存部には横→縦の順序で沈線文様が描かれている。

土器片円板（1058 ～ 1076）　土器片の周縁に打ち欠きや磨痕の認められるものである。略円形を主体として、不定形を呈するものもある。研削具あるいは木製品加工具という説などがある［藤巻 1989・海老原 1988］。本遺跡からは 19 点出土した。周縁に磨痕の認められるものは 7 点（1058 ～ 1064）と少なく、打ち欠きのみ認められるもの（1070 ～ 1076）が多い。本遺跡から出土した土器・土製品は非常に脆く摩

耗が著しい個体が多いため、磨痕かどうかの判断は難しく、不明なものも多い（1065 ～ 1069）。そのため土器片円板の出土数は、図示した点数が最少数を示している可能性もある。長さは 2.6cm ～ 7.5cm のものがあり、バラエティーに富む。長さ 7cm 前後の大きいもの 3 点（1063・1064・1076）は胎土・調整から同一個体の可能性が高い。1073 は口縁部の山形部分を利用している。1074 は内面に漆が厚く付着しており、漆要具を転用したことがうかがえる。

皿状土製品（1077 ～ 1080） 高さが 3 ～ 6cm 程度の浅い皿状を呈するものである。いずれも欠損品であるが、残存部から平面形は楕円形あるいは隅丸長方形と推測できる。1078・1079 は器壁が厚く作られているのに対し、1080 は一般の土器とほぼ同様の厚さであり、若干の形態差が認められる。1077 は直径 2mm 前後の混和材が多量に含まれている点でほかの個体と異なる。一見石皿のようにも見える。内面中央は滑らかであり、器壁が非常に薄くなり破断面が丸くなっている部分があることから、石皿同様の機能を有していたのであろうか、使用による摩耗の可能性もある。外面は広い範囲で炭化物が付着しているが、特に底面で厚く付着している部分が認められる。

ミニチュア土器（1081 ～ 1127・1129） アチヤ平遺跡［長田 2002］に倣い「器高・最大径のいずれも 10cm 以下となるもの」をミニチュア土器とした。119 点出土し、内訳は深鉢 6 点・鉢 10 点、深鉢または鉢 2 点、壺 2 点、注口土器 2 点、器種不明 97 点（うち高台付の底部 6 点）である。そのうち 48 点を図示した。ミニチュア土器には漆壺や顔料壺などの「実用的な容器」と、「非実用的な容器」とに二分されるという指摘［長田前掲･長田 2010］があるため、内面の観察を行った。その結果、黒色物（漆･赤色顔料）が付着する個体を 5 点観察できた（1090･1093 など）。掲載に当たっては、①文様を有する輪積みのもの、②手づくねのものまたは手づくねの可能性が高いが不明のもの、③高台付のものという順序で掲載した。

1081 は鉢で、コップ形を呈する。上下を沈線 2 条により区画し、間に縦位沈線とそれにつながる渦巻文が施される。渦巻文は上位と下位交互に施文される。1129 は、口縁が内湾する形態の注口土器である。外面は丁寧なミガキが施され、口縁部に横位沈線が描かれる。口縁部外面と内面全面に炭化物が厚く付着している。この炭化物について放射性炭素年代測定を行ったところ、4,020 ± 30yrBP、中期末～後期初頭という結果が出た。

1082 ～ 1084 は深鉢形を呈する。1082 は、針のように細い工具でランダムな沈線文が描かれる。器壁は 4mm と薄い。1083 は底部が若干台付土器のように広がり安定感がある。底部外面は平行脈状の痕跡が認められるが、器面摩耗のため不明瞭である。1084 は頸部に括れを持つ器形で、胴部上半のみ沈線文が施される。土器同様、垂下沈線と「く」字状沈線が交互に配置されるものと推測できる。1085 も胴部上半に沈線文があり、区画内には縄文が施されているようにも見える。底部外面は中央に葉脈状の筋が認められる。1086 の外面にはミガキが施される。内面には輪積み痕が残る。1087 は口縁部無文で、頸部に細かい縄文 RL が施されている。1088 は 1082 同様、針状の工具で文様が描かれているが、1082 よりも鋭く深い。1089 は口縁部が大きく開き、胴部との境界に段を持つ。胴部には沈線文が施される。1090 は椀形である。口縁部に横位沈線が 1 条、以下全面に沈線文が描かれる。

1092 は壺である。口縁部は短く立ち上がり、内面には面を持つ。頸部直下には平行沈線、正面には同心円状の文様が施される。おそらく数単位で描かれるものと思われるが、破片資料のため不明である。

1091・1093 は鉢の可能性が高いと考えるが、壺もしくは注口の可能性もある。どちらも胴部上位に沈線文様が施されている。1093 は底部に平行葉脈の圧痕が認められるが､その上にさらに交差する筋（植物質の圧痕）が見える。1094 は注口土器の可能性が高い。幅広の沈線により渦巻状の文様が連続して描

かれるが、やや崩れている。1095 ～ 1099 は沈線文様を有する底部である。1095 は内側に向かって立ち上がる。1104・1105 も同様の器形である。細沈線により平行沈線と渦巻状文が施されるが、器面摩耗により不明瞭である。器壁は薄く、特に底面中央は2mm しかない。土器 1005 のような器形であろうか。1096 は沈線が底部近くに施されることから、浅い鉢形かもしれない。底部外面に編物圧痕がわずかに残る。1099 は底面が短径 3.0cm、長径 4.6cm の楕円形を呈する。細沈線によって文様が施される。1100 は内面に輪積み痕が明瞭に残る壺である。1101・1102 は鉢とした。1101 は椀形で底部は丸底である。1104 ～ 1106 は深鉢または鉢である。外面にナデが施され、輪積み成形と考える。

1107 ～ 1113 は手づくね成形と判断できるものである。1107 はコップ形を呈し、器壁は 9mm 前後と厚い。1111 ～ 1113 は器高 2 ～ 3cm の小型品である。1114 ～ 1123 は底部のみで器種が特定できないものであるが、1114 ～ 1116 は深鉢または鉢の可能性が高い。1122 は底面に厚みがあり、若干丸底を呈する形態が 1107 に近似している。1124 ～ 1127 は高台が付くものである。1127 は底径 7.2cm と比較的大きく、高台部分が筒状になる。1128 は台付土器である。高杯の脚部のような形になると考える。

1130 は粘土塊の可能性があるもので、被熱しており、表面は橙色を呈する。上下面は比較的平坦な面を有する。

C　石器・石製品（図面図版 212 ～ 232、写真図版 452 ～ 464）

本遺跡の上下面から出土した石器・石製品は 3,490 点に及ぶ。伴出する土器から縄文時代後期前葉を主体として、中期前葉～中葉、晩期のものが若干伴うものと推定する。石器・石製品の記述に当たり、後期前葉を主体とする集落の特徴を示すことができるように心掛けた。

1）資料の提示方法

各器種における資料の提示は、典型例を抽出し、実測図・写真・観察表・記述を基本とした。器種ごとの分析には表・挿図を作成し、事実報告を中心に、主体的な時期が重複する村上市（旧朝日村）アチヤ平遺跡上段［高橋優・長田ほか 2002］・元屋敷遺跡上段［滝沢・高橋雄ほか 2002］等と比較して記述した。

a　実測図の表示方法

個々の石器の諸特徴を図化したもので、各器種の出土数・掲載数・図化率は第 4 表のとおりである。出土点数は完形品・略完形・破損品・破片を問わず 1 個を 1 点とした。実測図は展開図法により作成し、展開面数を器種ごとに統一した。ただし、個々の石器で重要な面を加えたり、省いたりもしている。

縮尺率　器種ごとに統一した。各器種の縮尺率は第 4 表のとおりである。図面ごとにスケールを示した。

正（表）面と裏面　剥片石器と剥片のうち、主要剥離面（腹面）が認められる場合は、それを裏面にした。

上下の基準　器種ごとにそれぞれ異なる。南魚沼市（旧塩沢町）五丁歩遺跡の報告書［高橋雄 1992］等を参考に定めた。

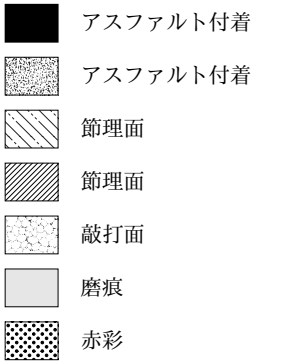
実際の表現　線描や点描のほか記号・文字・スクリーントーンを使用した。スクリーントーンの表現は、第 35 図のとおりである。

b　本文と観察表の記載

石器の諸特徴などを記入し、報告 No. 順に掲載した。実測図を示していない石器の観察は報告書に掲

器種名	出土数	掲載数	図化率	縮尺率	出土区分1		出土区分2			
					遺構内	遺構外	2-7ライン	8-13ライン	14-17ライン	その他
石　　鏃	88	30	34.1	2/3	26	62	45	36	6	1
石　　錐	8	4	50.0	1/2	2	6	5	3		
石　　匙	13	6	46.1	1/2	3	10	3	8	1	1
筌状石器	2	2	100.0	1/2		2	1			1
異形石器	1	1	100.0	1/2		1	1			
両極石器	186	14	7.5	1/2	29	157	85	89	7	5
不定形石器	485	65	13.4	1/2	89	396	220	228	21	16
石　　核	21	5	27.7	1/2	4	17	7	12	2	
剝片類	1696	28	1.7	1/2	335	1361	833	766	68	29
磨製石斧	113	24	21.2	1/3	32	81	38	62	10	3
石　　皿	77	15	19.5	1/5	38	39	37	33	6	1
砥　　石	74	12	16.2	1/5	17	57	28	45	1	
手持ち砥石	7	3	42.9	1/3	1	6	5	2		
台　　石	1	1	100.0	1/5	1		1			
磨石類	446	42	9.4	1/4	126	320	145	277	18	6
多面体敲石	13	4	30.8	1/3	2	11	4	8	1	
打製石斧	68	14	20.6	1/3	11	57	40	24	2	2
板状石器	10	3	30.0	1/2	1	9	7	3		
石　　錘	2	1	50.0	1/3	1	1	1			1
礫　　器	23	5	21.7	1/3	8	15	10	11	2	
石棒類	11	7	63.6	1/5	3	8	6	5		
大　　珠	1	1	100.0	1/2		1		1		
垂れ玉	1	1	100.0	1/2		1		1		
有孔石製品	2	2	100.0	1/2		2		2		
玦状耳飾り	1	1	100.0	1/2		1		1		
線状痕のある石器	2	2	100.0	1/2		2	1	1		
擦痕のある石器	16	6	37.5	1/2	3	13	6	9		1
浮　　子	1	1	100.0	1/2		1	1			
線刻礫	1	1	100.0	1/2		1		1		
逆T字形石製品	1	1	100.0	1/2		1		1		
石　　刀	1	1	100.0	1/2	1			1		
抉り入り石製品	1	1	100.0	1/2		1		1		
板状石製品	18	8	44.4	1/2	3	15	6	12		
三角立方形石製品	2	2	100.0	1/2	1	1		2		
分類不可	97	6	6.2	1/3	23	74	39	46	8	4
合　　計	3490	320	9.2		760	2730	1575	1691	153	71
特異・自然礫	231	6	2.6	1/2・1/3	46	185	56	145	27	3

第4表　石器・石製品の出土数と図化率・縮尺率

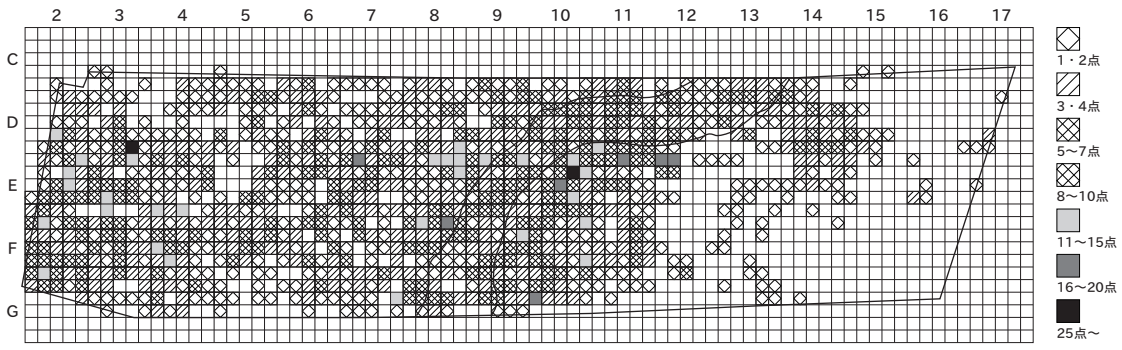


第35図　主なスクリーントーンの図示

載していないが、データは県教育委員会に保管してある。観察表の主な項目は下記のとおりである。

報告 No.　実測図番号・観察表報告 No.・写真図版の遺物番号は一致する。

出土地点　出土地点を示すグリッドに加え、遺構出土は遺構名を記入した。全体の出土状況を第36図に示している。本文中の出土状況は、二つに分けて示した。出土区分1では遺構内出土か否かを示した。本遺跡では平地建物と掘立柱建物を多数検出した。両建物の復元・認定は遺構確認面まで掘削して確認・調査した柱穴の配置から行っている。遺物はドットを落として取り上げたか所もあるが、原則として小グリッド・層位ごとに取り上げた。遺物取り上げ時には建物内出土と認識していないものが大半である。このため報告に当たって遺構出土としたものは、竪穴建物・柱穴・土坑・地床炉・石囲炉等の掘り込みが明確な遺構出土品のみとした。平地建物・掘立柱建物の輪郭内であっても「遺構出土」とはしていな



第36図　石器・石製品出土分布図

い。この提示方法によって平地建物の床面出土遺物が不明瞭となる点が大きく問題となる。ただし、遺構輪郭内のものをすべて「○○号建物」出土としてしまうと、床面を挟んで上（建物の覆土・埋土）・下（建物構築以前の堆積土）の遺物を「○○号建物」に伴う遺物としてしまう可能性が高いこと、建物の重複が著しいため「○○号建物輪郭内」遺物のみの抽出が困難ことによる。このため十分な資料提示となっていないことを予め断っておく。

出土区分の２つめは空間分布である。本遺跡の調査区は南北約 170m、東西約 35m と南北に細長い。第Ⅳ章での記述とおり集落の中央付近を調査したと考えているが、南北で大型掘立柱建物・袋状土坑等の有無等で遺構配置が若干異なる。このため①大型掘立柱建物が集中するグリッド 2-7 ライン、②竪穴ないしは平地建物が密集するが大型掘立柱建物を欠き、袋状土坑の集中区を含む 8-13 ライン、③遺構が希薄であるが、小型の掘立柱建物を含む 14-17 ラインの３区分として、おおむねの空間分布状況を記述した。

遺構・層位　基本的に遺構に伴う遺物は遺構名・層位順に、遺構外出土の遺物は層位を記入した。微細図を作成したものとドット処理したものは、取り上げ番号を記入した。

分類　器種ごとの分類記号を記入する。器種分類は、時期・地域ともに近接する村上市アチヤ平遺跡［高橋優・長田ほか 2002］・元屋敷遺跡［滝沢・高橋雄ほか 2002］（以下、両遺跡と共通した分類は「奥三面分類」と略す）のほか、南魚沼市（旧塩沢町）五丁歩遺跡［高橋雄 1992］・魚沼市（旧堀之内町）清水上Ⅱ遺跡［鈴木 1996］等を参考に行った。分類基準は器種ごとに異なり、「石器類の分類と分析」で示す。

遺存（残存）状態と計測値　定形石器や礫石器のように、完形品が一定の形を示すものについて、石鏃・石錐のように破損部位・遺存部位を記入した。遺存状態は五丁歩遺跡［高橋雄 1992］を参考にし、以下のように区分した。完形品は完全な形で計測できるもの。略完形はわずかに欠損しているが、完形品の形が変わらず、計測値もほとんど変わらないもの。破損品は大きく欠損し、完形品の形を想定できるが、計測値は完形品と大きく異なるものである。なお、計測値は残存部の長さ・幅・厚さ・重量を計測し、必要に応じてほかの計測部位を加えた。

石材　使用された石材を記載した。剥片石器は頁岩、流紋岩が多い。一方の礫石器では周辺の河川で採取可能な花崗岩・輝緑岩を主体に、蛇紋岩など遠隔地の石材も若干使用されている。石材名については、一部を糸魚川市フォッサマグマミュージアムの宮島 宏氏・竹之内耕氏から鑑定いただいた。具体的には大珠と自然礫のうちヒスイの可能性があるものをＸ線マイクロアナライザで宮島氏に、そのほかを肉眼により竹之内氏から鑑定していただき名称を付した。竹之内氏が実見していないものは鑑定結果に基づき、筆者が決定した。なお、剥片石器の石材のみ、当地域周辺の分析結果［阿部 1997b・佐野ほか 2002］を参考に、頁岩・鉄石英・流紋岩のみ以下のように細分した。

（1）頁岩

Ⅰ類：半透明の頁岩［阿部 1997a］と呼称されるものである。

Ⅱ類：黒色から灰色を呈し、太さ・鮮明さは一定でないが、白っぽい縞が入るもの。村上市（旧朝日村）高根産と想定している。

Ⅲ類：表面に薄茶色で円形の粒子が認められるものである。

Ⅳ類：色調はくすんだ淡いピンク色で、表面に赤色の小粒子（鉄分）が沈殿し、石英（メノウ）が筋状に認められるものである。

Ⅴ類：表面に縞が密に認められるものである。

Ⅵ類：赤色小粒子が筋状に確認できるものである。

Ⅶ類：Ⅰ～Ⅴ類以外で、光沢があるものをⅦａ類、光沢の弱いものをⅦｂ類とした。

（2）鉄石英

Ⅰ類：赤色を呈するものである。

Ⅱ類：黄色を呈するものである。

（3）流紋岩

Ⅰ類：流理構造がはっきりしているもの、斑晶を含むなど風化による影響が少ないもの。

Ⅱ類：風化が著しく、白色化しているもの。比重が軽く、パサパサしているものを一括した。

Ⅲ類：珪化したためか流理構造がやや曖昧であるが、斑晶を含むなど風化による影響が少ないもの。

備考　観察項目以外の特記事項を記入した。

2）石器の分類と分析

（1）石鏃（1 ～ 30）

「扁平で、鋭利な尖頭部が作出された小形の石器」［阿部 1979］を石鏃とした。完成品が 80 点、未成品が 8 点、総数 88 点出土した。未成品は形態が石鏃に類似し、剥離調整が未発達なものとした。

分類　第 37 図参照。基部形態、中茎の有無による分類［鈴木 1991］を重視し、本遺跡と時期が重複する村上市（旧朝日村）アチヤ平遺跡上段の分類［高橋優 2002］を参考にした。

A 類（1 ～ 7）　凹基無茎鏃。基部が凹状で中茎がないものである。

B 類（8 ～ 19）　平基無茎鏃。基部が平らなものである。

C 類（20）　凹基有茎鏃。基部が凹状で中茎があるもの。

D 類（21）　平基有茎鏃。基部が突出し、中茎のあるもの。

E 類（23）　凸基有茎鏃。基部が突出し、中茎があるもの。

F 類（22）　尖基鏃。基部の作り出しが不明瞭で、基部が棒状のもの。

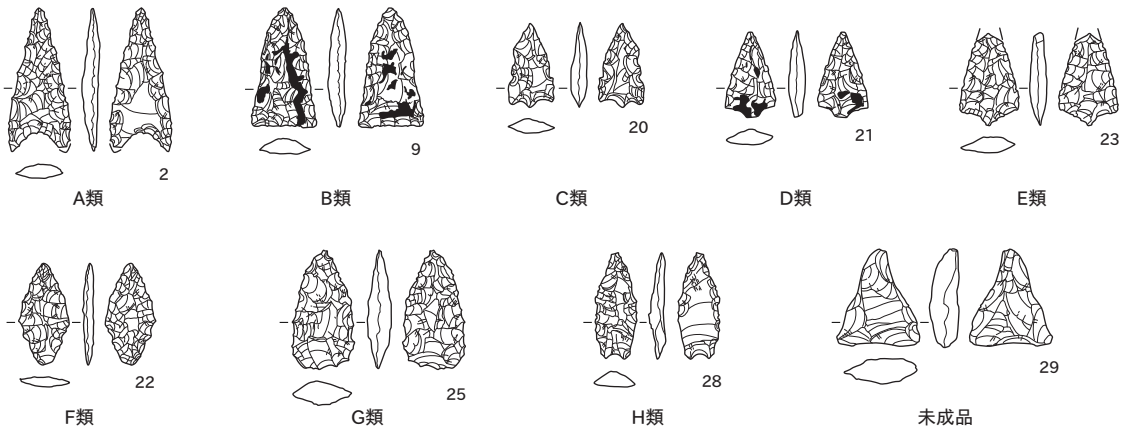
G 類（24 ～ 27）　円基鏃。基部の作り出しが不明瞭で、基部が丸いもの。

H 類（28）　その他のものを一括した。

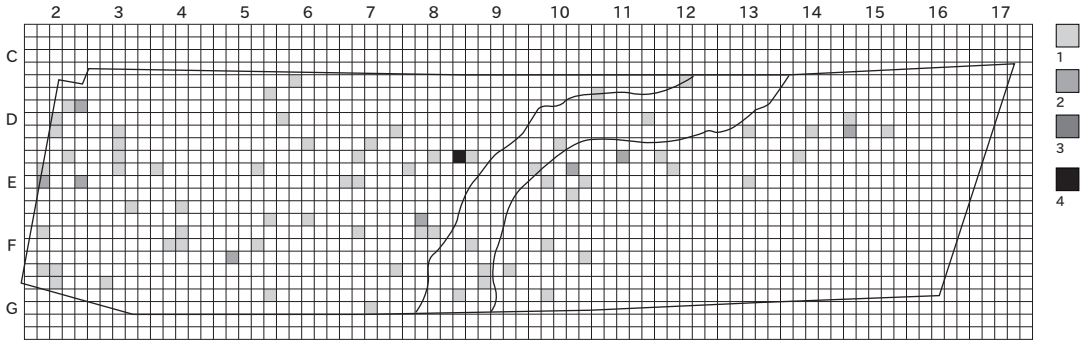
X 類　先端部・基部のいずれかを欠いたもので、上記の分類が行えないものを一括した。

未成品（29・30）

分類別出土数と出土分布状況　第 38 図・第 5 表参照。全点を対象とした。分類別では B 類が最も多く 40 点（45.5%）、A 類が 28 点（31.8%）であり、A・B 類で約 80％を占める。これは形態が不明の X



第 37 図　石鏃分類図



第 38 図　石鏃出土分布図

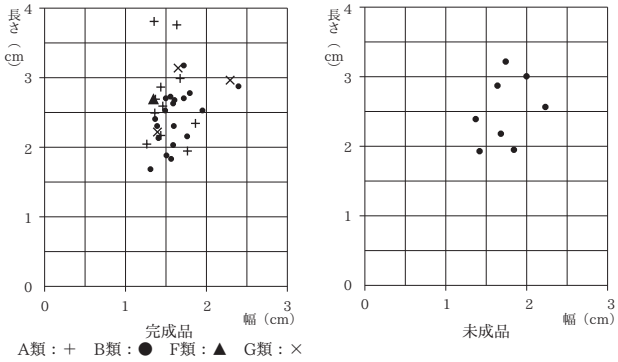
	遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
A類	8	20	28	18	8	2	
B類	12	28	40	15	23	2	
C類	1		1		1		
D類	1		1	1			
E類		1	1		1		
F類	1		1	1			
G類	1	4	5	2	2	1	
H類		1	1	1			
X類	1	1	2	2			
未成品	1	7	8	5	1	1	1
合計	26	62	88	45	36	6	1

第 5 表　石鏃の分類別出土数と出土分布状況

類に左右されることはない。これ以外はＧ類が５点（5.7%）あるものの、C･D･E･F･H 類は各１点（各 1.1%）が出土したに過ぎない。未成品として抽出したのは８点にとどまる。

完成品の出土分布状況では、遺構出土のものは 25 点（31.2%　4・6・11 ～ 13 など）と他器種に比べてやや高い比率である。出土分布では 2-7 ラインが 40 点（約 50%）、8-13 ラインが 35 点（43.8%）と拮抗し、14-17 ラインは５点（6.3%）と少ない。このうち２ラインで 14 点、８ライン 11 点、10 ラインが 10 点と多い。小グリッドごとでは 8E4 グリッドで４点とまとまる。

未成品では遺構内出土は１点（12.5% 30）にとどまる。出土分布では 2-7 ラインが５点（62.5%）と完成品に比しても多い状況が認められる。



第 39 図　石鏃の長幅分布図

長さと幅　第 39 図参照。完成品は完形の 34 点を対象とした。内訳はＡ類が 11 点、Ｂ類が 18 点、Ｇ類が３点、F･H 類は各１点である。長さ 1.7 ～ 3.8cm、幅 1.3 ～ 2.4cm に分布する。分類別では数量が多いＡ類が長さ 2.0 ～ 3.8cm･幅 1.3 ～ 1.9cm であるのに対し、Ｂ類は長さ 1.7 ～ 3.2cm･幅 1.3 ～ 2.4cm、Ｇ類は長さ 2.2 ～ 3.1cm、幅 1.4 ～ 2.3cm である。おおむね縦長が多いＡ類、やや幅が広いＢ・Ｇ類の区分が可能である。ただし、長さと幅の比率では 2:1 を超えて細長いものがＡ類にのみ認められるが、いずれも長さ 3.5cm 以上と大きいもの（1･2）である。長さに関わらず幅は 1.2 ～ 2.0cm に 34 点中 32 点（94.1%）が収まる点も重要と考える。

未成品は８点を対象とした。長さ 1.9 ～ 3.2cm、幅 1.4 ～ 2.2cm に収まる。おおむね石鏃完成品の主体的な分布範囲内に納まるものと考える。

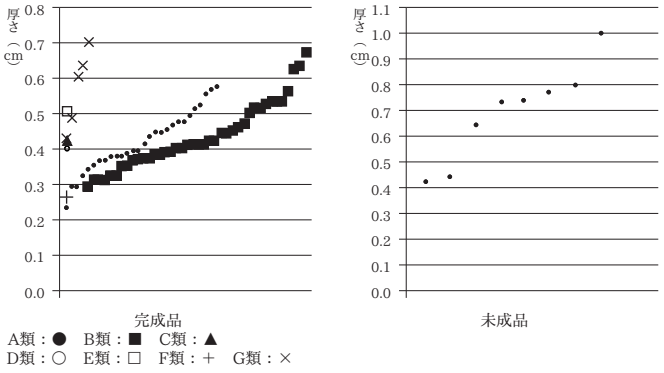
厚さ　第 40 図参照。破損品も完形時の厚さと推定できるため、完成品 80 点、未成品８点の全点を対象とする。全体では 0.2 ～ 0.7cm に分布する。種別ではＡ類は 0.2 ～ 0.6cm、Ｂ類は 0.2 ～ 0.7cm、C･D 類が 0.4cm、Ｅ類 0.5cm、Ｆ類 0.2cm、Ｇ類は 0.4 ～ 0.7cm である。数量が多いＡ・Ｂ・Ｇ類では、比較的薄いＡ類、厚いものを含むＢ類、厚いものが多いＧ類となる。

未成品は 0.4 ～ 1.0cm に分布しており、厚い傾向にあるが、0.4cm、0.6 ～ 0.8cm（29 など）、1.0cm（30 など）の 3 つにまとまりがある。

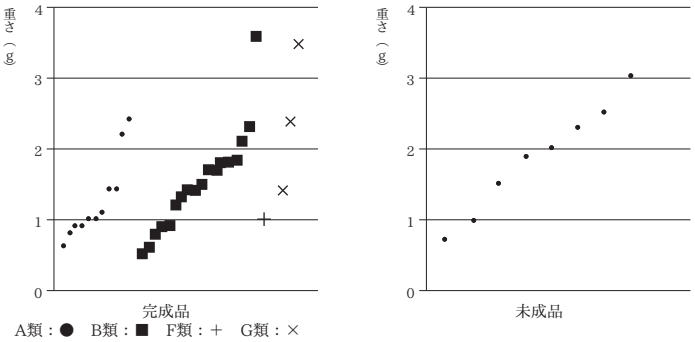
重さ　第 41 図参照。完形品を対象としており。完成品 24 点、未成品 8 点である。完成品は 0.5 ～ 3.6g に分布するが、1.5g と 2.0g 付近で緩やかな、2.5 ～ 3.4g の間では強い分布の断絶が認められる。種別は比較的数量が多いものを対象とすると、A 類が 0.6 ～ 2.4g、B 類が 0.5 ～ 3.6g、G 類 1.4 ～ 3.4g である。厚さと同様に、比較的軽量な A 類、重いものを含む B 類、重いものが多い G 類という区分が可能である。未成品は 0.7 ～ 3.0g に分布する。完成品に比して分布は緩やかで、断絶は認めがたい。

石材　第 6 表参照。全点を対象とした。完成品は流紋岩と頁岩が各 35 点（各 43.8%）と最も多く、そのほかの石材は珪化岩 3 点、鉄石英 2 点、凝灰岩・メノウが各 1 点認められるに過ぎない。形態別でもこの傾向に大きな変化はない。石材細別は光沢を帯びた非透明の頁岩である Ⅶa 類と流紋岩 I 類が各 21 点（26.3%）と多く、主体となる。また、半透明の頁岩である I 類が、A 類では 8 点（28.6%　4・7 など）と細別石材では最も多いこと、B 類でも 7 点（17.5%　11・15・19 など）と高い比率である。

未成品の石材も流紋岩 I ・Ⅱ類が 5 点（29・30 など）、頁岩Ⅶa 類が 3 点で完成品と同様の傾向を示す。



第 40 図　石鏃の厚さ



第 41 図　石鏃の重さ

	頁岩 I	頁岩 III	頁岩 VIIa	頁岩 VIIb	流紋岩 I	流紋岩 II	流紋岩 III	凝灰岩	珪化岩	鉄石英 I	メノウ	合計
A類	8	1	4	1	6	6	1	1				28
B類	7		12	1	10	6			1	2	1	40
C類						1						1
D類							1					1
E類					1							1
F類			1									1
G類	1		1	1	2							5
H類						1						1
X類						2						2
未成品			3		2	3						8
合計	16	1	21	3	21	19	2	1	1	2	1	88

第 6 表　石鏃の分類別石材

	完形	中茎欠	先端欠	側縁欠	片脚欠	先端・片脚欠	両脚欠	先端・両脚欠	両脚・側縁欠	合計
A 類	11		10	1	2	3	1			28
B 類	18		7		4	9	2			40
C 類		1								1
D 類		1								1
E 類			1							1
F 類	1									1
G 類	3				1	1				5
H 類	1									1
不可								1	1	2
合計	34	2	18	1	7	13	3	1	1	80

第 7 表　石鏃の分類別遺存状況

遺存状態　第 7 表参照。完成品 80 点を対象とした。完形が 34 点（42.5%）、破損品が 46 点（57.5%）である。破損品の内訳は、先端のみを欠くものが 18 点（39.1%　4･6 など）と破損品のなかでは最も多い。次いで先端・片脚を欠くものが 13 点（28.3%　5 など）と次ぐ。欠損部位ごとでは先端を欠くものが 32

点（69.6%）と最も多く、脚を欠くもの 25 点（54.3%）が次ぐ。

付着物　第 8 表参照。4・7 など 11 点で黒色付着物を確認した。この数量は石鏃出土点中 13.8%に当たる。正面の基部付近に付着しており、石鏃と矢柄の装着に関わるものと思われる。数点（4・7・11）の分析の結果、アスファルトであることが判明しており、色調から分析外の黒色付着物もアスファルトの可能性が高いと考える。形態分類ごとでは、A 類が 7 点と最も多い。28 点中 7 点(25.0%)なのに対し、出土量が最も多い B 類では 40 点中わずかに 2 点(5.0%)にとどまり、付着状況に大きな差異が認められる。

	付着	なし	合計
A 類	7	21	28
B 類	2	38	40
C 類		1	1
D 類	1		1
E 類		1	1
F 類		1	1
G 類	1	4	5
H 類		1	1
不可		2	2
合計	11	69	80

第 8 表　石鏃のアスファルト付着状況

(2) 石錐（31 ～ 34）

意識的に尖頭部を形成している石器の中で石鏃を除いたもの、及び尖頭状の端部が摩耗している石器を石錐とした［酒井 2002］。総数 8 点出土した。

分類　第 42 図参照。平面形状と調整加工の状況で分類した。

A 類　全体の形状が棒状のもの（31）。

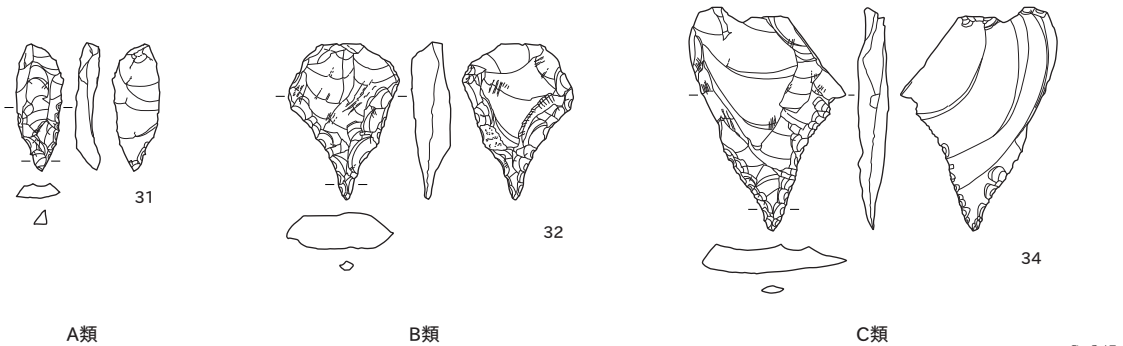
B 類　明瞭な基部と錐部をもつもの（32）。

C 類　基部と錐部が不明瞭なもののうち、錐部から次第に広がり、調整も加わるもの（33・34）。

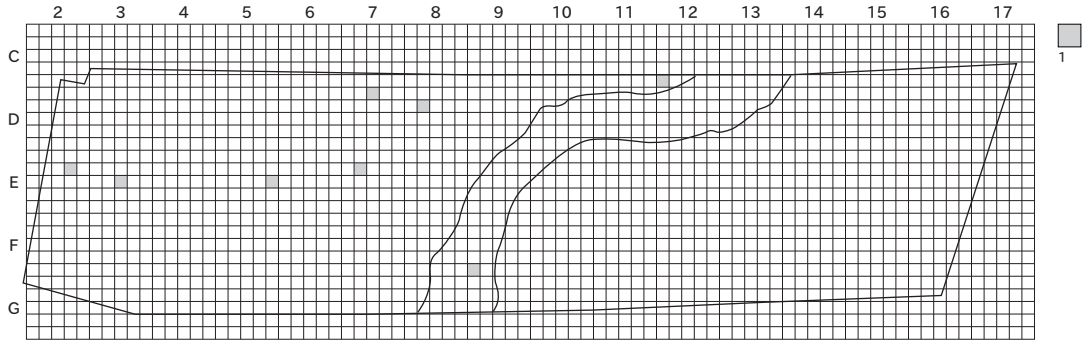
分類別出土数と出土分布状況　第 43 図･第 9 表参照。全点を対象とした。分類別では C 類が 5 点と多く、B 類が 2 点、A 類は 1 点にとどまる。遺構内から出土したものは C 類の 2 点（33･34）で、包含層出土が多い。空間分布では 2-7 ラインが 5 点、8-13 ラインが 3 点と拮抗する。

	遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
A類		1	1		1		
B類		2	2	1	1		
C類	2	3	5	4	1		
合計	2	6	8	5	3	0	0

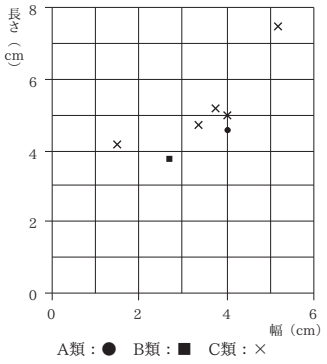
第 9 表　石錐の分類別出土数と出土分布状況



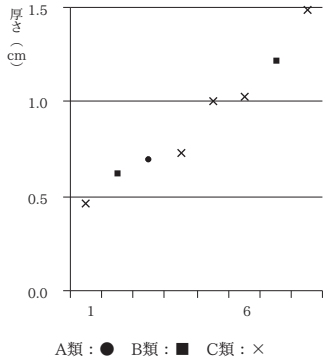
第 42 図　石錐分類図



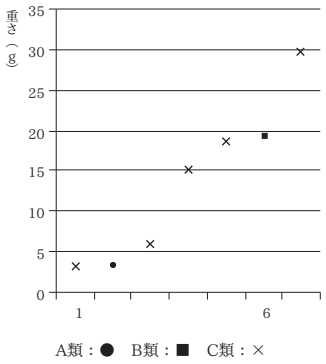
第 43 図　石錐出土分布図



第 44 図　石錐の長幅分布図



第 45 図　石錐の厚さ



第 46 図　石錐の重さ

長さと幅　第 44 図参照。完形・略完形の計 7 点を対象とした。種別では C 類が 5 点、A･B 類は各 1 点である。長さ 3.7 ～ 7.4cm、幅 1.5 ～ 5.2cm に分布している。各類共に、長さと幅の比率が 3 : 2 程に集中しており、2 : 1 以上と細長い形態は A 類の 1 点（31）のみである。

	頁岩Ⅶa	頁岩Ⅷb	流紋岩Ⅰ	流紋岩Ⅱ	合計
A類				1	1
B類			2		2
C類	2	3			5
合計	2	3	2	1	8

第 10 表　石錐の分類別石材

厚さ　第 45 図参照。破損品も完形時の厚さを推定できるため、8 点全点を対象とする。0.5 ～ 1.5cm に分布している。おおむね 0.4 ～ 0.7cm（31 など）、1.0 ～ 1.2cm（32・34 など）、1.5cm 程度（33 など）の 3 つに区分が可能である。種別ではほぼ各法量に分布する C 類、薄い A 類、薄い傾向にある B 類となる。

重さ　第 46 図参照。完形の 7 点を対象とする。種別の数量は長さと幅と同様である。3 ～ 30g に分布するが、厚さと同様に 3 つに区分が可能で、5g 前後（31 など）、15 ～ 20g（32･33 など）、30g 程度（34 など）に分かれる。種別でも各法量に分布する C 類、軽い A 類、やや重い B 類となる。

石材　第 10 表参照。全点を対象とした。数量は少ないながら、A・B 類は流紋岩、C 類（33・34 など）は頁岩という明瞭な違いがある。石材の細別では A 類（31 など）は流紋岩Ⅱ類、B 類（32 など）は流紋岩Ⅰ類、C 類は頁岩Ⅶa 類が 2 点（34 など）、Ⅶb 類が 3 点（33 など）となる。

(3) 石匙（35 ～ 40）

「剝片の一端の両側縁が抉り込まれて、つまみ部が作出されたもの」［阿部 1979］を石匙とした。刃部の二次加工に関わらず、つまみ部を有すると判断したものを石匙とした。総数 12 点出土している。

分類　第 47 図参照。刃部と基部の組み合わせで細分した。

A 類　縦型石匙である。つまみ部の軸を垂直に位置させたとき、刃部が縦長となるもの。剝離の形態で細分した。

1 類（35）　素材中央にまで深い剝離が連続的に入るもの。

2 類（36・37）　調整剝離が素材の縁辺に連続的に入るもの。

3 類（38・39）　素材のごく縁辺にとどまる剝離が連続・不連続に入るもの。

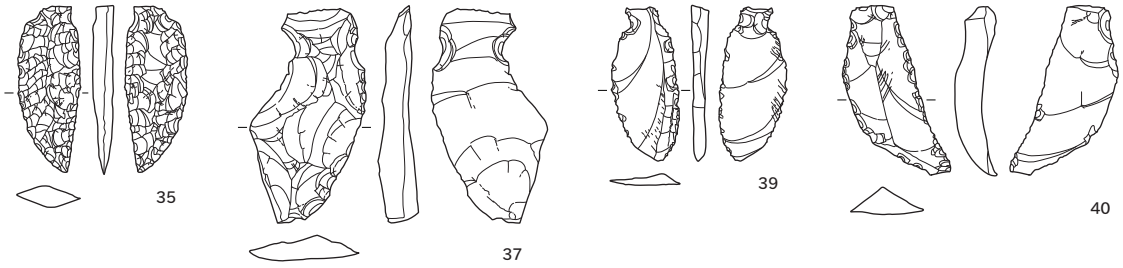
B 類　横型石匙である。つまみ部を垂直に位置させたとき、刃部が横長となるもの。出土していない。

C 類（40）　斜刃型石匙である。つまみ部を垂直に位置させたとき、刃部が斜め方向のもの。

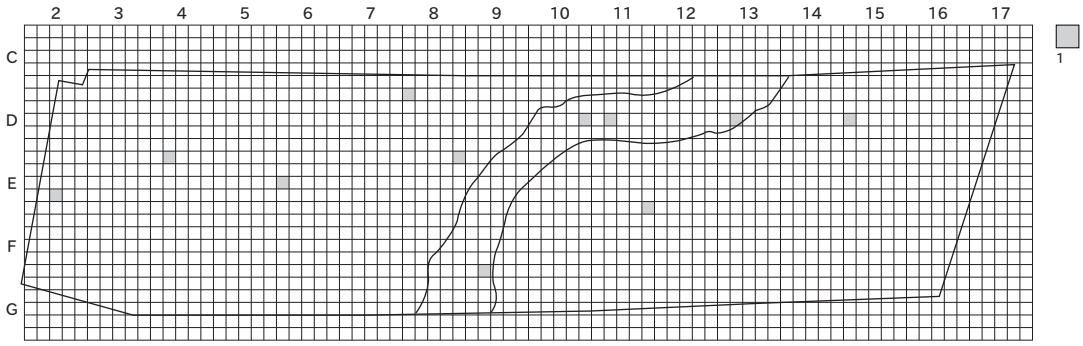
分類別出土数と出土分布状況　第 48 図･第 11 表参照。全点を対象とした。分類大別では A 類が 11 点、C 類が 2 点である。A 類の細別では A2 類が 6 点と最も多く、A3 類が 4 点、A1 類はわずかに 1 点のみである。C 類を A 類と同様に剝離の状況から区分すると、いずれも C2 類となる。

出土状況は他器種と同じく遺構からはわずかに 3 点（35・36・40）で、包含層出土が多い。空間分布では 2-7 ラインが 3 点であるのに対し、8-13 ラインが 8 点とやや多い。種別では C 類の 2 点はいずれも 2-7 ラインで出土しているのに対し、A 類は 11 点中 8 点が 8-13 ラインである点が特徴的である。

長さと幅　第 49 図参照。全点が完形品であるため 13 点を対象とした。長さ 4.3 ～ 9.2cm、幅 2.1 ～ 5.8cm に分布する。種別では比較的法量がまとまる A2・C 類、幅広い分布を示す A3 類に分かれる。長さと幅の比率では 4 : 3 付近を境に分布が分かれ、比較的縦長の A2 類、幅広い C 類と A3 類に分かれる。



第 47 図　石匙分類図



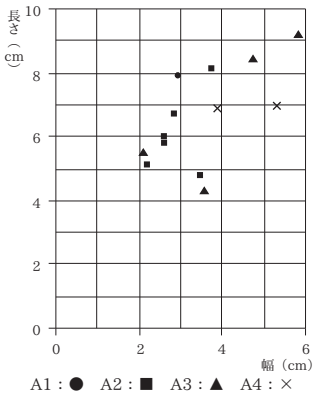
第 48 図　石匙出土分布図

	遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
A1 類	1		1		1		
A2 類		6	6	1	3	1	1
A3 類		4	4		4		
C 類	1	1	2	2			
合計	2	11	13	3	8	1	1

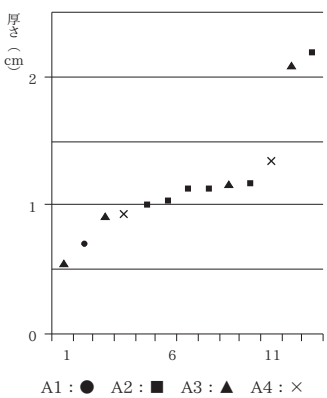
第 11 表　石匙の分類別出土数と出土分布状況

	頁岩Ⅰ	頁岩Ⅲ	頁岩Ⅶa	頁岩Ⅶb	流紋岩Ⅰ	凝灰岩	珪化岩	合計
A1 類			1					1
A2 類			3		2		1	6
A3 類		1	1	1		1		4
C 類	1	1						2
合計	1	2	5	1	2	1	1	13

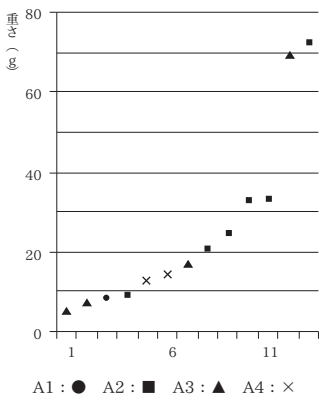
第 12 表　石匙の分類別石材



第 49 図　石匙の長幅分布図



第 50 図　石匙の厚さ



第 51 図　石匙の重さ

厚さ　第 50 図参照。全 13 点を対象とする。厚さ 0.6 ～ 2.2cm に分布するが、1cm 前後と 2cm 程で緩やかなまとまりが認められる。薄手の C 類、厚いものと薄いものが混在する A2・3 類に区分が可能である。

重さ　第 51 図参照。同じく全 13 点を対象とする。5 ～ 73g まで幅広く分布する。おおむね 30g 未満（35・37・39・40）、30 ～ 35g（36）、70g 前後（38）に区分が可能である。各法量に分布する A2 類、比較的軽量なものを主体に多いものを含む A3 類、軽量の C 類に区分できる。

石材　第 12 表参照。頁岩が最も多く 9 点（69.2% 35・36・39・40 など）、流紋岩が 2 点（15.4% 31・32）、凝灰岩（38）・珪化岩（37）が各 1 点（7.7%）である。ほかの剥片石器に比べて頁岩の比率が高い。細別では A2 類で頁岩の比率が 50%とわずかに低い。

(4) 篦状石器（41・42）

「ほぼ左右が対称で上下が狭く、下方が広がっている」［鈴木 1991］石器を篦状石器とした。打製石斧との区分が問題となるが、本遺跡出土例は頁岩の剥片を素材とする篦状石器、自然面を残す泥岩の大型剥片を素材の主体とする打製石斧とに明瞭に分かれる。完形品が 2 点出土したにとどまる。

分類　第 52 図参照。わずか 2 点ではあるが、形態で分類を行った。

A 類（41）　短冊形のもの。基部幅と刃部幅に顕著な違いがないもの。

B 類（42）　撥形のもの。基部から刃部にかけて開き、側縁に括れがないもの。

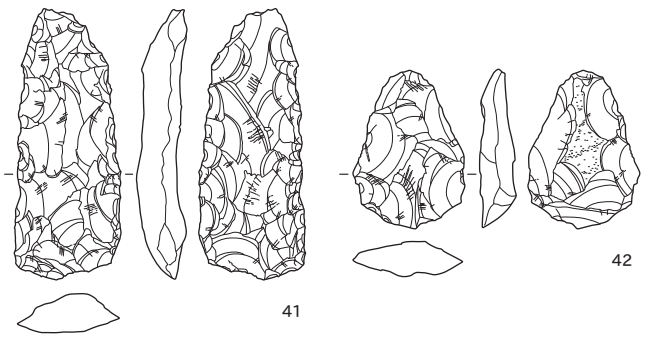
出土分布状況　41 は今回の本発掘調査で、42 は平成 18（2006）年の試掘確認調査で出土したものである。41 は包含層出土で空間分布は、1-7 ライン（グリッド 7F）となる。

長さと幅　41 は長さ 8.9cm、幅 3.5cm と縦長なのに対し、42 は長さ 5.1cm、幅 3.6cm と幅広である。長さと幅の比率は 41 が 2.5：1 程、42 は 1.4：1 程である。

厚さ　41 は 1.5cm、42 は 1.2cm と顕著な違いは見出しがたい。

重さ　41 が 48.6g、42 は半分以下の 20.5g である。

石材　いずれも珪質の頁岩で、41 は Ⅶa 類、42 はⅢ類である。



第 52 図　篦状石器分類図

(5) 異形石器（43）

剥片石器のうち定形化した石器に組み入れ難いものの、不定形石器に比して形態や二次加工が整っているものを異形石器とした。わずかに 1 点したにとどまる。

形態　本例はつまみ状の基部と、先端が尖る刃部とからなる。基部から石匙の転用、刃部から石錐の可能性を持つが、前者の可能性は基部から刃部にかけて側縁の加工が入念なのに対して、つまみの抉りがやややあいまいなこと、後者の可能性は先端の摩耗が認められないことから、どちらにも属さないと判断した。

出土分布状況　包含層出土で、空間分布は 1-7 ライン（グリッド 2F）となる。

長さと幅・厚さと重さ　石匙と同様に、つまみを基軸とした方法で計測した。長さ 2.0cm、幅 3.3 と幅広である。厚さは 1.0cm、重さは 3.0g と小型である。

石材　流紋岩Ⅰ類である。

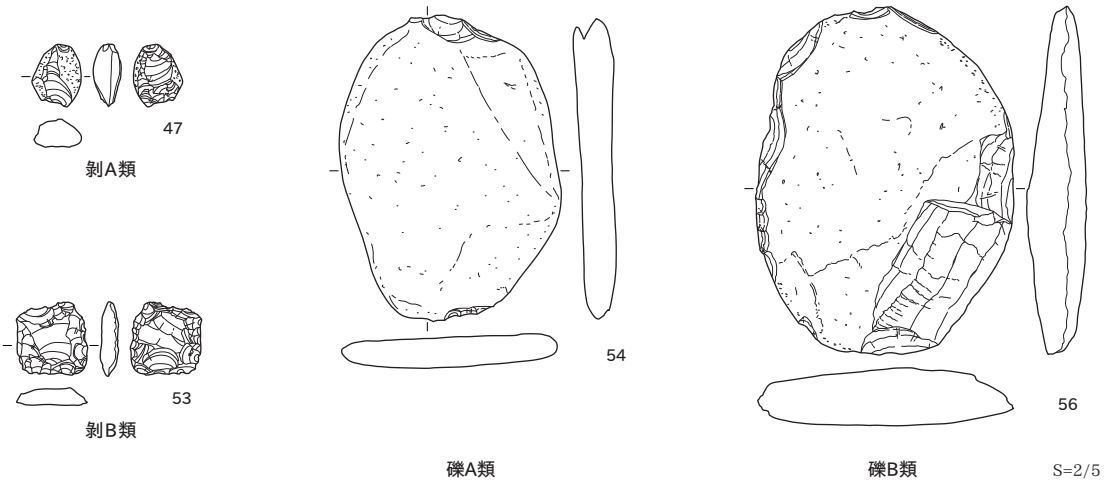
(6) 両極剥離痕のある石器（44 ～ 57）

両極石器、楔形石器、ピエス・エスキーユなどと呼称される両極剥離痕のある石器を一括した。両極打法で剥片を剥離したと思われる両極石核や剥片を含む。ただし、両極打法後に押圧剥離による調整が施されていると判断したものは含めていない。総数 186 点出土している。素材には剥片素材のものと礫素材のものがある。ここでは一括して記述する。

分類　第 53 図参照。阿部 1979 を参考に以下のように分類した。剥片素材のものと礫素材のものがあるが、分類の根拠は一致する。

A 類（剥片素材 44 ～ 49、礫素材 54・55）　2 個 1 対の両極剥離痕をもつもの。

B 類（剥片素材 50 ～ 53、礫素材 56・57）　4 個 2 対の両極剥離痕をもつもの。



第 53 図　両極剥離痕のある石器分類図

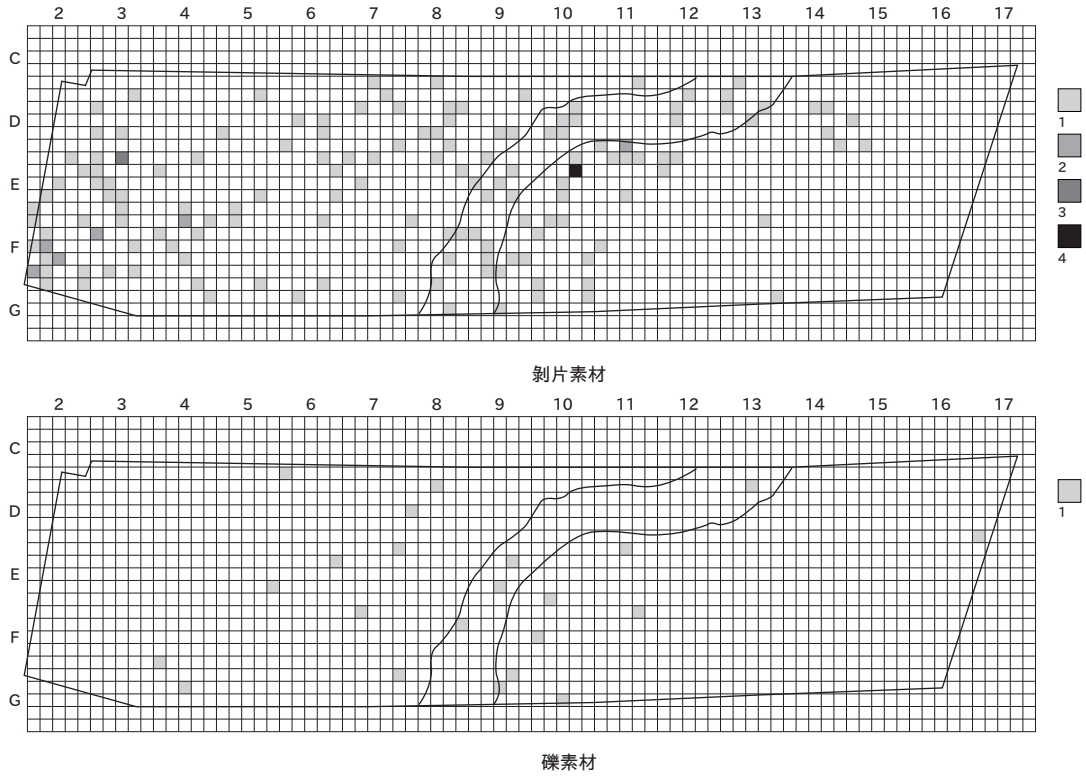
分類別出土数と出土分布状況　第 13 表、第 54 図参照。全点を対象とした。分類別では剥片素材 A 類が 131 点と最も多く、剥片素材 B 類が 33 点と続く。礫素材は多くなく A 類が 13 点、B 類が 9 点である。

出土状況は他器種と同じく遺構からは 29 点（15.7%　50・51 など）出土したにとどまり、包含層出土が多い。遺構出土比率は種別で若干異なり、剥片素材がほぼ同程度（16 ～ 18%）であるが、礫素材では A 類がわずかに 1 点出土（5.0%）したにとどまる。

空間分布では 2-7 ラインと 8-13 ラインがほぼ同率で、14-17 ラインが 5%に満たない点は各器種と同様である。2-7 ラインでは 2･3 ラインで剥片素材のみで 38 点、8-13 ラインでは 9･10 ラインで 45 点（剥片素材 38 点）とまとまる傾向にある。複数個体が出土した小グリッドが幾つかあるが、10E9 グリッドで 4 点、3E3 グリッドで 3 点とやや目立つ。種別では 2-7 ラインがわずかに多い剥片素材 B 類、8-13 ラインがわずかに多い剥片素材 A 類・礫素材 A 類、ほぼ同数の礫素材 B 類に分かれる。

長さと幅　第 55 図参照。完形・略完形の計 177 点を対象とした。内訳は剥片素材 A 類が 127 点、剥片素材 B 類が 30 点、礫素材 A 類が 11 点、礫素材 B 類が 9 点である。

剥片素材のうち A 類は長さ 1.7 ～ 6.4cm･幅 1.3 ～ 7.2cm に、B 類は長さ 2.3 ～ 5.6cm･幅 2.2 ～ 5.1cm に分布する。数量が多いためか A 類が幅広い分布を示しているが、明瞭の分布のまとまりは見出し難い。わずかに長さ・幅共に 4.8cm 程度で緩やかな分布の断絶が認められる。



第 54 図　両極剥離痕のある石器出土分布図

	遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
剥 A 類	22	109	131	58	65	5	3
剥 B 類	6	27	33	19	11	1	2
礫 A 類	1	12	13	4	8	1	
礫 B 類		9	9	4	5		
合計	29	157	186	85	89	7	5

第 13 表　両極剥離痕のある石器の分類別出土数と出土分布状況

礫素材はA類が長さ 6.4 ～ 12.6cm･幅 4.1 ～ 7.5cm であるのに対し、B 類は長さ 4.7 ～ 11.3cm・幅 4.2 ～ 8.4cm と大きなものが多く明確に分布が分かれる。

厚さ　第 56 図参照。破損品も完形時の厚さを推定できるため、全 186 点を対象とする。

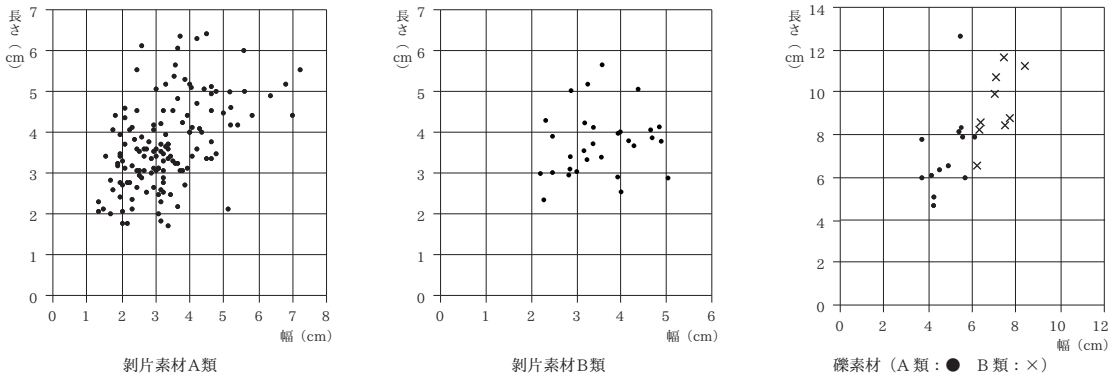
剥片素材はA・B 類共にほぼ同様の傾向が認められる。おおむね 0.5 ～ 2.9cm までに分布しており、1.7cm 程度に分布の断絶が認められる。礫素材もおおむね同様の傾向があり、A・B 類ともに 0.5 ～ 2.0cm 前後まで分布しており、1.7cm 程度で分布の断絶が認められる。

重さ　第 57 図参照。完形・略完形の計 177 点を対象とした。内訳は「長さと幅」と同じある。

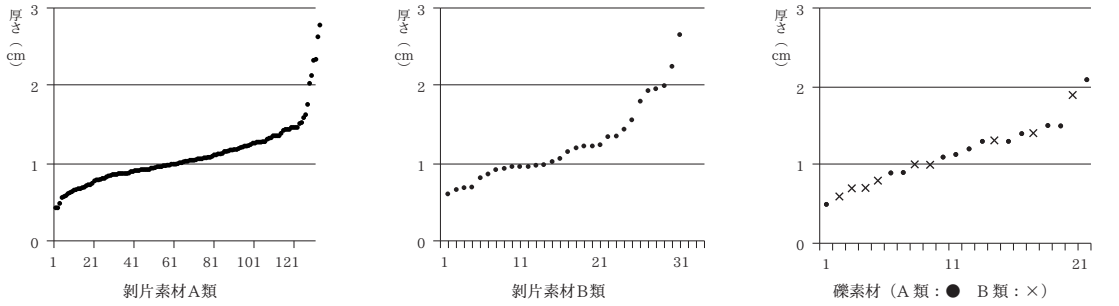
剥片素材のうち A 類は 1.3 ～ 63g、B 類は 3 ～ 26g まで分布している。数量の多い A 類では 20g 前後と 40 ～ 50g で分布の断絶が認められるが、前者は B 類とも一致する。

礫素材は 20 ～ 230g で剥片素材と比べて重い傾向にあるが、おおむね両分類共に 100g 前後、200g 前後で分布の断絶が認められる。

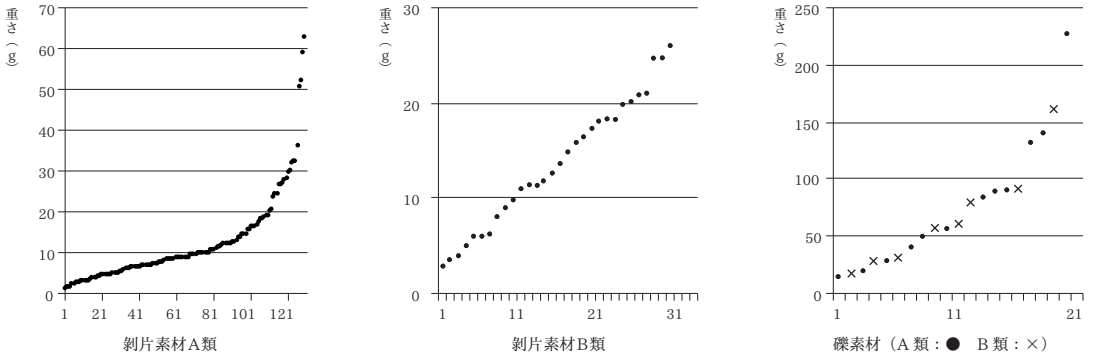
石材　第 14 表照。剥片素材では頁岩 I 類が最も多く 43 点(26.2% 49 など)、流紋岩 I 類が 38 点(23.2% 46・53 など)、頁岩Ⅶa 類が 32 点（19.5%）、流紋岩Ⅱ類が 29 点（17.7%　50 など）でそのほかの石材は 5 点（47・48・52 など）に満たない。頁岩Ⅶa 類、流紋岩Ⅰ・Ⅱ類の多さは他器種と同様であるが、頁岩Ⅰ類の多さが際立つ。頁岩Ⅰ類はいずれも剥片素材 A 類であり、剥片素材 A 類中、32.8%を占めている。この要因については、両極技法による剥片を剥離したと思われる両極石核や剥片が大多数を占めていると考える。



第 55 図　両極剥離痕のある石器の長幅分布図



第 56 図　両極剥離痕のある石器の厚さ



第 57 図　両極剥離痕のある石器の重さ

礫素材ではA・B類共に泥岩が圧倒的に多い。B類は9点すべて、A類では13点中11点が泥岩（54・55など）であり、わずかに凝灰岩が2点存在するに過ぎない。

	頁岩Ⅰ	頁岩Ⅱ	頁岩Ⅲ	頁岩Ⅴ	頁岩Ⅶa	頁岩Ⅶb	流紋岩Ⅰ	流紋岩Ⅱ	流紋岩Ⅲ	凝灰岩	珪化岩	鉄石英Ⅰ	メノウ	黒曜石	泥岩	合計
剥A類	43	3	2	1	26	2	28	18	1	2		1	1	3		131
剥B類		1			6	1	10	11		1	2	1				33
礫A類											2				11	13
礫B類															9	9
合計	43	4	2	1	32	3	38	29	1	3	4	2	1	3	20	186

第 14 表　両極剥離痕のある石器の分類別石材

（7）不定形石器（58 ～ 122）

「剥片を素材とし、二次加工や使用痕が認められ、定形石器でない石器」を不定形石器とした［高橋雄 1992］。総数 485 点で、全石器中で 13.9％を占める。

分類　第 58 図参照。刃部形状を主眼として分類を行った。分類に当たり、元屋敷遺跡上段［高橋雄 2002］、アチヤ平遺跡上段［高橋優 2002］等を参考にした。複数の側辺に刃部が施されている場合は、

二次加工の長さ、丁寧さ、施された部位の観点から、より主要な刃部と判断した部位を対象とした。

A 類（58 ～ 73）　剥片の縁辺に連続的な二次加工が施されて、滑らかな刃部が作出されたものである。刃部は片面加工で作出されたものを基本としており、断面形は片刃を呈する。いわゆる削器・スクレイパーと呼称されるものである。刃部角で細分した。

A1 類（58 ～ 64）　刃部の角度が 45 度以上と急角度のもの。

A2 類（65 ～ 73）　刃部の角度が 45 度以下と浅角度のもの。

B 類（74 ～ 77）　連続的な二次加工が施され、鋸歯状の刃部を持つものである。片面調整が多く、刃部断面形は片刃が主体である。鋸歯縁石器と呼称されていたものに相当する。

C 類（78 ～ 87）　素材の両面に連続的な二次加工が施されたものである。両面加工のため、刃部断面形は両刃が主体となる。

D 類（88 ～ 92）　抉入状の刃部を有するものである。抉入石器･ノッチと呼称されていたものに相当する。

E 類（93 ～ 101）素材の端部に連続的な二次加工が施されたものである。刃部ラインは「U」字状を呈する。

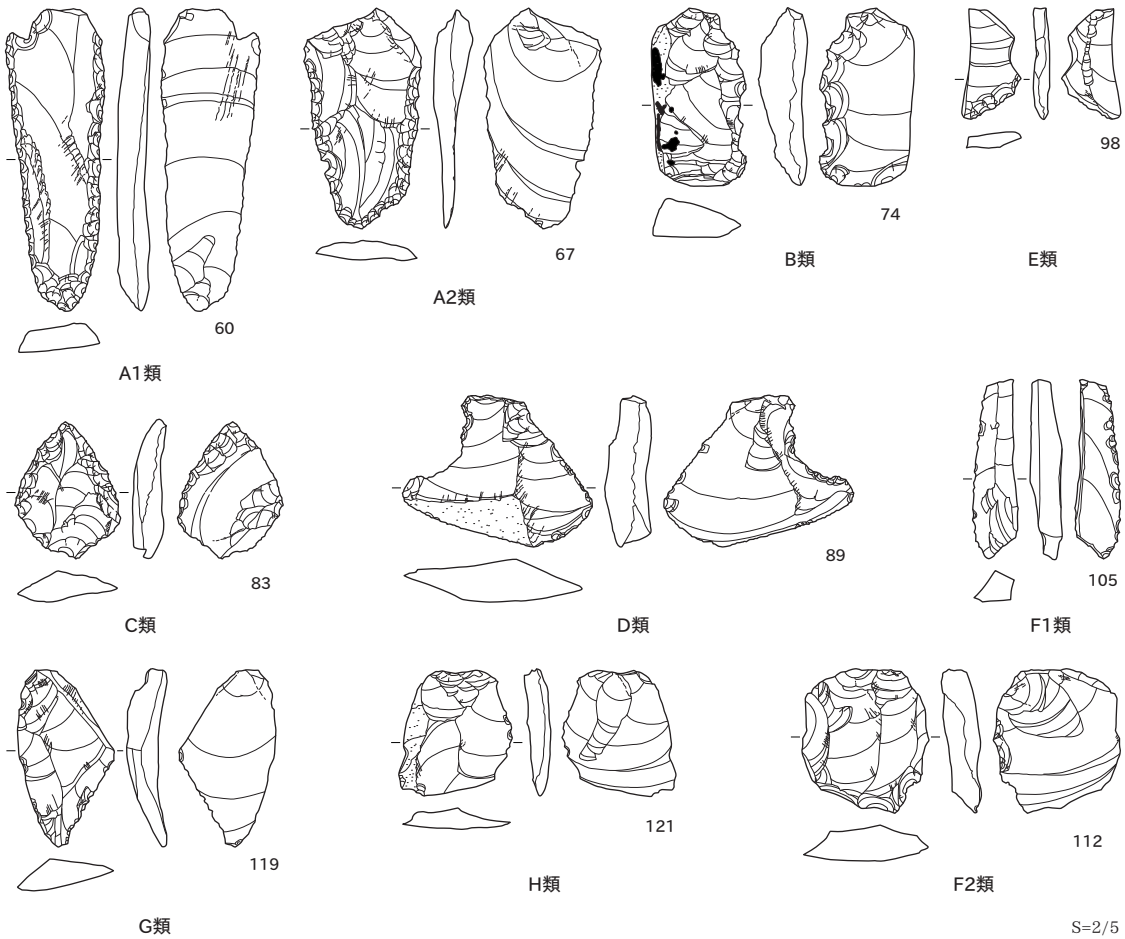
F 類（102 ～ 115）　不連続な二次加工が施されたものである。剥離の大きさにより細分した。

F1 類（102 ～ 110）　小型の不連続剥離が施されたもの。

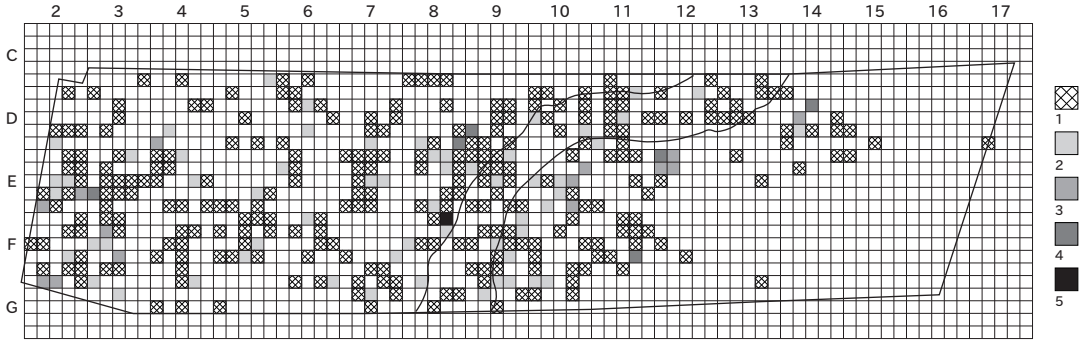
F2 類（111 ～ 115）　中・大型の不連続剥離が施されたもの。

G 類（116 ～ 120）　鋭利な先端部を持つものである。

H 類（121・122）　刃部の加工は明瞭でないが、使用の結果と思われる剥離が観察できるものである。



第 58 図　不定形石器分類図



第 59 図　不定形石器出土分布図

	遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
A1 類	5	12	17	8	8	1	
A2 類	3	42	45	19	24	1	1
B 類	5	10	15	6	8	1	
C 類	8	19	27	15	12		
D 類	5	21	26	16	10		
E 類	8	61	69	30	30	5	4
F1 類	39	132	171	75	81	9	6
F2 類	6	28	34	15	18	1	
G 類	5	24	29	14	13		2
H 類	5	47	52	22	24	3	3
合計	89	396	485	220	228	21	16

第 15 表　不定形石器の分類別出土数と出土分布状況

分類別出土数と出土分布状況　第 15 表参照・第 59 図参照。全点を対象とした。分類別ではＦ類が 205 点と最も多く、不定形石器中 42.3％を占める。これにＥ類が 69 点（14.2％）、Ａ類が 62 点（12.8％）、Ｈ類が 52 点（10.7％）で続く。それ以外のＢ～Ｄ・Ｇ類は 30 点に満たない。

出土分布状況では遺構内のものが 89 点で不定形石器中、20％に満たないなど他器種と同様の傾向が認められる。遺構内出土は少ないが SI1291 から 12 点（58・62・74・106・112・114・115・119・121・122 など）出土している点が注目される。空間分布においては 2-7 ラインと 8-13 ラインで拮抗し、14-17 ラインで 5％未満な点も他器種と同様の傾向と考える。細別ごとで際だった傾向は抽出し難い。ラインごとでは 9 ラインで 58 点、10 ラインで 50 点、2・8 ラインで 48 点と多い。

長さと幅　第 60 図参照。全 485 点を対象とした。全体では長さは 1.5 ～ 11.8cm、幅 0.9 ～ 13.5cm と幅広い分布を示すが、多くのものは長さ 8.0cm、幅 6.0cm 未満に分布する。細別では長さ 8.0cm 未満と比較的小型で占められるＢ・Ｃ・Ｇ類、長さ・幅 8cm 以上ものが散見できるＡ類・Ｆ類等に区分が可能であるが、これは出土量に比例する可能性が高い。長さと幅の比率において 1：1 を境にして縦長のものが多い傾向にあるが、長さと幅の比率が 1：1 よりも幅広のものが 35％を超えるＢ・Ｅ・Ｈ類、25％を超えるＤ・Ｆ類などに分かれる。

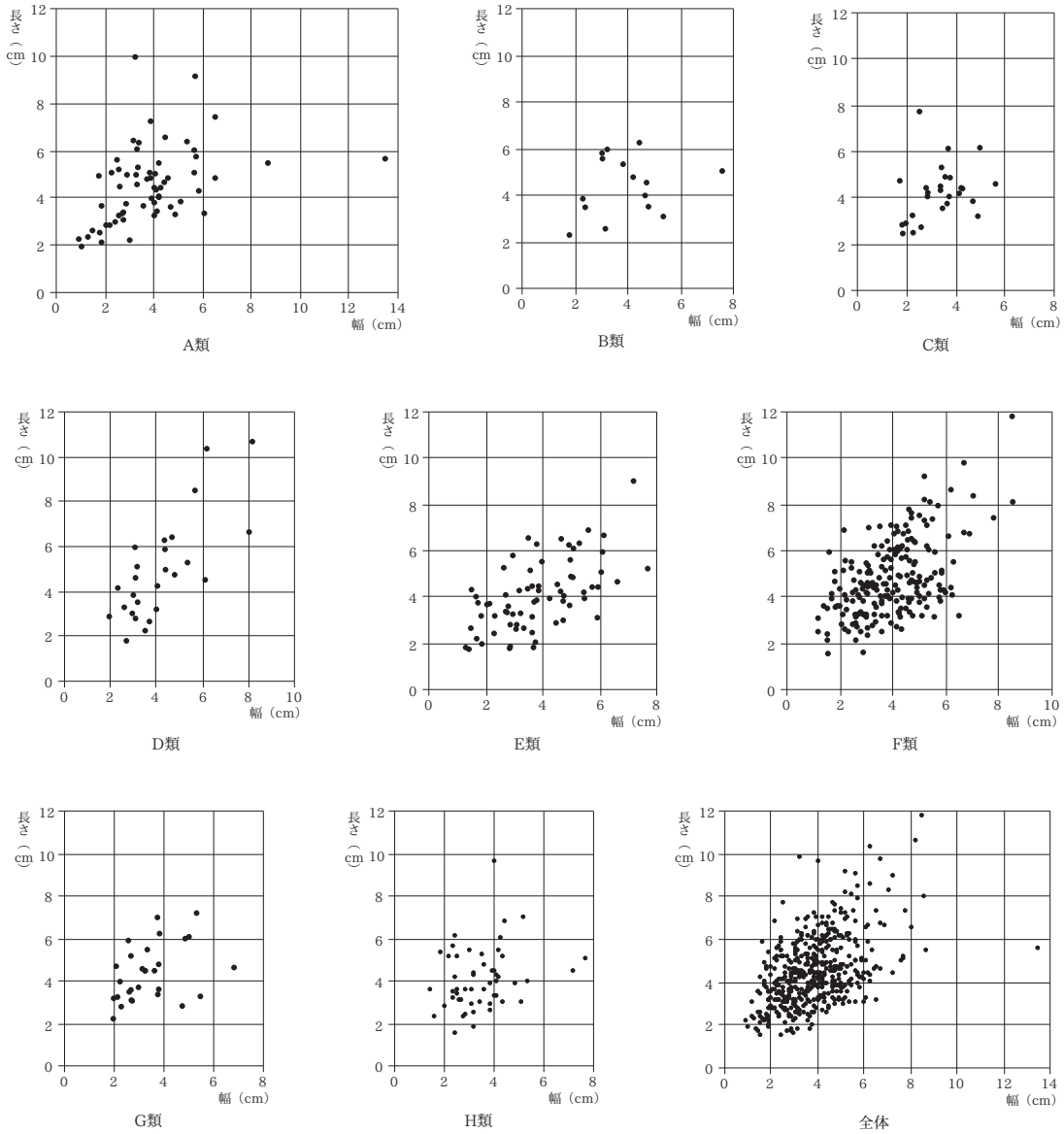
厚さ　第 61 図参照。全 485 点を対象とする。0.3 ～ 4.4cm と幅広い分布を示す。全体では 2cm 程度で緩やかな、3cm 前後で大きな分布の断絶が認められる。おおむね 2cm 未満のものが 454 点あり、全体の 90％以上に及ぶ。種別では 1.0cm 程度と比較的薄いものが多いＣ・Ｇ・Ｈ類、数量が多いことからか 2cm 以上のものが一定量認められるＦ類、ほぼ満遍なく分布するＡ・Ｂ・Ｄ・Ｅ類に区分される。

重さ　第 62 図参照。全 485 点を対象とする。0.4 ～ 280g と幅広い分布を示す。全体では 50g で分布の断絶が認められ、50g 以下のものが 460 点と全体の約 95％を占める。種別では厚さとほぼ同様の傾向が認められ、40g 以下と軽いもので占められるＧ・Ｈ類、50g 以下のもので占められるＢ・Ｃ類、50g 以上のものを一定量含むＡ・Ｄ・Ｅ・Ｆ類に分かれる。

石材　第 16 表参照。全 485 点を対象とする。全体では頁岩が最も多く 254 点（52.3％）、次いで流紋岩が 180 点（37.1％）を占め、両石材で全体の 90％程度を占める点はほかの剥片石器と同様の傾向である。一方で、ほかの石材が他器種よりも多く、凝灰岩（76・93 など）、鉄石英（73・87・101 など）、黒曜石（64・

99・100・105 など)、緑色凝灰岩などがある。ただし、これらは凝灰岩が 37 点（7.6%）ある以外は、5 点にも満たない。

次に種別ごとに頁岩、流紋岩、そのほかの比率で確認する。頁岩が 70%程度以上と主体となる A・C・

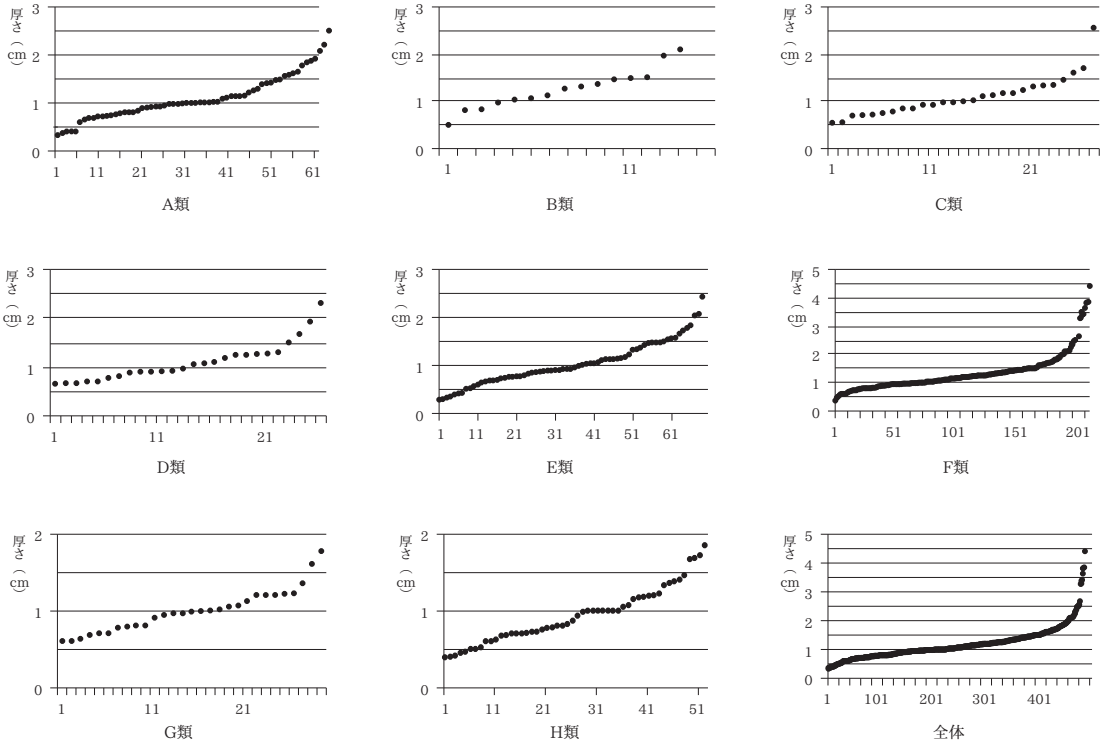


第 60 図　不定形石器の長幅分布図

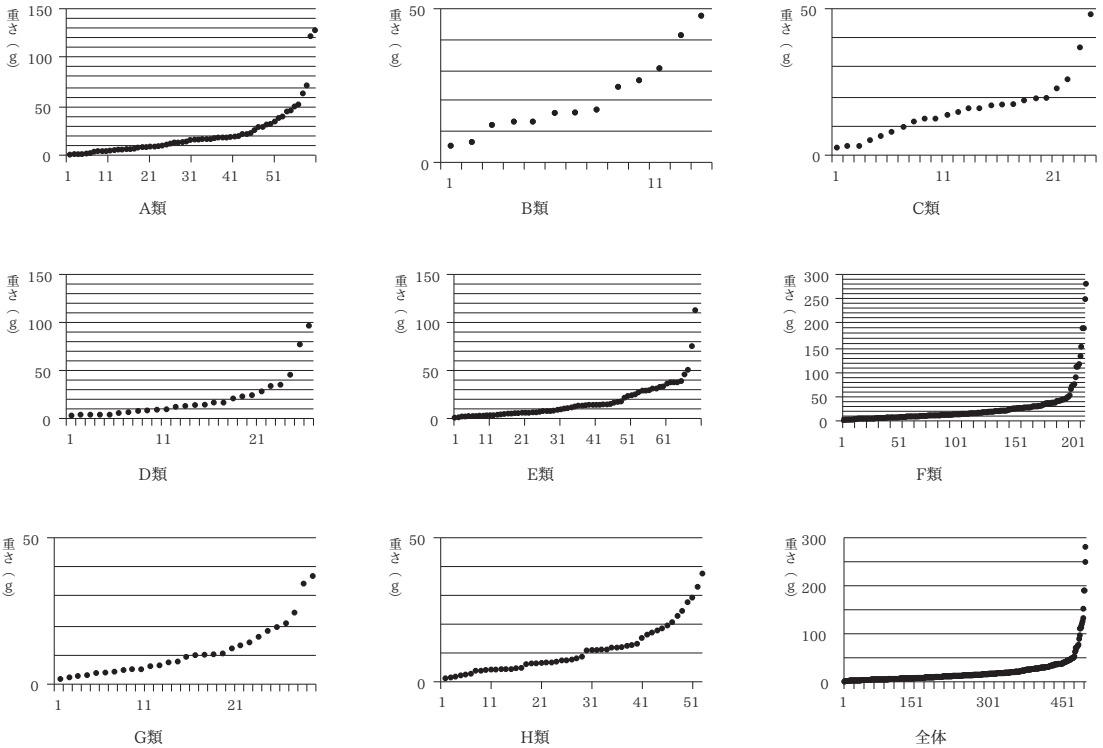
	頁岩Ⅰ	頁岩Ⅱ	頁岩Ⅲ	頁岩Ⅴ	頁岩Ⅵ	頁岩Ⅶa	頁岩Ⅶb	流紋岩Ⅰ	流紋岩Ⅱ	流紋岩Ⅲ	凝灰岩	珪化岩	鉄石英Ⅰ	鉄石英Ⅱ	メノウ	黒曜石	緑色凝灰岩	合計
A1 類						12	1	2	1							1		17
A2 類	2	1	1	2		24	2	6	5		1		1					45
B 類		1				7	1	1	1	1	3							15
C 類	2		2			14	1	7					1					27
D 類	1	1				8	1	12	2		1							26
E 類	2	1	1			19	8	13	11	1	9		1		1	2		69
F1 類	3	6	3		2	49	17	50	27		11				1	1	1	171
F2 類		2				5	4	9	5		8			1				34
G 類	1		1			13	5	8				1						29
H 類		2	3			16	7	16	2		4		1				1	52
合計	11	14	11	2	2	167	47	124	54	2	37	1	4	1	2	4	2	485

第 16 表　不定形石器の分類別石材

G類、頁岩と流紋岩が拮抗しながらもそのほかの石材を 10 ～ 20％程度含むＥ・Ｆ・Ｈ類、頁岩と流紋岩が拮抗してそのほかが 5％未満のＤ類、頁岩を主体に流紋岩よりもその他が多いＢ類となる。おおむね連続する剝離が認められるもので頁岩の比率が高く、簡易な二次加工が主体なもので流紋岩の比率が高い傾向にある。



第 61 図　不定形石器の厚さ



第 62 図　不定形石器の重さ

(8) 石核（123 ～ 127）

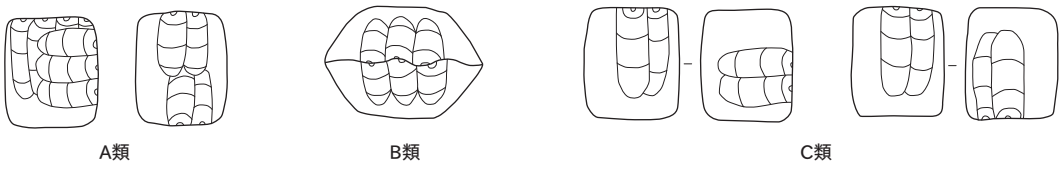
剥片剥離作業を行うための素材、剥片剥離作業中の残核、剥片剥離の残核である。総数 21 点出土した。

分類　第 63 図参照。アチヤ平遺跡上段［高橋優 2002］･元屋敷遺跡上段［高橋雄 2002］を参考にして、以下のように区分した。

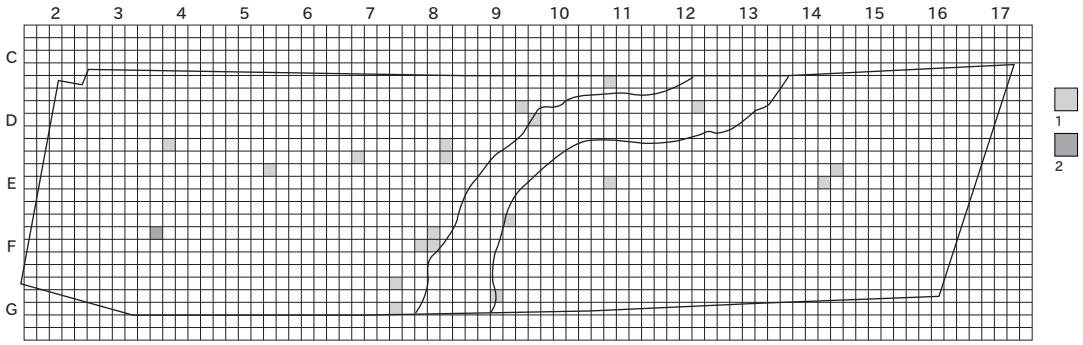
A 類（123）　同一作業面に別々の打面（約 90 度、約 180 度ずれる）から剥離作業面が行われているものである。打面が 2 面以上、剥離作業面は 1 面である。元屋敷・アチヤ平の B 類に相当する。

B 類（124・125）　石核の稜線上から交互剥離により剥離作業が行われているもので、剥離作業は全周しない。剥離作業面は正裏 2 面で、打面は剥離作業により更新される。元屋敷・アチヤ平遺跡の D 類に相当する。

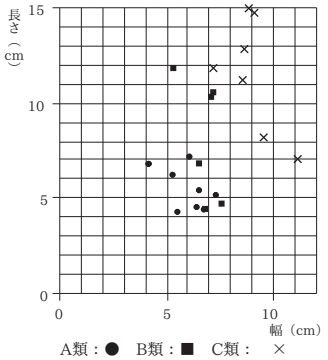
C 類（126・127）　別々の打面・作業面に約 90° ないしは 180° ずれる剥離作業が行われているもの。元屋敷・アチヤ平遺跡の F 類に相当する。



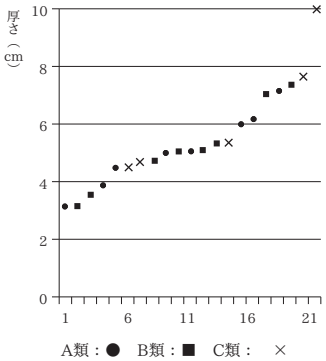
第 63 図　石核分類図（高橋雄 2002 から一部転載）



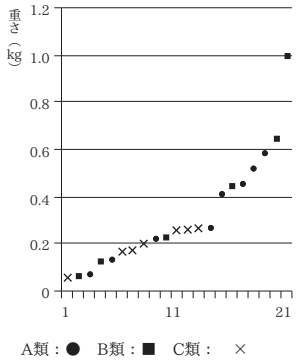
第 64 図　石核出土分布図



第 65 図　石核の長幅分布図



第 66 図　石核の厚さ



第 67 図　石核の重さ

	遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
A類	2	6	8	3	4	1	
B類		6	6	1	5		
C類	2	5	7	3	3	1	
合計	4	17	21	7	12	2	0

第 17 表　石核の分類別出土数と出土分布状況

	頁岩Ⅱ	頁岩Ⅴ	頁岩Ⅶa	流紋岩Ⅰ	凝灰岩	メノウ	泥岩	合計
A類				3	4	1		8
B類		1	2	3				6
C類	1		1	1	1		3	7
合計	1	1	3	7	5	1	3	21

第 18 表　石核の分類別石材

分類別出土数と出土分布状況　第 17 表参照・第 64 図参照。全 21 点を対象とした。分類別では A 類が 8 点（38.1%）、C 類 7 点（33.3%）、B 類 6 点（28.6%）と拮抗しており、顕著な偏りは認められない。

出土分布状況では遺構内のものが 4 点（19.0%）と少なく、20%に満たないなど他器種と同様の傾向が認められる。空間分布においては 2-7 ラインが 7 点（33.3%）なのに対し、8-13 ラインでは 13 点（61.9%）と多い点が特徴となろうか。14-17 ラインで 1 点と 5%未満である点も他器種と同様の傾向と考える。大グリッドごとでの傾向では、剥片石器が定量認められた 2-3 ラインで出土していない点が特徴的である。種別ごとでは際だった傾向は抽出し難いが、B 類が遺構から出土していない点、8-13 ラインでの出土比率が 6 点中 5 点（83.3%）と高い点があげられる。

長さと幅　第 65 図参照。全 21 点を対象とした。長さ 4.3 ～ 15.0cm、幅 4.1 ～ 11.1cm まで分布している。おおむね長さ 4.5 ～ 7cm・幅 4.5 ～ 8cm、長さ 7 ～ 8cm・幅 10cm 前後、長さ 10 ～ 15cm・幅 5 ～ 9cm の 3 つに区分が可能である。以下ではこれらを小さい方から①～③とする。分類別では A 類が①に限られ、B 類は①と③、C 類は②・③に限られるなど、種別と長さと幅には関連が認められる。

厚さ　第 66 図参照。全 21 点を対象とする。全体では 3.2 ～ 10.0cm に分布する。おおむね 6cm と 8cm で分布の断絶が認められる。種別では長さと幅の傾向とほぼ一致しており、A 類は 6cm 未満に限られ、B 類は 6cm 未満と 7 ～ 8cm に、C 類は各法量で認められるなどに傾向がある。

重さ　第 67 図参照。完形･略完形の全 21 点を対象とする。重さ約 60 ～ 1,000g と幅広い分布を示す。おおむね 300g と 700g で明瞭の分布の断絶が認められ、300g 以下、400 ～ 700g、1,000g の三つに区分が可能である。分類別では C 類が 300g 以下に限られる点、A 類は 600g 以下の点、B 類は幅広い分布を示す点が特徴となる。

石材　第 18 表参照。全 21 点を対象とした。全体では流紋岩が 7 点（33.3%）と最も多く、頁岩と凝灰岩が各 5 点（23.8%）で次ぐ。剥片石器の出土点数と比較すると、流紋岩・凝灰岩の多さ、頁岩の少なさが特筆される。分類別では A 類が流紋岩・凝灰岩とメノウがあるものの頁岩を欠く点、B 類では流紋岩と頁岩が拮抗し、C 類では泥岩が主体となる。

(9) 剥片類（128 ～ 157）

石核から剥離された目的剥片及びその副産物として生じた剥片（屑片）、目的剥片や礫から石器を製作する際に生じたもの（チップや屑片）［高橋雄 1992］を総称して剥片類とした。ここでは完成品の大きさを考慮して、長さないしは幅の一方が 2cm 以上を剥片、長さ・幅共に 2cm 未満のものをチップとした。剥片は総数 1,696 点出土した。一方のチップは人力掘削で出土したものに加え、土壌洗浄により検出したものがある。土壌洗浄で検出したものは 2mm 程度と細かいものが多いため数量を計測していない。石材についても明確にできないものが多い。このため主に剥片について記述を行う。

分類　第 68 図参照。剥片のみアチヤ平遺跡上段［高橋優 2002］・元屋敷遺跡上段［高橋雄 2002］を参考にして、以下のように区分した。

【背面の様子】

A 類　背面のすべてが自然面のもの。

B 類　背面の一部に自然面が残るもの。

C 類　背面のすべてが剥離面のもの。

【打面の様子】

1類　自然面打面。

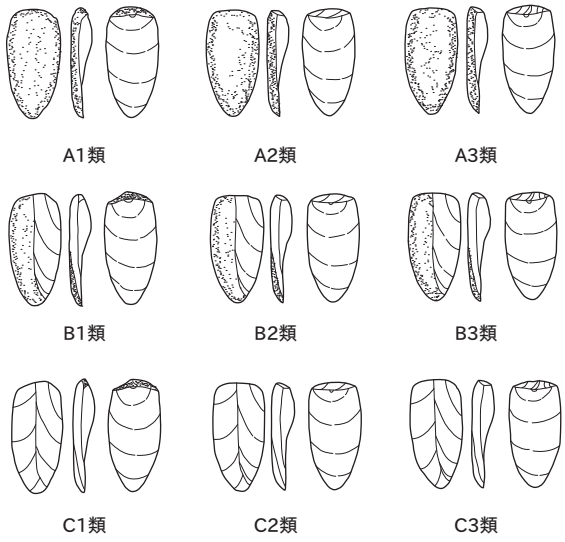
2類　剥離面打面。剥離が1つのもの。

3類　剥離面打面。剥離が2つ以上のもの。

両者の組み合わせでA1類、B3類などと呼称することとする。

分類別出土数と出土分布状況　第69･70図、第19表参照。全1696点を対象とした。分類大別ではC類が最も多く1,196点と最も多く、全体の約70％を占める。次いでB類が397点（23.4％）、A類が103点（6.1％）と続く。大別では背面に自然面を残さないものが圧倒的に多いという結果となる。次に打面の形状からの細別では、自然面を打面するものはA類中では半数を占めるものの、B･C類では少ない。また、剥離面打面で剥離が2つ以上あるものはC類中では多いものの、A･B類では少ない傾向にある。

出土分布状況では遺構内のものが336点（19.8％）と20％に満たないなど他器種と同様の傾向が認められる。一方、多量に出土し



第68図　剥片分類図（鈴木1996から一部転載）

	遺構内	遺構外	合計	2-7ライン	8-13ライン	14-17ライン	その他
A1類	11	43	54	34	18		2
A2類	12	34	46	23	22	1	
A3類		3	3	2	1		
B1類	28	59	87	48	34	4	1
B2類	55	212	267	130	119	11	7
B3類	9	34	43	23	17	2	1
C1類	34	129	163	86	70	6	1
C2類	139	661	800	384	368	34	14
C3類	48	185	233	103	116	11	3
合計	336	1360	1696	833	765	69	29

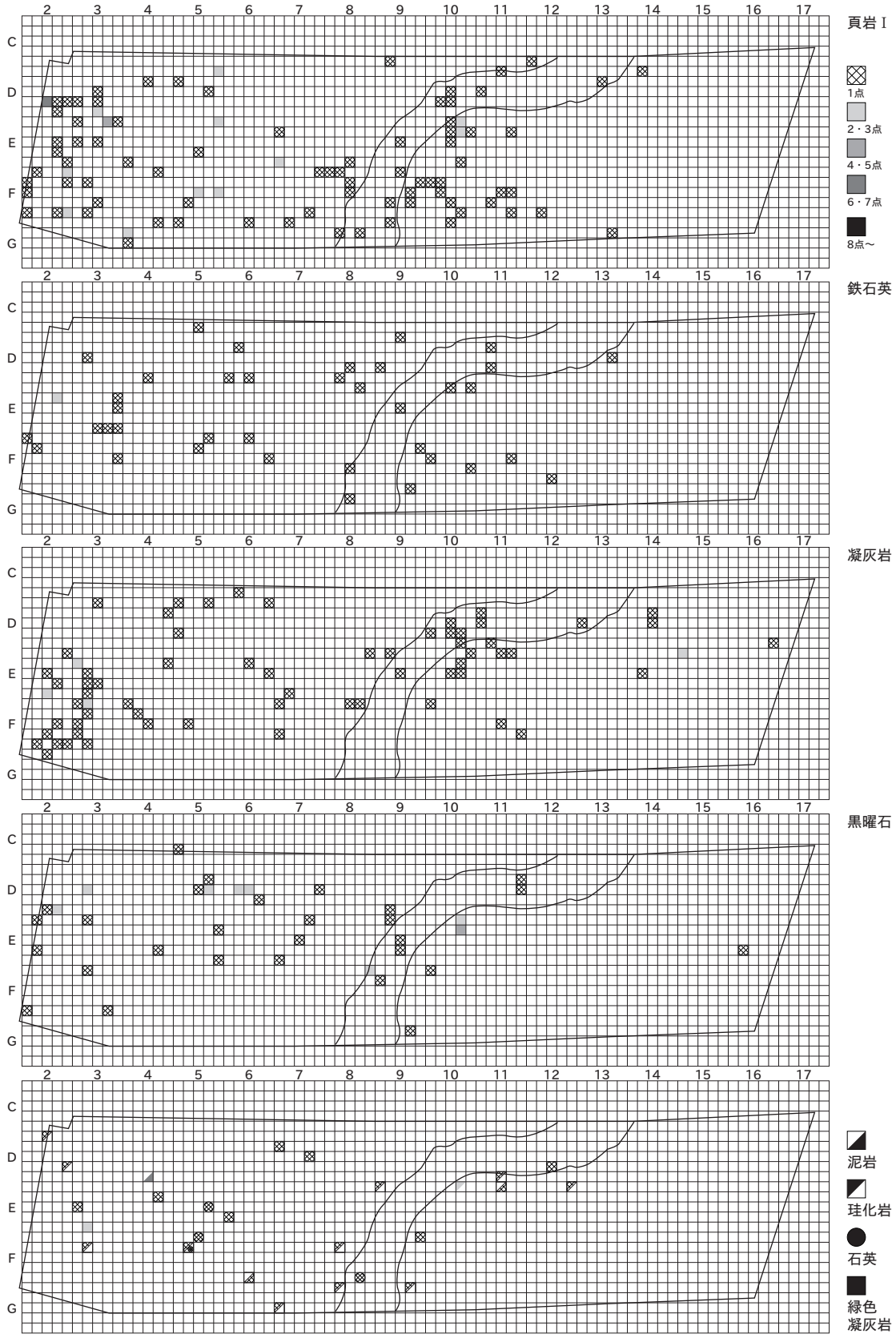
第19表　剥片類の分類別出土数と出土分布状況

	遺構内	遺構外	合計	2-7ライン	8-13ライン	14-17ライン	その他
頁岩Ⅰ	22	93	115	67	45	1	2
頁岩Ⅱ	3	7	10	5	3	1	1
頁岩Ⅲ	2	2	4	3	1		
頁岩Ⅳ	2	3	5	2	3		
頁岩Ⅴ	3	3	6	3	3		
頁岩Ⅵ	2	4	6	1	5		
頁岩Ⅶa	79	305	384	178	185	10	11
頁岩Ⅶb	16	51	67	29	33	4	1
流紋岩Ⅰ	89	444	533	236	253	36	8
流紋岩Ⅱ	66	263	329	177	143	8	1
流紋岩Ⅲ	1	4	5		5		
黒曜石	17	34	51	29	21	1	
緑色凝灰岩	2	7	9	7	2		
メノウ	6	19	25	10	14	1	
石英		5	5	3	1		1
鉄石英Ⅰ	4	37	41	19	20		2
鉄石英Ⅱ		1	1	1			
泥岩	1	8	9	7	2		
珪化岩	5	7	12	5	7		
凝灰岩	15	56	71	41	22	6	2
合計	335	1353	1688	823	768	68	29

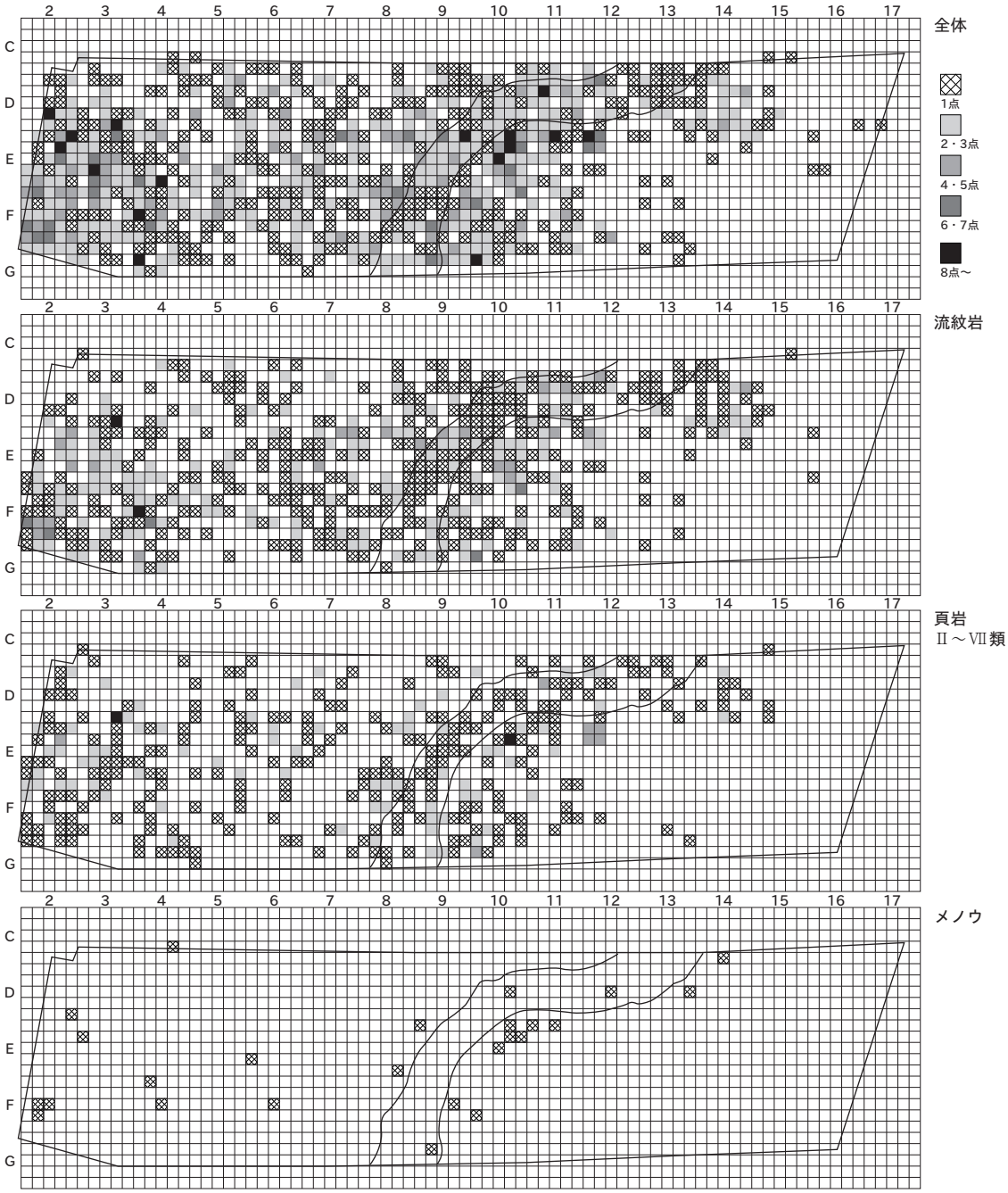
第20表　剥片類の石材別出土数と出土分布状況

	頁岩Ⅰ	頁岩Ⅱ	頁岩Ⅲ	頁岩Ⅳ	頁岩Ⅴ	頁岩Ⅵ	頁岩Ⅶa	頁岩Ⅶb	流紋岩Ⅰ	流紋岩Ⅱ	流紋岩Ⅲ	凝灰岩	珪化岩	鉄石英Ⅰ	鉄石英Ⅱ	メノウ	黒曜石	緑色凝灰岩	石英	泥岩	合計
A1類	7						7	1	5	7		11		1			14			1	54
A2類	5						8	1	7	8	1	5	1	2			5	1		2	46
A3類							1					2									3
B1類	20		2				31	2	24	3		1		1		1	2				87
B2類	26	3			1		73	14	91	20	1	15		5	1	3	10		1	3	267
B3類	2	1					20	2	15			1		1				1			43
C1類	20	2	2	1	1	2	47	3	42	13	2	8	2	7		4	3	2	1	1	163
C2類	28	2		3	3	3	152	33	270	212	6	21	7	18		15	17	5	3	2	800
C3類	7	2		1	1	1	45	11	79	66	3	7	2	6		2					233
不明																					0
合計	115	10	4	5	6	6	384	67	533	329	13	71	12	41	1	25	51	9	5	9	1696

第21表　剥片類の分類別石材



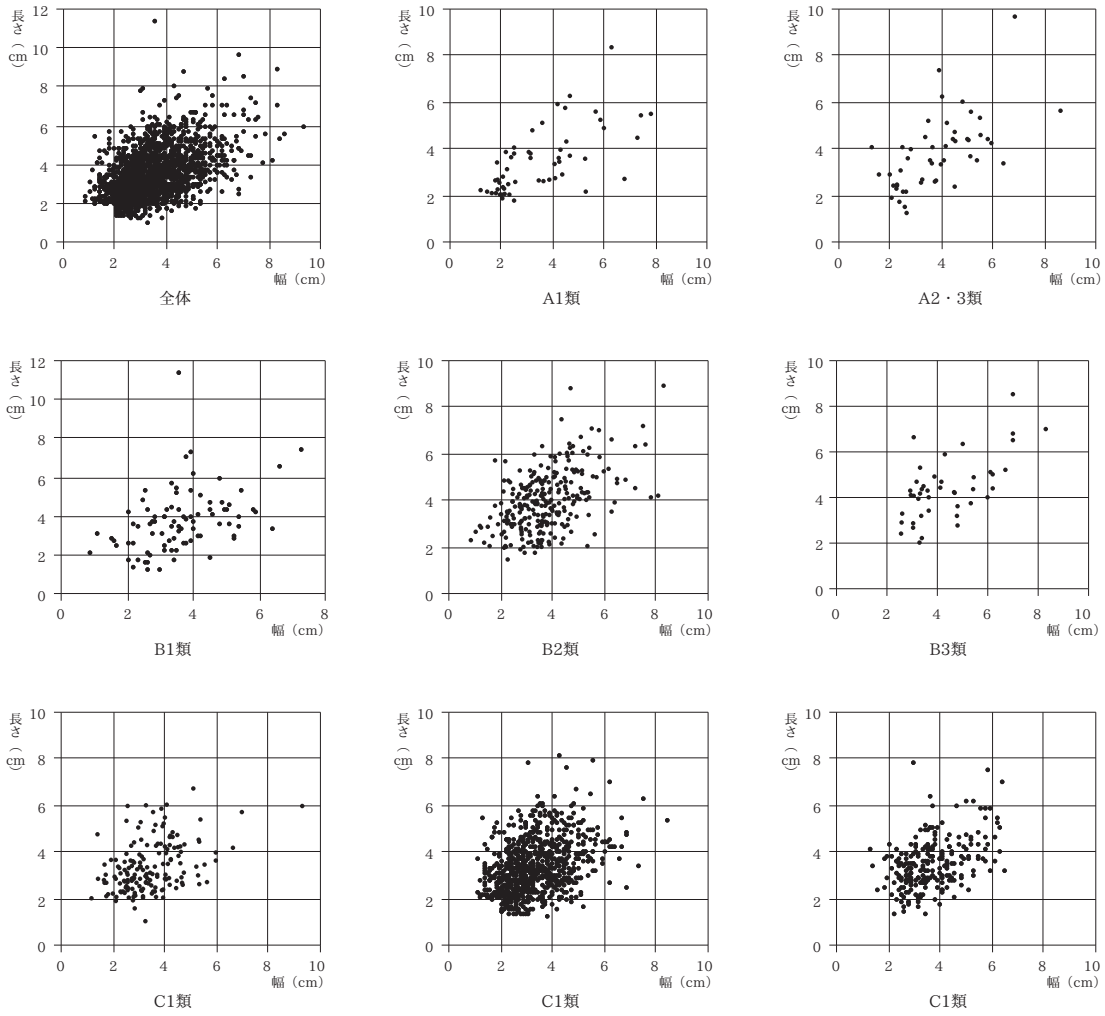
第 69 図　剝片出土分布図（1）



第 70 図　剥片出土分布図（2）

た遺構もあり、グリッド 3D の P571 からは 24 点の剥片が出土しており、埋納の可能性が高い。また SI1291 の覆土から 27 点出土している点が注目される。

空間分布は、「その他」の出土地点を除く 1667 点を対象とすると、2-7 ラインが 833 点（50.0%）なのに対し、8-13 ラインでは 765 点（45.8%）と拮抗し、14-17 ラインでは 70 点と 5%未満な点も他器種と同様の傾向と考える。種別ごとでは際だった傾向は抽出し難いが、B1 類で遺構出土が 32%を占める点、A1 類が 2-7 ラインで 65%を占める点などがあげられる。ラインごとでは 10 ラインが最も多く 214 点、このほかでは 2・3・9 ラインで多く、180 点を超す。大グリッドごとでは 10E が 104 点と最も多く、2F が 91 点で次ぐ。小グリッドごとでは 10 点以上出土したものに 3D24 の 29 点、10E9 の 22 点を筆頭に、4F16・10E13・11E3 の 11 点、10G6 の 10 点がある。



第 71 図　剝片分類別の長幅分布図

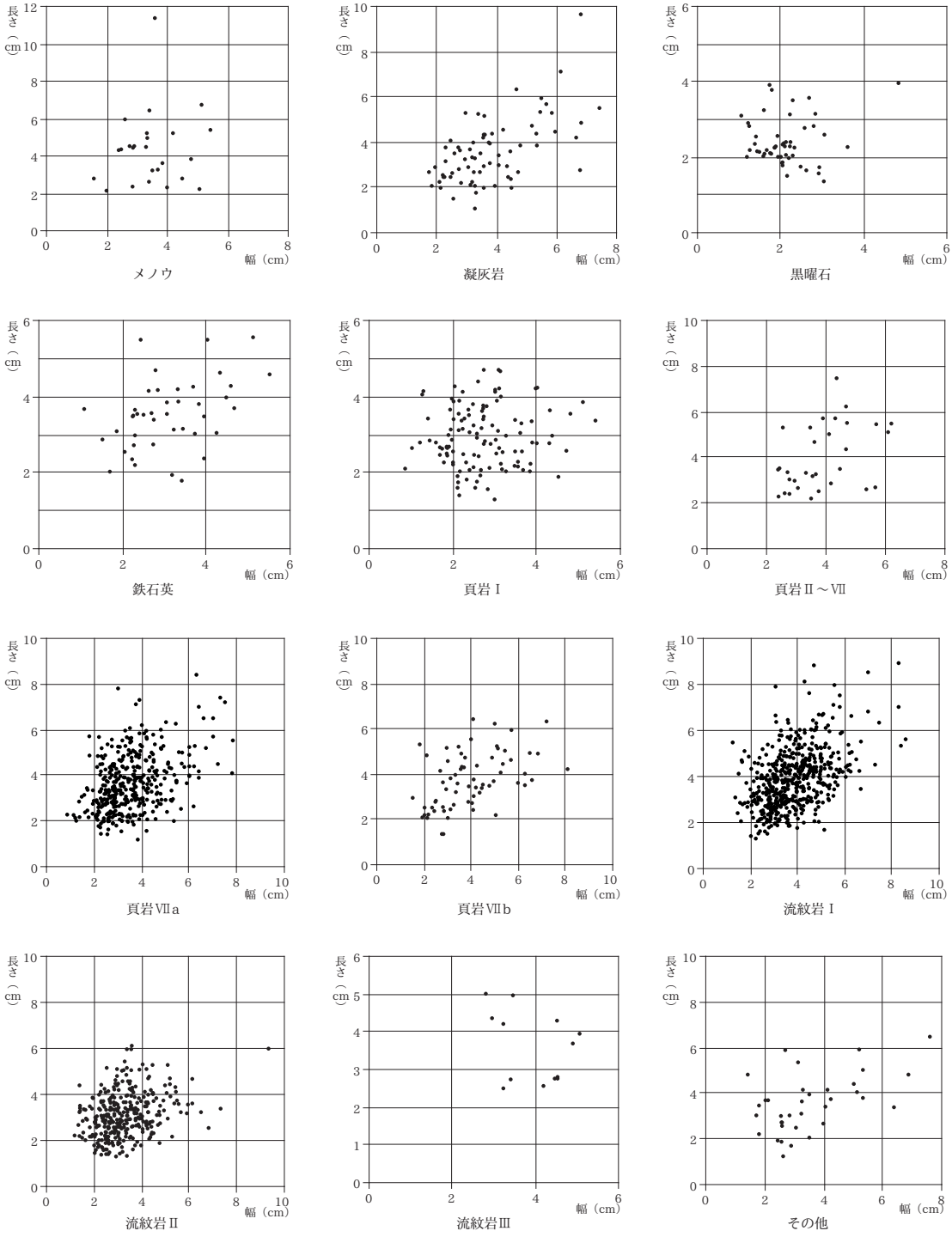
石材　第 20・21 表参照。剝片の全 1696 点を対象とした。大別では流紋岩が 875 点（51.6%）、頁岩 597 点（35.2%）と多く、両者で全体の 85%以上を占める。このほかでは凝灰岩が 71 点（4.2%）、黒曜石 51 点（3.0%）、鉄石英 42 点（2.5%）、メノウ 25 点（1.5%）と続くが、これ以外は 10 点にも満たない。

各石材の分類別出土状況では、黒曜石は遺構出土が 17 点（33.3%）と多い点、数量は少ない頁岩Ⅱ～Ⅵ類で遺構出土が多い点があげられる。空間分布では、頁岩Ⅰ類が 2-7 ラインで多い点、頁岩Ⅶａ・流紋岩Ⅱ類といった多く出土している石材が 8-13 ラインでわずかながらも多い点があげられる。

石材と形態分類の関連では、頁岩Ⅰ類はＡ～C1 類に相当する自然面打面のものが 47 点(40.9%)と多い。また、黒曜石は A1 類が 14 点（27.4%）と多い。

なお、チップでも長さないしは幅が 1cm 以上と比較的大きなもの 62 点あり、石材の判別が可能であった。内訳は流紋岩Ⅱが 17 点、黒曜石 16 点、頁岩Ⅰ類 10 点、頁岩Ⅶａ類 9 点、流紋岩Ⅰ類 4 点、鉄石英Ⅰ類 4 点、メノウ・凝灰岩が各 1 点であった。

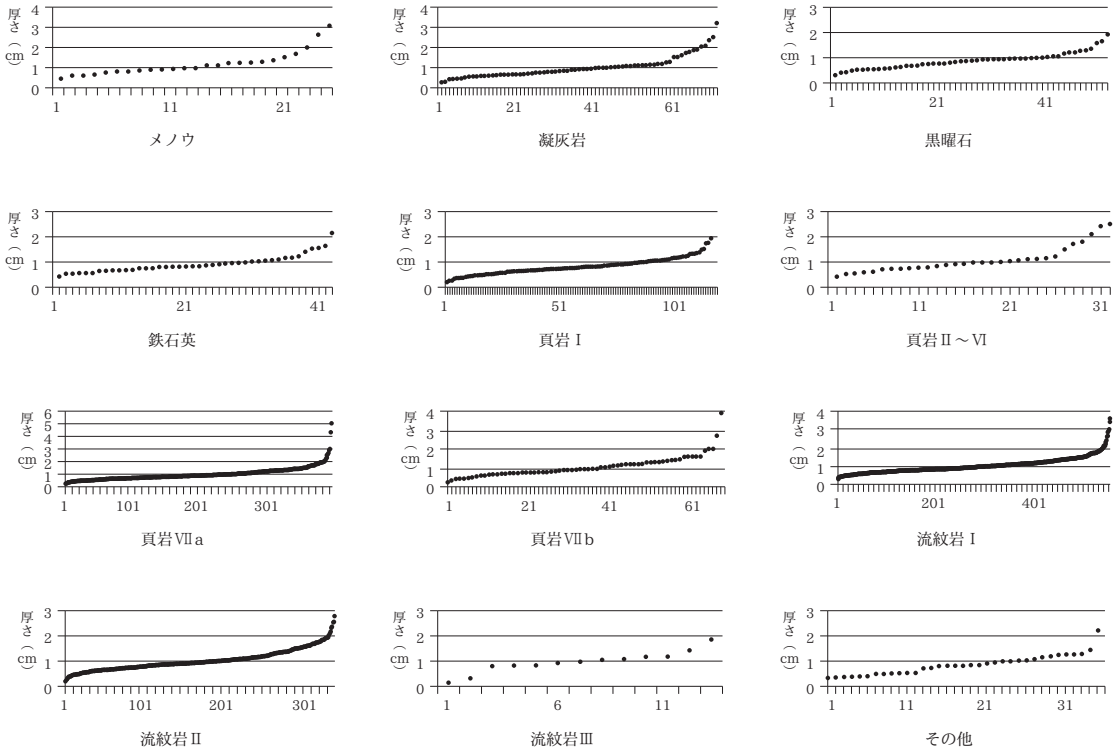
長さと幅　第 71・72 図参照。全点を対象とした。全体的な傾向として縦長剝片が若干多い点、長さ・幅共に 6.0cm に満たないものが多く、6.0cm 以上ものは約 90 点程度と少ない。以下では長さ･幅が 6.0cm 以上のものを大型剝片とする。大型剝片の比率は、A1 ～ 3 類と B1･2 類で 8 ～ 9%、C1･2 類で 3%未満、C3 類では 5%強認められるのに対し、B3 類では 23.3%と高い比率を誇る。



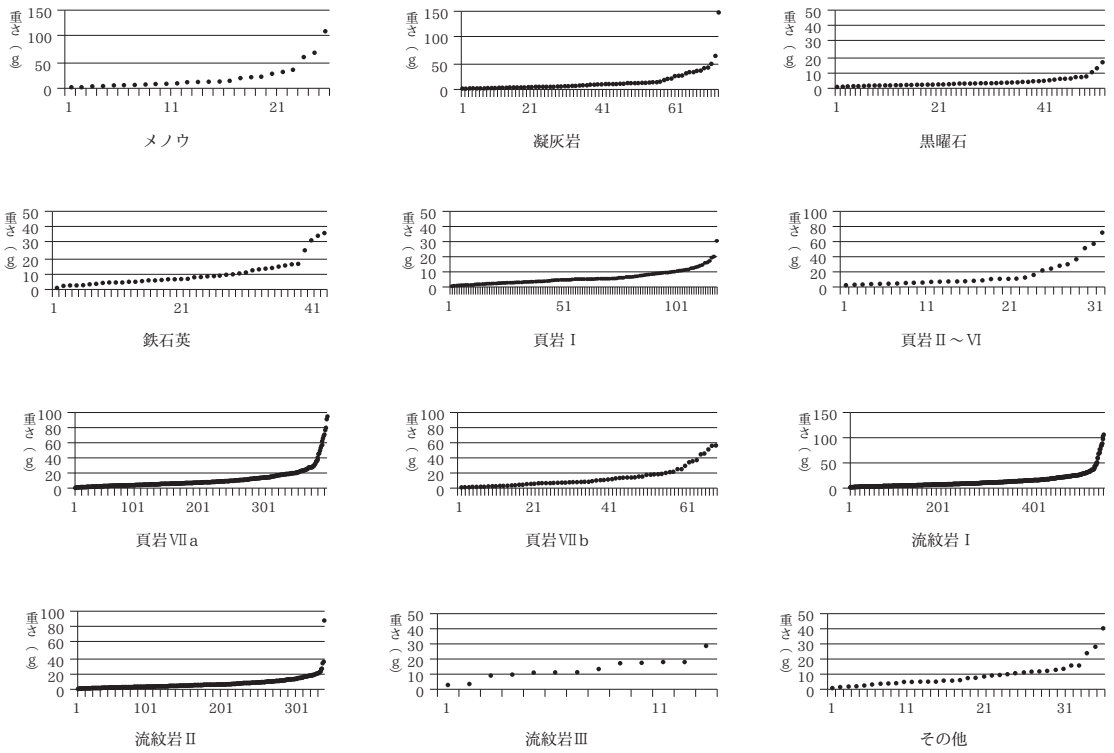
第 72 図　剥片石材別の長幅分布図

石材別では傾向が一層顕著であり、6cm 未満に限られる黒曜石・石英・珪化岩・緑色凝灰岩・鉄石英・流紋岩Ⅲ類･頁岩Ⅰ類、大型剥片が多い 10％以上含む凝灰岩･頁岩Ⅶｂ類･流紋岩Ⅰ類などの傾向がある。特に黒曜石は長さ･幅共に 4.0cm 未満に 98％、頁岩Ⅰ類も 5.0cm 未満に 98％がそれぞれ分布するなど、小型の傾向にある。両石材は背面に自然面を残すものが圧倒的に多いことからも、径 4cm 程度と小型であったことが分かる。

厚さ　第 73 図参照。全 1696 点を対象とする。0.2 ～ 5.0cm まで分布しており、2cm 未満のものが 1,645



第 73 図　剥片石材別の厚さ

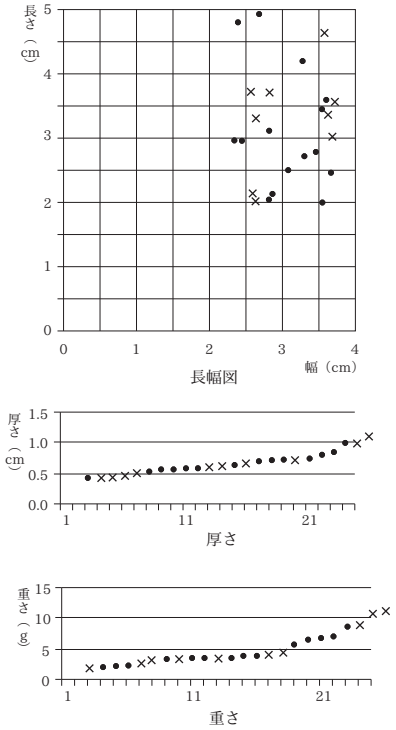


第 74 図　剥片石材別の重さ

点（97.0%）を占める。石材別の分布図のみ掲載した。数量の多い頁岩Ⅶａ類、流紋岩Ⅰ類、流紋岩Ⅱ類で 2cm 以上のものが認められるが、比率は低い。

重さ　第 74 図参照。全 1696 点を対象とする。0.4 ～ 150g まで認められるが、50g 以下のものが 1,658 点（97.8%）と圧倒的に多い。「長さと幅」と同様に、大型剥片が多い凝灰岩・頁岩Ⅶａ類・流紋岩Ⅰ類では 50g 以上のものを一定量含む。

付着物　黒色付着物が 5 点で確認できた。掲載した 4 点（152 ～ 155）のうち、3 点（154 ～ 156）を分析した結果、アスファルト（154）と、アスファルトの可能性があるもの（155・156）と判明した。そのほかの個体についても特徴からアスファルトの可能性があると考える。黒色物はいずれも正裏面に付着している。付着後の剥落が予想されるが、現状では限られた部位に付着するもの（156・157）、比較的広範囲に付着するもの（154・155）がある。後者には、比較的層状に付着するもの（154）もある。付着の有無は確認できたが、付着の意義（使用法の推定等）付けについては明確でない。

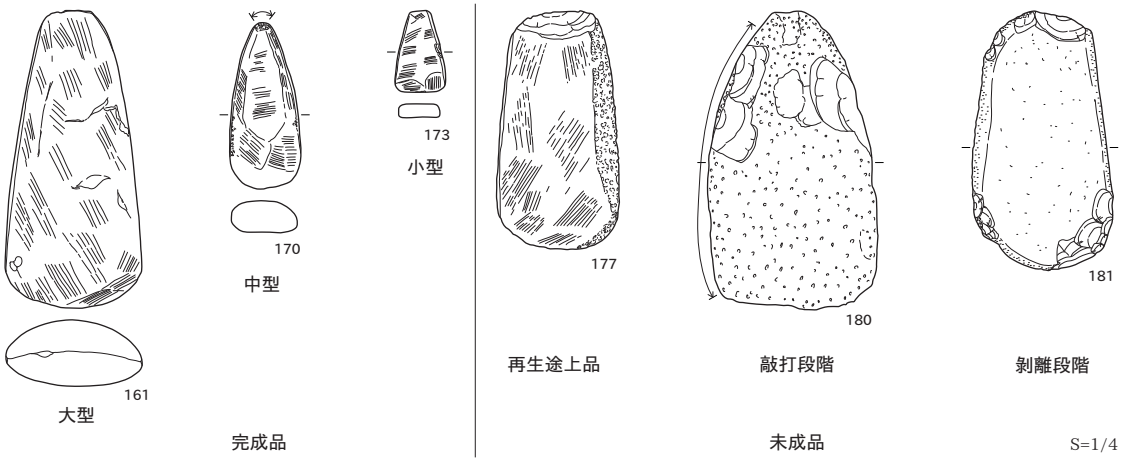


第 75 図　P571 出土剥片の属性
（●：流紋岩、×：頁岩）

接合資料　P571 出土の剥片が接合した。流紋岩で 6 点（129 ～ 134）が接合したものが 128、頁岩 2 点（144・145）が接合したものが 143 である。このほか P571 からは流紋岩Ⅰ・Ⅱ類が 8 点、頁岩 8 点が出土している。接合関係が認められなかったものの、石質が酷似することから同一の母岩から作出された可能性が高いと考える。流紋岩のものは長さ・幅共に 2 ～ 5cm、厚さ 1cm、重さ 10g 以内に納まり、小さな剥片が作出されていることがわかる（第 75 図）。頁岩もほぼ同様の法量であり、類似性が高い。

（10）磨製石斧（158 ～ 181）

剥離・敲打を基本に成形され、研磨で仕上げられた一端に刃部を有する斧形の磨製石器とした。入念に研磨されたたものを完成品、剥離・敲打痕が残って形態が完成品の形態に近いものを未成品とした。なお、未成品の中には形態が完成品に近く、研磨後に敲打が行われたと予想される再生途上品を含む。完成

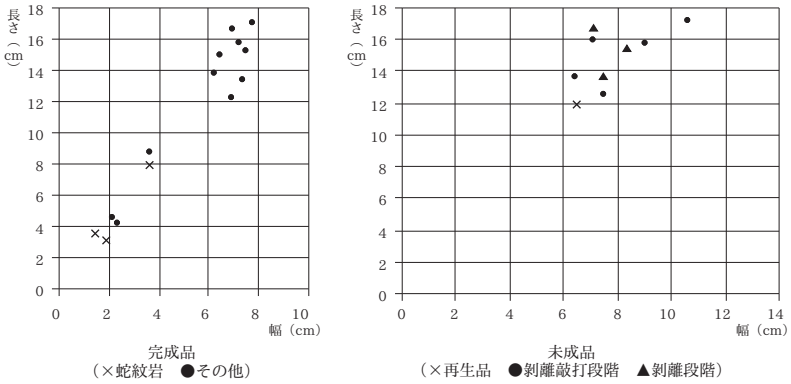


第 76 図　磨製石斧分類図

品 94 点、未成品 19 点、総数 113 点出土した。

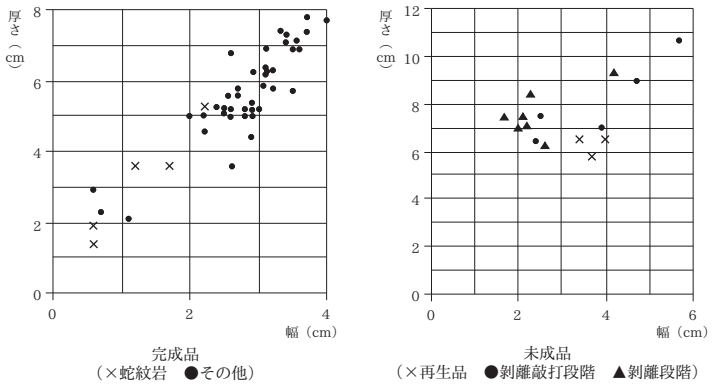
長さと幅・厚さ・分類　第 76 図参照。ここでは法量で大別した。

（長さと幅）　第 77 図参照。完形と略完形の一部を対象とした。完成品は 14 点、未成品は 9 点である。完成品は長さ 3 ～ 17cm、幅 1 ～ 8cm に分布する。①長さ 3 ～ 5cm・幅 2cm、②長さ 8cm 前後・幅 3.5cm 程、③長さ 12cm 以上・幅 6 ～ 8cm に区分が可能である。



第 77 図　磨製石斧の長幅分布図

（厚さと幅）　第 78 図参照。破損品のうち最大幅・最大厚が明確なもののみを対象とした。内訳は完成品が 48 点、未成品が 19 点である。完成品は幅 1.5 ～ 8cm・厚さ 0.5 ～ 4.0cm に分布するが、「長さと幅」の 3 区分とおおむね一致しており、①幅 1.4 ～ 3cm、厚さ 0.5 ～ 1cm 程度、②幅 3.5cm ほど、厚さ 1.5 ～ 2.6cm、③幅 4.4cm 以上、厚さ 2cm 以上である。



第 78 図　磨製石斧の厚幅図

未成品はいずれも幅 5.8 ～ 10.8cm、厚さ 1.6 ～ 5.7cm に分布する。厚さ 3cm 程度に分布の断絶が認められる。

（分類）　完成品は法量で長さと幅・厚さから以下に区分した。

＜完成品＞

大型（158 ～ 169）　長さ 12cm 以上のもの。破片品を含め、幅 4cm・厚さ 2cm 以上のものとした。

中型（170・171）　長さ 8 ～ 9cm 程度のもの。幅 3.5cm 程度・厚さ 3cm 未満のものである。

小型（172 ～ 176）　長さ 5cm 未満のもの。厚さ 3cm 未満・厚さ 1cm 前後のものである。

この法量による区分に当てはまるものは 94 点中 48 点（51.1）％である。

＜未成品＞　法量はいずれも完成品では大型品に対応する。

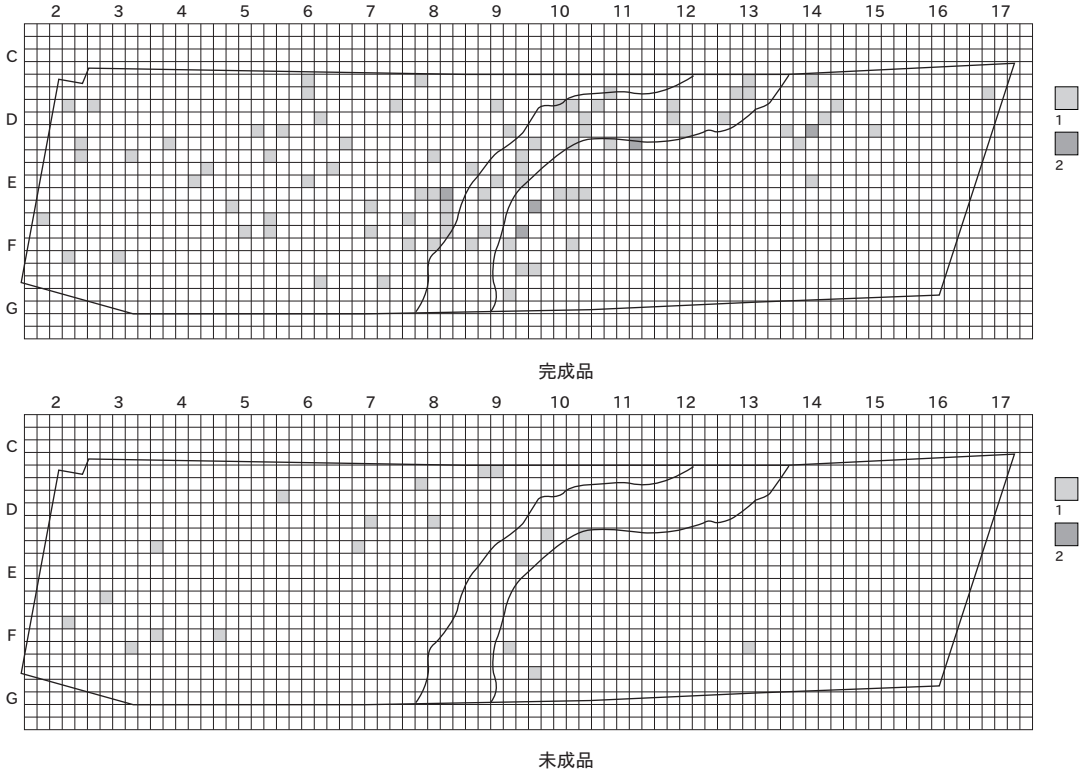
再生品（177・178）　研磨面を残すものの、刃部にまで敲打痕が残るもの。

敲打段階（179・180）　全体の半分以上に敲打痕が残るもの。

剝離段階（181）　敲打が認められず、剝離痕が残るもの。

分類別出土数と出土分布状況　第 79 図・第 22 表参照。全 113 点を対象とした。完成品のうち法量による区分が可能な 48 点の内訳は、大型 41 点（85.4％）、中型 2 点（4.2％）、小型 5 点（10.4％）である。完成品の法量に照らせば、未成品はいずれも大型に属する。

出土状況では完成品と未成品で大きな差異は認められない。いずれも遺構内出土（158･160 ～ 162 など）



第 79 図　磨製石斧出土分布図

は 30％弱である。一方の空間分布では完成品と未成品で差異がある。未成品は 2-7 ラインと 8-13 ラインで拮抗するが、完成品は 2-7 ラインが 29 点（30.8％）なのに対し、8-13 ラインではその倍近い 52 点（55.3％）あることに加え、14-17 ラインも 10 点（10.6％）とやや多い。大グリッドごとの出土数では 8・9E で各 6 点が最多であること、8-10 ラインで完成品 40 点（42.6％）出土しているのが特徴となる。

		遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
完成品		27	67	94	29	52	10	3
未成品		5	14	19	9	10		
合計		32	81	113	38	62	10	3
完成品内訳	大型	10	31	41	13	25	1	2
	中型		2	2		2		
	小型	2	3	5		4	1	
	不明	15	31	46	16	21	8	1
合計		27	67	94	29	52	10	3

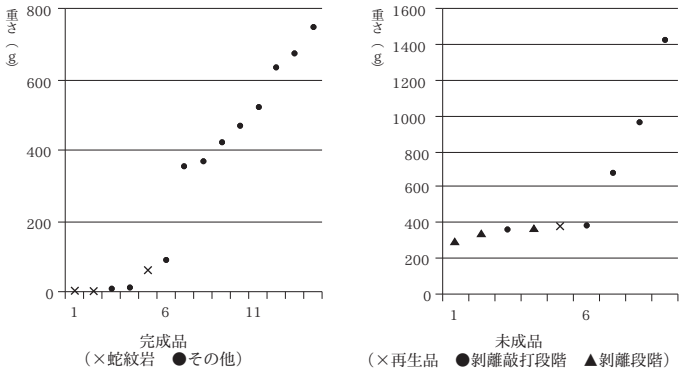
＊未成品には再生品も含む

第 22 表　磨製石斧の分類別出土数と出土分布状況

重さ　第 80 図参照。完形・略完形を対象とする。内訳は「長さと幅」と同様である。完成品は 5 ～ 800g、未成品は 300 ～ 1,400g にまで分布している。完成品は分布の断絶から 10g 前後、60 ～ 90g、350 ～ 550g、600 ～ 750g に細分が可能である。法量の区分に照らすと、小型は 10g 前後、中型は 60 ～ 90g、大型は 350g 以上となる。

石材　第 23 表参照。全点を対象とした。石材は比較的限定され、4 種類が選択されている。完成品では輝緑岩が 84 点（89.4％）と最も多い。一方で、法量別では傾向が顕著であり、大型品は輝緑岩が 41 点中 40 点（97.6％）と圧倒する。一方、小・中型の 7 点では蛇紋岩 3 点（42.9％）、緑色凝灰岩（170・174）・泥岩（172・173）が各 2 点（28.6％）と輝緑岩を含まない。法量により分類が明確でないもの 46 点では輝緑岩が 44 点（95.7％）で、蛇紋岩・緑色凝灰岩が各 1 点（2.2％）存在するにすぎず、大型の石材組成に近い。完成品では大型品が輝緑岩、中･小型品がそのほかの石材という明瞭な傾向がうかがえる。

未成品でも石材の選択性が顕著で、すべて輝緑岩である。法量は完成品の大型に近いことからも、大型品は輝緑岩、中・小型品でその他の石材という傾向が伺える。



第 80 図　磨製石斧の重さ

		輝緑岩	蛇文岩	緑色凝灰岩	泥岩	合計
完成品		84	5	3	2	94
未成品		19				19
合計		103	5	3	2	113
完成品内訳	大型	40	1			41
	中型		1	1		2
	小型		2	1	2	5
	不明	44	1	1		46
	合計	84	5	3	2	94

第 23 表　磨製石斧の分類別石材

遺存状態　完成品 94 点のうち完形・略完形は 15 点、破損品が 79 点と破損品が圧倒的に多い。破損品の内訳は刃部が残るもの 35 点、基部が残るもの 40 点、刃部・基部を欠いて胴部のみ残存するもの 3 点である。これらの各部位片は、1 点も接合しなかった。基部が残存したもので最低個体数を抽出すれば 55 点（完形・略完形 15 点 + 基部残存破片 40 点）となる。

（11）石皿（182 ～ 196）

「磨る・砕く・潰す」作業に使用されたと考えられる道具であり、主に磨石類（敲石・磨石）と共に堅果類の皮むき、製粉等に使用されたものと考えられる［渡辺 1983］。これを踏まえ、本稿ではアチヤ平遺跡上段の記述を引用し、「主に大型の扁平礫を素材とし、磨面、敲打面などの使用痕跡を有する石器」と定義した。石皿に類似するものとして磨石類、広範囲に使用面をもつ砥石、台石との区分が問題となる。磨石類とは大きさで、砥石とは線状痕の有無で区分が可能である。台石とは文字通り作業台にする石であり、上下方向の圧潰作業に用いられたものと考える。こうした作業に基づく作業面は、つぶれたような浅い凹面ないしは、叩かれた面がわずかに残るもの等で、石皿との区分が困難なものが多い。このため、ここではアチヤ平遺跡上段の区分に従い、台石を含めて石皿とした。総数 77 点出土している。このうちの 2 点が接合したものが 2 例（計 4 点）ある。以下では必要に応じて 77 点と 75 点を使い分ける。

分類　第 81 図参照。加工の有無で大別し、使用面の範囲等で細分した。

A 類（182 ～ 184）　有縁石皿である。外形・使用面等に加工が施されている。

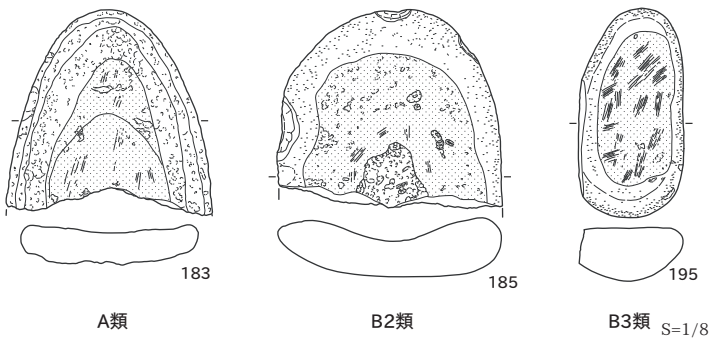
B 類　無縁石皿である。使用面の形状により細分した。

B2 類（185 ～ 187・189）　使用の結果、中央部分が凹むもの

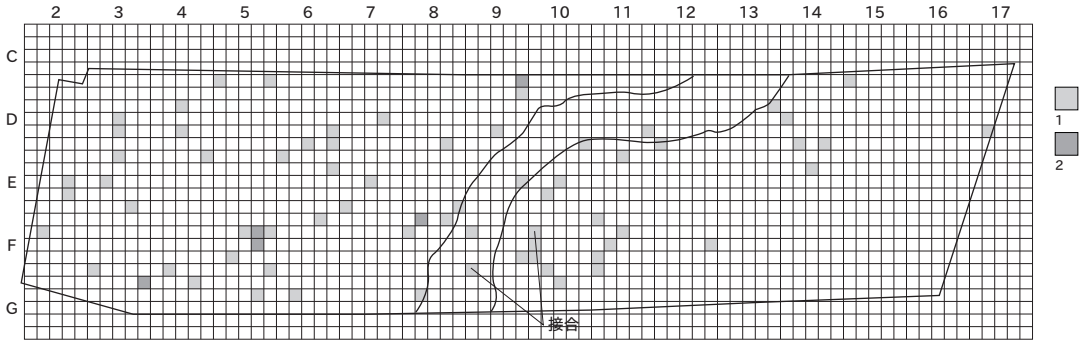
B3 類（188・190 ～ 196）　使用面が平坦なもの。

分類別出土数と出土分布状況　第 24 表・第 82 図参照。77 点を対象とした。分類大別では A 類が 8 点（10.4％）であるのに対し、B 類が 69 点（89.6％）と圧倒的に多い。細別では使用面が平坦な B3 類が 42 点と多く、全体の半数以上を占める。接合例はいずれも B3 類であった。

出土分布状況では遺構内のものが約半数の 38 点（49.4％）で他器種



第 81 図　石皿分類図



第 82 図　石皿出土分布図

に比べて際だった比率を示す。これは本来的な使用目的後に、石囲炉に転用された例が 9 点（11.7%）と多いことが要因の一つである。細別では顕著な傾向は認めがたいが、残存率が低いため B 類と一括したものは包含層から出土する傾向にある。

	遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
A 類	4	4	8	7		1	
B2 類	9	10	19	10	7	2	
B3 類	24	18	42	19	20	2	1
B 類	1	7	8	1	6	1	
合計	38	39	77	37	33	6	1

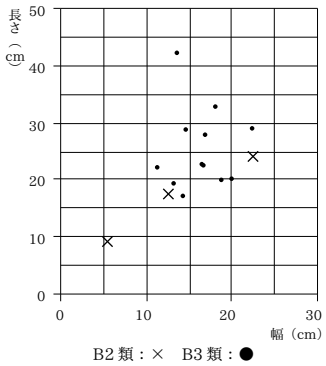
第 24 表　石皿の分類別出土数と出土分布状況

空間分布では他器種と同様に 2-7 ラインと 8-13 ラインで拮抗し、14-17 ラインで 5%前後である。

大グリッドごとでは 5F が 8 点と最も多いが、これは石囲炉に転用されたものが多いことに起因する。

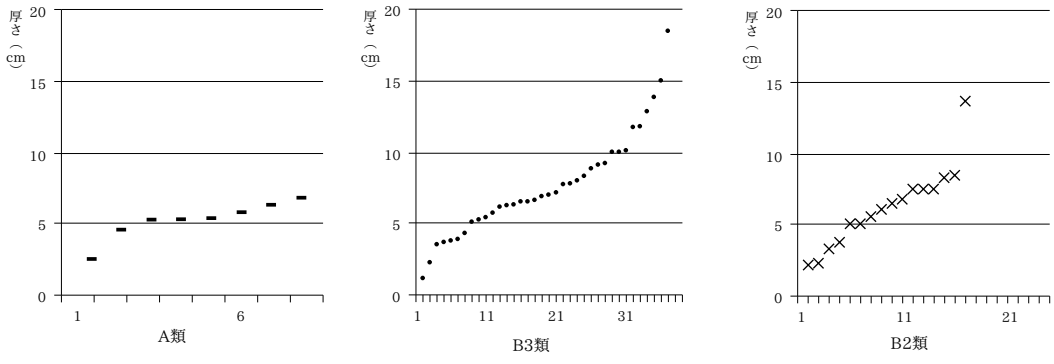
分類別では B2・3 類でおおむねこの比率を反映した結果となっているが、有縁石皿の A 類は 8 点中 7 点が 2-7 ライン出土と圧倒的に多い点、砕片の B 類が 8-13 ラインでまとまる点などが特徴的である。

長さと幅　第 83 図参照。完形・略完形の計 15 点を対象とした。この中には A 類が含まれておらず、B2 類が 3 点、B3 類は 12 点である。長さは 10 ～ 40cm、幅は 5 ～ 20cm 程度に分布している。分布の断絶からおおむね長さ 10cm 程度の小型、長さ 15 ～ 35cm の中型、長さ 40cm 以上の大型に区分が可能である。分類別では小型・中型の B3 類、中型・大型の B2 類に区分が可能である。幅広い分布を示す中型でも B3 類は比較的小さいものが多い傾向にある。



第 83 図　石皿の長幅分布図

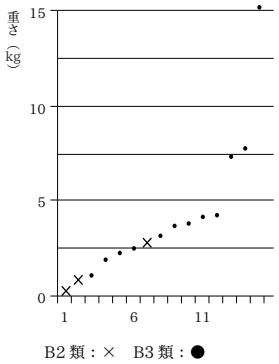
厚さ　第 84 図参照。破損品も完形時の厚さと推定できるため、64 点を対象とする。おおむね 5cm、10cm 程度に分布の断絶が認められるため、5cm 未満の小型、5 ～ 10cm の中型、10cm 以上の大型に区分する。細別では中型を主体に小型がある A 類、A 類とほぼ同様な分布を示すが大型を含む B2 類、中型を主体に中小型と大型の比率が拮抗



第 84 図　石皿の厚さ

する B3 類に分かれる。

重さ　第 85 図参照。長さと幅と同様に完形・略完形の 15 点を対象とする。20 ～ 15,000g まで分布する。おおむね 5,000g 以下、7,500g 程度、15,000g 程度の 3 つに区分が可能である。長さと幅と同様に軽量のものが主体の B2 類、軽量を主体に重いものを含む B3 類に分かれる。



第 85 図　石皿の重さ

石材　第 25 表参照。全 77 点を対象とした。花崗岩が最も多く 29 点（37.7%）、閃緑岩が 20 点（26.0%）、輝緑岩が 15 点（19.4%）、凝灰岩が 13 点（16.9%）と限られた石材が選択されている一方で、特定の一つの石材に偏らない傾向がうかがえる。細別では花崗岩を含まずに凝灰岩・閃緑岩に集中する A 類、凝灰岩・閃緑岩を中心に花崗岩・輝緑岩を定量占める B2 類、花崗岩が主体にほかの石材が拮抗する B3 類となる。おおむね使用痕が凹むものでは花崗岩の比率が低く、使用面が平坦なものでは花崗岩の選択比率が増す傾向が認められる。

	花崗岩	輝緑岩	凝灰岩	閃緑岩	合計
A 類		1	3	4	8
B2 類	4	3	5	7	19
B3 類	20	9	5	8	42
C 類	5	2		1	8
合計	29	15	13	20	77

第 25 表　石皿の分類別石材

遺存状態・接合品　75 点を対象に遺存状態を確認する。完形・略完形が 15 点に対し、破損品が 62 点と多い。破損品のうち 15 点は半損したものであるが、その他 47 点の残状況は 1/4 以下である。接合した 2 例 4 点は石囲炉に転用されたもの（194 石囲炉 2913）と、包含層出土でグリッド 9F21 と 10F6 出土品の接合例であった。いずれも接合後でも完形品とはならはい破片同士の接合例である。

被熱　75 点を対象として被熱の状況を確認する。36 点（48.0%）で被熱による変色を確認した。このうち 8 点は石囲炉の炉石に転用されたものである。完形・略完形品では 15 例中 6 例（40%）、破片では 60 点中 30 点（50%）で被熱が認められた。破片では割れ口に被熱の痕跡が認められるものが 12 例あった。完形品であった時点で被熱し、破損後も被熱され続けた結果、割れ口に被熱の痕跡が付着した可能性もあろうが、欠損後に被熱したものも定量存在した可能性もあろう。

（12）砥石（197 ～ 208）

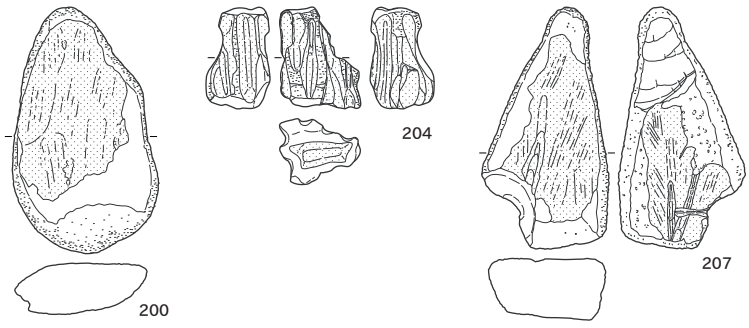
大型の扁平礫を素材とし、研磨痕・摩耗痕が認められるものを砥石とした。使用痕が類似する磨石類は大きさ・砂岩で、石皿・台石との区分は（11）石皿で触れたとおりである。

分類　第 86 図参照。使用痕を基に、以下のように分類した。

A 類　面状・帯状に砥面が広がるもの（197 ～ 202）。

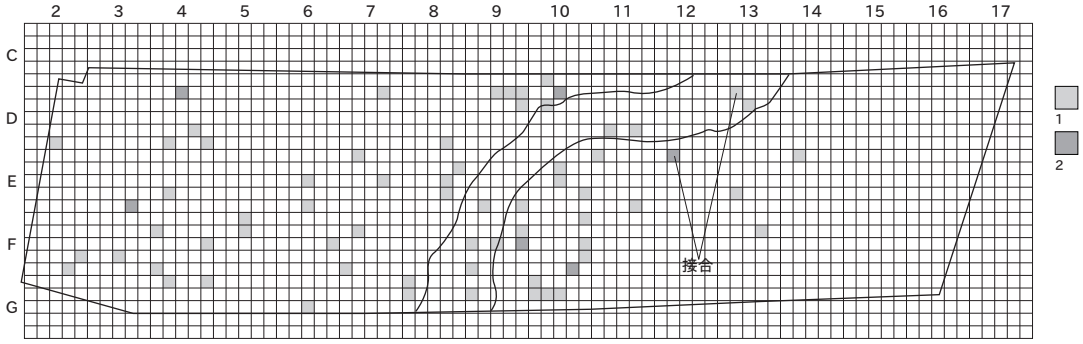
B 類　溝状に砥面が広がるもの（203 ～ 206）。

C 類　面状・帯状の砥面と、溝状の砥面が複合したもの（207・208）。



第 86 図　砥石分類図

分類別出土数と出土分布状況　第 26 表・第 87 図参照。全 74 点を対象とした。分類別では A 類が圧倒的に多く



第 87 図　砥石出土分布図

56 点（75.6%）、B 類は 13 点（17.6%）、C 類は 5 点（6.8%）と少ない。

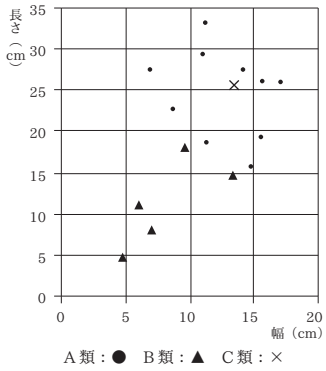
出土分布状況では遺構内のものが 17 点（23.0%）で、他器種とほぼ同様の比率である。細別では顕著な傾向は認め難いが、点数が少ない C 類は 5 点中 3 点が遺構内出土である。

	遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
A 類	11	45	56	20	35	1	
B 類	3	10	13	6	7		
C 類	3	2	5	2	3		
合計	17	57	74	28	45	1	0

第 26 表　砥石の分類別出土数と出土分布状況

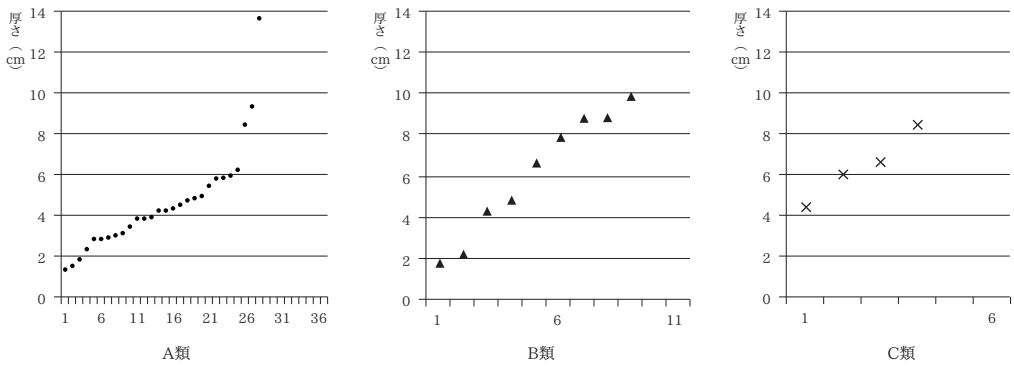
空間分布では他器種との違いが認められる。8-13 ラインで 45 点（60.8%）と多いのに対し、2-7 ラインは 28 点（37.8%）と少ない。分類別では数量が多い A 類でこの傾向が顕著である。大グリッドごとで顕著な傾向は見出し難いが、9・10 ラインで 29 点（39.2%）とまとまる点が注目される。

長さと幅　第 88 図参照。完形・略完形の計 16 点を対象とした。内訳は A 類が 10 点、B 類 5 点、C 類はわずかに 1 点である。長さ約 5 ～ 33cm、幅約 5 ～ 17cm に分布している。分布の断絶から、おおむね長さ 5 ～ 10cm 程度の小型、長さ 14 ～ 23cm・幅 8 ～ 15cm の中型、長さ 25cm 以上・幅 7 ～ 17cm の大型に区分が可能である。種別では小型を中心に中型を含む B 類、大型を中心に中型を含む A 類、わずか 1 点が大型の C 類に区分される。



第 88 図　砥石の長幅分布図

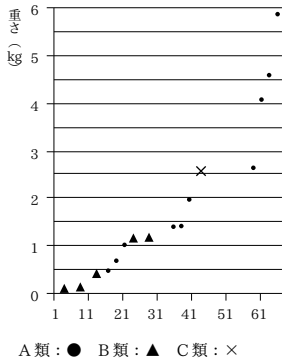
厚さ　第 89 図参照。破損品も完形時の厚さと推定できるため、表裏面が残存する 29 点を対象とした。内訳は A 類 16 点、B 類 9 点、C 類 4 点である。約 2 ～ 14cm 程度まで分布しているが、4 ～ 10cm までに全体の約 90%が集中する。2cm 程度と薄いものは B 類のみ、10cm 以上と厚いものは A 類に限られる。4 ～ 10cm では 5cm、8cm で分布の断絶が確認できる。4 ～ 10cm の中では比較的薄いものが多い A 類、



第 89 図　砥石の厚さ

厚手のものが多いＢ・Ｃ類に区分が可能である。

重さ　第 90 図参照。「長さと幅」と同様に完形・略完形の 16 点を対象とする。35 ～ 5,920g まで幅広い分布を示す。分布の断絶から 35 ～ 1,500g、2,000 ～ 3,000g、4,000g 以上に大別した。長さと幅同様に、軽量のものが多いＢ類、重いものが多いＡ類、わずかに 1 点確認されたＣ類は比較的重い。



第 90 図　砥石の重さ

石材　第 27 表参照。全 74 点を対象とした。砂岩が最も多く 28 点（37.8%）、輝緑岩 19 点（25.7%）、凝灰岩 17 点（23.0%）が続く。そのほかの石材にはヒン岩・泥岩・閃緑岩・片麻花崗岩があるがそれぞれ 2 ～ 3 点(4.1%未満)である。細別でも顕著な偏りは見出し難い。

	輝緑岩	凝灰岩	ヒン岩	閃緑岩	砂岩	片麻花崗岩	泥岩	軽石	合計
A類	16	13	3	2	21	1			56
B類	2	2			5	1	3		13
C類	1	2			2				5
合計	19	17	3	2	28	2	3	0	74

第 27 表　砥石の分類別石材

遺存状態　全 74 点を対象に遺存状態を確認する。完形・略完形品が 16 点に対し、破損品が 58 点（78.3%）と多い。破損品 59 点のうち 1/2 程度残存するものは 16 点（27.1%）と少ないのに対し、残存率 1/4 以下のものが 47 点（79.6%）と圧倒的に多く、石皿と類似した傾向を示す。

被熱　石皿と同様に全 75 点を対象として被熱の状況を観察した。その結果 13 点（17.3%）で被熱の痕跡を確認した。このうち割れ口が被熱しているものは 2 例であり、石皿の被熱状況とはやや異なっている。

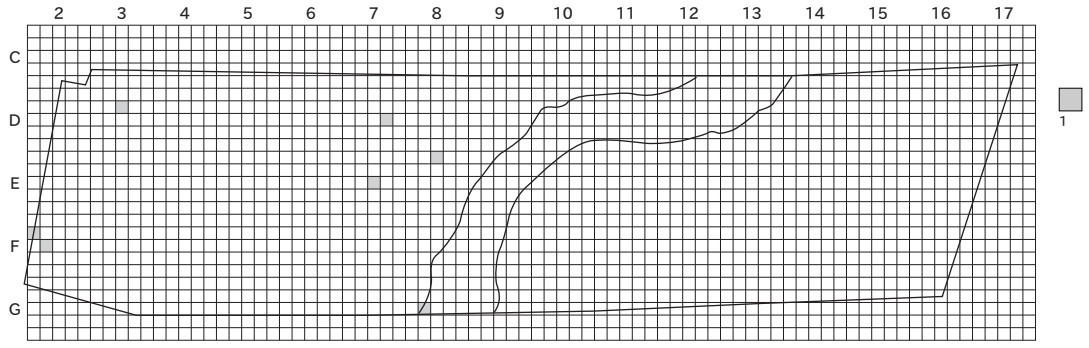
(13) 手持ち砥石（209 ～ 211）

正裏面及び端面に研磨痕を有する石器で、砥石に比して軽量なものを手持ち砥石とした［滝沢 2002］。7 点出土している。形態が豊富でまとまりが見出し難いことから細別していない。

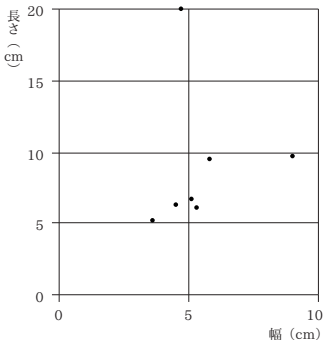
出土数と出土分布状況　第 91 図参照。全 7 点を対象とした。数量が少ないため安定した数値とは言い難いが、遺構出土は 1 点のみである。空間分布では 2-7 ラインで 5 点（71.4%）とやや多い。

長さと幅　第 92 図参照。破損後の継続した使用、意図的な破損（剥離）による凹凸面作出後の使用が予想されるため、完形品・破損品の区分が困難である。法量については全 7 点を対象とした。長さ 5.2 ～ 20cm、幅 3.6 ～ 9.0cm 程度に分布する。おおむね長さ 7cm・幅 5cm ほど、長さ 10cm・幅 5 ～ 10cm ほど、長さ 20cm・幅 5cm 程度の 3 つに区分が可能である。

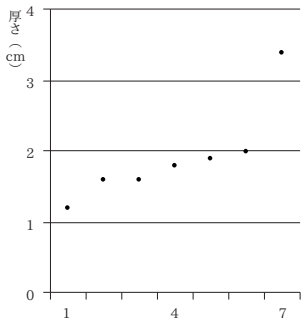
厚さ・重さ　第 93・94 図参照。厚さは 1.2 ～ 3.4cm までに分布するが、主体は 1.5 ～ 2.0cm である。重さは 25 ～ 335g まで分布しているが、20 ～ 60g、150 ～ 170g、320g の 3 つに区分が可能であり、



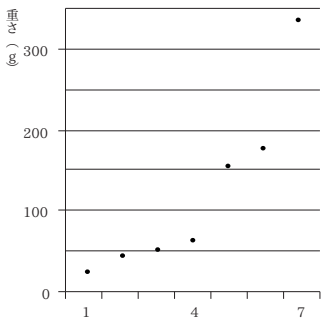
第 91 図　手持ち砥石出土分布図



第 92 図　手持ち砥石の長幅分布図



第 93 図　手持ち砥石の厚さ



第 94 図　手持ち砥石の重さ

おおむね長さと幅の 3 つの法量区分に対応する。

石材　凝灰岩が 3 点、砂岩と泥岩が各 2 点と拮抗する。いずれも（12）砥石で選択された石材であるが、輝緑岩を欠くなどの違いが認められる。

（14）台石（212）

大型の円礫で、磨面・砥面が認められず、凹痕のみ認められるものを台石とした。1 点のみの出土である。使用痕が同じ磨石類 E 類との区分が問題となるが、重量で区分した。すなわち手に持っての使用が予想される磨石類・手持ち砥石に対し、重い本例は、床面等に固定した使用が予想される。

出土分布状況・遺存状態　2-7（グリッド 3F）ラインの遺構内から、完形品が出土している。

法量・石材　長さ 17.5cm、幅 12.6cm、厚さ 9.8cm、重さ 2,820g である。磨石類 E 類の最重量が 1,600g であるため、本例が手に持って敲きつける反復動作は想定し難い。石材は花崗岩である。

（15）磨石類（213 ～ 254）

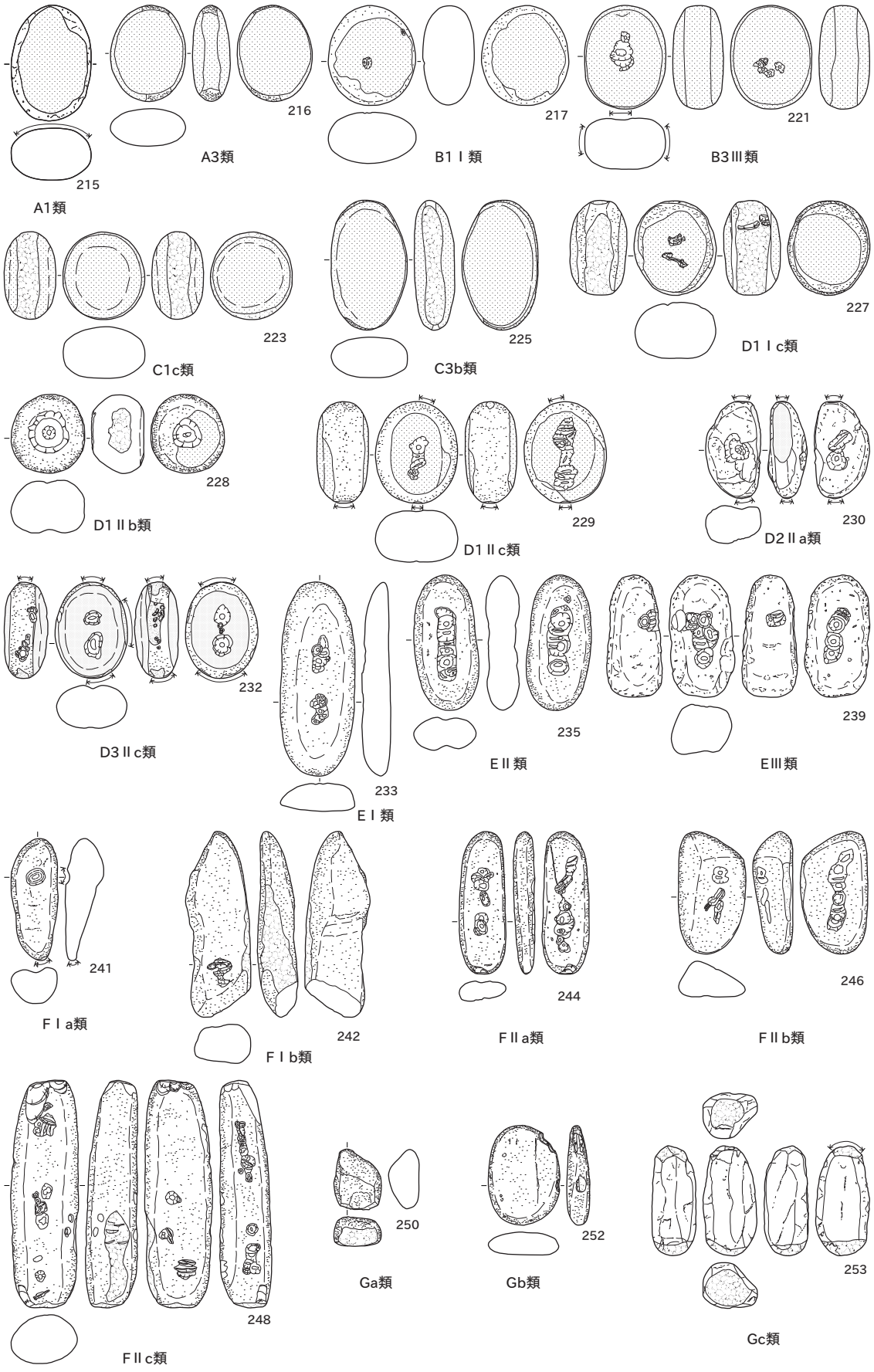
礫の表面に磨痕・凹痕・敲打痕の残るもので、それぞれ磨石・凹石・敲石と呼称されるものを一括して磨石類とした。総数 446 点出土しており、全石器・石製品中の 12.8％を占める。

分類　第 28 表・第 95 図参照。五丁歩遺跡［高橋雄 1992］を参考に、使用痕の組み合わせで細分した。

分類別出土数と出土分布状況　第 29 表・第 96 図参照。全 446 点を対象とした。分類別では E 類（凹痕のみ）が最も多く 164 点（36.8％）、F 類（凹痕＋敲打痕）が 95 点（21.3％）、B 類（磨痕＋凹痕）が 69 点（15.4％）で次ぐ。C 類（磨痕＋敲打痕）・D 類（磨痕＋敲打痕＋凹痕）は少なく、5％前後にとどまる。細別では凹痕が正裏面に残る E Ⅱ類が 103 点（23.1％）と多い。そのほかでは凹痕が片面のみの E Ⅰ類と磨痕・凹痕が正裏両面に残る B1 Ⅰ類が各 48 点（10.8％）で次ぐが、いずれも凹痕が認められるものが細別でも多い傾向にある。この傾向は痕跡別に見た場合も同様で、凹痕が残るもの（B・D・E 類）は 258 点（57.8％）、磨痕が残るもの（A ～ D 類）は 143 点（32.1％）、敲打痕が残るもの（C・D・G 類）は 79 点（17.7％）であり、凹痕が最も多い。

出土分布状況では遺構内のものが 126 点で（28.3％）で他器種に比べて若干多い。細別では顕著な傾向は認め難いが、B1 Ⅰ類で 48 点中 21 点（43.8％）、D 類で 25 点中 10 点（40.0％）が遺構からの出土であり、他類に比して遺構出土の比率が高い。

空間分布においても他器種との違いが認められる。他器種は 2-7 ラインと 8-13 ラインで拮抗し、14-17 ラインで 5％未満が多い。これに対し磨石類は、「その他」を除く 440 点の比率で 14-17 ライン


215
A1類
216
A3類
217
B1Ⅰ類
221
B3Ⅲ類
223
C1c類
225
C3b類
227
D1Ⅰc類
228
D1Ⅱb類
229
D1Ⅱc類
230
D2Ⅱa類
232
D3Ⅱc類
233
EⅠ類
235
EⅡ類
239
EⅢ類
241
FⅠa類
242
FⅠb類
244
FⅡa類
246
FⅡb類
248
FⅡc類
250
Ga類
252
Gb類
253
Gc類

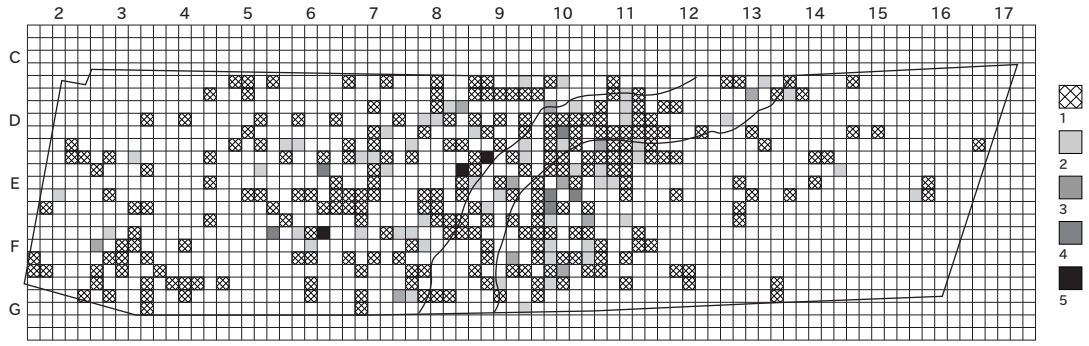
第 95 図　磨石類分類図

使用痕の組み合わせ	磨痕の位置	凹痕位置	敲打痕の位置	分類	備考
A類　磨痕	1類　正裏面	−	−	A1類	
	2類　側面			A2類	出土せず
	3類　正裏面＋側面			A3類	
B類　磨痕＋凹痕	1類　正裏面	Ⅰ類　正裏片面	−	B1 Ⅰ類	
		Ⅱ類　正裏両面		B1 Ⅱ類	
	2類　側面	Ⅰ類　正裏片面		B2 Ⅰ類	出土せず
		Ⅱ類　正裏両面		B2 Ⅱ類	出土せず
	3類　正裏面＋側面	Ⅰ類　正裏片面		B3 Ⅰ類	
		Ⅱ類　正裏両面		B3 Ⅱ類	
C類　磨痕＋敲打痕	1類　正裏面	−	a類　端部	C1a類	
			b類　側面	C1b類	
			c類　端部＋側面	C1c類	
	2類　側面	−	a類　端部	C2a類	出土せず
			b類　側面	C2b類	出土せず
			c類　端部＋側面	C2c類	出土せず
	3類　正裏面＋側面	−	a類　端部	C3a類	
			b類　側面	C3b類	
			c類　端部＋側面	C3c類	
D類　磨痕＋凹痕＋敲打痕	1類　正裏面	Ⅰ類　正裏片面	a類　端部	D1 Ⅰa類	出土せず
			b類　側面	D1 Ⅰb類	出土せず
			c類　端部＋側面	D1 Ⅰc類	
		Ⅱ類　正裏両面	a類　端部	D1 Ⅱa類	出土せず
			b類　側面	D1 Ⅱb類	
			c類　端部＋側面	D1 Ⅱc類	
	2類　側面	Ⅰ類　正裏片面	a類　端部	D2 Ⅰa類	出土せず
			b類　側面	D2 Ⅰb類	出土せず
			c類　端部＋側面	D2 Ⅰc類	出土せず
		Ⅱ類　正裏両面	a類　端部	D2 Ⅱa類	
			b類　側面	D2 Ⅱb類	出土せず
			c類　端部＋側面	D2 Ⅱc類	出土せず
	3類　正裏面＋側面	Ⅰ類　正裏片面	a類　端部	D3 Ⅰa類	出土せず
			b類　側面	D3 Ⅰb類	出土せず
			c類　端部＋側面	D3 Ⅰc類	出土せず
		Ⅱ類　正裏両面	a類　端部	D3 Ⅱa類	
			b類　側面	D3 Ⅱb類	出土せず
			c類　端部＋側面	D3 Ⅱc類	
E類　凹痕	−	Ⅰ類　正裏片面	−	E Ⅰ類	
		Ⅱ類　正裏両面		E Ⅱ類	
		Ⅲ類　正裏面＋側面		E Ⅲ類	
F類　凹痕＋敲打痕	−	Ⅰ類　正裏片面	a類　端部	F Ⅰa類	
			b類　側面	F Ⅰb類	
			c類　端部＋側面	F Ⅰc類	
	−	Ⅱ類　正裏両面	a類　端部	F Ⅱa類	
			b類　側面	F Ⅱb類	
			c類　端部＋側面	F Ⅱc類	
G類　敲打痕	−	−	a類　端部	Ga類	
			b類　側面	Gb類	
			c類　端部＋側面	Gc類	

第 28 表　磨石類の分類

が 5％未満な点は同様であるが、8-13 ラインで 277 点（63.0％）と多く、2-7 ラインの 145 点（33.0％）との差異は大きい。分類別でもおおむねこの比率を反映したものが多いが、25 点と出土量の少ない D 類は、表採品を除く 24 点中 15 点（62.5％）が 2-7 ラインからの出土であり、他類と様相が異なる。ラインごとでは 10 ラインが 83 点とまとまる点、大グリッドでは 10E で 29 点とまとまる点、小グリッドごとでは 6F9、8E9、9E2 で各 5 点出土している点が注目される。

長さと幅　第 97 図参照。完形・略完形の計 305 点を対象とした。長さ 6.2 ～ 22.1cm、幅 3.8 ～ 13.0cm までと幅広い分布を示す。分布の中心は長さ 8.0 ～ 16.0cm、幅 6.0 ～ 10.0cm である。長さと幅の比率ではおおむね 2：1 ～ 1：1 に分布する。種別ではやや縦長のものが多い B 類・E 類・F 類・G 類、大きなものが目立つ E 類となる。敲打痕が認められるもので縦長のものが多いことは、他遺跡とほぼ同



第 96 図　磨石類出土分布図

	遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
A1 類	5	19	24	8	15		1
A3 類	5	10	15	9	6		
B1 Ⅰ類	3	5	8	3	4	1	
B1 Ⅱ類	18	23	41	13	27	1	
B3 Ⅰ類	3	5	8	1	7		
B3 Ⅱ類	1	11	12	4	8		
C1a 類	1	2	3	1	2		
C1b 類	1		1		1		
C1c 類		1	1	1			
C3a 類		2	2		2		
C3b 類		1	1		1		
C3c 類		2	2	1	1		
D1 Ⅱ b 類	1	2	3	1	2		
D1 Ⅰ c 類		1	1	1			
D1 Ⅱ c 類	5	8	13	8	4		1
D2 Ⅱ a 類		1	1		1		
D3 Ⅱ a 類	3		3	1	2		
D3 Ⅱ c 類	1	3	4	4			
E Ⅰ類	14	34	48	14	28	4	2
E Ⅱ類	25	78	103	33	64	6	
E Ⅲ類	2	9	11	1	10		
E 類		2	2	2			
F Ⅰ a 類	3	5	8	2	6		
F Ⅰ b 類	2	3	5	2	3		
F Ⅰ c 類	1	3	4	2	2		
F Ⅱ a 類	8	21	29	5	22	1	1
F Ⅱ b 類	4	18	22	8	11	2	1
F Ⅱ c 類	10	17	27	7	20		
Ga 類	4	14	18	7	11		
Gb 類		6	6		5	1	
Gc 類	6	14	20	6	12	2	
合計	126	320	446	145	277	18	6

第 29 表　磨石類の分類別出土数と出土分布状況

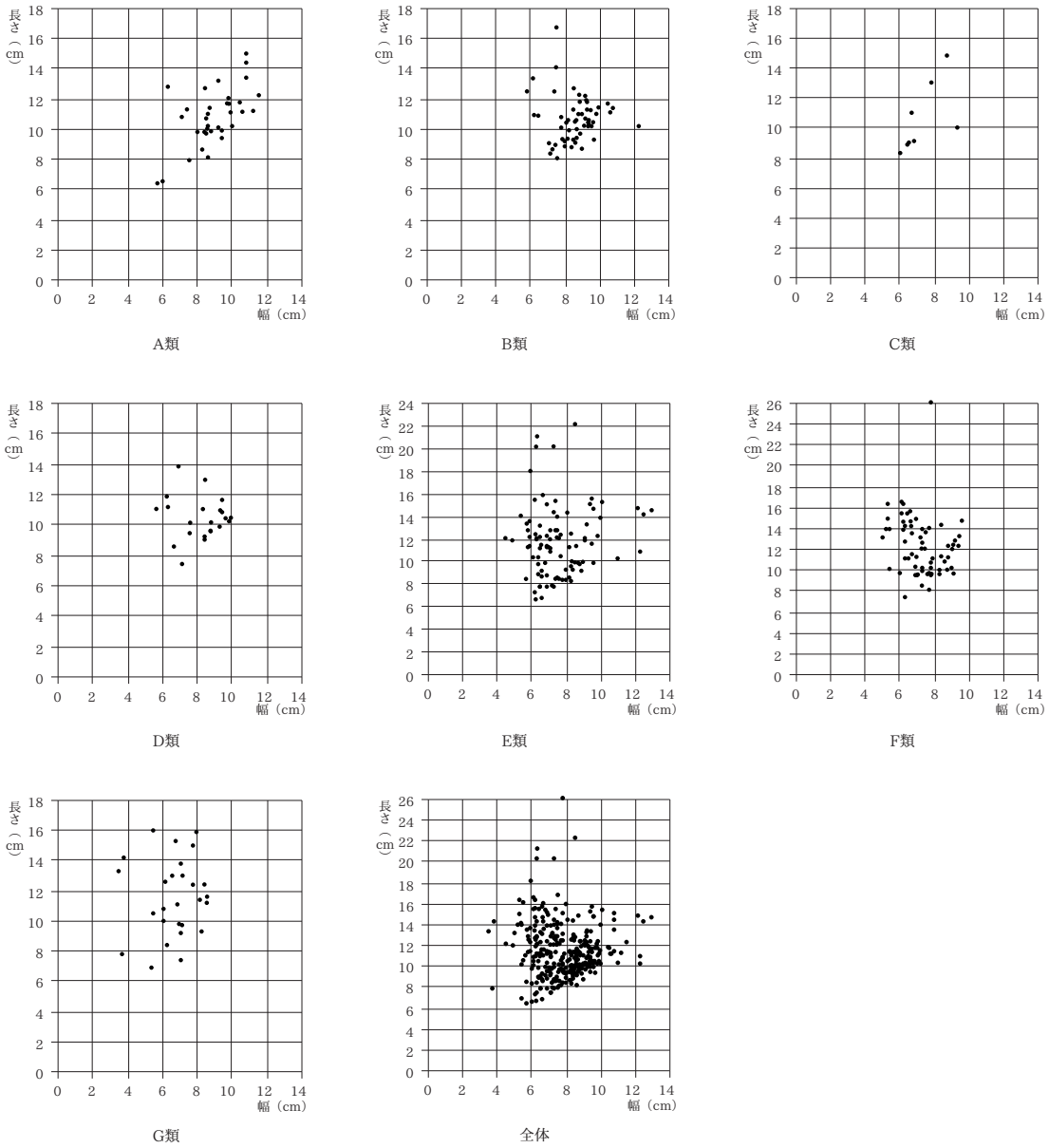
様な結果と考えるが、敲打痕が認められないＢ・Ｅ類で縦長のものが多い点が特徴となる。

厚さ　第 98 図参照。完形品に加え、破損品でも完形時の厚さが把握できるものを含めた 435 点を対象とする。厚さは 1.6cm ～ 7.8cm まで認められるが、おおむね 6cm 前後で分布の断絶が認められる。種別では厚いものが多いＡ類、薄いものから厚いものまで認められるＥ類となる。

重さ　第 99 図参照。「長さと幅」と同じ完形・略完形の 305 点を対象とする。50 ～ 1,800g まで認められるが、200 ～ 1,000g に分布の中心がある。分類別では使用痕跡で大きく分かれる。単一の痕跡のもので確認すると磨痕のみのＡ類は 1,000g 以上のものが多いなど、重い傾向にある。敲打痕のみのＧ類は 100 ～ 400g に全体の 2/3 が占められるなど軽量なものが多い。凹痕のみのＥ類は軽量のものを中心に、1,000g 以上のものまで幅広い分布を示しており、Ａ類とＧ類の中間的な様相を呈する。複合的な痕跡が認められるものでは、磨痕＋敲打痕＋凹痕のＤ類はＡ類に近く、凹痕＋敲打痕のＦ類がＧ類に、磨痕＋凹痕のＢ類はＥ類に近い。数量が少ないが、磨痕＋敲打痕のＣ類は 200 ～ 300g と軽量なものと、800 ～ 1,000g のもので分かれるなど、Ａ類とＧ類的な重量でおおむね二分している。

磨る作業は重さを利用すること、敲打には軽量のものと重さを利用した敲く作業が必要な結果を反映した可能性が高い。

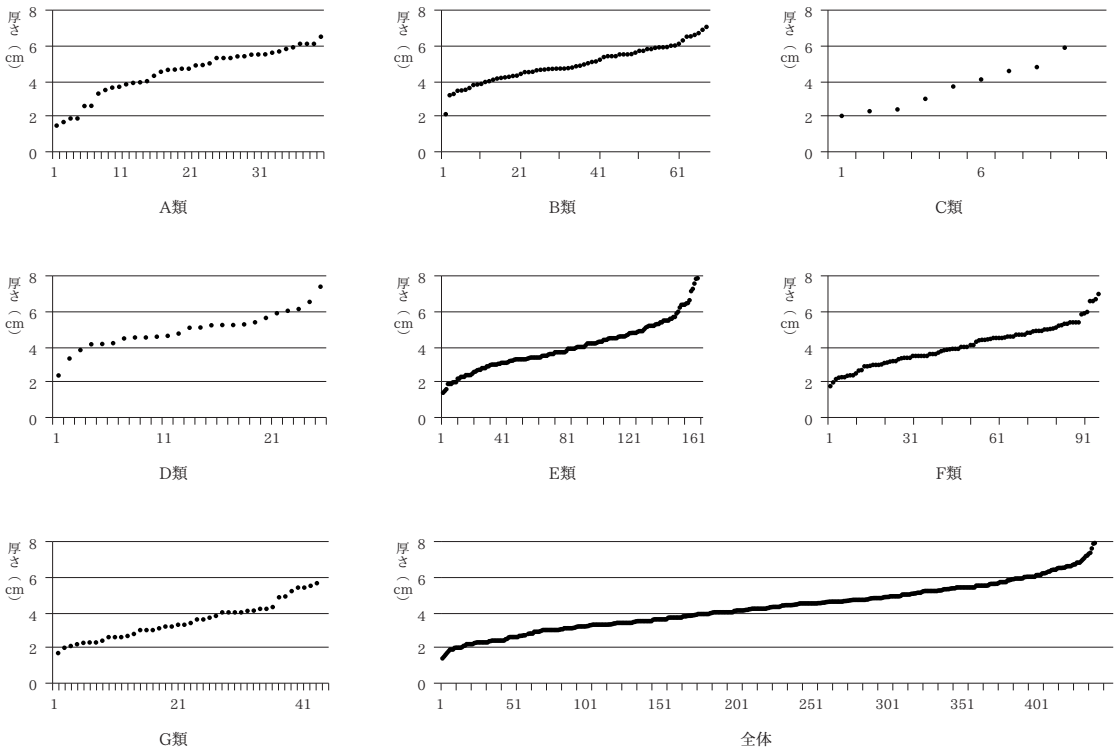
石材　第 30 表参照。全 446 点を対象とした。全体では花崗岩が最も多く 150 点（33.6%）、輝緑岩が 128 点（28.7%）、凝灰岩 72 点（16.1%）、ヒン岩 42 点（9.4%）で次ぎ、それ以外の石材は 5%に満たない。各類共におおむねこの傾向を反映した石材となっているが、Ａ・Ｂ・Ｄ類は花崗岩では 50%前後の比率を占めるのに対し、Ｅ・Ｇ類では 20%前後となり低い比率を示している。使用痕跡との関連では、磨痕が主体のものでは花崗岩が主体的に用いられ、凹痕・敲打痕単独のものでは比率が低い傾向にある。



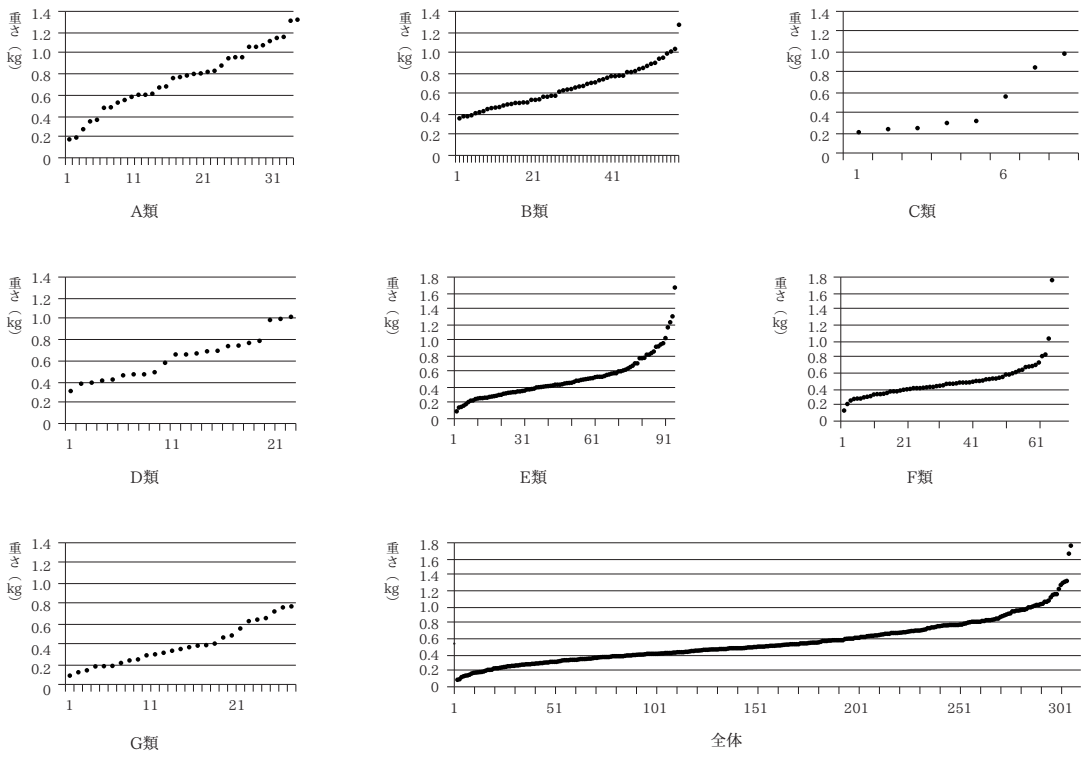
第 97 図　磨石類長幅分布図

遺存状態･被熱･付着物　第 31 表参照。全点を対象とした。遺存状態は完形･略完形品が 306 点(68.6%)、破損品が 140 点（31.4%）と完形・略完形品が多い。

表面が赤化したもの、ススが付着したものを被熱の痕跡と捉えて集計した。全体では 53 点（11.9%）で被熱の痕跡を確認した。この 53 点は赤化が明瞭なもののほかに、淡くススが付着したものや淡い変色(赤化）したものが多いため、肉眼で観察できた最少個体数と考える。また残存状況別では完形品 306 点中 30 点（9.8%）、破損品 140 点中 23 点（16.4%）で、若干破損品での比率が高い。破損品のうち割れ口で被熱の痕跡が確認できたものは 7 点あり、廃棄後に被熱したものも含まれていると考える。出土種別では遺構内（土坑・柱穴）出土が 20 点、包含層出土が 33 点である。全体出土比率は遺構内出土が 28.2% であることから、若干ではあるが被熱したものの遺構内出土比率が高い。分類別では顕著な傾向は見出し難いが、被熱が確認できないＣ類、10%以下のＡ類・Ｇ類、10 ～ 15%のＤ・Ｅ・Ｆ類、20%以上とやや比率が高いＢ類となる。



第 98 図　磨石類の厚さ



第 99 図　磨石類の重さ

	花崗岩	輝緑岩	凝灰岩	ヒン岩	ハンレイ岩	閃緑岩	砂岩	片ま花崗岩	結晶片岩	泥岩	軽石	合計
A1類	10	5	2	3	2	2						24
A3類	9	2		2		2						15
B1 Ⅰ類	3	2	1		1		1					8
B1 Ⅱ類	24	9	6				1	1				41
B3 Ⅰ類	4	1		2	1							8
B3 Ⅱ類	9		1	1				1				12
C1a類	1	1	1									3
C1b類	1											1
C1c類		1										1
C3a類		1	1									2
C3b類	1											1
C3c類					2							2
D1 Ⅱb類	1	2										3
D1 Ⅰc類	1											1
D1 Ⅱc類	8	5										13
D2 Ⅱa類	1											1
D3 Ⅱa類	2	1										3
D3 Ⅱc類	1	2			1							4
E Ⅰ類	5	16	10	8	1		2	1	1	4		48
E Ⅱ類	30	24	26	13	2		3	2		2	1	103
E Ⅲ類	2	1	2	1			5					11
E類	1	1										2
F Ⅰa類	2	4	1				1					8
F Ⅰb類		4	1									5
F Ⅰc類		2	1	1								4
F Ⅱa類	12	8	3	1			2	1		2		29
F Ⅱb類	1	11	4	4	1					1		22
F Ⅱc類	13	7	4	3								27
Ga類	4	7	3	2	1		1					18
Gb類		3	1	1						1		6
Gc類	4	8	4		1		2			1		20
合計	150	128	72	42	13	4	18	6	1	11	1	446

第 30 表　磨石類の分類別石材

	完形	破損	合計	被熱			黒色付着 有り
				完形	欠損	欠損後	
A1類	20	4	24	1			1
A3類	14	1	15				
B1 Ⅰ類	5	3	8	1	2	(1)	2
B1 Ⅱ類	33	8	41	7	2	(1)	
B3 Ⅰ類	6	2	8		1	(1)	
B3 Ⅱ類	12		12	2			
C1a類	2	1	3				
C1b類		1	1				
C1c類	1		1				1
C 3a類	2		2				
C3b類	1		1				
C3c類	2		2				
D1 Ⅱb類	2	1	3	1			
D1 Ⅰc類	1		1				
D1 Ⅱc類	11	2	13	2			
D2 Ⅱa類	1		1				
D3 Ⅱa類	3		3				
D3 Ⅱc類	4		4				
E Ⅰ類	17	31	48		8	(6)	1
E Ⅱ類	71	32	103	5	4	(2)	
E Ⅲ類	6	5	11	1			
E類		2	2				
F Ⅰa類	4	4	8				
F Ⅰb類	3	2	5		1	(1)	
F Ⅰc類	2	2	4				
F Ⅱa類	22	7	29	5	2		
F Ⅱb類	12	10	22				
F Ⅱc類	22	5	27	3	2	(2)	2
Ga類	13	5	18		1	(1)	
Gb類	3	3	6				
Gc類	11	9	20	2			
合計	306	140	446	30	23	(7)	7

第 31 表　磨石類の分類別欠損状況と被熱・付着物

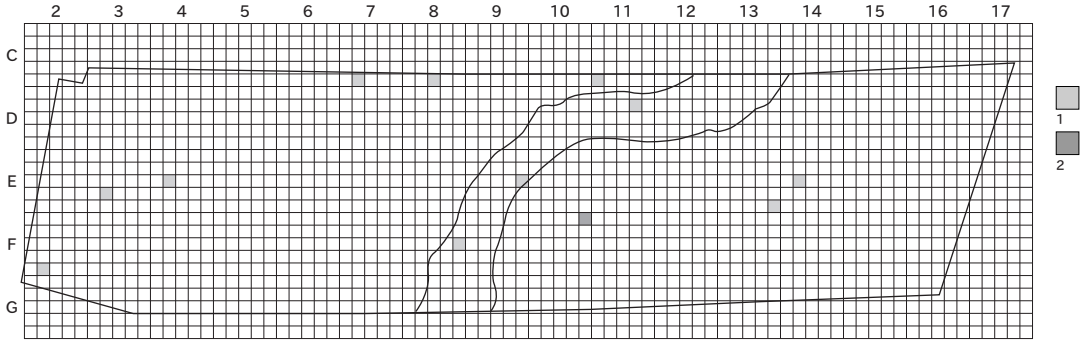
表面に付着した黒色の付着物を観察した。ススとの区分には課題を残すが、やや茶色みがかったものをススとは異なるものとして黒色付着物とした。7 点（1.6%）で認められた。D・G 類では未確認で、それ以外では、各類 1 ～ 2 点程度である。使用痕と関連する可能性を模索するため観察したが、顕著な傾向は確認できなかった。

（16）多面体敲石（255 ～ 258）

「面を多く有する敲石」［阿部 1984］で、磨製石斧製作遺跡から多く出土することから、主に敲打調整に利用されたと用途の推定が行われているもの［阿部 1984］を本例とした。13 点出土している。形態が特徴的であり、細分は行っていない。

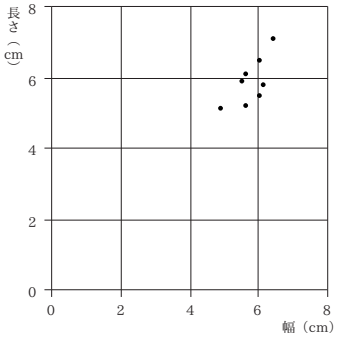
出土数と出土分布状況　第 100 図参照。全 13 点を対象とした。遺構内出土が 2 点と少ない点は他器種と同様である。空間分布ではわずかに 8-13 ラインで 8 点（61.5%）と多い傾向にある。大グリッドごとでは顕著な傾向は見出し難く、ほぼ散在的に分布する。

長さと幅・厚さ　第 101 図参照。完形品の 7 点を対象とした。長さ 4.9 ～ 6.9cm、幅 4.8 ～ 6.3cm と比較的分布がまとまる。これは大きな礫から敲打行為が開始され、使用面が複数面に及んで限界まで使用されて、廃棄されたとする想定［阿部 1988］と調和的である。この範囲に分布の中心がある点も、磨製石斧の生産遺跡である旧朝日村アチヤ平遺跡・元屋敷遺跡（ハンマー A 類）とおおむね一致する。

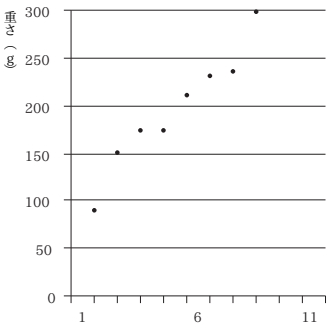


第 100 図　多面体敲石出土分布図

重さ　第 102 図参照。完形・略完形の 7 点を対象とする。150 ～ 298g まで分布する。長さと幅と同様に比較的まとまっており、「限界まで使用」された結果を反映したものと考える。



第 101 図　多面体敲石の長幅分布図



第 102 図　多面体敲石の重さ

石材　第 32 表参照。全 13 点を対象とした。7 種の石材が認められるが、流紋岩質凝灰岩が 7 点（53.8%）と最も多く、そのほかは各 1 点の出土にとどまる。多くの石材が選択されている点や流紋岩質凝灰岩が多い点はアチヤ平遺跡・元屋敷遺跡と共通するが、輝緑岩が少ない点でやや異なる。

	花崗岩	輝緑岩	凝灰岩	ハンレイ岩	頁岩Ⅶa	鉄石英Ⅰ	アプライト	合計
合計	1	1	7	1	1	1	1	13

第 32 表　多面体敲石の石材

遺存状態　完形･略完形品が 7 点に対し、破損品が 6 点である。破損品はほぼ中央で半損したものが多い。

（17）打製石斧（259 ～ 272）

アチヤ平遺跡上段の記述をもとに「礫あるいは剝片を打ち欠いて製作した石斧であり、側縁部に敲打調整する以外は、剝離調整のみで仕上げる石斧」とした。また、本例は後に述べるように石材に際だった偏りが認められるが、ほぼ同様の石材で刃部の作出ないしは周縁の調整が行われていないものを未成品とした。完成品が 52 点、未成品が 16 点、総数 68 点出土している。

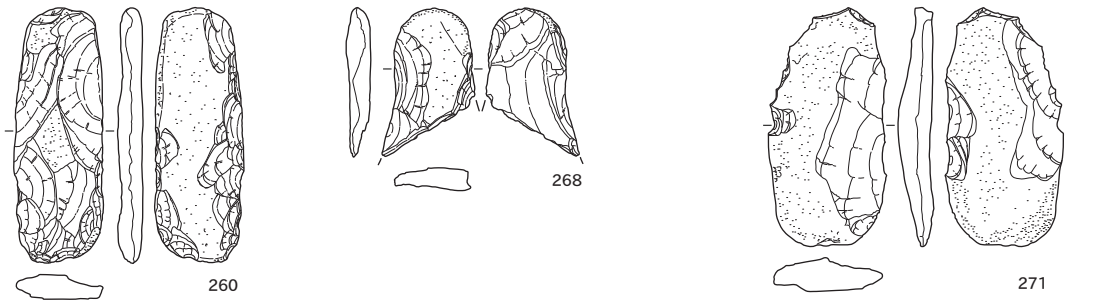
分類　第 103 図参照。完成品のみ平面形態から以下の 2 つに区分した。

A 類　短冊形のものである（259 ～ 267）。

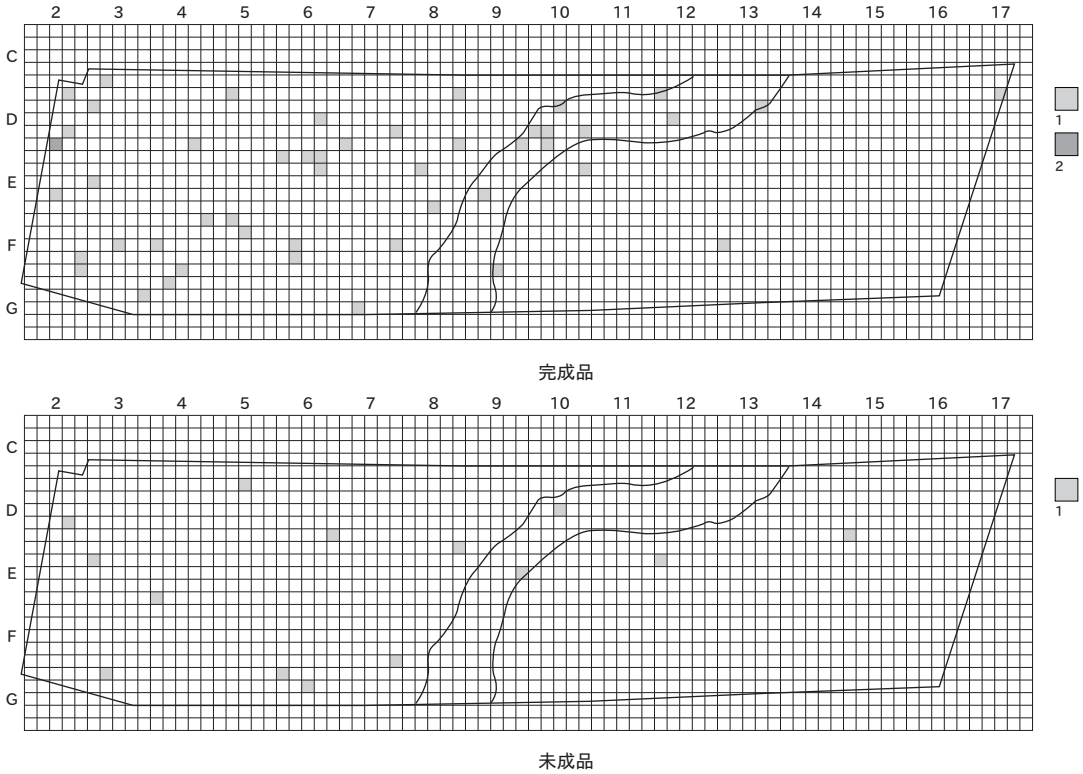
B 類　分胴形のものである（268）。

分類別出土数と出土分布状況　第 104 図・第 33 表参照。全 68 点を対象とした。完成品は A 類が 51 点と多く、B 類はわずかに 1 点のみである。これは未成品にも反映されており、明確に B 類の未成品とできるものは存在しない。

出土状況では完成品と未成品で差異が認められる。完成品は遺構内出土が 3 点（5.8%）と他器種に比しても低い比率である。一方で未成品は 16 点半数の 8 点が遺構出土であり他器種に比べて多い。際だった傾向と考える。空間分布では完成品と未成品はおおむね一致しており、約 60%が 2-7 ラインで出土している。大グリッドごとでは10D の SD5186 内で完成品 7 点･未成品 1 点が出土している点が特徴であろう。



第 103 図　打製石斧分類図



第 104 図　打製石斧出土分布図

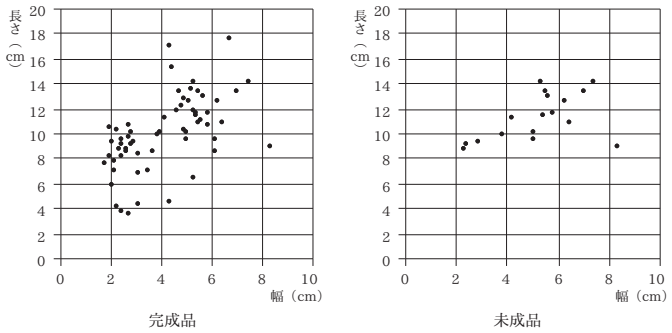
長さと幅　第 105 図参照。完形・略完形を対象とした。完成品は A 類の 62 点、未成品は 16 点である。完成品は長さ 4.5 ～ 17.1cm、幅 1.7 ～ 6.9cm と比較的幅広く分布している。長さ 6cm 未満、長さ 6.2 ～ 11cm・幅 2 ～ 4cm、長さ 8 ～ 14cm・幅 4 ～ 8cm、長さ 15cm 以上等で細分も可能であるが、明確な分布の断絶は見出し難い。これに対して未成品は長さ約 9 ～ 18cm、幅約 2 ～ 8cm と完成品に比して分布の幅が狭い。

	遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
完成品 A	3	48	51	30	20	1	
完成品 B		1	1	1			
未成品	8	8	16	9	4	1	2
合計	11	57	68	40	24	2	2

第 33 表　打製石斧の分類別出土数と出土分布状況

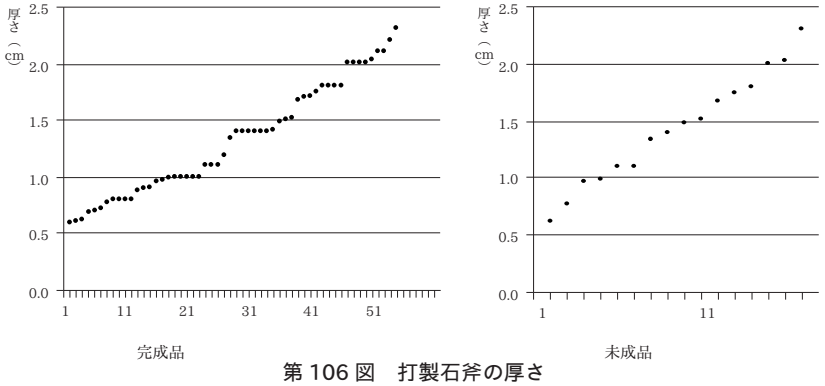
厚さ　第 106 図参照。破損品も完形時の厚さと推定できるため、全 68 点を対象とする。完成品では 0.5 ～ 2.2cm まで分布しており、1.5 ～ 1.6cm で緩やかな分布の断絶が認められる。一方の未成品は長さと幅同様に 0.6 ～ 2.3cm と完成品に比して分布の幅が狭い。また、明確な分布の断絶が見出し難い傾向にある。

重さ　第 107 図参照。完形・略完形を対象とする。内訳は「長さと幅」と同様である。完成品は 10 ～ 230g、未成品は 25 ～ 480g まで分布している。完成品は分布の断絶から 10 ～ 60g、90 ～ 160g、190 ～ 220g の 3 つに区分が可能である。小型と中型が主体で大型は少ない。未成品は分布の断絶が完成品ほど、明瞭ではなく、20 ～ 270g と 500g 程度の 2 つに細分される。



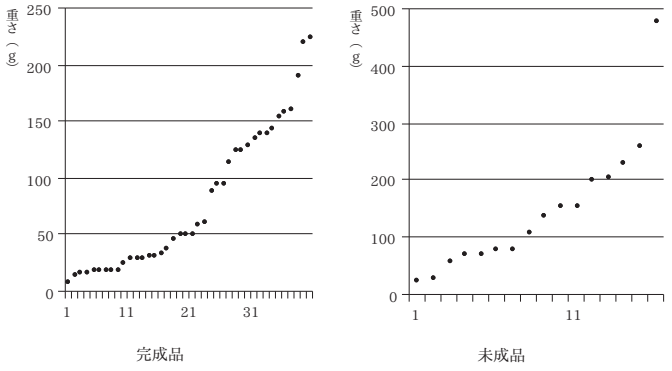
第 105 図　打製石斧の長幅分布図

石材　全点を対象とした。いずれも泥岩が多く、完成品では 50 点（96.1 %）、未成品では 15 点（93.8 %）に及ぶ。それ以外の石材はいずれも砂岩である。



第 106 図　打製石斧の厚さ

遺存状態　完形・略完形品が 40 点、破損品が 12 点である。



第 107 図　打製石斧の重さ

（18）板状石器（273 ～ 275）

「扁平な自然礫または板状の剝片を素材とし、裏面から正面への急角度の加工が施され、裏面が平面状の石器」［高橋雄 1992］を板状石器とした。総数 10 点出土している。資料数が少ないことから細分は行っていない。

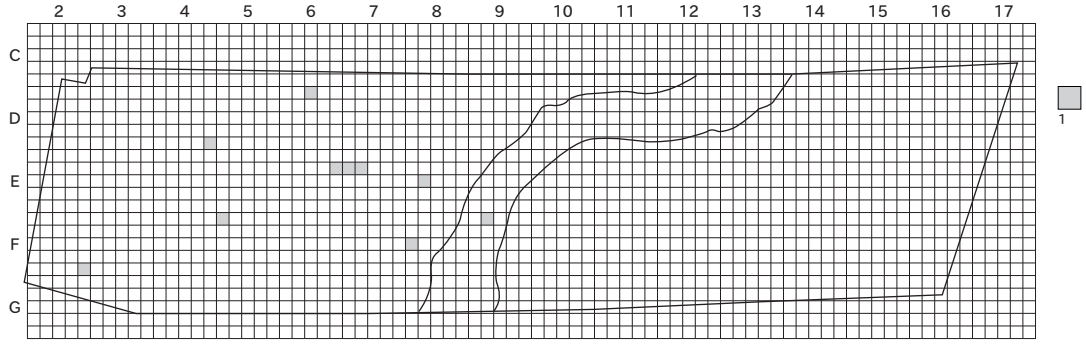
出土数と出土分布状況　第 108 図参照。全点を対象とした。出土種別では遺構内は 1 点のみで、包含層出土が多い。空間分布では 2-7 ラインが 7 点と若干多い傾向にある。

長さと幅　第 109 図参照。完形・略完形の計 9 点を対象とした。長さ 3.7 ～ 7.5cm・幅 4.2 ～ 8.6cm と比較的分布がまとまる。

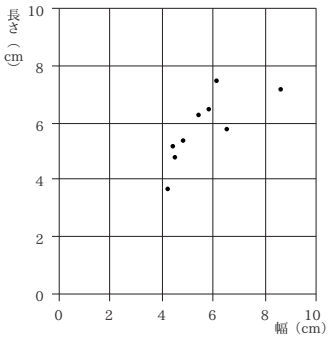
厚さ　第 110 図参照。破損品も完形時の厚さと推定できるため、全 10 点を対象とする。0.7 ～ 2.0cm に分布しているが、0.7 ～ 1.2cm でまとまりが認められる。

重さ　第 111 図参照。「長さと幅」と同様に完形・略完形の 9 点を対象とする。10 ～ 188g まで分布するが、厚さと同様に、10 ～ 60g にまとまりが認められる。

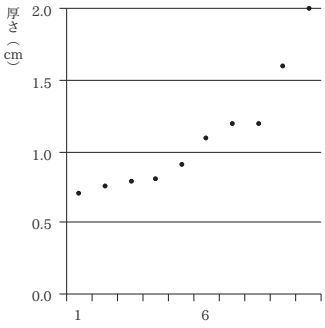
石材　点数が少ないこともあるが、泥岩・結晶片岩・輝緑岩の 3 種類しか認められず、このうち泥岩が 6 点、結晶片岩が 3 点を占める。泥岩が主体な点はアチヤ平遺跡と、結晶片岩が定量認められる点は元屋敷遺跡の傾向に近い。



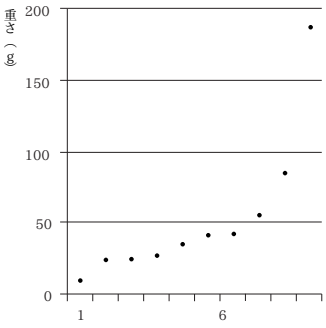
第 108 図　板状石器出土分布図



第 109 図　板状石器の長幅分布図



第 110 図　板状石器の厚さ



第 111 図　板状石器の重さ

（19）石錘（276）

扁平な小円礫の両端に、縄掛け部と思われる抉りが設けられたものを石錘とした。総数 2 点のみの出土である。細分は行わず、一括して報告する。

出土数と出土分布状況　2-7 ライン（グリッド 4F）の遺構内（P437）から出土したものと表採品が各 1 点である。いずれも完形品である。

法量･石材　おおむね大きさは同じであり、長さ 8.1cm、幅 6.1cm と 6.8cm、厚さは 1.8cm と 1.9cm、重さは 110g と 150g である。石材はいずれもヒン岩である。

（20）礫器（277 ～ 281）

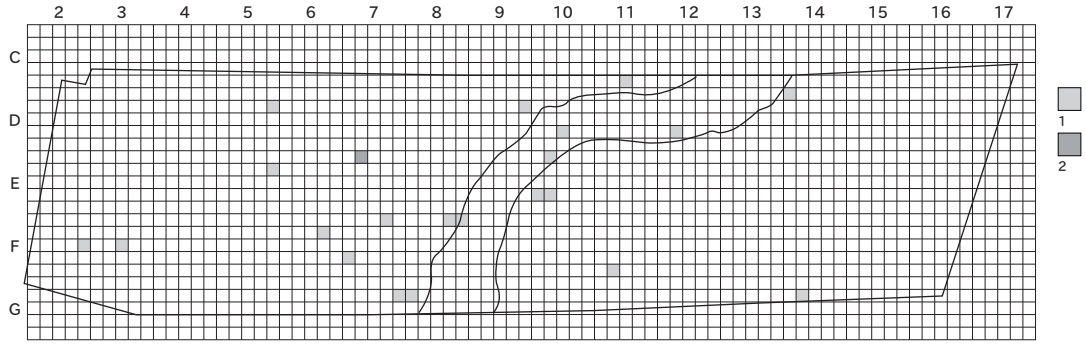
礫を素材として、加工により刃部を形成したもののうち、使用によってその一部がつぶれたものを礫器とした。総数 23 点出土している。なお､刃部が形成されているものでもツブレが確認できないものは「分類不可」に含めている。数量が少ないことから細分していない。

出土数と出土分布状況　第 112 図参照。全 23 点を対象とした。遺構内から出土したものが 8 点(34.8%)とやや多いが、空間分布では 2-7 ラインと 8-13 ラインが拮抗するなど、他器種と大きな差異は認められない。大グリッドごとでは 10E で 3 点出土しているのが最多であり、散在的な分布を示す。

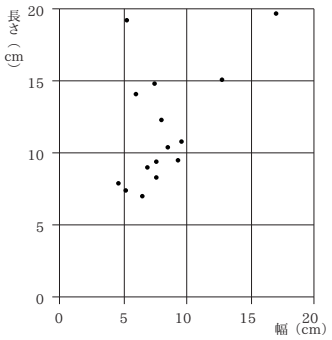
長さと幅　第 113 図参照。完形・略完形の 14 点を対象とした。長さ 7 ～ 20cm、幅 5 ～ 17cm に分布している。おおむね長さ 7 ～ 11cm・幅 5 ～ 10cm、長さ 14 ～ 20cm、幅 5 ～ 7cm と細長いもの、長さ 15 ～ 20cm・幅 13 ～ 17cm と幅広なものに分かれる。

厚さ　第 114 図参照。破損品も完形時の厚さと推定できるため、全 23 点を対象とする。0.8 ～ 8cm まで分布するが、4.2cm 未満のものが多い。

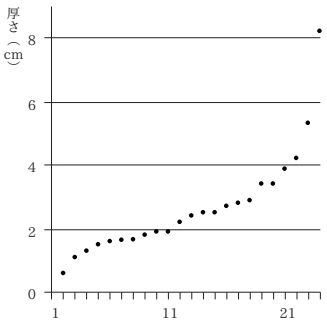
重さ　第 115 図参照。「長さと幅」と同様に完形・略完形の 14 点を対象とする。20 ～ 800g まで分



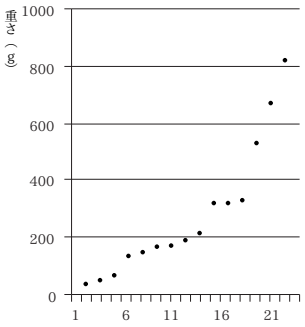
第 112 図　礫器出土分布図



第 113 図　礫器の長幅分布図



第 114 図　礫器の厚さ



第 115 図　礫器の重さ

布しているが、20 ～ 200g、300g 程度、500g 以上の 3 つに区分が可能である。おおむね長さと幅・厚さの 3 法量と同様の結果である。

石材　4 種類の石材が選択されており、最も多いのは輝緑岩の 10 点（43.5%）、凝灰岩・泥岩が各 6 点（26.1%）で続き、ヒン岩が 1 点が確認されているに過ぎない。

遺存状態　完形・略完形品が 14 点、破損品が 9 点である。

（21）石棒類（282 ～ 288）

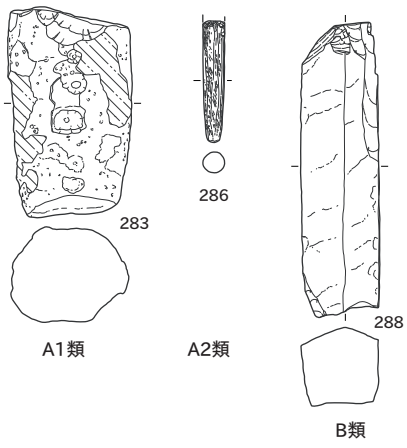
「棒状の素材礫に敲打調整・研磨調整」を施した石器［長田 2002］を石棒とした。これに柱状節理の自然礫を加えて石棒類とした。後者は加工された石棒とは異なるが、搬入礫として持ち込まれている可能性が高いこと、ほぼ同時期のアチヤ平遺跡でも定量確認されていることから、これを含めて石棒類とする。

分類　第 116 図参照。欠損資料が多いため、石棒と柱状節理のものに大別し、更に石棒を太さで細分した。

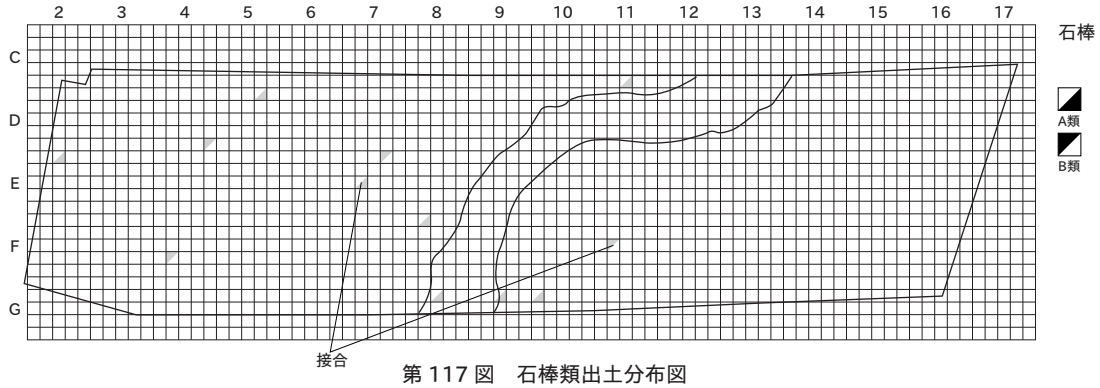
A 類　いわゆる石棒である。太さ（幅）が 5cm 以上のもの（1 類 282 ～ 285）と、太さ（幅）が 2cm 程度のもの（2 類 286）がある。後者は帰属時期が縄文時代晩期初頭頃の可能性がある。

B 類　柱状節理の礫で、磨面等があるもの（287）とないもの（288）がある。

分類別出土数と出土分布状況　第 117 図･第 34 表参照。全 11 点を対象とした。分類別では A1 類が 6 点、A2 類は 1 点、B 類が 4 点である。出土状況では遺構内が少な



第 116 図　石棒類分類図



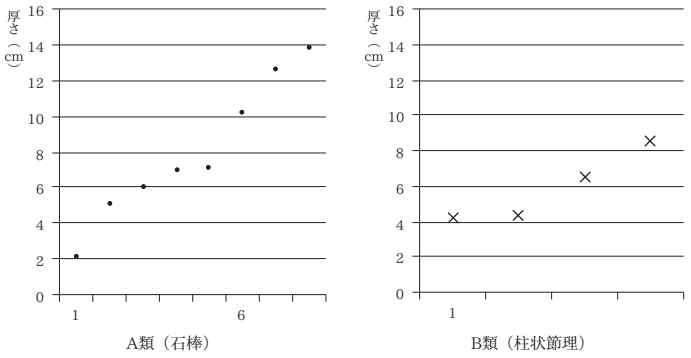
第 117 図　石棒類出土分布図

い点で各類は一致する。数量が少ないため有意な比率とは言い難いが、空間分布では A 類は他器種とほぼ同様の傾向を示すのに対し、B 類は 4 点中 3 点が 2-7 ラインからの出土である。

	遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
石棒	2	5	7	3	4		
柱状節理	1	3	4	3	1		
合計	3	8	11	6	5	0	0

第 34 表　石棒類の分類別出土数と出土分布状況

厚さ　第 118 図参照。完形・略完形が存在しないことから、厚さ（太さ）のみを計測した。A1 類は厚さ 5 ～ 14cm、A2 類は 2cm、柱状節理である B 類は 4 ～ 9cm に分布する。計測点数が少ないことから分布のまとまりを抽出し難いが、A1 類では 5 ～ 7cm、10 ～ 14cm のまとまりが認められる。



第 118 図　石棒類の厚さ

石材　第 35 表参照。比較的石材はまとまりがあり、A1 類は輝緑岩が 4 点、流紋岩・ヒン岩が各 1 点、A2 類は粘板岩、B 類は 4 点すべてがヒン岩である。

	輝緑岩	ヒン岩	流紋岩	粘板岩	合計
石棒	4	1	1	1	7
柱状節理		4			4
合計	4	5	1	1	11

第 35 表　石棒類の分類別石材

遺存状態　いずれも欠損しておるが、大型石棒の A1 類では胴部が多い傾向にある。

（22）大珠（289）

中央付近が穿孔された大型の垂玉である。1 点のみ出土している。グリッド 13D のⅡ b 層から出土している。完形品で長さ 10.0cm、幅 4.4cm、厚さ 2.7cm、重さ 183g と大型である。縦長で角は丸い。やや歪な形状をしており、左右対称とはならない。ほぼ全面が研磨されているが、所々で剝離面？が観察できる。裏面からは調整程度の穿孔であり、正面からの穿孔が主体と考える。石材は蛇紋岩である。

（23）垂れ玉（290）

中央からやや上位が穿孔されたもので、小型のものを垂れ玉とした。1 点のみ出土している。自然流路である SD5186（グリッド 11D）Ⅲ a 層から出土している。完形品で長さ 3.6cm、幅 2.4cm、厚さ 1.1cm、重さ 10g である。長円の自然礫を両面から穿孔したもので、研磨は確認できない。石材は泥岩である。

（24）有孔石製品（291・292）

三日月形ないしは長円形を呈するもので、長軸方向に沿って２つの穿孔が施されているもの、ないしは予想されるものを本例とした。２点出土している。調整が入念で線刻が施されたもの（291）と、自然礫に穿孔したもの（292）がある。いずれも片側を欠く。291 も線刻は正裏の両面に及び、外縁にも全周する１条の線刻が施されている。正裏面の文様はおおむね一致しており、穿孔部を中心に渦巻き状の文様が線刻されている。

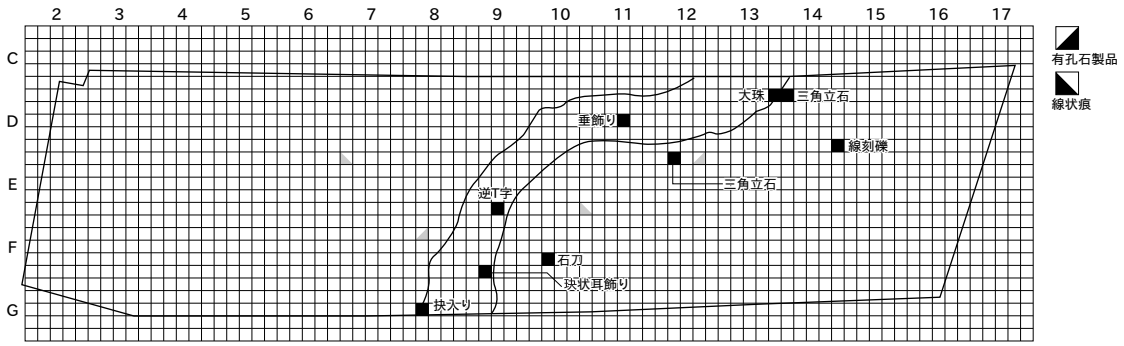
いずれも包含層出土で 291 がグリッド 8F のⅡｂ層、292 はグリッド 12E のⅢｂ層からの出土である。法量は現存長で、291 が長さ 2.1cm、幅 4.0cm、厚さ 0.6cm、重さ 3.7g、292 は長さ 2.8cm、幅 7.9cm、厚さ 1.2cm、重さ 18.5g である。穿孔方向は 291 が両面、292 は片面で、調整が加わったものと考える。石材はいずれも泥岩である。

（25）玦状耳飾り（293）

半損品が１点出土している。包含層出土でありグリッド 9F のⅡｂ層から出土している。現存長で長さ 3.0cm、幅 1.6cm、厚さ 0.5cm、重さ 2.1g である。残存部において研磨によると考える擦痕が著しい。石材は泥岩である。

（26）線状痕のある石製品（294・295）

自然礫の表面に線・筋状の痕跡が残るものを本例とした。砥石Ｂ・Ｃ類との区分に問題を残すが、本例は線の幅が狭く、比較的ランダムに施されていることから区分した。２点出土しており、いずれも掲載した。294 は 10E グリッドⅡｂ層、295 は中世の溝覆土（7E グリッド１層）からの出土であり、いずれも



第 119 図　各種石製品出土分布図

	遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
大珠		1	1		1		
線刻礫		1	1			1	
有孔品		2	2		2		
垂飾り		1	1		1		
逆Ｔ		1	1		1		
独鈷石	1		1		1		
三角立方	1	1	2		1	1	
ケツ耳		1	1		1		
石製品		1	1		1		
抉入り		1	1		1		
線状痕		2	2	1	1		
浮子		1	1	1	1		
合計	2	13	15	2	12	2	0

第 36 表　各種石製品の分類別出土数と出土分布状況

	輝緑岩	凝灰岩	ヒン岩	蛇紋岩	粘板岩	泥岩	軽石	合計
大珠				1				1
線刻礫						1		1
有孔品		1				1		2
垂飾り		1						1
逆Ｔ		1						1
独鈷石					1			1
三角立方	2							2
ケツ耳						1		1
抉入り			1					1
線状痕	1	1						2
浮子							1	1
合計	3	4	1	1	1	3	1	14

第 37 表　各種石製品の石材

欠損品である。現存長は 294 が長さ 13.6cm、幅 7.5cm、厚さ 4.6cm、重さ 532g、295 が長さ 5.3cm、幅 6.7cm、厚さ 1.3cm、重さ 55.7g である。線状痕は 294 では正面にのみ幅が異なる溝が、楕円形の対角線や短軸方向に施されている。一方の 295 は正裏の両面に認められが、正面が長軸方向に、裏面が長軸方向から約 45 度で施される。なお、294 の裏面ないしは側面には凹痕が残る。線状痕との前後関係は明確でない。石材は 294 が輝緑岩、295 が凝灰岩である。

（27）擦痕のある石製品（296 ～ 301）

礫の表面に磨痕が認められるものを本例とした。磨製石斧・砥石・手持ち砥石・磨石類との区分で課題が残る。磨製石斧とは刃部の有無で、砥石とは感覚的な印象であるが擦痕の形態で異なることから区分した。手持ち砥石が縁辺部に擦痕が認められるのに対し、本例は縁辺のものも存在するが、礫中央部に認められるという違いがある。総数 16 点出土している。

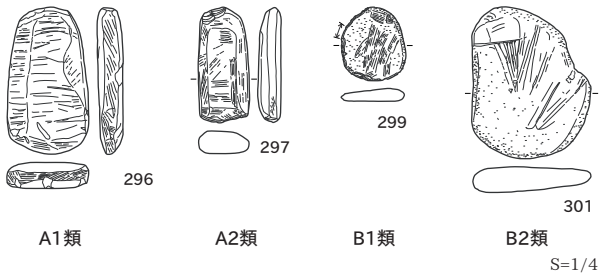
分類　第 120 図参照。形態で大別し、剥離痕の有無で細別した。

A 類　短冊形ないしは棒状を呈するもの（296・297）。擦痕は正裏面及び側面にも及ぶもの（296）とそうでないもの（297）がある。

B 類　円形・楕円形を呈するもの（298 ～ 301）。縁辺に剥離痕が伴うもの（1 類 298 ～ 300）と剥離が伴わないもの（2 類 301）がある。

分類別出土数と出土分布状況　第 121 図・第 38 表参照。全 16 点を対象とした。分類別では A1 類が 1 点、A2 類は 3 点、B 類が 12 点である。出土状況では遺構内が少ない点で各類は一致する。数量が少ないため有意な比率とは言い難いが、空間分布では A 類は他器種とほぼ同様の傾向を示すのに対し、B 類は 12 点中 5 点が 2-7 ラインからの出土である。

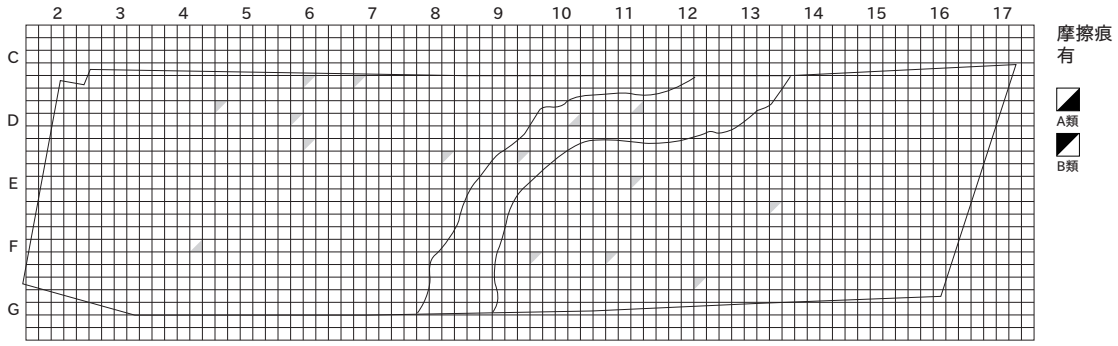
長さと幅　第 122 図参照。完形・略完形品の 13 点を対象とした。内訳は A1 類が 1 点、A2 類が 3 点、B1 類が 4 点、B2 類が 5 点である。長さ 5 ～ 11cm、幅 3 ～ 9cm と



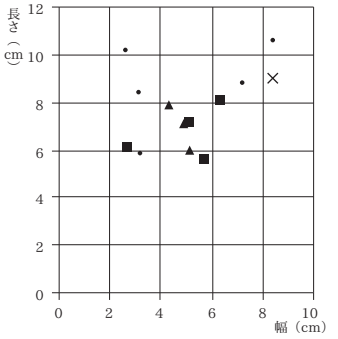
第 120 図　擦痕のある石製品分類図

	遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
A1 類		1	1	1			
A2 類		3	3		2		1
B1 類		4	4	2	2		
B2 類		5	5		5		
B 類	3		3	3			
合計	3	13	16	6	9	0	1

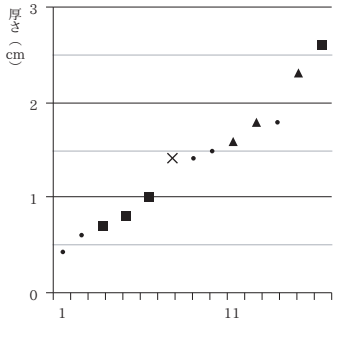
第 38 表　擦痕のある石製品の
分類別出土数と出土分布状況



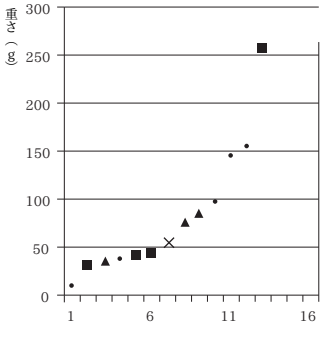
第 121 図　擦痕のある石製品出土分布図



第 122 図　擦痕のある石製品の長幅分布図



第 123 図　擦痕のある石製品の厚さ



第 124 図　擦痕のある石製品の重さ

比較的分布幅が狭い。その中でも多くは長さ 5 ～ 8cm、幅 3 ～ 6cm 程である。分類別では幅広い分布を示す B2 類、大型の A1 類、小型主体の A2 類、B1 類に分かれる。

厚さ・重さ　第 123・124 図参照。全点を対象とした。0.4 ～ 2.6cm まで分布するが、1cm と 2cm 程で分布の断絶が認められる。数量は少ないが比較的厚いものが多い A2 類、薄いものと厚いものが混在する B1 類、薄いものが主体の B2 類に分かれる。重さは、おおむね厚さに比例する。

	凝灰岩	輝緑岩	泥岩	ヒン岩	合計
A1 類	1				1
A2 類			3		3
B1 類	1		3		4
B2 類		1	3	1	5
B 類			3		3
合計	2	1	12	1	16

第 39 表　擦痕のある石製品の分類別石材

石材　第 39 表参照。4 種類の石材が認められるが、主体は泥岩で 12 点（75.0%）と多い。そのほかの石材は 1 ～ 2 点である。分類別では 1 点確認された A1 類が凝灰岩、そのほかは泥岩が主体である。

（28）浮子（302）

軽石を用い、撥形を呈し、上部が穿孔されたものを浮子とした。2F グリッドⅡｂ～Ⅱｃ層から 1 点のみ出土している。完形品で長さ 6.7cm、幅 3.9cm、厚さ 1.4cm で、4.6g と軽量である。石材の特徴から明確でないが、両面穿孔と考える。

（29）線刻礫（303）

礫に線画による文様が施されたものを線刻礫とした。14D グリッドⅢｂ層から 1 点のみ出土している。薄手の長楕円形礫であり、下半を欠く。正裏両面に線刻が施されている。正面は文様が重複しているが、次左右で対となる孤線が複数段あり、左側の孤線内にのみ直交する横線が施されており。裏面はほぼ同様の文様であるが、正面と比べて重複が少ない。正裏面共に上位左側に孤線内に密な横位沈線が充填されているのが特徴的である。文様の構成はアチヤ平遺跡の B3 類［長田 2002］に近い。現存長は長さ 7.5cm、幅 4.3cm、厚さ 0.9cm、重さ 39.5g で、石材は泥岩である。

（30）逆Ｔ字形石製品（304）

一端を欠くが、三方が突出した形態で、入念に研磨仕上げされたものである。適切な名称が見当たらないことから、形態を重視して「逆Ｔ字形石製品」とした。グリッド 9E の SD5186 から 1 点のみ出土している。正裏の片面には長軸に沿って 1 条の沈線が施されている。現存長は長さ 3.5cm、幅 4.4cm、厚さ 1.7cm、重さは 25g で、石材は泥岩である。

（31）石刀（305）

破片資料のため位置付けに苦慮するが、残存部は湾曲した棒状部に男根状の頭部を呈し、棒状部の片側のみ凹んでいることから、石刀の柄部と判断した。グリッド 10F の P5615 から 1 点のみ出土している。丁寧に仕上げられており、底面凹部にまで入念な研磨が施されている。また柄部の底面側には刻みが残る。

現存長 7.1cm、幅 2.3cm、厚さ 2.3cm、重さ 36.3g で、石材は粘板岩である。

（32）抉り入り石製品（306）

長円・扁平な自然礫の横片側縁に研磨により抉りが施されたものである。適切な名称が見当たらないため、調整を重視して「抉り入り石製品」とした。8G グリッドⅡｂ層から出土している。側面に施された抉りは、幅広で深い 2 つの抉り間に幅の狭く浅い抉りが 3 か所施されている。完形品で、長さ 5.0cm、幅 4.1cm、厚さ 1.1cm、重さ 25.4g で、石材は凝灰岩である。

（33）板状石製品（307 ～ 314）

主に剥離により円形、（長）方形、三角形の形態の作出・成形が行われ、正裏面・剥離面に使用の結果と思われる磨面・敲打面等が肉眼で観察できないものを本例とした。適切な名称が見当たらないため、薄い形態を重視して「板状石製品」とした。総数 18 点出土している。

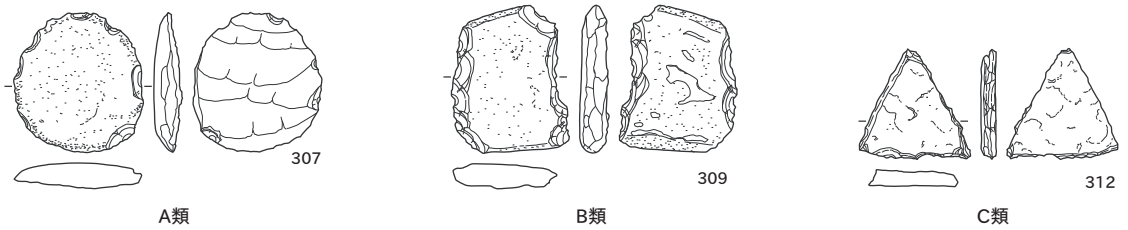
分類　第 125 図参照。形態で大別した。

A 類　円形ないしは楕円形を呈するもの（307）。

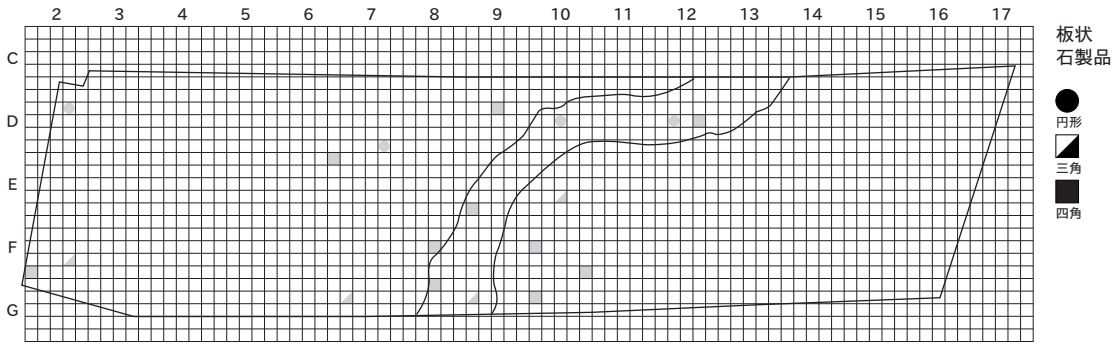
B 類　方形ないしは長方形を呈するもの（308 ～ 310）。

C 類　三角形を呈するもの（311 ～ 314）。

分類別出土数と出土分布状況　第 126 図･第 40 表参照。全 18 点を対象とした。分類別では A 類が 4 点、B 類が 10 点、C 類が 4 点である。出土状況では遺構内が少ない点で各類は一致する。数量が少ないため有意な比率とは言い難いが、空間分布では A・C 類が拮抗するのに対し、B 類のみ 10 点中 8 点が 8-13



第 125 図　板状石製品分類図



第 126 図　板状石製品出土分布図

ラインから出土している点が特徴的である。

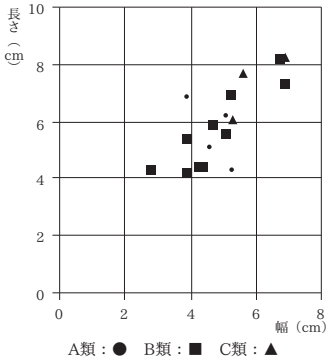
長さと幅　第 127 図参照。いずれも完形品のため全 18 点を対象とした。長さ 4 ～ 8cm、幅 3 ～ 7cm 程と比較的まとまった分布状況を示す。数量が多い B 類はこの中では比較的幅広い分布を示すが、A・C 類共に更に分布範囲は狭い。このうち三角形の C 類は更に分布範囲が限定され、311 ～ 313 は長さ 4.2 ～ 4.4cm、幅 3.9 ～ 4.4cm であり、このうち 311・312 はほぼ長さと幅が一致する。際だった傾向と考える。

厚さ・重さ　第 128・129 図参照。全点を対象とした。0.5 ～ 2cm 程度を主体に、0.5 ～ 5.5cm まで分布する。分類別では A・B 類で各 1 点 2.5cm を超えるものがあること、C 類では薄いものが多い傾向にある。重さは 20 ～ 60g 程がもっとも多い。

石材　第 46 表参照。5 種類の石材が選択されているが、凝灰岩が 8 点（44.4%）、泥岩が 7 点（38.9%）と主体であり、そのほかの石材は各 1 点と少ない。分類別でも凝灰岩・泥岩が主体である点に変化はない。

	遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
三角		4	4	2	2		
円形	1	3	4	2	2		
四角	2	8	10	2	8		
合計	3	15	18	6	12	0	0

第 40 表　板状石製品の分類別出土数と出土分布状況



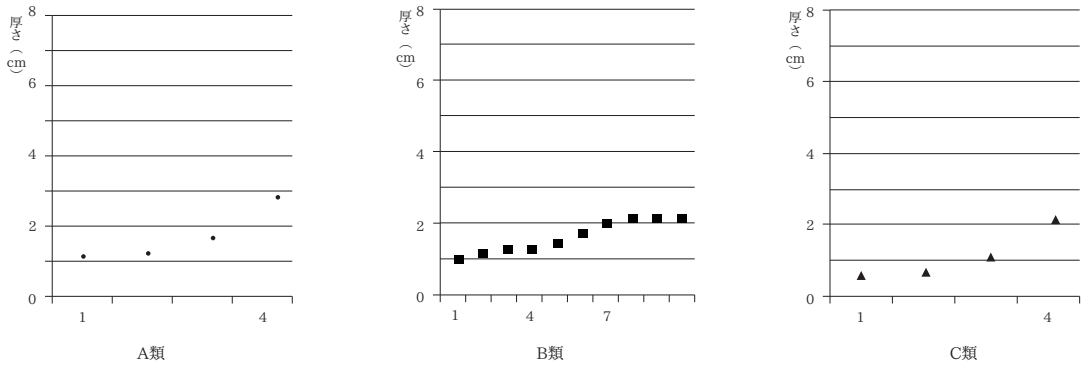
第 127 図　板状石製品の長幅分布図

	輝緑岩	凝灰岩	ハンレイ岩	砂岩	泥岩	合計
三角		1		1	2	4
四角	1	6			3	10
円形		1	1		2	4
合計	1	8	1	1	7	18

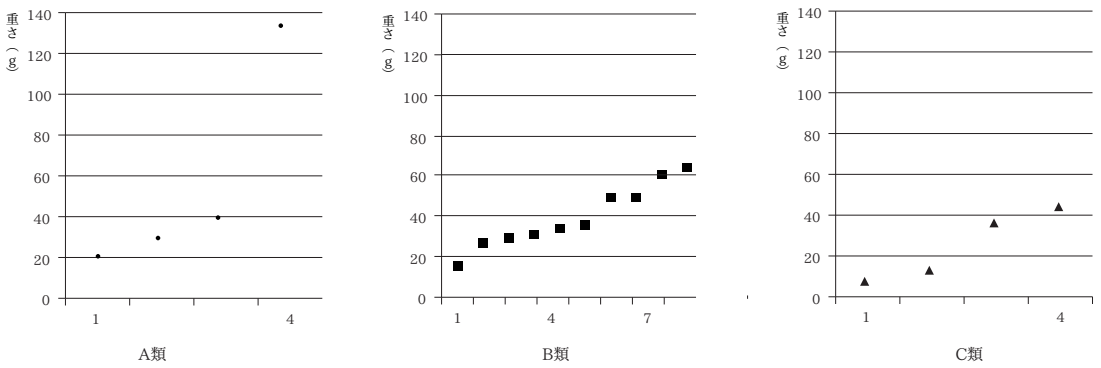
第 41 表　板状石製品の分類別石材

(34) 三角立方形石製品（315・316）

三角錐ないしはピラミッド形をしたものを一括した。剥離により成



第 128 図　板状石製品の厚さ



第 129 図　板状石製品の重さ

形されたものと、無加工の自然礫があり、両者は本来区分すべきと考えるが、形態が極めて特異で類似していることから一括した。適切な名称が見当たらないため､形態を重視して「三角立法形石製品」とした。総数２点出土している。

前出のとおり剥離で成形されたもの（315）と、無加工の自然礫（316）がある。剥離成形されたものは側縁からの粗い剥離で成形されており、正面の一部及び裏面には自然面が残る。316 は無加工であるが、左側面にはわずかに凹痕が残り、磨石類ＥⅠ類に該当する。磨石類に含めた場合、特異な形態な 315 との類似性がみえにくくなるため、あえて本類に含めた。

大きさはやや異なるが、長さ・幅・厚さ（高さ）は、315 が 6.6cm・6.2cm・3.9cm、316 は 8.9cm・8.0cm・5.9cm で、長さ・幅・厚さの比率は類似する。重さは 315 が 119g、316 が 315g、石材はいずれも輝緑岩である。

（35）分類不可（317 ～ 322）

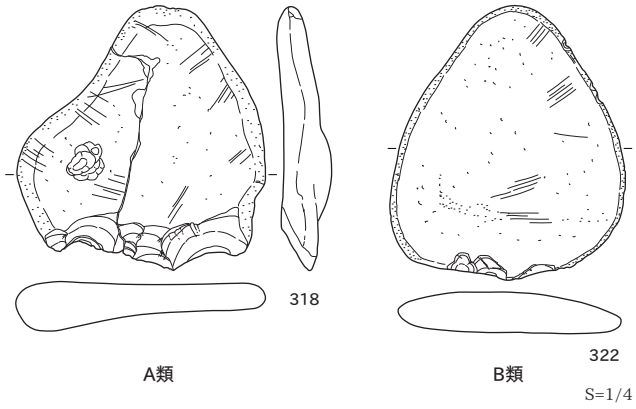
これまで記述してきたものに該当しない礫石器を一括した。各種の定義により抜粋されたもの以外という位置付けになる。磨製石斧・打製石斧等の未成品である可能性を残す。

区分　第 130 図参照。剥離痕跡から以下に区分した。

A 類　比較的大型の剥離が施されたもの（317 ～ 319）。礫器との区分が問題となるが、使用の結果と考える刃部のツブレが認められるものを礫器、ツブレが認められないものを本類とした。

B 類　比較的小型ないしは微細な剥離が施されたもの（320 ～ 322）。

C 類　わずかに敲打痕が認められるもの。

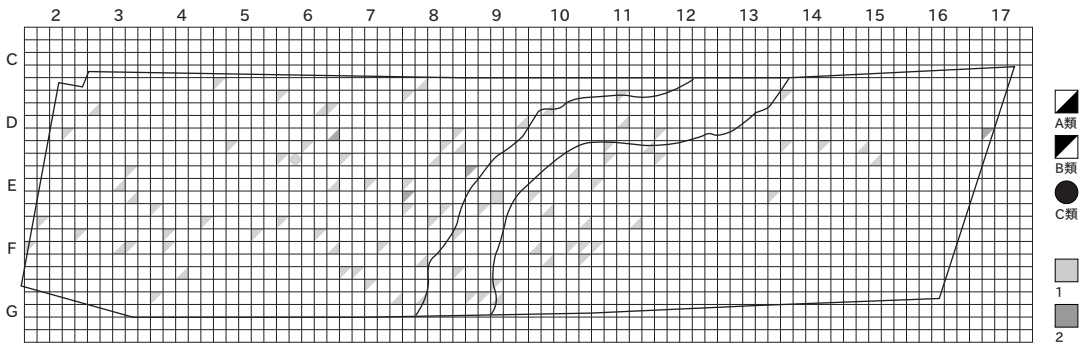


第 130 図　分類不可区分図

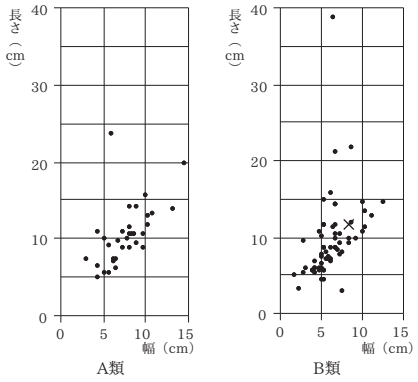
区分別出土数と出土分布状況　第 131 図・第 42 表参照。全 97 点を対象とした。A 類が 33 点、B 類が 63 点、C 類はわず

	遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
A 類	6	27	33	11	17	2	3
B 類	16	47	63	27	29	6	1
C 類	1		1	1			
合計	23	74	97	39	46	8	4

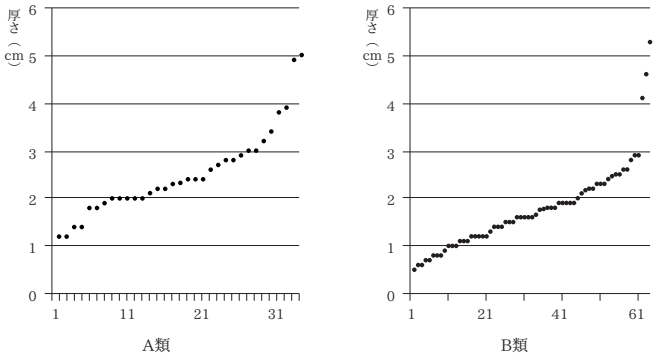
第 42 表　分類不可の区分別出土数と出土分布状況



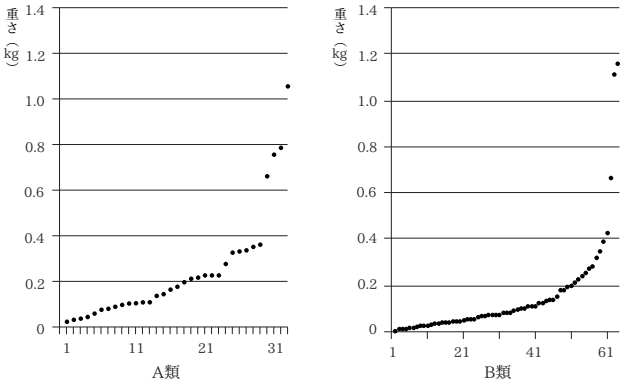
第 131 図　分類不可出土分布図



第 132 図　分類不可の長幅分布図



第 133 図　分類不可の厚さ



第 134 図　分類不可の重さ

かに 1 点のみの出土である。出土状況では遺構内出土の比率、空間分布の状況等、他器種と大きな違いは認められない。

長さと幅　第 132 図参照。完形・破損の区分が困難なことから全 97 点を対象とした。いずれも長さ 5 ～ 15cm 程度、幅 3 ～ 10cm 程度のものを主体し、長さ 20cm 以上のものを若干含む。

厚さ　第 133 図参照。破損品も完形時の厚さと推定できるため、全 97 点を対象とする。0.5 ～ 5.3cm まで分布するが、A･B 類共に 3cm 程度に分布の断絶が認められる。

重さ　第 134 図参照。全 97 点を対象とする。10 ～ 1,200g まで分布が認められるが、400 ～ 600g 程度で分布の断絶があり、600g を超えるものは極めて少ない。

	輝緑岩	凝灰岩	ヒン岩	ハンレイ岩	砂岩	粘板岩	結晶片岩	泥岩	頁岩？	合計
大型剝離	7	13	1		1			11		33
小型剝離	15	12	3	1	1	1	1	28	1	63
敲打痕	1									1
合計	23	25	4	1	2	1	1	39	1	97

第 43 表　分類不可の区分別石材

石材　第 43 表参照。9 種類の石材が認められるが、主体は泥岩 39 点（40.2%）、凝灰岩 25 点（25.8%）、輝緑岩 23 点（23.7%）であり、そのほか 6 種の石材は 1 ～ 4 点と少ない。

（36）特異・自然礫（323 ～ 330）

加工痕跡が認められない礫の中で、際立った特徴を有するものを報告する。（a）形態が特異なもの、（b）石材が特異なものがある。（a）の中には、自然堤防上に位置する本遺跡の基盤層内に含まれていた礫が、構築物（柱穴・土坑等）の掘削等によって縄文時代の生活面に廃棄されたものもあろうと思われる。すべてが搬入品とは考えていないが、何らかの意図を持って遺跡内に持ち込まれたものもあると推察する。（b）については加工痕跡がないものの、剝片石器の母岩、石製品の素材として搬入されたものと推察している。

分類　（a）のみ形態で細分した。（b）は石材名で呼称することとする。

（a）形態が特異なもの（323 ～ 328）。

A 類　球形を呈するもの。

B 類（323）　三角形を呈するもの。

C 類（324）　四角形を呈するもの。

D 類　長靴形を呈するもの。

E 類　長円形を呈するもの。

F 類　台形を呈するもの。

G 類　短冊形を呈するもの。

H 類　撥形を呈するもの。

I 類（325）　扁円形を呈するもの。

J 類（326・327）　棒状を呈するもの。男根状を呈するものも含めた。

K 類（328）　石鏃 A 類に類似し、ヒコーキ形を呈するもの。

L 類　不定形で、自然作用の凹（孔）があるもの。

（b）石材が特異なもの

珪化木・軽石・ヒスイ・石英・メノウ・頁岩がある。分類は行っていない。

分類別出土数と出土分布状況　第 135・136 図、第 44 表参照。全点を対象とした。

（a）形態が特異なもの

第 135 図・第 44 表参照。201 点を対象とした。I 類・G 類が 40 点・39 点と多く、J 類が 30 点、H 類が 25 点、A 類が 22 点で次ぐ。その他は 20 点に満たない。出土状況では遺構内出土の比率は他器種と同様に、20％程度である。一方、空間分布では 2-7 ラインが 48 点（23.9％）と低いのに対し、8-13 ラインはその倍以上の 125 点（62.2％）が出土するなど他器種とやや異なる。また、14-17 ラインでも 25 点（12.4％）とやや多い点も特徴と考える。この傾向は、各類共通したものとなる。

（1）形態特異

	遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
A 類（球形）	6	16	22	4	13	5	
B 類（三角形）		3	3	2		1	
C 類（四角形）	1	7	8	1	7		
D 類（長靴形）		1	1				1
E 類（小判形）	6	12	18	5	11	2	
F 類（台形）	4	7	11	3	7	1	
G 類（短冊形）	6	33	39	11	22	6	
H 類（撥形）	5	20	25	8	14	3	
I 類（扁円形）	9	31	40	5	28	5	2
J 類（棒状）	6	24	30	8	20	2	
K 類（異形）		1	1		1		
L 類（孔有り）	1	2	3	1	2		
合計	44	157	201	48	125	25	3

（2）石材特異

	遺構内	遺構外	合計	2-7 ライン	8-13 ライン	14-17 ライン	その他
珪化木	1	8	9	3	6		
軽石	1	11	12	2	8	2	
ヒスイ		2	2	1	1		
石英		5	5	1	4		
メノウ		1	1	1			
頁岩		1	1		1		
合計	2	28	30	8	20	2	0

第 44 表　特異・自然礫の分類別出土数と出土分布状況

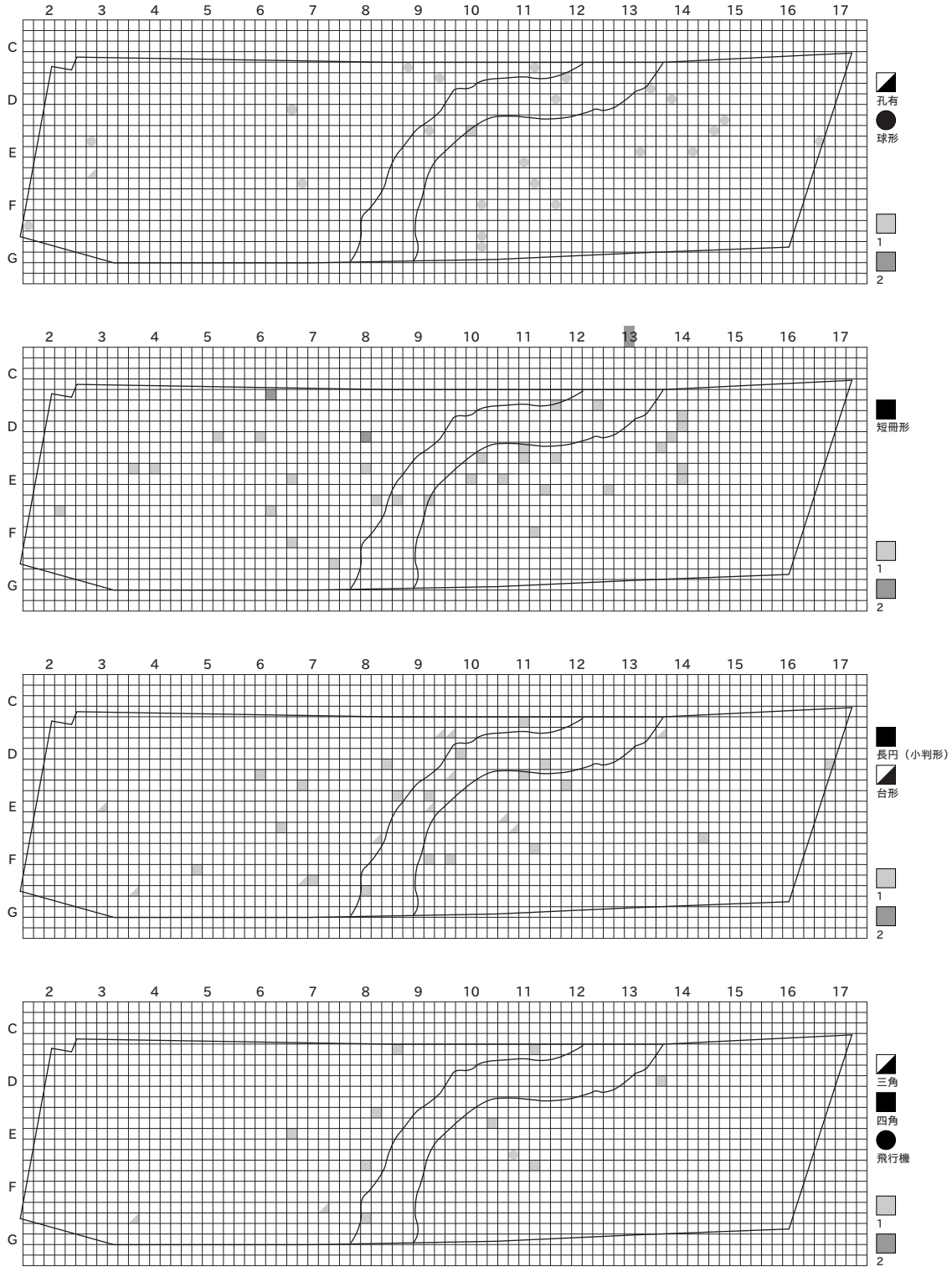
（b）石材が特異なもの

第 135 図・第 44 表参照。全 30 点を対象とした。軽石が最も多く 12 点、珪化木が 9 点で次ぐが、そのほかは 5 点以下である。出土状況では遺構内出土が 2 点（6.7％）と、極端に少ない。空間分布は、（a）形態が特異なものと同様に、2-7 ラインが 8 点（26.7％）と少ないのに対し、8-13 ラインは 20 点（66.7％）と高い比率を呈している。

長さと幅･厚さ　第 137 ～ 139 図参照。厚さは（a）が長さと幅と重複するものもあることから割愛し、（b）のみ全点を対象として図示した。

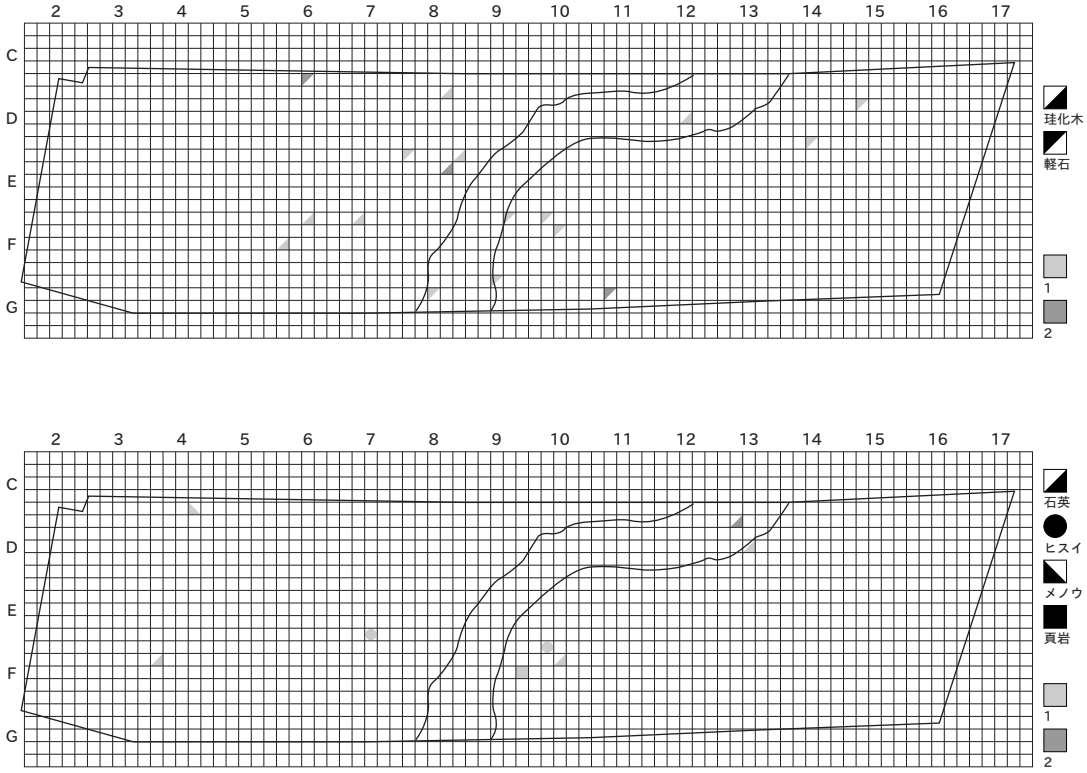
（a）形態が特異なもの

完形・略完形の 139 点を対象とした。各類共に法量から 2 ～ 3 区分が可能である。A 類（球形）は径 3 ～ 7cm、10cm 程度、15cm 程度に分かれ、大きいものほど球形から外れる傾向にある。B 類（三角形）･C 類（四角形）はおおむね分布が類似し、長さ・幅が 5 ～ 10cm と 12cm 程度に区分される。F 類（台形）



第 135 図　特異・自然礫（形態）出土分布図

は長さ・幅が 7 ～ 10cm、15cm 以上に区分が可能であるが、E 類（小判形）は分布の断絶が明瞭ではなく、むしろ長さと幅の比率で細分が可能となる。これは G 類（短冊形）・H 類（撥型）も類似した傾向にあり、大きいものほど細長い傾向にある。I 類（扁円形）は長さと幅の比率が 1：1 ～ 4：3 程のものを含めたが、長さ 10cm 前後に分布の中心を持つ。J 類（棒状）は長さと幅の比率が 7：1 ～ 8：3 程に分布するが、主体は 7：1 ～ 4：1 程である。

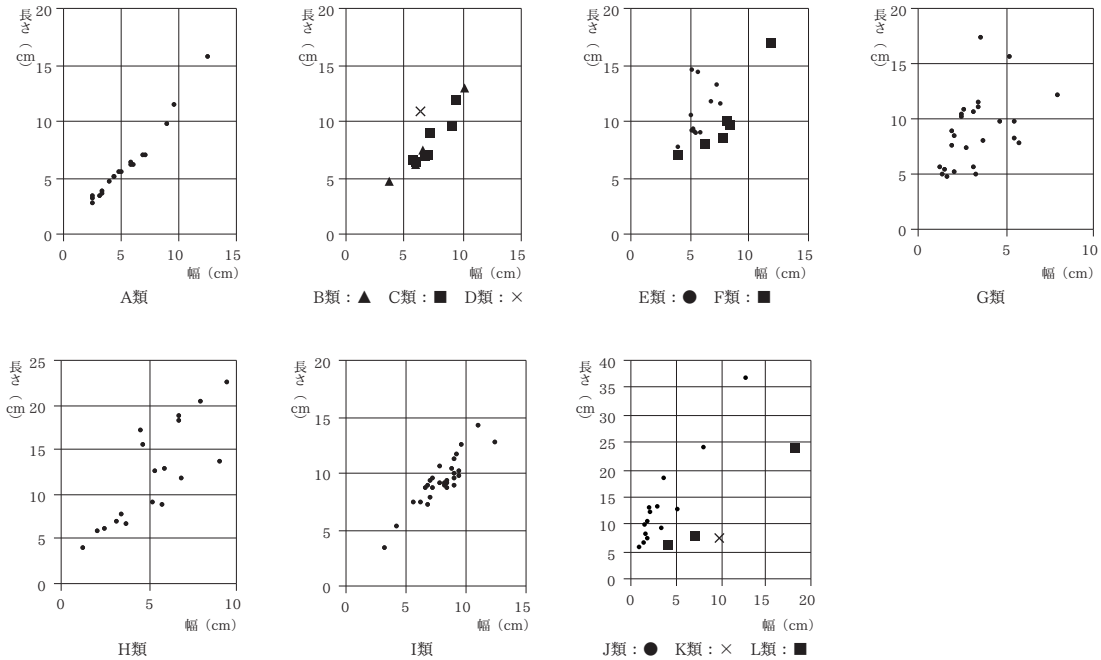


第 136 図　特異・自然礫（石材）出土分布図

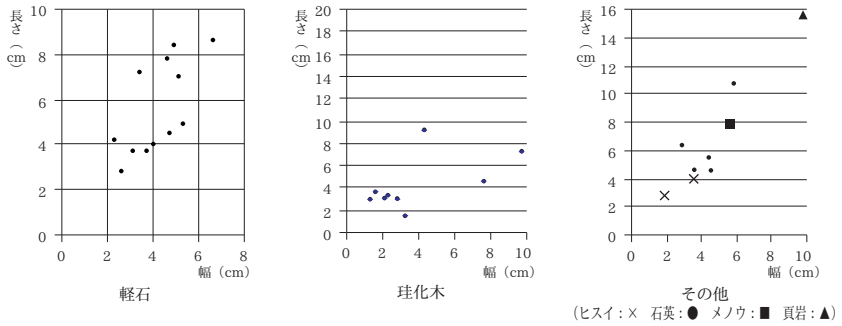
(b) 石材が特異なもの

全 30 点を対象とした。数量が多い軽石は長さ 3 ～ 8cm、幅 1 ～ 5cm を中心に、長さ 10cm・幅 8cm 未満に分布する。厚さは 1 ～ 4cm に集中することから、比較的厚みのあるものが主体となる。珪化木は長さ 2 ～ 10cm･幅 1 ～ 8cm を中心に長さ 20cm･幅 10cm 程度まで分布する。厚さは 0.7 ～ 2.3cm･4.1 ～ 4.8cm に分布が分かれており、比較的細長く薄手のものが多い。

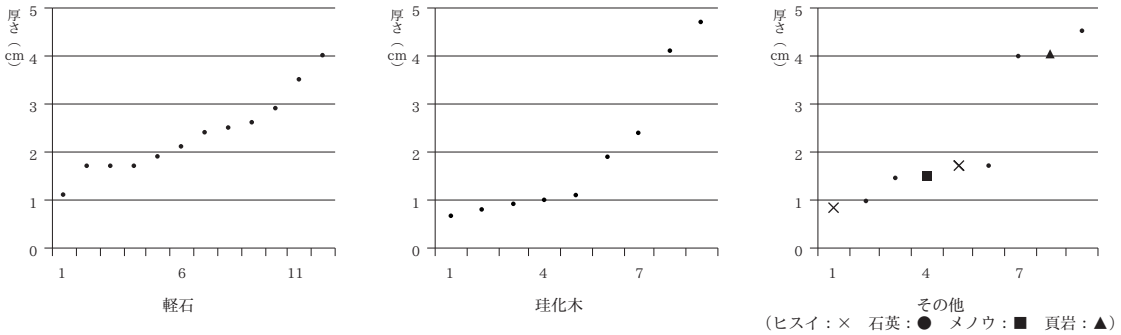
数量がすくないもののうちヒスイは、長さ・幅とも 2cm 程度、厚さ 0.9cm のものと、長さと幅が



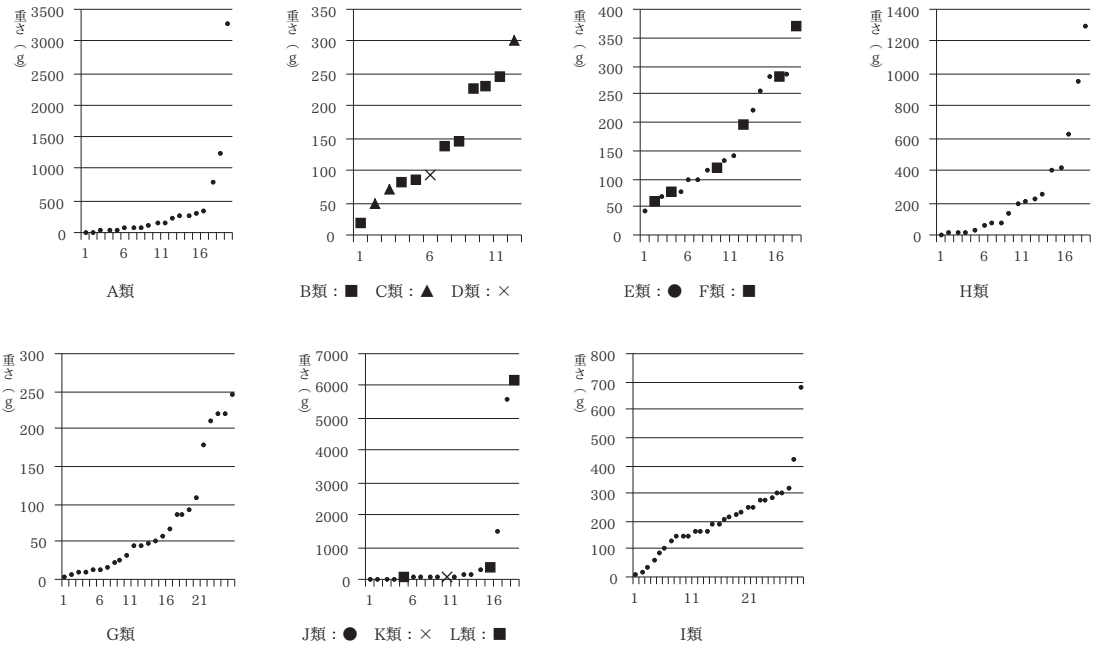
第 137 図　特異・自然礫（形態）の長幅分布図



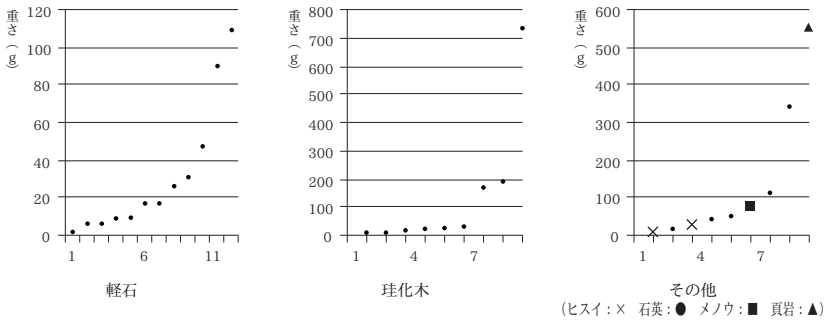
第 138 図　特異・自然礫（石材）の長幅分布図



第 139 図　特異・自然礫（石材）の厚さ



第 140 図　特異・自然礫（形態）の重さ



第 141 図　特異・自然礫（石材）の重さ

4cm 程度、厚さ 2cm 程度と丸味をもつ。石英は長さ 4 ～ 6cm、幅 3 ～ 5cm 程度が主体であり、厚さも 1 ～ 2cm と 4cm 以上に分かれる。比較的厚手のものも多い。メノウは長さ 8cm･幅 6cm､厚さ 1.5cm、頁岩は長さ 16cm・幅 10cm 程度で、厚さが 4cm と薄手のものである。

重さ　第 140・141 図参照。（a）完形・略完形の 139 点、（b）は全点を対象とする。

（a）形態が特異なもの

おおむね長さと幅の区分と同様の分布を示す。500g 以下と軽量なものが圧倒的に多い。球形の A 類は法量に比して幅広い分布を示すこと、J 類（棒状）や K 類（孔あり）で 6,000g を前後のものがある点などが特徴となる。

（b）石材が特異なもの

100g 未満のものが主体である。重いものでは 700g を超えるものが珪化木が 1 点､500g を超える頁岩、300g を超えるものが石英で 1 点認められる。

石材　第 45 表参照。（b）は石材で呼称しているため、（a）のみ全点を対象として表示した。全体では泥岩が 89 点(44.3%)と最も多く、輝緑岩 44 点（21.9％）、凝灰岩 25 点（12.4％）で続き、そのほかは各 10%に満たない。10 点以上と比較的数量が多いもので分類別で主体となる石材をみると、A 類(球形)は 8 点の花崗岩(27.5%)、E 類（小判形)･F 類（台形)･I 類（扁円形）は輝緑岩で 30 ～ 45%、G 類（短冊形)･H 類（撥形)･J 類（棒状）は泥岩で、60 ～ 80%程度を占めている。全体では数量の多い凝灰岩は各類で認められるが、主体的な石材とはなっていない。

	輝緑岩	凝灰岩	ヒン岩	ハンレイ岩	砂岩	花崗岩	片麻花崗岩	閃緑岩	泥岩	砂岩	石英	合計
A 類（球形）	4	4	2			8		3	1			22
B 類（三角形）		1							2			3
C 類（四角形）	3	2			1		1		1			8
D 類（長靴形）	1											1
E 類（小判形）	7	2	4						4	1		18
F 類（台形）	5	3							2	1		11
G 類（短冊形）	3	1	2					1	32			39
H 類（撥形）	5	4						1	15			25
I 類（扁円形）	12	7	7	2		1		4	7			40
J 類（棒状）	4	1		1		2			22			30
K 類（異形）									1			1
L 類（孔有り）									2		1	3
合計	44	25	15	3	1	11	1	9	89	2	1	201

第 45 表　特異・自然礫（形態が特異なもの）の分類別石材

遺存状態・被熱　遺存状態は（a）のみを対象とする。完形品・略完形品が 139 点、欠損品が 62 点である。分類別では J 類（棒状）、F 類（台形）で完形・略完形品と欠損品がほぼ同数である。ただしこれは、欠損品からでも元の形態が推定できるため、選別の段階で抽出できたことを反映した結果であり、使用等に関わる有意な数値とは言い難い。

被熱は（a）でのみ認められた。全 201 点中 15 点（7.5%）である。種別では J 類が 4 点、I 類が 3 点、F・G 類が各 2 点、A・C・E・H 類が各 1 点である。各類での被熱比率は 20%にも満たない。このうち破損面にも被熱の痕跡が認められるのは I 類が 3 点、J 類で 1 点である。

D　そ　の　他（図版 232-331）

長さ 8.3cm、幅 8.2cm、厚さ 5.8cm、重さ 193g の黒色塊であり、分析の結果、アスファルト塊と判断した（第Ⅶ章 7)。楕円形を呈し、表面はわずかに凹凸が認められるが、正面ではわずかに面をもつか所がある。表面観察では 1mm 以下の砂粒が混じり、黒～褐色を呈する。旧流路である SD5186 のグリッド 10E2、Ⅲ a1 層から出土している。この地点は、長割 1 期の土器がまとまって出土している遺物集中Ⅱに当たることから、後期前葉の所産と考える。

3　上面の中世の遺物（図面図版 211、写真図版 451）

珠洲焼 2 点、土師器 10 点、瀬戸･美濃焼 2 点、肥前系陶器 2 点と銭貨 3 点、漆器 1 点が出土している[1)]。銭貨・漆器は調査区南西側の SK521 からまとまって出土した。珠洲焼はいずれも SD301 から、瀬戸・美濃焼のうち 6 は P517 からの出土である。その他はグリッド 7 ラインを中心として、わずかに認められる程度である。土器・陶磁器はいずれも破片資料である。出土数が少ないため、種別に関わらず通し番号を付して掲載した。

土器・陶磁器の編年及び年代観については、珠洲焼は［吉岡 1994］、土師器は［水澤 2005］、瀬戸・美濃焼は［藤沢 1993・2002］、肥前系陶器については［大橋 1993］の各論考を参考にした。

1・2 は珠洲焼の片口鉢である。いずれも破片資料のため径は不明である。1 は外傾口縁で、片口の突出は浅く短い。第Ⅲ～Ⅳ期に帰属すると考える。2 は底部で卸し目が密集している。内外面に黒色付着物が認められる。3・4 は土師器皿である。4 は口縁部が大きく開き、口縁端部がわずかに上方に突き出る形態から、15 世紀代の所産である可能性が高い。3 は小片のため帰属時期は不明である。

5 は瀬戸・美濃焼の天目茶椀である。高台周辺には濃い錆釉が施され、浅い内反り高台を有することから大窯 1 期後半～ 2 期に位置付けられる。6 は瀬戸・美濃焼の丸皿である。断面逆三角形の高台を持ち、器高は比較的低い。大窯 3 ～ 4 期に帰属する可能性が高い。7 は肥前系陶器の皿である。高台はシャープに削り出され、断面は方形を呈する。見込みに目痕は確認できない。8 は鉄絵が施されるいわゆる「絵唐津」である。植物文らしき文様が描かれる。外面下半は無釉である。

9 は漆器の塗膜のみ残存しているもので、非常に脆い。残存する塗膜を実測しており、器厚は実際よりも薄くなっている可能性がある。内外面に赤漆が施される。10・11 は銭貨で、いずれも北宋銭である。10 は 1023 年初鋳の天聖元寶である。11 は 2 枚重なって、錆で固着している。このため、上の銭貨については「通」以外の文字が確認できない。下の銭貨はおそらく天禧通寶であろう。1017 年初鋳である。裏面には布状のものが付着しており、細かい編み目が確認できる。縦糸と横糸を等間隔で編みこんであるように見えるが、崩れているため編み方は不明である。

4　最下面を主体とした中期の遺物（図面図版 233 ～ 237、写真図版 465 ～ 468）

A　土　　器（図版 233 ～ 236-1 ～ 81）

最下面では、縄文時代中期前葉を主体とする土器が、整理箱（54 × 35cm、深さ 10cm）で 30 箱出土した。遺構出土のものはすべて破片資料であり、比較的形態の分かる個体は土器集中区（集中Ⅰ～Ⅴ）から出土している。系統や文様のバラエティーを考慮して 81 点を掲載した。土器観察表に記したが、主たる属性について解説する。なお、土器実測図は内外面の拓本を掲載した場合、左から外面拓本－断面図－内面拓本とした。上・下面出土土器とは掲載方法が異なることに注意願いたい。

1）古代の須恵器 3 点も出土しているが、甕と壺または瓶の胴部片であり、小破片のため図示していない。

1）分　　類

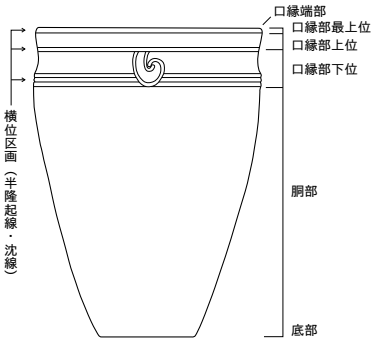
器形が分かる個体が少ないため、主に系統・文様で区分した。なお、部位名称は第 142 図のとおりである。

A 群　北陸の影響を受けたもの。

B 群　東北南部または関東東部の影響を受けたもの（56・図版 173-246・図版 191-708）。

C 群　東北北部の影響を受けたもの（55・75）。

本遺跡では A 群が主体となり、これらは在地の土器と考えられる。口縁部に半隆起線または沈線による横位区画を有し、区画内に文様を充填していることから、それらの文様によって細分を行った（第 144 図）。



第 142 図　土器の部位名称

第 143 図　土器の器形

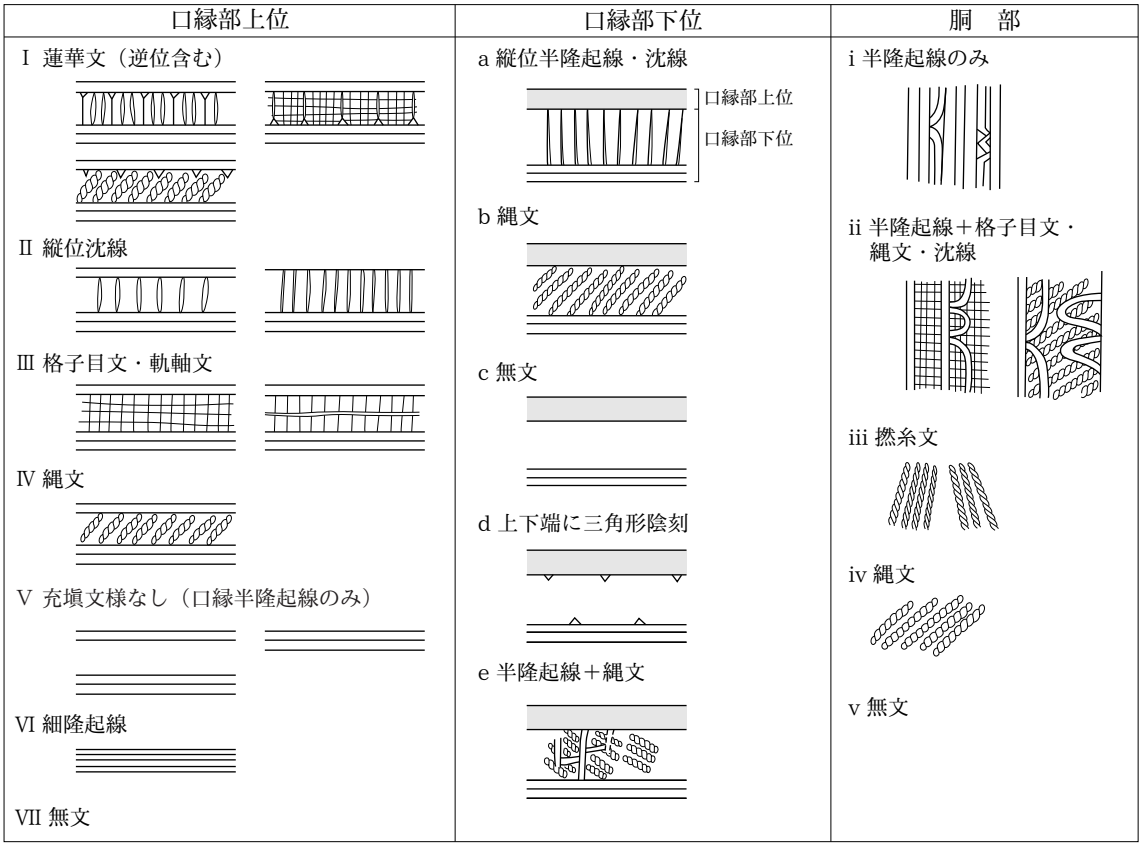
〔口縁部〕

Ⅰ類：口縁部上位の区画内に、彫刻蓮華文が施されるもの（5・22 など）。

なお、本来の蓮華文（上端に三角形の陰刻が施されるもの）を「正位蓮華文」とし、これに対して下端に三角形陰刻が施されるものは、「逆位蓮華文」とした。

Ⅱ類：口縁部上位の区画内に、縦位沈線が施されるもの（30・31 など）。

Ⅲ類：口縁部上位の区画内に、軌軸文または格子目文が施されるもの（37・38 など）。



第 144 図　A 群土器の分類

Ⅳ類：口縁部上位の区画内に、縄文が施されるもの（13・41 など）。

Ⅴ類：口縁部上位に半隆起線または沈線のみが施され、区画を持たないもの（42・43）。

Ⅵ類：口縁部に細隆起線が施されるもの。1 点のみの出土である（72）。

Ⅶ類：口縁部が無文のもの。粗製土器（44 ～ 46）。

さらに、Ⅰ～Ⅳ類については 2 段区画が認められたため、下位区画内に充填される文様によって 3 つに細分し、上記の分類と組み合わせて「Ⅰａ類」のように呼称する。

a：縦位の半隆起線または沈線が施されるもの

b：縄文が施されるもの

c：無文のもの

〔胴　部〕

ⅰ　半隆起線のみで構成されるもの。1 点のみである（22）。

ⅱ　半隆起線で区画した中に、格子目文または縄文、沈線を充填するもの。

ⅲ　撚糸文が施されるもの。

ⅳ　縄文が施されるもの。

ⅴ　無文のもの。

器形は、全形が分かるものが少ないため分類基準とはできなかったが、概ね以下の 3 つに大別される。

A ：口縁部が内湾し、頸部は括れを有するもの。いわゆるキャリパー形も含まれる。

B ：口縁部が外傾、または外反するもの。頸部が若干括れるものもある。

C ：口縁部が内湾し、頸部に括れを持たないもの。

2）観察表の記載

記載方法は、上・下面出土土器に準じた（第Ⅴ章 2A）。

胎　　土

胎土は生地と混和材から構成されるが、主に混和材と思われる鉱物を以下のように分類した。

A：直径 1 ～ 2mm 前後の石英・長石・白色粒子を含む。

A1　海綿骨針をわずかに含むもの。

A2　金色の雲母が目立つもの。

A3　白色粒子が目立つもの。

B：直径 1 ～ 5mm 前後の石英・長石・白色粒子を含む。特に、3 ～ 5mm の白色粒子が目立つ。

C：直径 2mm 前後の白色粒子を多量に含み、軽い量感である。

D：大粒の砂粒は含まず、0.3mm 以下の細砂を多く含む。

E：混和材をほとんど含まず、水簸したように精良な胎土である。

F：直径 2mm 前後の粒子を少し含む。軽い量感で、粘土質である。

色　　調

以下のように区分した。

1：にぶい赤褐色（5Y5/4）・にぶい黄橙色（10YR7/4）を呈するもの。大多数がここに分類される。

2：明赤褐色（2.5YR5/8）を呈するもの。1 点のみ（74）。

3：灰白色（2.5Y8/2）を呈するもの。1 点のみ（67）。

4：暗灰黄色（2.5YR5/2）を呈するもの（54）。

5：黒斑や使用痕跡（スス・コゲ）の付着により本来の色調が不明なもの。

3）各　　説

遺　構（1・2）　1はP8881から出土した。半隆起線で区画した内部にRL縄文を充塡している。図面左下は格子目文にも見えるが、2本1組の沈線による区画文と思われる。2はP9063から出土した浅鉢の底部で、調整は丁寧である。ススがわずかに付着している。

4F集中（3～8）　A群Ⅰ類（3・5・8）、Ⅱ類（4・7）、Ⅶ類（6）がある。3は外面の剝落が著しい。突起付きの波状口縁であるが、単位は不明である。口縁部上位のLR縄文は条の幅が広い。5は横位無文帯を有し、胴部も無文という組み合わせで、本遺跡ではこの1点のみである。口径40cmと大型であるにも関わらず器壁が薄いことが特徴的である。口縁部上位区画の地文（蓮華文の地文）は縦位沈線と格子目文が混在している。口縁部と頸部との区画帯にはU字状の文様が4単位で施され、1か所のみ三角形の陰刻が見られる。わずかながらそれぞれが異なっている点が興味深い。口縁部の区画文もU字状を呈するが、頸部の区画文とは若干ずれた位置に描かれており、変容が進んでいると考える。8は口縁部上端に蓮華文が施される。口縁部形態は、残存部から推測すると2単位もしくは1単位の波状口縁である可能性が高い。上位区画は横位半隆起線ではなく長方形の区画文とし、内部に縦位半隆起線が充塡される。この長方形区画の長さは一定ではなく、図面左から右にむかって長くなる。胴部の地文はL縄文で、口縁部にも若干残る。口縁部同様、胴部にも縦位沈線が施されるが、短沈線も認められることから、胴部中位まで伸びるようなものではないと推測できる。4の半隆起線区画内に施された縦位沈線は、半截竹管状工具ではなく1本描きと考える。7は半隆起線上に若干縦位沈線が施されることからⅡ類とした。口縁端面からh字状文が貼り付けられる。

集中Ⅰ（9）　口縁部は1点も出土していない。9は撚糸文Lを地文として半隆起線・沈線で区画されているが、破片資料であるため文様構成は不明である。9cは胴部を区画する逆U字状文であることから、胴部上位であると推定できる。

集中Ⅱ（10）　口縁部上位の蓮華文は正位、逆位が共存している。厳密には蓮華文とは呼べないかもしれないが、類例が少ないこともありⅠ類に含めた。横位の半隆起線を2段配するが、半隆起線に挟まれた部分は鈍角爪形文が施される。口縁区画下段と胴部にはLR縄文を充塡するが、口縁部は横位回転であるのに対し胴部は縦位回転で、同一器面において異方向から施文される。口縁部は横、胴部は縦に回転させるのは、豊原（とよはら）遺跡Ⅵ群3類の特徴的な施文法と指摘されている［前山1991・2009］。

集中Ⅲ（11～16）　A群Ⅰ類（11・12）、Ⅳ類（13・14）がある。11は接合しなかったが同一個体と判断した。口縁部は逆J字状の突起を有し、この突起が蓮華文の正位と逆位の転換点となる。正位と逆位が1個体に共存している例である。口縁部無文帯を有し、頸部との区画文は半隆起線が多条化している。U字状の突起が付されるが、三角形の陰刻は認められない。胴部はRL縄文を地文として半隆起線で幾何学的な文様が描かれ、B字状文（11g）も認められる。12aは10同様三角形の陰刻が上下両端から施される。12b･cの上部は頸部区画文であろう。直下には三角形の陰刻が配され､蓮華文的な効果を出している。その下位には曲線的な半隆起線文が描かれる。12dは格子目文に玉抱き三叉文が施される。文様構成が異なるため別個体の可能性もあるが、口縁部蓮華文の地文が格子目文であること、胎土・出土位置が同じであることから同一個体と判断した。13・14はⅣ類（区画あり、縄文）で、器形も類似している。いずれ

も縄文が施された突起を有する。15 は縦方向に爪形文を配している。縦方向の爪形文は本遺跡ではこの 1 点のみである。

集中Ⅳ（17 ～ 21） A 群Ⅰ類（17･20）、Ⅱ類（18）、Ⅲ類（19）がある。17a は刻印蓮華文のように見えるが、ヘラ描きの縦位沈線が施された後、沈線下端が三角形状に抉り取られている。厳密には蓮華文と言えないが、「蓮華文風」と解釈してⅠ類に含めた。17b は同一個体と判断したが、文様構成が異なる。外面と口縁部上端とに三叉文が施される。器壁は厚い。20a の口縁部はやや不明瞭だが、縦位沈線を境として図面左側が縄文、右側が格子目文を地文とした逆位蓮華文である。残存率が低く配置は不明瞭である。頸部には明瞭な段を有する。多条化した半隆起線の一条には、三角形陰刻が交互に配される。口径 40 ～ 50cm と推定される大型品で、器壁が厚い。18 の「し」字状突起は内部に文様が充填されない。19 は小型ということもあろうが、横位無文帯の幅が非常に狭い。21 は半隆起線で渦巻文・B 字状文などが描かれ、区画内に格子目文と RL 縄文の 2 種類が施される。渦巻文の中に文様が見られる例は珍しい。なお、21 と 17 は同一個体の可能性がある。

集中Ⅴ（22） A 群Ⅰａｉ類である。22a・b・c は同一個体と判断したが、突起の形状がそれぞれに異なるため、どのような配置になるのか推測は難しい。22b・c は格子目文ではなく横位・斜位沈線を充填している。下半が残存していないため、胴部の分帯線があるかどうか不明である。

包含層（Ⅳ～Ⅵ層）（23 ～ 63） A 群Ⅰ類（23 ～ 28）、Ⅱ類（29 ～ 36）、Ⅲ類（37・38）、Ⅳ類（39 ～ 41）、Ⅴ類（42・43）、Ⅶ類（44 ～ 46）と B 群（55）、C 群（56）がある。

A 群 23 はⅠａ類（蓮華文＋縦半隆起線）だが、口縁下位区画には短い「し」字状文様がわずかな粘土紐貼り付けにより作り出されている。23 の蓮華文と下位の文様に施される沈線は非常に細かい。それに対して 26 は太く、また粗雑である。沈線内に筋状の痕跡が認められることから、植物質の原体を使用したと推測できる。24 の突起は斜位に貼り付けられる。楕円形と円形の 2 個が欠けたような形状であるが、逆 J 字状、あるいは「し」字状突起となる可能性もある。突起には爪形文が施されている。27 はⅠｂii 1 類である。口縁部は逆位蓮華文と U 字状文が複合される。U 字状文に接して弧線を配するが、左右対称になると予想される。新潟市豊原遺跡のⅥ群 3 類［前山 1991］に多く見られるモチーフである。

胴部の充填文様は、格子目文と LR 縄文の 2 種類が共存しており、21 と同じパターンである。なお、胴部と口縁部の縄文原体は同一と判断できる。施文方向も同じである。

29 ～ 36 はⅡ類であるが、縦位沈線の種類はバラエティーに富む。30 は不明瞭であるが、縄文を地文として、細線による縦位沈線が施される。短い「し」字状突起にも RL 縄文が施されるが、空白となる部分がある。31 は器壁が非常に薄い。器形はⅢ類（バケツ形）で、小型品と推測できる。32 ～ 34 は口縁部上端から縦位沈線が施される例である。32 は摩耗が著しくかすかに見える程度であるが、4 ～ 6mm 間隔で施文されている。頸部に無文帯を有し、沈線で渦巻文あるいは「し」の字が描かれると推測される。33 は口縁部直下から細沈線が非常に密に施される。縦位沈線の下位に、横位半隆起線とともに鈍角爪形文が配される。34 は地文を縄文とし、その後で縦位沈線や半隆起線が施される。沈線は 1 本描きで、間隔は広めである。縦位沈線間や半隆起線上でも縄文が認められる。36 の縦位沈線は刺突のように深く鋭い。37 はⅢｃ類、軌軸文が施されるもので、本遺跡では 1 点のみの出土である。口縁部下位に「し」字状文様が描かれ、内部が格子目文で充填されるが、粗雑な印象であることから、口縁部上位の軌軸文も、格子目文が粗雑に描かれたものかもしれない。下位区画に爪形文が入る。38 はⅢａiii類で、胴部に木目状撚糸文が施されるものはこの 1 点しか出土していない。撚糸文の原体は、3 条の「縄を軸背後に出るまで深

く挿入し、左右異方向に巻く」［前山 1988］ものである。突起には沈線と格子目文が施される。底部外面にはいわゆる「スダレ状圧痕」が残る。

39 ～ 41 はⅣ類である。39 は口縁部上端がナデによるつまみ上げで、薄く仕上げられる。外面全面にはススが付着している。40 は緩い波状口縁を有し、L 字状の半隆起線によって口縁部の区画文とする。端部には浅い沈線が施される。41 は器高 14.6cm の小型深鉢で、口縁部区画は 1 段である。口縁部には RL縄文を横位と縦位で、胴部には縦位で施文される。完全ではないが、同一器面における異方向施文となっている。

42・43 はⅤ類である。RL 縄文を地文として口縁部に横位沈線のみが施される。42 は縄文原体の条に高低差があったものか、縄文の現れかたが一定ではない。

Ⅶ類のうち 44 は口縁部にわずかに作出された段の上下で縄文の施文方向が変わっている。口縁部は LR 縄文を横位に、胴部は縦位に回転させる。45 は口縁部が折り返されているが調整が粗雑である。46 は口縁部に 1 条のみ浅い沈線をひく。

47 ～ 54・57 は A 群の頸部または胴部である。47 は円形の突起から斜位の突起が伸び、h 字状文になると推測できる。48 は横位半隆起線上に、爪形文がほぼ直角に施され、その上に円形突起が貼り付けされる。49 は口縁部無文帯に施された「の」字状突起であろう。縦位沈線が施され、さらに上端は三角形状に抉り取られる。51 は頸部の区画文である。上下端から三角形の陰刻が施され、下位には半隆起線で曲線的な文様が描かれる。52 は胴部 ii 類で、図面左上には三角形の陰刻が見える。53 の撚糸文原体は非常に条の幅が広い。38 では幅が 2mm であるのに対して、1.5 倍の 3mm もある。54 は胴部 i 類で、底部まで文様が施されると判断できる。胎土は砂っぽく、やや異質である。57 は口縁部無文帯を持ち、多条の半隆起線が施される。また逆 U 字状文が施されるが、この部分は頸部と胴部の境界と推測できる。

B 群　55 は横位の隆帯が貼り付けされ、隆帯上に絡条体圧痕が鋸歯状に施される。円筒上層式の影響を受けたものと考える。

C 群　56a は垂下沈線に交互刺突が施され、垂下沈線の左右には B 字状の沈線が左右対称的に描かれる。56b は、56a とは異なり曲線的な沈線のほうに刺突がなされる。モチーフは阿賀町大坂上道遺跡に類例が求められる。大坂上道遺跡では関東北東部または東北南部系とされている［斎藤 2008］。ただし、大坂上道遺跡の土器は深鉢で、胴部上半にこのモチーフが描かれるが、本遺跡例はミニチュアで、底部近くまで描かれているという違いがある。

58 ～ 63 は底部を一括した。58・59・61 は A 群に特徴的な、底部の立ち上がりが内傾するもので、底面近くまで文様が施される。58 は縦位沈線の間に縄文が充填される。底面の圧痕は「スダレ状圧痕」の可能性があるが不明瞭である。59 は撚糸文、61 は RL 縄文のみ認められる。

上・下面から出土した中期土器

中期前葉の土器

遺構（64 ～ 75）　A 群（64 ～ 74）、B 群（図版 173-246・191-708、C 群（75））がある。

A 群　64 はⅠ d ii 類である。口縁部無文帯の上下端に三角形の陰刻が施されるが、本遺跡ではこの一例のみである。突起は「し」字状突起が省略されたようなもの、もしくは L 字状の半隆起線を突起に仕立て上げられた可能性がある。胴部には半隆起線の幾何学文的な区画が施され、格子目文が充填される。

64b では縦位の沈線も認められるが、深く鋭い。65 はⅣ a 類である。口縁部は粒の大きい RL 縄文が施される。66 もⅣ類で、口縁部上位に LR 縄文が施されるが不明瞭である。下位には鈍角爪形文が認められる。67 は口縁部を貼り付けにより肥厚させる。口縁部が 1 段構成で胴部には半隆起線や沈線を描くパターンのものは、この個体のみである。胴部は縦位沈線が施される。68 はⅢ c ⅱ類、口径 9.8cm と小型である。口縁部は格子目文が施されるが、横の沈線が細く、縦のラインが強調されている。口縁部無文帯を有し、64 同様、胴部には半隆起線区画と格子目文が施文される。B 字状文もわずかに見られる。胎土 E 類である。

69 はⅤ類とした。器面の摩耗が著しいため不詳だが、口縁端面が残存している可能性もある。縦長の棒状突起が貼り付けされ、その上に押圧したような痕跡が残る。その後、突起からみてほぼ左右対称となるように半隆起線が施される。70 は口縁部上位にも半隆起線区画が認められるが、このような特徴を有するのは本例のみである。Ⅱ b 類とした。推定口径 55cm 以上の非常に大きな深鉢である。口縁部突起にも縦位沈線が施され、内面には 2 本 1 組の沈線で渦巻状文が描かれる。渦巻きの中央には円形の工具が刺突される。また突起とは若干ずれた位置に U 字状文も見られる。71 の木目状撚糸文は、38 と同じパターンである。72 はⅥ類で、本遺跡では 1 点のみの出土である。地文に撚糸文が施された後、口縁上部のみナデ消す。それによって無文となった部分と地文の境に細い半隆起線が施され、区画文となる。また、垂下半隆起線により 4 単位に区画されると推測できる。横位と縦位区画文の交わる部分には円形の突起が付される。器形や胎土は北陸系と同じであるが、そのモチーフ（細隆起線で縦横に区切り、その交点に突起が貼り付けられる）は五領ヶ台Ⅱ式に類似していると考えることもできよう。

73 は胴部片で、半隆起線区画内には細く浅い沈線が充填される。内面はケズリ調整で、下位は縦方向、上位は横方向となっている。74 は胴部 i 類で、断面半円状の浅い沈線で文様が描かれている。外面にはススが付着し、内面下位にコゲが残る。また内面には粘土紐接合痕がわずかに残る。

B 群　図版 173-246 は大木 7b 式で確認される、口縁部が肥厚して突起を形成する浅鉢である。撚糸圧痕（1 段左撚り L）で文様が描かれるが、突起上面のみ隆起線による渦巻文が施される。小片のため全形は不明だが、新発田市石田遺跡から出土した個体（[斎田 2000] 第 1 図 2）に近似すると考える。図版 191-708 は細い粘土紐貼り付けによる鋸歯文を有する。大木 6b ～ 7a 式に比定される可能性が高い。

C 群　75 は 55 同様、無文地に幅 1.2cm ほどの隆帯が縦横に貼り付けされ、その上に絡条体圧痕が鋸歯状に巡るものである。円筒上層式の影響を受けた可能性が高い。

包含層（Ⅲ層・Ⅲ b 層）（76・77）　いずれも胴部ⅱ類である。76 は表面の剥落が進んでいるが、B 字状の文様部分が残存している。半隆起線の間には RL 縄文が施される。77 は確認調査で出土したものである。残存部分では X 字状の隆帯に見えるが、楕円形区画などの可能性もあり形態は不明である。隆帯の中には軌軸文が描かれる。

中期中葉～後葉の土器（78 ～ 81）

78 はⅤ層、79・80 はⅢ b 層、81 は P1853 から出土した。78 ～ 80 は中期中葉、81 のみ中期後葉と考える。78 は王冠型土器と考えられる。破片資料のため推測の域を出ないが、口縁部端面がわずかに残存していることから、突起部分と考える。79 は、隆帯が浅い沈線のようになるほど器面の摩耗が著しい。渦巻文と縦位の隆帯が施される。80 は王冠型土器の短冊形把手部分である。隆帯上に一部刻みが認められる。口縁部上端が欠損しているため形態は不明瞭だが、抉りの入らない形態である可能性が高い。81 は隆帯と沈線が組み合わされている。隆帯の内部は無文となっている。以上 4 点はいずれも在地の土器と判断できる。

B　石器・石製品（図版 237-82 ～ 96）

本遺跡の最下面から出土した石器・石製品は 29 点である。伴出する土器から縄文時代中期前葉を主体として、中期中葉のものが若干伴うものと推定する。石器･石製品の記述に当たり、資料の提示方法は上･下面に準じる。

出土点数が少なく、石鏃・石匙などの定形石器で出土していないものも多い（第 46 表）。出土区分では遺構内出土が 5 点と少ない。特に集中した地点は確認できないが、グリッド 5D で若干多い傾向にある。以下では出土数が少ないので、図・表等は省略した。

器種名	出土数	掲載数	図化率	縮尺率	出土区分 1	
					遺構内	遺構外
両極石器	3	2	100.0	1/2	1	2
不定形石器	4	4	100.0	1/2	1	3
剥片類	8	0	0.0			8
磨製石斧	2	2	100.0	1/3	2	
打製石斧	1	1	100.0	1/3		1
磨石類	3	3	100.0	1/4		3
砥石	3	1	33.3	1/5		3
分類不可	5	2	80.0	1/3	1	4
合計	29	15	51.7		5	24

第 46 表　石器・石製品の出土数と図化率・縮尺率

両極剥離痕をもつ石器（82・83）

3 点出土しており、A 類が 2 点、B 類が 1 点である。A 類の 82 は側縁に両極剥離痕が残る。B 類の 83 は四角形に近く、裏面には自然面を残す。いずれも頁岩Ⅶａ類である。

不定形石器（84 ～ 87）

4 点出土しており、すべて図化した。細別では E 類（84）、F 類（85・86）、H 類（87）に分かれる。正裏面の一方に自然面を残すものが多い（84・85・87）。また、85 の正面には凹痕が残るなど、やや特異な様相を呈する。石材は流紋岩（84・86）と、頁岩Ⅶａ類（85・87）に分かれる。

磨製石斧（88・89）**・打製石斧**（90）

磨製石斧は完成品 1 点（89）、未成品 1 点（88）が出土しており、いずれも図化した。完成品の 89 は略完形品で、定角式を呈する。長さ 13.0cm であり、大型品の範疇に属する。刃部には敲打痕が確認できるころから、再生品の可能性もある。未成品 88 は正裏面に自然面を残す。敲打段階のもので、剥離痕は少ない。基部側を欠くが、幅・厚さから大型品と考える。石材は輝緑岩である。

打製石斧 1 点のみ出土である（90）完形品で、形態は短冊形に近い。長さ 10.7cm、幅 6.3cm であり、大型品に属する。正面には自然面を残す。石材は泥岩である。

磨石類（91 ～ 93）**・砥石**（94）

磨石類は 3 点出土しており、すべて図化した。細別では B3 Ⅱ類（91）・E Ⅱ類（92）・F Ⅱａ類（93）に分かれる。91・93 は完形品、92 は半損品である。形態は楕円形のもの（91）と、細長いもの（92・93）に分かれる。石材はいずれも異なり、花崗岩（91）・凝灰岩（92）・輝緑岩（93）である。

砥石は 3 点出土しているが、このうち 2 点が接合しており実質は 2 個体である。接合品のみ図化した。94 は隣接する小グリッドから出土品が接合したものである。平坦な砥面と、筋状の砥面が共存する C 類である。欠損しているが、現存値で長さ 26.1cm、幅 13.5cm、石材は砂岩である。

分類不可（95・96）

A 類（大型剥離）が 3 点、B 類（微細剥離）が 2 点出土している。このうち A 類の 2 点のみ図化した。95 は右側縁にのみ剥離が施されている。剥離痕にツブレが確認できないことから分類不可とした。長さ 13.3cm と大きく、石材は輝緑岩である。96 は正裏両面に剥離が認められる。石材が泥岩であることから、打製石斧の刃部付近の欠損である可能性もあろう。

第Ⅵ章　自然科学分析

1　放射性炭素年代

株式会社　加速器分析研究所

A　測定対象試料

長割遺跡は、新潟県村上市大字下相川字長割に所在する。測定対象試料は、P484 内の土器（図版 168-129）の外面付着炭化物（1：IAAA-81752）、P484 埋土 5 層（図版 37）の土壌化した木片（2：IAAA-81753）、P8839 内の土器（図版 210-1129）の外面付着炭化物（3：IAAA-81754）、SK3946 埋土 2・3 層（図版 139）出土の炭化材（4：IAAA-81755）と木片（5：IAAA-81756）、合計 5 点である。試料 1・3 は未洗浄の状態であったため、炭化物を洗い落とさない程度に洗浄してから、付着炭化物を採取した。1 では付着炭化物が少なく、土器表面の窪みに部分的に少量が残存するのみであった。3 では内面から口縁部を中心に炭化物が集中する。2 は木片が腐食したものであり、軟質であることから土壌として処理した。

図版 168-129
採取位置（1：IAAA-81752）

図版 210-1129
（3：IAAA-81754）
採取位置は胴部下半

図版 210-1129
採取位置（3：IAAA-81754）

第 145 図　測定試料の採取位置

B　測定の意義

土器や遺構の実年代を検討する。出土遺物は縄文時代後期前葉が主体である。

C　化学処理工程

①メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。

②炭化物や木片では、酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA：Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。土壌では、酸処理（HCl）によって不純物の除去を行う。AAA 処理では、最初の酸処理で 1N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 1N の水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。なお、AAA 処理において、アル

カリ濃度が 1N 未満の場合、表中に AaA と記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。

③試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で 30 分、850℃で 2 時間加熱する。

④液体窒素とエタノール･ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO_2）を精製する。

⑤精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。

⑥グラファイトを内径 1mm のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

D　測 定 方 法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

E　算 出 方 法

①年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polash 1977）。

② ^{14}C 年代（Libby Age : yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。この値は、δ ^{13}C によって補正された値である。^{14}C 年代と誤差は、1 桁目を四捨五入して 10 年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（± 1 σ）は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2％であることを意味する。

③ ^{13}C は、試料炭素の ^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰）で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により ^{13}C/^{12}C を測定した場合には表中に（AMS）と注記する。

④ pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。

⑤暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1 σ＝ 68.2％）あるいは 2 標準偏差（2 σ＝ 95.4％）で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04 データベース（Reimer et al 2004）を用い、OxCalv4.0 較正プログラム（Bronk Ramsey 1995　Bronk Ramsey 2001　Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001）を使用した。

F　測 定 結 果

^{14}C 年代は、P484 内の土器の付着炭化物が 3770 ± 30yrBP、P484 埋土 5 層出土の土壌化した木片が 27810 ± 140yrBP、P8839 内の土器の付着炭化物が 4020 ± 30yrBP、SK3946 埋土 2・3 層出土の炭化材と木片が 3750 ± 30yrBP、3700 ± 30yrBP である。

試料の炭素含有率は、1 が低く 11.3％、その他はすべて 60％以上であった。1 は土器表面に付着した微量な炭化物であり、土壌が混入した可能性がある。2 は腐食した軟質なものであったが、木材本来の炭

素含有率を留めたものであった。土壌の炭素含有率は、通常、粘土が１%前後、腐植土が数%ほどである。土器付着炭化物では、δ ^{13}C が -25‰未満であり、陸生に由来する炭化物と言える。

暦年較正年代（1 σ）から判断すれば、１・４・５は縄文時代後期前葉に相当し、予想年代にも整合する。一方、２は遺構に帰属する年代とはかけ離れており、基層に含まれる木片に由来するものであった可能性が高い。３は縄文時代中期末から後期初頭の年代である。

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ^{13}C （‰）（AMS）	δ ^{13}C 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC （%）
IAAA-81752	1	遺構：P484 層位：1	炭化物	AaA	-25.30 ± 0.54	3,770 ± 30	62.56 ± 0.25
IAAA-81753	2	遺構：P484 層位：5	土壌	HCl	-20.87 ± 0.51	27,810 ± 140	3.14 ± 0.06
IAAA-81754	3	遺構：P8839 層位：1	炭化物	AaA	-27.77 ± 0.99	4,020 ± 30	60.65 ± 0.25
IAAA-81755	4	遺構：SK3946 層位：2・3	炭化材	AAA	-26.90 ± 0.92	3,750 ± 40	62.71 ± 0.27
IAAA-81756	5	遺構：SK3946 層位：2・3	木片	AAA	-24.25 ± 0.43	3,700 ± 30	63.09 ± 0.24

第 47 表　放射性炭素年代測定試料一覧

測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用（yrBP）	1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲［#2521］
	Age （yrBP）	pMC （%）			
IAAA -81752	3,770 ± 30	62.52 ± 0.24	3,767 ± 31	2275BC - 2255BC （11.7%） 2227BC - 2225BC （ 1.2%） 2209BC - 2138BC （55.3%）	2289BC - 2129BC （86.9%） 2088BC - 2048BC （ 8.5%）
IAAA -81753	27,750 ± 140	3.16 ± 0.06	27,814 ± 143	26010BC - 25723BC （68.2%）*	26157BC - 25584BC （95.4%）*
IAAA -81754	4,060 ± 30	60.31 ± 0.21	4,016 ± 32	2572BC - 2512BC （53.1%） 2505BC - 2488BC （15.1%）	2620BC - 2469BC （95.4%）
IAAA -81755	3,780 ± 30	62.46 ± 0.24	3,749 ± 34	2205BC - 2131BC （52.4%） 2086BC - 2051BC （15.8%）	2284BC - 2248BC （ 9.2%） 2233BC - 2111BC （62.6%） 2103BC - 2036BC （23.6%）
IAAA -81756	3,690 ± 30	63.18 ± 0.23	3,700 ± 30	2137BC - 2113BC （18.1%） 2102BC - 2036BC （50.1%）	2198BC - 2166BC （ 8.8%） 2151BC - 2018BC （84.3%） 1995BC - 1981BC （ 2.3%）

*Warning! Date out of range ［参考値］

第 48 表　放射性炭素年代測定結果

参考文献

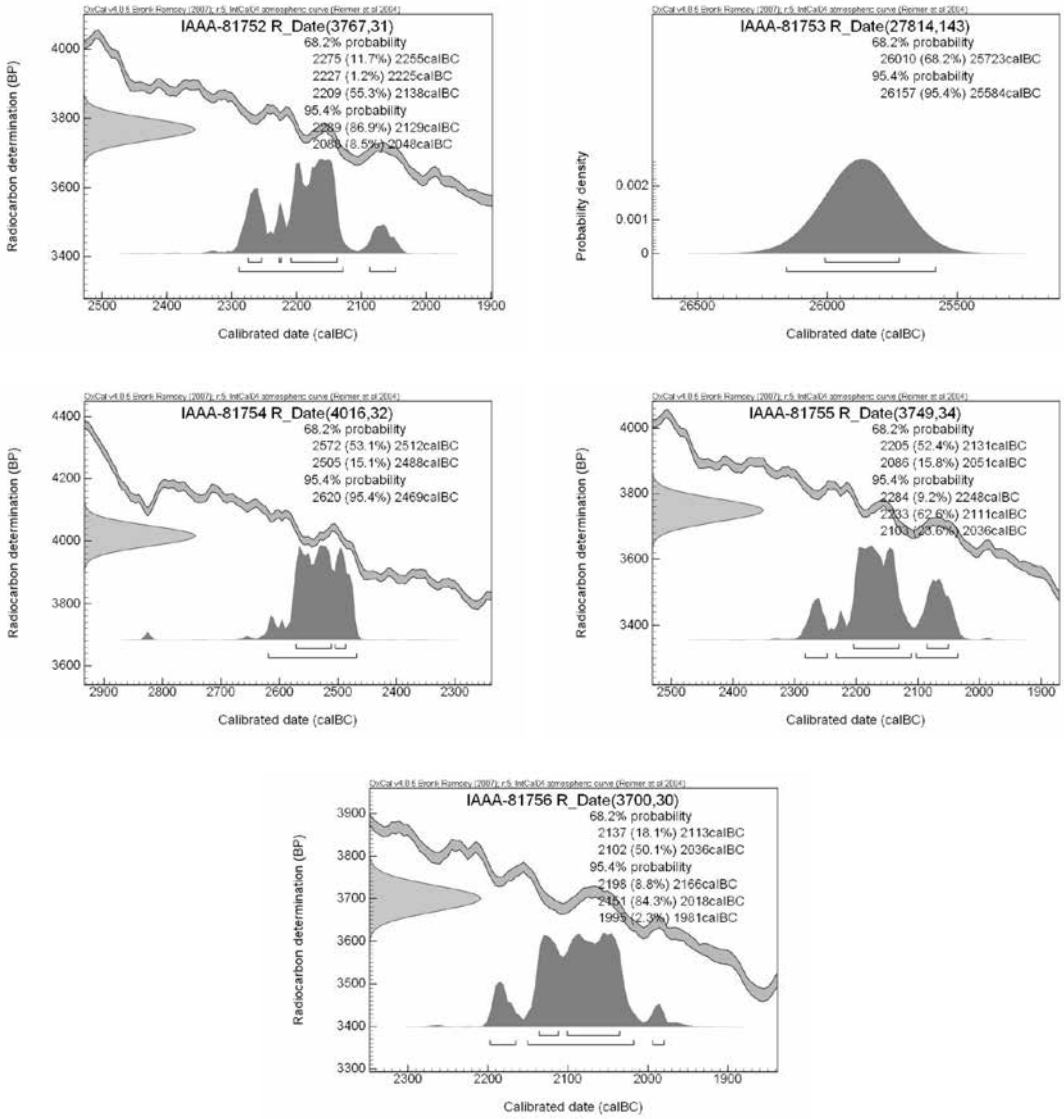
Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19, 355-363

Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37（2）, 425-430

Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43（2A）, 355-363

Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43（2A）, 381-389

Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058



第 146 図　放射性炭素年代測定の暦年較正年代グラフ

2　珪藻化石分析

株式会社　古環境研究所

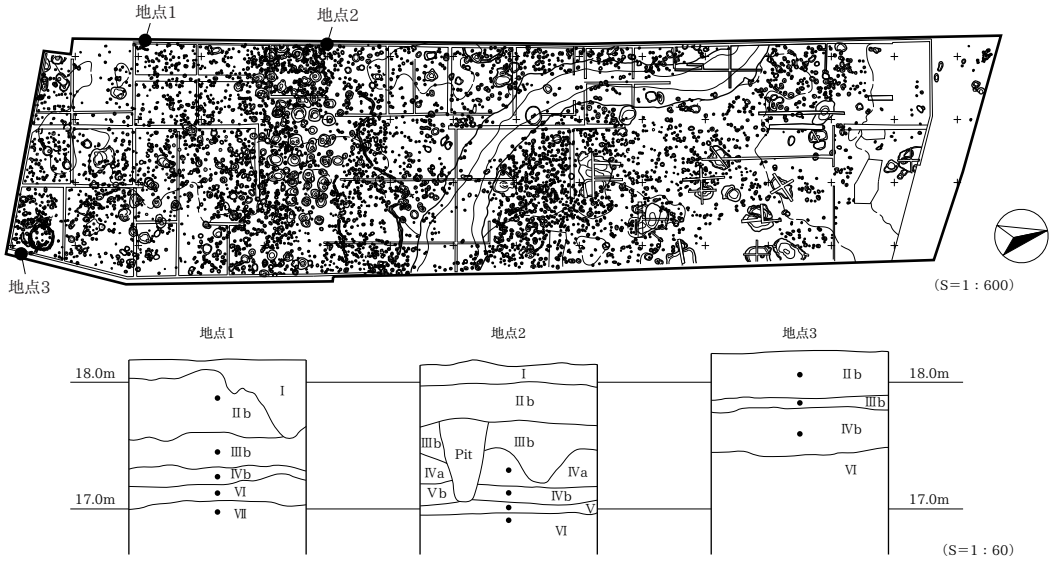
A　はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境復元の指標として利用されている。

ここでは、縄文時代中期～後期前葉における長割遺跡一帯の堆積環境を検討することを目的として珪藻分析を行った。

B　試　　料

分析試料は、縄文時代後期前葉を主体とする集落遺跡の地点１から採取されたⅡｂ層（淡黄色粘質土、試料１）、Ⅲｂ層（灰褐色土、試料２）、Ⅳｂ層（黄色シルト、試料３）、Ⅵ層（灰白色シルト、試料４）、Ⅶ層（浅黄橙色砂質土、試料５）の５点、地点２から採取されたⅣａ層（褐灰色砂利、試料６）、Ⅳｂ層（黄色シルト質土、試料７）、Ⅴ層（紫灰色粘質土、試料８）、Ⅵ層（灰白色シルト、試料９）の４点、地点３から採取されたⅡｂ層（淡黄色粘質土、試料10）、Ⅲｂ層（灰褐色土、試料11）、Ⅳｂ層（浅黄色シルト質土、試料12）の３点の計12点である。地点１の試料採取位置を分析結果の模式柱状図（第147図）に示す。



第147図　試料採取位置

C　方　　法

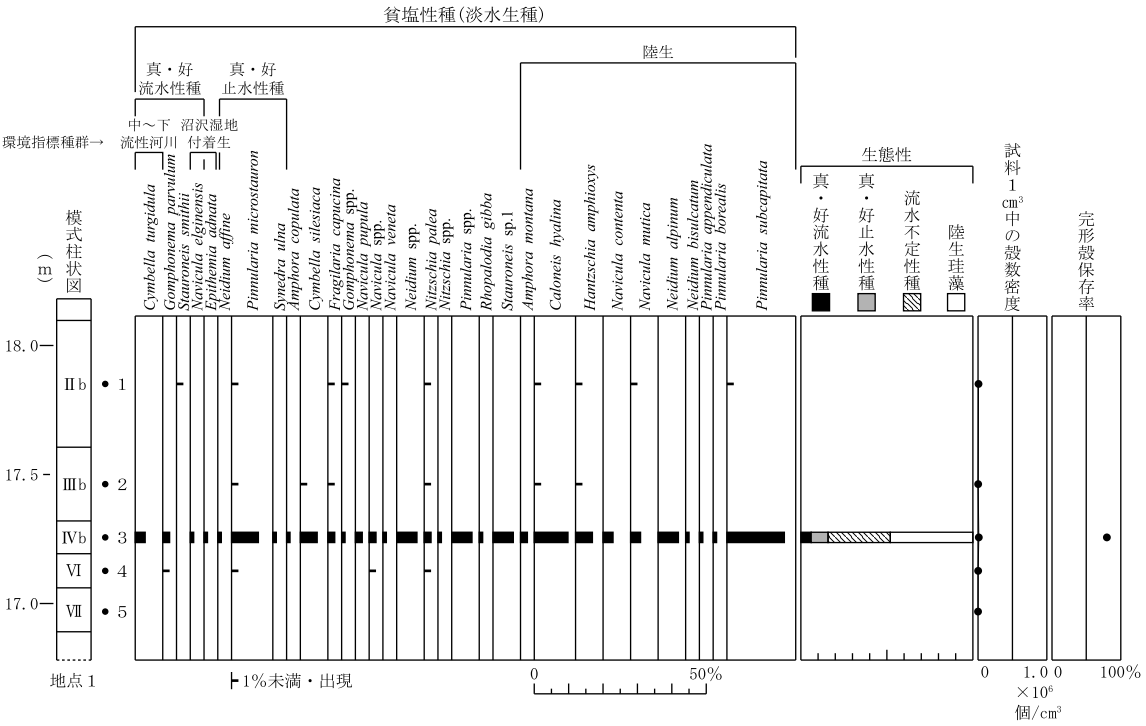
以下の手順で、珪藻の抽出と同定を行った。

①　試料から1cm^{3}を採量

②　10％過酸化水素水を加え、加温反応させながら一晩放置

分類群	地点1					地点2				地点3		
	Ⅱb層 ①	Ⅲb層 ②	Ⅳb層 ③	Ⅵ層 ④	Ⅶ層 ⑤	Ⅳa層 ⑥	Ⅳb層 ⑦	Ⅴ層 ⑧	Ⅵ層 ⑨	Ⅱb層 ⑩	Ⅲb層 ⑪	Ⅳb層 ⑫
貧塩性種（淡水生種）												
Amphora copulata			1									
Amphora montana			2				1					
Caloneis hyalina	2	1	10				1					
Cymbella silesiaca		1	5									
Cymbella sinuata												1
Cymbella turgidula			3									
Epithemia adnata			1									
Eunotia minor												1
Fragilaria capucina	1	2	2									
Gomphonema parvulum			2	1								
Gomphonema spp.	1		1									
Hantzschia amphioxys	7	1	5									
Navicula contenta			3								1	
Navicula elginensis			1									
Navicula mutica	5		3									
Navicula pupula			2									
Navicula spp.			2	1								
Navicula veneta			1									
Neidium affine			1									
Neidium alpinum			6									
Neidium bisulcatum			1									
Neidium spp.			6									
Nitzschia palea	2	1	2	1								
Nitzschia spp.			1									
Pinnularia appendiculata			1									1
Pinnularia borealis			1							1		
Pinnularia microstauron	1	1	8	1			2	1				
Pinnularia spp.			6				1					
Pinnularia subcapitata	3		17									
Rhopalodia gibba			1									
Stauroneis smithii	1											
Stauroneis sp.1			6									
Synedra ulna			1									
合　計	23	7	102	4	0	0	5	1	0	1	1	3
未同定	2	2	6	0	0	0	3	1	0	0	0	0
破片	18	4	27	1	0	0	3	0	0	0	0	0
試料 1cm³ 中の殻数密度	6.8 × 10³	1.8 × 10³	1.1 × 10⁴	1.6 × 10³	0.0	0.0	2.8 × 10³	8.0 × 10²	0.0	4.0 × 10²	4.0 × 10²	1.2 × 10³
完形殻保存率（%）	-	-	80.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第 49 表　珪藻分析結果



第 148 図　珪藻ダイアグラム

③　上澄みを捨て、細粒のコロイドと薬品を水洗（5 ～ 6 回）

④　残渣をマイクロピペットでカバーグラスに滴下して乾燥

⑤　マウントメディアによって封入し、プレパラート作成

⑥　検鏡、計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 600 ～ 1500 倍で行った。計数は珪藻被殻が 100 個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

D 結　　果

1） 分　類　群

試料から出現した珪藻は、貧塩性種（淡水生種）33 分類群である。第 49 表に分析結果を示し、珪藻総数を基数とする百分率を算定した珪藻ダイアグラムを第 148 図に示す。珪藻ダイアグラムにおける珪藻の生態性は［Lowe1974］や［渡辺 2005］等の記載による。陸生珪藻は［小杉 1986］により、環境指標種群の淡水生種は［安藤 1990］による。また、主要な分類群については顕微鏡写真を示した。以下にダイアグラムで表記した分類群を記載する。

〔貧塩性種〕

Amphora copulata、*Amphora montana*、*Caloneis hyalina*、*Cymbella silesiaca*、*Cymbella turgidula*、*Epithemia adnata*、*Fragilaria capucina*、*Gomphonema parvulum*、*Gomphonema* spp.、*Hantzschia amphioxys*、*Navicula contenta*、*Navicula elginensis*、*Navicula mutica*、*Navicula pupula*、*Navicula* spp.、*Navicula veneta*、*Neidium affine*、*Neidium alpinum*、*Neidium bisulcatum*、*Neidium* spp.、*Nitzschia palea*、*Nitzschia* spp.、*Pinnularia appendiculata*、*Pinnularia borealis*、*Pinnularia microstauron*、*Pinnularia* spp.、*Pinnularia subcapitata*、*Rhopalodia gibba*、*Stauroneis smithii*、*Stauroneis* sp.1、*Synedra ulna*

2）珪藻群集の特徴

①地点 1

下位より珪藻構成と珪藻組成の変化の特徴を記載する。

・Ⅶ層（試料 5）、Ⅵ層（試料 4）では珪藻密度が極めて低く、ほとんど検出されない。

・Ⅳｂ層（試料 3）では珪藻密度は低いが、その中において陸生珪藻が約 50％、流水不定性種が約 35％を占め、真・好止水性種、真・好流水性種と続く。陸生珪藻では *Pinnularia subcapitata* を主に、*Caloneis hyalina*、*Neidium alpinum*、*Hantzschia amphioxys*、*Navicula contenta*、*Navicula mutica* などが出現する。流水不定性種では *Neidium* spp.、*Pinnularia* spp.、*Stauroneis* sp.1、*Cymbella silesiaca* などが出現する。真・好止水性種では Pinnularia microstauron、真・好流水性種では中～下流性河川環境指標種群の *Cymbella turgidula* などが出現する。

・Ⅲｂ層（試料 2）、Ⅱｂ層（試料 1）では珪藻密度が極めて低くなり、ほとんど検出されない。

②地点 2

いずれの試料においても珪藻密度が極めて低く、ほとんど検出されない。

③地点 3

いずれの試料においても珪藻密度が極めて低く、ほとんど検出されない。

E　珪藻分析から推定される堆積環境

1）地　点　1

下位より珪藻構成と珪藻組成の変化から環境の復元を行う。

①Ⅶ層（試料 5）、**Ⅵ層**（試料 4）

珪藻密度が極めて低く、珪藻の生育できない乾燥や不安定な環境および堆積速度の速い環境が推定される。検出される珪藻種は水生珪藻ばかりであることから、近隣に河川や沼沢などが分布しており、それらからの影響と考えられる。

②Ⅳｂ層（試料 3）

Pinnularia subcapitata などの陸生珪藻、*Neidium* spp.、*Pinnularia* spp.、*Stauroneis* sp.1 などの流水不定性種など多様な珪藻が出現し、湿った程度の環境から不安定な湿地の環境が示唆される。

③Ⅲｂ層（試料 2）、**Ⅱｂ層**（試料 1）

珪藻密度が極めて低く、珪藻の生育できない乾燥や不安定な環境および堆積速度の速い環境が推定される。水生珪藻と陸生珪藻が検出されることから、近隣に河川や沼沢湿地などが分布しており、そこからの影響と考えられる。

2）地　点　2

Ⅵ層（試料 9）、Ⅴ層（試料 8）、Ⅳｂ層（試料 7）、Ⅳａ層（試料 6）の各層準においては、珪藻がほとん検出されず、珪藻の生育しにくい乾燥した環境が推定される。

3）地　点　3

Ⅳｂ層（試料 12）、Ⅲｂ層（試料 11）、Ⅱｂ層（試料 10）の各層準からは珪藻がほとんど検出されず、珪藻の生育しにくい乾燥した環境が推定される。

F　ま　と　め

長割遺跡の縄文時代後期前葉を主体とする層準について珪藻分析を行った。その結果、地点 1 のⅣｂ層の層準は、湿った程度の環境から不安定な湿地の環境が示唆された。地点 1 のⅦ層・Ⅵ層・Ⅲｂ層・Ⅱｂ層、地点 2 のⅥ層・Ⅴ層・Ⅳｂ層・Ⅳａ層、地点 3 のⅣｂ層・Ⅲｂ層・Ⅱｂ層は、珪藻の生育できない乾燥や不安定な環境および堆積速度の速い環境が推定され、調査地が比較的乾燥していたことが示唆された。

参考文献

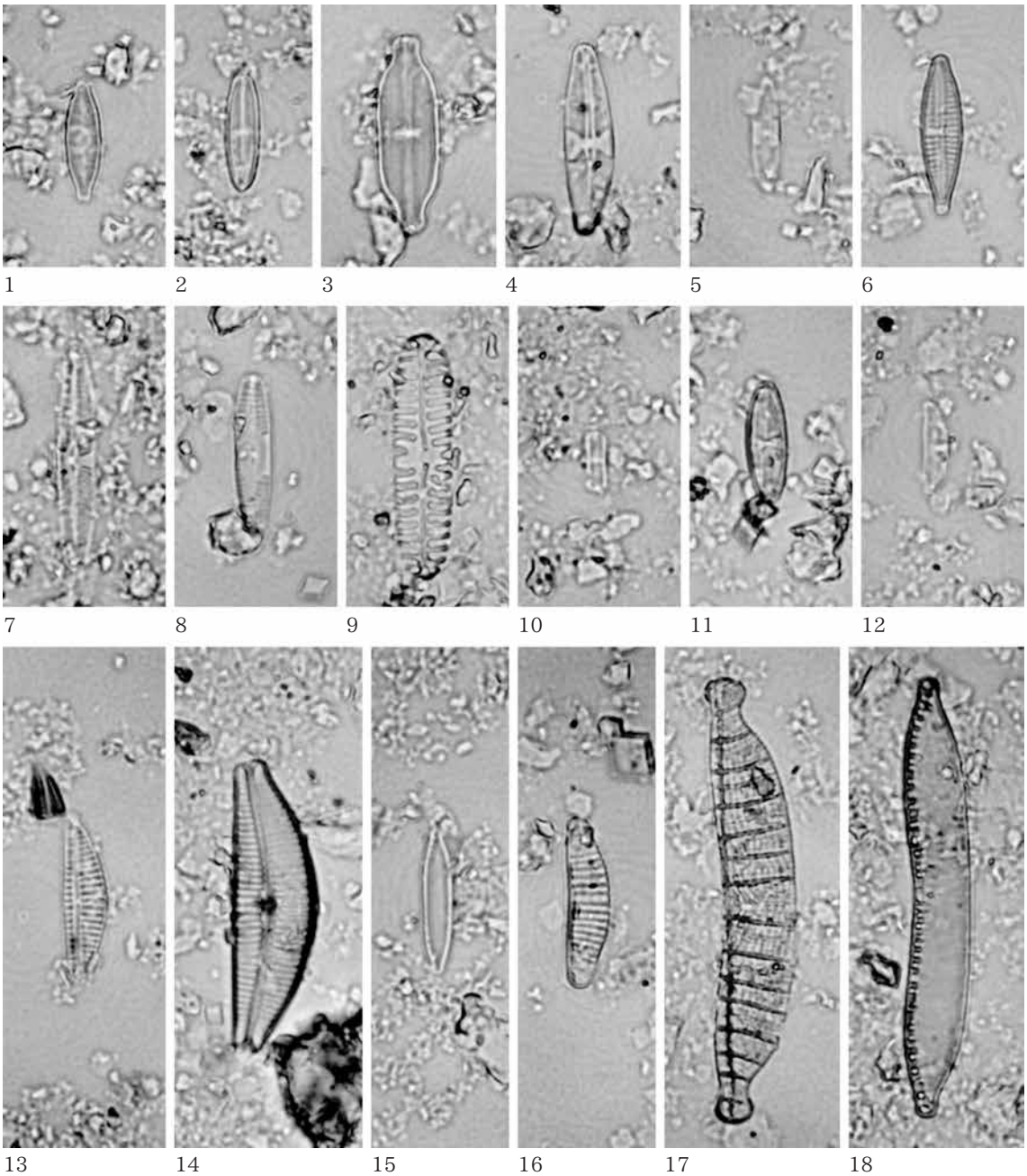
Hustedt,F.（1937-1938）Systematische und ologishe Untersuchungen uber die DiatomeenFlora von Java,Bali und　Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch.Hydrobiol,Suppl.15,pp.131-506.

Lowe,R.L.（1974）Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh － water diatoms. p.333, National Environmental Reserch.Center.

K. Krammer・H.Lange-Bertalot（1986-1991） Bacillariophyceae・1-4.

Asai,K.&,Watanabe,T.（1995）Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relaiting to Organic Water Pollution（2） Saprophilous and saproxenous taxa.

Diatom,10,pp.35-47.
安藤一男　1990　「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『東北地理』42　pp.73-88
伊藤良永・堀内誠示　1991　「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『珪藻学会誌』6　pp.23-45
小杉正人　1986　「陸生珪藻による古環境解析とその意義－わが国への導入とその展望－」『植生史研究』第 1 号　植生史研究会　pp.29-44
小杉正人　1988　「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『第四紀研究』27　pp.1-20
渡辺仁治　2005　『淡水珪藻生態図鑑　群集解析に基づく汚濁指数 DAIpo, pH 耐性能』内田老鶴圃　p.666
藤田　剛　1984　『日本化石集第 27 集－南関東の第四紀化石 5（沖積世の珪藻化石 2）－』



1. *Fragilaria capucina*　2. *Neidium alpinum*　3. *Neidium affine*　4. *Stauroneis* sp.1　5. *Caloneis hyalina*
6. *Gomphonema parvulum*　7. *Pinnularia microstauron*　8. *Pinnularia subcapitata*　9. *Pinnularia borealis*
10 *Navicula contenta*　11 *Navicula mutica*　12 *Amphora montana*　13 *Cymbella silesiaca*　14 *Cymbella turgidula*
15 *Nitzschia palea*　16 *Eunotia minor*　17 *Epithemia adnata*　18 *Hantzschia amphioxys*

第 149 図　長割遺跡の珪藻

3　焼獣骨と焼人骨

山崎　健（奈良文化財研究所）・納屋内高史（京都大学大学院）

A　はじめに

新潟県長割遺跡では、（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、事業団）が実施した平成 19・20 年度の発掘調査において、縄文時代後期前葉主体（三十稲場式新段階・南三十稲場式古段階～最新段階）の遺構や遺物包含層から白色の微細な焼骨片が多量に確認された。

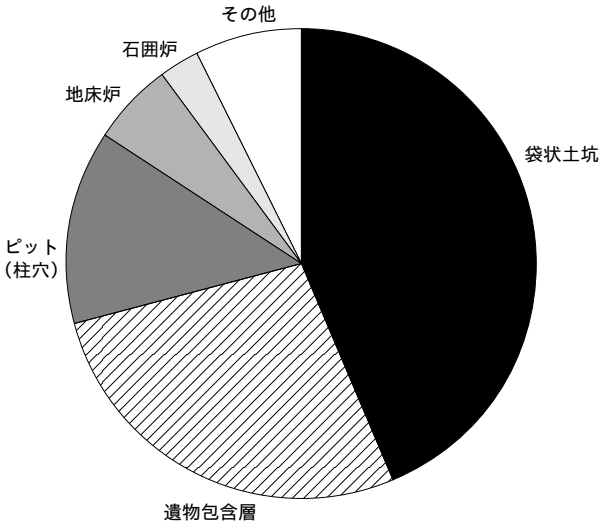
日本海側における動物遺存体や古人骨の出土事例は非常に少ない。日本列島は火山灰性の酸性土壌と高温多雨の気候により、基本的に骨の保存条件に恵まれていない。ただし貝塚が形成されると、貝殻に含まれるカルシウムの影響で、酸性土壌が中和されて弱アルカリ性の土壌になるため、骨が保存されやすくなる。そのため、一般的に動物遺存体や古人骨などは貝塚出土資料が中心となっているが、潮の干満差や水深などの海岸環境の違いによって、太平洋側と日本海側では貝塚の分布密度に大きな違いが認められる。太平洋側の内湾沿岸では貝塚の分布密度が高いが、日本海側の沿岸では貝塚の分布密度が低い。

長割遺跡から出土した動物遺存体や古人骨は、骨が焼けて無機化したために残りやすくなったものと考えられ、貝塚が形成されにくい日本海側において非常に重要な資料である。本稿では、これらの骨片の分析結果を報告し、長割遺跡における生業や葬制、儀礼などを議論するための一助としたい。

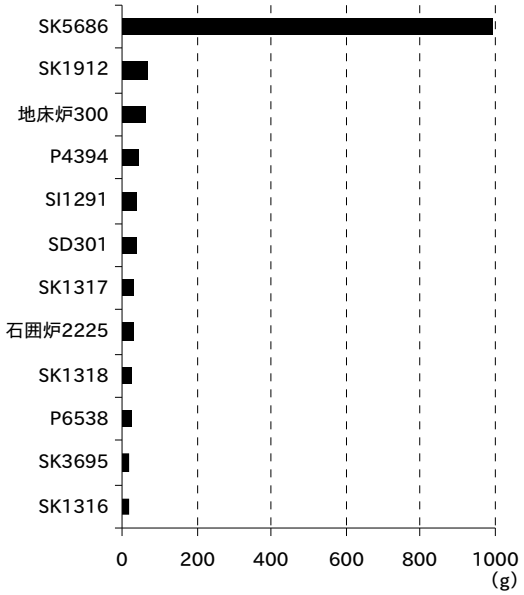
B　分析方法

1）土壌選別

発掘調査の段階で、遺物包含層や遺構埋土に白色の微細な骨片が含まれていることが確認された。これらの骨片類を回収するために、遺構ごとに土壌を採取して、フルイによる選別作業を実施した。この土壌選別作業は、事業団と奈良文化財研究所の環境考古学研究室で行われた。事業団では 5mm 目と 1mm 目



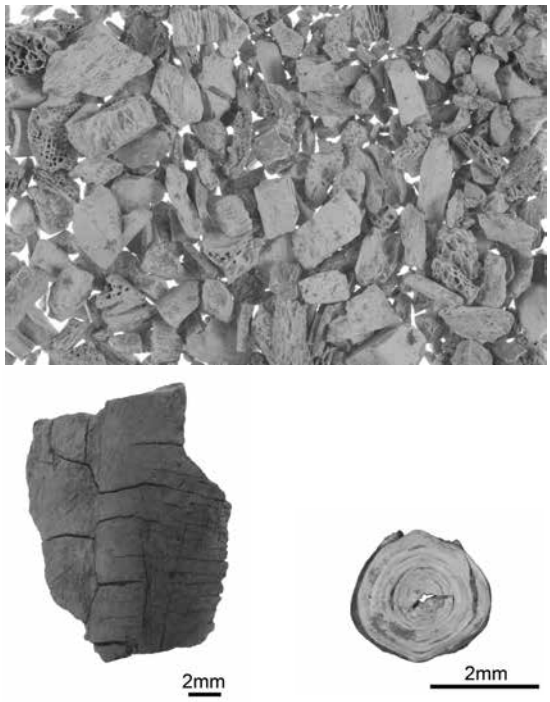
第 150 図　焼骨の遺構種別組成（N = 262,637g）



第 151 図　焼骨の遺構別出土質量（20g 以上）

軟体動物門	
貝種類不明	ord., fam., gen. et sp. indet.
脊椎棒物門	
軟骨魚類	
板鰓亜綱	Elasmobranchii sp.
硬骨魚類	
ニシン科	Clupeidae sp.
コイ科	Cyprinidae sp.
アユ	*Plecoglossus altivelis altivelis*
サケ科	Salmonidae sp.
コチ科	Platycephalidae sp.
ブリ属	*Seriola* sp.
タイ科	Sparidae sp.
魚類種不明	ord., fam., gen. et sp. indet.
鳥綱	
鳥類種不明	ord., fam., gen. et sp. indet.
哺乳動物門	
ヒト	*Homo sapiens*
タヌキ	*Nyctereutes procyonoides*
ツキノワグマ	*Ursus thibetanus*
イノシシ	*Sus scrofa*
ニホンジカ	*Cervus nippon*
哺乳類種不明	ord., fam., gen. et sp. indet.

第 50 表　長割遺跡出土動物遺存体種名表



第 152 図　出土した焼骨（上）と亀裂が入った動物遺存体（下）

のフルイによる水洗選別作業が実施された。環境考古学研究室では、1mm 目までのフルイによる水洗フルイ選別法と 0.25mm 目のフローテーション法を実施し、微細遺物を回収した。

2）同定・記載

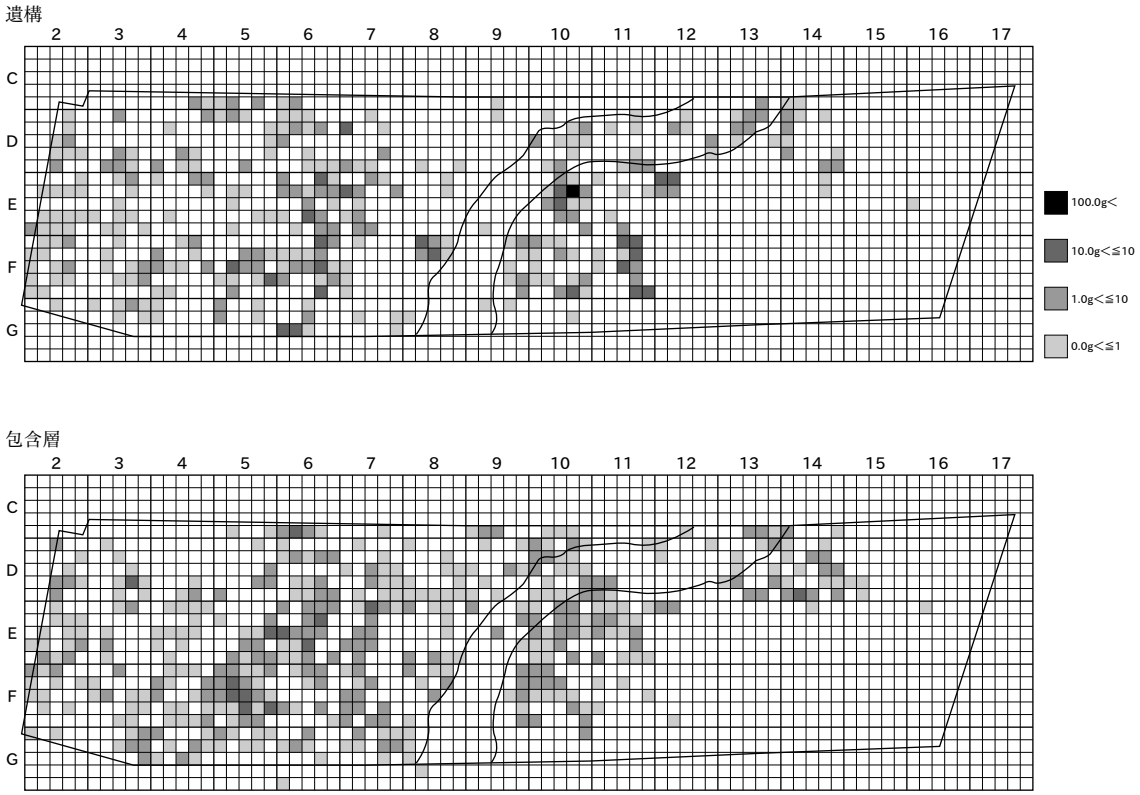
分析資料は微細な骨片であったため、同定に有効な部位を残存した資料だけでなく、1mm 以上の資料をすべて分析対象とした。同定は現生骨格標本との比較により行い、比較標本には環境考古学研究室が所蔵する標本（NAC 標本）を用いた。同定や計数は肉眼および実体顕微鏡下で行った。

同定を行った資料は番号を登録し、破片数と質量を記録した。質量は電子天秤を用いて、小数点第 2 位まで計測したものである。また計測が可能な資料に関しては、デジタル・ノギスを用いて 0.01mm の単位まで計測を行った。ただし、今回の分析資料はすべて焼けた骨片であり、計測値は火を受けて収縮した後の値となる。そのため、本稿における計測値は大まかに個体サイズを検討するための参考値として扱うこととする。

哺乳類の学名は『日本の哺乳類（改訂第 2 版）』［阿部監修 2008］、魚類の学名は『日本産魚類検索 全種の同定（第 2 版）』［中坊編 2000］に基本的に従った。同定結果の記載において「種不明」としたものは比較標本中に一致する種がなかった資料で、「同定不可」としたものは同定に有効な部位が欠損して特定の分類群へ同定が行えなかった資料である。

C　出 土 状 況

土壌選別により合計 97,297 点（2655.49g）の骨片を抽出した。骨片の出土量を遺構の種類別にみると、袋状土坑からの出土資料が 45,911 点（1151.93g）と最も多く出土しており、質量で遺跡出土量全体の 47.1%、破片数で遺跡出土量全体の 43.4%と高い割合を占めていた。次いで、遺物包含層（2 ～ 4 層）の



第 153 図　焼骨の出土質量分布図（上：遺構埋土、下：遺物包含層）

15794 点（716.23g）、ピット（柱穴）の 13,849 点（353.82g）、地床炉の 9,215 点（154.70g）、石囲炉の 6,399 点（74.93g）となる（第 150 図）。

個別の遺構における出土量では、最も多く出土した遺構は袋状土坑 SK5686 で、質量で遺構出土資料全体の約半数（52.1%）に当たる 44,281 点（996.44g）の骨片が検出された（第 151 図）。続いて多く出土した遺構は、袋状土坑 SK1912 の 824 点（68.60g）、地床炉 300 の 4,461 点（65.40g）、P4394 の 3,285 点（41.34g）である。

骨片の質量分布図を検討すると、遺構埋土と遺物包含層の分布範囲は大きな違いはないが、分布の集中に違いが認められた（第 152 図）。遺構埋土では袋状土坑が遍在する調査区北側に分布が集中するが、遺物包含層では 5F、6E、7E など掘立柱建物が遍在する調査区南側に分布が偏っていた。

D　分析結果

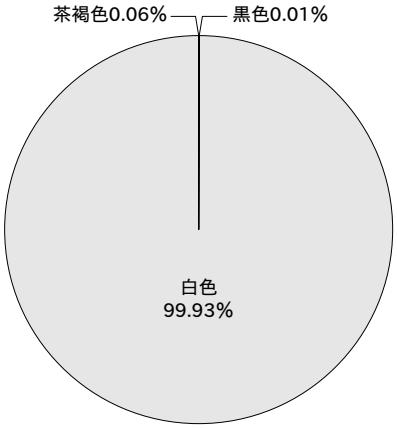
貝類、魚類、鳥類、哺乳類が同定された。出土した動物遺存体の種名表を第 50 表に示す。ほとんどの資料が細片であるため、種同定は全体的に困難で同定可能な資料はわずかであった。分析資料の帰属時期は、縄文時代後期前葉主体（三十稲場式新段階・南三十稲場式古段階～最新段階）である [1)]。

出土した動物遺存体や古人骨はほとんど白色化していた。分析資料は熱を受けた骨に認められる亀裂や収縮が認められたため、変色した資料は熱によるものと考えられる（第 153 図）。割れた骨片のうち、骨の外表面だけでなく、破断面や内表面（骨髄腔側）も同様に変色していることから、割れる前に火を受け

1）SD301 に関しては中世における撹乱を受けているが、縄文時代後期前葉の土器も多く出土していることから、出土骨片も縄文時代後期前葉主体であるものとみなして報告した。

たのではなく、割れた後にも火を受けたと考えられる。

熱を受けたことが確認できれば、骨の色調は資料が受けた熱の温度を推定する指標の１つとして有効である[Lyman1994]。分析資料の色調をみると、2655.49gのうち 2653.63g(99.93%)の資料が白色で、1.6g（0.06g）が茶褐色、0.26g（0.01g）が黒色であった（第 154 図)。長割遺跡では、動物遺存体や古人骨がすべて焼けた状態で出土しており、火の影響を受けていない骨は１点も認められなかった。骨が焼けて無機化したために、残りやすくなったものと考えられる。



第 154 図　出土した焼骨の色調
（N = 262,637g）

1）貝　類

P584 から貝殻の破片が 2 点出土した。1 点（No.472）は、残存長が 4mm 程度で種の同定は不可能であるが、淡水産あるいは海産の貝類の破片と考えられ、長割遺跡でも貝類採集が行われていたことを示す資料と言える。もう 1 点（No.471）は微小な巻貝類の破片で、淡水・海産貝類だけでなく、周辺土壌に生息していた陸産貝類が混入した可能性もある。

2）魚　類

出土状況

出土した魚類は、可能性のある資料（「魚類？」と記載）を含めて 3084 点（7.44g）であった。魚類が出土した遺構を質量で検討すると、袋状土坑からの出土量が 51.1％と約半数を占め、次いで地床炉が 18.1％、石囲炉が 16.2％、ピット（柱穴）が 13.8％であった。個別の遺構では、袋状土坑 SK5686 からの出土量が非常に多く、地床炉 1718、P4394、石囲炉 2225、石囲炉 2207 からも多くの魚類が検出されている（第 155 図)。

魚類組成

魚類で骨格部位が特定された資料は 405 点（2.69g）であった。同定された分類群は 8 分類群である。質量による組成と破片数による組成では、ほぼ同様な傾向が認められた。魚類の種別組成（同定不可を除く）を検討すると、質量では 65.8％、破片数では 77.3％とサケ科が非常に多く出土し、他の魚類は 10％より小さな値を示している（第 156 図・第 51 表)。

板鰓亜綱　Elasmobranchii sp.

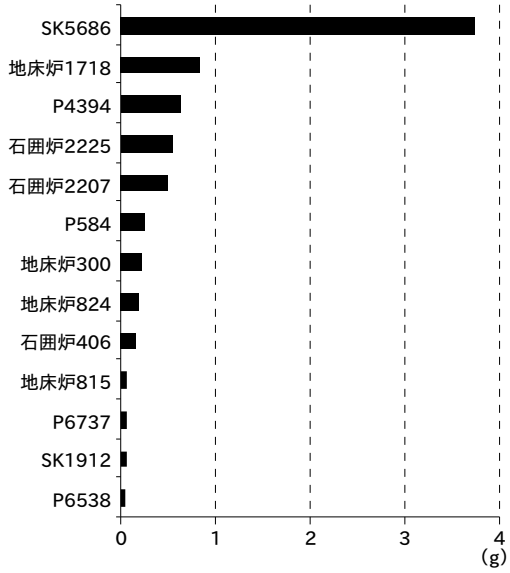
板鰓亜綱はエイ類やサメ類を含む分類群である。袋状土坑 SK5686 の 1 層から椎骨が 1 点（0.04g）出土した。被熱した状態での椎体横径は 4.5mm である。

ニシン科　Clupeidae sp.

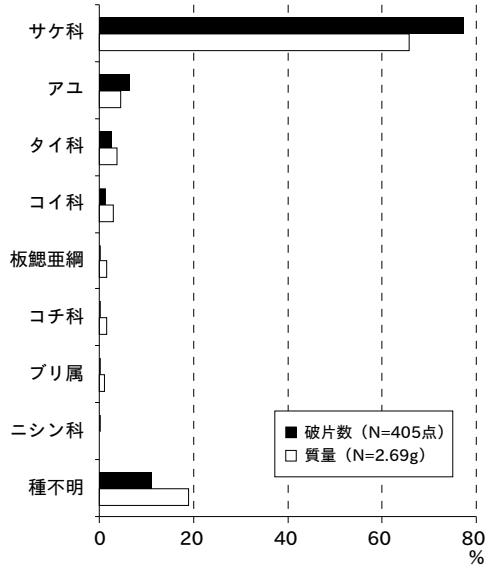
袋状土坑 SK5686 の 4 層から尾椎が 1 点（0.01g 未満）出土した。被熱した状態での椎体横径は 2.1mm である。現在の新潟県近海では、コノシロ・ニシン・ウルメイワシ・サッパ・マイワシといったニシン科魚類が生息する［本間 1992]。

コイ科　Cyprinidae sp.

腹椎や尾椎を同定した。袋状土坑 SK5686 から 5 点、P6538 から 1 点の計 6 点(0.08g)が出土している。



第 155 図　魚類の遺構別出土質量（0.2g 以上）



第 156 図　魚類の種別組成（破片数・質量）

被熱した状態での椎体横径は 1.7 ～ 5.2mm で、小型から大型までの個体が含まれると考えられる。現在の新潟県内では、体長 20cm 以下の種としてヤリタナゴ・モツゴ・アブラハヤ・カマツカ、体長 20cm を超える種としてキンブナ・ギンブナ・コイ・ウグイ・ニゴイが生息している。主に河川や池沼といった淡水域に生息する種である［本間監修 1983］。

アユ　*Plecoglossus altivelis altivelis*

腹椎や尾椎を同定した。袋状土坑 5686 から 23 点、P4394・地床炉 300・地床炉 1718 から各 1 点ずつの計 26 点（0.12g）が出土した。被熱した状態での椎体横径は 1.2 ～ 2.4mm で、やや小型の個体に偏る可能性がある。主に河川の中流域に生息する。

サケ科　Salmonidae sp.

椎骨片・歯・顎骨を同定した。椎骨片 278 点（1.60g）・歯 33 点（0.16g）・顎骨 2 点（0.01g）の計 313 点（1.77g）が出土した。出土遺構をみると、袋状土坑 SK5686 から 228 点（0.76g）と非常に多く出土しており、次いで石囲炉 2207 の 26 点（0.27g）、P4394 の 11 点（0.20g）、地床炉 1718 の 5 点（0.26g）、石囲炉 2225 の 10 点（0.15g）となっている。計測可能な椎骨はほとんど出土していないが、小型～大型の椎骨片が含まれている。現在の新潟県では、サケの他に、河川の上流～中流に生息するイワナ（アメマス）、中流に生息するヤマメ（サクラマス）といったサケ科魚類が分布する［本間監修 1983］。

コチ科　Platycephalidae sp.

袋状土坑 SK5686 から前上顎骨が 1 点（0.04g）出土した。新潟県近海では、イネゴチ・アネサゴチ・オニゴチ・マゴチ・メゴチが分布する［本間 1992］。主に砂底や砂泥底に生息する種である。

ブリ属　*Seriola sp.*

P4394 から腹椎が 1 点（0.03g）出土した。被熱した状態での椎体横径は 5.0mm である。現在の新潟県近海ではブリ・ヒラマサ・カンパチが生息する［本間 1992］。主に沿岸の中・下層に生息する種である。

タイ科　Sparidae sp.

タイ科魚類に特徴的な円錐歯や臼歯状歯が出土している。また、臼歯状歯列の残存する骨片があり、前

上顎骨あるいは歯骨の一部と考えられる。袋状土坑 SK5686 から 9 点、地床炉 300 と地床炉 1718 から各 1 点ずつの計 11 点（0.10g）が出土した。新潟県の沿岸や沖合ではクロダイ・キダイ・チダイ・マダイ・ヘダイが生息する。

3）哺　乳　類

出土状況

出土した哺乳類は 85,957 点（2626.37g）であった。哺乳類が出土した遺構を質量で検討すると、袋状土坑が 43.6%、遺物包含層が 27.3%、ピット（柱穴）が 13.3%であった。個別の遺構では、袋状土坑 SK5686 と遺物包含層から多くの哺乳類が検出されている（第 157 図）。

哺乳類組成

哺乳類で骨格部位が特定された資料は 166 点（120.79g）であった。同定された分類群は 4 分類群（ヒトを除く）である。質量による組成と破片数による組成（同定不可を除く）では、ほぼ同様な傾向が認められ、イノシシ（質量で 30.2%、破片数で 23.5%）とニホンジカ（質量で 26.6%、破片数で 32.5%）が多く出土していることが特徴である（第 158 図・第 52 表）。

イノシシ　*Sus scrofa*

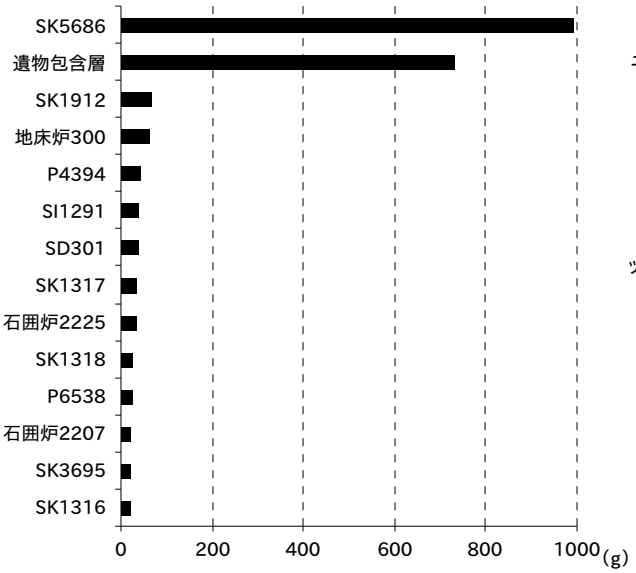
計 39 点（36.48g）が出土し、頭蓋骨・歯・上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・脛骨・腓骨・距骨・足根骨、中手骨あるいは中足骨・種子骨・基節骨・中節骨・末節骨を同定した。出土遺構をみると、遺物包含層から 11 点（9.85g）と多く出土し、次いで SD301 から 3 点（5.32g）、SK5686 から 9 点（3.69g）が出土している。

ニホンジカ　*Cervus nippon*

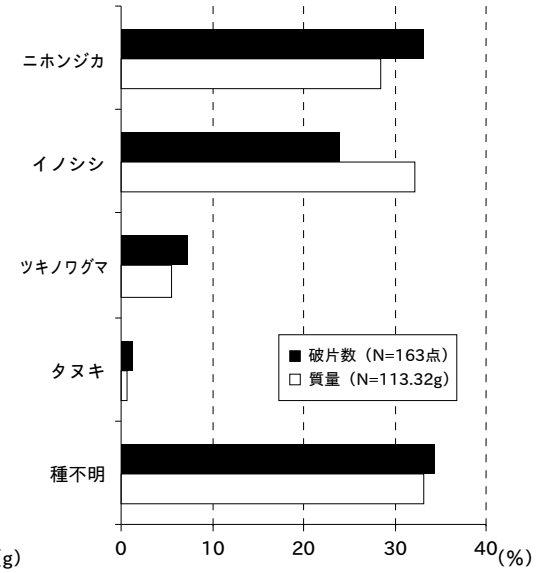
計 54 点（32.17g）が出土し、角・尺骨・中手骨・手根骨・大腿骨・脛骨・中足骨・種子骨・基節骨を同定した。遺物包含層から 13 点（7.90g）、P302 から 23 点（4.32g）と多く出土している。

ツキノワグマ　*Ursus thibetanus*

計 12 点（6.31g）が出土し、中手骨あるいは中足骨・種子骨・基節骨・中節骨・末節骨を同定した。異



第 157 図　哺乳類の遺構別出土質量（20g 以上）



第 158 図　哺乳類の種別組成（破片数・質量）

物包含層から 6 点（2.76g）と多く出土している。

タヌキ　*Nyctereutes procyonoides*

地床炉 300 から橈骨 1 点、遺物包含層から下顎骨 1 点の計 2 点（0.81g）が出土した。

4）鳥　類

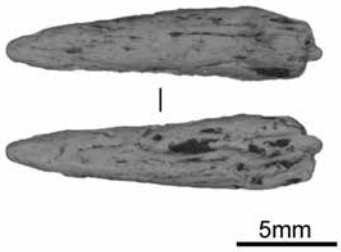
出土した鳥類は、可能性のある資料（「鳥類？」と記載）を含めて 61 点（1.83g）であった。ピット（柱穴）や遺物包含層、袋状土坑、地床炉などから出土し、とくに P4394 や SK5686 から多く出土している。種同定に有効な部分を欠いた破片のみであったため、種の同定は不可能であった。

5）古　人　骨

出土資料の中に、ヒトの骨片が含まれていた。調査区のほぼ中央部に当たる 8E23 グリッドのⅡｂ層からヒトの頭蓋骨が 2 点出土している。頭蓋骨の厚さや縫合状態から、どちらも成人の骨片と考えられる。また、調査区南側の 6D7 グリッドの P6804 からは、ヒトの可能性がある四肢骨の骨幹部破片が出土している。骨端部が出土していないため、ヒトと断定することはできないが、ヒトの骨表面に特徴的な多孔質が観察されたため「ヒト？」として記載した。

6）骨角器の可能性がある資料

石囲炉 2207 から、先端が尖った形状の骨片が 1 点（0.01g）出土している（第 159 図）。海綿質が観察されるため、哺乳類の角や骨の破片と考えられる。火を受けた影響により、骨表面における加工痕の有無が観察できないため、骨角器の可能性がある資料として「骨角器？」と記載した。



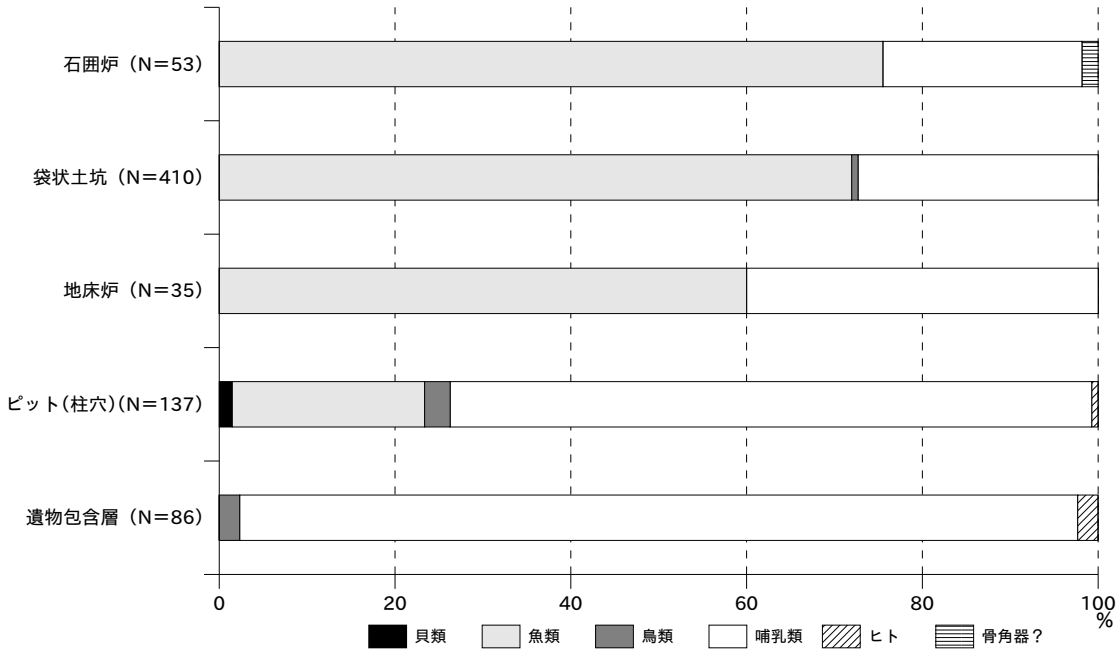
第 159 図　骨角器の可能性がある資料
（No.769）

E　長割遺跡における生業活動

1）漁 撈 活 動

長割遺跡から出土した魚類の生息環境を考慮すると、主に河川や湖沼などの淡水域に生息する種としてはサケ科・アユ・コイ科・沿岸や沖合などの海水域に生息する種としてはタイ科・コチ科・ブリ属・板鰓亜綱（エイ・サメ類）・ニシン科が認められた。そのため、長割遺跡では淡水域から海水域までを漁場としていたと考えられる。出土量を考慮すると、サケ科やアユなどを対象とした河川での漁撈活動が盛んである。とくにサケ科魚類の優占する割合が非常に高く、質量で 65.8%、破片数で 77.3%を占めており、サケ科魚類を集中的に獲得していたことが推測される。

サケ科と同定された分類群は、新潟県内ではサケ・イワナ（アメマス）・ヤマメ（サクラマス）が該当する［本間監修 1983］。長割遺跡では、他の魚種と比較してサケ科が優占して検出されることから、資源量・漁獲量の多いサケが主体であると推測される。サケは、産卵のために毎年決まった時期に河川を群れで遡上するため、時間的にも空間的にも獲得が予測できる資源といえる。長割遺跡は三面川支流の門前川右岸の自然堤防上に立地する。現在の新潟県内をみると、三面川のような中規模の川では、河口から 1 ～ 2km ほど上流の場所からサケの産卵場となっている［本間監修 1983］。従って、長割遺跡周辺においてもサケの産卵場が存在し、短期間のうちに容易に集中的な漁撈活動が行われたものと考えられる。



第 160 図　焼骨の遺構種別出土組成（破片数）

また、わずかながらも貝類破片が出土したことから、貝層が形成されるほど多量の貝類を獲得・廃棄した訳ではないものの、貝類採集活動が行われていたことが推定される。

2）狩猟活動

哺乳類では質量・破片数ともにイノシシとニホンジカが多く出土した。イノシシとニホンジカの出土量の比率はほぼ同じであり、どちらかに極端に偏るという傾向は認められない。

ツキノワグマが一定量出土していたことも注目される。また、こうした大型獣だけでなく、タヌキが同定された。種同定は不可能であったものの中･小型哺乳類の骨片も出土したことから、大型獣だけでなく、中・小型獣も狩猟していたことが分かる。他に、種同定が可能な資料は認められなかったが、鳥類の骨が出土していることから、鳥類も狩猟していたと推測される。

F　焼骨の生成要因

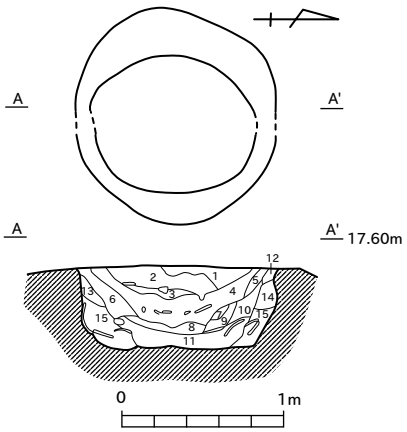
長割遺跡では、動物遺存体や古人骨がすべて焼けた状態で出土した。有機質遺物が残りにくい堆積環境であっても、骨が焼けて無機化したために、残りやすくなったものと考えられる。長割遺跡から出土した焼骨片の色調は 99％が白色化していた。焼けた骨と色調の関係は、欧米を中心に多くの実験結果が報告されており、おおよそ 700 ～ 900℃以上になると白色になるという［David1990、Brain1993］。推定温度は、燃焼施設や燃焼方法などの条件設定によって変わる可能性はあるが、骨が非常に高温で燃焼されたという解釈は十分妥当性がある。

阿部芳郎氏が指摘するように、遺跡出土の焼骨には多様な生成過程が存在する可能性が想定され［阿部 2009］、骨が非常に高温で燃焼された要因を検討する必要がある。そこで遺構の種類別に焼骨の生成要因を検討していく（第 160 図）。

出土状況から焼骨の生成要因が特定しやすい遺構は炉跡である。炉跡は、調理などを目的として一定の

場所で火を繰り返して焚いた跡と考えられる。この炉跡から出土した焼骨は白色化するほど火を受けており、炉が使用された時期と関連した可能性が高く、混入の危険性が比較的低いと評価することができる[1)]。炉跡として、石囲炉 17 基、地床炉 31 基から合計 15,593 点（228.12g）の焼骨片が検出された。炉跡内から出土した焼骨の特徴は、魚類が多く含まれるという点である。例えば、平地建物 SI201 の中央部に位置する地床炉 300 の覆土には、炭や焼骨片が多量に含まれていた。土壌選別により 4,461 点（65.40g）の焼骨が検出され、アユ・サケ科・タイ科・タヌキ・ニホンジカが確認された。平地建物 SI3913 の中央部に位置する石囲炉 2225 からは 2,544 点（33.02g）の焼骨が検出され、サケ科が確認された[2)]。

炉跡と同様な出土傾向を示した遺構が袋状土坑である。袋状土坑から非常に多くの焼骨が検出されており、6 基の覆土から合計 45,911 点（1145.66g）の焼骨片が出土し、魚類が多く含まれていた。例えば、袋状土坑 SK5686 の覆土には、炭化物・焼土粒・骨片類が多量に含まれていた（第 161 図）。覆土 15 層のうち 13 層から合計 44,281 点（996.44g）の焼骨が検出され、サケ科・アユ・コイ科・板鰓亜綱（エイ・サメ類）・コチ科・タイ科・ニシン科・イノシシ・ニホンジカが確認された。袋状土坑 SK1912 からは 824 点（68.60g）の焼骨が検出され、サケ科やイノシシが確認された。これらの遺構覆土には焼土粒や炭化物が混じるものの、焼土や灰層が広く堆積した状況ではない。従って、袋状土坑に含まれる焼骨片は、この場で焼かれたものではなく、別の場所から持ち込まれたものであると推測される。焼骨の様相が炉跡資料と同傾向であることから、廃絶の際に炉跡内の焼土を投棄したものと考えられる。



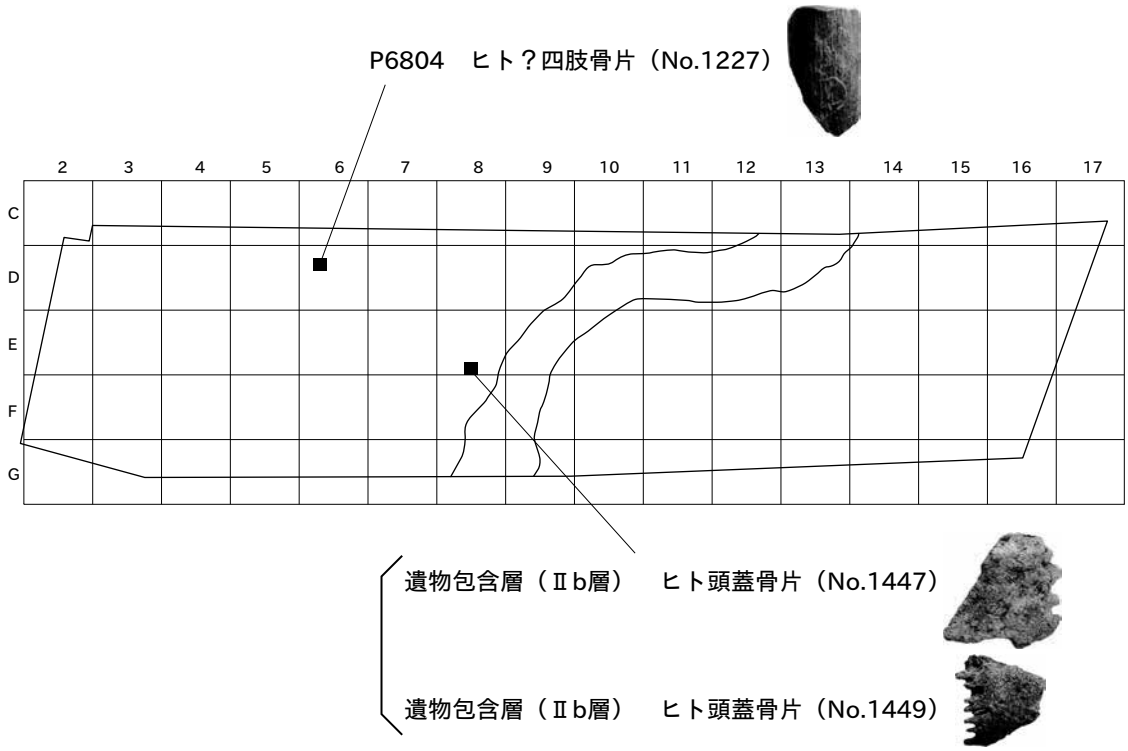
第 161 図　袋状土坑 SK5686

炉跡や袋状土坑と大きく傾向が異なるのが、遺物包含層である。遺物包含層から出土した焼骨の特徴は、哺乳類が非常に多く、古人骨が含まれるという点である。とくに高温で焼かれたヒトの骨片が出土したことが注目される。縄文時代後晩期において、中部地方を中心としてイノシシやニホンジカなどの焼獣骨が出土する事例が多いことが指摘されており、動物祭祀や狩猟儀礼などの解釈がなされている［高山 1976・1977、西本 1983、新津 1985］。また、焼人骨も同様に縄文時代後晩期の中部地方に分布が集中しており、焼獣骨と共に出土することや、配石遺構と強い関連性があることが指摘されている［石川 1988、渡邊 1988、設楽 1993、阿部 2004、内山 2005］。長割遺跡の出土事例は、イノシシやニホンジカなどの焼獣骨と焼人骨が出土しているため、中部地方を中心とした葬制や儀礼に関連することが示唆される。ただし、今回の調査区では配石遺構が検出されておらず、掘立柱建物や平地建物が遍在する範囲から古人骨が出土していた（第 162 図）。古人骨の頭蓋骨片は遺物包含層からの出土であるため、本来的な埋没状況から二次的に移動した可能性も考慮して、堆積要因や他遺物の様相を含めて検討する必要があろう。

炉跡や袋状土坑と遺物包含層の中間的な様相を示すのが、ピット（柱穴）である。P4394 からは 3,285 点（41.34g）の焼骨が検出され、サケ科・アユ・ブリ属・ニホンジカが確認された。これはピット（柱穴）

1）井上洋一氏は、炉跡内に種子類が残る背景として、炉を用いた調理の過程でこぼれた場合と燃料として用いられた場合があると指摘する［井上 1989］。

2）ただし、石囲炉 2207 からは骨角器の可能性がある資料が検出しており、単純に食料残滓のみが含まれたと断定できる訳ではない。石器や土器など他の共伴遺物が出土しているか、出土しているならば火を受けているのかを検討する必要がある。



第 162 図　古人骨の出土地点

の埋没段階に、袋状土坑と同様に炉跡内の焼土を投棄したものと推測される。一方で、P6804 からは古人骨の可能性がある四肢骨（ヒト？）が 1 点（3.63g）検出され、それ以外には哺乳類種不明の骨片が 2 点（0.28g）出土した。焼けた哺乳類の骨片（焼獣骨）のみが検出されたピットや土坑も数多く確認されている。これらの遺構が葬制や儀礼に関わる遺構である可能性と、埋没段階で遺物包含層と同様の土壌によって埋められた可能性が考えられる [1)]。

G　ま　と　め

長割遺跡では、遺物包含層や遺構埋土に白色の微細な骨片が含まれていたため、土壌を採取して、フルイによる選別作業を実施した。その結果、合計 97,297 点（2655.5g）の焼骨片を抽出した。漁撈活動は、淡水域から海水域までを漁場としており、とくに河川でサケを集中的に漁獲していた。狩猟活動は、イノシシやニホンジカを主体として、ツキノワグマやタヌキも獲得していた。

出土資料は、すべて火を受けて白色化した焼骨の細片で、非常に高温で燃焼されたものと考えられる。焼骨の生成過程を遺構別に検討すると、石囲炉や地床炉といった炉跡からの出土資料は、魚類が多く含まれていた。炉跡資料は、炉の使用時期と関連した可能性が高く、当時の食生活の一端が反映されたものと評価することができる。また、貯蔵穴と考えられる袋状土坑からの出土資料は、炉跡資料と類似した様相を示し、廃絶時に炉跡内の焼土を投棄したものと推測された。一方で、遺物包含層は炉跡や袋状土坑とは異なり、哺乳類が非常に多く古人骨が含まれるという特徴が認められ、葬制や儀礼に関わる資料が含まれた可能性が指摘できる。ピット（柱穴）は、炉跡・袋状土坑と遺物包含層の中間的な様相を示し、多様な

1）一方で、埋甕の覆土からは古人骨は確認されず、サケ科などがわずかに検出された。

埋没過程が示唆された。ただし、こうした議論はあくまでも焼骨から得られた所見であるため、他の共伴する遺物から得られる所見を加えて総合的に判断する必要がある。

長割遺跡から出土した焼骨片は、貝塚が形成されにくい日本海側では貴重な事例である。焼骨の生成に関して多様な要因が想定されるため、生業だけでなく、葬制や儀礼など、縄文時代研究に寄与できる資料と言える。

謝辞

本報告を行うに当たり、下記の方々からご教示やご協力を賜りました。記して、感謝の意を表します。

大藪由美子、金原美奈子、菊地大樹、橋本裕子、藤田芙美、松井章、丸山真史（敬称略、50 音順）

引用文献

阿部友寿　2004　「遺構更新における骨類の出土例―縄文時代後晩期における配石遺構･墓坑･焼人骨―」『古代』116、19-42 頁

阿部芳郎　2009　「縄文時代遺跡における焼骨生成の実験考古学的研究」『駿台史学』136、31-55 頁

阿部　永監修　2008　『日本の哺乳類（改訂第 2 版）』東海大学出版会

石川日出志　1988　「縄文・弥生の古人骨」『駿台史学』74、84-110 頁

井上洋一　1989　「本邦先史農耕復元にむけて（予察）」『早稲田大学大学院文学研究科紀要別冊　哲学･史学編』15、65-72 頁

内山大介　2005　「先史時代の葬送と供犠―焼骨出土例の検討から―」『信濃』57-9、23-47 頁

設楽博己　1993　「縄文時代の再葬」『国立歴史民俗博物館研究報告』49、7-46 頁

高山　純　1976　「配石遺構に伴出する焼けた骨類の有する意義（上）」『史学』47-4、35-68 頁

高山　純　1977　「配石遺構に伴出する焼けた骨類の有する意義（下）」『史学』48-1、49-74 頁

中坊徹次編　2000　『日本産魚類検索 全種の同定（第 2 版）』東海大学出版会

新津　健　1985　「縄文時代後晩期における焼けた獣骨について」『日本史の黎明―八幡一郎先生頌寿記念考古学論集』、125-153 頁

西本豊弘　1983　「縄文時代の動物と儀礼」『歴史公論』94、52-56 頁

本間義治　1992　『新潟県海の魚類図鑑』新潟日報事業社

本間義治監修・新潟日報事業社編　1983　『新潟県陸水動物図鑑』新潟日報事業社

渡邉朋和　1988　「縄文時代の複葬制について」『新潟考古学談話会会報』2、1-4 頁

Brain，C.K.　1993　「The occurrence of burnt bones at Swartkrans and their implications for the control of fire by early hominids」『Swartkrans : a cave's chronicle of early man』、Transvaal Museum monograph no. 8、pp.229-242

David,B.　1990　「How was this bone burnt?」『Problem solving in taphonomy』、pp.65-79

Lyman,R.L.　1994　『Vertebrate Taphonomy』 Cambridge University Press

遺構	層位	種名	部位（左右）	質量（g）	破片数
		サケ科	歯	0.01	1
		サケ科	腹椎	0.01	1
P584		サケ科	椎骨	0.01	5
		不明	尾椎	0.01 未満	1
		不明	椎骨	0.01	3
		アユ	腹椎	0.01	1
	1 層	サケ科	椎骨	0.12	5
		不明	椎骨	0.04	1
P4394		サケ科	椎骨	0.06	2
	2 層	ブリ属	腹椎	0.03	1
		不明	椎骨	0.05	3
	4 層	サケ科	椎骨	0.02	4
P6538〔SB7710〕	柱痕	コイ科	尾椎	0.05	1
P6737	3 層	サケ科	椎骨	0.01	1
		サケ科	歯	0.01	2
SH930	2 層	サケ科	椎骨	0.01 未満	9
		不明	尾部棒状骨	0.01 未満	1
SK1912	土器内覆土上	サケ科	椎骨	0.01	3
	土器内覆土下	サケ科	椎骨	0.02	1
		板鰓亜綱	椎骨	0.04	1
		アユ	腹椎	0.01	1
	1 層	サケ科	歯	0.01 未満	1
		サケ科	腹椎	0.02	1
		サケ科	椎骨	0.06	22
		サケ科	歯	0.05	10
	2 層	サケ科	椎骨	0.10	17
		不明	椎骨	0.01	1
		アユ	腹椎	0.00	1
	3 層	サケ科	椎骨	0.01	8
		コイ科	尾椎	0.01 未満	1
		ニシン科	尾椎	0.01 未満	1
		コイ科	尾椎	0.01	2
		アユ	腹椎	0.01 未満	8
		アユ	尾椎	0.01 未満	3
		アユ	椎骨	0.01 未満	1
		サケ科	歯	0.04	9
		サケ科	腹椎	0.05	4
	4 層	サケ科	椎骨	0.07	30
		コチ科	前上顎骨 （左）	0.04	1
		タイ科	歯	0.05	4
		タイ科	前上顎骨 / 歯骨	0.03	1
		不明	歯	0.01	1
		不明	尾椎	0.01	1
		不明	椎骨	0.02	7
		不明	鰭棘	0.01	1
SK5686		アユ	腹椎	0.01	2
	5 層	アユ	尾椎	0.01 未満	1
		サケ科	椎骨	0.02	4
	6 層	不明	椎骨	0.02	1
		コイ科	尾椎	0.01 未満	1
		アユ	腹椎	0.01 未満	1
	8 層	アユ	尾椎	0.01 未満	1
		サケ科	歯	0.01	3
		サケ科	椎骨	0.02	10
		コイ科	腹椎	0.02	1
		サケ科	歯	0.01	3
	10 層	サケ科	顎骨	0.01	1
		サケ科	椎骨	0.08	18
		不明	椎骨	0.01 未満	2
		サケ科	椎骨	0.07	18
	11 層	タイ科	歯	0.01	2
		不明	鰭棘	0.03	3
	12 層	サケ科	椎骨	0.03	11
		アユ	腹椎	0.01 未満	1
	13 層	サケ科	腹椎	0.01 未満	1
		サケ科	椎骨	0.03	15
		アユ	腹椎	0.01	1
		アユ	尾椎	0.01	2
	14 層	サケ科	歯	0.01 未満	1
		サケ科	椎骨	0.03	22
		不明	腹椎	0.01 未満	1
		不明	椎骨	0.01 未満	1

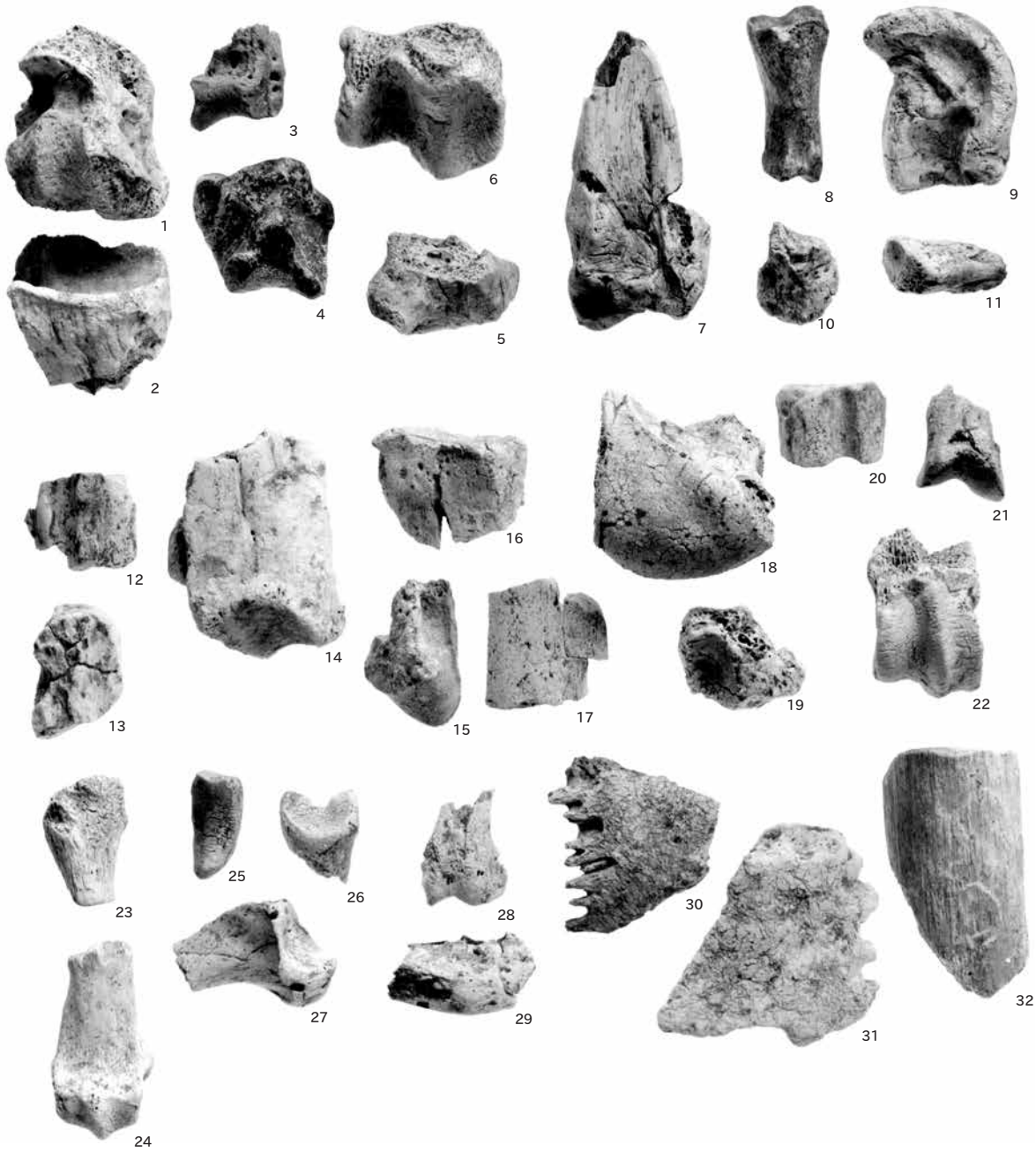
遺構	層位	種名	部位（左右）	質量（g）	破片数
		サケ科	歯	0.01 未満	1
		サケ科	顎骨	0.01 未満	1
		サケ科	椎骨	0.05	17
SK5686	15 層	タイ科	歯	0.01	2
		不明	歯	0.01	1
		不明	椎骨	0.01	2
		不明	鰭棘	0.01	1
遺物包含層（8E）	Ⅱ層	サケ科	椎骨	0.01 未満	1
石囲炉 404	P2 内覆土	サケ科	椎骨	0.01 未満	1
石囲炉 406	1 層	サケ科	椎骨	0.04	1
石囲炉 454	東半分	サケ科	椎骨	0.01 未満	1
		サケ科	歯	0.03	1
石囲炉 2207	1 層	サケ科	椎骨	0.24	25
		不明	顎骨	0.03	2
石囲炉 2225	1 層	サケ科	椎骨	0.15	10
		不明	椎骨	0.04	4
石囲炉 2913		サケ科	椎骨	0.01 未満	1
地床炉 190		サケ科	椎骨	0.01 未満	1
	1 層	サケ科	椎骨	0.01	2
地床炉 300	2 層	アユ	尾椎	0.05	1
		タイ科	歯	0.01 未満	1
地床炉 815	1 層	サケ科	椎骨	0.01 未満	2
		アユ	腹椎	0.02	1
	1 層	不明	顎骨	0.04	1
		不明	鰭棘	0.03	1
	2 層	サケ科	椎骨	0.13	2
地床炉 1718		不明	顎骨	0.02	1
		サケ科	歯	0.01 未満	1
		サケ科	椎骨	0.13	2
		タイ科	歯	0.01 未満	1
		不明	顎骨	0.01 未満	1
		不明	椎骨	0.11	3

第 51 表　魚類遺存体の同定結果

遺構	層位	種名	部位（左右）	質量（g）	破片数
P302		ニホンジカ	角	4.32	23
P414		種不明	大腿骨 近位端 （左）	0.01	1
P422〔SB7703・7704〕		イノシシ	手根骨 （右）	1.07	1
P478		イノシシ	中手骨 / 中足骨 遠位端	0.48	1
P874		ニホンジカ	中手骨 / 中足骨 遠位端	0.33	1
P889	1層	イノシシ	末節骨	0.57	1
P970	2層	イノシシ	手根骨 （右）	0.52	1
P972	1層	種不明	肋骨	0.45	1
P1701〔SB7700・7703・7704〕	1層	イノシシ	上顎骨 （右）	1.30	1
P1703〔SB7702・7703〕	7層	種不明	肋骨？	0.11	1
P1803		種不明	距骨	0.51	1
P1834		種不明	椎骨	0.07	1
P1840		ニホンジカ	中手骨 / 中足骨 遠位端	2.89	1
P1876		種不明	椎骨	0.06	1
P1894		種不明	腰椎	0.49	1
P4013〔SB7708〕		種不明	末節骨	0.80	1
P4351〔SB7708〕	6層	ツキノワグマ	基節骨 近位端	0.55	1
P4394	1層	ニホンジカ	中手骨 近位端 （左）	1.54	1
		ニホンジカ	基節骨 遠位端	0.74	1
	2層	種不明	中手骨 近位端	0.13	1
P4408〔SB7711〕		種不明	後頭骨？	0.91	1
P4902		ニホンジカ	手根骨 （右）	0.50	1
P5703		種不明	環椎	0.48	1
P5871		ツキノワグマ	種子骨	0.38	1
P6538〔SB7710〕	7層	イノシシ	橈骨 近位端 （右）	2.82	1
	柱痕	ニホンジカ	尺骨 （右）	2.89	1
P6562〔SB7708・7710〕	6層	ツキノワグマ	基節骨 近位端	0.41	1
P6804		ヒト？	四肢骨	3.63	1
SD301	1層	イノシシ	上腕骨 遠位端 （左）	4.39	1
		イノシシ	足根骨 （左）	0.93	1
		ツキノワグマ	中手骨 / 中足骨 （右）	0.61	1
		ツキノワグマ	中手骨 / 中足骨　遠位端	1.24	1
	2層	種不明	距骨 （右）	0.85	1
SD5186	1層	種不明	末節骨	0.31	1
		ニホンジカ	基節骨 近位端	0.90	1
SI1291	2層	ツキノワグマ	末節骨	0.36	1
	4層	イノシシ	種子骨	0.22	1
		種不明	腰椎	0.60	1
	8層	イノシシ	基節骨 近位端	0.53	1
		種不明	種子骨？	0.40	1
SK917	1層	イノシシ	中節骨 遠位端	0.41	1
SK1127		イノシシ	腓骨 遠位端 （左）	1.82	1
SK1316		種不明	距骨	0.65	1
		種不明	椎骨	0.13	1
SK1317	Ⅲb層	種不明	中手骨 / 中足骨　遠位端	0.56	1
	5層	種不明	基節骨 近位端	0.83	1
	7層	イノシシ	脛骨 遠位端 （左）	2.29	1
		イノシシ	尺骨 遠位端 （左）	0.49	1
SK1318		ニホンジカ	中手骨 / 中足骨 遠位端	1.48	1
SK1912		イノシシ	中節骨 遠位端	0.91	1
SK3695		イノシシ	種子骨	0.41	1
SK4998	3層	イノシシ	基節骨 近位端	0.25	1
	5層	ニホンジカ	脛骨 遠位端 （左）	0.93	1
SK5686	2層	イノシシ	手根骨 （左）	1.31	1
		種不明	椎骨	0.16	1
	4層	イノシシ	基節骨 近位端	0.69	1
		イノシシ	歯	0.08	3
		イノシシ	中手骨 / 中足骨	0.21	1
		種不明	基節骨 遠位端	0.04	1
		種不明	肋骨	0.03	1
		種不明	歯	0.02	2
		ニホンジカ	尺骨 遠位端 （右）	0.59	1
		ニホンジカ	種子骨	0.07	1
	6層	種不明	椎骨	0.58	1
	8層	種不明	基節骨 近位端	0.02	1
	11層	種不明	脛骨 近位端	1.64	1
	13層	種不明	尺骨 （左）	0.03	1
SK5686		イノシシ	中手骨 / 中足骨 遠位端	0.54	1
		イノシシ	基節骨 近位端	0.70	1
		イノシシ	種子骨	0.16	1
		ニホンジカ	手根骨 （右）	1.06	1
		種不明	基節骨 遠位端	0.49	1
SX118		ニホンジカ	大腿骨 遠位端 （左）	4.41	1
SX131	1層	イノシシ	脛骨 遠位端 （右）	2.52	1

遺構		層位	種名	部位（左右）	質量（g）	破片数
遺物包含層	（6G7）	Ⅰ層	ニホンジカ	基節骨 近位端	0.73	1
	（6G7）	Ⅱ層	種不明	腰椎	0.35	1
	（6E11・12）	Ⅱb層	イノシシ	距骨 （右）	2.08	1
	（9D17）	Ⅱb層	イノシシ	基節骨 近位端	0.33	1
	（11D22）	Ⅱb層	イノシシ	末節骨	0.37	1
	（8E1）	Ⅱb層	ツキノワグマ	中手骨 / 中足骨 遠位端	0.60	1
	（7E4）	Ⅱb層	ツキノワグマ	基節骨 近位端	0.32	1
	（6C22）	Ⅱb層	ニホンジカ	角	0.88	1
	（10F1）	Ⅱb層	ニホンジカ	中手骨	1.27	1
	（7E17）	Ⅱb層	ニホンジカ	手根骨 （左）	0.39	1
	（5F18）	Ⅱb層	ニホンジカ	中足骨	0.69	1
	（7E4）	Ⅱb層	ニホンジカ	基節骨 近位端	0.33	1
	（8E23）	Ⅱb層	ヒト	頭蓋骨	2.40	1
	（8E23）	Ⅱb層	ヒト	頭蓋骨	1.44	1
	（7F23）	Ⅱb層	種不明	頭蓋骨	1.95	1
	（5F24）	Ⅱb層	種不明	上顎骨 / 下顎骨	1.95	1
	（5F18）	Ⅱb層	種不明	上腕骨 遠位端 （右）	4.30	1
	（6E11）	Ⅱb層	種不明	腰椎	1.18	1
	（6C22）	Ⅱb層	種不明	椎骨	3.53	1
	（7E3）	Ⅱb層	種不明	椎骨	0.39	4
	（5F12）	Ⅱb層	種不明	寛骨？	1.42	1
	（5F6）	Ⅲb層	イノシシ	中手骨 / 中足骨 遠位端	0.72	1
	（9F25）	Ⅲb層	イノシシ	手根骨 （右）	1.32	1
	（3G15）	Ⅲb層	イノシシ	手根骨 （左）	0.27	1
	（11E6）	Ⅲb層	イノシシ	中心第四足根骨 （右）	0.78	1
	（6E9）	Ⅲb層	イノシシ	基節骨	1.13	1
	（6C23）	Ⅲb層	イノシシ	基節骨 遠位端	0.21	1
	（7E4）	Ⅲb層	イノシシ	中節骨 遠位端	0.30	1
	（10G5）	Ⅲb層	タヌキ	下顎骨 （右）	0.50	1
	（6D25）	Ⅲb層	ツキノワグマ	基節骨 遠位端	0.67	2
	（6C22）	Ⅲb層	ニホンジカ	角	0.66	3
	（7E17）	Ⅲb層	ニホンジカ	中手骨	0.55	1
	（7E22）	Ⅲb層	ニホンジカ	中手骨	0.94	1
	（7E17）	Ⅲb層	ニホンジカ	基節骨 近位端	1.09	1
	（8G17）	Ⅲb層	ニホンジカ	種子骨	0.37	1
	（6D19）	Ⅲb層	種不明	後頭骨	1.87	1
	（5F6）	Ⅲb層	種不明	上顎骨 / 下顎骨	0.47	1
	（9D14）	Ⅲb層	種不明	腰椎	2.07	1
	（5G1）	Ⅲb層	種不明	指骨 遠位端	0.42	1
	（6E5）	Ⅲb層	種不明	指骨 近位端	0.66	1
	（10G5）	Ⅲb層	種不明	指骨 近位端	0.21	1
	（5E25）	Ⅳ層	イノシシ	距骨 （左）	2.34	1
	（6E25）	Ⅳ層	ツキノワグマ	中節骨 遠位端	0.30	1
	（2D23）	Ⅳ層	種不明	頭蓋骨	2.73	2
	（6E5）	Ⅳ層	種不明	尺骨？	0.40	1
	（5E10）		ツキノワグマ	末節骨	0.87	1
石囲炉 2913			種不明	肋骨	0.68	3
地床炉 202			種不明	肋骨？	0.03	1
地床炉 808		1層	種不明	種子骨	0.62	1
地床炉 2942		1層	イノシシ	手根骨 （右）	1.01	1
地床炉 300			タヌキ	橈骨 遠位端 （左）	0.31	1
		1層	ニホンジカ	中手骨 / 中足骨 遠位端	1.16	4
			種不明	基節骨 遠位端	0.64	1
			ニホンジカ	中手骨 / 中足骨	0.46	1

第 52 表　哺乳類遺存体の同定結果



1 ～ 11：イノシシ〔1：上腕骨（No.558），2：橈骨（No.1278），3：尺骨（No.255），4：手根骨（No.2537），5：手根骨（No.3335），6：脛骨（No.24），7：腓骨（No.115），8：基節骨（No.2330），9：距骨（No.2472），10：種子骨（No.315），11：末節骨（No.1425）〕
12 ～ 22：ニホンジカ〔12：角（No.2293），13：角（No.1883），14：尺骨（No.1275），15：尺骨（No.3466），16：橈骨（No.1105），17：中手骨（No.2286），18：大腿骨（No.590），19：脛骨（No.195），20：中足骨（No.1982），21：基節骨（No.1106），22：中手骨・中足骨（No.932）〕
23 ～ 27：ツキノワグマ〔23：中手骨・中足骨（No.546），24：中手骨・中足骨（No.552），25：種子骨（No.1185），26：基節骨（No.1240），27：末節骨（No.2025）〕
28・29：タヌキ〔28：橈骨（No.2818），29：下顎骨（No.1292）〕
30・31：ヒト〔30：頭蓋骨（No.1449），31：頭蓋骨（No.1447）〕，32：ヒト？ 四肢骨（No.1227）

第 163 図　長割遺跡出土の動物遺存体と古人骨（S=4/3）

サケ科　歯
（No.2943）

サケ科　顎骨
（No.3045）

サケ科　椎骨
（No.3425）

サケ科　椎骨
（No.3450）

サケ科　椎骨片
（No.3593）

サケ科　椎骨片
（No.787）

サケ科　椎骨片
（No.3490-3494）

板鰓類　椎骨
（No.3058）

アユ　腹椎
（No.2850）

アユ　尾椎
（No.2851）

コイ科　腹椎
（No.3035）

コイ科　尾椎
（No.2887）

ニシン科　尾椎
（No.3574）

コチ科　前上顎骨
（No.3451）

ブリ属　尾椎
（No.1118）

タイ科　顎骨
（No.3415）

第 164 図　長割遺跡出土の魚類遺存体（スケールバー：2mm）

4　炭化材の樹種同定

吉川　純子（古代の森研究舎）

A　はじめに

長割遺跡は村上市下相川の、三面川の支流である門前川右岸の自然堤防上に立地する縄文時代の集落跡であり、ここでは縄文時代後期前葉の大規模なムラの跡が確認された。集落跡からは炭化材が検出されたため当時の燃料材利用状況を把握する目的で土坑 SK3946 から出土した炭化材 5 試料の樹種同定を行った。同定は炭化材から横断面、放射断面、接線断面の 3 断面を割取り、プレパラートに固定して反射照明型顕微鏡で観察・同定した。

B　同定結果

出土した炭化材の同定結果を第 53 表に示す。5 試料のうちコナラ属コナラ節 3 点、カツラ 2 点であった。以下に同定された分類群の木材解剖学的記載を行う。

コナラ属コナラ節：（*Quercus* sect. *Prinus*）年輪はじめに大きい管孔が 2・3 列配列し、その後径を急に減じて角張った小管孔が放射方向波状に配列する環孔材。道管の穿孔板は単一で、放射組織は同性で単列のものと広放射組織があり、横断面で広放射組織がかなり目立つ。

グリッド	地点	その他	分類群
10D22	北側		コナラ属コナラ節
10D22	南側		コナラ属コナラ節
10D22	P3947		カツラ
10D22	P3948		コナラ属コナラ節
10F22		1 層	カツラ

第 53 表　SK3946 から出土した炭化材

カツラ：（*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.）小さく角張った管孔が年輪内にほぼ均一に密布し、年輪終わりでやや径を減じる散孔材。年輪界はやや不明瞭で、横断面で管孔の占有率が高い。道管の穿孔板は階段状で段数が大変多く、道管の壁孔は階段状ないし交互状。放射組織は異性で 1,2 細胞幅、単列部がやや長く、単列部を介して 2 列部が数回繰り返す場合がある。

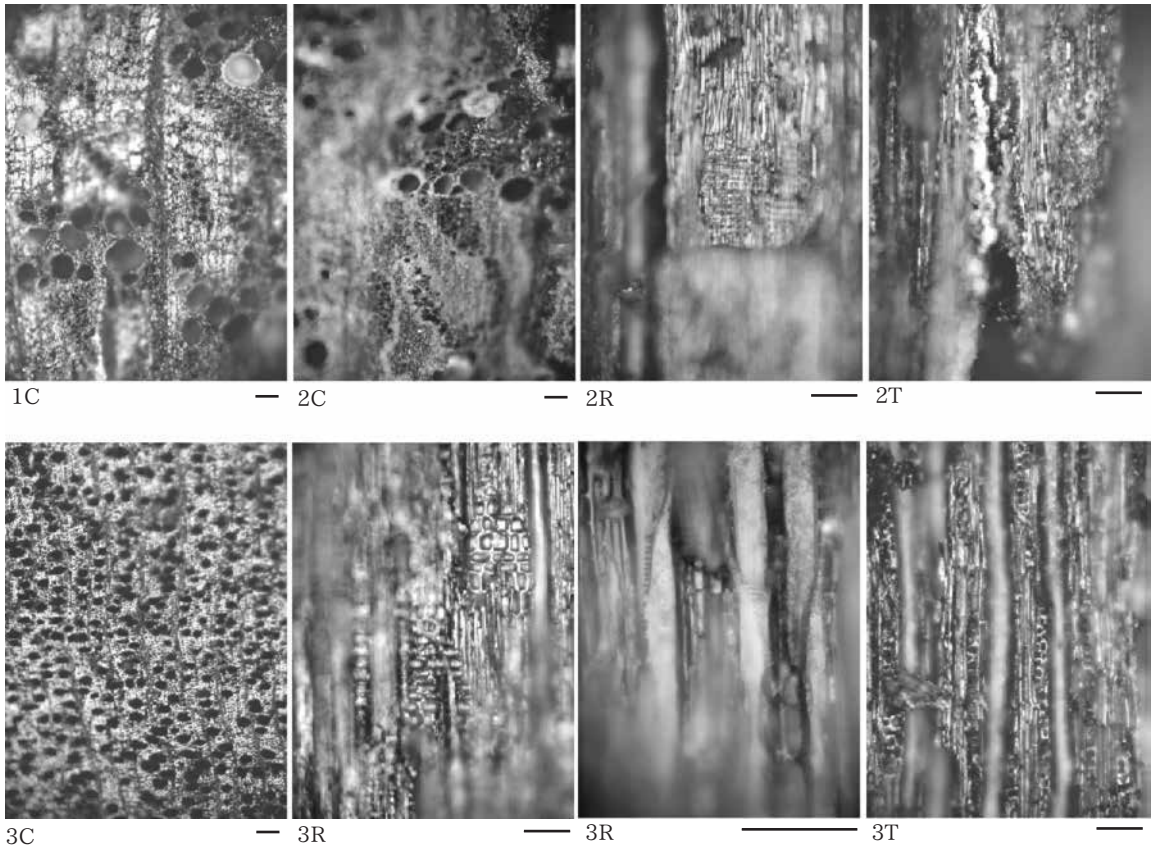
C　燃料材としての木材利用

本遺跡ではコナラ属コナラ節とカツラが確認された。コナラ属コナラ節は山野にもっとも生育しやすい種類であり、カツラは渓谷など水域周辺に生育するため、これら 2 種は当時の遺跡周辺で比較的調達しやすかったと考えられる。縄文時代の燃料材の分析例は多くないが、コナラ節の炭化材としての出土数は比較的多く［山田 1993］、近世に至るまで主要な燃料材として利用されてきた。新潟県青田遺跡では燃料材と考えられる炭化材が多数出土しているが、その一部の樹種同定結果が公表されており、114 試料のうちコナラ属コナラ節は 5 点、カツラは 2 点確認されている［吉川・荒川 2009］。このほかにも青田遺跡ではトネリコ属やハンノキ節などいずれも水域周辺に多く生育する種類が燃料材として多く出土しており、本遺跡でも周囲で調達しやすい種類を燃料材として利用していたと考えられる。

引用文献

山田昌久　1993　「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成－用材から見た人間・植物関係史」『植生史研究特別第 1 号』 植生史研究会　pp.1-244

吉川純子・荒川隆史　2009　「青田遺跡出土炭化材の樹種同定」『縄文時代のクリ利用に関する考古学・民俗学・年輪年代学的研究　課題番号 18320130 平成 18 年度～平成 20 年度科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書』 pp.93-94



1.コナラ属コナラ節（北側）2.コナラ属コナラ節（南側） 3.カツラ（1層）

C:横断面、R：放射断面、T：接線断面　（スケールは0.1mm）

第 165 図　SK3946 から出土した炭化材

5　炭化種実同定

吉川　純子（古代の森研究舎）

A　はじめに

長割遺跡は村上市下相川の、三面川の支流である門前川右岸の自然堤防上に立地する縄文時代の集落跡であり、縄文時代後期前葉の大規模なムラの跡が確認された。これら住居の炉や床面などに堆積した土壌を水洗したところ炭化種実などが検出されたため、当時の植物利用を解明する目的でこれら炭化種実の同定を行った。試料は地床炉・石囲炉・柱穴・土坑などの土壌を水洗選別済みの炭化物 61 試料と、土壌 15 試料である。土壌については 0.25mm 目の篩で水洗篩別し、残渣から同定可能な炭化種実を選別し実体顕微鏡で同定計数した。選別済みの試料は実体顕微鏡で同定可能な炭化種実を同定計数した。

B　同定結果

長割遺跡地床炉から出土した炭化種実を第 54 表に、石囲炉から出土した炭化種実を第 55 表に、掘立柱建物の柱穴（P）と土坑（SK）から出土した炭化種実を第 56 表に、埋設土器（SH）・平地建物（SI）・柱穴（P）から出土した炭化種実を第 57 表に示す。表中の数値は、アカメガシワ・タデ属と核菌綱は個数表示、オニグルミ・クリ・ブナ科・トチノキは微小破片のため乾重のグラム表示とした。また、そのほかの欄に＊が付されている試料は土壌試料である。なお、土壌試料の地床炉 1131 及び選別済み試料の SH659 からは炭化種実を出土しなかったため表に示されていない。

第 54 表に示した地床炉 31 試料では、22 試料からオニグルミ、3 試料からクリ、28 試料からトチノキを出土した。地床炉 808 はオニグルミとトチノキがやや多いが、全体として出土量は少なく、いずれも 1 グラム以下であった。また地床炉 1718 の 2 層ベルト A のみからタデ属と核菌綱を出土した。

第 55 表に示した石囲炉 17 試料では、12 試料からオニグルミ、1 試料からクリ、15 試料からトチノ

	遺構番号	300	300	300	300	404	550	550	808	808	824
	層位	1	2	2	2				1	2	1
	グリッド	10F	10F	10F20	10F20	2E	3E3	3E4	10E	10E12・13	10F11
	その他			＊ベルト１	＊ベルト２			＊			＊
オニグルミ	炭化内果皮微小破片	0.18	0.13	0.08	0.02	0.01	0.09	0.01	0.73	0.38	0.02
クリ	炭化子葉微小破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	炭化子葉・炭化種皮微小破片	0.1	-	0.03	0.01	-	0.13	0.01	0.37	0.34	0.02
タデ属	炭化果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
核菌綱	菌核	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	遺構番号	883	884	884	884	1130	1130	1131	1718	1718	1718
	層位	1	1	1	2	Ⅲｂ		Ⅲｂ			
	グリッド		6G	6G8	6G8	5C23	5C23	5C24	4F6・11	4F6・11	4F6・11
	その他			＊		焼土内	＊		北東	北西	南東
オニグルミ	炭化内果皮微小破片	-	-	0.03	0.03	0.03	-	-	0.08	0.01	0.08
クリ	炭化子葉微小破片	-	-	-	-	-	-	-	0.01	-	-
トチノキ	炭化子葉・炭化種皮微小破片	0.03	0.12	0.02	-	0.01	0.2	0.01	0.07	0.01	0.05
タデ属	炭化果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
核菌綱	菌核	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	遺構番号	1718	1718	1718	1719	1719	1719	1719	1944	2411	2903	4382
	層位			2							1	3
	グリッド	4F6・11	4F6・11	4F6	4F3・4	4F3・4	4F3・4	4F3	11F7	8F	5F12	7F24
	その他	南西	-	＊ベルトＡ	北西	南東	南西	＊ベルトＡ	＊西半分	焼土	＊	＊
オニグルミ	炭化内果皮微小破片	0.05	0.08	0.01	0.02	-	-	-	-	0.04	-	0.01
クリ	炭化子葉微小破片	0.06	0.04	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	炭化子葉・炭化種皮微小破片	0.12	0.08	0.03	0.03	0.03	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02
タデ属	炭化果実	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
核菌綱	菌核	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-

単位は g、ただしタデ属と核菌綱は個数

第 54 表　地床炉から出土した炭化種実

	遺構番号	406	454	567	919	919	1716	1716	1720	1952
	層位	1			1		1			1
	グリッド	3E	4F18	4D18・23	10E	10E3	3F	3F1819	4F4	11E8
	その他		東半分	*		*	埋設土器	東半分	西半分	*
オニグルミ	炭化内果皮微小破片	0.01	0.16	-	-	-	-	0.08	0.08	-
クリ	炭化子葉微小破片	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	炭化子葉・炭化種皮微小破片	-	0.02	0.04	0.03	0.03	0.01	0.03	0.02	0.02

	遺構番号	2207	2207	2207	2207	2225	2225	2225	2225
	層位	1	1	1	1	1	1	1	1
	グリッド	8F2	8F2	8F2	8F2	8F	8F	8F8	8F8
	その他	①	②	③	④	①	②	③	④
オニグルミ	炭化内果皮微小破片	0.14	0.41	0.92	0.36	0.19	0.16	0.05	0.12
クリ	炭化子葉微小破片	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	炭化子葉・炭化種皮微小破片	0.16	0.27	0.29	0.24	0.36	0.02	0.07	-

単位はg

第 55 表　石囲炉から出土した炭化種実

	遺構番号	P4004	P6539	5686	5686	5686	5686	5686	5686
	層位		最下層	1	2	3	4	5	6
	グリッド	6F20	6F7・8	10E	10E	10E	10E	10E	10E
オニグルミ	炭化内果皮微小破片	0.57	0.63	0.27	0.26	0.36	0.24	-	0.26
クリ	炭化子葉微小破片	1.9	0.09	-	0.15	-	-	-	0.12
ブナ科	炭化果皮微小破片	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	炭化子葉・炭化種皮微小破片	3.19	8.35	0.02	0.05	0.19	1.51	0.03	2.32
アカメガシワ	炭化種子半分	-	-	-	-	-	-	-	-

	遺構番号	5686	5686	5686	5686	5686	5686	5686
	層位	8	10	11	12	13	14	15
	グリッド	10E	10E	10E	10E	10E	10E	10E
オニグルミ	炭化内果皮微小破片	-	-	0.28	-	0.09	-	1.55
クリ	炭化子葉微小破片	-	-	0.23	-	0.12	-	0.35
ブナ科	炭化果皮微小破片	-	-	-	-	-	0.01	-
トチノキ	炭化子葉・炭化種皮微小破片	0.23	0.2	1.13	0.32	0.26	0.22	3.76
アカメガシワ	炭化種子半分	-	-	1	-	-	-	1

単位はg、ただしアカメガシワは個数

第 56 表　掘立柱建物（P）と袋状土坑（SK5686）から出土した炭化種実

	遺構種類	SH	SH	SI	SI	SH	SH	P	P	P	P	P
	遺構番号	930	930	7822 ～ 7824	7822 ～ 7824	3753	3753	4394	4394	4394	4394	4394
	層位	1	2					1	2	3	4	5
	グリッド	7D6	7D6	8G	8G	8E	8E	6G11・12	6G11・12	6G11・12	6G11・12	6G11・12
	その他			1 炉	4 炉	北西半分	南東半分					
オニグルミ	炭化内果皮微小破片	-	0.01	-	-	0.01	1.84	-	-	-	-	-
トチノキ	炭化子葉・炭化種皮微小破片	0.07	0.01	1.17	0.13	-	-	5.43	4.21	0.39	2.87	0.22

単位はg

第 57 表　埋設土器（SH）・平地建物（SI）・柱穴（P）から出土した炭化種実

キを出土した。石囲炉 2207 ではオニグルミとトチノキがやや多く、石囲炉 2225 の①もオニグルミとトチノキがやや多かったが、いずれも 1 グラム以下であった。

第 56 表に示した掘立柱建物の柱穴（P）と袋状土坑（SK5686）で炭化種実が確認された 15 試料では、10 試料からオニグルミ、7 試料からクリ、1 試料からブナ科、15 試料からトチノキ、2 試料からアカメガシワを出土した。このうち P4004 はクリをやや多く出土し、P4004、P6539、SK5686 の 4 層、6 層、11 層、15 層ではトチノキを多く出土した。

第 57 表に示した 11 試料では、3 試料からオニグルミ、9 試料からトチノキを出土した。オニグルミは SH3753 の南東半分でやや多く、トチノキは P4394 の 1 層、2 層、4 層で多く出土した。

以下に同定された分類群の記載を行う。

オニグルミ：（*Juglans mandsurica Maxim.* var. *sachalinensis* （Miyabe et Kudo） Kitamura） 炭化した内果皮の 4 分の 1 程度からごく微小までの破片を出土した。内果皮は完形であれば球形から楕円球で、表面には緩い凹凸があり細い筋がある。内果皮壁は緻密で堅く均質でときどき空隙がある。

クリ：（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.） 炭化した子葉の小破片を出土した。種皮はすべて剝がれ落ちて失われていた。子葉は完形であれば三角形から円形で扁平である。子葉は長方形から長三角形に割れやすく、表面には波状の細い溝が縦方向に比較的密にあり頂部に向かって収束しているため、破片になってもトチノキの子葉と区別がつきやすい。

ブナ科：（Fagaceae）　炭化した果皮の小破片を出土した。果皮の表面は縦方向に均一に筋があり、内側にも縦方向の筋がある。

トチノキ：（*Aesculus turbinata* Blume）　炭化した子葉と種皮の小破片を出土した。完形であれば歪んだ球形である。子葉は表面に不規則な凹凸があり、種皮はほとんど剝がれているが、部分的に子葉に付着したまま残っているものがある。断面は子葉中心から放射状に細胞が配列しているので放射状にひびが入る。また、子葉は不定形ないし丸みを帯びた立方体に近い形に割れやすい。種皮は多角形の破片になりやすく、表面には微細な指紋状ないし流理状の模様があり、種皮内側の筋はなく弱い光沢が残る場合が多い。

アカメガシワ：（*Mallotus japonicus*（Thunb. ex Murray）Muell. Arg.）　炭化した種子の半分に割れた破片を出土した。完形であれば球形で基部に長さ 1mm 程度の三稜があり、表面はやや大きい疣状の突起が密に分布する。

タデ属：（*Persicaria*）　炭化して焼け膨れた果実を出土した。果実は三角形で 3.4mm とやや大きいが表面の保存が悪く同定はタデ属にとどめた。

核菌綱：（Ascomycotina）　完形の菌核を出土した。ほぼ球形で表面には不規則な筋状の模様を密布し、炭化していなくても黒色で堅いため、出土した菌核が炭化しているかどうか不明である。木の樹皮などに付着して生育する菌類である。

C　出土した炭化種実から見た当時の植物利用

本遺跡で出土した炭化種実のうち出土が最も多かったのはトチノキで、74 試料中 67 試料から出土し、1 グラム以上の出土試料も多かった。オニグルミは 47 試料、クリは 11 試料から出土している。また、地床炉や石囲炉はまんべんなく出土しているが量は少なく、土坑（SK）と柱穴（P）のほうが比較的炭化種実を多く出土する傾向が見られる。炉は食料の煮炊きや暖を取るために用いる燃焼施設であるため、当然炭化物が生成される。しかし日常生活の中で多量の炭化物が残ったままになることはないため、炉から出土する炭化物はほとんどが住居廃絶直前に利用を停止したことによる残存物と考えられる。本遺跡では地床炉でも石囲炉でもオニグルミとトチノキが少量ずつまんべんなく出土しているため、これらを日常的に利用していたと考えられる。また、クリの出土が極端に少ないが、これはクリをほとんど利用していなかったと言うことではなく、オニグルミと比較して燃焼しやすい果皮と、トチノキのようにアク抜きを必要としない子葉であるために火に触れる機会が少ないことから残存量が大変少ない可能性がある。少量出土しているアカメガシワ・タデ属と核菌綱は燃料材とともに持ち込まれ燃焼した際の残りと考えられる。

さて、土坑や柱穴などは炉のような燃焼施設ではないため、通常の利用で炭化物が大量に堆積することは考えにくい。ところが本遺跡では P4004、P6539、SK5686 や P4394 では炉の堆積物よりも多くの炭化種実が検出されている。土坑において燃焼の形跡がないとすれば、これらの土坑や柱穴には他の場所で炭化した種実が持ち込まれたことになる。燃焼施設以外の場所における多量な炭化種実の集積は青森県三内丸山遺跡［青森県教育委員会 2005］のフラスコ状土坑内の炭化クリなど縄文前期から確認されており、縄文中期後半の福島県和台遺跡では廃絶後の住居に祭祀土器を伴ってクリ・トチノキ・オニグルミの 3 種類の炭化種実が出土する［吉川 2003］ことから、燃焼と関係ない土坑や柱穴に炭化種実を入れるのは何らかの儀式に伴う行為と考えられている。また、これらの炭化種実の量比は地域や時代とともに変化する傾向にあり、縄文晩期前葉の新潟県野地遺跡［坂上 2009］ではほとんどがトチノキで形成された炭化種実の集積が確認され、儀式における炭化種実の種類比率が地域や時期により変化していた可能性

がある［吉川 2009］。そして前期ではほぼクリだけで形成されていた炭化種実集積は、トチノキのアク抜き技術が定着したとみられる中期以降トチノキの比率が増加していく傾向にあり、食料としての利用比率あるいは献上品としての重要性が反映されている可能性がある。縄文晩期末葉の新潟県青田遺跡［猪狩 2004］では、河川沿いの集落跡に多量のクリ果皮廃棄層が確認されているため、クリの利用が減少したわけではなく日常の糧としての重要性は変わっていなかったと考えられる。

引用文献

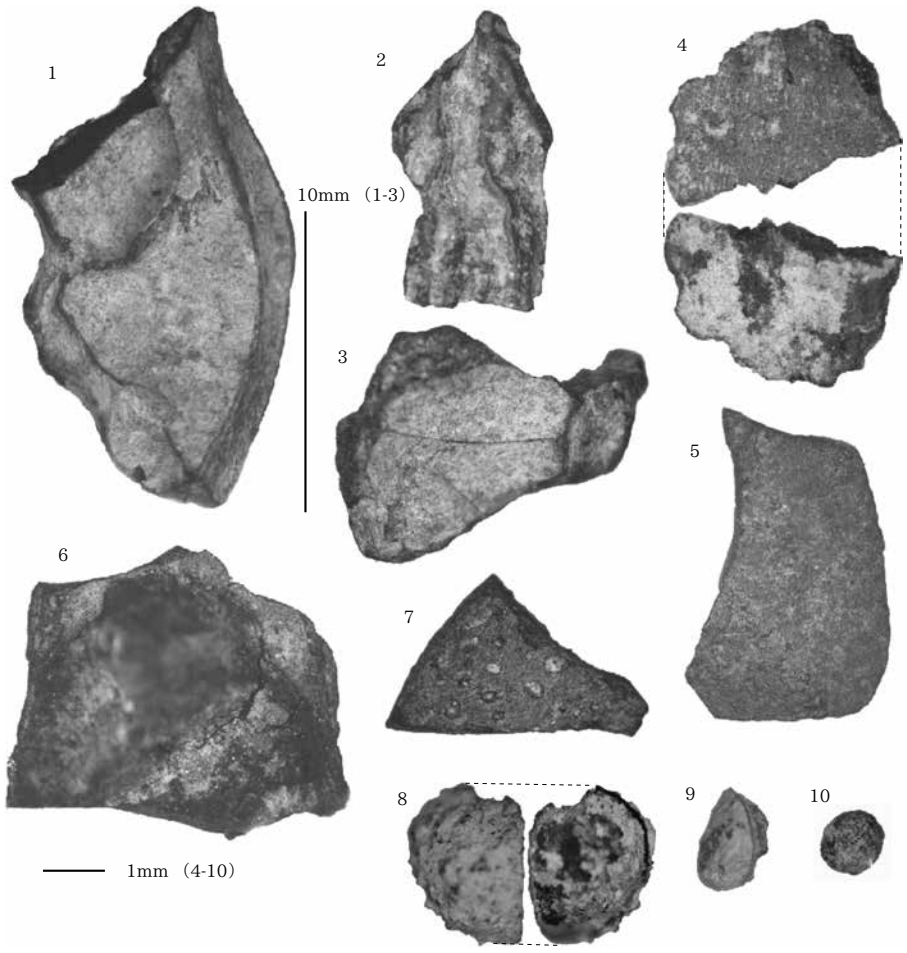
青森県教育委員会　2005 『三内丸山遺跡 27 －旧野球場建設予定地発掘調査報告書 6』 p.136

猪狩俊哉　2004 「第Ⅴ章 8 植物遺体」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集　青田遺跡』本文・観察表編 pp.221-229　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

坂上有紀　2009 「第Ⅴ章 8 植物遺体」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 196 集　野地遺跡』 pp.105-115　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

吉川純子　2003 「183 号住居跡出土炭化種実の同定分析」『和台遺跡　主要地方道川俣安達線関連埋蔵文化財発掘調査報告書』 pp.733-741　飯野町教育委員会

吉川純子　2009 「第Ⅵ章 4 植物学的分析 A 出土種実による植物利用解析」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 196 集　野地遺跡』 pp.136-152　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団



1.オニグルミ、内果皮破片（P6539） 2.クリ、子葉破片（P6539） 3.トチノキ、子葉破片（P6539） 4.ブナ科、果皮破片（SK5686-14層） 5.トチノキ、種皮破片（P6539） 6.トチノキ、子葉付着種皮破片（P6539） 7.トチノキ、種皮破片（P6539） 8.アカメガシワ、種子破片（SK5686-14層） 9.タデ属、果実（地床炉1718-4F6）10.核菌綱、菌核（地床炉1718-4F6）

第 166 図　出土した炭化種実

6　黒曜石製石器・剥片の原材産地分析

有限会社　遺物材料研究所

A　はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光Ｘ線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石製遺物の石材産地推定を行っている［藁科・東村 1975］［藁科・東村・鎌木 1977・1978］［藁科・東村 1983］。最近の黒曜石の伝播距離に関する研究では、伝播距離は数千 km が一般的で、6 千 km を推測する学者も出てきている。正確に産地を判定するということは、原理原則に従って同定を行うことである。原理原則とは、同じ元素組成の黒曜石が異なった産地では生成されないという理論がないために、少なくとも遺跡から半径数千 km の内にある石器の原材産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。『遺物原材とある産地の原石が一致したという「必要条件」を満たしても、他の産地の原石にも一致する可能性が残っているから、他の産地には一致しないという「十分条件」を満たして、初めて一致した産地の原石が使用されていると言い切れる。また、十分条件を求めることにより、一致しなかった産地との交流がなかったと結論でき、考古学に対して重要な研究資料が提供される。』

B　産地分析の方法

先ず原石採取であるが、本来、一つの産地から産出するすべての原石を採取し分析する必要があるが、現実的には不可能である。そこで、産地から抽出した数十個の原石でも、産地すべての原石を分析して比較した結果と同じ結果が推測され、また、理論的にも証明されている方法として、マハラノビスの距離を求めて行うホテリングの T2 乗検定がある。次にホテリングの T2 乗検定法の同定と、他の方法であるクラスター判定法（同定ではなく分類）、元素散布図法（散布図範囲に入るか否かで判定）を比較してみる。

クラスター判定法はクラスターを作る産地の組み合わせを変えることにより、クラスターが変動する。例えば、A 原石製遺物と A、B、C 産地の原石でクラスターを作ったとき遺物は A 原石とクラスターを作るが、A 原石を抜いて、D、E 産地の原石を加えてクラスターを作ると、遺物が E 産地とクラスターを作る。このようにもし、A 産地が調査されていないと、遺物は E 原石製遺物と判定される可能性があり、結果の信頼性に疑問が生じる。また、A 原石製遺物と分かっていれば、意図的に E 原石とクラスターを作らないようにも出来る。このように、クラスター分析を行うには、遺物の原石産地を予め推測しクラスターを組み立てる必要があり、どうしても主観的な判定になる。

元素散布図法は、原石群の元素散布図の中に遺物の結果が入るか図示した方法で、原石の含有元素の違いを絶対定量値に求めて地球科学的に議論するには、地質学では最も適した方法であるが、産地分析の見地からみると、クラスター法よりさらに後退した方法である。何個の原石を分析すれば。その産地が正確に現されているのか不明であり、例えば分析する原石の数で、原石数の少ないときには A 産地と B 産地が区別できていたのに、原石数を増やすと A 産地、B 産地の区別ができなくなる可能性があり（クラスター法でも同じ危険性がある）判定結果に疑問が残る。産地分析の方法としては、地質学の常識的な知識（高校生）さえあればよく、火山学、堆積学など専門知識は必要ないものがよい。また、実際の分析においては非破

壊で、かつ遺物の形態の違いによる相対定量値の影響を評価しながら、同定を行えることが必要である。その際必要なことは、地球科学的なことは関係なく、如何に原理原則に従って正確な判定を行うかである。これらの要素を含み且つクラスター法、元素散布図法の欠点を解決するために考え出されたのが、理論的に証明された判定法であるホテリングの T2 乗検定法である。

ある産地の原石の元素組成と遺物の元素組成が一致すれば、そこの産地の原石と決定できるという理論がないために、多数の産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。

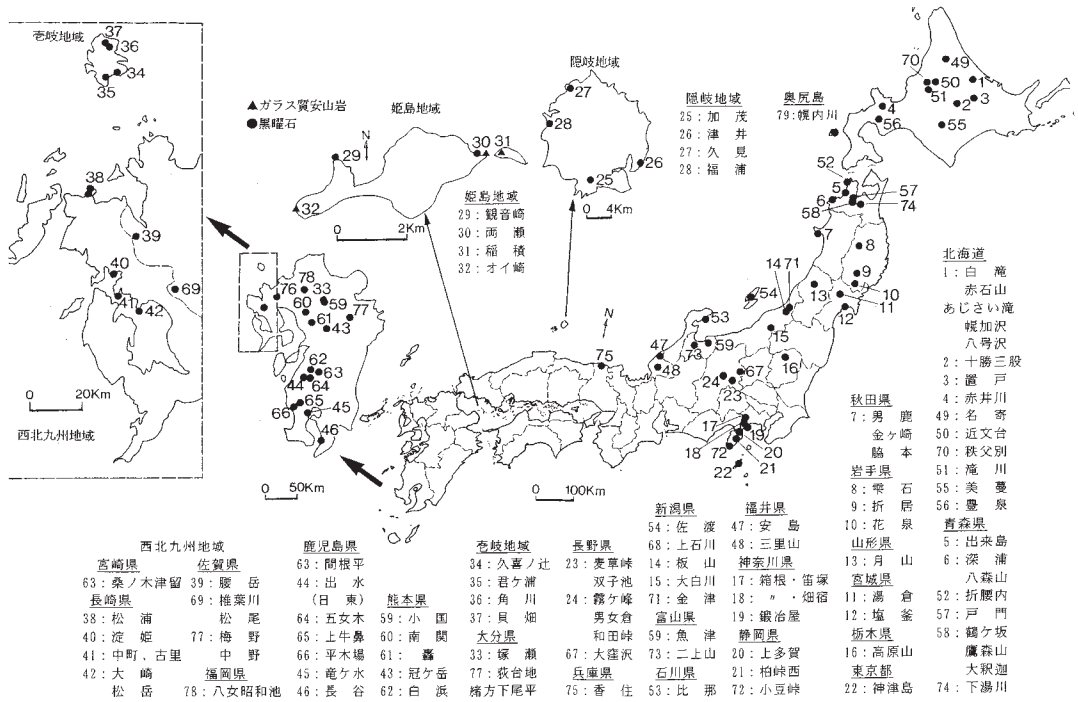
考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、また一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な意味をもつ結果である。しかし、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類に、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件に使用すると、産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成と A 産地原石の元素組成が一致し、必要条件を満たした時、確かに A 産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、偶然（産地分析法が不完全なために）に一致した可能性も大きく、また B・C・D…の産地でないとの証拠がないために、A 産地だと言い切れない。ここで、十分条件として、可能な限り地球上のすべての原産地（A・B・C・D…）の原石群と比較して、A 産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器が A 産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは、分類基準が各人でまちまちとなり、混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても、すべての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によってそれぞれ異なり、実際に行ってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何か所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかによるため、比較した産地が少なければ、信頼性の低い結果と言える。

黒曜石、安山岩などの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には違いがあると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行い、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地と異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングの T2 乗検定を行う。この検定をすべての産地について行い、ある原石遺物原材と同じ成分組成の原石は A 産地では十個中に一個みられ、B 産地では一万個中に一個、C 産地では百万個中に一個、D 産地では…一個と産地ごとに求められるような、客観的な検定結果から A 産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。すなわち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。今回分析した遺物は新潟県村上市に位置する長割遺跡の縄文時代後期前葉出土の黒曜石製石器及び剥片・チップ 74 個で、産地分析の結果が得られたので報告する。

C　黒曜石原石の分析

黒曜石原石の風化面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X分析装置によって元素分析を行う。主に分析した元素はK・Ca・Ti・Mn・Fe・Rb・Sr・Y・Zr・Nbの各元素である。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比の値をそれぞれ用いる。また、これらの元素比で区別が困難な遺物についてはK/Si、Fe/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Sr/Rb、Y/Rb、Ti/Fe、Si/Feの組み合わせによるホテリングのT2乗検定を行った。

黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に分布する。調査を終えた原産地を第167図に示す。元素組成によってこれら原石を分類し第58～60表に示す。この原石群に、原石産地が不明の遺物で作った遺物群を加えると312個の原石群になる。ここでは東北、北陸地域および中信高原などの産地を選択して記述すると、出来島群は青森県西津軽郡木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た元素組成の原石は、岩木山の西側を流れ鯵ヶ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また、青森市の鶴ヶ坂及び西津軽郡森田村鶴ばみ地区より採取されている。青森県西津軽郡深浦町の海岸とか同町の六角沢及びこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で六角沢群を、また、八森山産出の原石で八森山群をそれぞれ作った。深浦の両群と相互に似た群は青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第二群である。戸門第一群、成田群、浪岡町県民の森地区より産出の大釈迦群（旧浪岡群）、青森市西田沢群は赤井川産原石の第一・二群と弁別は可能であるが原石の元素組成は比較的似ている。戸門、大釈迦産黒曜石の産出量は非常に少なく、希に石鏃が作れる大きさが見られる程度であるが、鷹森群は鷹森山麓の成田地区産



第167図　黒曜石原産地

原産地原石群名			分析個数	元素比									
				Ca／K	Ti／K	Mn／Zr	Fe／Zr	Rb／Zr	Sr／Zr	Y／Zr	Nb／Zr	Al／K	Si／K
北海道		名寄第１群	114	0.478 ± 0.011	0.121 ± 0.005	0.035 ± 0.007	2.011 ± 0.063	0.614 ± 0.032	0.574 ± 0.022	0.120 ± 0.017	0.024 ± 0.016	0.033 ± 0.002	0.451 ± 0.010
		名寄第２群	35	0.309 ± 0.015	0.103 ± 0.005	0.021 ± 0.006	1.774 ± 0.055	0.696 ± 0.044	0.265 ± 0.011	0.301 ± 0.022	0.026 ± 0.020	0.028 ± 0.007	0.394 ± 0.010
		雄武・音威子府川	45	0.306 ± 0.003	0.100 ± 0.003	0.023 ± 0.002	1.765 ± 0.037	0.705 ± 0.020	0.256 ± 0.014	0.305 ± 0.010	0.025 ± 0.006	0.028 ± 0.001	0.385 ± 0.007
	白滝地区	赤石山	130	0.173 ± 0.014	0.061 ± 0.003	0.079 ± 0.013	2.714 ± 0.142	1.340 ± 0.059	0.283 ± 0.019	0.341 ± 0.030	0.073 ± 0.026	0.028 ± 0.002	0.374 ± 0.010
		白土沢	27	0.138 ± 0.004	0.021 ± 0.002	0.102 ± 0.015	3.049 ± 0.181	1.855 ± 0.088	0.097 ± 0.016	0.492 ± 0.039	0.107 ± 0.019	0.027 ± 0.002	0.368 ± 0.006
		十勝石沢川	48	0.137 ± 0.002	0.021 ± 0.002	0.103 ± 0.005	3.013 ± 0.140	1.817 ± 0.072	0.079 ± 0.026	0.481 ± 0.026	0.103 ± 0.026	0.027 ± 0.001	0.362 ± 0.007
		八号沢	30	0.138 ± 0.010	0.022 ± 0.002	0.105 ± 0.017	3.123 ± 0.127	1.846 ± 0.065	0.105 ± 0.019	0.475 ± 0.045	0.076 ± 0.046	0.027 ± 0.008	0.359 ± 0.042
		幌加沢	48	0.139 ± 0.002	0.023 ± 0.003	0.099 ± 0.007	2.975 ± 0.172	1.794 ± 0.111	0.104 ± 0.037	0.470 ± 0.034	0.103 ± 0.040	0.027 ± 0.001	0.369 ± 0.009
		あじさい滝	34	0.139 ± 0.003	0.023 ± 0.003	0.099 ± 0.007	2.970 ± 0.179	1.792 ± 0.103	0.102 ± 0.036	0.472 ± 0.028	0.098 ± 0.046	0.027 ± 0.001	0.361 ± 0.008
		野宿沢	48	0.136 ± 0.002	0.040 ± 0.005	0.076 ± 0.004	2.546 ± 0.121	1.405 ± 0.060	0.124 ± 0.018	0.373 ± 0.018	0.076 ± 0.022	0.026 ± 0.001	0.358 ± 0.008
		近文台第１群	30	0.819 ± 0.013	0.165 ± 0.006	0.081 ± 0.010	3.266 ± 0.117	0.604 ± 0.031	0.941 ± 0.030	0.165 ± 0.020	0.039 ± 0.016	0.039 ± 0.002	0.457 ± 0.008
		近文台第２群	107	0.517 ± 0.011	0.099 ± 0.005	0.067 ± 0.090	2.773 ± 0.097	0.812 ± 0.037	0.818 ± 0.034	0.197 ± 0.024	0.041 ± 0.019	0.035 ± 0.002	0.442 ± 0.009
		近文台第３群	47	0.529 ± 0.014	0.096 ± 0.008	0.068 ± 0.018	2.746 ± 0.262	0.838 ± 0.100	0.796 ± 0.081	0.220 ± 0.043	0.035 ± 0.021	0.036 ± 0.004	0.413 ± 0.014
		台場第１群	50	1.076 ± 0.052	0.142 ± 0.005	0.072 ± 0.011	2.912 ± 0.117	0.291 ± 0.020	0.678 ± 0.035	0.126 ± 0.022	0.022 ± 0.012	0.049 ± 0.005	0.517 ± 0.014
		台場第２群	41	0.652 ± 0.085	0.122 ± 0.026	0.074 ± 0.006	3.035 ± 0.198	0.766 ± 0.034	0.845 ± 0.052	0.202 ± 0.015	0.037 ± 0.024	0.038 ± 0.002	0.416 ± 0.023
		秩父別第１群	51	0.249 ± 0.017	0.122 ± 0.006	0.078 ± 0.011	1.614 ± 0.068	0.995 ± 0.037	0.458 ± 0.023	0.235 ± 0.024	0.023 ± 0.021	0.022 ± 0.004	0.334 ± 0.013
		秩父別第２群	48	0.519 ± 0.016	0.097 ± 0.005	0.065 ± 0.016	2.705 ± 0.125	0.814 ± 0.034	0.789 ± 0.043	0.204 ± 0.025	0.032 ± 0.016	0.037 ± 0.003	0.417 ± 0.016
		滝川第１群	31	0.253 ± 0.018	0.122 ± 0.006	0.077 ± 0.009	1.613 ± 0.090	1.017 ± 0.045	0.459 ± 0.025	0.233 ± 0.029	0.038 ± 0.018	0.025 ± 0.003	0.370 ± 0.023
		滝川第２群	40	0.522 ± 0.016	0.101 ± 0.010	0.068 ± 0.019	2.751 ± 0.140	0.809 ± 0.055	0.783 ± 0.044	0.201 ± 0.030	0.040 ± 0.019	0.036 ± 0.003	0.419 ± 0.014
		生田原第１群	94	0.259 ± 0.004	0.118 ± 0.005	0.017 ± 0.001	1.304 ± 0.032	0.422 ± 0.012	0.153 ± 0.009	0.138 ± 0.007	0.009 ± 0.003	0.025 ± 0.001	0.425 ± 0.011
		生田原第２群	50	0.275 ± 0.011	0.128 ± 0.008	0.018 ± 0.001	1.349 ± 0.037	0.413 ± 0.013	0.167 ± 0.010	0.137 ± 0.006	0.008 ± 0.003	0.025 ± 0.001	0.429 ± 0.009
		社名淵群	41	0.340 ± 0.018	0.105 ± 0.009	0.054 ± 0.003	2.140 ± 0.106	0.676 ± 0.022	0.407 ± 0.040	0.223 ± 0.007	0.152 ± 0.041	0.025 ± 0.001	0.429 ± 0.009
		社名淵 -2 群	46	0.284 ± 0.004	0.077 ± 0.003	0.025 ± 0.001	1.679 ± 0.030	0.721 ± 0.019	0.234 ± 0.013	0.313 ± 0.009	0.031 ± 0.006	0.028 ± 0.001	0.382 ± 0.005
		置戸・所山	65	0.326 ± 0.008	0.128 ± 0.005	0.045 ± 0.008	1.813 ± 0.062	0.824 ± 0.034	0.454 ± 0.020	0.179 ± 0.023	0.044 ± 0.020	0.027 ± 0.002	0.547 ± 0.031
		所山・流紋岩中	52	0.272 ± 0.006	0.095 ± 0.003	0.044 ± 0.002	1.738 ± 0.070	0.947 ± 0.102	0.429 ± 0.016	0.201 ± 0.015	0.057 ± 0.026	0.023 ± 0.001	0.316 ± 0.011
		置戸・置戸山	58	0.464 ± 0.016	0.138 ± 0.005	0.049 ± 0.008	1.726 ± 0.072	0.449 ± 0.024	0.407 ± 0.023	0.133 ± 0.019	0.026 ± 0.014	0.032 ± 0.003	0.456 ± 0.010
		北見・常呂川第２群	48	0.554 ± 0.023	0.145 ± 0.009	0.037 ± 0.002	1.705 ± 0.061	0.378 ± 0.016	0.422 ± 0.022	0.115 ± 0.008	0.033 ± 0.017	0.039 ± 0.002	0.478 ± 0.029
		北見・常呂川第３群	48	0.390 ± 0.011	0.137 ± 0.006	0.030 ± 0.006	1.510 ± 0.059	0.372 ± 0.018	0.238 ± 0.014	0.179 ± 0.019	0.029 ± 0.015	0.033 ± 0.004	0.414 ± 0.011
		北見・常呂川第４群	50	0.291 ± 0.017	0.109 ± 0.008	0.046 ± 0.012	1.812 ± 0.098	0.807 ± 0.041	0.445 ± 0.029	0.192 ± 0.033	0.034 ± 0.015	0.031 ± 0.003	0.362 ± 0.023
		北見・常呂川第５群	51	0.470 ± 0.034	0.116 ± 0.015	0.044 ± 0.004	1.932 ± 0.161	0.503 ± 0.045	0.459 ± 0.080	0.153 ± 0.012	0.043 ± 0.020	0.034 ± 0.002	0.418 ± 0.031
		北見・常呂川第６群	48	0.851 ± 0.006	0.224 ± 0.004	0.045 ± 0.001	2.347 ± 0.032	0.409 ± 0.010	0.706 ± 0.014	0.116 ± 0.006	0.029 ± 0.015	0.033 ± 0.001	0.426 ± 0.008
		北見・常呂川第７群	48	0.510 ± 0.017	0.098 ± 0.004	0.053 ± 0.001	2.667 ± 0.038	0.529 ± 0.013	0.688 ± 0.016	0.154 ± 0.006	0.014 ± 0.007	0.028 ± 0.001	0.351 ± 0.013
		北見・常呂川第８群	48	0.358 ± 0.005	0.113 ± 0.004	0.027 ± 0.001	1.799 ± 0.023	0.603 ± 0.013	0.273 ± 0.013	0.214 ± 0.006	0.023 ± 0.006	0.026 ± 0.001	0.352 ± 0.007
		ケショマップ第１群	68	0.575 ± 0.056	0.110 ± 0.011	0.051 ± 0.011	2.555 ± 0.086	0.595 ± 0.058	0.636 ± 0.027	0.167 ± 0.027	0.037 ± 0.020	0.030 ± 0.003	0.397 ± 0.013
		ケショマップ第２群	65	0.676 ± 0.011	0.145 ± 0.005	0.056 ± 0.014	2.631 ± 0.126	0.606 ± 0.030	0.712 ± 0.032	0.170 ± 0.028	0.030 ± 0.013	0.030 ± 0.003	0.392 ± 0.010
		ケショマップ第０群	46	0.772 ± 0.020	0.178 ± 0.007	0.053 ± 0.003	2.569 ± 0.073	0.521 ± 0.023	0.720 ± 0.023	0.150 ± 0.008	0.032 ± 0.008	0.032 ± 0.001	0.396 ± 0.009
	十勝	十勝三股	60	0.256 ± 0.018	0.074 ± 0.005	0.068 ± 0.010	2.281 ± 0.087	1.097 ± 0.055	0.434 ± 0.023	0.334 ± 0.029	0.064 ± 0.025	0.029 ± 0.002	0.396 ± 0.013
		美蔓第１群	41	0.499 ± 0.020	0.124 ± 0.007	0.052 ± 0.010	2.635 ± 0.181	0.802 ± 0.061	0.707 ± 0.044	0.199 ± 0.029	0.039 ± 0.023	0.033 ± 0.002	0.442 ± 0.015
		美蔓第２群	28	0.593 ± 0.036	0.144 ± 0.012	0.056 ± 0.010	3.028 ± 0.251	0.762 ± 0.040	0.764 ± 0.051	0.197 ± 0.026	0.038 ± 0.022	0.034 ± 0.002	0.449 ± 0.009
		上足寄	44	2.950 ± 0.683	1.245 ± 0.294	0.210 ± 0.018	11.582 ± 1.176	0.178 ± 0.026	1.652 ± 0.117	0.188 ± 0.013	0.025 ± 0.012	0.045 ± 0.010	0.420 ± 0.103
		津別・相生	51	4.303 ± 0.693	1.827 ± 0.324	0.206 ± 0.020	11.178 ± 1.552	0.154 ± 0.012	1.625 ± 0.105	0.177 ± 0.012	0.023 ± 0.013	0.067 ± 0.008	0.635 ± 0.074
		釧路空港	46	2.940 ± 0.402	1.260 ± 0.185	0.222 ± 0.006	12.161 ± 0.337	0.158 ± 0.013	1.737 ± 0.053	0.180 ± 0.016	0.028 ± 0.014	0.043 ± 0.006	0.398 ± 0.058
		釧路・上阿寒	44	0.254 ± 0.009	0.074 ± 0.005	0.069 ± 0.027	2.314 ± 0.094	1.117 ± 0.062	0.428 ± 0.023	0.341 ± 0.021	0.077 ± 0.019	0.029 ± 0.001	0.392 ± 0.011
		鵡川・久著呂川	50	1.004 ± 0.040	0.465 ± 0.023	0.066 ± 0.027	2.565 ± 0.991	0.196 ± 0.029	0.808 ± 0.034	0.142 ± 0.004	0.056 ± 0.019	0.047 ± 0.001	1.004 ± 0.022
		赤井川第１群	50	0.254 ± 0.029	0.070 ± 0.004	0.086 ± 0.010	2.213 ± 0.104	0.969 ± 0.060	0.428 ± 0.021	0.249 ± 0.024	0.058 ± 0.023	0.027 ± 0.002	0.371 ± 0.009
		赤井川第２群	30	0.258 ± 0.065	0.072 ± 0.002	0.080 ± 0.010	2.207 ± 0.083	0.970 ± 0.045	0.436 ± 0.026	0.245 ± 0.021	0.021 ± 0.029	0.025 ± 0.007	0.371 ± 0.007
		豊泉第１群	75	0.473 ± 0.019	0.148 ± 0.007	0.060 ± 0.015	1.764 ± 0.072	0.438 ± 0.027	0.607 ± 0.028	0.157 ± 0.020	0.025 ± 0.017	0.032 ± 0.002	0.469 ± 0.013
		豊泉第２群	40	0.377 ± 0.009	0.133 ± 0.006	0.055 ± 0.008	1.723 ± 0.066	0.516 ± 0.019	0.513 ± 0.018	0.177 ± 0.016	0.007 ± 0.015	0.030 ± 0.005	0.431 ± 0.010
		奥尻島・幌内川	58	0.285 ± 0.026	0.087 ± 0.005	0.193 ± 0.032	1.834 ± 0.182	2.043 ± 0.224	1.475 ± 0.207	0.269 ± 0.068	0.085 ± 0.031	0.031 ± 0.004	0.347 ± 0.011
青森県		折腰内	35	0.190 ± 0.015	0.075 ± 0.003	0.040 ± 0.008	1.575 ± 0.066	1.241 ± 0.046	0.318 ± 0.014	0.141 ± 0.033	0.076 ± 0.021	0.024 ± 0.002	0.348 ± 0.010
		出来島	27	0.346 ± 0.022	0.132 ± 0.007	0.231 ± 0.019	2.268 ± 0.085	0.865 ± 0.044	1.106 ± 0.056	0.399 ± 0.038	0.179 ± 0.031	0.038 ± 0.003	0.499 ± 0.013
	深浦	六角沢	36	0.080 ± 0.008	0.097 ± 0.011	0.013 ± 0.002	0.697 ± 0.021	0.128 ± 0.008	0.002 ± 0.002	0.064 ± 0.007	0.035 ± 0.004	0.026 ± 0.002	0.379 ± 0.010
		八森山	41	0.077 ± 0.005	0.098 ± 0.003	0.013 ± 0.002	0.701 ± 0.018	0.134 ± 0.005	0.002 ± 0.002	0.070 ± 0.005	0.034 ± 0.006	0.027 ± 0.005	0.384 ± 0.009
	青森市	戸門第１群	28	0.250 ± 0.024	0.069 ± 0.003	0.068 ± 0.012	2.358 ± 0.257	1.168 ± 0.062	0.521 ± 0.063	0.277 ± 0.065	0.076 ± 0.025	0.026 ± 0.002	0.362 ± 0.015
		戸門第２群	28	0.084 ± 0.006	0.104 ± 0.004	0.013 ± 0.002	0.691 ± 0.021	0.123 ± 0.006	0.002 ± 0.002	0.069 ± 0.010	0.033 ± 0.005	0.025 ± 0.002	0.369 ± 0.007
		鶴ケ坂	33	0.344 ± 0.017	0.132 ± 0.007	0.232 ± 0.023	2.261 ± 0.143	0.861 ± 0.052	1.081 ± 0.060	0.390 ± 0.039	0.186 ± 0.037	0.037 ± 0.002	0.496 ± 0.018
		鷹森山	45	0.250 ± 0.009	0.066 ± 0.003	0.074 ± 0.009	2.547 ± 0.131	1.153 ± 0.066	0.551 ± 0.031	0.284 ± 0.031	0.049 ± 0.037	0.028 ± 0.005	0.381 ± 0.010
		西田沢	52	0.250 ± 0.004	0.066 ± 0.003	0.072 ± 0.003	2.445 ± 0.083	1.121 ± 0.032	0.539 ± 0.025	0.239 ± 0.025	0.060 ± 0.026	0.029 ± 0.001	0.381 ± 0.006
		下湯川	36	9.673 ± 0.479	2.703 ± 0.149	3.267 ± 0.217	21.648 ± 1.500	0.090 ± 0.021	1.708 ± 0.102	0.155 ± 0.015	0.169 ± 0.031	0.053 ± 0.042	0.858 ± 0.088
		大釈迦	64	0.252 ± 0.012	0.066 ± 0.003	0.074 ± 0.012	2.516 ± 0.148	1.149 ± 0.063	0.548 ± 0.035	0.284 ± 0.032	0.044 ± 0.035	0.028 ± 0.002	0.383 ± 0.010
		黒石	41	8.905 ± 0.243	2.484 ± 0.055	0.161 ± 0.018	7.570 ± 0.336	0.068 ± 0.014	1.621 ± 0.063	0.244 ± 0.022	0.027 ± 0.014	0.124 ± 0.014	1.409 ± 0.044
秋田県	男鹿	金ケ崎	43	0.294 ± 0.009	0.087 ± 0.004	0.220 ± 0.018	1.644 ± 0.081	1.493 ± 0.081	0.930 ± 0.043	0.287 ± 0.039	0.098 ± 0.040	0.029 ± 0.002	0.368 ± 0.008
		脇本	45	0.295 ± 0.008	0.087 ± 0.004	0.219 ± 0.017	1.671 ± 0.077	1.503 ± 0.072	0.939 ± 0.054	0.286 ± 0.045	0.108 ± 0.034	0.028 ± 0.006	0.367 ± 0.009
山形県		月山	44	0.285 ± 0.021	0.123 ± 0.007	0.182 ± 0.016	1.906 ± 0.096	0.966 ± 0.069	1.022 ± 0.071	0.276 ± 0.036	0.119 ± 0.033	0.033 ± 0.002	0.443 ± 0.014
		寒河江	45	0.385 ± 0.008	0.116 ± 0.005	0.049 ± 0.017	1.806 ± 0.054	0.580 ± 0.025	0.441 ± 0.023	0.212 ± 0.020	0.056 ± 0.015	0.033 ± 0.003	0.460 ± 0.010
岩手県		雫石	25	0.636 ± 0.033	0.187 ± 0.012	0.052 ± 0.007	1.764 ± 0.061	0.305 ± 0.016	0.431 ± 0.021	0.209 ± 0.016	0.045 ± 0.014	0.041 ± 0.003	0.594 ± 0.014
		折居第１群	37	0.632 ± 0.033	0.185 ± 0.013	0.052 ± 0.002	1.766 ± 0.048	0.307 ± 0.017	0.420 ± 0.026	0.205 ± 0.015	0.039 ± 0.016	0.040 ± 0.001	0.579 ± 0.019
		折居第２群	54	0.708 ± 0.033	0.143 ± 0.008	0.061 ± 0.002	1.826 ± 0.048	0.179 ± 0.010	0.246 ± 0.022	0.416 ± 0.012	0.112 ± 0.014	0.057 ± 0.001	0.805 ± 0.012
		花泉	29	0.602 ± 0.044	0.175 ± 0.015	0.053 ± 0.003	1.781 ± 0.068	0.313 ± 0.020	0.416 ± 0.027	0.214 ± 0.013	0.036 ± 0.016	0.040 ± 0.002	0.576 ± 0.037
宮城県		湯倉	21	2.174 ± 0.068	0.349 ± 0.017	0.057 ± 0.005	2.544 ± 0.149	0.116 ± 0.009	0.658 ± 0.024	0.138 ± 0.015	0.020 ± 0.013	0.073 ± 0.003	0.956 ± 0.040
		塩釜	37	4.828 ± 0.395	1.630 ± 0.104	0.178 ± 0.017	11.362 ± 1.150	0.168 ± 0.018	1.298 ± 0.063	0.155 ± 0.016	0.037 ± 0.018	0.077 ± 0.002	0.720 ± 0.032
栃木県		高原山	40	0.738 ± 0.067	0.200 ± 0.010	0.044 ± 0.007	2.016 ± 0.110	0.381 ± 0.025	0.502 ± 0.028	0.190 ± 0.017	0.023 ± 0.014	0.036 ± 0.002	0.516 ± 0.012
東京都		神津島第１群	56	0.381 ± 0.014	0.136 ± 0.005	0.102 ± 0.011	1.729 ± 0.079	0.471 ± 0.027	0.689 ± 0.037	0.247 ± 0.021	0.090 ± 0.026	0.036 ± 0.003	0.504 ± 0.012
		神津島第２群	46	0.317 ± 0.021	0.120 ± 0.007	0.114 ± 0.005	1.833 ± 0.089	0.615 ± 0.044	0.656 ± 0.064	0.303 ± 0.029	0.107 ± 0.057	0.033 ± 0.001	0.471 ± 0.022
		長根	40	0.318 ± 0.020	0.120 ± 0.005	0.118 ± 0.014	1.805 ± 0.096	0.614 ± 0.036	0.664 ± 0.045	0.291 ± 0.029	0.093 ± 0.039	0.034 ± 0.006	0.476 ± 0.012
神奈川県		箱根・笹塚	30	6.765 ± 0.254	2.219 ± 0.057	0.228 ± 0.019	9.282 ± 0.622	0.048 ± 0.017	1.757 ± 0.061	0.252 ± 0.017	0.025 ± 0.019	0.140 ± 0.008	1.528 ± 0.046
		箱根・畑宿	41	2.056 ± 0.064	0.669 ± 0.019	0.076 ± 0.007	2.912 ± 0.104	0.062 ± 0.007	0.680 ± 0.029	0.202 ± 0.011	0.011 ± 0.010	0.080 ± 0.005	1.126 ± 0.031
		鍛冶屋	31	1.663 ± 0.071	0.381 ± 0.019	0.056 ± 0.007	2.139 ± 0.097	0.073 ± 0.008	0.629 ± 0.025	0.154 ± 0.009	0.011 ± 0.009	0.067 ± 0.005	0.904 ± 0.020
		熱海峠	52	2.225 ± 0.149	0.506 ± 0.015	0.042 ± 0.009	2.228 ± 0.164	0.085 ± 0.008	0.737 ± 0.039	0.135 ± 0.013	0.007 ± 0.007	0.071 ± 0.006	0.880 ± 0.033
静岡県		上多賀	31	1.329 ± 0.078	0.294 ± 0.018	0.041 ± 0.006	1.697 ± 0.068	0.087 ± 0.009	0.551 ± 0.023	0.138 ± 0.011	0.010 ± 0.009	0.059 ± 0.004	0.856 ± 0.018
		柏峠西	35	1.213 ± 0.164	0.314 ± 0.028	0.031 ± 0.004	1.699 ± 0.167	0.113 ± 0.007	0.391 ± 0.022	0.143 ± 0.007	0.009 ± 0.009	0.047 ± 0.004	0.663 ± 0.020
		小豆峠	40	0.110 ± 0.008	0.052 ± 0.004	0.297 ± 0.038	3.211 ± 0.319	0.829 ± 0.089	0.154 ± 0.030	0.547 ± 0.054	0.087 ± 0.057	0.025 ± 0.014	0.429 ± 0.016
富山県		魚津	42	0.278 ± 0.012	0.065 ± 0.003	0.064 ± 0.013	2.013 ± 0.119	0.878 ± 0.052	0.599 ± 0.039	0.190 ± 0.029	0.077 ± 0.033	0.031 ± 0.004	0.353 ± 0.012
	高岡市	二上山第１群	36	0.319 ± 0.017	0.113 ± 0.006	0.040 ± 0.008	1.720 ± 0.080	0.740 ± 0.052	0.665 ± 0.029	0.121 ± 0.026	0.047 ± 0.031	0.015 ± 0.014	0.392 ± 0.018
		二上山第２群	40	0.710 ± 0.017	0.202 ± 0.008	0.054 ± 0.011	1.994 ± 0.152	0.413 ± 0.028	0.840 ± 0.050	0.118 ± 0.025	0.051 ± 0.031	0.020 ± 0.020	0.599 ± 0.024
		二上山第３群	45	0.441 ± 0.052	0.108 ± 0.014	0.079 ± 0.021	2.251 ± 0.138	0.794 ± 0.155	1.222 ± 0.088	0.127 ± 0.041	0.067 ± 0.053	0.015 ± 0.014	0.412 ± 0.025
長野県		霧ケ峰	168	0.156 ± 0.010	0.068 ± 0.003	0.101 ± 0.018	1.331 ± 0.070	1.052 ± 0.051	0.360 ± 0.030	0.275 ± 0.039	0.090 ± 0.035	0.029 ± 0.003	0.346 ± 0.011
		鷹音沢	72	0.159 ± 0.010	0.069 ± 0.002	0.100 ± 0.019	1.324 ± 0.084	1.055 ± 0.057	0.368 ± 0.033	0.279 ± 0.032	0.086 ± 0.033	0.030 ± 0.003	0.345 ± 0.010
		和田峠第１群	143	0.167 ± 0.028	0.049 ± 0.008	0.117 ± 0.011	1.346 ± 0.085	1.853 ± 0.124	0.112 ± 0.056	0.409 ± 0.048	0.139 ± 0.026	0.025 ± 0.002	0.355 ± 0.016
		和田峠第２群	32	0.147 ± 0.004	0.032 ± 0.003	0.153 ± 0.011	1.481 ± 0.084	2.487 ± 0.169	0.027 ± 0.024	0.527 ± 0.040	0.185 ± 0.023	0.026 ± 0.001	0.363 ± 0.010
		和田峠第３群	57	0.247 ± 0.043	0.064 ± 0.012	0.114 ± 0.011	1.509 ± 0.173	1.667 ± 0.135	0.275 ± 0.097	0.372 ± 0.046	0.122 ± 0.024	0.025 ± 0.003	0.347 ± 0.017
		和田峠第４群	37	0.144 ± 0.017	0.063 ± 0.004	0.094 ± 0.009	1.373 ± 0.085	1.311 ± 0.037	0.206 ± 0.030	0.263 ± 0.038	0.090 ± 0.022	0.023 ± 0.002	0.331 ± 0.019
		和田峠第５群	47	0.176 ± 0.019	0.075 ± 0.010	0.073 ± 0.011	1.282 ± 0.086	1.053 ± 0.196	0.275 ± 0.058	0.184 ± 0.042	0.066 ± 0.023	0.021 ± 0.002	0.306 ± 0.013
		和田峠第６群	53	0.156 ± 0.011	0.055 ± 0.005	0.095 ± 0.012	1.333 ± 0.064	1.523 ± 0.093	0.134 ± 0.031	0.279 ± 0.039	0.010 ± 0.017	0.021 ± 0.002	0.313 ± 0.012
		鷹山・和田	53	0.138 ± 0.004	0.042 ± 0.002	0.123 ± 0.010	1.259 ± 0.041	1.978 ± 0.067	0.045 ± 0.010	0.442 ± 0.039	0.142 ± 0.022	0.026 ± 0.002	0.360 ± 0.010
		男女倉	101	0.223 ± 0.024	0.103 ± 0.009	0.058 ± 0.008	1.164 ± 0.078	0.693 ± 0.101	0.409 ± 0.046	0.126 ± 0.022	0.052 ± 0.017	0.026 ± 0.002	0.354 ± 0.008
		高松沢	53	0.206 ± 0.017	0.090 ± 0.005	0.064 ± 0.008	1.257 ± 0.069	0.850 ± 0.077	0.357 ± 0.034	0.149 ± 0.026	0.056 ± 0.017	0.022 ± 0.002	0.318 ± 0.008
		うつぎ沢	81	0.222 ± 0.014	0.099 ± 0.006	0.058 ± 0.008	1.189 ± 0.060	0.748 ± 0.075	0.392 ± 0.031	0.140 ± 0.022	0.046 ± 0.021	0.025 ± 0.005	0.340 ± 0.009
		立科	49	0.155 ± 0.007	0.068 ± 0.003	0.102 ± 0.018	1.320 ± 0.077	1.033 ± 0.063	0.362 ± 0.030	0.285 ± 0.035	0.104 ± 0.040	0.030 ± 0.003	0.356 ± 0.011
		麦草峠	97	0.274 ± 0.017	0.136 ± 0.010	0.051 ± 0.012	1.397 ± 0.099	0.542 ± 0.058	0.736 ± 0.044	0.110 ± 0.024	0.043 ± 0.017	0.031 ± 0.003	0.383 ± 0.013
		双子池	83	0.252 ± 0.027	0.129 ± 0.007	0.059 ± 0.010	1.630 ± 0.179	0.669 ± 0.052	0.802 ± 0.058	0.111 ± 0.024	0.037 ± 0.032	0.027 ± 0.007	0.401 ± 0.011
		冷山	87	0.267 ± 0.011	0.134 ± 0.006	0.048 ± 0.013	1.382 ± 0.066	0.546 ± 0.034	0.727 ± 0.036	0.109 ± 0.031	0.045 ± 0.022	0.031 ± 0.004	0.381 ± 0.011
		大窪沢	42	1.481 ± 0.117	0.466 ± 0.021	0.042 ± 0.006	2.005 ± 0.135	0.182 ± 0.011	0.841 ± 0.044	0.105 ± 0.010	0.009 ± 0.008	0.033 ± 0.005	0.459 ± 0.012
		横川	41	3.047 ± 0.066	1.071 ± 0.026	0.115 ± 0.015	7.380 ± 0.366	0.158 ± 0.016	0.833 ± 0.040	0.186 ± 0.015	0.023 ± 0.012	0.045 ± 0.005	0.513 ± 0.021
新潟県		佐渡第１群	34	0.228 ± 0.013	0.078 ± 0.006	0.020 ± 0.005	1.492 ± 0.079	0.821 ± 0.047	0.288 ± 0.018	0.142 ± 0.018	0.049 ± 0.017	0.024 ± 0.004	0.338 ± 0.013
		佐渡第２群	12	0.263 ± 0.032	0.097 ± 0.018	0.020 ± 0.006	1.501 ± 0.053	0.717 ± 0.106	0.326 ± 0.029	0.091 ± 0.022	0.046 ± 0.015	0.026 ± 0.002	0.338 ± 0.009
		上石川	45	0.321 ± 0.007	0.070 ± 0.003	0.069 ± 0.011	2.051 ± 0.070	0.981 ± 0.042	0.773 ± 0.034	0.182 ± 0.023	0.038 ± 0.027	0.026

原産地原石群名		分析個数	元素比									
			Ca／K	Ti／K	Mn／Zr	Fe／Zr	Rb／Zr	Sr／Zr	Y／Zr	Nb／Zr	Al／K	Si／K
佐賀県	中野第１群	39	0.267 ± 0.007	0.087 ± 0.003	0.027 ± 0.005	1.619 ± 0.083	0.628 ± 0.028	0.348 ± 0.015	0.103 ± 0.018	0.075 ± 0.018	0.023 ± 0.007	0.321 ± 0.011
	中野第２群	40	0.345 ± 0.007	0.104 ± 0.003	0.027 ± 0.005	1.535 ± 0.039	0.455 ± 0.017	0.397 ± 0.014	0.069 ± 0.016	0.059 ± 0.014	0.026 ± 0.008	0.328 ± 0.008
	梅野	39	0.657 ± 0.014	0.202 ± 0.006	0.071 ± 0.013	4.239 ± 0.205	1.046 ± 0.065	1.269 ± 0.058	0.104 ± 0.032	0.380 ± 0.047	0.028 ± 0.005	0.345 ± 0.009
	腰岳	44	0.211 ± 0.009	0.031 ± 0.005	0.075 ± 0.019	2.572 ± 0.212	1.600 ± 0.086	0.414 ± 0.042	0.311 ± 0.046	0.256 ± 0.043	0.025 ± 0.002	0.335 ± 0.008
	椎葉川	59	0.414 ± 0.009	0.071 ± 0.003	0.101 ± 0.017	2.947 ± 0.142	1.253 ± 0.081	2.015 ± 0.099	0.147 ± 0.035	0.255 ± 0.040	0.030 ± 0.007	0.388 ± 0.009
	松尾第１群	40	0.600 ± 0.067	0.153 ± 0.029	0.125 ± 0.018	4.692 ± 0.369	1.170 ± 0.114	2.023 ± 0.122	0.171 ± 0.032	0.255 ± 0.037	0.032 ± 0.003	0.376 ± 0.008
	松尾第２群	40	0.953 ± 0.027	0.307 ± 0.010	0.126 ± 0.013	6.666 ± 0.342	0.856 ± 0.070	1.907 ± 0.119	0.147 ± 0.029	0.194 ± 0.028	0.033 ± 0.008	0.383 ± 0.010
大分県 姫島地域	観音崎	42	0.223 ± 0.010	0.046 ± 0.005	0.409 ± 0.086	6.691 ± 0.878	1.805 ± 0.257	1.562 ± 0.231	0.344 ± 0.087	0.579 ± 0.126	0.039 ± 0.003	0.400 ± 0.011
	両瀬第１群	51	0.226 ± 0.011	0.045 ± 0.003	0.411 ± 0.066	6.743 ± 0.900	1.845 ± 0.286	1.553 ± 0.230	0.318 ± 0.087	0.560 ± 0.144	0.038 ± 0.004	0.401 ± 0.012
	＊両瀬第２群	50	0.649 ± 0.044	0.141 ± 0.010	0.186 ± 0.046	4.355 ± 0.683	0.610 ± 0.095	3.017 ± 0.459	0.142 ± 0.050	0.188 ± 0.056	0.041 ± 0.004	0.427 ± 0.014
	＊両瀬第３群	46	1.038 ± 0.131	0.211 ± 0.024	0.110 ± 0.027	3.367 ± 0.617	0.311 ± 0.058	3.756 ± 0.668	0.105 ± 0.030	0.094 ± 0.037	0.042 ± 0.007	0.442 ± 0.021
	＊オイ崎	50	1.059 ± 0.143	0.214 ± 0.030	0.120 ± 0.043	3.598 ± 1.035	0.335 ± 0.106	4.000 ± 1.162	0.118 ± 0.048	0.092 ± 0.036	0.044 ± 0.004	0.449 ± 0.018
	＊稲積	45	0.680 ± 0.061	0.145 ± 0.013	0.168 ± 0.037	4.397 ± 0.776	0.612 ± 0.095	3.080 ± 0.476	0.147 ± 0.046	0.194 ± 0.060	0.041 ± 0.005	0.431 ± 0.015
	塚瀬	30	0.313 ± 0.023	0.127 ± 0.009	0.065 ± 0.010	1.489 ± 0.124	0.600 ± 0.051	0.686 ± 0.082	0.175 ± 0.018	0.102 ± 0.020	0.028 ± 0.002	0.371 ± 0.009
	荻台地	50	1.615 ± 0.042	0.670 ± 0.013	0.096 ± 0.008	5.509 ± 0.269	0.284 ± 0.031	1.526 ± 0.053	0.097 ± 0.016	0.032 ± 0.018	0.032 ± 0.005	0.310 ± 0.011
	緒方下尾平	64	0.482 ± 0.036	0.286 ± 0.015	0.051 ± 0.008	1.361 ± 0.095	0.303 ± 0.019	0.712 ± 0.043	0.089 ± 0.018	0.055 ± 0.021	0.012 ± 0.010	0.288 ± 0.016
長崎県 壱岐島	久喜ノ辻	37	0.172 ± 0.009	0.066 ± 0.002	0.030 ± 0.005	1.176 ± 0.043	0.385 ± 0.012	0.011 ± 0.004	0.135 ± 0.018	0.354 ± 0.014	0.023 ± 0.002	0.276 ± 0.007
	君ケ浦	28	0.174 ± 0.007	0.065 ± 0.002	0.033 ± 0.006	1.174 ± 0.035	0.389 ± 0.012	0.013 ± 0.005	0.129 ± 0.014	0.356 ± 0.012	0.023 ± 0.003	0.275 ± 0.008
	角川	28	0.146 ± 0.009	0.038 ± 0.002	0.059 ± 0.009	1.691 ± 0.100	1.726 ± 0.085	0.035 ± 0.008	0.344 ± 0.040	0.717 ± 0.047	0.023 ± 0.002	0.338 ± 0.010
	貝畑	49	0.135 ± 0.010	0.037 ± 0.002	0.056 ± 0.009	1.746 ± 0.073	1.834 ± 0.064	0.022 ± 0.013	0.334 ± 0.046	0.714 ± 0.040	0.021 ± 0.009	0.339 ± 0.015
	松浦第１群	42	0.213 ± 0.005	0.031 ± 0.004	0.073 ± 0.006	2.545 ± 0.134	1.579 ± 0.079	0.420 ± 0.034	0.292 ± 0.019	0.258 ± 0.037	0.027 ± 0.003	0.341 ± 0.011
	松浦第２群	42	0.190 ± 0.012	0.032 ± 0.006	0.068 ± 0.011	2.371 ± 0.323	1.582 ± 0.199	0.315 ± 0.069	0.276 ± 0.055	0.210 ± 0.056	0.026 ± 0.003	0.336 ± 0.010
	松浦第３群	42	0.244 ± 0.016	0.063 ± 0.010	0.046 ± 0.007	1.880 ± 0.200	0.836 ± 0.121	0.368 ± 0.098	0.145 ± 0.019	0.127 ± 0.030	0.026 ± 0.003	0.329 ± 0.020
	松浦第４群	41	0.288 ± 0.014	0.070 ± 0.006	0.042 ± 0.003	1.833 ± 0.086	0.717 ± 0.179	0.451 ± 0.040	0.111 ± 0.010	0.123 ± 0.022	0.027 ± 0.003	0.341 ± 0.012
	淀姫	44	0.334 ± 0.014	0.080 ± 0.004	0.044 ± 0.009	1.744 ± 0.069	0.533 ± 0.030	0.485 ± 0.039	0.094 ± 0.022	0.119 ± 0.017	0.027 ± 0.002	0.353 ± 0.011
	中町第１群	42	0.244 ± 0.011	0.060 ± 0.010	0.057 ± 0.004	1.866 ± 0.089	0.810 ± 0.087	0.398 ± 0.039	0.135 ± 0.017	0.146 ± 0.026	0.025 ± 0.001	0.342 ± 0.007
	中町第２群	42	0.319 ± 0.042	0.079 ± 0.023	0.046 ± 0.003	1.793 ± 0.089	0.666 ± 0.091	0.482 ± 0.044	0.118 ± 0.018	0.101 ± 0.024	0.025 ± 0.001	0.333 ± 0.015
	古里第１群	50	0.202 ± 0.012	0.029 ± 0.004	0.076 ± 0.018	2.628 ± 0.214	1.695 ± 0.146	0.403 ± 0.060	0.319 ± 0.073	0.233 ± 0.074	0.030 ± 0.003	0.342 ± 0.011
	古里第２群	40	0.423 ± 0.016	0.075 ± 0.007	0.089 ± 0.017	2.797 ± 0.274	1.148 ± 0.133	1.814 ± 0.192	0.103 ± 0.060	0.208 ± 0.053	0.034 ± 0.003	0.367 ± 0.009
	古里第３群	41	0.265 ± 0.032	0.064 ± 0.009	0.046 ± 0.010	1.931 ± 0.143	0.799 ± 0.110	0.433 ± 0.049	0.122 ± 0.041	0.119 ± 0.044	0.031 ± 0.003	0.347 ± 0.010
	松店	43	0.194 ± 0.009	0.054 ± 0.005	0.040 ± 0.008	1.686 ± 0.114	0.833 ± 0.058	0.251 ± 0.025	0.192 ± 0.032	0.124 ± 0.039	0.018 ± 0.011	0.331 ± 0.017
	大崎	74	0.176 ± 0.012	0.053 ± 0.002	0.041 ± 0.012	1.710 ± 0.081	0.912 ± 0.036	0.181 ± 0.022	0.202 ± 0.029	0.133 ± 0.024	0.023 ± 0.002	0.319 ± 0.010
熊本県	小国	30	0.317 ± 0.023	0.127 ± 0.005	0.063 ± 0.007	1.441 ± 0.070	0.611 ± 0.032	0.703 ± 0.044	0.175 ± 0.233	0.097 ± 0.017	0.023 ± 0.002	0.329 ± 0.007
	南関	30	0.261 ± 0.016	0.214 ± 0.007	0.034 ± 0.003	0.788 ± 0.033	0.326 ± 0.012	0.278 ± 0.015	0.069 ± 0.012	0.031 ± 0.009	0.021 ± 0.002	0.243 ± 0.008
	轟	44	0.258 ± 0.009	0.214 ± 0.006	0.033 ± 0.005	0.794 ± 0.078	0.329 ± 0.017	0.275 ± 0.010	0.066 ± 0.011	0.033 ± 0.009	0.020 ± 0.003	0.243 ± 0.008
	大津	53	1.534 ± 0.139	0.665 ± 0.035	0.075 ± 0.008	4.494 ± 0.460	0.247 ± 0.014	1.236 ± 0.092	0.090 ± 0.018	0.041 ± 0.012	0.030 ± 0.003	0.292 ± 0.010
	冠ケ岳	21	0.261 ± 0.012	0.211 ± 0.008	0.032 ± 0.003	0.780 ± 0.038	0.324 ± 0.011	0.279 ± 0.017	0.064 ± 0.011	0.037 ± 0.006	0.025 ± 0.002	0.277 ± 0.009
	滝室坂	57	1.599 ± 0.107	0.722 ± 0.046	0.085 ± 0.011	6.205 ± 0.305	0.256 ± 0.018	1.154 ± 0.055	0.103 ± 0.014	0.047 ± 0.013	0.027 ± 0.004	0.247 ± 0.016
	箱石峠	84	0.791 ± 0.082	0.279 ± 0.009	0.045 ± 0.005	1.208 ± 0.023	0.279 ± 0.018	0.811 ± 0.046	0.046 ± 0.012	0.029 ± 0.014	0.031 ± 0.009	0.366 ± 0.033
	長谷峠	53	1.668 ± 0.165	0.694 ± 0.036	0.080 ± 0.010	4.977 ± 0.587	0.253 ± 0.015	1.335 ± 0.104	0.098 ± 0.016	0.040 ± 0.008	0.031 ± 0.003	0.295 ± 0.012
	五ケ瀬川	48	1.471 ± 0.136	0.602 ± 0.041	0.078 ± 0.011	4.838 ± 0.634	0.252 ± 0.016	1.288 ± 0.124	0.101 ± 0.014	0.043 ± 0.013	0.027 ± 0.003	0.265 ± 0.020
	御船	49	1.558 ± 0.146	0.651 ± 0.030	0.075 ± 0.011	4.571 ± 0.572	0.257 ± 0.016	1.252 ± 0.112	0.091 ± 0.016	0.040 ± 0.009	0.030 ± 0.004	0.291 ± 0.010
	白浜	78	0.208 ± 0.021	0.101 ± 0.009	0.024 ± 0.006	1.382 ± 0.086	1.021 ± 0.099	0.351 ± 0.037	0.162 ± 0.027	0.027 ± 0.022	0.022 ± 0.007	0.317 ± 0.009
宮崎県	桑ノ木津留第１群	47	0.207 ± 0.015	0.094 ± 0.006	0.070 ± 0.009	1.521 ± 0.075	1.080 ± 0.048	0.418 ± 0.020	0.266 ± 0.034	0.063 ± 0.024	0.020 ± 0.003	0.314 ± 0.011
	桑ノ木津留第２群	33	0.261 ± 0.015	0.094 ± 0.006	0.066 ± 0.010	1.743 ± 0.095	1.242 ± 0.060	0.753 ± 0.039	0.205 ± 0.029	0.047 ± 0.036	0.022 ± 0.002	0.323 ± 0.019
	霧島	36	35.158 ± 1.118	5.001 ± 0.175	0.041 ± 0.002	0.038 ± 0.002	0.009 ± 0.004	0.155 ± 0.005	0.035 ± 0.019	0.000 ± 0.000	0.035 ± 0.019	0.446 ± 0.022
鹿児島県	開根ケ平第１群	45	0.186 ± 0.010	0.083 ± 0.005	0.047 ± 0.008	1.611 ± 0.079	0.948 ± 0.055	0.340 ± 0.032	0.281 ± 0.031	0.041 ± 0.032	0.022 ± 0.008	0.358 ± 0.014
	開根ケ平第２群	45	0.247 ± 0.018	0.106 ± 0.006	0.047 ± 0.008	1.488 ± 0.074	0.768 ± 0.034	0.428 ± 0.049	0.235 ± 0.020	0.039 ± 0.027	0.024 ± 0.008	0.378 ± 0.013
	開根ケ平第３群	42	0.584 ± 0.012	0.176 ± 0.005	0.037 ± 0.007	1.484 ± 0.097	0.449 ± 0.031	0.675 ± 0.049	0.143 ± 0.023	0.036 ± 0.022	0.023 ± 0.014	0.390 ± 0.019
	日東	42	0.262 ± 0.018	0.143 ± 0.006	0.022 ± 0.004	1.178 ± 0.040	0.712 ± 0.028	0.408 ± 0.025	0.100 ± 0.018	0.029 ± 0.013	0.019 ± 0.001	0.275 ± 0.006
	五女木	37	0.266 ± 0.021	0.140 ± 0.006	0.019 ± 0.003	1.170 ± 0.064	0.705 ± 0.027	0.405 ± 0.021	0.108 ± 0.015	0.028 ± 0.013	0.019 ± 0.001	0.275 ± 0.006
	上牛鼻	41	1.629 ± 0.098	0.804 ± 0.037	0.053 ± 0.006	3.342 ± 0.215	0.188 ± 0.013	1.105 ± 0.056	0.087 ± 0.009	0.022 ± 0.009	0.036 ± 0.002	0.391 ± 0.011
	平木場	34	1.944 ± 0.054	0.912 ± 0.028	0.062 ± 0.005	3.975 ± 0.182	0.184 ± 0.011	1.266 ± 0.049	0.093 ± 0.010	0.021 ± 0.010	0.038 ± 0.003	0.408 ± 0.010
	竜ケ水	48	0.533 ± 0.029	0.167 ± 0.006	0.061 ± 0.013	1.494 ± 0.093	0.611 ± 0.039	0.688 ± 0.052	0.127 ± 0.023	0.069 ± 0.022	0.033 ± 0.003	0.494 ± 0.011
	長谷	30	0.553 ± 0.032	0.137 ± 0.006	0.065 ± 0.010	1.815 ± 0.062	0.644 ± 0.028	0.553 ± 0.029	0.146 ± 0.021	0.066 ± 0.020	0.037 ± 0.003	0.524 ± 0.012
台　湾	台東山脈	37	0.510 ± 0.010	0.198 ± 0.007	0.038 ± 0.007	1.862 ± 0.079	0.353 ± 0.019	0.519 ± 0.017	0.123 ± 0.012	0.024 ± 0.017	0.029 ± 0.007	0.407 ± 0.010
ロシア	イリスタヤ川	40	19.739 ± 1.451	6.053 ± 0.538	0.292 ± 0.051	32.021 ± 4.964	0.060 ± 0.016	2.859 ± 0.412	0.176 ± 0.027	0.025 ± 0.016	0.185 ± 0.026	1.574 ± 0.152
	ナチキ	48	0.220 ± 0.008	0.104 ± 0.004	0.099 ± 0.016	1.261 ± 0.062	0.608 ± 0.028	0.500 ± 0.026	0.122 ± 0.030	0.064 ± 0.023	0.024 ± 0.003	0.340 ± 0.006
	RED LAKE-1	40	0.134 ± 0.004	0.044 ± 0.003	0.014 ± 0.002	1.238 ± 0.027	1.019 ± 0.026	0.011 ± 0.009	0.395 ± 0.016	0.044 ± 0.031	0.023 ± 0.000	0.334 ± 0.005
	クネビチャン川第２群	44	0.188 ± 0.005	0.486 ± 0.103	0.031 ± 0.002	1.866 ± 0.036	0.188 ± 0.008	0.580 ± 0.012	0.066 ± 0.003	0.086 ± 0.015	0.029 ± 0.001	0.486 ± 0.023
アラスカ	インディアン・MLZ 群	48	0.204 ± 0.004	0.044 ± 0.002	0.564 ± 0.025	5.868 ± 0.191	1.170 ± 0.039	0.021 ± 0.016	0.508 ± 0.023	0.259 ± 0.018	0.791 ± 0.025	7.208 ± 0.279
北朝鮮	白頭山灰皿	50	0.154 ± 0.009	0.067 ± 0.003	0.018 ± 0.005	1.081 ± 0.028	0.530 ± 0.013	0.081 ± 0.008	0.151 ± 0.015	0.338 ± 0.012	0.027 ± 0.003	0.306 ± 0.008
エクアドル	MULLUMICA	45	0.413 ± 0.005	0.227 ± 0.016	0.043 ± 0.001	1.403 ± 0.060	0.565 ± 0.011	1.468 ± 0.042	0.086 ± 0.006	0.109 ± 0.032	0.026 ± 0.001	0.475 ± 0.007

第 59 表　各黒曜石原石群の元素比の平均値と標準偏差値（2）

出の黒曜石で、中には 5cm 大のものも見られる。また、下湯川産黒曜石についても原石群を作った。男鹿群は、秋田県男鹿市の男鹿半島の金ケ崎温泉のあった海岸より採取された原石で作られ、男鹿半島の脇本地区で採取された原石の元素組成は、男鹿群と相互に近似していることから、この両産地の原石の起源は同じと考えられる。岩手県の黒曜石原産地は北上川に沿った範囲に点々と見られ、雫石群は岩手郡雫石町の小赤沢地区の礫層から採取された原石で作られ、折居群は水沢市真城の折居地区の礫層より採取された円礫で作られ、花泉群は西磐井郡花泉町の払田および金沢の両地区の礫層より採取された小円礫の原石で作られた原石群である。これら岩手県の原石群の元素組成は相互に似ていて、これら原産地を元素組成で明確に区別できなく、遺物を分析してたとえこれら岩手県下の原石群の中の一地点に同定されても、この遺物の原石産地はこれら岩手県内の複数の原産地を考えなければならない。

月山群は、羽黒山から月山にかけての西麓付近に点々と分布する黒曜石産出地点より採取した原石で作った群である。最近、鈴木氏より提供された黒曜石原石は、寒河江市から転礫として産出した黒曜石原石で、西北九州の中町産地の原石と元素組成が似るが、一致せず全く新しい元素組成の黒曜石と判明し、寒河江群として原石群に加えた。湯倉群は、宮城県加美郡宮崎町柳瀞の湯倉真珠岩層の露頭付近で採取された原石で作られた群である。

新潟県内の原産地では、佐渡島は大佐渡山地の南部に位置し、所在地は佐渡郡金井町堂林、二ツ坂地域から佐和田町との境にかかる地帯である。今回分析した黒曜石は林道工事のときに産出した円礫状の原石で、1cm から 3cm の大きさのものが大部分で、大きな原石は長径が約 10cm のものが確認できた。現在、林道での採取は困難で、わずかに同地域の沢で採取できるに過ぎない。この沢で採取した最大の原石は長

各地遺物群名		分析個数	元素比									
			Ca／K	Ti／K	Mn／Zr	Fe／Zr	Rb／Zr	Sr／Zr	Y／Zr	Nb／Zr	Al／K	Si／K
北海道	HS1 遺物群	67	0.241 ± 0.021	0.107 ± 0.005	0.018 ± 0.006	1.296 ± 0.077	0.430 ± 0.016	0.153 ± 0.009	0.140 ± 0.015	0.008 ± 0.013	0.018 ± 0.012	0.325 ± 0.042
	HS2 遺物群	60	0.453 ± 0.011	0.135 ± 0.008	0.041 ± 0.008	1.765 ± 0.075	0.448 ± 0.021	0.419 ± 0.019	0.130 ± 0.015	0.015 ± 0.019	0.034 ± 0.010	0.500 ± 0.015
	FR1 遺物群	51	0.643 ± 0.012	0.124 ± 0.008	0.052 ± 0.007	2.547 ± 0.143	0.530 ± 0.032	0.689 ± 0.032	0.156 ± 0.015	0.004 ± 0.008	0.029 ± 0.011	0.407 ± 0.047
	FR2 遺物群	59	0.535 ± 0.061	0.106 ± 0.012	0.053 ± 0.009	2.545 ± 0.138	0.557 ± 0.051	0.685 ± 0.029	0.165 ± 0.021	0.016 ± 0.022	0.027 ± 0.009	0.373 ± 0.043
	FR3 遺物群	37	0.380 ± 0.037	0.084 ± 0.007	0.052 ± 0.009	2.548 ± 0.145	0.586 ± 0.056	0.681 ± 0.033	0.164 ± 0.021	0.017 ± 0.023	0.023 ± 0.006	0.292 ± 0.037
	FR4 遺物群	44	0.261 ± 0.043	0.074 ± 0.010	0.051 ± 0.008	2.500 ± 0.117	0.639 ± 0.057	0.679 ± 0.032	0.155 ± 0.021	0.009 ± 0.017	0.018 ± 0.008	0.258 ± 0.036
	FH1 遺物群	32	0.898 ± 0.032	0.221 ± 0.007	0.054 ± 0.006	2.540 ± 0.101	0.426 ± 0.018	0.802 ± 0.023	0.109 ± 0.013	0.017 ± 0.021	0.037 ± 0.003	0.447 ± 0.011
	KT1 遺物群	56	1.103 ± 0.050	0.146 ± 0.007	0.081 ± 0.008	2.942 ± 0.133	0.314 ± 0.053	0.775 ± 0.082	0.133 ± 0.016	0.019 ± 0.021	0.043 ± 0.007	0.516 ± 0.015
	KT2 遺物群	38	0.959 ± 0.027	0.154 ± 0.005	0.085 ± 0.010	2.882 ± 0.092	0.542 ± 0.028	1.111 ± 0.040	0.107 ± 0.015	0.012 ± 0.016	0.042 ± 0.008	0.519 ± 0.010
	KS1 遺物群	32	0.275 ± 0.007	0.107 ± 0.005	0.047 ± 0.010	1.751 ± 0.051	0.836 ± 0.038	0.468 ± 0.021	0.180 ± 0.019	0.023 ± 0.028	0.025 ± 0.007	0.345 ± 0.010
	KS2 遺物群	62	0.244 ± 0.011	0.070 ± 0.004	0.056 ± 0.013	1.749 ± 0.168	1.080 ± 0.108	0.424 ± 0.036	0.327 ± 0.042	0.037 ± 0.031	0.023 ± 0.011	0.379 ± 0.011
	KS3 遺物群	48	0.164 ± 0.008	0.041 ± 0.002	0.080 ± 0.013	2.565 ± 0.126	1.460 ± 0.057	0.162 ± 0.019	0.389 ± 0.042	0.069 ± 0.028	0.024 ± 0.002	0.337 ± 0.015
	K19 遺物群	48	0.185 ± 0.007	0.049 ± 0.003	0.081 ± 0.013	2.162 ± 0.122	1.031 ± 0.041	0.435 ± 0.025	0.263 ± 0.028	0.050 ± 0.019	0.023 ± 0.002	0.260 ± 0.009
	NI29 遺物群	51	5.445 ± 0.122	2.301 ± 0.074	0.207 ± 0.024	13.422 ± 1.113	0.151 ± 0.018	1.839 ± 0.134	0.207 ± 0.022	0.007 ± 0.011	0.069 ± 0.006	0.622 ± 0.021
青森県	HY 遺物群	31	0.238 ± 0.011	0.131 ± 0.006	0.048 ± 0.008	1.636 ± 0.066	0.418 ± 0.028	1.441 ± 0.015	0.482 ± 0.024	0.029 ± 0.028	0.020 ± 0.015	0.481 ± 0.068
	SN1 遺物群	33	0.287 ± 0.006	0.087 ± 0.004	0.033 ± 0.005	1.597 ± 0.037	0.244 ± 0.011	0.258 ± 0.011	0.281 ± 0.012	0.009 ± 0.012	0.021 ± 0.006	0.329 ± 0.006
	SN2 遺物群	29	0.209 ± 0.006	0.116 ± 0.006	0.076 ± 0.008	1.571 ± 0.082	0.716 ± 0.035	0.292 ± 0.017	0.264 ± 0.029	0.028 ± 0.030	0.023 ± 0.009	0.383 ± 0.015
	SW4 遺物群	45	0.287 ± 0.003	0.147 ± 0.003	0.095 ± 0.004	1.909 ± 0.073	0.912 ± 0.033	0.480 ± 0.024	0.255 ± 0.014	0.160 ± 0.047	0.024 ± 0.001	0.511 ± 0.013
秋田県	KN 遺物群	107	0.351 ± 0.011	0.121 ± 0.006	0.053 ± 0.007	1.581 ± 0.071	0.347 ± 0.020	0.219 ± 0.014	0.216 ± 0.015	0.054 ± 0.017	0.029 ± 0.011	0.475 ± 0.040
	TB 遺物群	60	0.252 ± 0.014	0.113 ± 0.007	0.124 ± 0.015	1.805 ± 0.088	0.875 ± 0.056	0.663 ± 0.038	0.272 ± 0.029	0.083 ± 0.037	0.026 ± 0.008	0.378 ± 0.021
	HR 遺物群	48	0.259 ± 0.008	0.093 ± 0.003	0.067 ± 0.011	2.055 ± 0.067	0.741 ± 0.028	0.293 ± 0.016	0.331 ± 0.021	0.064 ± 0.019	0.036 ± 0.003	0.444 ± 0.010
岩手県	AI1 遺物群	41	1.519 ± 0.026	0.277 ± 0.010	0.078 ± 0.006	2.849 ± 0.073	0.167 ± 0.010	0.526 ± 0.017	0.251 ± 0.013	0.009 ± 0.012	0.058 ± 0.017	0.929 ± 0.024
	AI2 遺物群	61	3.141 ± 0.074	0.552 ± 0.021	0.080 ± 0.008	2.752 ± 0.062	0.094 ± 0.009	0.716 ± 0.019	0.242 ± 0.011	0.008 ± 0.014	0.083 ± 0.029	1.353 ± 0.049
	AI3 遺物群	61	0.950 ± 0.013	0.215 ± 0.004	0.117 ± 0.009	4.306 ± 0.100	0.114 ± 0.008	0.909 ± 0.028	0.248 ± 0.012	0.014 ± 0.016	0.028 ± 0.006	0.360 ± 0.009
	AI4 遺物群	122	1.850 ± 0.059	0.474 ± 0.025	0.067 ± 0.007	2.055 ± 0.077	0.083 ± 0.006	0.531 ± 0.030	0.177 ± 0.010	0.011 ± 0.013	0.064 ± 0.025	1.061 ± 0.105
	AI5 遺物群	122	3.167 ± 0.092	0.696 ± 0.027	0.101 ± 0.009	3.787 ± 0.108	0.114 ± 0.010	0.892 ± 0.026	0.241 ± 0.012	0.006 ± 0.012	0.091 ± 0.020	1.234 ± 0.052
	FS 遺物群	45	0.272 ± 0.090	0.097 ± 0.029	0.053 ± 0.007	1.791 ± 0.083	0.327 ± 0.019	0.453 ± 0.024	0.207 ± 0.018	0.029 ± 0.027	0.017 ± 0.011	0.339 ± 0.011
	SD 遺物群	48	2.900 ± 0.050	0.741 ± 0.016	0.118 ± 0.010	3.922 ± 0.077	0.117 ± 0.012	0.906 ± 0.026	0.246 ± 0.013	0.008 ± 0.017	0.083 ± 0.013	1.195 ± 0.029
	UN51 遺物群	45	2.903 ± 0.121	0.542 ± 0.056	0.104 ± 0.003	3.507 ± 0.099	0.118 ± 0.012	0.851 ± 0.023	0.238 ± 0.016	0.082 ± 0.032	0.085 ± 0.004	1.206 ± 0.061
新潟県	AC1 遺物群	63	0.479 ± 0.014	0.192 ± 0.006	0.054 ± 0.008	1.561 ± 0.075	0.400 ± 0.017	0.440 ± 0.019	0.169 ± 0.019	0.061 ± 0.015	0.033 ± 0.005	0.427 ± 0.016
	AC2 遺物群	48	0.251 ± 0.007	0.081 ± 0.003	0.112 ± 0.013	2.081 ± 0.076	0.904 ± 0.035	0.406 ± 0.020	0.409 ± 0.024	0.108 ± 0.023	0.036 ± 0.003	0.419 ± 0.007
	AC3 遺物群	36	0.657 ± 0.016	0.144 ± 0.005	0.083 ± 0.010	1.891 ± 0.051	0.202 ± 0.010	0.381 ± 0.017	0.286 ± 0.018	0.041 ± 0.012	0.049 ± 0.005	0.616 ± 0.013
	IN1 遺物群	56	0.320 ± 0.010	0.082 ± 0.015	0.063 ± 0.006	2.009 ± 0.199	0.903 ± 0.035	0.742 ± 0.033	0.172 ± 0.010	0.064 ± 0.030	0.027 ± 0.001	0.333 ± 0.011
	IN2 遺物群	48	0.745 ± 0.013	0.110 ± 0.004	0.140 ± 0.015	3.176 ± 0.212	0.728 ± 0.039	1.582 ± 0.080	0.104 ± 0.030	0.038 ± 0.013	0.036 ± 0.003	0.396 ± 0.010
	IN3 遺物群	45	0.311 ± 0.015	0.089 ± 0.026	0.061 ± 0.003	2.037 ± 0.204	0.887 ± 0.030	0.736 ± 0.053	0.170 ± 0.010	0.057 ± 0.025	0.027 ± 0.001	0.326 ± 0.016
	IN4 遺物群	45	0.233 ± 0.006	0.044 ± 0.002	0.058 ± 0.002	1.841 ± 0.056	0.935 ± 0.030	0.754 ± 0.024	0.182 ± 0.011	0.057 ± 0.029	0.018 ± 0.001	0.214 ± 0.003
長野県	NK 遺物群	57	0.566 ± 0.019	0.163 ± 0.007	0.086 ± 0.011	1.822 ± 0.084	0.467 ± 0.031	1.691 ± 0.064	0.102 ± 0.021	0.041 ± 0.028	0.038 ± 0.003	0.500 ± 0.014
	UH63 遺物群	48	0.308 ± 0.018	0.118 ± 0.005	0.040 ± 0.010	1.646 ± 0.100	0.811 ± 0.039	0.562 ± 0.030	0.138 ± 0.031	0.057 ± 0.020	0.036 ± 0.005	0.426 ± 0.022
	UH66 遺物群	48	0.310 ± 0.019	0.075 ± 0.005	0.064 ± 0.014	1.980 ± 0.082	0.901 ± 0.051	0.841 ± 0.040	0.159 ± 0.038	0.054 ± 0.020	0.041 ± 0.018	0.378 ± 0.025
	UH35 遺物群	44	0.297 ± 0.005	0.115 ± 0.003	0.050 ± 0.014	1.580 ± 0.045	0.567 ± 0.017	0.502 ± 0.023	0.120 ± 0.017	0.075 ± 0.044	0.025 ± 0.001	0.346 ± 0.006
	FUTI3 遺物群	50	0.730 ± 0.108	0.270 ± 0.023	0.155 ± 0.017	4.326 ± 0.434	0.777 ± 0.125	1.809 ± 0.206	0.477 ± 0.124	0.038 ± 0.089	0.039 ± 0.003	1.724 ± 0.089
島根県	矢野 54 風化群	44	0.137 ± 0.005	0.136 ± 0.007	0.014 ± 0.001	0.820 ± 0.019	0.304 ± 0.006	0.018 ± 0.006	0.060 ± 0.002	0.144 ± 0.005	0.020 ± 0.001	0.234 ± 0.008
	原田 36 遺物群	43	0.173 ± 0.002	0.097 ± 0.002	0.015 ± 0.001	0.868 ± 0.012	0.217 ± 0.005	0.002 ± 0.002	0.048 ± 0.002	0.119 ± 0.004	0.020 ± 0.001	0.232 ± 0.004
山口県	YM 遺物群	56	0.381 ± 0.016	0.138 ± 0.005	0.038 ± 0.012	1.611 ± 0.102	0.721 ± 0.039	0.497 ± 0.026	0.128 ± 0.022	0.047 ± 0.016	0.023 ± 0.003	0.331 ± 0.013
	NM 遺物群	40	0.330 ± 0.010	0.103 ± 0.003	0.042 ± 0.012	1.751 ± 0.083	1.048 ± 0.057	0.518 ± 0.034	0.196 ± 0.037	0.058 ± 0.018	0.022 ± 0.003	0.326 ± 0.011
	MK-1 遺物群	48	0.087 ± 0.008	0.059 ± 0.002	0.010 ± 0.003	0.677 ± 0.023	0.370 ± 0.097	0.006 ± 0.002	0.125 ± 0.012	0.292 ± 0.010	0.022 ± 0.002	0.337 ± 0.010
	MK-2 遺物群	48	0.258 ± 0.010	0.026 ± 0.002	0.055 ± 0.013	1.745 ± 0.121	1.149 ± 0.092	0.297 ± 0.029	0.202 ± 0.037	0.177 ± 0.022	0.021 ± 0.002	0.268 ± 0.007
大分県	I 遺物群	54	0.794 ± 0.070	0.202 ± 0.009	0.061 ± 0.013	1.774 ± 0.132	0.380 ± 0.030	1.350 ± 0.096	0.076 ± 0.032	0.079 ± 0.022	0.040 ± 0.004	0.434 ± 0.015
宮崎県	HB1 遺物群	48	0.197 ± 0.035	0.754 ± 0.055	0.098 ± 0.042	7.099 ± 0.844	0.434 ± 0.062	0.975 ± 0.130	0.368 ± 0.079	0.126 ± 0.079	0.093 ± 0.022	6.312 ± 0.525
	HB2 遺物群	48	0.414 ± 0.100	1.557 ± 0.674	0.110 ± 0.044	9.900 ± 1.595	0.176 ± 0.088	1.209 ± 0.459	0.327 ± 0.052	0.178 ± 0.069	0.178 ± 0.044	9.938 ± 1.532
	UT1 遺物群	46	0.297 ± 0.013	0.107 ± 0.005	0.053 ± 0.010	1.638 ± 0.104	1.012 ± 0.056	0.736 ± 0.039	0.168 ± 0.027	0.034 ± 0.028	0.024 ± 0.011	0.390 ± 0.014
	KU4 遺物群	48	1.871 ± 0.365	1.018 ± 0.094	3.790 ± 0.705	14.990 ± 4.008	0.673 ± 0.081	2.043 ± 0.233	0.752 ± 0.079	0.056 ± 0.045	0.090 ± 0.017	4.302 ± 0.246
鹿児島県	KI1 遺物群	45	0.383 ± 0.012	0.101 ± 0.005	0.061 ± 0.024	1.913 ± 0.158	0.985 ± 0.057	0.527 ± 0.038	0.197 ± 0.030	0.079 ± 0.028	0.028 ± 0.002	0.409 ± 0.009
	KI2 遺物群	46	0.402 ± 0.015	0.146 ± 0.008	0.060 ± 0.017	1.529 ± 0.148	0.729 ± 0.052	1.567 ± 0.038	0.137 ± 0.024	0.083 ± 0.026	0.029 ± 0.003	0.443 ± 0.022
	KI3 遺物群	48	1.545 ± 0.154	0.557 ± 0.045	0.074 ± 0.011	3.746 ± 0.455	0.284 ± 0.018	0.783 ± 0.044	0.106 ± 0.021	0.025 ± 0.011	0.047 ± 0.006	0.499 ± 0.021
	KI4 遺物群	56	2.625 ± 0.109	0.871 ± 0.136	0.093 ± 0.007	5.623 ± 0.602	0.255 ± 0.015	0.906 ± 0.074	0.107 ± 0.009	0.031 ± 0.015	0.062 ± 0.007	0.587 ± 0.038
	KI5 遺物群	52	0.206 ± 0.012	0.064 ± 0.007	0.061 ± 0.004	1.570 ± 0.073	1.213 ± 0.063	0.728 ± 0.036	0.224 ± 0.013	0.044 ± 0.030	0.014 ± 0.001	0.259 ± 0.026
	KI18 遺物群	46	0.447 ± 0.011	0.122 ± 0.005	0.045 ± 0.020	1.737 ± 0.046	0.687 ± 0.023	0.481 ± 0.020	0.140 ± 0.009	0.050 ± 0.024	0.030 ± 0.001	0.428 ± 0.008
	KI84 遺物群	48	0.655 ± 0.009	0.151 ± 0.009	0.026 ± 0.001	1.515 ± 0.020	0.332 ± 0.011	0.340 ± 0.011	0.102 ± 0.005	0.051 ± 0.011	0.032 ± 0.001	0.431 ± 0.007
	SG 遺物群	48	1.668 ± 0.034	0.778 ± 0.038	0.082 ± 0.010	4.106 ± 0.222	0.202 ± 0.014	0.699 ± 0.025	0.133 ± 0.013	0.015 ± 0.019	0.027 ± 0.021	0.553 ± 0.033
	OK 遺物群	32	1.371 ± 0.074	0.687 ± 0.025	0.061 ± 0.008	3.109 ± 0.161	0.202 ± 0.012	0.579 ± 0.027	0.122 ± 0.014	0.009 ± 0.014	0.027 ± 0.018	0.518 ± 0.021
	KK1 遺物群	48	0.347 ± 0.010	0.080 ± 0.003	0.081 ± 0.012	3.085 ± 0.155	0.887 ± 0.036	1.487 ± 0.065	0.119 ± 0.036	0.184 ± 0.023	0.027 ± 0.002	0.265 ± 0.009
	KK2 遺物群	46	0.521 ± 0.012	0.122 ± 0.004	0.076 ± 0.013	3.125 ± 0.222	0.877 ± 0.048	1.500 ± 0.074	0.109 ± 0.034	0.187 ± 0.023	0.035 ± 0.004	0.359 ± 0.010
	HM1 遺物群	44	0.683 ± 0.024	0.861 ± 0.021	0.063 ± 0.013	8.678 ± 0.663	0.642 ± 0.039	0.739 ± 0.054	0.127 ± 0.034	0.065 ± 0.018	0.037 ± 0.005	0.282 ± 0.008
	HM2 遺物群	50	0.483 ± 0.022	0.121 ± 0.006	0.054 ± 0.014	1.975 ± 0.122	0.695 ± 0.040	0.454 ± 0.034	0.191 ± 0.028	0.058 ± 0.028	0.034 ± 0.006	0.474 ± 0.016
	ON1 遺物群	54	0.303 ± 0.012	0.167 ± 0.006	0.038 ± 0.007	1.157 ± 0.044	0.447 ± 0.020	0.435 ± 0.016	0.126 ± 0.025	0.039 ± 0.016	0.032 ± 0.004	0.376 ± 0.012
	ON2 遺物群	56	0.276 ± 0.019	0.053 ± 0.004	0.084 ± 0.017	2.491 ± 0.128	1.492 ± 0.088	0.667 ± 0.046	0.211 ± 0.032	0.108 ± 0.028	0.030 ± 0.004	0.345 ± 0.011
	MTR20 遺物群	45	0.262 ± 0.010	0.104 ± 0.003	0.064 ± 0.003	1.468 ± 0.046	1.017 ± 0.038	0.496 ± 0.030	0.275 ± 0.018	0.067 ± 0.040	0.025 ± 0.000	0.343 ± 0.005
	MTR21 遺物群	45	0.777 ± 0.063	0.154 ± 0.008	0.029 ± 0.002	1.627 ± 0.105	0.287 ± 0.019	0.345 ± 0.042	0.120 ± 0.008	0.036 ± 0.016	0.035 ± 0.001	0.466 ± 0.005
	NTO-6 遺物群	41	0.376 ± 0.016	0.134 ± 0.023	0.063 ± 0.004	1.557 ± 0.041	0.890 ± 0.031	0.686 ± 0.029	0.151 ± 0.011	0.102 ± 0.033	0.029 ± 0.001	0.422 ± 0.014
	NTRS1 遺物群	56	0.440 ± 0.009	0.146 ± 0.038	0.043 ± 0.002	1.738 ± 0.075	0.666 ± 0.019	0.475 ± 0.019	0.134 ± 0.007	0.051 ± 0.019	0.028 ± 0.001	0.385 ± 0.016
	NTRS12 遺物群	44	0.364 ± 0.011	0.102 ± 0.006	0.061 ± 0.003	1.922 ± 0.089	0.963 ± 0.035	0.471 ± 0.018	0.189 ± 0.012	0.079 ± 0.032	0.027 ± 0.001	0.383 ± 0.002
	NTRS13 遺物群	44	0.355 ± 0.006	0.098 ± 0.007	0.055 ± 0.003	1.681 ± 0.082	0.908 ± 0.053	0.450 ± 0.034	0.179 ± 0.013	0.068 ± 0.026	0.027 ± 0.001	0.403 ± 0.007
	NTRS32 遺物群	43	0.416 ± 0.004	0.119 ± 0.004	0.047 ± 0.004	1.651 ± 0.034	0.718 ± 0.016	0.434 ± 0.013	0.143 ± 0.008	0.063 ± 0.021	0.028 ± 0.001	0.422 ± 0.009
北朝鮮	会寧城外遺跡遺物群	70	0.135 ± 0.012	0.062 ± 0.006	0.017 ± 0.003	1.118 ± 0.051	0.585 ± 0.036	0.068 ± 0.019	0.150 ± 0.022	0.372 ± 0.035	0.025 ± 0.000	0.319 ± 0.012
ロシア	イリスタヤ	26	18.888 ± 2.100	6.088 ± 0.868	0.293 ± 0.032	27.963 ± 2.608	0.055 ± 0.017	2.716 ± 0.162	0.163 ± 0.019	0.036 ± 0.030	0.173 ± 0.029	1.674 ± 0.240
	イリスタヤ地域 RMA-1 遺物群	43	28.381 ± 1.693	10.508 ± 0.636	0.240 ± 0.010	26.686 ± 1.014	0.176 ± 0.031	2.337 ± 0.092	0.105 ± 0.025	0.031 ± 0.041	0.222 ± 0.013	2.176 ± 0.123
	イリスタヤ地域 RMA-3 遺物群	43	20.226 ± 1.462	8.128 ± 0.592	0.218 ± 0.009	24.174 ± 0.833	0.193 ± 0.023	2.233 ± 0.079	0.099 ± 0.022	0.059 ± 0.051	0.155 ± 0.012	1.548 ± 0.114
	イリスタヤ地域 RMA-4 遺物群	43	27.653 ± 3.592	9.780 ± 1.292	0.253 ± 0.010	27.839 ± 1.009	0.179 ± 0.021	2.379 ± 0.089	0.121 ± 0.029	0.026 ± 0.030	0.225 ± 0.030	2.201 ± 0.292
	イリスタヤ地域 RMA-5 遺物群	43	27.580 ± 1.836	9.965 ± 0.667	0.250 ± 0.010	27.523 ± 1.037	0.189 ± 0.029	2.287 ± 0.088	0.111 ± 0.029	0.033 ± 0.039	0.219 ± 0.015	2.177 ± 0.157
	イリスタヤ地域 RO-1B 遺物群	43	24.212 ± 2.767	9.472 ± 1.106	0.241 ± 0.010	27.056 ± 1.109	0.180 ± 0.026	2.132 ± 0.096	0.134 ± 0.022	0.029 ± 0.033	0.192 ± 0.022	1.904 ± 0.221
	イリスタヤ地域 RQ-1 遺物群	43	20.615 ± 1.401	8.370 ± 0.622	0.211 ± 0.009	23.337 ± 0.721	0.176 ± 0.027	2.219 ± 0.075	0.097 ± 0.019	0.057 ± 0.041	0.156 ± 0.011	1.554 ± 0.108
	イリスタヤ地域 RSN-1B 遺物群	43	16.950 ± 1.452	7.993 ± 0.713	0.155 ± 0.005	18.028 ± 0.466	0.133 ± 0.018	2.664 ± 0.073	0.071 ± 0.020	0.032 ± 0.030	0.135 ± 0.012	1.369 ± 0.120
	イリスタヤ地域 RW-1 遺物群	43	16.252 ± 1.229	7.622 ± 0.591	0.151 ± 0.005	17.579 ± 0.460	0.133 ± 0.016	2.653 ± 0.073	0.065 ± 0.018	0.041 ± 0.032	0.128 ± 0.010	1.290 ± 0.098
	イリスタヤ地域 Bogopol 遺物群	46	18.260 ± 1.136	7.064 ± 0.466	0.463 ± 0.013	40.787 ± 0.844	0.080 ± 0.007	1.038 ± 0.033	0.275 ± 0.020	0.092 ± 0.024	0.132 ± 0.009	1.164 ± 0.080
	イリスタヤ地域 Bolshoy 遺物群	43	0.118 ± 0.006	0.122 ± 0.004	0.005 ± 0.000	0.475 ± 0.020	0.155 ± 0.003	0.003 ± 0.002	0.054 ± 0.001	0.142 ± 0.002	0.030 ± 0.003	0.371 ± 0.010
	コムソモリスク フーミ遺物群	47	0.349 ± 0.008	0.168 ± 0.003	0.115 ± 0.005	1.382 ± 0.065	0.219 ± 0.017	0.504 ± 0.028	0.109 ± 0.012	0.109 ± 0.031	0.036 ± 0.010	0.440 ± 0.013
	パリヤ 3 遺物群	45	0.260 ± 0.019	0.081 ± 0.007	0.019 ± 0.002	1.198 ± 0.106	0.726 ± 0.078	0.007 ± 0.028	0.228 ± 0.036	0.056 ± 0.015	0.035 ± 0.003	0.502 ± 0.045
	プリダロジュナヤ 12-1 遺物群	48	0.129 ± 0.004	0.045 ± 0.002	0.012 ± 0.001	0.899 ± 0.071	0.740 ± 0.056	0.008 ± 0.006	0.290 ± 0.021	0.028 ± 0.016	0.023 ± 0.001	0.342 ± 0.007
	コルギチャン 2-3 遺物群	48	0.275 ± 0.009	0.137 ± 0.003	0.069 ± 0.002	1.230 ± 0.020	0.412 ± 0.014	0.559 ± 0.026	0.121 ± 0.013	0.165 ± 0.026	0.029 ± 0.001	0.386 ± 0.011
	ヘタクチャン 7-3 遺物群	45	0.296 ± 0.050	0.048 ± 0.008	0.055 ± 0.012	1.181 ± 0.037	0.1024 ± 0.030	0.025 ± 0.013	0.392 ± 0.014	0.038 ± 0.025	0.020 ± 0.001	0.293 ± 0.007
	カムチャッカ半島 パラトゥンカ -1	56	0.706 ± 0.048	0.225 ± 0.011	0.048 ± 0.010	1.851 ± 0.180	0.246 ± 0.014	0.752 ± 0.070	0.075 ± 0.016	0.015 ± 0.008	0.041 ± 0.004	0.482 ± 0.022
	カムチャッカ半島 パラトゥンカ -2	40	0.717 ± 0.018	0.269 ± 0.006	0.031 ± 0.006	1.604 ± 0.043	0.119 ± 0.007	0.398 ± 0.016	0.095 ± 0.008	0.016 ± 0.006	0.031 ± 0.003	0.402 ± 0.010
	カムチャッカ半島 パラトゥンカ -3	48	0.384 ± 0.008	0.097 ± 0.004	0.043 ± 0.007	1.642 ± 0.053	0.262 ± 0.011	0.753 ± 0.026	0.066 ± 0.026	0.013 ± 0.062	0.017 ± 0.003	0.176 ± 0.009
	カムチャッカ半島 パラトゥンカ -4	48	0.141 ± 0.007	0.074 ± 0.003	0.029 ± 0.004	1.069 ± 0.025	0.203 ± 0.007	0.150 ± 0.006	0.106 ± 0.009	0.024 ± 0.006	0.016 ± 0.002	0.146 ± 0.004
	カムチャッカ半島 アバチャ	40	0.255 ± 0.007	0.160 ± 0.005	0.029 ± 0.004	1.121 ± 0.034	0.192 ± 0.007	0.151 ± 0.008	0.106 ± 0.010	0.024 ± 0.007	0.026 ± 0.004	0.206 ± 0.007
	カムチャッカ半島 ミリコボ遺物群	45	0.467 ± 0.009	0.163 ± 0.005	0.045 ± 0.002	1.528 ± 0.047	0.186 ± 0.015	0.490 ± 0.019	0.118 ± 0.011	0.010 ± 0.013	0.032 ± 0.001	0.448 ± 0.010
	カムチャッカ半島 Ushiki V 遺物群	44	0.184 ± 0.006	0.074 ± 0.003	0.075 ± 0.004	1.406 ± 0.079	0.756 ± 0.038	0.435 ± 0.045	0.151 ± 0.027	0.281 ± 0.079	0.022 ± 0.001	0.328 ± 0.003
	カムチャッカ半島 Ushiki 遺物群	50	0.537 ± 0.015	0.186 ± 0.011	0.061 ± 0.004	1.384 ± 0.082	0.253 ± 0.023	1.423 ± 0.086	0.080 ± 0.018	0.020 ± 0.023	0.030 ± 0.001	0.397 ± 0.012
	カムチャッカ半島 Ushiki II 遺物群	50	0.281 ± 0.005	0.141 ± 0.003	0.066 ± 0.002	1.250 ± 0.028	0.377 ± 0.017	0.568 ± 0.022	0.114 ± 0.015	0.151 ± 0.032	0.028 ± 0.001	0.386 ± 0.004
アラスカ	GUL09 遺物群	40	0.167 ± 0.017	0.074 ± 0.003	0.035 ± 0.002	1.498 ± 0.030	0.975 ± 0.037	0.215 ± 0.023	0.220 ± 0.018	0.139 ± 0.038	0.023 ± 0.001	0.327 ± 0.005
	XMK02 遺物群	40	2.897 ± 0.065	1.695 ± 0.046	0.078 ± 0.001	4.555 ± 0.074	0.100 ± 0.007	0.831 ± 0.018	0.103 ± 0.006	0.043 ± 0.018	0.047 ± 0.001	0.508 ± 0.014
	YUK01 遺物群	40	0.155 ± 0.005	0.041 ± 0.002	0.026 ± 0.002	1.530 ± 0.035	1.022 ± 0.027	0.007 ± 0.010	0.253 ± 0.017	0.146 ± 0.043	0.022 ± 0.001	0.331 ± 0.010
	YUK16 遺物群	40	0.154 ± 0.007	0.066 ± 0.004	0.037 ± 0.002	1.496 ± 0.039	1.046 ± 0.032	0.178 ± 0.017	0.232 ± 0.014	0.146 ± 0.036	0.023 ± 0.001	0.327 ± 0.007
	YUK34 遺物群	40	0.172 ± 0.003	0.085 ± 0.003	0.032 ± 0.002	1.495 ± 0.041	0.830 ± 0.028	0.312 ± 0.022	0.177 ± 0.017	0.098 ± 0.043	0.022 ± 0.001	0.327 ± 0.004
	UNL01 遺物群

径が約 5cm の円礫で、小型の石鏃を作るには十分の大きさである。元素比の組成の似たもので群を作ると、佐渡第一群と佐渡第二群の二つの群にまとまる。これら佐渡第一・二群は佐渡固有の群で他の産地の原石群と区別することができる。新発田市の板山原石は牧場内に露頭があり、小粒の黒曜石は無数に採取される。また牧場整備の土木工事で露出した露頭からは握り拳大の原石を採取することができた。板山産地から北方約 5km に上石川黒曜石産地があり、良質の黒曜石を産出している。また、新津市の秋葉山地区から小粒の黒曜石が産出することが知られていた。さらに、秋葉山南方約 3km の金津地区から新たに黒曜石が産出している地点が明らかになり、金津産原石で金津群を作った。この他新潟県では入広瀬村の大白川地区から採取される黒曜石は大半が親指大で、肉眼的には良質であるが石器原材として使用された例はない。

中信高原地域の黒曜石産地の中で、霧ヶ峰群は、長野県下諏訪町金明水・星ヶ塔・星ヶ台の地点より採取した原石でもって作られた群で、同町観音沢の露頭の原石も、霧ヶ峰群に一致する元素組成を示した。和田峠地域原産の原石は、星ヶ塔の西方の山に位置する旧和田峠トンネルを中心にした数百 m の範囲より採取され、これらを元素組成で分類すると、和田峠第一・第二・第三・第四・第五・第六の各群に分かれる。和田峠第一・第三群に分類された原石は旧トンネル付近より北側の地点より採取され、和田峠第二群のものは、トンネルの南側の原石に多く見られる。和田峠第四群は男女倉側の新トンネルの入口、また、和田峠第五・第六群は男女倉側新トンネル入口左側で、和田峠第一・第三の両群の産地とは逆の方向である。男女倉原産地の原石は男女倉群にまとまり、元素組成は和田峠第五群に似る。鷹山・星糞峠の黒曜石の中に和田峠第一群に属する物が多数見られる。麦草峠群は大石川の上流および麦草峠より採取された原石で作られた。これら中信高原の原産地は、元素組成で和田峠、霧ヶ峰・男女倉・麦草峠の各地域に区別される。伊豆箱根地方の原産地は笛塚・畑宿・鍛冶屋・上多賀・柏峠西の各地にあり、良質の石材は畑宿・柏峠西で、斑晶の多いやや石質の悪いものは鍛冶屋・上多賀の両原産地で見られる。笛塚産のものはピッチストーン様で、石器原材としてはよくないであろう。伊豆諸島の神津島原産地は砂糠崎・長浜・沢尻湾・恩馳島の各地点から黒曜石が採取され、これら原石から神津島第一群および第二群の原石群にまとめられる。浅間山の大窪沢の黒曜石は貝殻状剥離せず、石器の原材料としては不適当ではあるが、考古学者の間でしばしば話題に上るため、大窪沢群として遺物と比較した。

D　結果と考察

遺跡から出土した黒曜石製石器・石片は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているに過ぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。黒曜石製の石器で、水和層の影響を考慮するとすれば、軽い元素の分析ほど表面分析になるため、水和層の影響を受けやすいと考えられる。Ca/K、Ti/K の両軽元素比の値を除いて産地分析を行った場合、また除かずに産地分析を行った場合、いずれの場合にも同定される産地は同じである。他の元素比の値についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやや不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。また、安山岩製の遺物は、白っぽく表面が風化しているために、アルミナ粉末を風化面に吹き付け、新鮮面を出して分析している。

今回分析した長割遺跡出土黒曜石製遺物の分析結果を第 61 表に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするため Rb/Zr の一変量だけを考えると、第 60 表の試料番号 104964 番の遺物では Rb/Zr の値は 0.936 で、月山群の［平

分析番号	元　素　比									
	Ca/ K	Ti/ K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/ K	Si/ K
104963	0.292	0.127	0.164	1.825	0.877	1.091	0.272	0.076	0.030	0.414
104964	0.299	0.123	0.174	1.929	0.936	1.130	0.284	0.110	0.031	0.429
104965	0.278	0.129	0.157	1.731	0.850	0.877	0.235	0.123	0.031	0.430
104966	0.492	0.205	0.046	1.527	0.390	0.432	0.135	0.064	0.029	0.420
104967	0.151	0.066	0.106	1.354	1.075	0.371	0.284	0.118	0.030	0.343
104968	0.266	0.119	0.182	2.042	1.023	1.029	0.276	0.098	0.028	0.379
104969	0.233	0.069	0.162	2.095	1.669	0.731	0.362	0.142	0.027	0.351
104970	0.490	0.203	0.048	1.655	0.423	0.441	0.155	0.057	0.027	0.390
104971	0.282	0.124	0.172	1.895	0.912	1.036	0.289	0.112	0.030	0.415
104972	0.289	0.122	0.171	1.914	0.930	0.934	0.281	0.084	0.030	0.413
104973	0.281	0.122	0.158	1.732	0.886	0.943	0.263	0.113	0.030	0.421
104974	0.281	0.122	0.177	1.962	0.999	0.991	0.273	0.095	0.030	0.415
104975	0.282	0.123	0.176	1.941	0.986	0.976	0.264	0.077	0.030	0.422
104976	0.283	0.130	0.195	2.182	0.980	1.029	0.303	0.085	0.030	0.423
104977	0.282	0.124	0.152	1.686	0.809	0.883	0.250	0.073	0.031	0.439
104978	0.279	0.123	0.154	1.739	0.857	0.833	0.246	0.067	0.029	0.399
104979	0.305	0.122	0.161	1.801	0.855	1.043	0.265	0.099	0.029	0.401
104980	0.281	0.123	0.177	1.909	0.911	0.967	0.288	0.126	0.029	0.401
104981	0.277	0.122	0.180	1.935	0.949	0.966	0.269	0.101	0.030	0.410
104982	0.284	0.128	0.171	1.851	0.914	0.942	0.268	0.094	0.029	0.408
104983	0.274	0.119	0.167	1.859	0.977	1.004	0.276	0.122	0.029	0.396
104984	0.313	0.121	0.175	1.947	0.960	1.085	0.276	0.089	0.030	0.409
104985	0.280	0.121	0.149	1.641	0.819	0.816	0.223	0.108	0.030	0.422
104986	0.278	0.128	0.168	1.843	0.890	0.953	0.282	0.119	0.031	0.418
104987	0.290	0.125	0.169	1.874	0.924	0.972	0.295	0.026	0.031	0.429
104988	0.455	0.194	0.048	1.520	0.394	0.434	0.152	0.062	0.028	0.398
104989	0.169	0.049	0.164	1.778	0.973	1.006	0.297	0.094	0.013	0.185
104990	0.286	0.126	0.178	1.927	0.907	0.963	0.279	0.117	0.031	0.442
104991	0.483	0.212	0.046	1.478	0.392	0.425	0.153	0.045	0.029	0.417
104992	0.491	0.199	0.049	1.613	0.396	0.444	0.150	0.068	0.028	0.404
104993	0.284	0.131	0.153	1.655	0.823	0.854	0.236	0.118	0.030	0.412
104994	0.489	0.203	0.047	1.552	0.396	0.425	0.146	0.059	0.030	0.429
104995	0.490	0.209	0.049	1.538	0.386	0.421	0.162	0.059	0.030	0.427
104996	0.477	0.209	0.044	1.490	0.403	0.424	0.147	0.050	0.029	0.421
104997	0.490	0.199	0.046	1.573	0.409	0.453	0.156	0.047	0.029	0.412
104998	0.490	0.202	0.046	1.502	0.389	0.427	0.148	0.057	0.029	0.405
104999	0.263	0.116	0.170	1.824	0.911	0.944	0.264	0.092	0.029	0.403
105000	0.284	0.132	0.182	1.993	0.946	1.036	0.303	0.096	0.030	0.420
105001	0.282	0.125	0.178	1.901	0.920	0.968	0.264	0.133	0.030	0.415
105002	0.492	0.208	0.051	1.625	0.409	0.442	0.144	0.080	0.028	0.401
105003	0.495	0.214	0.047	1.553	0.396	0.430	0.156	0.059	0.029	0.417
105004	0.477	0.202	0.045	1.538	0.394	0.420	0.137	0.069	0.029	0.405
105005	0.281	0.125	0.157	1.773	0.851	0.891	0.240	0.077	0.030	0.411
105006	0.489	0.206	0.047	1.563	0.405	0.435	0.154	0.054	0.029	0.410
105007	0.494	0.204	0.050	1.592	0.410	0.435	0.143	0.052	0.029	0.411
105008	0.483	0.207	0.046	1.583	0.410	0.429	0.146	0.064	0.028	0.402
105009	0.477	0.200	0.046	1.569	0.399	0.431	0.145	0.048	0.029	0.418
105010	0.490	0.206	0.046	1.503	0.388	0.413	0.138	0.067	0.029	0.410
105011	0.281	0.093	0.045	1.426	0.406	0.414	0.148	0.051	0.014	0.207
105012	0.492	0.205	0.051	1.607	0.384	0.433	0.161	0.052	0.029	0.414
105013	0.121	0.042	0.096	1.249	1.084	0.352	0.294	0.082	0.019	0.213
105014	0.288	0.123	0.168	1.851	0.884	0.942	0.265	0.106	0.030	0.416
105015	0.133	0.052	0.102	1.350	1.080	0.372	0.289	0.085	0.023	0.265
105016	0.488	0.211	0.046	1.518	0.370	0.417	0.146	0.064	0.029	0.417
105017	0.320	0.123	0.174	1.927	0.973	1.085	0.278	0.094	0.032	0.437
105018	0.294	0.121	0.178	1.969	0.967	1.136	0.293	0.071	0.031	0.419
105019	0.606	0.242	0.052	1.733	0.344	0.446	0.178	0.045	0.038	0.513
105020	0.495	0.203	0.046	1.531	0.401	0.424	0.155	0.049	0.029	0.421
105021	0.494	0.203	0.049	1.582	0.397	0.435	0.152	0.067	0.028	0.402
105022	0.488	0.206	0.047	1.567	0.400	0.430	0.144	0.068	0.029	0.408
105023	0.349	0.130	0.046	1.502	0.394	0.425	0.151	0.064	0.020	0.280
105024	0.151	0.066	0.101	1.331	1.042	0.370	0.275	0.098	0.029	0.327
105025	0.469	0.195	0.045	1.476	0.379	0.430	0.148	0.052	0.029	0.424
105026	0.288	0.124	0.163	1.804	0.874	0.971	0.265	0.116	0.029	0.402
105027	0.484	0.206	0.048	1.583	0.395	0.443	0.152	0.064	0.029	0.411
105028	0.232	0.070	0.168	2.173	1.740	0.744	0.365	0.163	0.026	0.344
105029	0.497	0.201	0.047	1.569	0.389	0.441	0.149	0.067	0.030	0.423
105030	0.492	0.208	0.049	1.625	0.410	0.443	0.161	0.070	0.029	0.421
105031	0.493	0.204	0.045	1.526	0.391	0.426	0.144	0.058	0.029	0.420
105032	0.497	0.203	0.048	1.562	0.403	0.454	0.151	0.048	0.030	0.418
105033	0.153	0.065	0.106	1.388	1.101	0.377	0.280	0.093	0.029	0.339
105034	0.487	0.204	0.048	1.611	0.401	0.445	0.146	0.047	0.029	0.405
105035	0.150	0.068	0.090	1.212	0.966	0.335	0.265	0.075	0.028	0.324
105036	0.146	0.064	0.102	1.294	1.061	0.360	0.290	0.107	0.028	0.322
JG-1	0.780	0.208	0.072	4.113	0.969	1.260	0.310	0.047	0.031	0.317

JG-1：標準試料-Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T.& Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 175-192（1974）

第 61 表　出土した黒曜石製石器・剥片の元素比分析結果

均値］±［標準偏差値］は、0.966 ± 0.069 である。遺物と原石群の差を標準偏差値（σ）を基準にして考えると、この遺物は原石群から 0.43 σ離れている。ところで、月山原産地から 100 個の原石を採ってきて分析すると、平均値から± 0.43 σのずれより大きいものが 67 個ある。すなわち、この遺物が月山群の原石から作られていたと仮定しても、0.43 σ以上離れる確率は 67％であると言える。だから、月山群の平均値から 0.43 σしか離れていない時には、この遺物が月山群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を板山群に比較すると、板山群の［平均値］±［標準偏差値］は 1.772 ± 0.098 であるので、遺物と原石群の差を標準偏差値（σ）を基準にして考えると、この遺物は原石群から 8.5 σである。これを確率の言葉で表現すると、板山群の原石を採ってきて分析した時、平均値から 8.5 σ以上離れている確率は、約一千億分の一であると言える。このように、一千億個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、板山群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は月山群に 67％の確率で帰属され、信頼限界の 0.1％を満たしていることから月山原石が使用されていると同定され、さらに板山群に十億分の一％の低い確率で帰属され、信頼限界の 0.1％に満たないことから板山群の原石でないと同定される」。

遺物が一か所の産地（月山産地）と一致したからと言って、例え月山群と板山群の原石は成分が異なっていても、分析している試料は原石でなく遺物で、さらに分析誤差が大きくなる不定形（非破壊分析）であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。すなわち、ある産地（月山産地）に一致し必要条件を満足したと言っても、一致した産地の原石とは限らないので、帰属確率による判断を第 58 ～ 60 表の 312 個すべての原石群について行い十分条件を求め、低い確率で帰属された原石群の原石は使用していないとして消していくことにより、初めて月山産地の石材のみが使用されていると判定される。実際は Rb/Zr といった唯一つの変量だけでなく、前述した 8 つの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えば、A 原産地の A 群で Ca 元素と Rb 元素との間に相関があり、Ca の量を計れば Rb の量は分析しなくても分かるような時は、A 群の石材で作られた遺物であれば、A 群と比較した時 Ca 量が一致すれば当然 Rb 量も一致するはずである。従って、もし Rb 量だけが少しずれている場合には、この試料は A 群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが、相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行うホテリングの T2 乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する［東村 1976・1980］。

産地の同定結果は 1 個の遺物に対して、黒曜石製では 312 個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については、低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという、非常に重要な意味を含んでいる。すなわち月山産原石と判定された遺物に対して、カムチャッカ産原石、北朝鮮白頭山原石および信州和田峠産の原石の可能性を考える必要がないという結果であり、ここでは高い確率で同定された産地のみの結果を第 62 表に記入した。原石群を作った原石試料は直径 3cm 以上であるが、小さな遺物試料の分析には大きな誤差範囲が含まれ、時には原石群の元素組成のバラツキの範囲を越えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行った時に、判定の信頼限界としている 0.1％に達しない確率を示す場合が比較的多く見られる。この場合には、原石産地（確率）の欄の確率値に、信頼限界以下の低い確率を記した。この遺物については、記入された確率の値が原石群の中で最も大きな確率で、この確率

通番	報告No.	登録No.	器種	大グリ	小グリ	層位 遺構名・遺物No.	法量（cm・g）				分析番号	ホテリングのT2検定結果	判定結果	石　材	外皮など	掲載
							長さ	幅	厚さ	重量						
1	64	102	不定形石器（A1 類）	7E	14	Ⅱb	2.83	2.03	0.99	5.3	104963	月山（87%）	月山	黒曜石（透明）		○
2	100	190	不定形石器（E 類）	7E	13	Ⅱb	1.95	1.88	0.85	2.5	104964	月山（77%）	月山	黒曜石（透明）		○
3	99	198	不定形石器（E 類）	6D	8	Ⅱb	2.20	1.70	0.40	1.6	104965	月山（80%）	月山	黒曜石（透明）		○
4	48	200	両極石器（剥 A 類）	7D	10	Ⅱb	2.10	1.50	0.90	3.1	104966	AC1 遺物群（43%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石		○
5	105	251	不定形石器（F1 類）	－	－	表採	5.90	1.60	1.07	9.2	104967	霧ヶ峰（99%），観音沢（86%），立科（33%）	観音沢	黒曜石（透明）	58㎜	○
6		1705	剥片・チップ	6D	8	Ⅱb	1.35	3.05	0.83	2.4	104968	月山（21%）	月山	黒曜石（透明）		
7		1706	剥片・チップ	4E	19	Ⅱb・Ⅱc	1.85	2.06	0.54	2.2	104969	板山（99%）	板山	黒曜石		
8		1707	剥片・チップ	3E	2	Ⅱb・Ⅱc	2.81	1.25	0.52	1.5	104970	AC1 遺物群（36%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石（透明）	外皮	
9		1708	剥片・チップ	6D	7	Ⅱa	3.14	2.85	0.86	6.4	104971	月山（81%）	月山		外皮	
10		1709	剥片・チップ	6D	7	Ⅱa	1.64	2.63	0.93	2.9	104972	月山（84%）	月山	黒曜石		
11		1710	剥片・チップ	6D	7	Ⅱa	1.72	1.29	0.43	0.8	104973	月山（96%）	月山	黒曜石（透明）		
12		1711	剥片・チップ	6D	7	Ⅱa	1.11	1.77	0.50	0.7	104974	月山（95%）	月山	黒曜石（透明）		
13		1712	剥片・チップ	6D	8	Ⅱb	1.82	1.11	0.59	1.3	104975	月山（95%）	月山	黒曜石（透明）		
14		1713	剥片・チップ	6D	11	Ⅱb	1.13	1.01	0.26	0.2	104976	月山（3%）	月山	黒曜石（透明）		
15		1714	剥片・チップ	10D	11	（P345 -1 層）	2.17	1.27	0.94	1.8	104977	月山（76%）	月山	黒曜石（透明）		
16		1715	剥片・チップ	5C	16	Ⅱ	2.54	1.42	0.94	1.9	104978	月山（55%）	月山	黒曜石（透明）		
17		1716	剥片・チップ	7D	15	Ⅱb	3.56	2.69	0.55	4.2	104979	月山（74%）	月山	黒曜石	外皮	
18		1717	剥片・チップ	5D	14	Ⅱb	2.59	3.06	0.94	6.2	104980	月山（72%）	月山	黒曜石		
19		1718	剥片・チップ	3D	12	Ⅱb	1.87	1.50	0.73	1.2	104981	月山（89%）	月山			
20		1719	剥片・チップ	3D	12	Ⅱb	2.27	1.89	0.42	0.9	104982	月山（99%）	月山	黒曜石（透明）		
21		1720	剥片・チップ	5E	25	Ⅱ	1.56	2.92	0.97	2.7	104983	月山（76%）	月山	黒曜石		
22		1721	剥片・チップ	3F	24	Ⅱb	2.89	1.22	0.58	1.9	104984	月山（37%）	月山	黒曜石（透明）	外皮	
23		1722	両極石器（剥 A 類）	5F	2	Ⅱ	3.03	2.64	1.41	10.0	104985	月山（71%）	月山	黒曜石		
24		1723	剥片・チップ	6D	19	Ⅱb	1.50	2.16	1.06	3.3	104986	月山（87%）	月山	黒曜石		
25		1724	剥片・チップ	3D	12	Ⅱb	2.17	1.67	0.77	2.3	104987	月山（84%）	月山	黒曜石（透明）		
26		1725	剥片・チップ	7E	4	Ⅱb	1.97	2.21	0.74	2.4	104988	AC1 遺物群（86%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
27		1726	剥片・チップ	6D	8	Ⅲb	2.36	2.08	0.68	3.1	104989	【月山（61%）】	月山	黒曜石（透明）		
28		1727	剥片・チップ	6E	3	Ⅱb	1.09	1.51	0.55	0.6	104990	月山（67%）	月山	黒曜石（透明）		
29		1728	剥片・チップ	3F	14	Ⅲb	1.72	0.84	0.37	0.7	104991	AC1 遺物群（15%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
30		1729	剥片・チップ	9E	2	Ⅲb	2.38	2.25	0.61	2.5	104992	AC1 遺物群（75%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
31		1730	剥片・チップ	9G	4, 8, 9	（SK206 -1 層）	3.95	4.85	1.27	17.2	104993	月山（51%）	月山	黒曜石	外皮	
32		1731	剥片・チップ	10E	4	（P284 -1 層）	2.38	2.13	0.98	5.3	104994	AC1 遺物群（79%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
33		1732	剥片・チップ	10E	4	（P284 -1 層）	2.01	1.59	0.41	1.4	104995	AC1 遺物群（42%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
34		1733	剥片・チップ	3E	18	Ⅲb	1.58	1.45	0.81	1.7	104996	AC1 遺物群（27%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
35		1734	剥片・チップ	2D	19	Ⅱb	2.00	2.01	0.77	3.1	104997	AC1 遺物群（72%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
36		1735	剥片・チップ	3E	18	Ⅲb	1.69	1.39	0.58	1.3	104998	AC1 遺物群（83%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
37		1736	剥片・チップ	5D	14	Ⅱb	2.13	1.49	0.31	1.2	104999	月山（41%）	月山	黒曜石（透明）		
38		1737	剥片・チップ	10E	13	Ⅱb	1.61	1.94	0.48	1.3	105000	月山（60%）	月山	黒曜石（透明）	外皮	
39		1738	剥片・チップ	10F	15	Ⅱb	1.98	1.32	0.69	0.9	105001	月山（80%）	月山	黒曜石（透明）		
40		1739	剥片・チップ	16E	17	（SK4629 -S21）	1.73	2.94	0.77	2.0	105002	AC1 遺物群（14%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
41		1740	剥片・チップ	11D	10	Ⅱb（SD5186）	2.76	2.58	0.68	4.6	105003	AC1 遺物群（10%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
42		1741	剥片・チップ	11D	15	Ⅱb	2.27	2.11	0.57	2.5	105004	AC1 遺物群（63%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
43		1742	剥片・チップ	5D	13	Ⅱb	3.12	2.23	1.58	10.6	105005	月山（90%）	月山	黒曜石	外皮	
44		1743	剥片・チップ	2D	19	Ⅲb	1.84	2.04	0.87	3.3	105006	AC1 遺物群（54%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
45		1744	剥片・チップ	5E	15	Ⅲb	1.84	1.64	0.53	1.3	105007	AC1 遺物群（46%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
46		1745	剥片・チップ	5E	10	Ⅲb	2.14	1.44	0.89	3.3	105008	AC1 遺物群（37%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
47		1746	剥片・チップ	2E	16	Ⅲb	2.33	2.06	0.88	4.7	105009	AC1 遺物群（86%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
48	47	1747	両極石器（剥 A 類）	7D	25	Ⅱb	2.02	1.65	0.88	3.0	105010	AC1 遺物群（49%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	○
49		1748	剥片・チップ	2D	23	Ⅱc	1.50	1.74	0.44	1.3	105011	【AC1 遺物群(15%)，豊泉第 2 群（0.3%）】	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
50		1831	剥片・チップ	2E	2	Ⅳ	2.55	1.93	0.99	3.7	105012	AC1 遺物群（34%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	

第 62 表　縄文時代後期前葉出土　黒曜石製遺物の産地分析結果（1）

通番	報告No.	登録No.	器種	大グリ	小グリ	層位 遺構名・遺物No.	法量（cm・g）				分析番号	ホテリングのT2 検定結果	判定結果	石　材	外皮など	掲載
							長さ	幅	厚さ	重量						
51		1832	剥片・チップ	8F	5	Ⅲb	2.09	1.76	0.69	1.8	105013	【霧ヶ峰（33%），観音沢（11%），立科（3%)】	霧ヶ峰・観音沢・立科	黒曜石（透明）	外皮・縞	
52		1833	剥片・チップ	5D	9	Ⅲb	3.77	1.79	1.21	6.3	105014	月山（91%）	月山	黒曜石（透明）	外皮	
53		1834	剥片・チップ	8F	5	Ⅲb	2.25	1.86	0.54	1.4	105015	霧ヶ峰（0.4%）	観音沢・立科	黒曜石（透明）		
54		1835	剥片・チップ	3F	2	Ⅲb	2.00	1.20	0.93	2.3	105016	AC1 遺物群（17%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
55		1836	剥片・チップ	6D	8	Ⅲb	2.34	1.39	0.49	1.0	105017	月山（17%）	月山	黒曜石（透明）		
56		1837	剥片・チップ	7E	13	Ⅲb	3.50	2.30	1.92	13.2	105018	月山（87%）	月山	黒曜石		
57		1838	剥片・チップ	10E	9	（SK5686 -11 層）	2.03	2.30	0.97	3.6	105019	【FS 遺物群（65%），雫石（7%），折居 -1（4%），花泉（1%)】	雫石・折居 -1・花泉	黒曜石	外皮	
58		1839	剥片・チップ	10E	9	（SK5686 -11 層）	2.08	1.78	1.06	4.2	105020	AC1 遺物群（64%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
59		1840	剥片・チップ	10E	9	（SK5686 -11 層）	2.00	1.95	0.63	3.2	105021	AC1 遺物群（69%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
60		1841	剥片・チップ	10E	9	（SK5686 -12 層）	1.74	2.49	1.29	4.9	105022	AC1 遺物群（49%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
61		1842	剥片・チップ	10E	9	（SK5686 -12 層）	2.25	1.86	0.96	3.9	105023	【AC1 遺物群（91%)】	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
62		1843	剥片・チップ	9E	3～5・7	Ⅲa2（SD5186）	1.97	1.91	0.75	2.4	105024	霧ヶ峰（99.6%），観音沢（99%），立科（71%）	観音沢・立科	黒曜石（透明）		
63		1844	剥片・チップ	2D	18	（P3004 - 覆土）	2.05	2.13	1.21	3.8	105025	AC1 遺物群（81%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
64		1845	剥片・チップ	2F	21,22	（P417）	3.09	1.06	1.00	2.0	105026	月山（96%）	月山	黒曜石（透明）	外皮	
65		1846	剥片・チップ	7E	21	（P3505）	1.77	2.06	0.97	2.2	105027	AC1 遺物群（52%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石（透明）	外皮	
66		1847	剥片・チップ	10F	1・2・6・7	（P5757 -1 層）	3.24	1.60	0.75	3.1	105028	板山（99.9%）	板山	黒曜石	外皮	
67		1848	剥片・チップ	10E	9	（SK5686 -4 層）	1.96	1.92	0.78	3.1	105029	AC1 遺物群（63%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
68		1849	剥片・チップ	10E	9	（SK5686 -11 層）	1.89	1.43	0.43	0.9	105030	AC1 遺物群（28%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石（透明）	外皮	
69		1850	剥片・チップ	10E	9	（SK5686 -4 層）	2.08	1.62	0.52	1.7	105031	AC1 遺物群（64%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
70		1851	剥片・チップ	9D	22	（P3637）	2.26	3.62	1.65	7.4	105032	AC1 遺物群 35%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
71		1852	剥片・チップ	9E	3～5・7	Ⅲa2（SD5186）	2.81	2.80	1.35	7.8	105033	霧ヶ峰（99.6%），観音沢（97%），立科（56%）	霧ヶ峰・観音沢・立科	黒曜石	外皮・縞	
72		1853	剥片・チップ	10E	9	（SK5686 -11 層）	2.27	2.23	1.16	5.7	105034	AC1 遺物群（38%）	アチヤ平AC1 遺物群	黒曜石	外皮	
73		1854	剥片・チップ	9E	3～5・7	Ⅲa2（SD5186）	2.24	2.34	0.80	3.4	105035	霧ヶ峰（56%），立科（41%），観音沢（35%）	霧ヶ峰・観音沢・立科	黒曜石	縞	
74		1855	剥片・チップ	9F	1～3・6	Ⅲa2（SD5186）	3.90	1.74	1.03	7.4	105036	霧ヶ峰（90%），観音沢（45%），立科（0.4%）	観音沢・立科	黒曜石（透明）		

【　】は、Ca/K,Ti/K の軽元素比を抜いて計算したもので、第 58 ～ 60 表の黒曜石原石・遺物群 310 個すべてホテリングの T2 乗計算を行い、誌面の都合上、信頼限界の 0.1%以下の十分条件の確率を省略して記入。

注意：近年産地分析を行う所が多くなりましたが、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があります。本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っていますが、判定基準の異なる研究方法（土器様式の基準も研究方法で異なるように）にもかかわらず、似た産地名のために同じ結果のように思われるが、全く関係（相互チェックなし）ありません。本研究結果に連続させるには本研究法で再分析が必要です。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察をする必要があります。

第 63 表　縄文時代後期前葉出土　黒曜石製遺物の産地分析結果（2）

が高いほど、遺物の元素組成はその原石群の元素組成と似ていると言えるため、推定確率は低いが、そこの原石産地と考えてほぼ間違いないと判断されたものである。また蛍光 X 線分析では、分析試料の風化による表面状態の変化（粉末の場合粒度の違い）、不定形では試料の置き方で誤差範囲を越えて分析値に影響が残り、分析値は変動し判定結果は一定しない。特に元素比組成の似た原産地同士では区別が困難で、遺物の原石産地が原石・遺物群の複数の原石産地に同定される時、及び信頼限界の 0.1%の判定境界に位置する場合は、分析場所を変えて 3 ～ 12 回分析し最も多くの回数同定された産地を判定の欄に記している。また、判定結果には推定確率が求められているために、先史時代の交流を推測する時に、低確率（1%以下）の遺物はあまり重要に考えないなど、考古学者が推定確率をみて選択できるために、誤った先史時代交流を推測する可能性がない。

今回分析した長割遺跡出土の黒曜石製遺物の 74 個について、ホテリングの T2 乗検定法で第 58 ～ 60 表の原石群・遺物群と比較した結果、完全な非破壊で産地を判定した時信頼限界の 0.1%に達した黒曜石製遺物は 69 個で、残りの 5 個は信頼限界としている 0.1%に達しなかった。これら産地が特定できなかっ

た理由は、(1) 遺物が異常に風化し元素組成の変化が非常に激しい場合、(2) 遺物の厚さが非常に薄い時、特に遺物の平均厚さが 1.5mm 以下の薄い試料では、Mn/Zr、Fe/Zr の比値が大きく分析され、1mm 厚で Fe/Zr 比は約 15%程度大きく分析される。しかし、1mm 厚あれば Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr については分析誤差範囲で産地分析結果への影響は小さく、Mn/Zr、Fe/Zr の影響で推定確率は低くなるが原産地の同定は可能と思われる。(3) 未発見の原石を使用している場合などが考えられる。信頼限界の 0.1%に達しなかった遺物の厚さは 1.5mm 以上の分析厚さがあり、分析値は厚さの影響を受けていないと推測した。これら遺物は表面に光沢が少なく風化の影響が分析値に影響し、産地が同定できなかった可能性を推測して、風化の影響を受けやすい軽元素比の Ca/K、Ti/K を除外して、第 58 ～ 60 表の原石・遺物群の 312 個と比較したところ、信頼限界の 0.1%以上で同定される原石･遺物群が確認された。遺物の中で霧ヶ峰群･立科群･観音沢群と同定された遺物は肉眼観察で縞模様なしの透明黒曜石で、この黒曜石は観音沢･立科に多く見られ立科は小円礫で大きな原石はないことから、分析番号 104967 は観音沢産と推測した。また、分析番号 105013・105033・105035 を観音沢・立科産と判定した。分析した長割遺跡出土黒曜石製遺物で産地が特定された 74 個の中で各産地の使用頻度は月山産が 43.2％（32 個）で、アチヤ平遺跡で使用されている AC1 遺物群が 43.2%（32 個）、霧ヶ峰･観音沢･立科産が 9.5％（7 個）、板山産が 2.7%（2 個）で、雫石・折居 -1・花泉産が 1.4%（1 個）であった。使用頻度の高い産地との交易、交流が強かったと考えると、長割遺跡では、月山産地地域とアチヤ平遺跡で使用している AC1 遺物群産地の交流が非常に強く、次に信州（霧ヶ峰・観音沢・立科）産地地域、板山産地地域、北上川流域（雫石・折居 -1・花泉）産地地域との交流も確認され、長割遺跡がこれら原石の伝播に伴って、長割遺跡の生活情報を信州や山形県、宮城県に伝播し、またこれら原産地地域の文化、生活情報を入手していたと推測しても産地分析の結果と矛盾しない。

参考文献

藁科哲男・東村武信　1975 「蛍光 X 線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定（II）」『考古学と自然科学』8 pp.61-69

藁科哲男･東村武信･鎌木義昌　1977･1978 「蛍光 X 線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定（III）･（IV）」『考古学と自然科学』10・11　pp.53-81：33-47

藁科哲男・東村武信　1983 「石器原材の産地分析」『考古学と自然科学』16　pp.59-89

東村武信　　1976　「産地推定における統計的手法」『考古学と自然科学』9　pp.77-90

東村武信　　1980　『考古学と物理化学』 学生社

7　出土遺物に付着した黒色物の赤外分光分析

藤根　久（パレオ・ラボ）

A　はじめに

長割遺跡は、村上市下相川字長割 307 ほかに所在し、三面川支流の門前川右岸の標高約 18m 前後の自然堤防上に立地する。調査では、縄文時代後期の大規模集落が検出されている。

ここでは、縄文時代後期前葉の剥片や石鏃に付着した黒色物、黒色塊について、実体顕微鏡を用いた観察と赤外分光分析を行った。

B　試料と方法

分析試料は、長割遺跡から出土した剥片や石鏃および黒色塊の 7 試料である（第 64 表、第 169･170 図）。

予め、各試料の付着状況について実体顕微鏡を用いて観察した後、表面部分において手術用メスなどを用いて 0.2mm 角程度を薄く削り取った。採取した試料は、押しつぶして厚さ 1mm 程度に裁断した臭化カリウム（KBr）結晶板に挟んで、油圧プレス器を用いて約 7 トンで加圧整形した。測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計（日本分光（株）製 FT/IR-410、IRT-30-16）を用いて透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

試料№	遺物№	報告№	遺物	時期	遺構・層位等	付着物の特徴	結果
1	S1	331	黒色塊	縄文時代後期前葉	Ⅳ a1 層	黒～褐色物	アスファルト
2	676	155	剥片	〃	-	やや光沢のある黒色物	アスファルト？
3	698	154	剥片	〃	-	光沢のない暗褐色物	アスファルト
4	706	156	剥片	〃	-	光沢のない黒色物	アスファルト？
5	4	4	石鏃	〃	SK535,S-2	光沢のない暗オリーブ褐色物	アスファルト
6	1805	7	石鏃	〃	Ⅲ b 層	光沢のない暗オリーブ褐色物	アスファルト
7	1818	21	石鏃	〃	P2918	光沢のない黒色物	アスファルト

第 64 表　赤外分光分析を行った遺物付着物と結果

C　結果および考察

以下に、各遺物付着物の光学顕微鏡観察と赤外分光分析の結果について述べる。

試料 No.1（S1）の黒色塊は、長軸 8.5 ×短軸 7.0 ×厚さ 6.0cm の約 1mm 以下の砂粒物が混じる黒～褐色塊である。

試料 No.2（遺物 No.676）の剥片付着物は、やや光沢のある黒色物が両面に付着していた。

試料 No.3（遺物 No.698）の剥片付着物は、光沢のない暗褐色物が両面に広く付着していた。

試料 No.4（遺物 No.706）の剥片付着物は、光沢のない黒色物が両面に部分的に付着していた。

No.	位置	強度
1	2923.56	13.4033
2	2852.20	34.2277
3	1698.02	90.4340
4	1603.52	88.0516
5	1461.78	64.2322
6	1376.93	77.0079
7	1304.61	87.3303
8	1030.77	90.0588
9	866.85	92.1002
10	811.88	90.8315
11	7125.10	91.1479

第 65 表 アスファルトの吸収位置と強度

試料 No.5（遺物 No.4）の石鏃付着物は、光沢のない暗オリーブ褐色物が片面に広く付着していた。

試料 No.6（遺物 No.1805）の石鏃付着物は、光沢のない暗オリーブ褐色物が両面に広く付着していた。

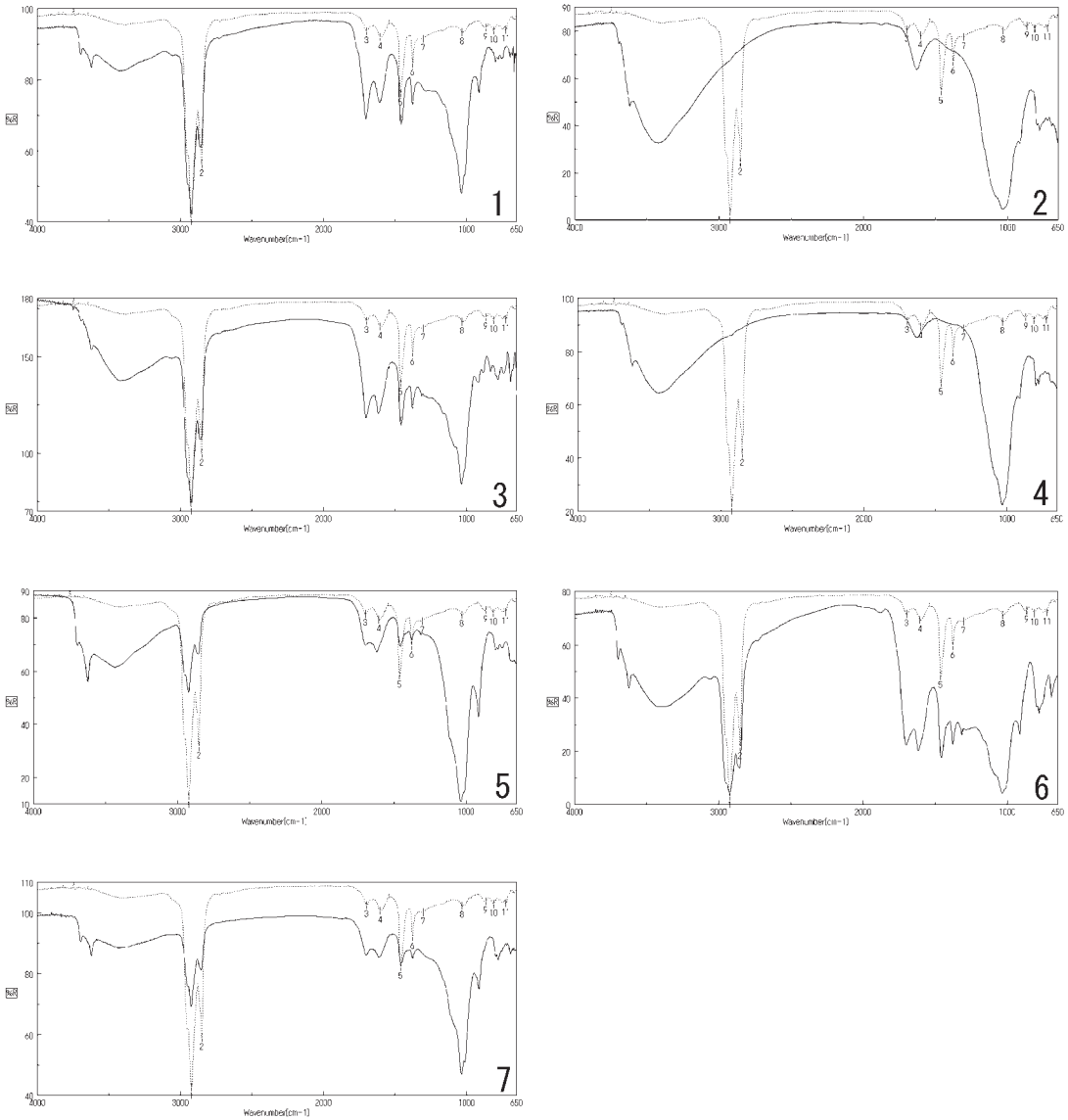
試料 No.7（遺物 No.1818）の石鏃付着物は、光沢のない黒色物が片面に部分的に付着していた。

赤外分光分析の結果、試料 No.1（S1）、試料 No.3（遺物 No.698）、試料 No.5（遺物 No.4）、試料 No.6（遺物 No.1805）、試料 No.7（遺物 No.1818）では、アスファルトに見られる吸収位置 No.1 ～ No.7 の吸収が明瞭に見られたことから、アスファルトと同定される（第 168 図 -1・3・5・6・7）。なお、吸収 No.8 は、劣化に伴う吸収である。

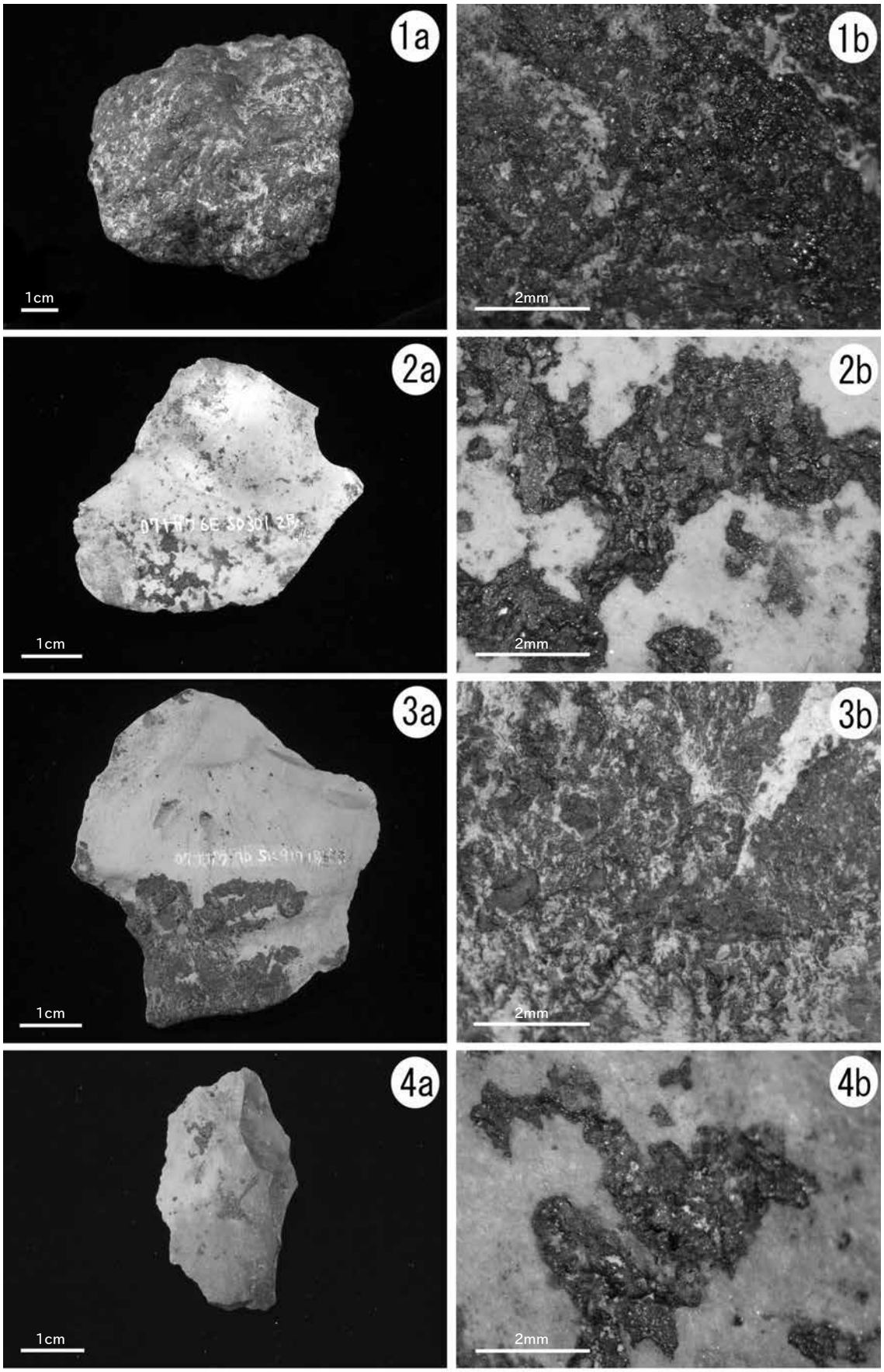
また、試料 No.2（遺物 No.676）と試料 No.4（遺物 No.706）は、有機物として見られる吸収 No.1 や No.2 がわずかに見られるものの、劣化等に伴う吸収 No.8 以外は吸収がないことから（第 168 図 2・4）、熱を受けた炭化物である。なお、アスファルトが炭化した可能性も考えられる。

D　おわりに

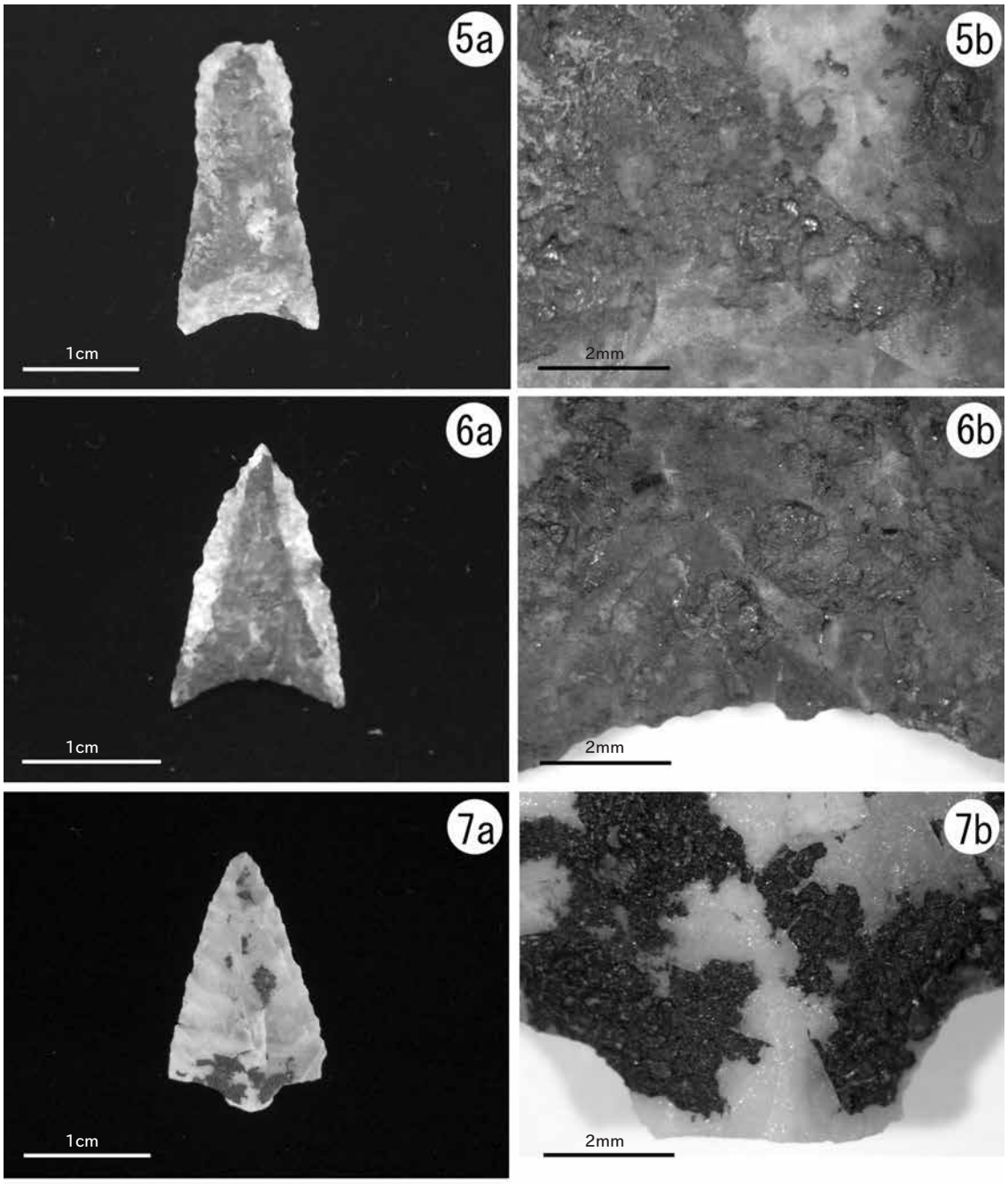
赤外分光分析の結果、試料 No.1（S1）の黒色塊、試料 No.3（遺物 No.698）の剝片付着物、剝片石鏃の付着物は、いずれもアスファルトと同定された。なお、試料 No.2（遺物 No.676）と試料 No.4（遺物 No.706）は、有機物に由来する吸収も明瞭でなく、熱を受けた炭化物であった。



第 168 図　黒色付着物の赤外分光スペクトル図（縦軸は透過率、横軸が波数を示す）
実線：試料、点線：アスファルト（No. は主な吸収位置）、No. は試料番号に対応する



第 169 図　黒色物が付着した遺物（1）（a: 全体（1cm）,b: 分析位置（2mm））
1. No.1（報告 331）　2. No.2（報告 155）　3. No.3（報告 154）　4. No.4（報告 156）



第 170 図　黒色物が付着した遺物（2）（a: 全体（1cm）,b: 分析位置（2mm））
5. No.5（報告 4）　6. No.6（報告 7）　7. No.7（報告 21）

第Ⅶ章　ま　と　め

1　出土遺物について

A　上・下面の遺物

1）土器について

a　全体量について

本遺跡のように遺物出土量が多い場合、報告書に掲載できる数は限定される。土器全体の傾向を把握するため、重量計測に加え、口縁部・底部と判断できるものについてはすべて抽出して、36 分割で残存率を計測した。ここではおおむね後期前葉の土器の全体的な傾向を示すことにしたい。

口縁部

端部まで残存するものを対象とした。計測は 0.25cm 刻みの円板を用い、報告遺物は 0.1cm 刻み、報告外遺物については 0.5cm 刻みで行った。小片のため径の復元が困難なものは、30.0cm（平均予想値）とした。カウント方法は接合品を 1 点としたが、同一個体であっても接合しない場合には 1 点として数えた。

計測数は 17,731 点にも及ぶ。残存率ごとでは、完形が 2 点（0.01％）、1/2 以上完形未満が 24 点（0.13％）、1/2 未満 1/4 以上が 82 点（0.46％）、1/4 未満が 17,623 点（99.40％）で、1/4 未満が圧倒的多数を占める。このうち 1/36 残存のものが 13,597 点と、全体の 76.7％にも達する。小破片が圧倒的に多いという本遺跡の出土傾向がうかがえる。

17,731 点の残存率による計測値は 26,452 で、総個体数（26,452 ÷ 36 分割）は 735 個体分である。器種別では、深鉢 706 個体分（96.1％）、鉢 9 個体分（1.2％）、浅鉢 8 個体分（1.1％）、壺または注口土器 12 個体分（1.6％）であり、深鉢が大多数を占める[1)]。ただし、注口土器の注口部のみ 92 点出土しており、実際の個体数は更に多くなる。上記の結果は、大まかな組成比率と考えたい。

主体となる深鉢を本稿の分類で傾向を見たい。細分に当たり、口縁部に文様がある 4 群 A 類は、口縁部細片の場合は 3 群との区分が難しい。このため、便宜的に 4 群 B 類を粗製土器、1 ～ 3 群＋ 4 群 A 類を精製土器とした。集計結果は前者が 239 個体分（32.5％）、後者が 496 個体分（67.5％）であった。粗製土器のうち条線が施されたものは 3 個体分となったが、条線が口縁端部近くまで及ばないものはカウントされないため、実際の数はこれよりも多いと推測できる。また、精製土器 497 個体分のうち南三十稲場最新段階（本稿の B Ⅱ 1b 類、B Ⅳ 1 類）は 13 個体分、1 群のうち堀之内 2 式～加曽利 B1 式は 8 個分認められた。これも条線のもの同様に確実に存在する個数であり、実際はこれよりも多いと考える。

口径の計測は 1/4 以上残存するものを対象とした。報告外ではわずか 4 点のみであったため、対象は報告遺物のみ（102 点）とした。全体の平均径は 24.7cm であった。器種別では深鉢 25.6cm、浅鉢 24.5cm、注口土器 14.2cm である。浅鉢・注口土器は数個体の平均であることから、大まかな傾向とし

1）細片のため器種の認定が難しいものが、深鉢に含まれた可能性を想定できる。

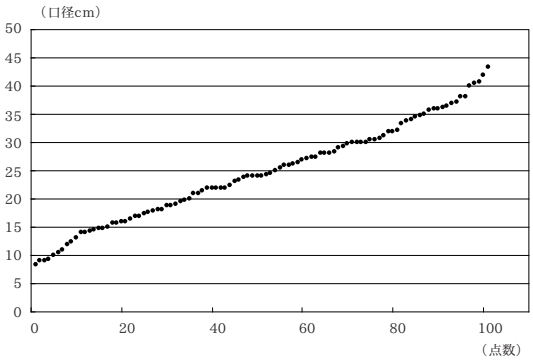
てのみとらえておきたい。鉢・壺については 1 点しかなく、平均を算出できなかった。口径の分布（第 171 図）はなだらかに続いており、断絶は見られない。直径 22cm・24cm・30cm でわずかにまとまりが認められるのみである。最小径は 8.4cm（注口土器）、最大径は 43.4cm（深鉢）であった。

底　部

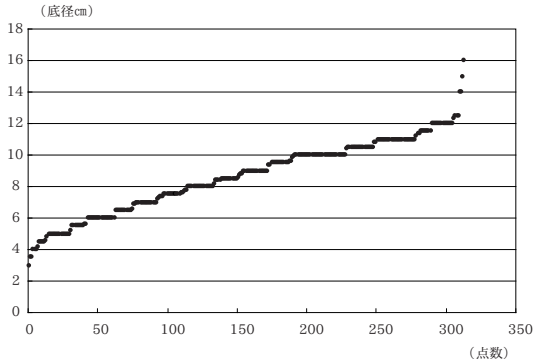
底部外面（以下、底面）からの立ち上がりが認められるものを対象とした[1]。計測・点数のカウント方法は口縁部と同様である。計測数は 5,223 点である。残存率ごとでは完形が 105 点（2.0%）、1/2 以上完形未満が 208 点（4.0%）、1/2 未満残存が 4,910 点（94.0%）と圧倒的に多い。

5,223 点の残存率による計測値は 33,924 で、総個体数（33,924 ÷ 36 分割）は 942 個体分となった。この数値は口縁部よりも 206 個体分（128%）多い。報告遺物の総個体数は 70 個体分で、深鉢 62 個体分、鉢 3 個体分、注口土器が 4 個体分、浅鉢が 1 個体分、壺は 1 個体分に満たなかった。報告外遺物は遺物の小片が多く、器種を判別できないものが大多数であるが、確実に浅鉢・壺・注口土器と考えられるものと、それ以外を深鉢･鉢とした集計では、深鉢･鉢が 841 個（96.4%）、浅鉢･壺･注口土器は 31 個（3.6%）である。口縁部と同様に深鉢・鉢が圧倒的に多くなったが、上記の理由から深鉢・鉢とした中にも浅鉢等が含まれている可能性がある。

底径は 1/2 以上残存しているもの（313 点）を対象とした。平均径は 8.9cm であった。分布を見ると底径 10.0cm のものが最も多く、次いで 11cm、8cm と続く（第 172 図）。最小径は 3.0cm、最大径は 16.0cm である。



第 171 図　後期前葉土器の口径分布図



第 172 図　後期前葉土器の底径分布図

b 「敷物圧痕」[2] について

全点を観察対象として土器底面に残る圧痕を観察した。全点を対象とした理由は、残存率を一定以上としたところ、すべての種類を網羅できなかったことによる。このため、集計結果は正確な様相を反映していない可能性があることは否めないが、多くの痕跡を把握するための操作と考える。

敷物圧痕が確認できたのは 5,223 点中 875 点で、その比率は 16.8%であった。圧痕の認められない個体はナデ調整されたものが最も多く、次いでケズリ・ミガキ調整されたものが少量見られた。

1）ミニチュア土器と判断できるものは除外した。ただし、径が小さく輪積み成形の個体については、小片ではミニチュア土器との判断が難しいため、除外しきれなかった可能性がある。

2）本稿ではナデやケズリといった調整や、種実などの圧痕は含まず、編物痕や木葉痕などに限定したものである。松永篤知氏は、「土器圧痕」という用語について、広義には籾殻などの圧痕も含まれることから、編物痕や木葉痕などに限定する用語として「敷物圧痕」としている（松永篤知 2008）。本報告書ではこれに従い「敷物圧痕」と呼称する。

底面の圧痕を以下のように区分した。

A 類　編物痕

編物痕は、その表現方法については統一されていないのが現状であるが、容易に想像できることを重視し「○○編み」という用語を使用する。定義は『下宅部遺跡 1』［佐々木 2006］に倣った。

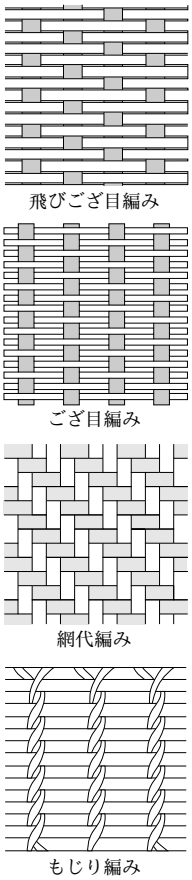
1 類　飛びござ目編み　ござ目編みと同じ形状であるが、ヨコ材がタテ材を 2 本以上超え潜りする技法。本遺跡では 2 本超え 1 本潜り 1 本送りのものがほとんどである。

2 類　ござ目編み　1 本潜り 1 本超え 1 本送りで構成される技法。タテ材の間隔に対して、ヨコ材の間隔が狭い。また、ヨコ材とヨコ材の間には隙間はほとんどない。

3 類　網代編み　網代編みにはもじり編み以外のものを総括する場合があるが、本遺跡では 2 本以上のタテ材を超え・潜りし、1 本以上の材を送って製作されるものを呼ぶ。本遺跡では 2 本潜り 2 本超え 1 本送りのものが多数を占める。

4 類　もじり編み　タテ材が 2 本単位で、ヨコ材にからめるように編んだもの。いわゆる「スダレ状圧痕」はここに分類される。

5 類　1 ～ 4 類以外の編み方及び編み方不明のもの。



第 173 図　編み方模式図

A 類の場合は細別分類が特定できなかったものが多かった。そこで「A1･2 類」という中間の分類を加えた。「A1･2 類」は、A1 類か A2 類のどちらかであると考えるが特定できなかったものという意味である。

B 類　木葉痕

1 類　平行葉脈　ササなどが想定される。

2 類　網状葉脈　トチノキなどの広葉樹が想定される。

C 類　縄　文

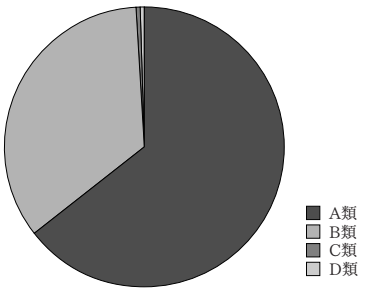
D 類　異種類の組み合わせ

圧痕の確認できた 875 点のうち、A 類（編物痕）が 541 点（64.4％）で B 類（木葉痕）が 291 点（34.6％）と、A 類が B 類の 2 倍近い数字となった。また、A 類・B 類の 2 種類で 99％に達する（第 66 表・第 174 図）。

A 類の内訳では A1 類が 405 点（74.8％）と圧倒的に多く、A2 類は 11 点（1.3％）、A3 類は 26 点（3.1％）にとどまる。A4 類はわずか 1 点だが認められる。ただし、前述のように A 類とは判別できても特定はできなかったものが多く、A1・2 類、A 類の合計は 98 点にも達するため、この点

分　類	点数	全体比率（%）	類内比率（%）
A1（飛びござ目編み）	405	48.2	74.8
A2（ござ目編み）	11	1.3	2.0
A1・2	20	2.4	3.7
A3（網代編み）	26	3.1	4.8
A4（もじり編み）	1	0.1	0.2
A5（編み方その他・不明）	78	9.3	14.4
小　計	541	64.4	99.9
B1（平行葉脈）	222	26.4	76.3
B2（網状葉脈）	46	5.5	15.8
B	23	2.7	7.9
小　計	291	34.6	100.0
C 縄文	4	0.5	
D 組み合わせ	4	0.5	
合　計	840	100.0	

第 66 表　「敷物圧痕」の集計



第 174 図　「敷物圧痕」の比率

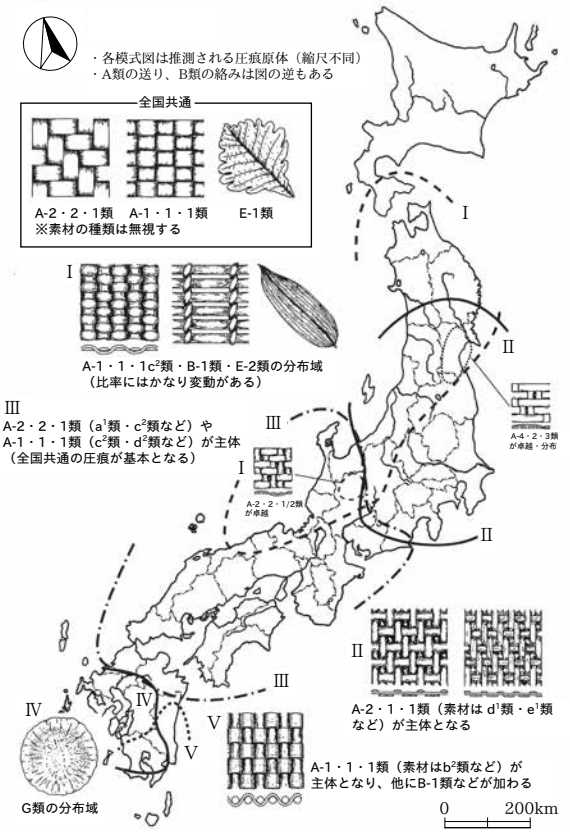
は留意する必要がある。

B 類は圧倒的に B1 類が多く、B 類中約 76％を占める。B1 類・B2 類とも、葉が異方向に重ねられたと分かる個体が数点ずつ認められた。C 類はすべて同一原体の可能性がある。節は細く、縄文 RL が施されたものと考える。D 類は A1 類（飛びござ目編み）と B1 類（平行葉脈）、A2 類（ござ目編み）と B1 類（平行葉脈）の 2 種類のみである。A 類が B 類よりも上になる（つまり、A 類が底面に接する）ものが 1 点、その逆が 2 点（第 176 図 5）ある。

圧痕の種類別に底径を見てみると、A 類（編物痕）平均が 8.9cm（80 点計測）、B 類（木葉痕）平均が 9.9cm（49 点計測）で、B 類が 1cm ほど大きい傾向にある。C 類と D 類については、底径計測の対象外のため算出していない。また、圧痕のある個体の平均径が 9.4cm だったのに対し、圧痕のない個体の平均径は 8.2cm で、圧痕の残る個体のほうが大きい底径を有するという結果となった。

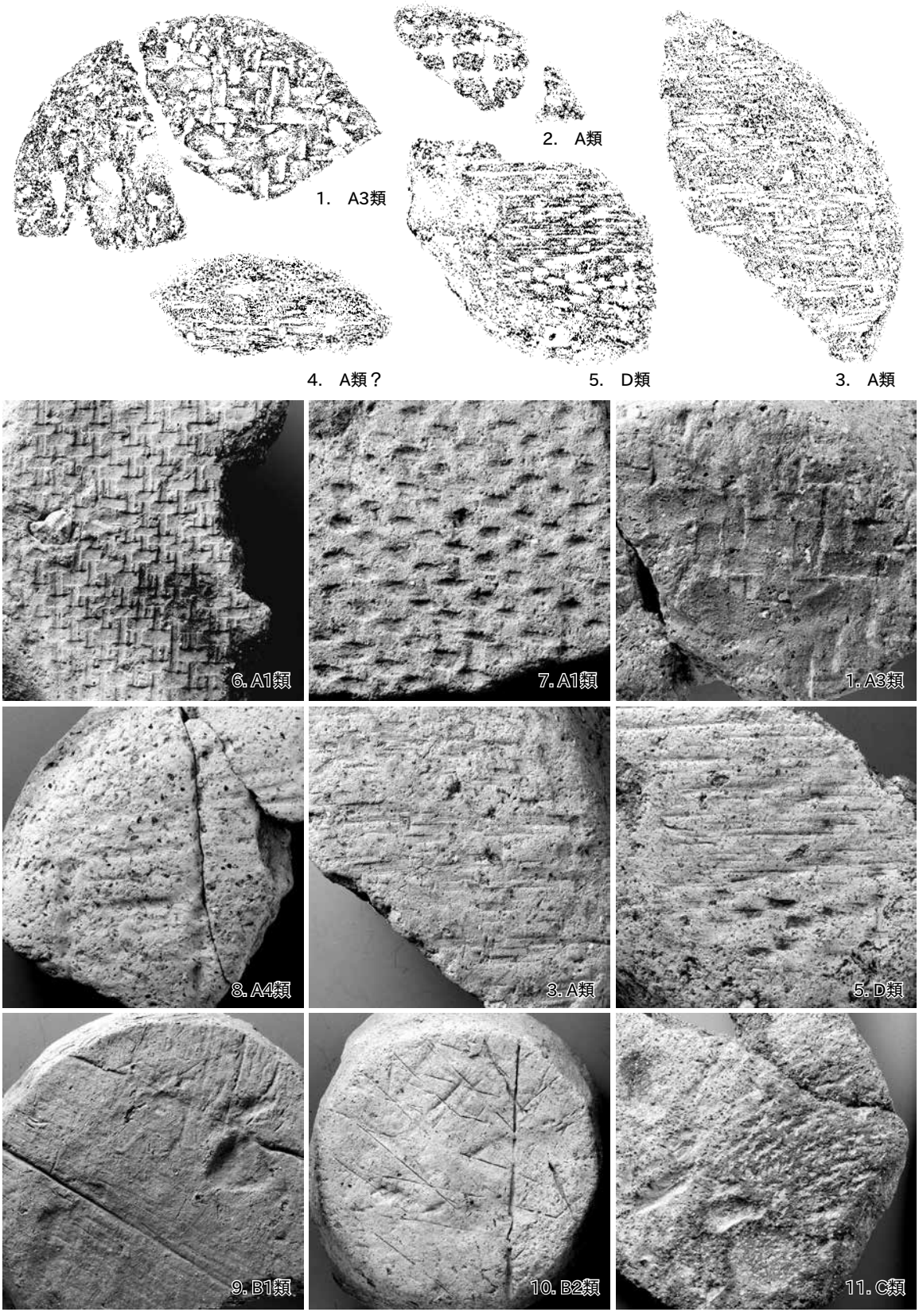
ここで、同様の検討が行われた村上市元屋敷遺跡の後期前葉～中葉の底部資料と比較してみたい。同遺跡では計測資料 981 点のうち、297 点に圧痕（調整を除く）が認められた。［金子・滝沢・野田 2004］。圧痕が確認できたものの比率が本遺跡では 16.7％であるのに対し、30.2％の高率である。また、A 類（本遺跡分類。以下同様）が 75 点（25.3％）、B 類は 222 点（74.7％）で、B 類が多い点で本遺跡とは異なる。C 類は後期前葉では認められないが[1]、D 類は存在する。底径は本遺跡と同様の傾向が見られ、元屋敷遺跡では A 類平均 9.6cm、B 類平均 11.1cm（論文では B1・B2 類個別で算出）で、本遺跡同様に B 類が A 類よりも大きい。

本遺跡と元屋敷遺跡とでは、A 類と B 類の比率がかなり異なる。遺跡ごとでかなり変動があるとの指摘もある［松永 2008］。ただし、圧痕が残る比率自体も元屋敷遺跡と本遺跡では大きく異なる。A・B 類の比率算出方法とともに、網羅的な集計した遺跡を増加して、傾向を抽出する必要がある。圧痕の時期・地域的傾向について、縄文時代中期後半～から後期前半では「敷物圧痕」の地域性が顕著になり、東北南部及び関東甲信越地方では A1 類（飛びござ目編み）が主体となるという。また、A2 類（ござ目編み）など 1 本超 1 本潜 1 本送のもの・A5 類（もじり編み）[2]・B1 類（平行葉脈）は東北北部～北陸の日本海側に特徴的であるという。本遺跡の圧痕は A1 類と B1 類が多く、松永 2008 の検討結果とは比較的調和的にも見える（第 175 図）が、土器型式との関連を含め、より多くの遺跡で資料を充実することが望まれる。



第 175 図　「敷物圧痕」に見る地域性（［松永 2008］より転載）

1）後期後葉～晩期前葉の資料において 1 点確認されている。
2）もじり編みについては、中期前半～中葉にかけて盛行するとのことである。本遺跡でも、最下面出土土器で数点見られる（38・58）



第 176 図　長割遺跡の「敷物圧痕」（上：拓本 S=1/2, 下：写真　縮尺不同）

c　使用痕跡（スス・コゲの付着）について

(1) 観察に当たって

煮沸用土器の作り分けと使い分けを検討するため、煮炊き時に付着したスス・コゲを観察した[1)]。調査着手前段階において、当時の食生活に少しでもアプローチする情報の採取ができるような調査方法を模索した。その一つとして炉覆土の篩いとともに、残存率の高い土器での煮沸痕跡の観察を念頭において、土器の洗いと接合・復元を行った。土器洗いでは、特に内面のコゲを強く洗わないこと、接合前の処理として剝落を防ぐためバインダーに漬け、コゲの剝落を最小限に抑えることに心がけた。復元に当たっては同じくスス・コゲ部分へのガムテープ等の使用を最小限に抑えた。

(2) 観察資料の選定と計測内容

観察資料の選定：スス・コゲの付着状況観察には残存率の高い土器を数多く行うことで、一定の傾向抽出が可能であり、1 遺跡当たり 20 個体以上が望ましいとされている［小林 2003］。本遺跡では資料数を確保するため、横方向の残存率が 50％程度、縦方向の残存率が 70％以上のものを対象に観察を行った。

容量・相対的高さ等の計測：煮沸用土器の作り分けと使い分けを検討するため、スス・コゲ観察土器の残存率に満たないものであっても、横方向の残存率が 1/4 以上のものを対象に容量を計測した。また、土器のプロポーションには、器高÷最大径× 100 で求めた数値を「相対的高さ」として使用する。相対的高さは、数値に比例して背の高いプロポーションの土器となる。これ以外に、縄文土器では少ないが括れの有無を重視した。括れのあるものは、頸部径÷胴部最大径× 100 で求めた数値を「括れ度」として使用する。数値に反比例して、括れの強い土器となる。

分　類：土器の分類は第Ⅴ章の記述に準じる。

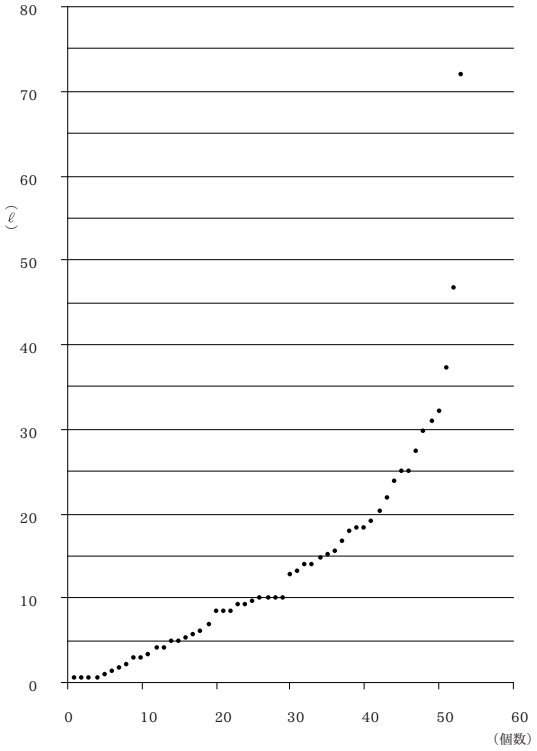
(3) 長割遺跡出土土器の容量と相対的高さ・括れ度

容量（第 177 図上段）：上記の基準を満たすものは 53 個体存在する。容量は最少 0.39ℓ、最大 71.6ℓ と幅広く分布する。全体では 3ℓ付近、7ℓ付近、10 ～ 12ℓ付近、32ℓ付近で分布の断絶が認められるため、4ℓ未満を小型、4 ～ 7ℓを中小型、7 ～ 10ℓを中大型、12 ～ 25ℓを大型、それ以上を特大型とする。

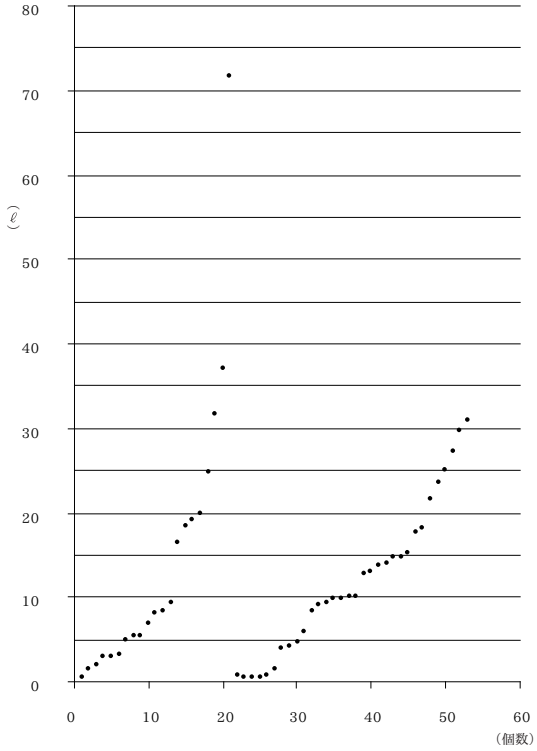
分類別では更に傾向が分布の断絶が表れる。本稿の分類ごとに容量分布を示したのが第 177 図右側である。系統が明確な 1・3 群（以下、精製土器とする）を左に、粗製的な 4 群（以下、粗製土器とする）を右に示した。分布の断絶は、精製土器では 4ℓ付近、10 ～ 15ℓ付近、20 ～ 25ℓ付近、粗製土器では、2 ～ 4ℓ付近、6 ～ 7ℓ付近、10 ～ 12ℓ付近、15 ～ 16ℓ、20ℓ付近、30ℓ以上と若干異なる。本稿の中大型では、10ℓ付近のものは粗製土器の占める比率が高い点、本稿の大型・特大型では、精製土器で確認できない 12 ～ 15ℓと 20 ～ 30ℓのもので粗製土器が圧倒的に多い点、逆に 15 ～ 20ℓでは精製土器が多い点など、相互に補完し合うような作り分けの可能性が想定できる。

相対的高さ（第 177 図中段）：71.6ℓの特大型品（精製土器で相対的高さは 151）を除き、相対的高さと容量の関連を示す分布図を作成した。精製土器と粗製土器共に、100 ～ 150 の間に分布の中心がある。容量別では若干、異なる傾向が認められ、精製土器は 10ℓ未満のものが幅広い分布を示すが、15ℓ以上は 100 ～ 150 の幅で納まる。一方の粗製土器は、容量が大きいものは比較的相対的高さが増す傾向にあり、

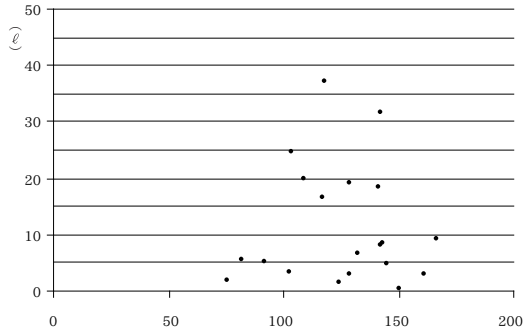
1）スス・コゲの付着状況観察に当たり、痕跡の認定・解釈について北陸学院大学小林正史教授から多くのご教示を得た。



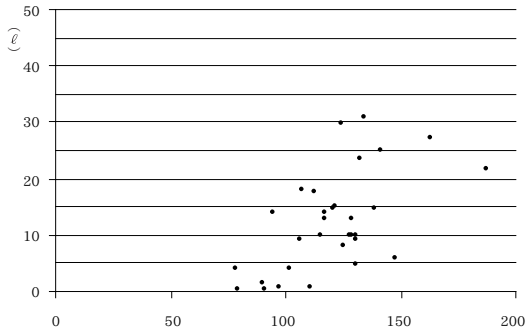
全体の土器容量



分類別土器容量（左：1・3群、右：4群）

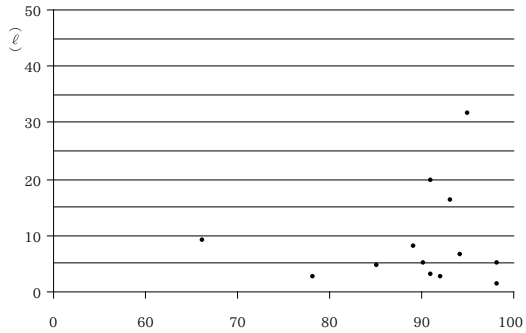


（精製土器）

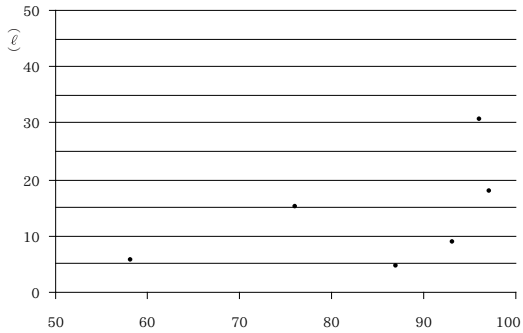


（粗製土器）

土器容量と相対的高さ



（精製土器）　＊他に72㍑のもの有



（粗製土器）

土器容量と括れ度

第 177 図　長割遺跡出土土器の各属性

20㍉以上のものでは 130 以上のものが多い点で精製土器とやや異なる。

括れ度（第 177 図下段）：71.6㍉の特大型品（精製土器で括れ度は 80）を除き、括れる器形でのみ容量の関連を示す分布図を作成した。括れる器形のものが少なく、精製土器は 13 個体、粗製土器は 6 個体に過ぎない。精製土器は 85 ～ 100 付近に分布の中心がある。容量別の傾向は見出し難いが、90 に満たないものは、10㍉未満のものに多い傾向にある。粗製土器は計測数が少なく、ほとんどが括れを持たない器形である。ただし、80 以下のものが 2 個体あることから、ごく例外的に強く括れる器形が存在したことが分かる。

（4）観察結果

スス・コゲ付着の観察を行ったのは鉢・深鉢の 26 個体に加え、SI1291 の床面から逆位で出土した深鉢の上半部片と浅鉢 1 点を加えた 28 個体である。いずれも調理時のものと推定されるススの付着が認められる。鉢･深鉢の内訳は小型が 5 点（精製 3、粗製 2）、中小型が 5 点（精製 2、粗製 3）、中大型が 5 点（精製 3 点、粗製 2 点）、大型が 7 点（精製 2 点、粗製 5 点）、特大型 4 点（精製 2 点、粗製 2 点）である。各容量及び精製･粗製も大きな偏りは認めらないことから、本遺跡の状況を示す観察個体が確保できたと考える。

観察結果は、小林正史氏らの図示方法におおむね準拠して第 178 ～ 181 図に示した。内外面ともに 2 面を基本としたが、残存率の低い土器は片面のみ示している。以下、容量ごとの観察状況を記す。

小　型（第 178 図）：内面のコゲは、小型でも 1㍉に満たず、特に容量が小さい 112・879 は広い範囲に付着している。3㍉弱とやや容量が大きい 33・129 は胴部上位に厚く堆積する傾向にあり、ほぼ同じ容量の 631 は胴部のほぼ全面がコゲ付く傾向にある。外面のススは厚く堆積したものが多く、強い炎を受けた胴下部は酸化する傾向にあるが、頸部付近（33）、胴部上位（129）にスス酸化が認められるものがある。これらのスス酸化部に対応する内面は、すべてではないにしてもコゲが酸化消失したもの（33・129・631）もある。

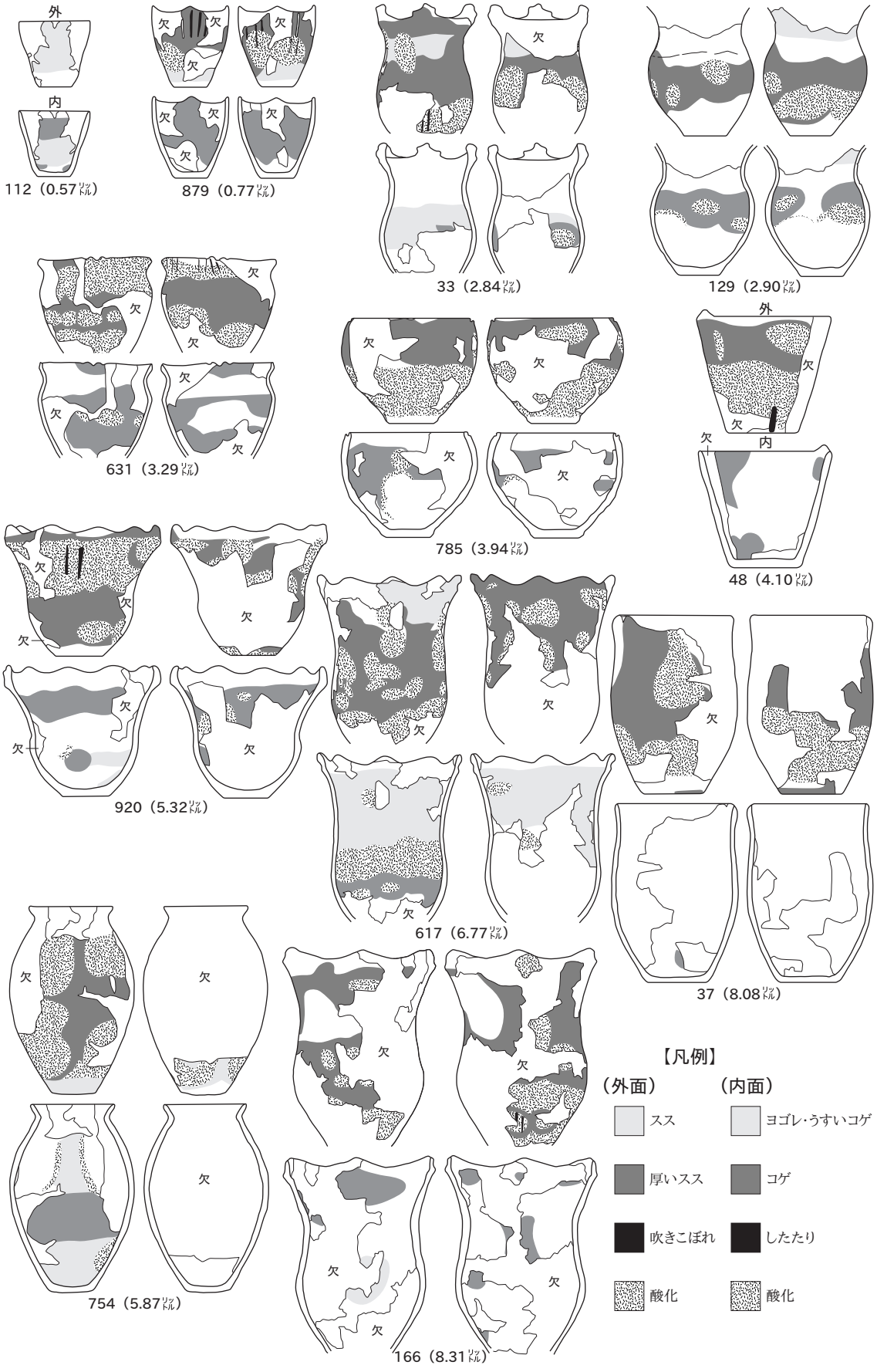
吹きこぼれ痕は 5 点中 3 点で認められた。白色（631）、黒色（33）、白色＋黒色（879）がある。

中小型（第 178 図）:内面のコゲは胴上部と下部（48･920）､胴部中位（785）､胴下部（754･617）に分かれ、相対的高さが大きいものは、胴下部に集中する傾向にある。内面のコゲで注目されるのは 754 である。胴下部のコゲ部分には種別は特定できないものの穀粒状の黒色付着物が認められる（図版 409 上段）。判断できなかったため図示していないが、コゲが付着していない部分及びコゲ酸化部にも及ぶ可能性があり、煮沸内容物が推定できる例として極めて貴重である。754 は括れ度を計測した土器の中では、58 と最も括れが強い土器である。ほかとは異なる特別な調理が行われた可能性を指摘したい。

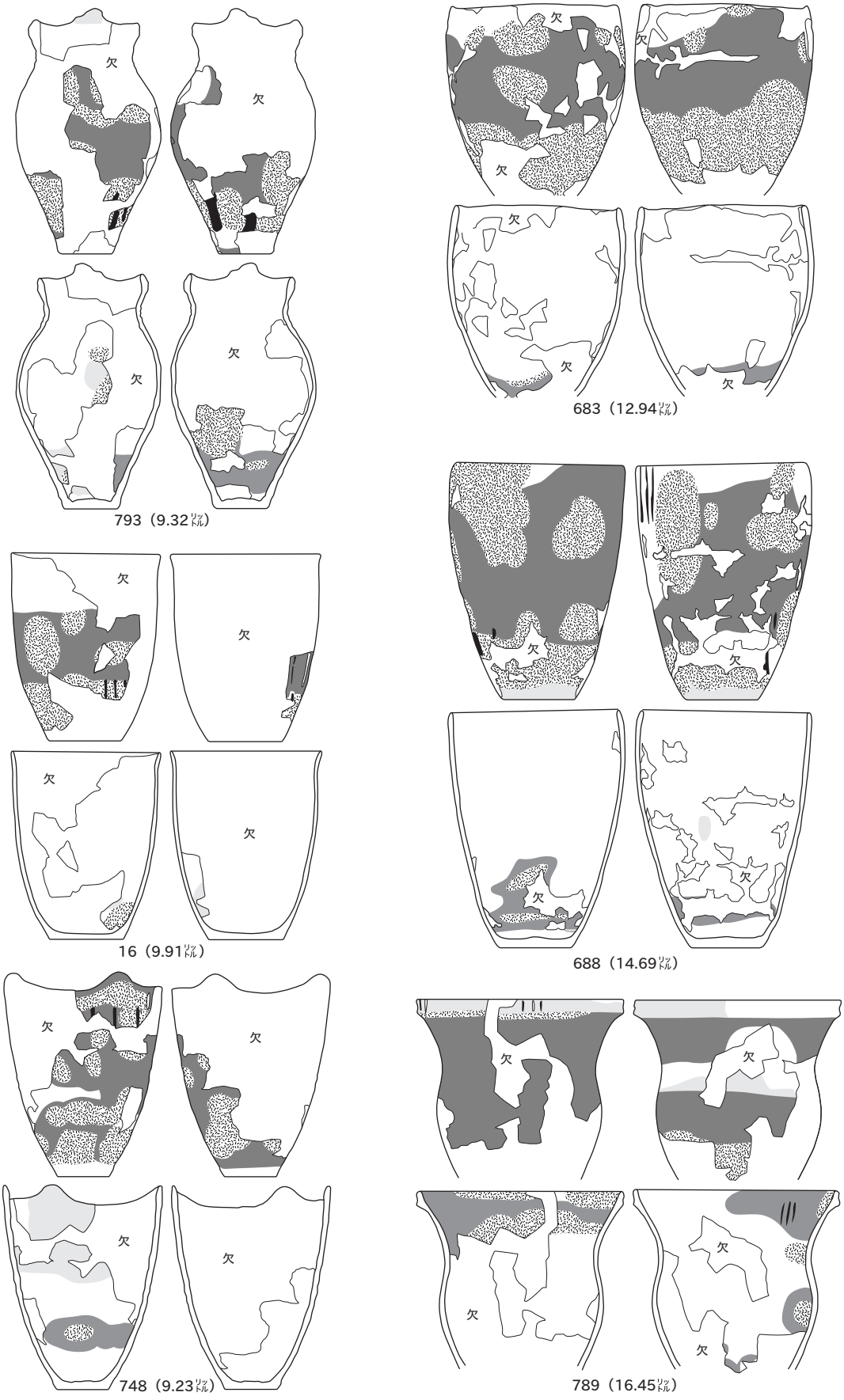
外面のススは、小型と同様に胴部上位を中心に認められる円形ないしは楕円形のスス酸化部が注目される。ほぼすべての個体で確認できるが、このうち 617 は、ほぼ縦位に連続して円形・楕円形のスス酸化が認められ（第 182 図上段左）、一部は内面のうすいコゲないしはヨゴレの酸化消失とも対応する。また、残存率が低いことから連続的か否かは明確でないが、754 でもやや広い範囲で縦位にスス酸化部が連続しており、内面のうすいコゲないしはヨゴレの酸化消失とも対応する（第 182 図中段左）。

吹きこぼれ痕は 5 点中 3 点で認められた。黒色が 2 点（920・48）と白色が 1 点（754）である

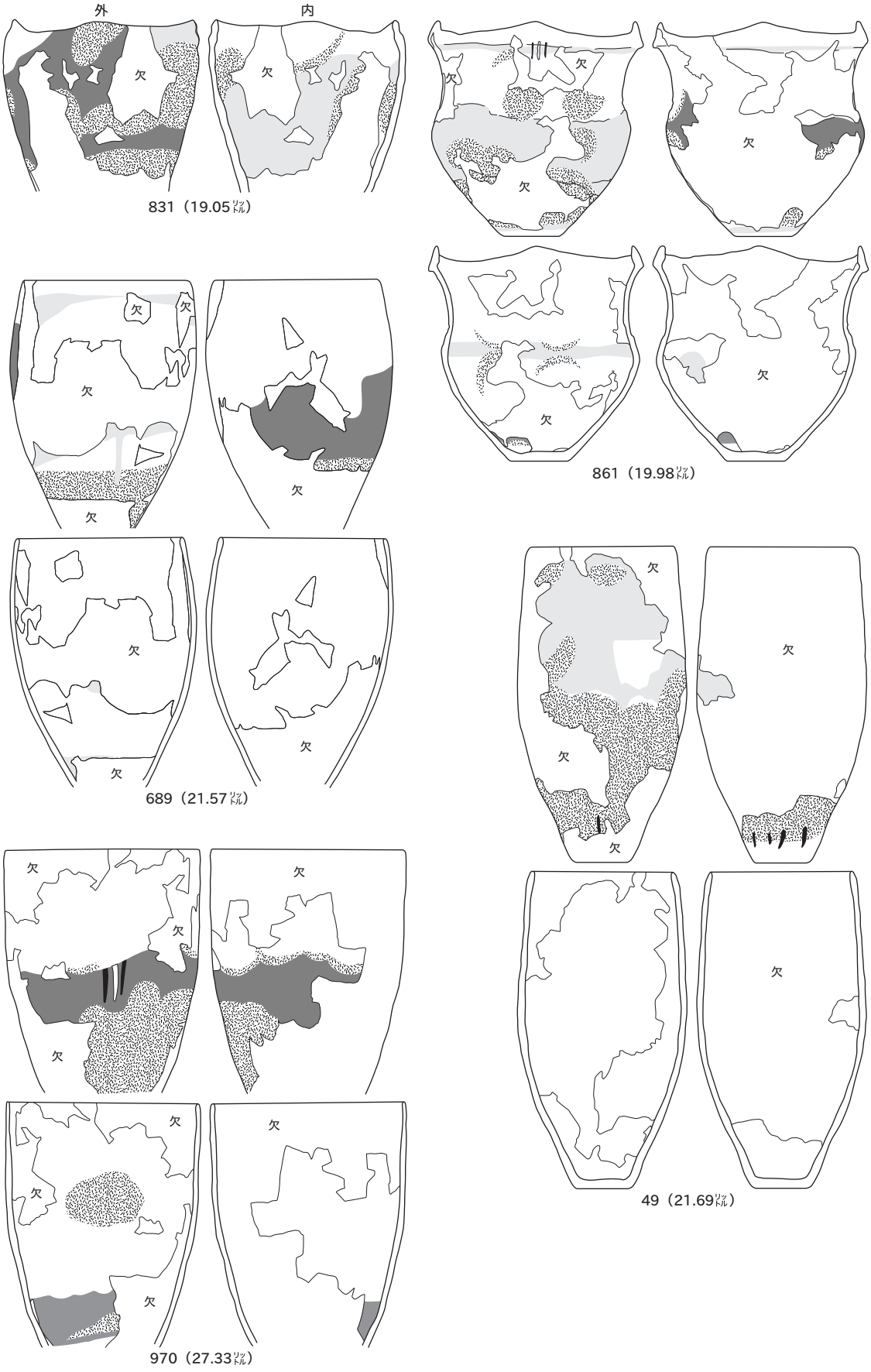
中大型（第 178・179 図）：内面のコゲはヨゴレ程度で明瞭でないものもある（16）。付着部位は胴上部と下部が 1 点（166）に対し、胴下部のみが 3 点（37・793・748）と多い。中小型と同様に、相対的高さとの関連が予想される。胴下部のコゲは、ベルト状ないしは環状近くにまで及ぶものがある（21・748）。いずれも層状の内部は酸化消失しており、喫水線上のコゲである可能性が高い。



第 178 図　観察結果（1）　S=1/10



第 179 図　観察結果（2） S=1/10



第 180 図　観察結果（3） S=1/10

外面のススは小型・中小型と同様の酸化部が認められる。特に 166・748 で顕著であり、ほぼ縦位に連続して円形・楕円形のスス酸化が認められ、一部は内面の薄いコゲないしはヨゴレの酸化消失とも対応する。残存率が低いことから明確でないが、21 もその可能性がある。

吹きこぼれ痕は 5 点中 4 点（166・793・16・748）で認められた。黒色が 2 点（166・793）、白色＋黒色が 2 点（16・748）である。

大　型（第 179・180 図）：内面のコゲはヨゴレ程度で明瞭でないものが 3 点ある（831・689・49）。831 は胴最下部を欠くため明確でないが、顕著なコゲが確認できないものは大型でも 19㍑以上と特に大きいもので認められており、これまで見てきた中大型以下の容量のものとやや異なる傾向である。内面に付着したコゲは喫水線上のものを除き、胴中部は 1 点のみで（789）、胴下部にベルト状に付着したものが 3 点と多い（683・688・861）。中大型と同様にベルト状コゲ部分は酸化消失したものもある（689）。

外面のススは中大型以下と同様の酸化部が、3 点で認められる（683・831・861）。特に 688 は、ほぼ縦位に連続して円形・楕円形のスス酸化が認められ、一部は内面のうすいコゲないしはヨゴレの酸化消失とも対応する。

吹きこぼれ痕は 7 点中 4 点で認められた。黒色が 1 点（49）、白色が 2 点（789・861）、白色＋黒色が 1 点（688）である。したたり痕は 789 の 1 点でのみ認められた。

特大型（第 180・181 図）：内面のコゲは喫水線上のものを除き、いずれも胴下部にベルト状に付着する。これに加え、胴部上位に及ぶものが 2 点ある（40・39）。中大型・大型と同様にベルト状コゲ部分は酸化消失したものが多い（970・39）。

外面のススは大型以下と同様の酸化部が、すべての個体で認められた。特に 39・40 は、ほぼ縦位に連続して円形・楕円形のスス酸化が認められ、コゲ酸化や一部は内面のうすいコゲないしはヨゴレの酸化消失とも対応する（第 182 図右列等）。

吹きこぼれ痕は 4 点中 2 点（970･813）で認められた。白色が 1 点（970）、黒色が 1 点（813）である。

浅鉢と粗製土器（第 181 図）：ス ス・コゲが明瞭な浅鉢（859）と特異な出土状況をした粗製深鉢（47）がある。浅鉢は内面のコゲ、外面のススが明瞭で煮沸経験を有することが分かる。47 は外面のスス酸化が特に著しい。明確な根拠に欠くが、台として使用され、長時間強い炎を受けた可能性がある。

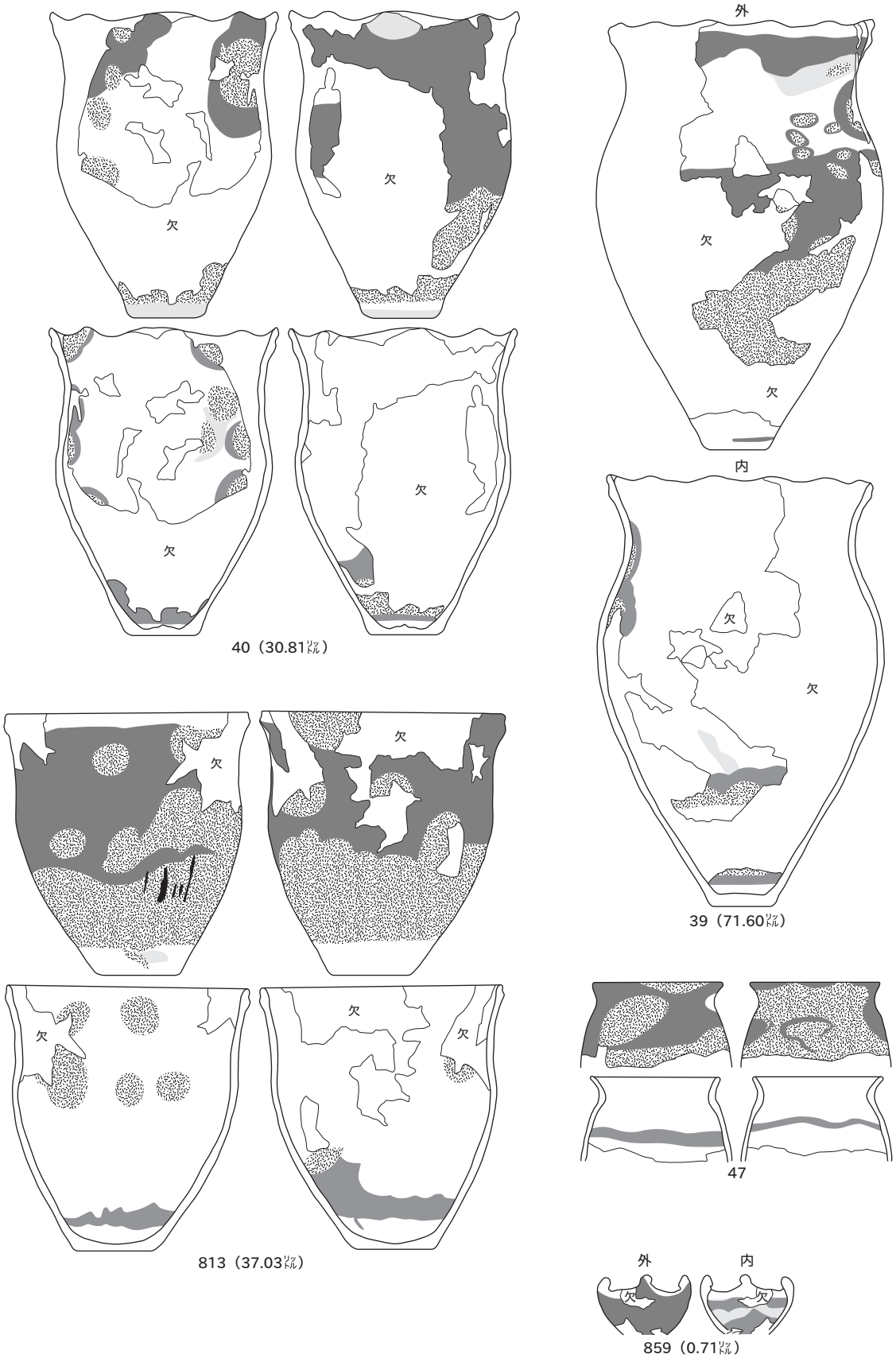
（5）観察結果の解釈

容量別にスス・コゲの付着状況を見たが、以下ではその傾向を確認する。これに加え、本遺跡の約 20km 北側にあり、中期末葉～後期前葉の村上市アチヤ平遺跡の観察結果［滝沢･野田 2009］と比較する。

使い分け：大きさ（容量）別にみたスス・コゲの付着状況には、密接に関連するものと容量に関わりなく認められる傾向はある。コゲの特徴として、薄いコゲないしはヨゴレ程度のものが数点ある。廃棄までの使用回数を反映した可能性はあるが、大型（12 ～ 25㍑）の粗製土器で目立つ傾向にある。顕著なコゲが確認できないものが、比較的大型の容量で認められる点はアチヤ平遺跡例と共通する [1)]。

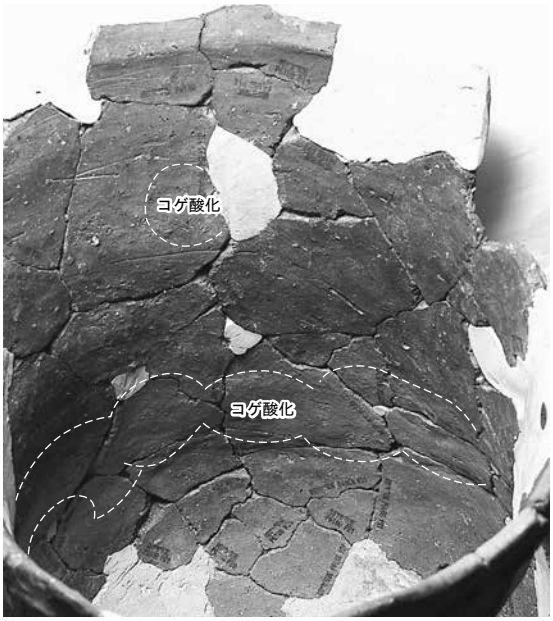
喫水線上と予想される口縁部付近のものを除いたコゲの付着部位は、小型のものほど胴部上位及び全面に及ぶ傾向にあり、相対的高さが増す中大型以上（8㍑以上）から胴下部にベルト状に巡るものが多くなり、大型以上では、コゲが付着しない粗製土器を除いて高い頻度で認められる。このことから、大型の一部を除いて比較的水分を飛ばす調理が行われていた可能性があり、その中でも本遺跡で特に括れ度が高い

1）アチヤ平遺跡でコゲが明瞭でない個体は、約 12㍑・21㍑等、比較的大きな容量で若干認められる。

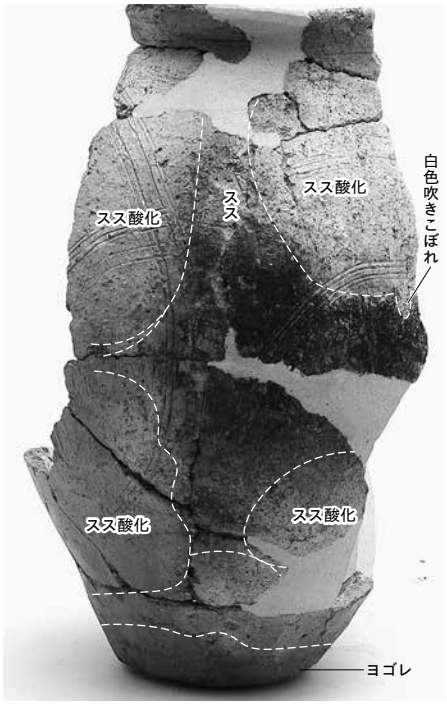


第 181 図　観察結果（4）　S=1/10

617　外面

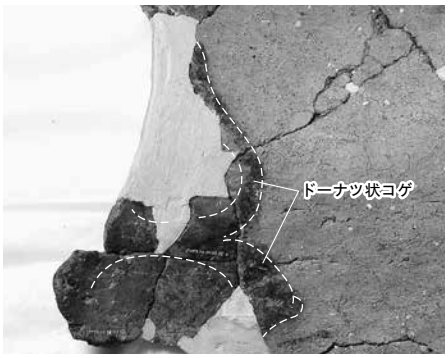


617　内面

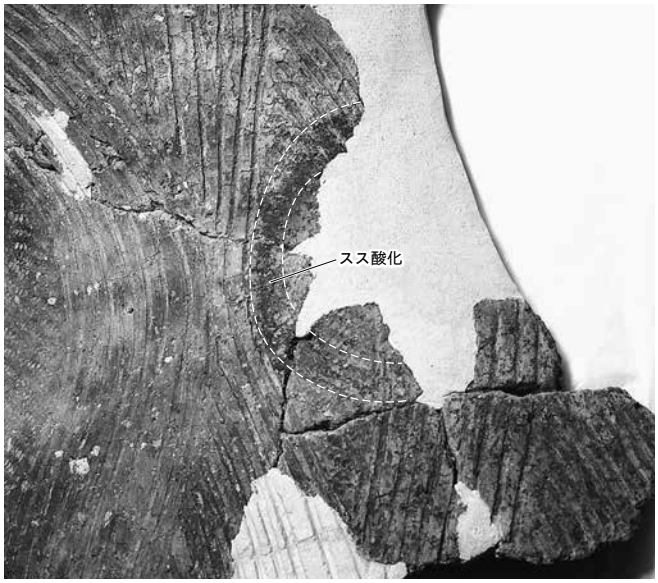


754　外面

39　口縁部外面



39　内面コゲ酸化



39の外面スス酸化

第 182 図　土器使用痕アップ

754 は内面の付着物から穀粒を調理した可能性が指摘できる。

吹きこぼれ：観察した深鉢・鉢 26 個中 16 で認められた。容量や精製・粗製の区分にかかわらず、高い頻度で認められており、観察個体 20 点中 9 点で認められたアチヤ平遺跡よりも高い比率である。

胴下部の層状コゲ:相対的高さが増す中大型以上（8㍑以上）から胴下部にベルト状に巡るものが多くなり、大型以上では、コゲが付着しない粗製土器を除いて高い頻度で認められる。胴下部層状コゲの生成要因については、喫水線上のコゲである可能性が指摘されている［小林・阿部 2008］。認定条件として、①コゲの下端ラインがほぼ水平で輪郭がシャープ、②コゲ下端ラインがやや高め、③したたり痕を伴う、④コゲバンド内部のコゲ酸化部、⑤幅狭いコゲバンドである。今回観察した個体で、この要件をすべて満たすものは存在しないが、④は水分を含まない空炊きをしないと起こり得ないとすれば、喫水線上コゲを認定する大きな根拠となる。④は 793・688・748・970・39 など比較的多くの個体で確認できる。

胴下部における喫水線上コゲの生成要因については、「盛り付け終了時まで鍋を炉から動かさない」「大量のオキで胴下部を囲むことから、比較的長時間加熱する」ことが想定されている［小林・阿部 2008］。一方で北野博司氏は小林氏らの見解を更に昇華させ、「調理物を取り出した後に、残存オキ火熱を利用した土鍋の加熱乾燥させる工程で生じたもの」とした［北野 2009p.21］。これはコゲ生成要因の検討で、胴下部の層状コゲ（コゲバンド内部の酸化あり）は通常の調理では起こり得ない［西田 2006］ことを受け、実験結果と調理内容物に解釈を加えたことから得た指摘である。深鉢に付着したコゲの安定同位体分析から、内容物がデンプン質や脂分に富んだ調理に主体的に用いられたことが明らかにされている［吉田 2008］。デンプン質や脂質を多く含む食材の調理では、器壁にデンプン質や脂がこびりつき、水洗いが困難である。このまま放置しておくと腐敗やカビ、異臭の原因になるため、「底に残った煮汁が乾燥するまで加熱する」ことで生じたコゲと判断した。縄文土器の観察結果から 10㍑以上の大型品で多いことを挙げ、移動による破損のリスクをさける意味でもオキ火の余熱で鍋を乾燥させることの有効性を説く。

本遺跡から出土した豊富な動物遺存体のデータを引用するまでもなく、縄文時代の食における動物性たんぱく質と、デンプン質の利用は説得力が高く、比較的容量な大きなものに喫水線上の胴下部コゲが確認されることからも、北野 2009 の説は有力なものと考える。

口縁部から胴部上位のスス酸化：小林・阿部 2008 の「側面加熱コゲ」に似た痕跡を示すものが多く認められた。この痕跡は①片面加熱、②蒸らし時の側面加熱、③横倒し時のオキ接触、④複式炉の側壁との接触、が要因とされている。本遺跡で認められたスス酸化部と対応するコゲ酸化は、不連続ではあるが縦位に円・楕円形のものもあり、調査で確認した炉からも①・②・④ではなく、③の可能性が高いと考える。③は「盛り付けが終わった鍋をオキ火上に横倒しした際、オキと接触した部分（最も張り出した部分）に円形～不整楕円形のスス酸化消失部」があるもので、「底近くに残った内容物を掬い取ることが考えられる」とされている［小林・阿部 2008］。以下、「横倒し時のオキ接触痕」として解釈を行う。

横倒し時のオキ接触痕は、容量・相対的高さが増す中小型でも 6㍑前後から多くなる傾向にある。成立要因は、「底近くに残った内容物を掬い取る」ための痕跡と考えた場合、高い頻度で認められることに加え、外面に円形・楕円形のスス酸化が幾列も縦位に連続することの説明が難しい。幾列も縦位に連続するスス酸化（617・166 など）は「横方向の転がし」の結果であり、胴下部層状コゲを加熱乾燥とした北野博司氏の解釈をヒントに、「加熱乾燥のため」と考えることがより合理的と判断した。相対的高さが大きいものが多いことは、口縁部近くまで乾燥させるには「オキ火上に横倒し」した方が、より乾燥時間が短縮できると考える。本遺跡で多く確認できた要因についての説明は難しいが、スス・コゲの残りの良さも一因と

考える。また、主体となる後期前葉の土器群は貼り付けによる大きな把手がなく、横倒し・転がしによる土器の破損が少ないことが要因かもしれない。中大型以上の容量では、胴下部層状コゲから、①直立による空炊き - ②横倒し空炊き - ③転がし、工程が復元できる。小型で 631 や 129 など 3㍍前後のもので認められるが、これらは①により乾燥が可能とも考えるが、「横倒し時のオキ接触痕」である可能性があることから、①が省略され、② - ③のみで加熱乾燥された可能性もあろう。横倒し時のオキ接触痕の認定とその解釈については課題も多いが、観察結果の一解釈として提示する。

d　土器の編年的位置等について

第Ⅴ章での記述どおり、上下面から出土した土器は後期前葉の南三十稲場式新段階～南三十稲場式最新段階に比定されるものでほぼ占められる。ここでは田中耕作氏［田中 1985・1989・1990・2002、田中・渡邊 1999］、品田高志氏［品田 2001b・2002］、金子優子氏［金子 2002a・c］らの時期区分を参考にして深鉢を中心に編年的位置付けを行い、地域性等について若干の検討を試みる。

(1) 編年的位置

・南三十稲場式新段階・南三十稲場式古段階（長割 1 期）（第 183 図）

2 群（三十稲場式）、3 群 A 類（南三十稲場式）の多くが概当する。2 群は散在的な分布にとどまるのに対し、3 群 A 類は SD5186 の集中区（Ⅰ～Ⅲ）でまとまって出土している。

三十稲場式：深鉢（609・978 など）のほか、注口土器（731 など）がある。深鉢は破片資料が多く、全体の文様構成は明確でない。このうち 978 は一部欠損しているが、橋状把手下の円形刺突間に孤線が施されている。これ以外のものは退化した橋状把手が残存するものにほぼ限られ、胴部の刺突から三十稲場式に比定したもの（609）は 1 点のみである。後述する南三十稲場式古段階に比して数量は少ない。

731 の注口土器は完形品である。土瓶型を呈し、胴部上半のみ上下区画内に縦位刺突、渦巻文とこれを囲う三角形状の沈線が施されている。田中耕作氏により南三十稲場式新段階のものとされた栃木県槻沢遺跡例［後藤 1996］に類似する［田中 2002］。

【南三十稲場式古段階】

無文ないしは縄文地上に太く浅い沈線で施文されたものを主体に、帯状の磨消縄文が施された A 類を基本とする。文様構成は口縁部と胴部からなるⅠ類（Ⅰ 1 類、Ⅰ 3 類、Ⅰ 4 類）と、口縁部・口頸部・頸部・胴部からなるⅡ類（Ⅱ 1 類・Ⅱ 2 類・Ⅱ 5 類・Ⅱ 6 類）、口縁部・口頸部・胴部とからなるⅣ類（Ⅳ 8 類）がある。縦位沈線は 3 本 1 単位のもの（342・872）が主体と考える。

［A Ⅰ類（口縁部・胴部の文様構成）］

縦位沈線による文様が描かれた 1 類（131・185・342 など）と、縦位沈線に U 字状の文様が加わる 3 類（787）、縦位沈線とそれに連結した斜行沈線が施された 4 類（872）がある。逆 U 字とした 864 はⅠ 1 類としたが、Ⅰ 3 類との関連が予想される。A Ⅰ 4 類の 872 の胴部文様は、堀之内 1 式として捉えられている土器群［石井 1993・1995 など］に類似するが、口縁部の指頭圧痕は新潟県内に広く認められる在地的な特徴との指摘［金子 2002a］があることから本群に含めた。

1 類の胴部文様は帯状の磨消縄文が施されたもの（131・185 など）、口縁部に縦位沈線が施された単位下に縦位沈線を施されたもの（342）、逆 U 字状（864 など）など多様である。このうち 185 は上～下位にかけて幅が減じており、V 字状を呈する可能性がある。口縁部は沈線のみ（131・863・864）のほか、指頭圧痕（185）、縦位の短沈線間が「コ」字状沈線（342）などがある。

3類の口縁部文様は1類と同様に、間延びした楕円形文が多い。楕円形文は787が円形刺突、805は円形文の間をつなぐ。4類（872）の口縁部文様は指頭圧痕に斜位の刺突が加わる。

［A Ⅱ類（口縁部・口頸部・頸部・胴部の文様構成）］

縦位沈線からなる1類（810・851など）、突起ないしは口縁部下に2～3条の沈線が縦位に施された2類（734・813・842など）、いわゆる縁帯文を持ち、基本的に口頸部が無文の5類（814・861・920など）、口頸部は無文で胴部に文様が施された6類（811）がある。金魚鉢形の器形で口頸部が無文の920は、信州地方を中心に分布するが、柏崎市十三本塚北遺跡［品田2001b］で定量認められることから本類に含めた。

1類で胴部文様が確認できるものはないが、口頸部にはU字ないしはV字状の沈線が施され、一部は胴部との区画線に連結する（810・851）。2類は口頸部が縄文地のもの（813）もあるが、無文が多い。口頸部文様はU字状（813）、3条1単位の縦位沈線（734）などに分かれる。2類の胴部文様は逆U字状を基本とするが、この中に渦巻文が施されたもの（813）もある。631はやや特異で、綱取式との区分が難しい。突起下に間延びした対弧文と渦巻き文からなる。

胴部文様は逆U字状が主体な点は5類も同様である。頸・胴部界の区画する横位沈線は全周せず、口頸部又は胴部文様間を結ぶものや、円形刺突を結ぶもの（814・843・861・920など）が多い。838は突起下に1条の縦位沈線が施され、口頸部・胴部区画の横位沈線が区画されており、綱取式との関連が濃密である。

Ⅱ類の口縁部文様は、大きな突起は少ない（810）。1・2類はやや間隔の空いた指頭圧痕（851）、1条の横位沈線＋円形刺突（631・813・734）がある。5類は単位の細かな小波状（920）のほか、5～6単位の小波状口縁（814・839）、4単位程度の小波状（861など）がある。口縁部文様は突起下の円形文間を横位沈線でつなぐもの（838・842・861）が主体であり、920を除き横位沈線の両端には小さな円形文が加わる。突起下の文様がこのほかでは間延びした逆U字（814）、ノ字状（839）などがある。なお、類例が少ない6類は突起下には大きな円形文が、その他は小さな円形刺突が連続する。

［A Ⅳ類（口縁部・口頸部・胴部の文様構成）］

出土数は少ない。全体の文様を把握できるものはないが、口頸部が四角文＋J字状（815）、渦巻文（973）などがある。いずれも口頸部が縄文地上に施文された点で共通する。残存部における突起が大きいもの（973）のほか、小さく単位も密なもの（815）がある。

本期の口縁部文様はⅠ類を中心に指頭圧痕が高い頻度で認められる。全周を基本として間隔が密なもの（872）と、間隔が空くもの（851）がある。指頭圧痕下には斜位の刺突が伴うものが多く、指頭圧痕に接して同じ単位で施されたもの（185）と、指頭圧痕には接せずに異なる単位で施されたもの（872）に分かれる。

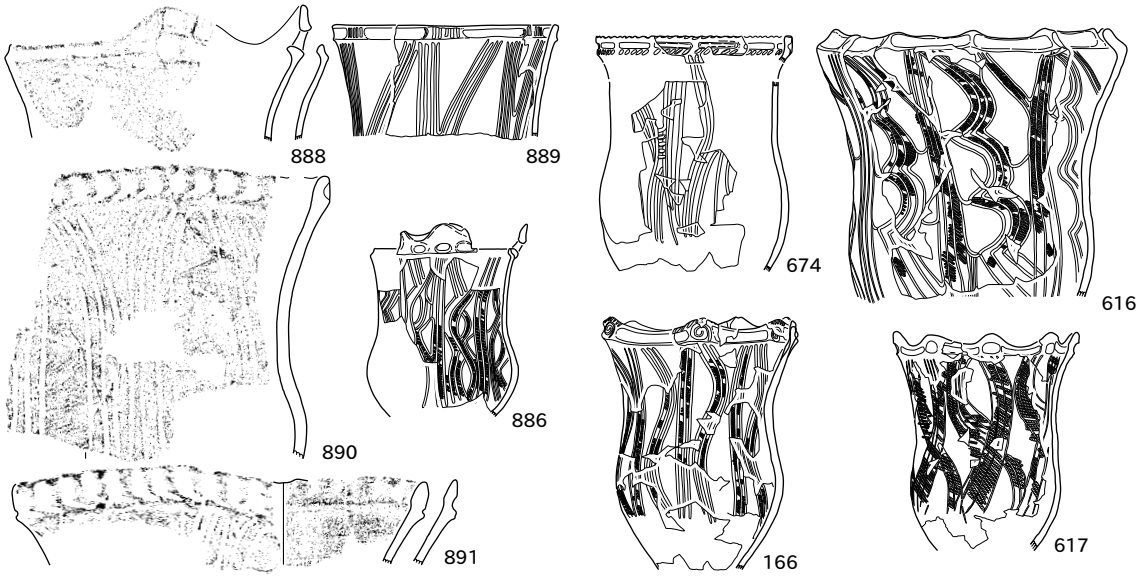
・南三十稲場式新段階（長割2期）（第184・185図）

沈線が多条化した3群B類を指標とする。前段階に比して沈線は細く深いものが多くなる傾向にあるが、A・B類のどちらかに決し難いものもある。ここではSX6185出土土器を基に、2期でも比較的古相のものを第184図に示した。また、これに類似するものを右に示した。

［2期古（第184図）］

SX6185出土土器はⅠ類（口縁部・胴部の文様構成）1類（縦位沈線文様）、3類（縦位と楕円・U字沈線文様）を主体とする。890・891の口縁部には斜位の刺突を伴う指頭圧痕が密に巡る。胴部には逆U字状の沈

第 183 図　長割 1 期の土器（S=1/10　断面実測は 1/6）



第 184 図　長割 2 期古の土器（S=1/10　断面実測は 1/6）

線が施され、890 は３条、891 は５条の沈線が加わる。１期の 864 と類似しており時期差とするには課題も多いが、逆Ｕ字状に伴う縦位沈線が 864 では１本なのに対し、多条化した点を重視した。また 889 は残存部において３条１単位とした縦位沈線に、Ｖ字状の沈線１条を加えた３条の沈線が斜位に接するが、後述する２期新のものに比べて沈線が少なく、楕円形文が施された口縁部幅が広いことから本期とした。Ｉ１類の 886 は細い沈線であるが、３個の穿孔を伴う突起は有する。タスキ掛け状縦位沈線が崩れたような胴部文様であるが、突起形態が２期新のものより古い様相が認められる。残存部が少ない 888 とともに、１期と後述する２期新の中間的な様相を呈することから、一つのまとまりとして捉えた。

このほかでは 166・616・617・674 がある。いずれも若干張り出した胴部と長い頸部と屈曲して立ち上がる口縁部からなる。いずれもＩ１類である。674・166 は３条、616・617 は４条の沈線を一単位として文様が施され、674・166・616 は縦位沈線間に蛇行する沈線が、617 はタスキ状の文様が施されている。集合化した沈線という点では２期新との区分に問題を残すが、器形は古相を呈し、十三本塚北遺跡ではＣⅠ群のⅢａ期とされたもの［品田 2001b］に多い。また後続する２期新の文様構成とは異なること、南三十稲場式古段階とされるアチヤ平遺跡上段の 1772 らとの関連から（第 187 図）本期の可能性が高いと考える[1)]。

［2 期新（第 185 図）］

沈線が多条化した３群Ｂ類を指標とする。口縁部と胴部からなるⅠ類（Ⅰ１類、Ⅰ４類、Ⅰ７類）と、口縁部・口頸部・頸部・胴部からなるⅡ類（Ⅱ１類・Ⅱ６類）、口縁部・口頸部・胴部とからなるⅣ類（Ⅳ１類、Ⅳ８類）を主体に、ＢⅤ類を含む。遺構出土土器も多く、SI1291 の４～８層、SK1318、SK1316、SK123 などでまとまって出土している。

［Ａ Ⅰ類（口縁部・胴部の文様構成）］

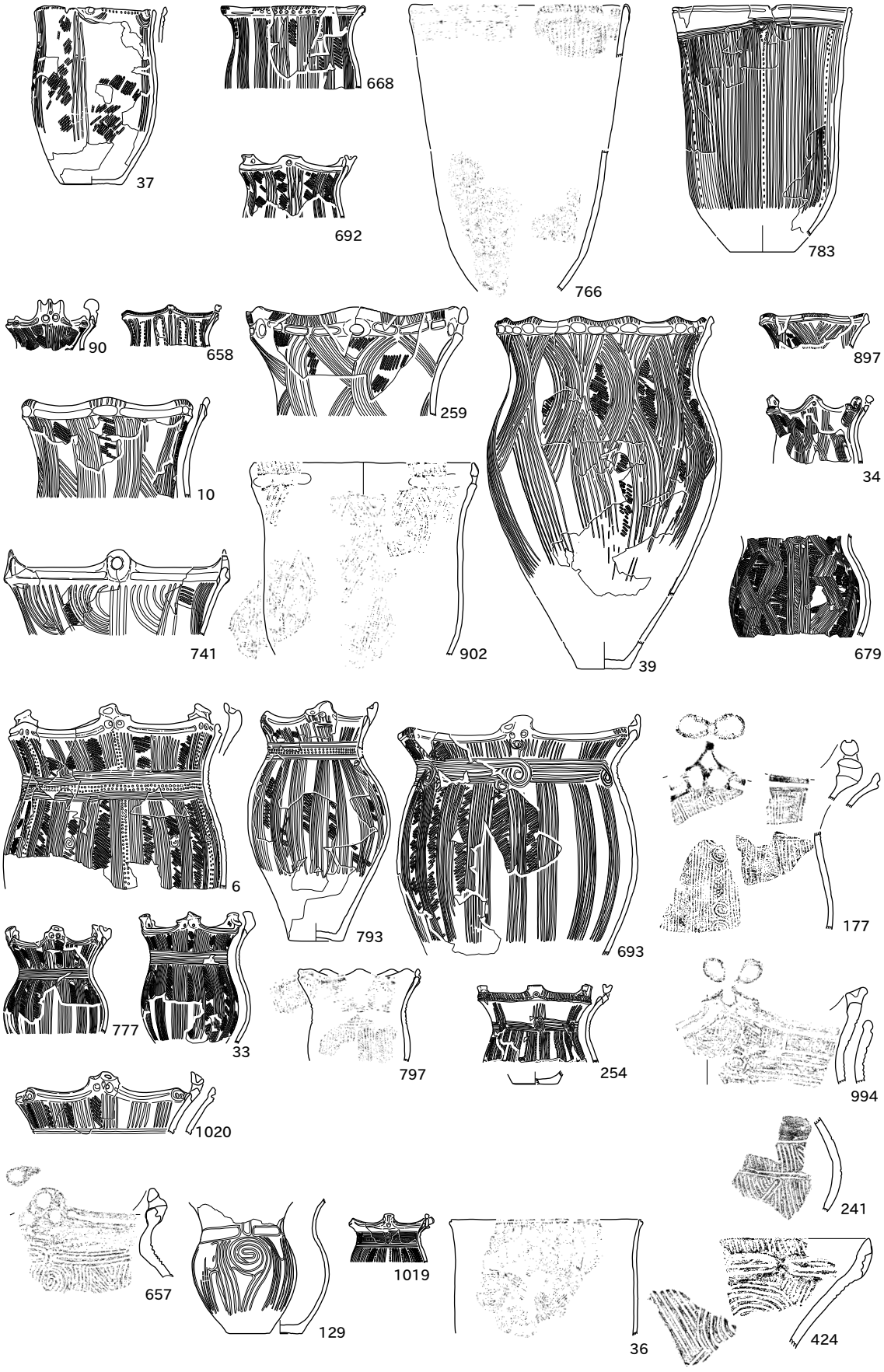
胴部に縦位の集合沈線が施されたもので、より古段階と位置付けたＡⅠ１類からの変遷が予想される。縦位沈線とその組み合わせは多様である。①垂下する縦位沈線のみで構成されるもの（37・668・692・766・783）、②垂下する縦位沈線にほかのモチーフが加わるもの（10・90・658・741）、③緩やかに蛇行する沈線が一部で接するもの（34・39・259・897・902 など）があり、それぞれで多様な在り方を示す。このうち①はＡⅠ１類としたもののうち 342 との変遷が予想される。口縁部文様も多様であるが、１期ないしは２期よりも口縁部幅は狭くなり、円形刺突（658）や楕円形文（766）は小型のものが連続する傾向にある。

②・③はＡⅠ１類にほか３・４類からの変遷が予想されるが、Ｕ字状のモチーフは口縁部直下で完結したり（90）、厳密なタスキ掛け状の文様は認められない。口縁部上端の刻みは、突起・波状口縁以外全周するもの（259・658）と突起下・波状口縁下のみ施されたもの（10・897）などがある。突起の施文方法は、全段階と大きな変化はないが、全体的に小ぶりなものが多くなる。

口縁部文様は突起下の円形（741）・楕円形（10）の文様を細長い楕円形文でつながれたものもあるが、連続する小さな楕円形文間をやや大きな楕円形文がつなぐもの（39）、円文間を小さな楕円形文が配置されるなど、全体的に小型化する。なお、前段階で認められた指頭圧痕は明確でなくなる。

口縁部の突起は立体的であっても１個の円形刺突が施されたものが多い点で、後述するⅡ類とは異なる。

1）アチヤ平遺跡上段で南三十稲場式古段階とされたものの中に、本稿の２期古に関連した資料が多い（第 187 図）。アチヤ遺跡 1772 の縄文地上に施された胴部文様は本遺跡の 674・166・616 と、口縁部文様は 674 に類似する。またアチヤ平遺跡 2205 は 890 と、同 2027 は 889、同 1354 は 617 との関連が予想される一方、同時期のものを含むが、図示したアチヤ平遺跡上段の資料は、本遺跡の２期古よりも古い様相が強いと考える。



第 185 図　長割 2 期新の土器（S=1/10　断面実測は 1/6）

なお、胴部を欠くが、本類の可能性が高い 90 の突起は特異であり、車輪状を呈する。

［B Ⅱ類（口縁部・口頸部・頸部・胴部の文様構成）］

1 類を主体に 6 類がわずかに認められる。A Ⅱ類からの変遷が予想されるが、差異は大きい［品田 2002］。

1 類は 3 単位の突起を基本とする。口頸部は 3 ～ 4 条の縦位沈線で縄文が磨消されたものが多いが、沈線が多条のもの（693）、無文のものがわずかに認められる（254）。突起下のみ横位の短沈線が施されたもの（793）、円形刺突列が伴うもの（777 など）、渦巻文（693 など）があり、胴部にまで及ぶものもある（6・177）。口頸部区画は横位沈線によるが、刺突列が加わるもの（6・793）がある。口縁部は突起下の円形刺突文を横位沈線でつなぐものが多い。円形刺突は 2 個が多い（6・777・33）。突起は 8 字状（立体）を主体に（6・777・793・693 など）、円形（立体 1019）（やや扁平 254）が若干存在する。突起下の円形刺突との関連も予想される。突起から予想される変遷として、254 は最も後出的な可能性があろう。

6 類は数量が少ない（129・657・1019 など）。129・657 はいずれも口頸部・胴部の区画は横位沈線であるが、連続せずに突起下で途切れる点で A Ⅱ類と共通する。また、胴部文様は縦位沈線に渦巻き文が伴う点でも共通する。1019 はⅡ 1 類との区分が問題となるが、口縁部直下に無文帯が広がることから、本類とした。突起下には渦巻き文が退化したものか、上開きの弧線が 2 段施され、上下 3 条の横位沈線間に刺突列が巡る。残存する胴部には 5 条 1 単位となる縦位沈線間に刺突列が施されている。口縁部の突起は立体的ではあるが円形で、B Ⅱ 2 類の 254 との関連が予想される。

［その他］

文様構成が口縁部・口頸部・胴部の B Ⅳ類（36）、口縁部・口頸部・頸部・胴部＋下端区画と予想される B Ⅴ類（241）、全体の文様構成は不明であるが口頸部に渦巻き文が施された 8 類（424）が各 1 点ある。36 は胴部文様から、424 は口縁端部の刺突列と楕円形文から南三十稲場式に含めた。241 は元屋敷遺跡斜面出土例［金子 2002b］に類似する。いずれも類例に乏しいが、沈線の集合化から本期に含めた。

・南三十稲場式最新段階（長割 3 期）（第 186 図）

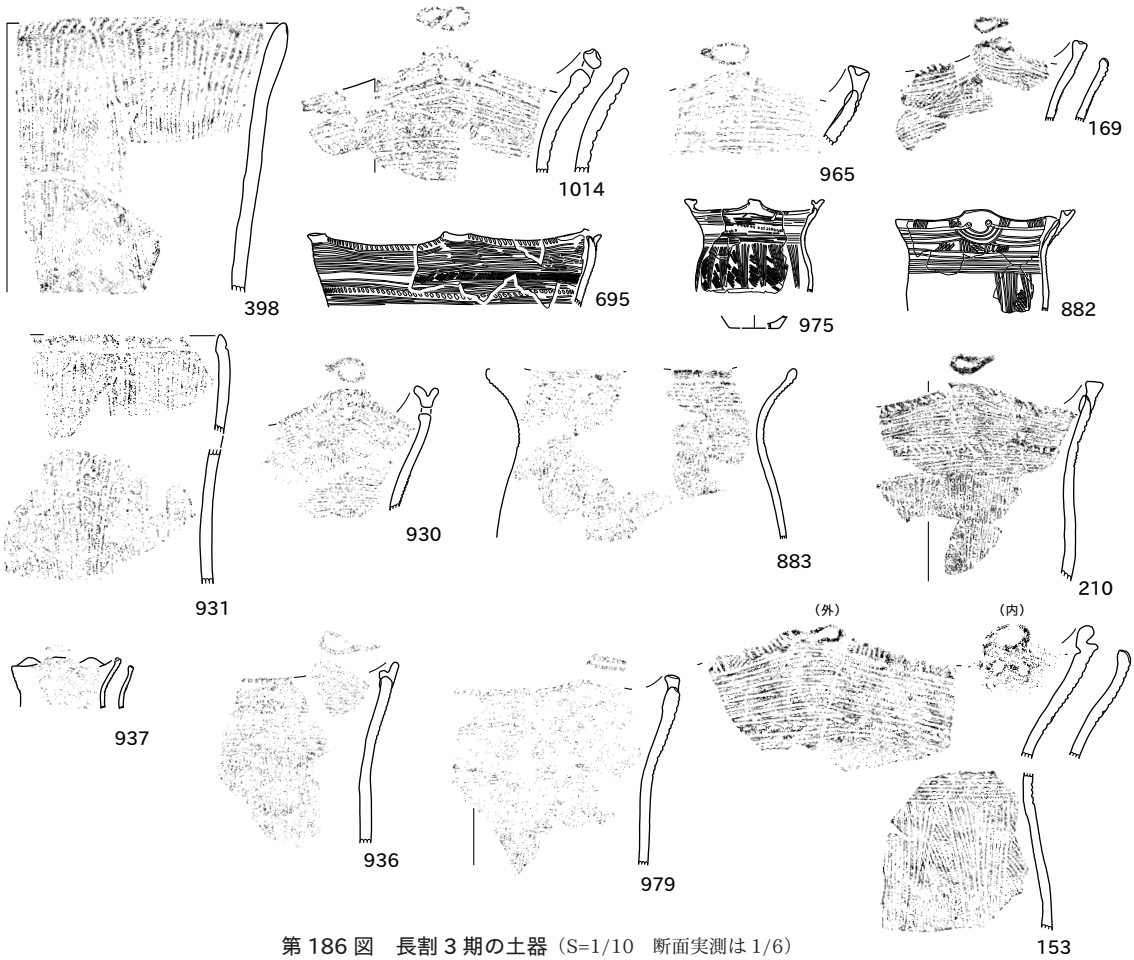
「新段階で多条化した沈線が更に細密・集合化の度合いが強め」、口縁部の突起も「潰れたように扁平化」したものを指標に抽出したもの［金子 2002b など］を本期とした。主に B Ⅱ 1 類からの変遷が想定されるものが主体となるが、文様表出から Ⅰ 1 類でより後出的なものを本期に含めた。包含層出土が多いが、SI1291 最上層や SB7705 の P2918（柱痕部）、SI7822 ～ 7824・201 床面出土等が相当する。

［A Ⅰ類（口縁部・胴部の文様構成）］

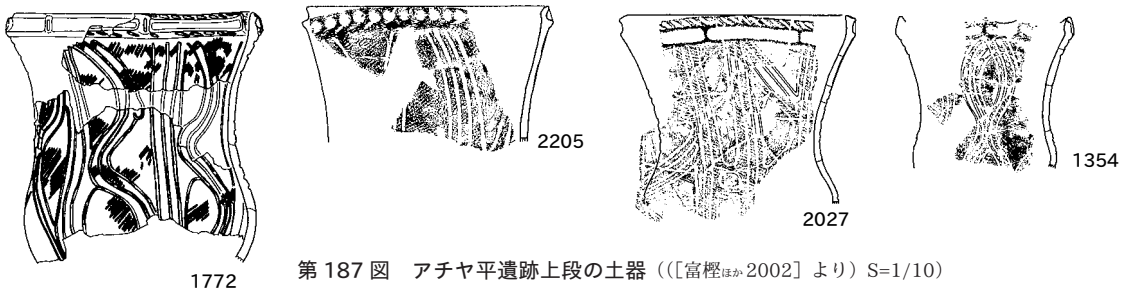
398・931 がある。ともに口縁部は斜位の刺突のみであるが、931 は 1 条の横位沈線で区画される。前段階のものに比して口縁文様帯が縮小し、楕円形文等を欠く。胴部の縦位沈線は下位ですぼまり、逆三角形を呈する。後述する B Ⅳ類等で顕著で、南三十稲場式最新段階で多い［金子 2002b］ことから本期に含めた。

［B Ⅳ類（口縁部・口頸部・胴部の文様構成）］

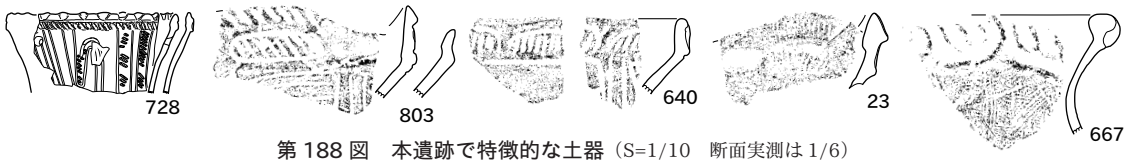
口頸部は横位沈線を基本とするが、縄文帯が伴うもの（169・695・882・1014 など）、無文帯が伴うもの（883・930）、横位沈線のみのもの（210・936・937・979）がある。頸部下端に横位の刺突列が加わるもの（153・169・210・695）があり、これらは B Ⅱ 1 類に区分すべきものかも知れない。口縁部の横位沈線はやや太いものもあるが（1014）、おおむね細く、途切れ途切れになるものが多い（153・695 など）。また、突起下に上向きの弧線が残るもの（1031）や、突起化から縦位の刺突列が施されたもの（930）もある。胴部



第 186 図　長割 3 期の土器（S=1/10　断面実測は 1/6）



第 187 図　アチヤ平遺跡上段の土器（([富樫ほか 2002] より）S=1/10）



第 188 図　本遺跡で特徴的な土器（S=1/10　断面実測は 1/6）

文様が把握できるものは縦位沈線が下位ですぼまり、逆三角形を呈するものに限られる。

口縁上端部の刺突は高い頻度で認められる。残存率が低いことから明瞭でないが、突起部分以外は全周すると予想されるものもある(695)。口縁部の突起は扁平な 8 字状(153･986)、やや立体的な 8 字状(980)、扁平な雨粒状（169・210・930・936)、沈線状（882・979）がある。

本類の特徴は、口頸部の横位沈線はＢⅡ 6 類とした 1019 の幅広な口頸・胴部区画の横位沈線に系譜を求めたい。明確な根拠を欠くため一括したが、口頸部の縄文帯があるものとこれを欠くもの、また口頸部下位に横位の刺突列があるものとないものがあり、細別時期差を示す可能性もある。突起と沈線の細密

化から、1014（横位沈線粗・縄文帯あり）⇒ 936・979（横位沈線密・縄文帯・横位刺突列なし）への変遷を想定したい。

（2）本遺跡の特徴と画期・併行関係について（第 188 図）

本遺跡の特徴と画期：在地の南三十稲場式と捉えた土器のうち、本遺跡でややまとまって確認できたものに口縁部の指頭圧痕、楕円形区画内の刺突、車輪状の突起等がある。指頭圧痕は南三十稲場式で多く認められるが［金子前掲］、時期は長割 1 期～ 2 期古段階までとなる。やや間隔が開いたものと連続したものがあるが、前者から後者への変遷を予想する。口縁部の楕円形区画内の刺突は、注口土器等で比較的多く認められるが（884 など）、深鉢への採用はそれほど多くなく、県内では元屋敷遺跡、県外では福島県郡山市びわ首沢遺跡［金崎 1980］・柳津町石生前遺跡［佐藤 1991］など県北部から福島県にかけて散見できる。刺突は幅広いもの（803・640）から狭いもの（23）への変遷を予想する。車輪状の突起は 90 のほか 667 でも認められるが、類例を検索できておらず、今後の課題としたい。

ここでの時期区分は在地の深鉢に限定しており、他器種・他系統の土器は時間的な制約もあり、検討が不十分である。これまでの時期区分に従って若干触れると、長割 1 期の注口土器は 84、浅鉢は 859、長割 2 期の注口土器には 203・654・801・1018、2 期の鉢には 887（2 期古）や 28、浅鉢には 8・32 などを想定している。おおむね南三十稲場式の範疇で捉えることが可能であり、これに他系統のものが加わるが、3 期における注口土器の存在は明確でなく、浅鉢も堀之内 2 式～加曽利 B1 式と考えるもので占められる。元屋敷遺跡の調査から、当期でも在地の鉢は存在するが、その数量が極めて限られる。

これと関連して 1 ～ 3 期の土器組成を考えると、1 期は様々な要素を含むものが存在するが、2 期古では一部で 1 期の特徴を残しながらも集約化され、2 期新では 1 期以来の伝統である Ⅰ 類における指頭圧痕の消失、斉一性の強い B Ⅱ 1 類の出現を重視する。A Ⅱ 5 類からのスムーズな変遷は認め難いため系譜の問題は残るが、B Ⅱ 1 類の定着は大きな画期と考える。元屋敷遺跡で抽出されて以後、胎内市分谷地 A 遺跡［伊東 2005］に加え、本遺跡でも定量認められることから、県北部に集中する可能性が高い。後続する 3 期の B Ⅳ 1 類も同様の傾向にある。ただし、3 期は深鉢以外の器種は他系統のもので占められる点で 2 期新と異なることが予想される。土器の文様表出からは 1 期・2 期古と 2 期新・3 期の間で大きな画期が存在するが、器種と他系統の関連からでは 2 期新と 3 期での違いを想定したい。

併行関係：出土例が多い関東地方との併行関係との対比を行う。堀之内 1・2 式の細分については石井寛氏の論稿［石井 1984・1993］を参考とした。既に指摘されているとおり、南三十稲場式古段階は、胴部文様から堀之内 1 式新段階、南三十稲場式新段階は堀之内 2 式の 5 段階細別のうち中段階、南三十稲場式最新段階は堀之内 2 式最新段階との指摘がある［金子 2002b］。本稿の時期区分も奥三面遺跡群の調査によるところが大きく、長割 1 期（南三十稲場古段階）は、胴部文様から堀之内 1 式新段階と接触するものと考える。長割 2 期新（南三十稲場新段階）は SI1291 の 4 ～ 8 層出土の 35 から堀之内 2 式 b 段階、長割 3 期（南三十稲場式最新段階）は、P2918 出土土器の 402 から堀之内 2 式新段階とそれぞれ接触すると考える。一方で、最新段階の在地の土器以外は、加曽利 B 式ないしは併行期のもの（926･961 など）もあり、接触した時期が予想される。3 期の細分とともに、今後の大きな課題である。

2）土製品について

本遺跡では、数は少ないながらも多様な土製品が出土した。帰属時期は主体となる土器と同様、後期前葉と判断される。ここでは全体の傾向を述べた後、土偶と皿状土製品について述べていきたい。

a　土製品の比率

本遺跡では膨大な量の土器が出土した（内側 54 × 34 × 9cm の箱で 1,200 箱、土器 3.6 トン）が、土製品[1]は 49 点で、その比率は非常に低い。柏崎市十三本塚北遺跡でも、多くの土器が出土している（313 箱）[2]が、土製品はわずか 9 点で、その比率は本遺跡同様に低い。十三木塚北遺跡は、第Ⅱ章で述べたように、本遺跡同様に後期後葉のみで廃絶する、唯一同パターンの遺跡（②後期前葉のみ）である。

一方、別パターン（①中期末葉～後期双葉または中葉）の城之腰遺跡［藤巻ほか 1991］･阿賀町北野遺跡［高橋雄ほか 2005］･村上市アチヤ平遺跡［富樫ほか 2002］では土製品出土数は多い。城之腰遺跡約 500 点（土器 1000 箱）・北野遺跡約 800 点（土器 14 トン）・アチヤ平遺跡 1844 点（土器 14 トン）という数が出土している。ただし、その土製品内での内訳をみると、城之腰・アチヤ平・北野の 3 遺跡では土器片円板が多量に出土しており、その比率は 90％前後を占める。一方、本遺跡と十三本塚北遺跡では 30％台にとどまる。ここでも違いが認められる。このことは、中期末葉には土器片円板が多量に出土するという可能性を示している。

アチヤ平遺跡以外は遺跡範囲全体を調査しているわけではないため、出土の多寡について一概に断定できないが、十三本塚北遺跡では遺物の 95％が廃棄域からの出土であるにも関わらず、11 点しか土製品が出土していないということは、土製品が絶対的に少ないという可能性が高い。

ところで、長割遺跡・十三本塚北遺跡（①）と城之腰遺跡・アチヤ平遺跡・北野遺跡（②）は、存続時期だけでなく、立地においても区別できる。①は海岸線近くに立地し、②は山間部ないしは内陸に立地する。以上のことから、推測の域を出ないものではあるが、土製品の多寡と集落の存続パターンや立地との間に関係性が認められる可能性を指摘しておきたい。

b　土　　偶

後期前葉は所謂ハート形土偶の時期である。1032 は腹部が大きく膨らむ特徴的な形態で、研究史でも注目されてきたタイプである。このような土偶の数は比較的少ないが、福島県内を中心に十数例あり、主に中通り地方の県中地区から県南地区にかけてと会津盆地に分布している［山口 1999］。以前はハート形土偶の中で腹部の膨らむものは「島名タイプ」、膨らまないものは「郷原タイプ」とされ［磯前 1985］、郷原タイプのほうが古いと考えられていた［瓦吹 1982］［磯前前掲］。しかし資料数の増加とともに、上記 2 タイプの他に複数のタイプがあることが指摘され［山口 1987］、さらにその複数のタイプを系列化することにより、腹部の膨らまない「郷原タイプ」は膨らむ「島名タイプ」よりも新しく位置づけられるとされ［上野 1997］、現在は認識が改められている

1032 は、比較的幅広の沈線文が体部の稜線に沿うように施され、背面には「釣針状渦巻文」が施される。側面部の施文は見られないが、これは施文が省略されたということで、後出の要素である。上野氏分類［上野前掲］の「石生前系列 / 西方前類型」（第 189 図）に併行する段階のものと考えたい。

1033 は、後期前葉においては県内最小であろう。腰部、肩、背中に細沈線が施される。一部は 2 本描きのようにも見える。小さいながらも板状を呈することも考えると、「郷原タイプ」と同時期の、1032

1）ミニチュア土器を土製品に含めない報告もあることから、ここではミニチュア土器を除いた数とした。
2）当事業団とは遺物収納箱の規格が異なり単純に比較できないため、報告書に記載されている箱の容量から、当事業団規格の箱数に換算した。

よりも新しい段階に属するものと考えたい。1086 も 2 本描きの細沈線による渦巻文であることから、同時期と判断できる。

土器型式では 1032 が南三十稲場式古段階（長割 1 期）、1033・1037 が南三十稲場式新～最新段階（長割 2 ～ 3 期）に比定できる可能性が高い。

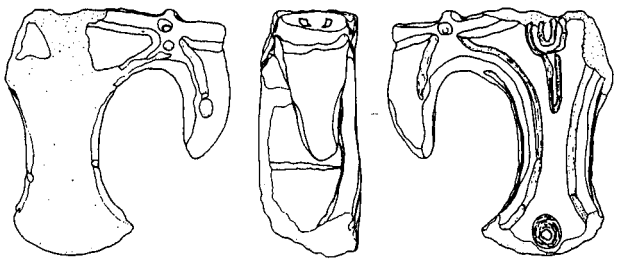
なお、県内における腹部の大きく膨らむタイプの類例は、小千谷市城之腰遺跡［藤巻ほか 1991］、阿賀町大坂上道遺跡［滝沢ほか 1995］のみであるが、どちらも本遺跡例とは近似しておらず、別系統であると判断できる。城立腰遺跡例は上野氏分類の「西方前系列 / 柴原 A 類型」と推測される。大坂上道遺跡例は体部無文であり、帰属時期は後期中葉と考えられる。

c　皿状土製品

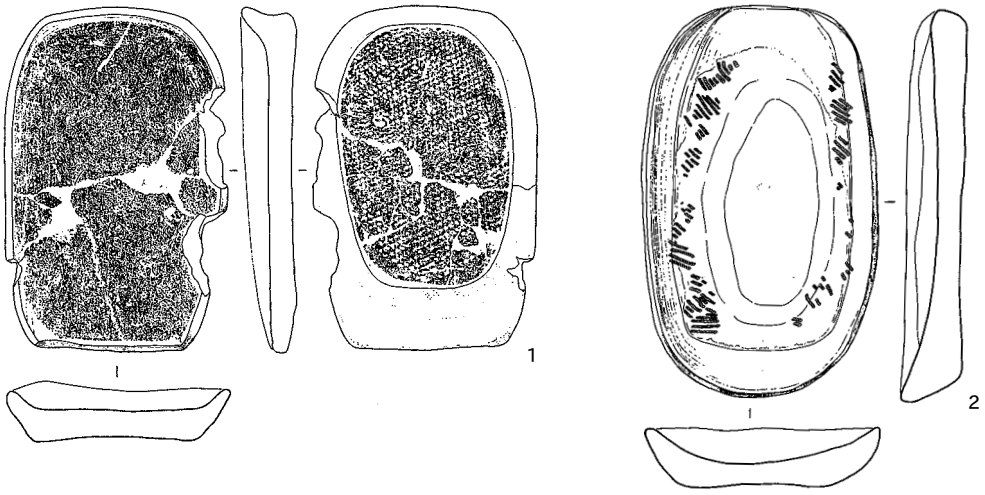
本遺跡からは石皿に類似した形態の土製品があり、皿状土製品とした。4 点出土している。このような形態の土製品は類例も乏しく、県内では長岡市岩野原遺跡［駒形・寺﨑 1981］、小千谷市城之腰遺跡［藤巻ほか前掲］で 1 点ずつ出土しているのみである。岩野原遺跡では「土皿」とされ、残存長 18cm 程度で中央部分は凹み、摩耗痕が認められるという［駒形・寺﨑前掲］。城之腰遺跡の「土皿」は本遺跡 1079 同様の破片資料であるが、推定律 42cm であろう。縁部に近い部分ということもあり、摩耗等は見られない。

県外では、福島県いわき市愛谷（あいたに）遺跡［馬目ほか 1985］と群馬県安中市中野谷（なかのやつ）松原（まつばら）遺跡［大工原 1998］で確認できる。愛谷遺跡では「皿状土製品」とされ、21 点出土している。そのうち完形品が 3 点認められる（第 190 図）。完形品の長径は 27.0cm、30.9cm、7.4cm である。後者はミニチュアであろう。内面あるいは内外面に縄文が施されるものも多く、中には凹面に使用痕が認められる個体もある。帰属時期については大木 9 式から加曽利 B1 式までと幅があるが、本遺跡の時期と重なる部分がある。

中野谷松原遺跡では石皿と磨石を模したものが 1 点ずつ出土している。ど



第 189 図　「石生前系列 / 西方前類型」の土偶（［上野 1997］より転載）
（福島県三春町三春町西方前遺跡出土　縮尺不明）



第 190 図　愛谷遺跡出土の皿状土製品（［馬目ほか 1985］より転載　S=1/6）

ちらもミニチュア土製品で、セットと考えられている。「石皿状土製品」は掃き出し部を有し、内面は黒色を呈し沈線により石目を表現するという精巧さである。ただし、帰属時期は諸磯 b 式であることから、本遺跡の時期とは一致しない。

本遺跡の皿状土製品は、完形品ではないため径は不明だが、愛谷遺跡例を参考に長径 30cm で図上復元してみたが､違和感はなかった。ただし 1078 のみは若干小さく長径 20 ～ 25cm になると推定される。また、愛谷遺跡で使用痕が認められた個体もあることから、本遺跡 1077 の滑らかな部分も使用痕の可能性がある。推測の域を出ないが、被熱の痕跡から石皿と同様の使用法を想定したい。

3）石器・石製品について

本遺跡では 3,490 点の石器・石製品が出土している。ここでは全体の傾向を概観するため、主要石器の組成と石材組成等について他遺跡と若干の比較を行う。

a　石器の組成

本遺跡出土石器の種別内訳は第Ⅴ章で記した（第 6 表）。ここでは鈴木俊成氏の用途別区分［鈴木 1996］を参考として、未成品を除いて以下のように区分した。狩猟具（石鏃、尖頭器、石錘）、採取・加工具（石錐・打製石斧・磨製石斧・筬状石器・三脚石器・板状石器・石匙等）、調理具（磨石類・石皿・石匙）。上記の区分では狩猟具 90（石鏃 88、石錘 2）、採取・加工具 179（石錐 8、打製石斧 52、磨製石斧 94、筬状石器 2、板状石器 10、石匙 13）、調理具 523（磨石類 446、石皿 77）となる。792 点中、調理具が最も多く 66.0%、採取・加工具が 22.6%で次ぎ、狩猟具は 11.4%と最も低い比率となる（第 67 表）。このような組成比率は新潟県中央部山間地域及び丘陵地域に多く、中期後半以降は新潟県北部の特徴となるという。長割遺跡の用途別組成は、鈴木氏の指摘した傾向とおおむね一致した傾向と考える。

同時期大規模集落との比較：集落の存続期間が一部で重複する拠点的集落と考える遺跡のうち、石器の組成比率が提示されている村上市アチヤ平遺跡［富樫ほか 2002］、胎内市分谷地 A 遺跡［伊東 2003・2005］､阿賀町北野遺跡[高橋雄ほか 2005]､小千谷市城之腰遺跡[藤巻ほか 1991]､柏崎市十三本塚北遺跡[品田ほか 2001］等と比較する（第 97 表）。後述するが、当概略期の大規模集落の存続時期は中期末葉～後期初頭（北野遺跡　分類 1）、中期末葉～後期前葉を主体に一部中葉を含むもの（アチヤ平遺跡上段、城之腰遺跡、岩野原遺跡？　分類 2）と、後期前葉主体（一部、中葉を含む）のもの（本遺跡、十三本塚北遺跡　分類 3）に区分が可能である。この傾向を確認した上で組成比率を見ると、いずれも調理具が主体な点で一致する。狩猟具 10 ～ 20%、採集・加工具が 20 ～ 50%、調理具が 55 ～ 70%と多いが、北野遺跡で狩猟具、十三本塚北遺跡では採集・加工具が極端に少なく、調理具が 85%以上を占める傾向にある [1)]。このような遺跡もあるが、長割遺跡の組成はアチヤ平遺跡上段・分谷地遺跡・城之腰遺跡と大きく異なる傾向は認められない。

個別の石器では石錘（城之腰遺跡、岩野原遺跡）、打製石斧（城之腰遺跡）、板状石器（アチヤ平遺跡･北野遺跡）の比率が異なる。地域に関わらず特定遺跡で多い石錘・板状石器、県中央部山間地（信濃川流域を中心とし

1）　砥石を採集・加工具に加えなかったのは、アチヤ平遺跡で「石皿類」とされていることから、分離が難しいことによる。本稿の分類によって十三本塚北遺跡で採集･加工具の比率が低下しており､報告書の区分と異なる結果となっている。また、十三本塚北遺跡では石皿が多いが、これは分割された状態で発掘されたためであり、接合資料が少ないことから、砥石と共にオーバーカウントされた可能性が指摘されている［平吹 2001］。本稿では用途別にみた石器の組み合わせの傾向抽出に主眼を置き、生産活動にまでは立ち入らない。

遺跡名	所在地	狩猟具				採集・加工具								調理具			総計	その他					存続分類	備考
		石鏃	尖頭器	石錐	小計	石錐	三脚	板状	打斧	篦状	磨斧	石匙	小計	磨石類	石皿	小計		両極石器	礫器	砥石	不定形	多面体		
長割	村上市	88		2	90	8		10	52	2	94	13	179	446	77	523	792	186	23	74	485		3	
アチヤ平上段	村上市	800	42	5	847	623		1312	33	168	350	150	2636	3302	1416	4718	8201	2227	8		11528	109	2	
分谷地Ａ下段	胎内市	60		2	62	36		16		60	73	25	210	280	72	352	624	72			398	14	2	
北野	阿賀町	56	4	38	98	116	7	178	30		167	63	561	3479	434	3913	4572	1043		121	2799	270	1	
岩野原	長岡市	96	1	648	745	22		692	99	22	171	3	1009					18		45			２？	参考
城之腰	小千谷市	179	24	688	891	101	11	16	373		316	8	825	2928	80	3008	4724	328	99	23	383		2	
十三本塚北	柏崎市	123		46	169	8			6		39		53	70	1622	1692	1914	86		171	63		3	
大関上野	村上市			6	6		1		217		8	6	232	60	1	61	299		1		105			中期前半
高平	村上市	23	2	94	119	4	1	1	37	8	61	57	169	323	21	344	632		2		178		4	中期中葉
城田	村上市	5	1	1	7	11			1		8	5	25	42	1	43	75	2	2	24	65		4	非拠点
江添	胎内市	12		2	14	2		1	1		1		5	50		50	69	4			22		4	非拠点

第 67 表　長割遺跡と関連遺跡の石器組成

た山間部）でも特に山間部では後期まで多い打製石斧との解釈［鈴木 1998］がある。

やや特異な状況として、長割遺跡での打製石斧・磨製石斧の多さがある。新潟県北部及び県内の海岸平野部は打製石斧が少ない地域とされており［鈴木 1996］、アチヤ平遺跡・分谷地遺跡・北野遺跡はこの傾向に合致する。これに対して長割遺跡では数量こそ 52 点と多くないものの、上記の区分で算出した 792 点中の比率は 6.6％に達しており、城之腰遺跡の 7.9％に次ぐ数字となっており、県北部ではやや特異である。

磨製石斧は 94 点で、同じく上記の区分での比率では 11.9％で、分谷地遺跡とともに高い比率である。県北部は輝緑岩ないしは安山岩製大型磨製石斧の生産が中期中葉以降で活発になるが［高橋雄 1999］、本遺跡においても同様の石材の未成品や、工具である多面体敲石・砥石が検出されている。同じく県北部に位置し、磨製石斧の生産遺跡であるアチヤ平遺跡とは、製品の出土量に比して未成品が少ないこと、多面体敲石の数量も同じく少なく、生産と消費の在り方が異なることが予想される。

周辺の同時期小規模遺跡との比較：後期前葉の土器が比較的多く出土しており、本遺跡と一部時期が重複する村上市城田遺跡［田辺・大賀 2001］、胎内市江添遺跡［折井ほか 2005］と比較する（第 67 表）。城田遺跡は後期前半を主体に後期後葉まで、江添遺跡は後期中葉まで断続的に継続する遺跡である。

出土量は少ないが、いずれも調理具が最も多い点で共通する。それ以外の比率が異なり、城田遺跡では採集・加工具＞狩猟具となり長割遺跡と共通するが、江添遺跡は狩猟具＞採集・加工具となる。江添遺跡で狩猟具の比率が高くなった点は、石鏃が 12 点とやや多いことも要因の一つであるが、磨製石斧･石錐･石匙が極端に少ないことに起因している。現地表下 2 ～ 2.5m 下に位置するという扇状地を選択した遺跡であり、これまで概観した後期前葉の遺跡とはやや様相が異なる。

周辺の他時期遺跡との比較：三面川の支流である門前川流域に位置する中期前半の村上市大関上野遺跡［塩原・竹内 2000］、中期中葉の同市高平遺跡［塩原・竹内 2001］と比較する（第 67 表）。前者は集落の末端か、フラスコ状土坑が集中する遺跡、後者は大規模な拠点的集落である。これまでの用途別に見た石器組成でみると、高平遺跡は、調理具＞採集・加工具＞狩猟具となり、おおむね本遺跡と一致する。石錐が 94 点出土していることから、若干、狩猟具の比率が高い。一方で大関上野遺跡は、採集・加工具＞調理具＞狩猟具となっており、やや特異な状況を示す。その要因は打製石斧を 217 点と大量保有している点であり、用途別に抽出した 299 点中の比率は 70％を超え、極めて特異な組成を示す。打製石斧は高平遺跡でも 37 点（5.9％）出土しており、県北部の組成としてはやや高い。本遺跡で打製石斧が定量出土しているのは、門前川流域の特徴である可能性がある。また、石器ではないものの、高平遺跡では火炎型土器・王冠型土器が多量に出土しており、県北部の状況としては極めて異質である。個別の石器がやや卓越する状況と合わせ、県北部内でも門前川流域の特徴を表している可能性がある。

b　石材について

本遺跡の出土した石器・石製品は多様な石材が使用されている。県北部では地道な河川等の石材調査が行われ［阿部 1995、秦 2001a、阿部・潮田ほか 2001 など］、周辺で採取可能な石材、遠隔地からもたらされた石材等の区分が可能となり、出土石器と石材環境についての記述も多い［阿部 1997a・b、佐野 2002、関 2004、長田 2004 など］。また理化学的な分析により、肉眼では判別が容易ではない特定石材の産地同定例も充実しつつある［藁科 2002a･b など］。これらの検討結果を基に、使用石材の傾向を垣間見る。

(1) 石器全体の傾向

本遺跡が位置する門前川流域及び、本流の三面川で採取可能な石材と、現状では採取されていないものに区分が可能である。

採取可能な石材：輝緑岩（磨製石斧･石皿･砥石･磨石類･礫器･三角立方形石製品など）、花崗岩（石皿･磨石類･多面体敲石など）、泥岩（打製石斧･磨製石斧･板状石器･線刻礫･擦痕のある石製品など）、ヒン岩（砥石･磨石類）、凝灰岩（石皿・多面体敲石・礫器・板状石製品など）、閃緑岩（石皿・砥石など）、砂岩（砥石など）

採取されていないもの：頁岩･流紋岩？（剥片石器）、黒曜石･鉄石英（剥片石器）、蛇紋岩（磨製石斧･大珠）、緑色凝灰岩（磨製石斧）、粘板岩？（石刀）、柱状節理のヒン岩（石棒類）

石器に使用された石材の多くは、門前川及び三面川で採取可能であるが、剥片石器及び、磨製石斧や石製品の一部は現状では採取されていない。このうち理化学的な分析を行った黒曜石や、新潟県西部～富山県が原産地の蛇紋岩が遠隔地から運ばれた石材で有る点は、共通した理解と考える。黒曜石は分析の結果、山形県月山産、不明（アチヤ平遺跡で AC1 群とされたもの）が各 40％強を占めて主体となり、信州（霧ヶ峰･観音沢・立科産）が 10％弱、県北部産（新発田市・板山）・北上川流域産（雫石・折居 -1・花泉）は各 3％に満たない（第Ⅵ章 6 参照）。ほぼ同時期のアチヤ平遺跡と比較して、成分比が一致する「不明」が多い点は共通するが、本遺跡で月山産が多い点で大きく異なる。県北部の黒曜石産地をまとめたもの［渡邊 2009］と比較すると、月山産が多い点は胎内市野地遺跡［渡邊前掲］と共通する。

剥片石器石材に多く利用された流紋岩・頁岩については、在地の石材か、遠隔地の石材かが特に大きな課題となるが[1)]、以下では剥片の状況から推定される遺跡内での出土状況を確認する。

(2) 剥片石器に使用された石材の検出状況

本稿の頁岩Ⅰ類（「半透明の頁岩」［阿部 1997］）や、黒曜石は背面に自然面を残した剥片が多い。頁岩Ⅰ類は長さ 5cm 未満、黒曜石は長さ 4cm 未満のものがそれぞれ多い。ともにチップとした 2cm 未満のものが出土しており、原石が持ち込まれて遺跡内で加工されたと考える。また、黒曜石は製品が極めて少ない点、遺構内から出土したものが多いなど、ほかの石材とは異なる点が多い。石核が出土した石材に流紋岩、頁岩、凝灰岩等がある。このうち流紋岩は長さ・幅ともに 10cm を超えるものが多い。875 点あり、剥

	頁岩 A	頁岩 B	流紋岩	鉄石英	凝灰岩	黒曜石	その他	合計
石鏃	16	25	42	2	1		2	88
石錐		5	3					8
石匙	1	8	2		1		1	13
筌状石器		2						2
異形石器			1					1
両極石器	43	42	68	2	3	3	25	186
不定形石器	11	243	180	5	37	4	5	485
石核		5	7		5		4	21
剥片類	115	482	875	42	71	51	60	1,696
合計	186	812	1,178	51	118	58	97	2,500

第 68 表　長割遺跡の器種別石材

1）門前川では採集されていないが、周辺の山田川近辺では流紋岩が採取され、瀬波海岸付近では良質の頁岩産地の可能性が指摘されている。また、高根川（三面川の支流）支流の鈴谷川では比較的良質で、特徴積が頁岩の露頭がある［阿部・潮田ほか 2001］。本稿ではこれを高根産と考え、頁岩Ⅱ類とした。

片中 51.6％を占める。P571 で 23 点がまとまって出土しており、6 点が接合することからも、遺跡内で加工されたものが多いと考える。剥片・剥片石器中で最も出土量が多く、不定形石器で 40％弱、石鏃で 46％と高い比率となるが、石匙では 15％でしかない（第 98 表）。本遺跡で最も使用された石材であるが、同一器種内でも丁寧な剥離が施されないものが多いなど、頁岩に比してやや浪費できた石材という印象を受ける。

（3）剥片石器石材の地域性

県北部では阿部朝衛氏の論稿［阿部 1995・1997a］で示された剥片石器石材の傾向が、継続して検討されており、一定の資料の蓄積がある。資料のカウント方法が一定でないことを配慮する必要があるが、大きな傾向を抽出するため、石材が提示された遺跡を第 69 表にまとめた。ここでは他遺跡の区分に従い、頁岩を A（半透明の頁岩。本稿のⅠ類）と、B（本稿のⅡ～Ⅶ類）に区分する。資料数に偏りがあるものの、頁岩が一貫して主体となる三面川流域の奥三面と三面川中流域[1)]、後期中葉以降に流紋岩から頁岩主体となる加治川流域（胎内川流域？）、流紋岩主体の阿賀野川中流域となる。このうち後期中葉～晩期初頭（ないし前葉）で頁岩 A が主体となる胎内川流域・加治川流域では、小型品の増加と比例するとの指摘がある［阿部 1995、渡邊 2009 など］。一方で三面川流域（阿賀野川流域？）は頁岩Ⅰ類は増加するが、胎内川流域・加治川流域ほどでない点は重要と考える。

三面川の支流である門前川流域の本遺跡では流紋岩が最も多いが、頁岩も 40％程度占めており、三面川上流（奥三面遺跡群）と加治川流域の中間的な組成といえる。区分が異なるため数値を提示していないが、同じく門前川流域の高平遺跡（中期中葉）は頁岩が多く、流紋岩は少ない［塩原・竹内 2001］。胎内川流域の分谷地遺跡では頁岩と流紋岩が拮抗するようである［伊東 2003］。このことから門前川流域では、頁岩主体の中期中葉から、後期前葉では流紋岩・頁岩が拮抗して胎内川上流域と類似した傾向を示すと考える。

流域		頁岩 A	頁岩 B	流紋岩	鉄石英	凝灰岩	黒曜石	その他	合計	時期	備考
三面川	長割	186	812	1,118	51	118	58	97	2,440	後期前葉	本遺跡
	アチヤ平・中下段	25	349		19			3	396	前期前葉～後葉	剥片を除く（奥三面遺跡群）
	下ゾリ	2	55	1	1		2	1	62	中期前半	剥片・不定形石器を除く（奥三面遺跡群）
	前田	2	76	1	2	1	2	11	95	中期中葉	剥片・不定形石器を除く（奥三面遺跡群）
	下クボ	3	23	2	1			2	31	中期後葉	剥片・不定形石器を除く（奥三面遺跡群）
	アチヤ平・上段	656	21,107	795	420	277	106	1,094	24,455	中期末～後期前葉	剥片を除く（奥三面遺跡群）
	元屋敷	6,444	28,709	2,424	1,209		189	1,075	40,050	後期前葉～晩期末葉	（奥三面遺跡群）
	熊登	20	102	8	3			5	138	後期中葉～晩期前葉	
	駒山	10	64	8	5			6	93	晩期前葉～後葉	
	古志王林	109	492	18	11	2	2	116	750	後期後葉～晩期後葉	
胎内川	江添		7	24				5	36	後期前葉～中葉	
	野地（P2・3）	1,324	751	254	26		4	227	2,586	後期中葉～晩期初頭	P2 区 H5b・6b 層
	野地（P1・3）	292	679	182	33		10	94	1,290	晩期前葉	P1 区 H5 層・P3 区 H5 層
	道下	11	48	12				2	73	晩期前葉	
加治川	小丸山 A	7	63		6		3	19	98	前期後葉	
	石田	93	107	375	60	1	683	44	1,363	中期中葉	
	堂ノ前	11	9	134	17	2	3	42	218	中期中葉	
	川原	6	3	84	5	1	1	1	101	後期前葉	
	二タ子沢 C	242	84	68	8		2	24	428	後期中葉	
	中野	244	128	108	73	6	12	38	609	後期後葉	
	館ノ内 D	137	410	814	932	6	43	702	3,044	晩期中葉～後葉	その他のうち 548 点が玉髄。
阿賀野川	ツベタ	32	154	721	324	11	1	230	1,473	中期中葉～後期前葉	
	藤堂	39	86	128	116	31	4	61	465	後期後葉	
	六野瀬		43	585	65	2	1	506	1,202	晩期後葉	その他のうち 450 点がメノウ。
	北野・上層		566	441	82	351	4	616	2,060	中期末～後期初頭	剥片を除く。「その他」のうち 487 点が緑色凝灰岩。

第 69 表　新潟県北部における縄文時代遺跡の剥片石器石材

1）ここでは頁岩を半透明の頁岩（A）とそれ以外（B）に区分したため、数量比では現れないが、高根産と考える本稿の頁岩Ⅱ類の比率が問題となる。計測石器中の比率では、駒山遺跡で 22.5％・古志王林遺跡で 16.5％を占めるが、熊登遺跡では 4 ％程度、アチヤ平遺跡上段・元敷遺跡では 1 ％前後である［佐野 2002、阿部 2002］。本遺跡は 1 ％程度であることから。現状では原産地の流域沿いのみ多用された石材と考えている。

c　石製品について

注目されるものに石刀がある。東北地方北部が主体的な分布域であり後期前葉に顕在化するという［阿部 2010］。1 点のみの出土であるが、後期前葉では県内では初めての確認例である。柄頭部の破片で、形態はＣ類ないしはＦ類に当たる［阿部前掲］。本類が集中する地域は東北北部では認められないようであるが、山形県村山市川口遺跡［阿部ほか 1990］出土例が最も類似する。川口遺跡においても、本稿の 1 群の中で南境式土器としたものが多数出土しており、土器様相と共に搬入先が注目される。

このほかに大珠、線刻礫に加え、三角立方形石製品が注目される。大珠は大型であってもヒスイ製でない。線刻礫は、奥三面遺跡群アチヤ平遺跡群で多量に出土しているが、本遺跡ではわずか 1 点にとどまる。集落の存続期間は短いものの、遺跡規模が大きい本遺跡ではアチヤ平遺跡に比して、「第二の道具」［小林 1977］が少ない印象を受ける。同じく海岸平野部の柏崎市十三本塚北遺跡でも同様の傾向がうかがえることから、山間部と海岸平野部の遺跡では、「第二の道具」の保有量が異なる可能性がある。

B　最下面の遺物

1）中期前葉の土器

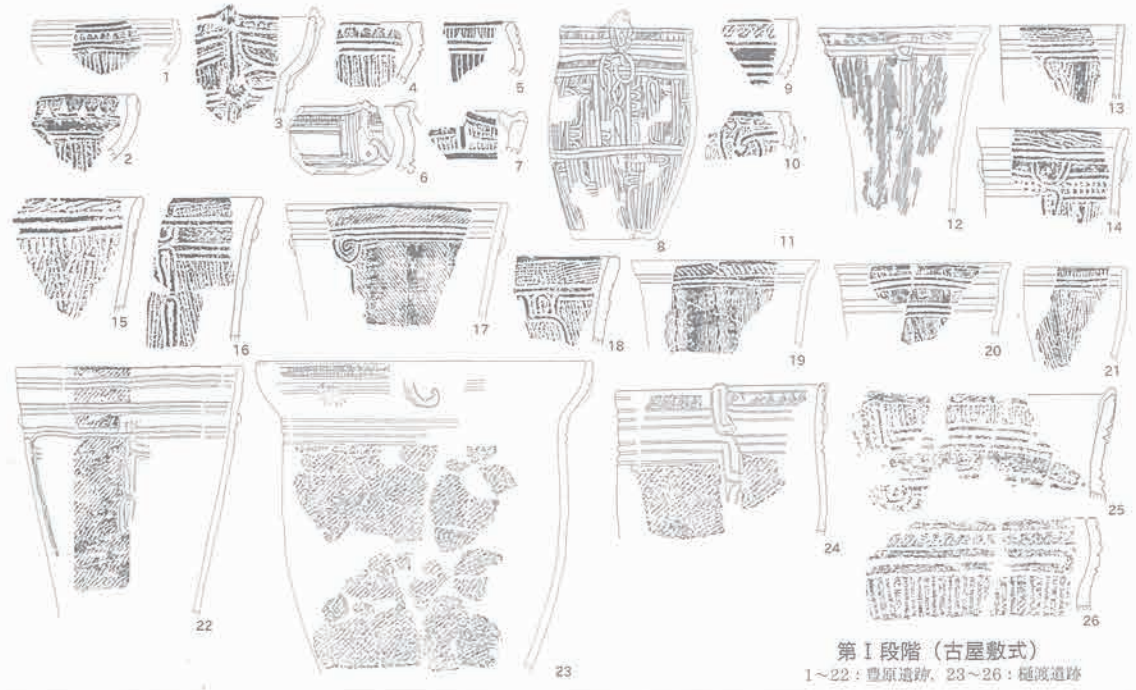
編年的位置

本遺跡から出土した中期前葉の土器は、第Ⅴ章で述べたとおり大多数が北陸系（A 群）土器である。このため北陸系土器について若干の検討を加えてみたい。

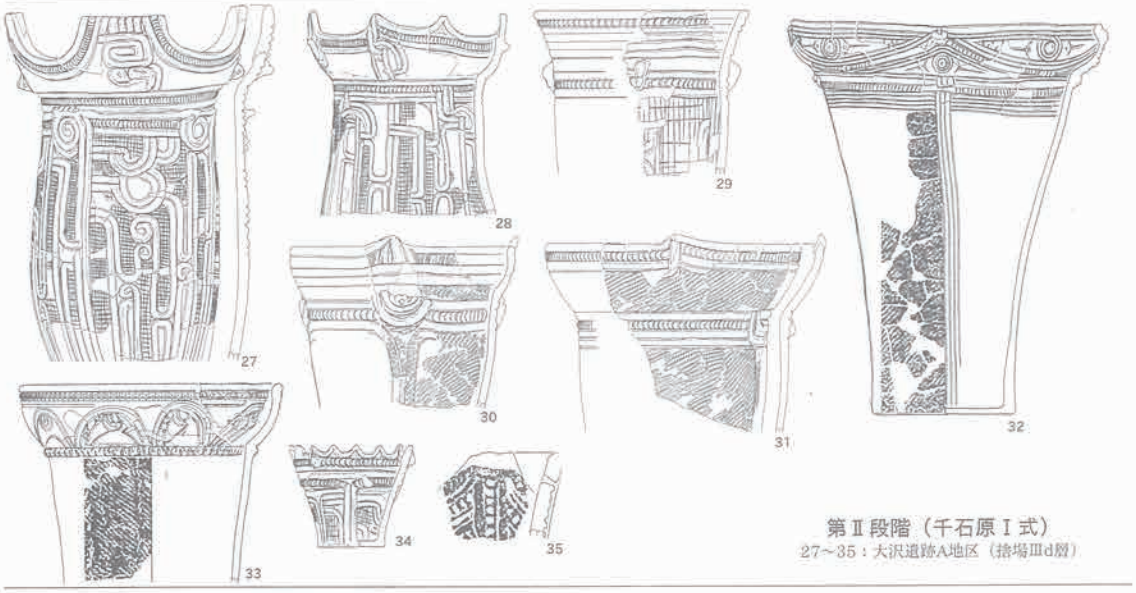
北陸地方では、中期初頭から前葉は新保式・新崎式という 2 つの土器型式が設定されている。しかし、

この 2 つの型式は一連の様式として扱われることが多い。新保式と新崎式の区分について未だに一致をみていないことが一因である。争点の 1 つは、本遺跡でも多く出土している三角形陰刻の蓮華文（以下、彫刻蓮華文とする）である。この彫刻蓮華文は、次段階になると、三角形の抉り込み部分が半截竹管による施文（以下、刻印蓮華文とする）に変わり、さらに、蓮華文の花弁部分が縦長になる（以下、長花弁蓮華文とする）という変遷をたどる。彫刻蓮華文の段階から新崎式とする考え方としては［神保 1977］［小島 1977･1979］［布尾 2007］があり、これを新保式終末とする考え方としては［南 1976］［山田 1986］［高堀 1986］［加藤 1988・1995・2008］がある。前者（新崎式とする考え方）は、研究史を見直し、新崎式設定当初は陰刻手法であろうが竹管手法であろうが、蓮華文は新崎式の特徴のひとつとして捉えられていたことを重視している［小島 1977］［布尾 2007］。一方、後者（新保式終末とする考え方）は、器形変化や胴部の木目状撚糸文・羽状縄文の有無により区別している［加藤 2008］ようである。

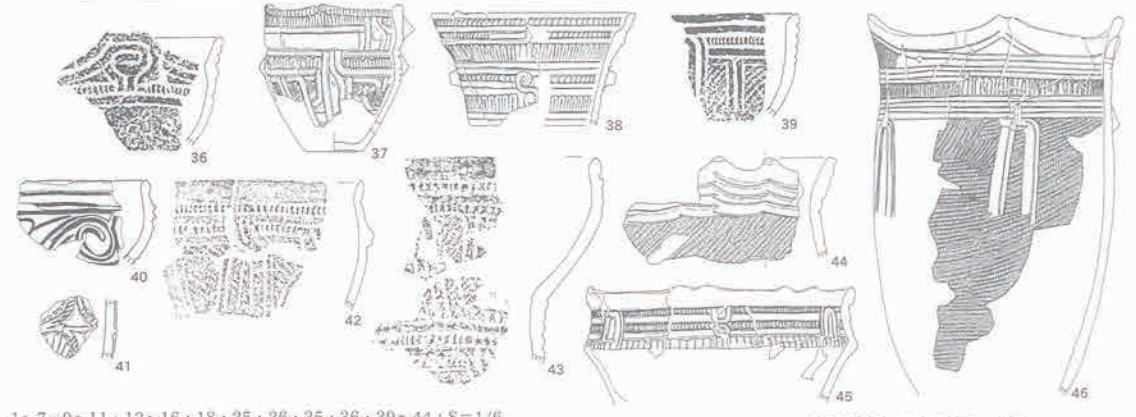
新潟県では、北陸の研究動向を反映しながら検討が重ねられてきた［寺﨑 1988・1995・1996、高橋 1990、前山 1990・1994、佐藤 1991・1997、長澤 2003・2007・2009 など］。長澤展生氏は中期前葉を 4 段階に区分した［長澤 2007］。魚沼地方を主体に変遷と様相を整理したもので、中越以北と魚沼地方の変遷をそれぞれまとめている。寺﨑裕助氏は、蓮華文を主たる基準として、県内の新崎式系土器を 3 段階に区分し、改めて型式名で示すことを提案した［寺﨑 2009］。氏は、新潟県においては北陸よりも彫刻蓮華文の出土例が圧倒的に多いことを考慮して、彫刻蓮華文を新崎式とする考え方に立つ。新崎式設定当初の考え方（蓮華文は新崎式のひとつの特徴とされていた）を重要視するとともに、新保式とする論考からも「設定当初の考え方を積極的に否定あるいは異を唱える主張は読み取れない」と指摘する。長澤展生氏の論稿とは、標識とする資料に若干の差はあるものの、基本的な変遷については二氏とも概ね一致して



第Ⅰ段階（古屋敷式）
1～22：豊原遺跡、23～26：樋渡遺跡



第Ⅱ段階（千石原Ⅰ式）
27～35：大沢遺跡A地区（捨場Ⅲd層）



1～7・9～11・13～16・18・25・26・35・36・39～44：S＝1/6
8・12・17・19～22・24・27～31・33・34・37・38・45・46：S＝1/8
23・32：S＝1/10

第Ⅲ段階（千石原Ⅱ式）
36～41：大沢遺跡A地区（2号住）、42～46：曲谷E遺跡

第 191 図　寺﨑［2009］の時期区分（［寺﨑 2009］より転載・改変）

いる。本報告書では［寺﨑 2009］の編年観に従って述べることとする。

ここで寺﨑氏の編年について概略を述べておきたい。前述のとおり新崎式期を 3 期に区分し、第Ⅰ段階（古屋敷式）－第Ⅱ段階（千石原Ⅰ式）－第Ⅲ段階（千石原Ⅱ式）とした（第 191 図）。区分の基準は主に蓮華文で、三角形陰刻による彫刻蓮華文→竹管手法による刻印蓮華文→長花弁蓮華文という変遷を主張している。そのほか、第Ⅰ段階の特徴としては、軌軸文や爪形文、「し」字状突起、幅狭の横位無文帯を挙げる。地文は縄文が多く、木目状撚糸文や羽状縄文が見られる。胴部にも半隆起線が施されることもあるが、その区画文ではＢ字状文が目立つと言う。五領ヶ台Ⅱ式・大木 7a 式・円筒上層ａ式と併行するとした。第Ⅱ段階は彫刻蓮華文に代わって竹管手法による刻印蓮華文が認められ、ヘラ描きの格子目文も見られる。鋭角爪形文が盛行し、楔形刻目文とｈ字状文が出現する一方で、口縁部下位の縦位集合沈線・彫刻蓮華文が消滅する。阿玉台Ⅰａ～Ⅰｂ式・大木 7b 式・円筒上層ｂ式などと併行するとした。第Ⅲ段階では長花弁蓮華文がメルクマールであり、器形では山形大波状口縁の深鉢や算盤玉状の浅鉢が目立つ。

以上のことをふまえて本遺跡出土土器を見てみると、メルクマールとなる蓮華文については、すべて彫刻蓮華文であり（3・5・10・27 など）、竹管手法のものは認められない。彫刻蓮華文が多用されることに加えて、口縁部下位の幅が狭いこと、「し」の字状突起（18）も見られる。また、口縁部下位ａ類（縦方向沈線・半隆起線）・ｂ類（縄文）が定量認められ、少ないながらも木目状撚糸文（38）やＢ字状文（11g・21）が出土していることからも、寺﨑氏の第Ⅰ段階（古屋敷式）に比定できる。格子目文（38a）やｈ字状文（19）など若干後出的な要素も認められるがわずかであり、ほぼ一時期に収まるものと考えたい。

出土土器の特徴

本遺跡から出土した中期前葉の土器を集計したものが第 70 表である。口縁部が残存しているものはすべて対象とした。まず器形を見てみると、器形Ａ（内湾）が最も多く 38.5％で、次いで器形Ｂ〈26.6％〉、器形Ｃ〈10.1％〉の順となった。次に口縁部文様を見ると、Ⅱ類（縦半隆起線・沈線）が最も多く〈35.8％〉、次いでⅠ類（蓮華文）〈29.4％〉、Ⅶ類（無文）〈11.0％〉、Ⅲ類（格子目文）〈10.1％〉…となり、Ⅰ類とⅡ類が突出している。

器形と文様の関係を見てみると、器形Ａ（内湾）はⅠ～Ⅳ類、器形ＣはⅤ～Ⅶ類のものがほとんどで、比較的明確な傾向が読み取れる。器形Ｂ（外反）についてはⅠ・Ⅱ類が多いものの、Ⅴ・Ⅶ類も見られる。また、器形Ａでは口縁部下位ａ類（縦半隆起線・沈線）、器形Ｂは口縁部ｃ類（無文）の組み合わせが多い。これらの傾向は北陸地方と同様である。一方で、北陸ではⅤｃ類が多く見られるのに対し、本遺跡では全く認められない。北陸ではこの段階にはすでに爪形文を多用しているが、爪形文とほかの文様（蓮華文など）が共存する

文様＼器形	A	B	C	不明	文様合計（点）	文様合計（比率）
Ⅰａ	7				7	6.42%
Ⅰｂ	1	1			2	1.83%
Ⅰｃ	1	5			6	5.50%
Ⅰｄ	1				1	0.92%
Ⅰ	5	5		6	16	14.68%
Ⅰ類計	15	11		6	32	29.35%
Ⅱａ	1				1	0.92%
Ⅱｂ	1				1	0.92%
Ⅱｃ	5	3			8	7.34%
Ⅱｅ	1				1	0.92%
Ⅱ	7	4	1	16	28	25.69%
Ⅱ類計	15	7	1	16	39	35.79%
Ⅲａ	1				1	0.92%
Ⅲｂ					0	－
Ⅲｃ	1	2			3	2.75%
Ⅲ	6			1	7	6.42%
Ⅲ類計	8	2		1	11	10.09%
Ⅳａ	2				2	1.83%
Ⅳｂ	1				1	0.92%
Ⅳｃ		1			1	0.92%
Ⅳ		3		1	4	3.67%
Ⅳ類計	3	4		1	8	7.34%
Ⅴ類計		3	2	1	6	5.50%
Ⅵ類計			1		1	0.92%
Ⅶ類計	1	2	7	2	12	11.01%
器形合計（点）	42	29	11	27	109	
器形合計（比率）	38.53%	26.60%	10.09%	24.78%	100.00%	

第 70 表　中期前葉の土器集計表

ものは少数であることによるものと考えている。

次に文様パターンを見ると、北陸の典型的なものが変容、あるいは崩れたと推測できるものがいくつか認められる。5 は頸部に 4 単位の半円状区画文様が施文されているが、この文様はもともと突起として貼り付けられていたものが変容したものと考える。また、口縁部下位に描かれた U 字状の単位文様は、本来頸部へとつながるものであるが、頸部の単位文様とはズレが生じている。8 は口縁部上位が、本来横位半隆起線であるところが長方形の区画となっている。さらに、口縁部最上位に蓮華文が施される。通常は最上位に半隆起線が 1 条ひかれ、直下に蓮華文が配されるパターンである。かなり変容の進んだ形態であると考える。67 の口縁部は横位半隆起線のみで、直下に半隆起線の区画文が配される点が一般的ではない。また、口縁部を折り返しまたは貼り付けにより肥厚させるのも珍しい。胎土も異質である。

「し」字状突起や J 字状突起は、口縁端部から垂下するものが、口縁部下位や頸部のみに施文されるようになるとの指摘がある［寺﨑 2009］。本遺跡では、口縁部上位から垂下する突起（18・22）よりも、口縁部下位から施される突起（5・13・23・24・30・37）が多く認められる。文様の崩れが始まっている段階と考える。

また、北陸にはほとんど認められないパターンがある。まず、口縁部文様Ⅳ類（縄文）が挙げられる。Ⅳ類自体は、1 段階古手に位置づけられている富山県長山遺跡［神保ほか 1985］や真脇遺跡［高堀 1986］でも出土しているが、本遺跡例とは異なる。長山遺跡などの例では縄文は地文であり、縄文を施文した後に半隆起線が描かれている。つまり口縁部上位・下位ともに縄文（＝本遺跡のⅣｂ類）である。本遺跡の 13・39 のように、縄文帯と縦位半隆起線や無文帯を組み合わせたり、10・41 のように縄文の施文方向が変わったりすることはない。本遺跡ではⅣｂ類は 14 の 1 点のみ出土している。14 にしても口縁部上位と下位の縄文は若干方向が変化している。施文順序は、長山遺跡では縄文→半隆起線と読み取れるが、これに対し本遺跡では半隆起線→縄文充塡のものが多い。

次に、Ⅱ類（縦位沈線）については富山県でも現在のところ認められない。新潟県内においても、上・中越地域で数点認められるのみで、阿賀野川流域以北では比較的多く見られる。特に、大関上野（おおせきうわの）遺跡と本遺跡では最も多い比率を占める。本遺跡では出土数（口縁部破片総数）の 36％を占めており、29 のようなスタンダードなものや、33 ～ 36 のように若干変容したような形態も認められる。また、30・34 のように下地に縄文が施される個体もある。

Ⅱ類はⅠ類（彫刻蓮華文）から三角形の陰刻を除いたものであり、また逆に、Ⅰ類はⅡ類に三角形の陰刻を加えただけであるとも言える。これについては、Ⅰ類が退化してⅡ類になるという考え方がある（吉野屋遺跡報告書［三条商業高等学校　1974］）。しかし、その後に増加した出土例をみると、この要素だけ引き離して考えるのは不自然であるため、Ⅰ類とⅡ類は同時期に併存していた可能性が高いと考えたいが、本遺跡の資料だけでは判断できない。問題提起としたい。

本遺跡と同時期の遺物が出土した遺跡として、本遺跡から門前川上流に約 3km というわずかな距離に大関上野遺跡・山崎遺跡がある。本遺跡のような集計結果が示されていないため詳細は不明だが、大関上野遺跡では特にⅡ類が目立ち、頸部にも縦位沈線が施されるものがある。加えて、器形 C で口縁部が 1 段構成のものが数個体認められる。また、交互刺突が施文される五領ヶ台Ⅱ式系や、円筒上層 a 式系のものが数点出土している。さらに、本遺跡から約 5km 南に位置する樋渡（ひわたし）遺跡［田辺・大賀 2002］では、北陸系については本遺跡と同様の内容を有するが、異系統の土器については、撚糸側面圧痕を持つ円筒上層 a 式近似のものや、大木 7b 式系、五領ヶ台Ⅱ式系のものが、数個体認められる。

本遺跡における異系統の土器は、円筒上層 a 式系の 55・75、関東北東部あるいは東北南部系の 56 の破片 3 点のみである。全体の出土量が異なるとは言え、本遺跡では異系統の土器が非常に少ないのが特徴と言えるかも知れない。しかし、具体的に比較できるデータがないため、可能性を指摘するにとどめておきたい。

2　遺構について

第Ⅳ章での記述とおり、本遺跡では縄文時代後期前葉の遺構は、竪穴建物 1 棟、平地建物 166 棟、掘立柱建物 21 棟、埋設土器 12 基、袋状土坑 6 基、土坑 170 基、流路 1 条、不明遺構（風倒木痕を含む）33 基である。このほかに建物として復元できなかった柱穴が多数存在することから、建物数は復元最低数と考えている。以下では、平地建物、掘立柱建物、袋状土坑など、主な遺構について、本遺跡と同時期ないしは一部重複する大規模集落である村上市アチヤ平遺跡［富樫ほか 2002］、阿賀町北野遺跡［高橋雄ほか 2005］、長岡市岩野原遺跡［駒形・寺﨑 1981］、柏崎市十三本塚北遺跡［品田ほか 2001］、小千谷市城之腰遺跡［藤巻ほか 1991］、南魚沼市原遺跡［佐藤ほか 1998］などと比較することとしたい。

A　竪穴建物・平地建物

1）竪 穴 建 物

本遺跡では明確な壁を伴うものを竪穴建物、壁が明確でないものを平地建物とした。前者はわずかに 1 棟（SI1291）であるのに対し、後者は 166 棟と圧倒的に多い。このような傾向はほぼ同時期の遺跡で認められる。県内における後期前葉の建物で、確実に壁が残存するのは新潟市平遺跡 1 号住居跡［川上ほか 1982］や南魚沼市原遺跡 17 号住居跡など極めて少ない（第 193 図）。

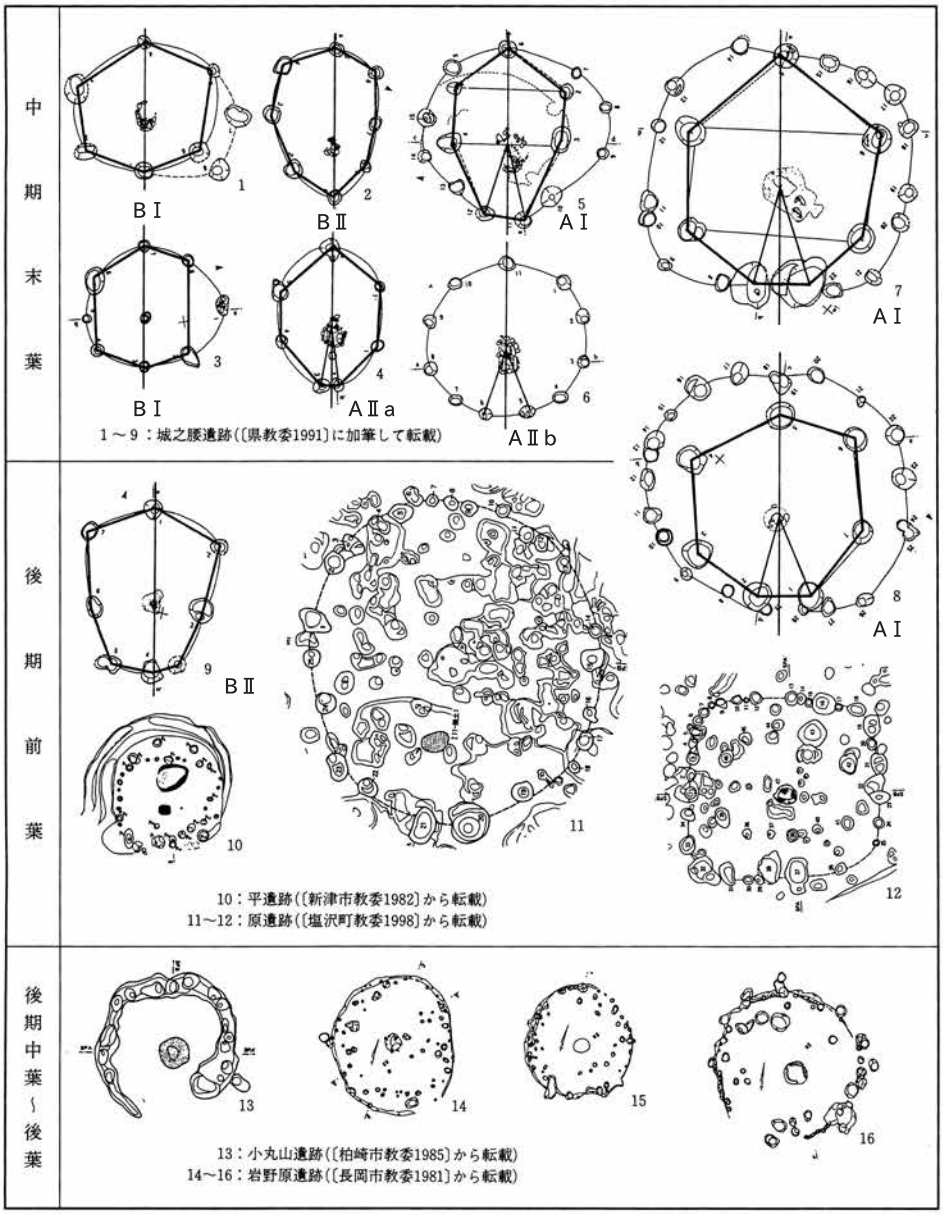
本遺跡唯一の竪穴建物である SI1291 と原遺跡 17 号住居跡は共通点が多い。原遺跡でも後期前葉に帰属する壁が確認されていない建物（以下、便宜的に平地建物とする）は 16 棟存在するが、これらを含めて最も規模が小さいのが竪穴建物である 17 号住居跡である。17 号住居跡は円形を呈し、長径 4.0m、短径 3.7m、深さ 0.56m である。本遺跡の SI1291 も円形で、長径 4.3m、短径 3.8m、深さ 0.84m と掘り込みが深い点を含め、規模が極めて類似する。また、やや太い柱穴の壁際に小さな柱穴があるという配置も酷似する。共に小型のため類似した柱穴配置を示しただけの可能性もあるが、遺跡内での数量・壁の高さ・規模のほか、柱穴配置まで酷似する点を指摘したい。

2）平地建物の柱穴配置

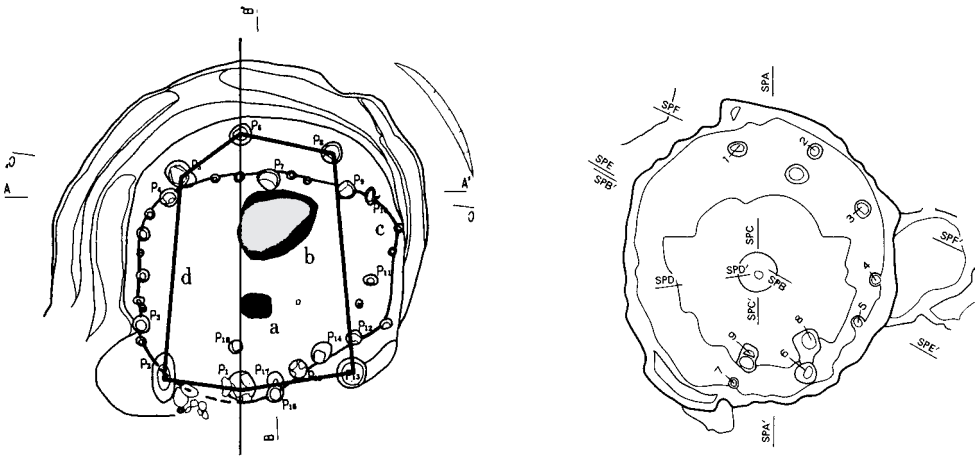
本報告書での平地建物の認定については第Ⅳ章で記述したとおりであり、復元した建物の多くは主柱穴を持たない壁立式建物と考える。この建物構造の位置付けを県内例から行うこととしたい。

当概期の建物については品田高志氏の意欲的な論稿があり、中期末葉の城之腰遺跡の柱穴の配置パターンから以下の類型化が設定され、後期中葉～後葉までの変遷が示されている［品田 1999］（第 192 図）。

A 類型は炉の軸線上に奥柱が配置され、反対側に出入口となるやや大きな壁柱穴が 2 本あるものとされ、更に 7 本の主柱穴と壁柱穴が二重に配置された Ⅰ 類（5・7・8）、一重に配置されたⅡ類に区分され、更にⅡ類は Ⅰ 類の主柱穴（7 本）配列と同じ a 類（4）、壁柱配列のみの b 類（6）に細分されている。



第 192 図　県内の中期末～後期の竪穴・平地建物（S=1/250）（品田 1999 から加筆して転載）



平遺跡1号柱　　原遺跡17号居住

第 193 図　後期前葉の竪穴建物（S=1/100　左は品田 1999 から、右は佐藤ほか 1998 から転載）

B 類型は炉主軸線の両端に柱穴が配置されたもので、更に 6 本主柱穴配列されたⅠ類（1・3）、8 本主柱穴配列されたⅡ類（9）に細分されている。

時期的な変遷として、すべての類型が存在する中期末葉から、後期前葉に入って変容するが基本的には前段階の系譜で捉えられるものが多く、後期中葉～後葉には主柱穴を欠き、壁柱穴と考えられる小ピットが巡るだけのものが多くなるとした。これらは後期前葉に比して壁柱穴の配列も顕著でないという。

本遺跡例を見ると、品田氏が後期中葉から多くなるとされた壁柱穴のみのものが圧倒的に多い。主柱穴があるもののうち、特大型の SI3912 は B 類型、SI7818 は B 類型Ⅱ類、大型の SI201 は A 類型の系譜である可能性がある。壁柱穴のみのものは A Ⅱ類に類似するもの（SI7801 など）があるが、後期中～後葉から多くなる小ピットが巡るだけのものに類似する。品田氏も指摘しているとおり、複数回の建て替えが想定される新潟市平遺跡でも、主柱穴を伴わず壁柱列のみで構成された時期が予想される（品田氏の平 1b 住居　第 193 図）。後期前葉の建物は中期末葉からの系譜で説明できるもの以外にも、本遺跡で多数復元した壁柱穴のみで構成された壁立式建物の存在は十分に予想される。柏崎市十三本塚北遺跡で復元された 72 棟も主柱穴を欠く。十三本塚北遺跡分類の A・B 類（柱穴 6 本を基本に構成）は、品田 1999 の B 類型の系譜を引く可能性があるが、72 棟中 13 棟と多くない。本遺跡や十三本塚北遺跡で主体となるのは円形・楕円形（本遺跡では方形系列もあり）に柱穴が巡る壁立式の建物であり、後期前葉は柱穴配置上で大きな画期となる可能性もある。これらの建物が、品田 1999 で設定した類型の規則性が崩れたものか、異なる系譜のものか判断できない。復元されていない中期末葉にも同様の例にあって、そこから変遷が追えるものか、又は、後期前葉頃に新たに出現するものか検討ができておらず、今後の大きな課題と考える。

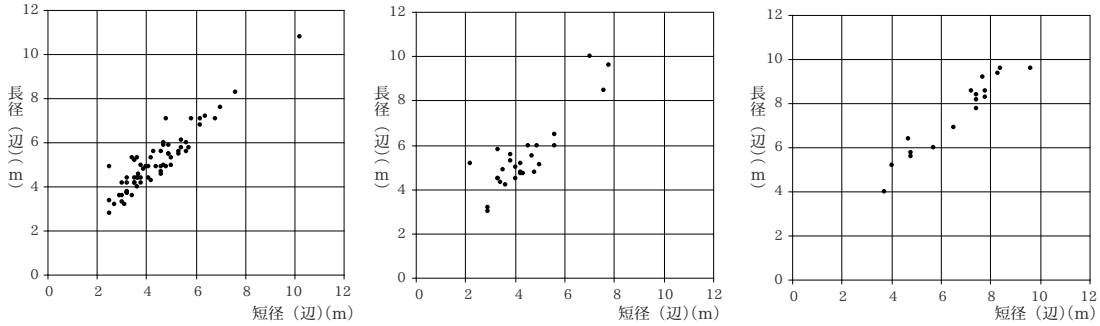
3）平面プラン

本報告書では平面プランを壁柱穴の配置から円形･方形に 2 分し、短径(辺)/ 長径(辺)の係数で細分した。ほぼ同時期の十三本塚北遺跡と比較すると、本遺跡では方形系列が半数を占める点で異なる。復元された建物の例が少ないが、本報告書の方形系列に該当するものは南魚沼市原遺跡 38 号住居跡（第 192 図 12）の存在から、当期には確実に存在するようである。また、前述の平遺跡 1 号住のうち、壁柱穴列のみみれば本稿の隅丸長方形に該当することから、本遺跡例が例外的な存在でないことが予想される。

4）大　き　さ

本遺跡では壁柱穴内を床面と捉えて面積をもとめ、分布のまとまりから、特大型（75m^2 以上）、中型（25m^2 以上、50m^2 未満）、小型（25m^2 以下）として、中型を更に 2 細分した。本遺跡例と十三本塚北遺跡、原遺跡、城之腰遺跡（中期末葉を含む）を比較するため法量分布を第 194 図に示した。3 遺跡の法量分布はそれぞれ若干異なっているが、①長径・短径共に 6m 程度以下、②長径 6 ～ 8m・短径 5 ～ 8m、③長径 8m・短 7m 以上径でまとまりが認められ、①～③がある十三本塚北遺跡、①・③が主体で②がやや少ない城之腰遺跡・原遺跡に区分が可能である。また、①～③の数量は、法量の増加に伴って確認数は反比例する十三本塚北遺跡・城之腰遺跡と、③が多い原遺跡に分かれる。本遺跡の状況は十三本塚北遺跡に近い。

本遺跡の特大型は長径 10m・短径 9m 以上であるが、これに該当するものは十三塚北遺跡の SI72 が唯一の例である。大型は長径 8m 以上、短径 8m 前後のものであるが、城之腰遺跡や原遺跡で散見できることから、本遺跡で復元した大型以上の建物は、各遺跡でも認められる傾向にある。



第 194 図　竪穴建物・平地建物の法量分布図（●：掘り込み不明、×：掘り込み有）

B　掘立柱建物

新潟県内における掘立柱建物は中期末葉には定量認められるようになり、時期が新しくなるに従い増加する傾向にある。多量に検出された柱穴からの復元は、発掘調査の進展に伴い確度の高いものとなってきている。本遺跡では、柱穴底面から高い頻度でアタリの痕跡が確認できたことから、柱材の設置場所が特定でき、桁行の左右で長さが異なるものが多いことが確認できた。また、各柱穴がほぼ一直線に並ぶもののほか、わずかに胴張りとなるもの（SB7700・7704・7708 など）、ややジグザグの平面プランとなるもの（SB7710・7711）が確認できた。これらを基に、県内他遺跡の事例と比較する。

各報告書に復元・掲載された個々の掘立柱建物、総数には慎重な配慮が必要であるが、本遺跡で検出した 21 棟は集落をほぼ全面調査した城之腰遺跡の 89 棟、アチヤ平遺跡上段の 56 棟に次ぐ多さとなる。阿賀町北野遺跡では確認されていないことから、当概期集落のすべてで構築されているものではない可能性もあるが、ここでは上記の 2 遺跡に加え、柏崎市十三本塚北遺跡、長岡市岩野原遺跡、南魚沼市柳古新田下原 A 遺跡［池田ほか 1987］・原遺跡と比較することとしたい[1)]。

1）平 面 形 態

中期末葉～後期前葉を対象とした掘立柱建物の分類は別に行うべきであろうが、ここでは便宜的に本稿の分類に従って区分した。本遺跡で未検出のものに「A-B 類・片方突出」がある（第 196 図 3・4）。これは城之腰遺跡で多数検出されているが、そのほかの遺跡では原遺跡で確認できる程度である。

本遺跡ではＡ類が13棟、Ｂ類が８棟と拮抗するが、10棟以上検出した遺跡では十三本塚北遺跡（Ａ類９棟、Ｂ類５棟）に近い。一方で城之腰遺跡はＡ類の 45 棟を主体に、A-B 類が 19 棟、Ｂ類が 25 棟となるが、やや比率は異なるものの類似する遺跡に南魚沼市原遺跡（Ａ類４棟、A-B 類４棟、Ｂ類５棟）がある。アチヤ平遺跡はやや特異で、52 棟中Ａ類はわずかに３棟で、Ｂ類が圧倒的に多い。本遺跡とは最も近距離であるが、大きく様相が異なる。本稿の A2 類（長軸両端に突出する棟持柱があるが、梁間までの距離が両端で異なるもの）は本遺跡で３棟存在するが、そのほかでは城之腰遺跡・原遺跡でややまとまる。

1）長岡市岩の原遺跡の掘立柱建物は５棟が報告されているが、石井寛氏は「この復元にどれほどの蓋然性があるか若干の不安を抱くが」としながらも、報告書平面図から弧状に展開する二重の掘立柱建物群を抽出している［石井 2007］。魅力的な復元案であるが、筆者自身で検証できていないため、ここでは報告された５棟を対象とした。

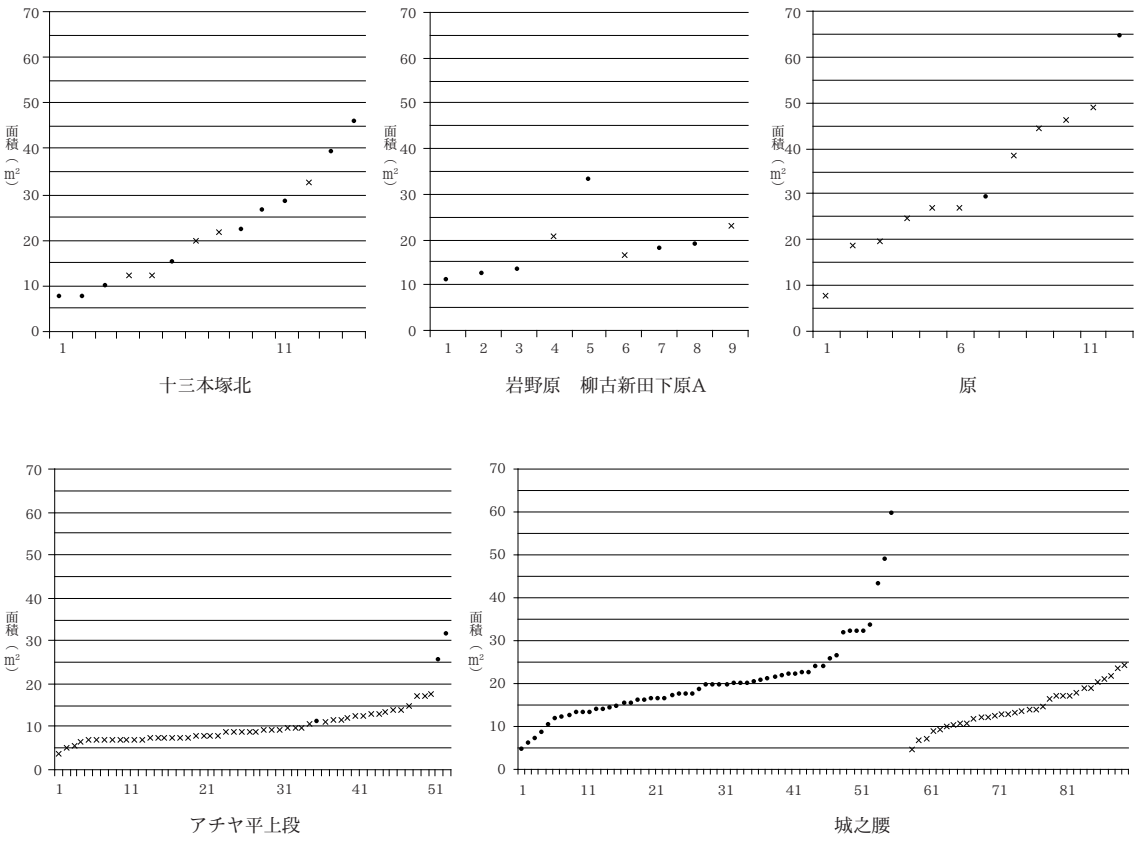
2）床面積と柱穴の規模

長軸・短軸から床面積を求め、特大型（90m² 以上）、大型（50 ～ 70m²）、中型（30 ～ 45m²）、小型（10 ～ 20m² 程）と区分した。第 195 図では同様の計測方法で他遺跡の床面積を示し、ほぼ同時期の平面図を第 196 図に示した。本遺跡の特大型クラスは確認できない。本稿の大型に匹敵するものは城之腰遺跡（第 196 図 9）や、柱穴がすべて確認されていないが原遺跡（11 号方形柱穴列）で確認できるに過ぎない。本遺跡の中型も十三塚北遺跡で 3 棟、岩野原遺跡で 1 棟、原遺跡で 4 棟、アチヤ平上段で 1 棟、城之腰遺跡で 7 棟にとどまり、本遺跡の小型が圧倒的に多い。このことからも、本遺跡の掘立柱建物の大きさが際立っていることがわかる。なお、本遺跡の中・大型に属する他遺跡の掘立柱建物の平面形は、本稿の A 類が多い。

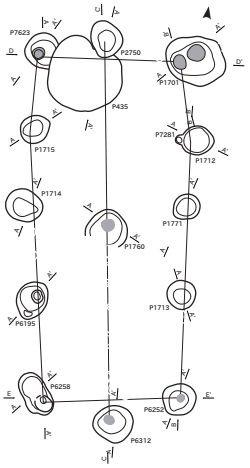
一方で、柱穴規模は床面積と必ずしも比例しない。十三本塚北遺跡の SB79（第 196 図 6）では、本稿でアタリとした底面の痕跡から予想される柱の太さは 80 ～ 90cm で、本遺跡のものよりも太いことが予想される。また、城之腰遺跡で床面積が最も大きい 38 号長方形柱穴列の柱穴は、直径 0.8 ～ 1.0m、深

	所在	A 類			A － B 類		B 類		不明	合計	時期
		A1 類	A2 類	細別不明	突出なし	片方突出	B1 類	B2 類			
長割	村上市	4	4	4	1		6	2		21	後期前葉
アチヤ平	村上市	3					34	15		52	中期末～後期前葉
十三本塚北	柏崎市	7	1	1			4	1		14	後期前葉
岩野原	長岡市	4					1			5	後期前葉
城之腰	小千谷市	31	13	1	7	12	23	2		89	中期末～後期前葉
柳古新田下原 A	南魚沼市	1	1				2			4	後期前葉？
原	南魚沼市		3	1	4		4	1	1	14	後期前葉

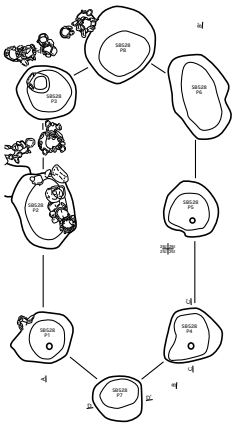
第 71 表　新潟県における中期末葉～後期前葉の掘立柱建物の種別検出数



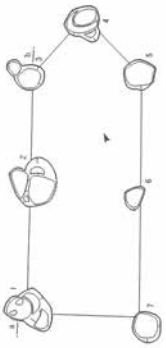
第 195 図　掘立柱建物の面積（●：突出する棟持有、×：突出する棟持柱なし）



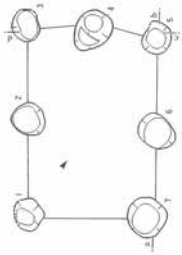
1.長割SB7700



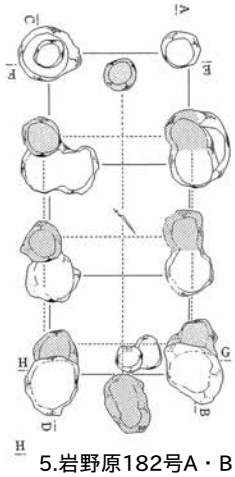
2.アチヤ平上段SB526



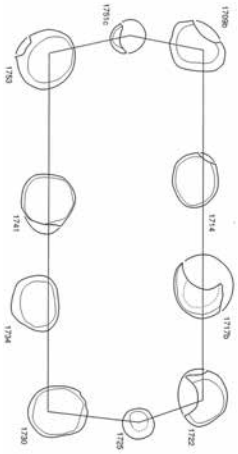
3.城之腰74号



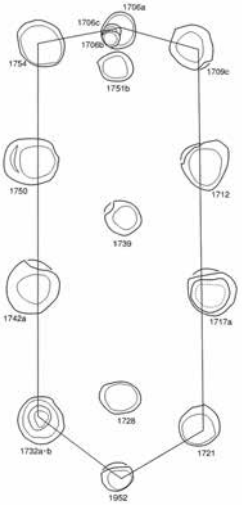
4.城之腰35号



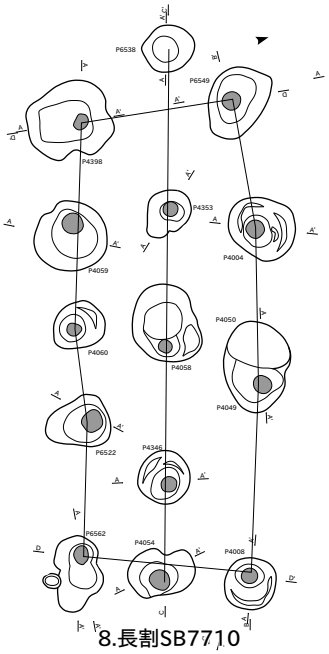
5.岩野原182号A・B
A:実線，B：破線



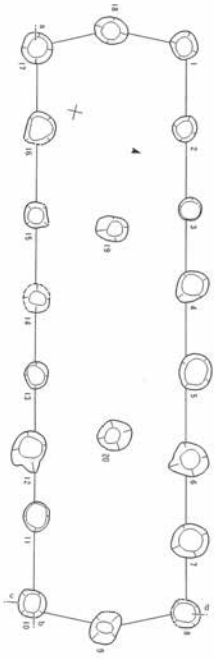
6.十三本塚北SB79



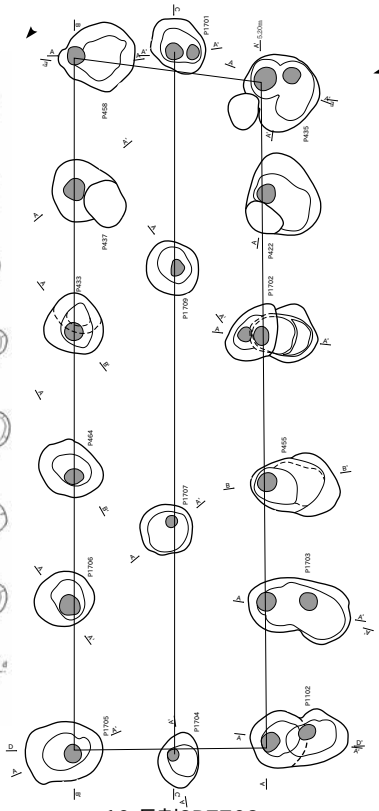
7.十三本塚北SB80



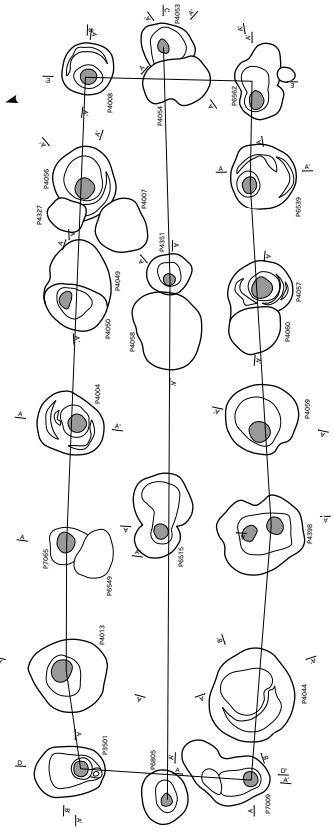
8.長割SB7710



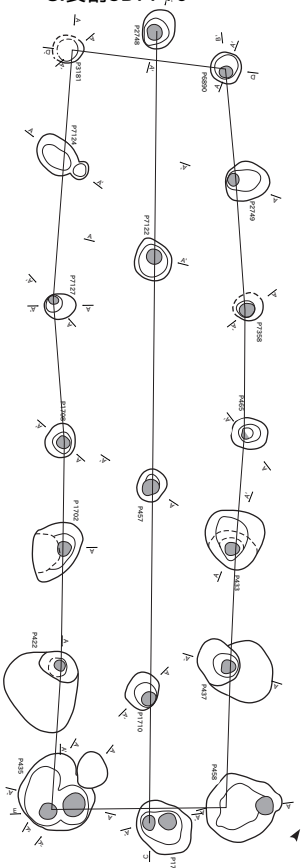
9.城之腰38号



10.長割SB7703



11.長割SB7708



12.長割SB7704

第 196 図　県内における中期末～後期前葉の掘立柱建物

さ 1m 程度のものが多い。本遺跡最大の SB4（第 196 図 12）は城之腰遺跡 38 号長方形柱穴列よりも柱穴規模は大きいが、アタリから予想される柱の太さは 40cm 程度である。大きな掘り形を持ち、柱も太いと予想されるものでも床面積が中型のものもあることから、床面積と柱は必ずしも一致しないことが分かる。

3）棟持柱の数

本遺跡ではおおむね長軸 10m 程度のものから、両端の棟持柱に加え、桁行・梁間内に棟持柱が認められるようになる。両端の棟持柱間が10m程度で３本(SB7710)、14m程度で３本(SB7705)と５本(SB7710)、18.5 ～ 21m で 4 本（SB7703・SB7708）と 5 本（SB7704）となる。おおむね長さに比例して棟持柱数は多くなる傾向にある。これは一部の例外を除いて各遺跡でも認められ、城之腰遺跡・十三本塚北では 6m 程度から散見できるようになり、城之腰遺跡では棟持柱間 13m 程度以上のものは 4 本で統一されている。

C　埋 設 土 器

本遺跡では 12 基（平地建物内の 1 基を除く）を検出した。他遺跡と比較するため、欠損部位、埋設態位を第 72 表にまとめた。

アチヤ平遺跡・城之腰遺跡・北野遺跡など、中期末葉に集落が成立する遺跡で検出数が多い。集落の存続期間が反映した可能性もあるが、中期末葉～後期初頭と上記 3 遺跡の中で最も存続期間が短いと予想される北野遺跡では 133 基（大木 9 式新段階を 1 基を含む）検出されており、集落の存続期間のみでは説明がつきにくい。本遺跡は 12 基と少なく、同じく後期前葉の十三本塚北遺跡も 1 基と極端に少ない。

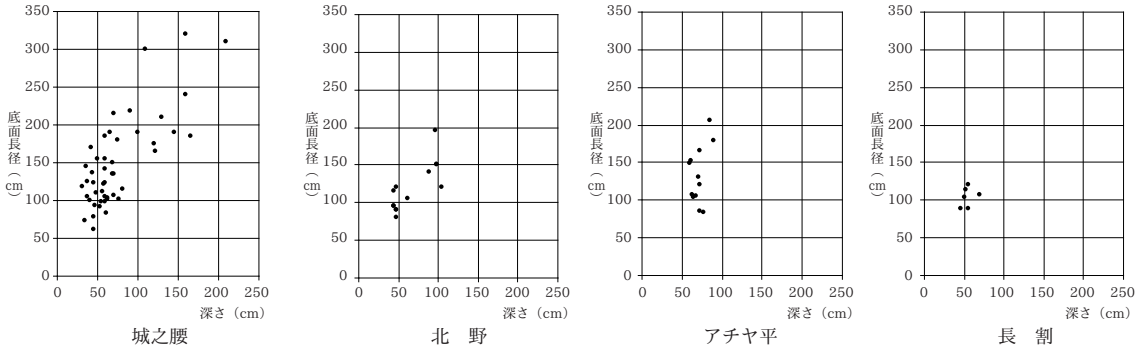
欠損部位は遺跡の残り具合が反映される可能性があるため、埋設後の影響を受けにくい胴部下半～底部の有無を中心に表示した。本遺跡では 12 基中 10 基で胴下半～底面を欠くが（平地建物内とした SH1064 も同じ）、これは他遺跡に比して高い比率である。アチヤ平遺跡・北野遺跡・城之腰遺跡では、胴部下半以下を欠くものは 20 ～ 30％程度であることから、本遺跡の大きな特徴と考える。また、上記 3 遺跡では底部穿孔されたものが 5 ～ 10％程度含まれるが本遺跡では検出していない。

	検出数	欠損部位			埋設態位			
		底部有	下半欠損	底部穿孔	正位	倒位	逆位	不明
長割	12	2	10		11		1	
アチヤ平	133	77	46	10	116	7	4	
北野	132	88	30	14	76	38	7	11
城之腰	80	50	26	4	71	17		2
十三本塚北	1	1			1			

※埋設態位で倒位は斜位を含む

第 72 表　埋設土器の欠損部位と埋設態位

本遺跡の埋設態位は正位が 11 基、逆位が 1 基で、倒



第 197 図　袋（フラスコ）状土坑の法量分布図

※　北野遺跡では中期前～中葉のものを除外。アチヤ平遺跡は報告書で貯蔵穴の可能性が高いとされた 7 基を含めた。

位（斜位を含む）は検出していない。不明を除く比率では、アチヤ平・城之腰遺跡でも正位が 90％程度と主体であり、本遺跡とほぼ同様の傾向が認められる。一方で北野遺跡では正位が約 60％、倒位が 30％弱と正位の比率が低い。埋設態位が正位主体の点でアチヤ平・城之腰遺跡と共通するが、胴部下半を欠損するものが圧倒的に多い点で上記 3 遺跡と異なる。

D　袋 状 土 坑

本遺跡では 6 基を確認している。確認面上で径 1m、深さ 50cm 程度のものが多い。城之腰遺跡・北野遺跡・アチヤ平遺跡と比較すると、数量はやや少ない。また、規模を比較するため土坑底面の長径と深さの相関図を作成した（第 197 図）。他遺跡でも底面長径 1m 程度で緩やかなまとまりが認められるが、長径 1.5m 前後以上のものも定量認められる。このことから本遺跡例は、他遺跡の小型サイズのもののみで大型のものを欠くことがわかる。1 基のみ確認された十三本塚北遺跡例（SK932）、後期前～中葉のものが 3 基検出された原遺跡もほぼ同様の傾向を示す。後期前葉以降、袋状土坑は小さいものが主体になると考える。

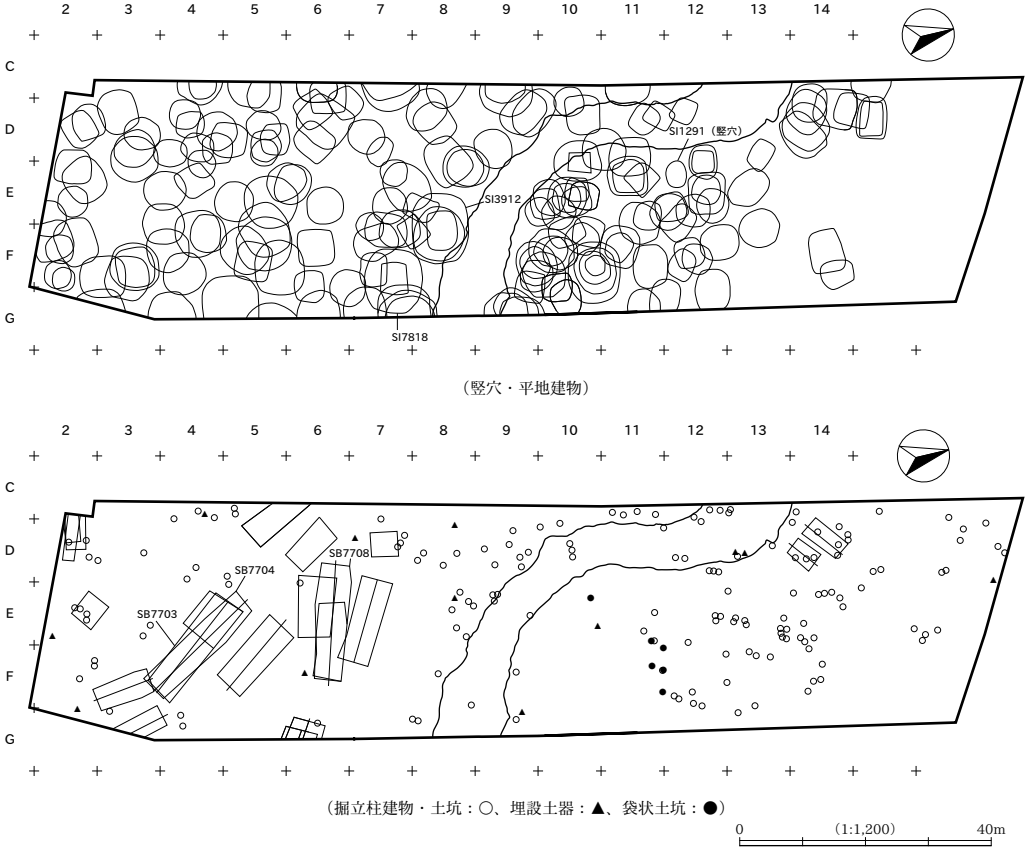
3　集落としての長割遺跡

A　遺構配置と予想される規模

後期前葉という時間幅の中で蓄積された竪穴建物・平地建物、掘立柱建物、杭列、埋設土器、袋状土坑に加え、城之腰遺跡・元屋敷遺跡の例から墓の可能性がある土坑（長径 0.6m 以上・3m 未満、短径 40cm 以上）の分布状況を第 198 図に示した。今回の調査区は南北が約 160m、東西が約 35m と狭い。平地建物が分布するグリッド 2 ～ 14 ラインが居住域である。居住域は調査区外の南側に伸びる可能性が高い。試掘確認調査の結果、現道の南側まで遺跡の広がりは認められないが、2 ラインの遺構密度の濃さから現道下まで居住域が広がることは十分に予想される。南北方向の居住域の直径は、今回の調査から少なく見積もって 130m、現道下を含めれば 140m 程度と考える。第Ⅰ章で記述したが、本遺跡は東西に細長い自然堤防上に位置しており、遺跡範囲は地形が反映されて東西方向が長く、南北が狭い。狭い南北方向で最低 130m の居住範囲を有していることから、東西方向はより広い範囲が居住域として活用されていた可能性がある。

遺構種別では調査区内で満遍なく分布するものと、分布が偏るものがある。前者は埋設土器・土坑、後者は竪穴建物・掘立柱建物・袋状土坑・杭列である。ただし、埋設土器では本遺跡で唯一、近接埋葬された SH180・181 は調査区北側のグリッド 13D に位置する。散在的な分布を示す土坑の中でも、SB3491 ～ 3493 廃絶後に構築された SK535・536 は、土坑上面及び下面に細かな石を配置された特異なものであるが、調査区南側のグリッド 2D に集中する。ほぼ全域に分布するものであっても、細かな点では相異が認められる。

分布が偏るもののうち竪穴建物（1 棟）、袋状土坑（6 基）は検出数が少ないが、いずれも調査区北側に位置する。掘立柱建物は調査区南側の 2-7 ラインに 19 棟が集中し、北側は 2 棟にとどまる。規模も大きく異なり、調査区南側は本報告の小型～特大型が認められるが、北側は柱穴規模も小さい小型である。組み合わせが明確にできなかった大型柱穴も南側に多く、北側は 1 基のみである（グリッド 15C の P5052）。調査区外で検出される可能性はあるが、現状では南北で質･量ともに大きく異なる。2 条のみではあるが、



第 198 図　長割遺跡の遺構配置模式図（S=1/1,200）

杭列も調査区南側（グリッド 5・6 ライン）に位置する。南北に分布する遺構と、片側に偏る遺構がある点を強調したい。廃棄された遺物が両地区の差異をどの程度反映したものか判断に苦慮するが、大珠・線刻礫・石刀など検出数が少ない特殊石製品は、掘立柱建物の主要分布域外の 8 ライン以北に集中する。

B　遺構配置からみた集落のかたち

1）長割遺跡の特徴

遺構分布密度が極めて高く、今回の調査範囲から集落が環状集落か否かを明らかにできなかった。主軸の方向が明確な掘立柱建物は、おおむね東西方位主軸のものもあるが（SB3491 ～ 3493、SB7708 ～ 7710）、それ以外は調査区外のある地点を中心に放射状に配置されているように見える。これは北側に位置する SB7715・7716 も同様である。調査区外の西側に広場があり、環状集落となる可能性は否定できない。この場合、掘立柱建物・杭列と竪穴建物・袋状土坑の配置から、分節構造［谷口 2005］となる可能性を指摘したい。ただし、この構造は墓群の分節に顕著に表れるとされているが、本稿では墓の認定に問題を残していることから、この点は大きな課題である。

2）大型の平地建物・掘立柱建物の配置について

調査区の南北で大きな相異を認めたが、集落の象徴である特大型の掘立柱建物、平地建物でも顕著な傾向が認められる。各遺構の時期比定に大きな課題を残すか、特徴を概観する。特大型の掘立柱建物 3 棟は、南側でも大きく 2 地区に分かれる。一つは SB7703・7704 で、同一地点で建て替えが行われている（SB7702

⇒ SB7703 ⇒ SB7704）。もう一つは SB7708 で、主軸方向が一致する SB7709・7710、主軸方向が異なる SB7711 との重複が認められ、ほぼ同じ場所で多数の建て替えが確認できる。前者を A エリア、後者を B エリアとすると、中間に位置するのが杭列 1、B エリア側で SB7709 と重複するのが杭列 2 である。杭列の用途は明確にできていないが、特大型の掘立柱建物エリア間に位置する点から何らかの関連を予想したい。

大型・特大型（床面積 50m^2 以上）の平地建物も重複も著しい。グリッド 5 ～ 8 ラインに集中し、北側は大型の SI201 のみである。特に特大型の SI3912 と SI7818 は南側の掘立柱建物が途切れたグリッド 7･8 の東側に隣接する。この地点は、調査の制約から東西方向での位置は限定できないが、狭く見積もっても南北約 130m に及ぶ居住域の中間に位置する。後期前葉における掘立柱建物を含む集落内での大型建物は、石井寛氏により「核家屋」という名称が与えられ、集落内での位置付け [1] が行われている［石井 1995a］。掘立柱建物の機能については近年でも諸説あり [2]、ここでは核家屋の意義とともに明確にできない。すでに石井氏が指摘した内容［石井 2004・2007・2008］が多いが、第 199・200 図に示した県内の同時期ないしは一部、時期が重複する遺跡の状況から本遺跡の特徴を概観する。

3）県内他遺跡との比較

居住域の広さ：累積の結果による居住域の範囲は復元が難しいものもあるが、村上市アチヤ平遺跡上段（中期末葉～後期前葉）［富樫ほか 2002］の 60m 程度を最小として、北野遺跡（中期末葉～後期初頭）［高橋雄ほか 2005］で 90m 程度、柏崎市十三本塚北遺跡（後期前葉）［品田ほか 2001］の長径で約 110m、小千谷市城之腰遺跡（中期末葉～後期前葉）［藤巻ほか 1991］・長岡市岩野原遺跡（後期初頭～後期前葉、後期中・後葉を含む）［駒形・寺﨑 1981］で長径が 130 ～ 140m 程度である。本遺跡は部分的な調査ではあるが、最低でも城之腰遺跡・岩野原遺跡クラス、ないしはそれ以上の規模を有する集落と考える。

遺構の配置：各集落の遺構配置から、アチヤ平遺跡・北野遺跡・原遺跡は環状集落と考える。また、やや歪であるが、岩野原遺跡も北東側に遺構空白域があること、十三本塚北遺跡と同様の理解にたてば、典型例ではないにしても中央広場を意識した環状集落と考える。城之腰遺跡は A ～ C 群とされた土坑墓を中心とした 3 つの集落が重複・複合した結果と考えられている［藤巻ほか 1991］。この場合、1 つの集落範囲の特定は難しいが、一つの規模は 60 ～ 70m 程度で、同じ遺構配置を取らず遺構が累積された点が重要となろうか。調査区が限定される本遺跡も、城之腰遺跡に近い遺構配置となる可能性も否定はできない。

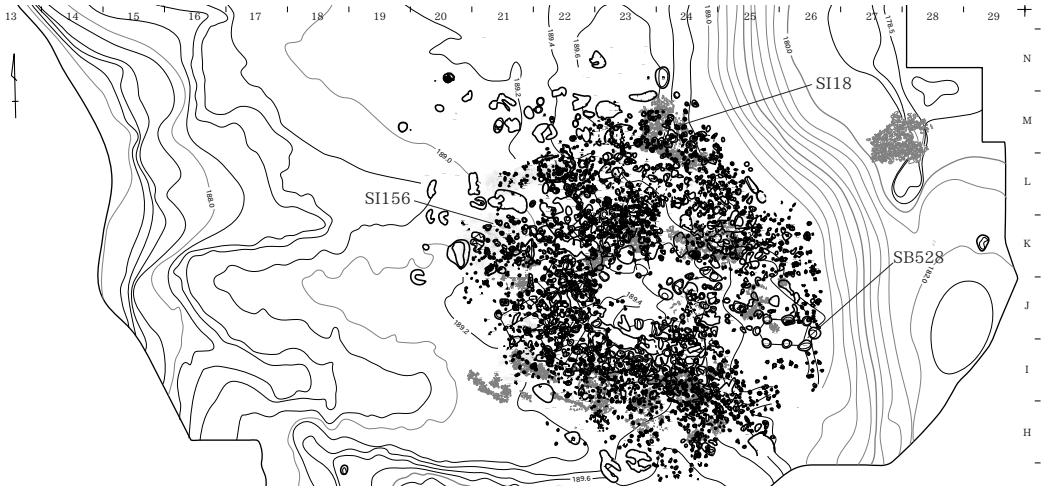
遺構配置から予想される構造は、各遺跡で配置が異なるため区分が難しい。墓域が明確でないものの、石井氏の掘立柱建物の復元から広場―掘立柱建物―竪穴・平地建物―貯蔵穴となる岩野原遺跡 [3] や、墓域を重視すれば城之腰遺跡も重帯構造に近く、アチヤ平遺跡や北野遺跡、十三塚北遺跡は復元が難しい。

大型建物とその位置：核家屋と想定できる大型建物は、十三本塚北遺跡やアチヤ平遺跡、城之腰遺跡

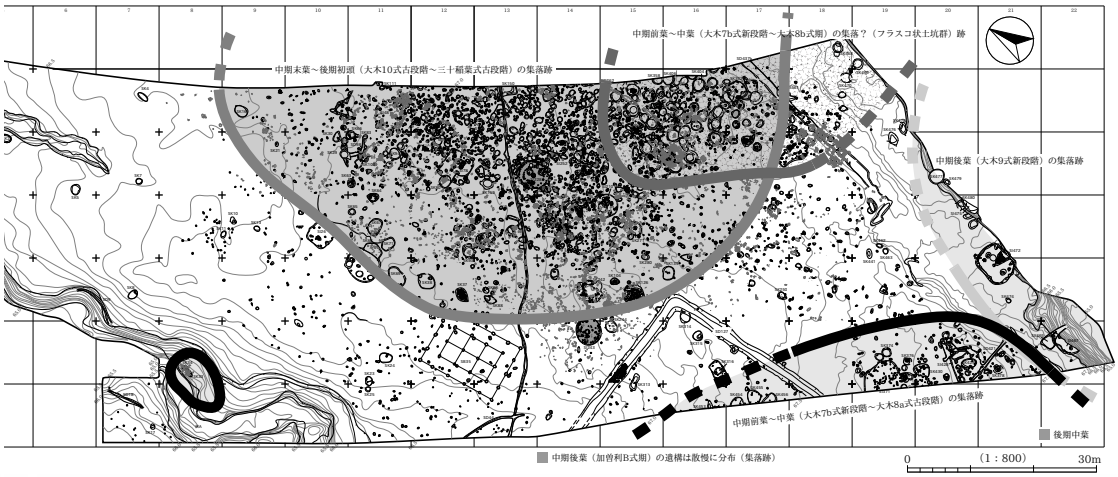
1） 核家屋について「集落の長ないしは祭祀の執行者にあてがわれた家屋」という石井氏の理解［石井 1995a］に対し、佐々木藤雄氏は階層性に即したより強い性格の保有を指摘する［佐々木 2003］。

2） 掘立柱建物については、機能と系譜が異なる遺構群の集合体であり、埋葬・祭祀関連施設以外に食糧倉庫としてのクラの可能性があるもの（佐々木氏のⅠａ類：四本柱構成で、小形・方形プラン）と、長方形大型住居と相通じる要素をもつものがあるとする佐々木藤雄氏［佐々木 1984］と、居住施設とする石井氏［石井 2007］に分かれる。資料が増加した今日でも佐々木氏の主張に変化はない［佐々木 2010］。

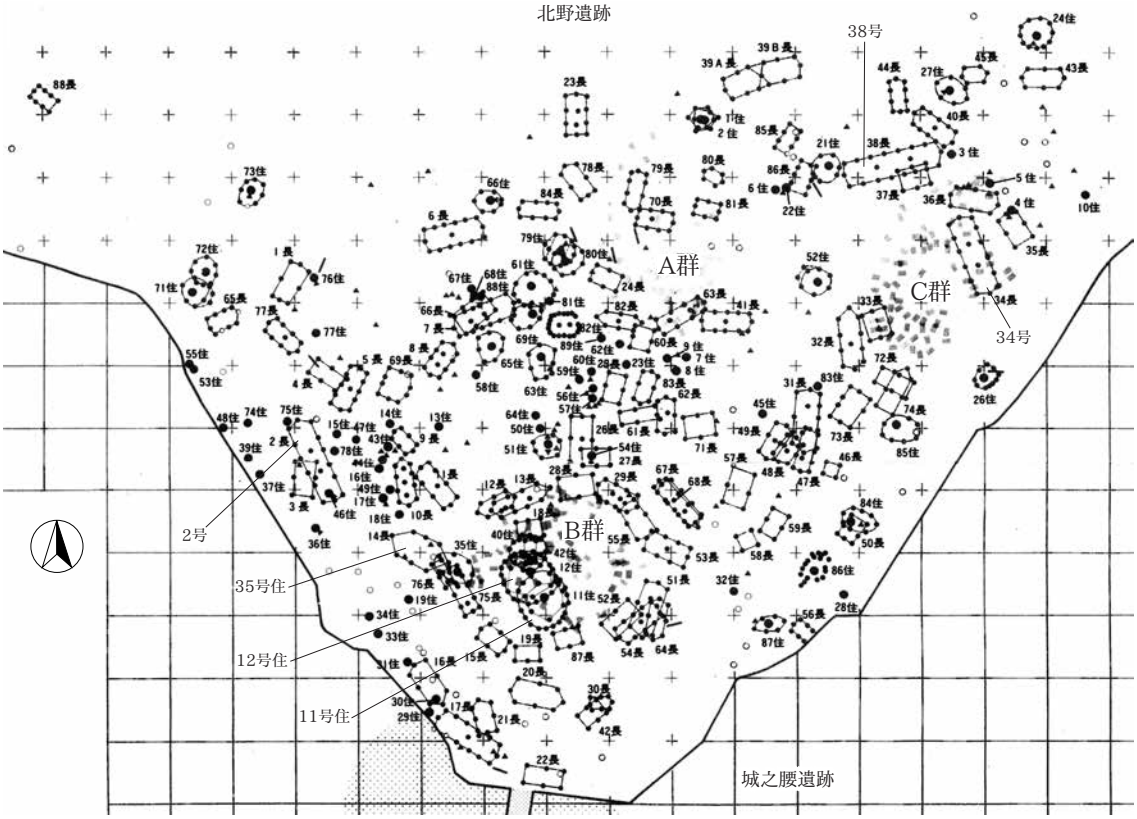
3） このほかに集落の 1 / 4 程度が調査された南魚沼市原遺跡（後期前葉）［佐藤ほか 1998］は、居住域の範囲が 130m 程で、遺構配置は広場―掘立柱建物―竪穴・平地建物となり、重帯構造の可能性がある。



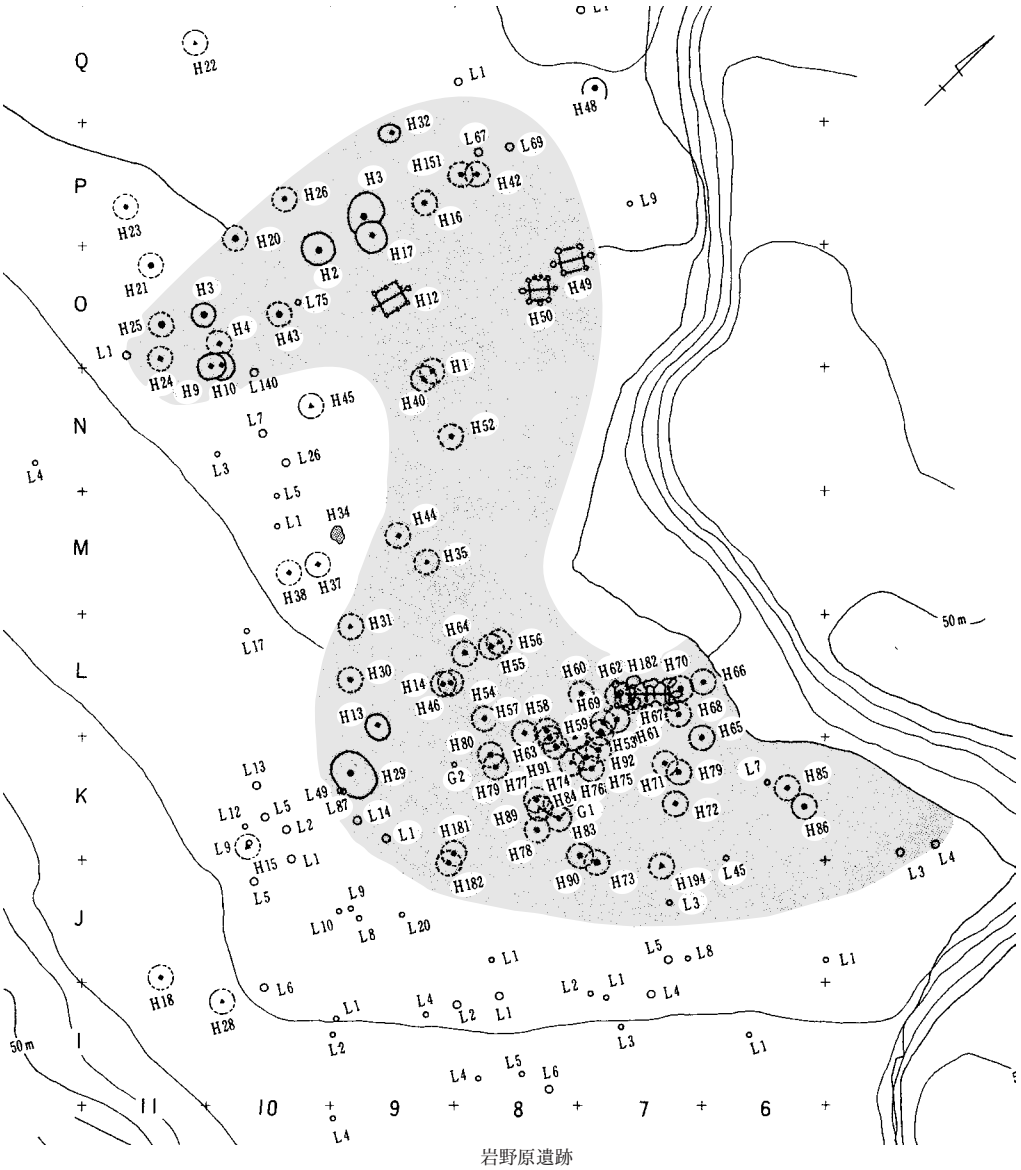
アチヤ平遺跡



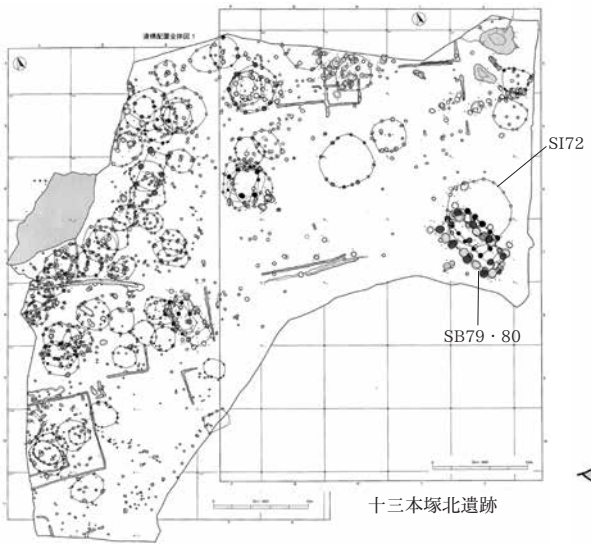
北野遺跡



第 199 図　県内の参考集落（1）（S=1/12,000）

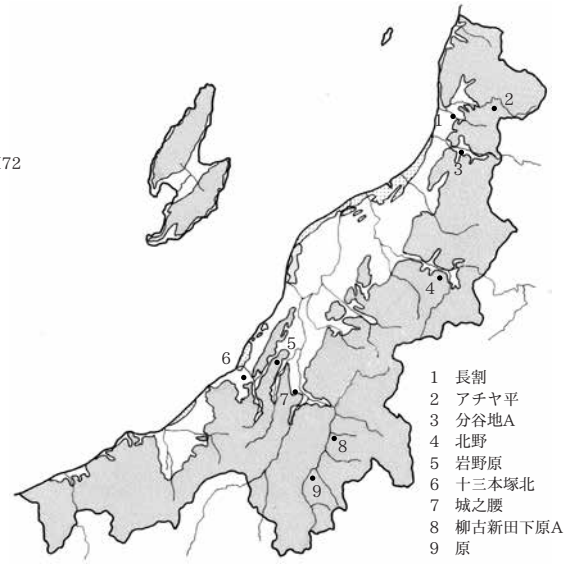


岩野原遺跡



十三本塚北遺跡

第 200 図　県内の参考集落（2）（S=1/12,000）



第 201 図　本稿で引用した後期前葉集落位置図

で認められる。十三本塚北遺跡では南東端に大型の平地建物と掘立柱建物が重複する。平地建物は径が10m を超え、本遺跡の特大型に匹敵する。重複する SB79・80 は、規模・予想される柱の太さがそれぞれ同遺跡最大であり、これらが核となる集落構成［石井 2007］と予想される。大型の掘立柱建物と平地建物が重複しており、この点で長割遺跡と異なる。

アチヤ平遺跡の様相も石井氏が指摘しているとおり、最大の掘立柱建物である SB528 が遺構空白部分に近い南西に位置し、対になる場所に敷石部径が約 10m の柄鏡形敷石住居（SI156）が位置する。一方で、同遺跡では敷石部径が約 9m の規模を誇る SI18 が、SI156 と SB528 の中間（約 90 度）に位置する。遺構の時期比定が難しいが、長期間に及ぶ集落では対となる構造配置が変化するような事態も想定できようか。

城之腰遺跡も長期間営まれた集落であるが、石井氏が指摘するように墓域 B 群に位置する 11・12 号住（後期初頭～前葉）は大型である［石井 2007］。隣接する 35 号住（中期末葉）とともに抜きんでた規模を誇る（第 194 図）。重複している点を重視すれば 11・12 号住は核家屋、35 号住もその範疇で理解すべきものとも考える。一方、床面積が 40m^2 を超える 3 棟の掘立柱建物は、38・2 号が墓域 C 群、34 号が B 群付近にあり、いずれも建物分布の外縁に位置する。両者は対になる可能性もあり、主軸方向は 34 号と 2 号が近く、38 号は約 90 度東西方向に傾く。対となり主軸方向が一致する 34 号と 2 号が同時期の可能性があろうか。ただし、アチヤ平遺跡と同様に大型掘立柱建物の建て替えは明確でない。時期が異なる 3 集落が重複したとすれば、同じ遺構配置を取らないため、核となる遺構の重複が少ないとの評価も可能となろうか。

以上、核家屋とされる大型建物がある 3 遺跡を概観したが、石井氏が指摘するように形態は多様である。異なる種別の遺構が対となるアチヤ平遺跡、同じ場所で異なる種別の建物が重複する十三本塚北遺跡、同一遺構が対になるものか判断が難しい城之腰遺跡となる。調査範囲が限定されるため、本遺跡が上記 3 遺跡のいずれに近いか明確にできない。ただし敷石住居の有無・掘立柱建物の種別比から、最も近距離のアチヤ平遺跡とは異なる点が多い。近接した場所に規模の大きな建物が構築された点では、十三本塚北遺跡により近い様相と考える。山間部に位置し、中期末葉から集落を構成するアチヤ平遺跡･城之腰遺跡と、海岸平野部に位置し、後期前葉（三十稲場式新段階・南三十稲場式期）に集落を構成する本遺跡・十三本塚北遺跡の違いであろうか。中期末葉～後期初頭の阿賀町北野遺跡は掘立柱建物の存在が明確でない。1 遺跡のため評価は難しいが、後期前葉から構成を開始する集落は、終末時期（加曽利 B1 式併行期）は一致しても、中期末葉から集落構成を開始する遺跡との差異を強調したい。

集落の調査例が少ない本県の後期中葉は判断できないが、後期後葉以降は掘立柱建物と竪穴系建物の比率が逆転する。掘立柱建物が居住施設で、竪穴系建物が特殊な機能を有するとする石井氏の論［石井 2008］は卓見と考える。一方で平地建物と掘立柱建物の比率・数量から、本遺跡の特大型の掘立柱建物が核家屋に相当する居住施設か否かは今後の大きな課題としたい。平地・掘立柱建物の比率が近いが、平地建物（長径 10m 強）と掘立柱建物（床面積 40 ～ 50m^2）が重複する十三本塚北遺跡に対し、本遺跡では特大型の平地建物と掘立柱建物同士は重複しない。他遺跡より規模の大きな掘立柱建物は、ほぼ中央に位置する特大型の平地建物よりも南側に集中する。本遺跡の特大型の掘立柱建物を核家屋とした場合、集落の時期幅に比して核家屋級の建物が多い印象も受ける。この高床建物は、門前川からの景観も圧巻であったことと思われる。特大型の掘立柱建物は、より特化した建物との評価を模索したい。

C　生産基盤

長割遺跡は県内を代表する後期前葉の大規模集落と予想されるが、この集落を営んだ人々の食糧事情を推定できる焼骨が得られた点に注目したい。炉覆土の篩い等で得られた動物遺存体の詳細は第Ⅵ章３に譲るが、魚類ではサケ科が中心となる。これ以外ではニシン科、コイ科・アユなどの淡水域に生息するもの、タイ科・ブリ属・コチ科など海水域に生息するものがある。サケの遡上で著名な三面川支流の門前川流域に位置する本遺跡で、魚類のうちサケ科が多い点は調和的な傾向と考える。豊富に検出できた哺乳類のうち種別が特定できたものでは、ニホンジカ・イノシシが拮抗する。一部で時期が重複するものの、後期後葉～晩期後様が主体の元屋敷遺跡では、種別が同定できるものではニホンカモシカ・ツキノワグマが多く［富岡・浅利 2002］本遺跡と大きく異なる。直線距離で約 20km 東の山間部に位置する奥三面遺跡群の一つで、若干、主体時期は異なるが、両遺跡の違いを山間部（元屋敷遺跡）と、平野部（本遺跡）の傾向と捉えたい。本遺跡では植物遺存体には恵まれなかったものの、トチ･クリなどの木の実の利用も多かったと思われるが、哺乳類・魚類では考古学的な裏付けができたと考える。

少量ではあるが検出した海産物の評価は、領域論の検討が重要である。南関東の事例を検討した谷口康浩氏の論稿［谷口 1993］、奥三面遺跡群で検討した関雅之氏の論稿［関 1995］などを参考に、県北部での検討も課題である。現生採集民の平均的な生活領域は半径約 10km 圏［藤本 1994］とされている。本書第６図(p.9)の長割遺跡を中心とした同心円で見ると、半径約 5km で現在の海岸線近くまで達している。本遺跡の領域は、海浜部を含んだ三面川下流域との想定も可能であろうか。領域論の検討に堪えうる細かな材料を欠くが、県最北部における縄文時代後晩期集落の資料は充実しつつある。例えば石器使用石材についても、在地・遠隔地という区分があるが、領域論に基づいた定義か否かは明確でない。谷口 1993 の南関東事例に匹敵する県北データが、今後 30 年以内に揃うとは思えない。分布調査等に基づく遺跡の把握があって、本遺跡の発掘調査の意義付けが更に有効になると考える。

要　　約

1　長割遺跡は、村上市大字下相川字長割に所在する。三面川支流に当たる門前川右岸の自然堤防上に位置する。標高約 18m である。

2　調査は日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、平成 19・20 年の 2 か年にわたって実施した。調査面積は上・下面（5,185m² × 2 面）、最下面（2,130m²）を合わせた 12,500m² である。

3　調査によって、上・下面では縄文時代後期前葉を主体とする遺構・遺物、最下面では縄文時代中期前葉の遺構・遺物を確認した。

4　後期前葉主体の上･下面は遺構の分布密度が高く、竪穴建物 1 棟、平地建物 166 棟、掘立柱建物 21 棟、杭列 2 条、埋設土器 12 基、袋状土坑 6 基、土坑 170 基、流路 1 条、不明遺構（風倒木痕を含む）33 基、ピット多数がある。

　中期前葉主体の最下面の遺構分布密度は低く、地床炉 3 基、土坑 8 基、ピット多数などがある。

5　遺物には土器・土製品・石器・石製品のほか、動・植物遺存体がある。このうち上・下面の土器は総重量約 3.6t、整理箱（54 × 35cm、深さ 10cm）で約 1,200 箱と膨大な出土量で、在地の三十稲場式新段階･南三十稲場式古段階～南三十稲場式最新段階が主体となる。このほか東北系（南境式、十腰内式、綱取式）、関東系（堀之内式・加曽利 B1 式）のほか、北陸系（気屋式）の可能性があるものがある。

6　土製品では土偶・土器片円板・ミニチュア土器のほか、垂飾品・皿状土製品などがある。

7　石器・石製品は様々なものを検出したが、整理箱で約 110 箱と土器に比して出土量が少ない。上・下面の石器は県内の同時期集落とおおむね同様の組成である。打製石斧が定量認められる点で、県内北部の状況とやや異なる。

8　石製品では長さ約 10cm の大珠、線刻礫のほか、東北北部が分布の主体となる石刀が 1 点出土しており、注目される。

9　篩い等により多くの動物遺存体を検出した。いずれも焼骨で、貝類、魚類、哺乳類がある。魚類ではサケ科を主体に、淡水性のもの（コイ科、アユなど）と海水性のもの（ニシン科、タイ科など）がある。哺乳類ではイノシシとニホンジカが多い。また、ヒトの可能性がある焼骨片を 2 点検出した。

10　上・下面では復元した平地建物の分布範囲は径約 130m に及ぶ。遺跡の立地や遺構配置から、今回の調査区は集落中央部分に当たり、遺跡全体の 1/8 程度を調査したと推定される。平地建物の分布範囲から、後期前葉の集落としては県内最大級の一つと考える。

11　21 棟検出した掘立柱建物は、平地建物の柱穴よりも規模が大きく、底面の痕跡から柱も 40cm 程度以上と太いものが使用されている。炉を伴わないことから高床の建物と考える。長軸が 18m 以上と特に大型のもの 3 棟を検出した。縄文時代における掘立柱建物の床面積は、県内最大である。

12　上・下面の遺構配置は特徴的であり、ほぼ中央に特大型の平地建物が存在し、その南側が掘立柱建物の主たる分布域、北側では竪穴建物・袋状土坑が存在するなど、集落内での遺構配置に一定の規則性が認められた。

引用・参考文献

青木　学ほか 2009　『大館跡Ⅱ　東興屋遺跡　高山東遺跡　窪田遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 192 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

阿部昭彦ほか 1990　『川口遺跡発掘調査報告書』　山形県教育委員会

阿部昭典　2009a　「新潟県における縄文時代後期前葉集落と配石遺構の隆盛－信濃川流域を中心として－」『國學院大學考古資料館紀要』第 25 輯　國學院大學考古学資料館

阿部昭典　2009b　「新潟県における縄文時代後期集落の様相」『月刊考古学ジャーナル』548　ニューサイエンス社

阿部昭典　2010　「東北地方北部における石刀の顕在化－縄文時代後期前葉を中心として－」『國學院大學考古資料館紀要』第 26 輯　國學院大學考古学資料館

阿部朝衛　1979　「第五章　石器」『聖山』　東北大学文学部考古学研究会

阿部朝衛　1984　「多面体を呈する敲石について」『豊栄市史研究』第 2 号　新潟県豊栄市

阿部朝衛　1987　「第 6 章 磨製石斧生産の様相」『史跡 寺地遺跡』　青海町・青海町教育委員会

阿部朝衛　1988　「第五章第三節一 石器」『豊栄市史』資料編 1　考古編　豊栄市

阿部朝衛　1995　「新潟県北部地域における石器材料の調査」『帝京史学』第 10 号　帝京大学文学部史学科

阿部朝衛　1997a　「新潟県北部地域における縄文時代の石材使用とその背景」『帝京史学』第 12 号　帝京大学文学部史学科

阿部朝衛　1997b　「4 考察（2）石材の獲得と磨製石斧の生産」『北越考古学』第 8 号　北越考古学研究会

阿部友晴・潮田憲幸・酒井亜紀・佐野陽子・高橋　優　2001　「奥三面遺跡群周辺地域における石材調査結果」『新潟考古学談話会会報』第 23 号　新潟考古学談話会

阿部友晴　2002　「第Ⅶ章3C 剥片石器石材の原産地と流通について」『アチヤ平遺跡上段』　新潟県朝日村教育委員会

阿部芳郎　1990　「北陸北半地域における後期前葉土器型式の再検討」『信濃』第 42 巻第 10 号　信濃史学会

荒川隆史　2004　「第Ⅳ章 1E2　掘立柱建物」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 133 集　青田遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史　2009　「掘立柱建物と建材」『縄文時代の考古学 8　生活空間　集落と遺跡群』（株）同成社

池田淳子　2002　「第Ⅶ章 1A（2）後期中葉の土器様相」『元屋敷遺跡Ⅱ（上段）』奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ⅩⅣ　新潟県朝日村教育委員会・新潟県

池田淳子　2006　「元屋敷遺跡における後期中葉粗製土器の様相」『三面川流域の考古学』　奥三面を考える会

池田　亨ほか 1987　『柳古新田下原 A 遺跡』　新潟県大和町教育委員会

石井　寛　1982　「南関東西南部（多摩丘陵以南）」『シンポジウム堀之内式土器資料集－各地の堀之内式土器とその変遷』　市立市川考古博物館

石井　寛　1984　「堀之内 2 式土器の研究（予察）」『調査研究集録』5　港北ニュータウン埋蔵文化財調査団

石井　寛　1989　「縄文集落と掘立柱建物跡」『調査研究集録』6　港北ニュータウン埋蔵文化財調査団

石井　寛　1993　「堀之内 1 式期土器群に関する問題」『牛ヶ谷遺跡･華蔵台南遺跡』（財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター・横浜市教育委員会

石井　寛　1995a　「縄文後期集落の構成に関する一試論」『縄文時代』第 5 号　縄文時代文化研究会

石井　寛　1995b　「縄文時代後期掘立柱建物址に関する議論」『帝京大学山梨文化財研究所研究紀要』 第 6 集　帝京大学山梨文化財研究所

石井　寛　1995c　「原出口遺跡 20 号住居址出土土器群をめぐって」『川和向原遺跡・原出口遺跡』（財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター・横浜市教育委員会

石井　寛　1999　「遺構研究　大形住居址と大形建物跡」『縄文時代』第 10 号（第 3 分冊）　縄文時代文化研究会

石井　寛　2004　「後期集落における二つの住居系列－柄鏡形住居址系列と掘立柱建物跡系列－」『縄文時代』第 18 号　縄文時代文化研究会

石井　寛　2007　「後期集落における二つの住居系列－柄鏡形住居址系列と掘立柱建物跡系列－」『縄文時代』第 18 号　縄文文化研究会

石井　寛　2008　「掘立柱建物跡から観た後晩期集落址」『縄文時代』第 19 号　縄文時代文化研究会

磯前順一　1985　「筒型土偶について」『常総台地』13　常総台地研究会
伊東　崇　2003　『分谷地Ａ遺跡Ⅱ』下段（Ⅴ区）編 新潟県北蒲原郡黒川村埋蔵文化財調査報告書第８集 新潟県黒川村教育委員会
伊東　崇　2005　『分谷地Ａ遺跡Ⅲ』下段（Ⅴ区）２次 新潟県北蒲原郡黒川村埋蔵文化財調査報告書第 11 集 新潟県黒川村教育委員会
岩瀬彰利　1996　「縄文・弥生時代の煮炊き方法－大西貝塚・橋良遺跡例より推測した一例－」『東海考古学フォーラム　鍋と甕　そのデザイン』 東海考古学フォーラム実行委員会
上野修一　1997　「東北地方南部における縄文時代中期後葉から後期初頭の土偶について－ハート形土偶出現期までの諸様相－」『土偶研究の地平「土偶とその情報」研究論集（1)』「土偶とその情報」研究会編　勉誠社
海老原郁男　1988　「所謂土製円盤の用途について」『栃木県考古学会誌』9　栃木県考古学会
大橋康二　1983　『肥前陶磁』 ニュー・サイエンス社
長田友也　2002　「第Ⅴ章遺物５ 土製品」「第Ⅴ章遺物７ 石製品」「第Ⅶ章まとめ２ 土製品」『アチヤ平遺跡上段』奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ＸⅢ　新潟県朝日村教育委員会・新潟県
長田友也　2004　「縄文時代における石材利用－奥三面遺跡群を中心に－」『新潟考古』第 15 号　新潟県考古学会
長田友也　2005　「新潟県アチヤ平遺跡出土の磨石類雑感」『三面川流域の考古学』第４号　奥三面を考える会
長田友也　2010　「元屋敷遺跡出土のミニチュア土器について 1」『三面川流域の考古学』第８号 奥三面を考える会
折井　敦ほか 2005　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 147 集 昼塚遺跡 江添遺跡』 新潟県教育委員会･財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学　1999　「第Ⅴ章 1A(1)記述の方法と遺構の分類」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 93 集 和泉遺跡(本文・観察表編)』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤道男ほか 1984　「二屋敷遺跡」『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅸ』 宮城県教育委員会
加藤三千雄　1988　「新保・新崎式土器様式」『縄文土器大観』３　中期Ⅱ　小学館
加藤三千雄　1995　「北陸における中期前葉の土器群について」『第８回縄文セミナー　中期初頭の諸様相』 縄文セミナーの会
加藤三千雄　2008　「新保・新崎式土器」『総覧　縄文土器』『総覧　縄文土器』刊行委員会
金内　元　2002　「第Ⅶ章１　アチヤ平遺跡上段・斜面出土土器の様相と時期区分」『アチヤ平遺跡上段』奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ＸⅢ　新潟県朝日村教育委員会・新潟県
金内　元　2006　「新潟県中条町江添遺跡出土土器について」『三面川流域の考古学』第５号　奥三面を考える会
金内　元　2009　「下越地方における縄文時代後期前葉末～中葉の土器について」『新潟県の考古学Ⅱ』 新潟県考古学会
金子昭彦　1996　「十腰内Ⅰ式（新）に併行する東北地方中部の土器（1）－新古の分離についての考え方－」『縄文時代』第７号縄文時代文化研究会
金子昭彦　1997　「十腰内Ⅰ式（新）に併行する東北地方中部の土器（2）－文様の系列化－」『縄文時代』第８号　縄文時代文化研究会
金子優子　2002a　「奥三面における後期前半の土器様相」『第 15 回縄文セミナー　後期前半の再検討』 縄文セミナーの会
金子優子　2002b「第Ⅴ章 2B（3）後期前葉」『元屋敷遺跡Ⅱ（上段)』奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ＸⅣ　新潟県朝日村教育委員会・新潟県
金子優子　2002c　「第Ⅶ章 1A（1）後期前葉の土器様相」『元屋敷遺跡Ⅱ（上段)』奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ＸⅣ　新潟県朝日村教育委員会・新潟県
金子優子・滝沢規朗・野田豊文　2004　「元屋敷遺跡における縄文時代後期～晩期の土器底部について（上)」『三面川流域の考古学』第３号　奥三面を考える会
金崎佳生　1980　『びわ首沢遺跡』 福島県郡山市教育委員会
川上貞雄ほか 1982　『平遺跡』 新潟県新津市教育委員会
瓦吹　堅　1982　「常陸の土偶・那珂郡東海村を中心として」『常陸国風土記と考古学』 雄山閣
北野博司　2009　「縄文土鍋の調理方法－胴下部バンド状コゲの形成過程－」『歴史遺産研究』No.5　東北芸術工

科大学歴史遺産学科
木下哲夫　2002　「北陸・飛騨における縄文後期前半の土器－気屋式土器とその周辺－」『第 15 回縄文セミナー 後期前半の再検討』 縄文セミナーの会
國島　聡　1991　「城之腰遺跡の縄文時代中期末～後期前葉土器の編年」『新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 29 集 城之腰遺跡』 新新潟県教育委員会
小島俊影　1977　「珠洲郡内浦町松波新保遺跡発掘資料再見」『石川考古学研究会々誌』第 20 号　石川考古学研究会
小島俊影　1979　「第 5 章 縄文土器・土製品」『上山田貝塚』 宇ノ木町教育委員会・石川考古学研究会
後藤信祐　1996　『槻沢遺跡Ⅲ』 栃木県教育委員会・（財）栃木県文化振興事業団
小林圭一　2001　「東北南半の瘤付土器成立期の様相」『第 14 回縄文セミナー 後期後半の再検討－記録集－』 縄文セミナーの会
小林達雄　1973　「多摩ニュータウンの先住者－主として縄文時代のセトルメント･システムについて」『月刊文化財』第 112 号　第一法規出版
小林達雄　1977　「縄文世界のなかの土偶－第二の道具」『土偶・埴輪　日本陶磁全集』3　中央公論社
小林正史　1991　「縄文から弥生への煮沸用土器の大きさの変化」『北陸古代土器研究』第 2 号　北陸古代土器研究会
小林正史　2003　「使用痕跡からみた縄文・弥生土器による調理方法」『石川考古学研究会会誌』第 46 号　石川考古学研究会
小林正史・阿部昭典　2008　「縄文深鍋のスス・コゲからみた調理方法：胴下部コゲの形成過程を中心に」『新潟考古』第 19 号　新潟県考古学会
駒形敏郎　2006　「新潟県長岡市岩野原遺跡の掘立柱建物跡－縄文時代の掘立柱建物跡の検討に向けて－」『考古学の諸相』Ⅱ　匠出版
駒形敏郎・寺﨑裕助　1981　『岩野原遺跡』 新潟県長岡市教育委員会
斎田美穂子　2000　「新潟県域における大木 7b 式系統の浅鉢－新発田市石田遺跡出土資料の紹介を兼ねて－」『北越考古学』第 11 号　北越考古学研究会
斎藤　準　2008　「第Ⅲ章 4B 縄文土器」『大坂上道遺跡Ⅱ 猿額遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 186 集 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
酒井亜紀　2002　「第Ⅴ章 5C（3）石錐」『元屋敷遺跡Ⅱ（上段）』奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ⅩⅣ　新潟県朝日村教育委員会・新潟県
佐々木藤雄　1984　「長方形柱穴列と縄文時代の集落」『異貌』第 11 号　共同体研究会
佐々木藤雄　2003　「柄鏡形敷石住所址と環状列石」『異貌』第 21 号　共同体研究会
佐々木藤雄　2010　「環状列石外縁の掘立柱建物群」『異貌』第 27 号　共同体研究会
佐々木由香　2006　「第 6 章 -7 大型植物遺体」『下宅部遺跡Ⅰ』 東京都村山市遺跡調査会ほか
佐藤雅一　1991　「第 4 章 遺構と遺物」『山崎 A 遺跡発掘調査報告書』 新潟県見附市教育委員会
佐藤雅一　1997　「1. 城林遺跡出土土器の編年学的考察」『牛肥原地区遺跡確認試掘調査報告書』 新潟県津南町教育委員会
佐藤雅一ほか 1998　『原遺跡』 新潟県塩沢町教育委員会
佐藤光義　1991　『石生前遺跡発掘調査報告書』 福島県柳津町教育委員会
佐野陽子　2002　「第Ⅶ章 2B（1）元屋敷遺跡出土の剥片石器石材」『元屋敷遺跡Ⅱ（上段）』 新潟県朝日村教育委員会
三条商業高等学校社会科クラブ考古班　1974　『吉野屋遺跡』
塩原知人　2003　「高平遺跡」『新潟県の縄文集落－中期前葉から中葉を中心として－』第 1 分冊　新潟県考古学会
塩原知人・竹内　裕　2000　『大関上野遺跡・山崎遺跡』 新潟県村上市教育委員会
塩原知人・竹内　裕　2001　『高平遺跡』 新潟県村上市教育委員会
品田高志　1996　「新潟県の様相」『第 9 回縄文セミナー 後期中葉の諸様相』 縄文セミナーの会
品田高志　1999　「越後における縄文後期住居の検討－柱穴配置による住居認定への模索－」『新潟考古学談話会会報』第 20 号　新潟考古学談話会
品田高志　2001a　「第Ⅲ章 遺跡と遺構」『十三本塚北』 新潟県柏崎市教育委員会
品田高志　2001b　「第Ⅴ章 1 十三本塚北遺跡の土器様相と時期区分」『十三本塚北』 新潟県柏崎市教育委員会

品田高志　2002　「新潟県における縄文後期前葉期の土器群－柏崎市十三本塚北遺跡を中心にして－」『第 15 回縄文セミナー 後期前半の再検討』 縄文セミナーの会
品田高志ほか 2001　『十三本塚北』 新潟県柏崎市教育委員会
神保孝造　1977　「3 遺物」『礪波市厳照寺遺跡』 富山県教育委員会
神保孝造ほか 1985　『富山県八尾町長山遺跡発掘調査報告』 八尾町教育委員会
鈴木克彦　2001　『北日本の縄文後期土器編年の研究』 雄山閣
鈴木徳雄　1982　「南関東東部（下総台地）」『シンポジウム堀之内式土器資料集－各地の堀之内式土器とその変遷』 市立市川考古博物館
鈴木徳雄　1990　「称名寺・堀之内 1 式研究の諸問題－南関東地域の資料を中心として－」『第 4 回縄文セミナー 縄文後期の諸問題』 縄文セミナーの会
鈴木徳雄　2000　「称名寺式関沢類型の後裔－堀之内 1 式期における小仙塚類型群の形成－」『縄文土器論集』 縄文セミナーの会
鈴木徳雄　2002　「北関東における堀之内式の様相－地域的様相と‘類型’の構成－」『第 15 回縄文セミナー 後期前半の再検討』 縄文セミナーの会
鈴木俊成　1996　「第Ⅶ章 3 石器」『清水上遺跡Ⅱ』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第 72 集 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
鈴木俊成　1998　「新潟県の縄文時代石器組成－新潟県の早期から晩期について－」『新潟考古学談話会会報』第 18 号 新潟考古学談話会
鈴木俊成　1999　「第2章第5節第2項 早期から晩期の石器組成」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会編 高志書院
鈴木正博　1995　「「土偶インダストリ論」から観た堀之内 2 式土偶－土偶の編年的位置は土器から，土偶間の動特性は土偶から－」『茨城県考古学協会誌』第 7 号 茨城県考古学会
鈴木道之助　1991　『図録 石器入門事典〈縄文〉』 柏書房
関 雅之　1995　「奥三面遺跡が語るもの」『第 5 回三面川を語る会報告書』 ふるさと村上を語る会
関 雅之　2004　『新潟県関川村渡辺忠利氏寄贈資料の整理・収納報告書－縄文時代後期・堂ノ前遺跡の珪質頁岩と石器の製作』 新潟県関川村教育委員会・せきかわ歴史の道と館
関川村　1992　『関川村史』 通史編
大工原 豊　1998　『中野谷松原遺跡』 群馬県安中市教育委員会
高橋 保ほか 1990　「第Ⅳ章 1 土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 55 集 清水上遺跡』 新潟県教育委員会
高橋 優・長田友也・阿部友晴　2002　「第Ⅴ章 6 石器」『アチヤ平遺跡上段』奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ⅩⅢ 新潟県朝日村教育委員会・新潟県
高橋 優　2002　「第Ⅴ章 6E 石鏃 6L／不定形石器／ 6P 石核」『アチヤ平遺跡上段』奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ⅩⅢ 新潟県朝日村教育委員会・新潟県
高橋保雄　1992　「第Ⅳ章 4B 石器類 6C 石器について」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 57 集 五丁歩遺跡 十二木遺跡』 新潟県教育委員会
高橋保雄　1999　「阿賀野川以北の磨製石斧生産」『新潟考古学談話会会報』第 20 号 新潟考古学談話会
高橋保雄　2002　「第Ⅴ章 5C（7）不定形石器」『元屋敷遺跡Ⅱ（上段）』奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ⅩⅣ 新潟県朝日村教育委員会・新潟県
高橋保雄ほか 2005　『北野遺跡Ⅱ（上層）』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 141 集 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
高堀勝吉　1986　「24 北陸の縄文土器編年」『真脇遺跡』 能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団
滝沢規朗　1998　「第Ⅶ章 1 石器について」『アチヤ平遺跡中・下段』奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅷ 朝日村教育委員会・新潟県
滝沢規朗　1999　「奥三面遺跡群の石器組成－遺跡類型別に見た石器組成比較－」『新潟考古学談話会会報』第 20 号 新潟考古学談話会
滝沢規朗　2002　「第Ⅴ章 5（10）磨製石斧（16）手持ち砥石」『元屋敷遺跡Ⅱ（上段）』奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ⅩⅣ 新潟県朝日村教育委員会・新潟県
滝沢規朗ほか 1995　『大坂上道遺跡 猿額遺跡 牧ノ沢遺跡 中棚遺跡』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第 68 集

新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
滝沢規朗ほか 2002 『元屋敷遺跡Ⅱ(上段)』奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ⅩⅣ 新潟県朝日村教育委員会･新潟県
滝沢規朗・野田豊文 2009 「アチヤ平遺跡における深鉢の煮沸痕跡－縄文時代中期末葉～後期前葉の埋設土器に使用された深鉢のスス・コゲ観察－」『三面川流域の考古学』第７号 奥三面を考える会
田中耕作 1985 「所謂三十稲場式土器の成立について」『信濃』第 37 巻第４号 信濃史学会
田中耕作 1989a 「三十稲場土器様式」『縄文土器大観』第４巻 小学館
田中耕作 1989b 「北平Ｂ遺跡」『新発田市埋蔵文化財調査報告第７ 北平Ｂ遺跡・岡塚遺跡範囲確認調査報告書』新発田市教育委員会
田中耕作 1990 「三十稲場式土器研究の現状と課題」『新潟考古学談話会会報』第５号 新潟考古学談話会
田中耕作 1999 「中部地方 後期（三十稲場式･南三十稲場式)」『縄文時代』第10号 第２分冊 縄文時代文化研究会
田中耕作 2002 「新潟県における縄文時代後期前葉の土器群」『第 15 回縄文セミナー 後期前半の再検討』 縄文セミナーの会
田中耕作・渡邊裕之 1999 「第２章 第２節 第５項 後期」『新潟県の考古学』 高志書院
田辺早苗・大賀 健 2001 『城田遺跡』 神林村教育委員会
田辺早苗・大賀 健 2002 『樋渡遺跡』 神林村教育委員会
谷口康浩 1993 「縄文時代集落の領域」『季刊考古学』第 44 号 雄山閣
谷口康浩 2005 『環状集落と縄文社会構造』 学生社
谷藤保彦 1990 「後期前葉の土器群」『第４回縄文セミナー 縄文後期の諸問題』 縄文セミナーの会
谷藤保彦・関根慎二編 2002 『第 15 回縄文セミナー 後期前半の再検討』 縄文セミナーの会
継 実ほか 2008 『中部北遺跡 桜林遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 179 集 新潟県教育委員会･財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
寺﨑裕助 1988 「新潟県長者ヶ原遺跡出土の縄文土器」『新潟県考古学談話会会報』第２号 新潟県考古学談話会
寺﨑裕助 1995 「新潟県における中期初頭の土器」『第８回縄文セミナー 中期初頭の諸様相』 縄文セミナーの会
寺﨑裕助 1996 「第Ⅶ章１ 土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 72 集 清水上遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
寺﨑裕助 2009 「新潟県における新崎式系土器」『新潟県の考古学Ⅱ』 新潟県考古学会
寺﨑裕助・鈴木俊成ほか 1996 『清水上遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 72 集 新潟県教育委員会
寺﨑裕助・高橋 保 1999 「第４項中期 ２編年と地域性」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会
富樫秀之ほか 2002 『アチヤ平遺跡上段』奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ⅩⅢ 新潟県朝日村教育委員会･新潟県
土橋由理子 2009 「古渡路遺跡」『埋文にいがた』No.68 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
富岡直人・浅利洋美 2002 「第Ⅴ章 10 元屋敷遺跡出土の動物遺存体分析」『元屋敷遺跡Ⅱ（上段)』奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ⅩⅣ 新潟県朝日村教育委員会・新潟県
長澤展生 2003 「Ⅳ 出土遺物」『一ッ塚』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第 40 集 新潟県柏崎市教育委員会
長澤展生 2007 「魚沼地方の中期前葉の土器について」『火焔土器前夜－資料集－』 信濃川火焔街道連携協議会･津南町教育委員会
長澤展生 2009 「新潟県の前期末葉～中期初頭の土器について」『第 22 回縄文セミナー 中期初頭の再検討』 縄文セミナーの会
新潟県農地部 1989 『土地分類基本調査 村上』 新潟県
西田泰民 2006 「炭化物の生成実験」『新潟県立歴史博物館研究紀要』第７号 新潟県立歴史博物館
布尾和史 2007 「北陸地方 新崎式・上山田式」『火焔土器前夜－資料集－』 信濃川火焔街道連携協議会・津南町教育委員会
秦 昭繁 1998 「珪質頁岩とその分布」『月間考古学ジャーナル』No.432 ニュー・サイエンス社
秦 昭繁 1999 「新潟県北部地域の石器石材環境（1）－関川村堂ノ前遺跡の分析」『北越考古学』第 10 号 北越考古学研究会
秦 昭繁 2001a 「新潟県北部地域の石器石材環境（2）－関川村獅子舞岩の珪質頁岩分析と石材流通構造－」『北越考古学』第 12 号 北越考古学研究会
秦 昭繁 2001b 「考古学における珪質頁岩の石材環境と山地推定」『山形応用地質』第 21 号 山形応用地質研究会

平吹　靖　2001　「第Ⅳ章 3 縄文時代の石器」『十三本塚北』 新潟県柏崎市教育委員会
藤巻正信　1989　「土器片円板について」『新潟考古学談話会会報』第 3 号　新潟考古学談話会
藤巻正信ほか 1991　『城之腰遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 29 集　新潟県教育委員会
藤本　強　1994　『モノが語る日本列島史－旧石器から江戸時代まで－』 同成社
藤沢良祐　1993　『瀬戸市史　陶磁史篇四』 愛知県瀬戸市
藤沢良祐　2002　「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『研究紀要』第 10 輯　財団法人　瀬戸市埋蔵文化財センター
古澤妥史　2002　「第Ⅳ章 3A（5）埋設土器」『元屋敷遺跡Ⅱ（上段）』奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ⅩⅣ　朝日村教育委員会・新潟県
本間　宏　1990　「東北地方南部における縄文後期前葉土器群の変遷過程」『第 4 回縄文セミナー　縄文後期の諸問題』 縄文セミナーの会
前山精明　1990　『大沢遺跡』 新潟県巻町教育委員会
前山精明　1991　「豊原遺跡Ⅵ群 3 類土器考」『新潟考古』第 2 号　新潟県考古学会
前山精明　1994　「松郷屋遺跡」『巻町史』資料編 1　考古　新潟県巻町
前山精明　2009　「豊原遺跡Ⅵ群 3 類土器再考」『新潟県の考古学』Ⅱ　新潟県考古学会
前山精明ほか 1988　「巻町豊原遺跡の調査」『巻町史研究』Ⅳ　新潟県巻町
松永篤知　2008　「縄文土器底部の「敷物圧痕」について」『考古学雑誌』第 92 巻第 2 号　日本考古学会
馬目順一　1982　「南東北」『シンポジウム堀之内式土器資料集－各地の堀之内式土器とその変遷』 市立市川考古博物館
馬目順一ほか 1985　『愛谷遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告　第 12 冊　第Ⅰ篇・第Ⅴ篇　福島県いわき市教育委員会・地域振興整備公団・財団法人いわき市教育文化事業団
水戸部秀樹　2003　『かっぱ遺跡発掘調査報告書』 財団法人山形県埋蔵文化財センター
水澤幸一　2005　「越後の中世土器」『新潟考古』16　新潟県考古学会
南　久和　1976　「北陸の縄文中期前葉の編年に関する一試論」『石川考古学研究会々誌』第19号　石川県考古学研究会
宮内信雄　2008　「縄文土器の容量」『総覧 縄文土器』『総覧 縄文土器』刊行委員会
宮本長二郎　1996　『日本原始古代の住居建築』 中央公論美術出版
宮本長二郎　1999　「平地式住居および竪穴住居の類型とその周辺」『奈良国立文化財研究所シンポジウム報告先史日本の住居とその周辺』 同成社
宮本長二郎　2002　「青田遺跡の住居と集落」『川辺の縄文集落』 新潟県教育委会･(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
山内幹夫　1985　『福島県文化財調査報告書第 148 集　荒小路遺跡　地蔵田 A 遺跡』 福島県教育委員会
山口　晋　1987　「福島県内のハート形土偶について」『西方前遺跡Ⅱ』 三春町教育委員会
山口　晋　1999　「福島県の後期土偶」『土偶研究の地平 「土偶とその情報」研究論集（3）』「土偶とその情報」研究会編　勉誠出版
山田芳和　1986　「9 第 9 群土器 新崎式」『真脇遺跡』 能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団
吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
吉田邦夫　2006　「炭化物の安定同位体分析」『新潟県立歴史博物館研究紀要』第 7 号　新潟県立歴史博物館
吉田邦夫　2008　「縄文人の食生と生業」『季刊考古学』第 105 号　雄山閣
綿田弘実　2002　「長野県の縄文後期前葉土器群Ⅱ」『第15回縄文セミナー 後期前半の再検討』 縄文セミナーの会
渡辺　誠　1976　「スダレ状圧痕の研究」『物質文化』26
渡辺　誠　1983　『縄文時代の知識』 東京美術
渡邊裕之　2009　「第Ⅶ章 3A 石材組成　3B 黒曜石の産地」 『野地遺跡』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第 196 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
藁科哲男　2002a　「第Ⅵ章 1　アチヤ平遺跡上段出土石器、石片の原材産地分析」『アチヤ平遺跡上段』奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ⅩⅢ　新潟県朝日村教育委員会・新潟県
藁科哲男　2002b　「第Ⅵ章 13　元屋敷遺跡出土石器、剥片の原材産地分析」『元屋敷遺跡Ⅱ（上段）』奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ⅩⅣ　新潟県朝日村教育委員会・新潟県

観　察　表

1. 遺　　構

A　竪穴建物（SI1291）

図版 No.	遺構 No.	位置	炉	計測値（cm）			短径 / 長径 × 100	平面形	床面積（㎡）	主軸	出土遺物		重複	備考
				長径	短径	深さ					土器・土製品	石器・石製品		
17・18	SI1291	12E	地床炉 7633	430	360	50	84	楕円形	8.1	N82° W	1 ～ 50、1050	12・45・58・62・74・106・112・114・115・119・121・122・195・315		

（炉）

図版 No.	遺構 No.	建物内での位置	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	平面形	出土遺物		重複	備考
				長径	短径	深さ			土器・土製品	石器・石製品		
17	地床炉 7633	ほぼ中央		40	（36）	8	16.85	円形				

（柱穴）（P）

図版 No.	遺構 No.	平面形	計測値（cm）			底面標高（m）
			長径	短径	深さ	
17	7624	円形	28	23	18	16.65
17	7625	円形	25	25	10	16.70
17	7628	円形	24	20	10	16.70

図版 No.	遺構 No.	平面形	計測値（cm）			底面標高（m）
			長径	短径	深さ	
17	7629	円形	20	18	12	16.68
17	7630	円形	20	20	12	16.70

図版 No.	遺構 No.	平面形	計測値（cm）			底面標高（m）
			長径	短径	深さ	
17	7631	円形	24	20	12	16.70
17	7632	円形	18	16	35	16.50

B　平地建物（SI）

図版 No.	遺構 No.	位置	炉	計測値（cm）		短径／長径×100	平面形と分類	床面積（㎡）	大きさの区分	主軸	出土遺物		備考
				長径	短径						土器・土製品	石器・石製品	
19	SI7634	2D		560	495	88	隅丸方形Ⅱ	24.6	小型	N68° E	51		○
19	SI7635	2・3D		550	515	92	円形	23.8	小型	N81° E	52		○
20	SI7636	3C・D		685	610	89	隅丸方形Ⅱ	35.8	中小型	N81° E			○
20	SI7637	3D		575	515	90	円形	23.5	小型	N27° E	53・54		○
21	SI3387	3D・E	地床炉 549	645	570	88	円形	29.8	中小型	N17° W	55 ～ 57	229	
21・22	SI3388	3D・E	地床炉 550	755	730	97	円形	43.3	中大型	N9° W	58 ～ 60		
22	SI3389	3・4D・E	石囲炉 564	530	430	81	楕円形	18.8	小型	N23° E	61 ～ 63		
23	SI3390	4C・D	地床炉 582		435		（円）				64		
23	SI3496	4C・D	地床炉 3201				（方）			N47° W	65・66		
23	SI3397	4D		495	470	95	円形	19.3	小型	N7° E	67 ～ 69		
24	SI3495	4D		470	410	87	隅丸方形Ⅱ	15.9	小型	N0°	70・71		
24	SI1200	4D	石囲炉 567	530	455	86	楕円形	19.3	小型	N21° E	72 ～ 80	186	
25	SI3400	4D・E	地床炉 1101	440	440	100	円形	15.2	小型				
25・26	SI7640	4・5D		645	615	95	円形	31.0	中小型	N22° E	81 ～ 84		○
26	SI7642	4・5D・E	地床炉 1120	495	480	97	隅丸方形Ⅰ	20.0	小型	N81° W	85・86	197	
27	SI7641	4・5D		570	550	96	隅丸方形Ⅰ	27.6	中小型	N20° E	87		○
27	SI3396	5C・D	地床炉 1130		670		（円）						
27・28	SI1810	5C・D	地床炉 1131		540		（方）			N77° W	88		
28	SI7643	5D		560	455	81	楕円形	20.1	小型	N19° E			○
28	SI1190	5D	石囲炉 1124	510	480	94	円形	19.7	小型	N85° W	89	220	
29	SI7644	5D		505	470	93	隅丸方形Ⅰ	20.0	小型	N75° W	90 ～ 92		○
29	SI7645	5D・E	石囲炉 1125	440	410	93	円形	14.6	小型	N40° W			
30	SI7646	2D・E		590	550	93	方形Ⅰ	28.1	中小型		96 ～ 98		○
30・31	SI446	2・3D・E	石囲炉 404	690	640	93	隅丸方形Ⅰ	37.9	中大型	N64° E	93 ～ 95・1101		＞ SB6377
31	SI6150	2E	石囲炉 1075	485	480	99	円形	18.6	小型		99・100		
32	SI6375	2E・F	地床炉 1025		570		（円）				101		
32	SI7647	2E・F		640	620	97	隅丸方形Ⅰ	35.4	中小型		102・103	178	○
33	SI7648	2E・F		750	630	84	隅丸方形Ⅱ	42.0	中大型	N78° E			○
33	SI6376	2F		450	445	99	円形	16.4	小型		104 ～ 106	97	
34	SI453	2F・G		385	360	94	円形	11.5	小型	N44° W	107 ～ 114	17・18・46・68・98・117・120	＜ SI6345
34	SI6345	2F・G	石囲炉 1056	460	420	91	円形	15.7	小型	N24° W	115 ～ 117		＞ SI453
35	SI2917	3E・F	石囲炉 406	545	520	95	円形	23.1	小型		119・120		
35	SI7601	3F・G	石囲炉 1716	800	750	94	円形	47.8	中大型		118		
36	SI7602	3F		640	620	97	隅丸方形Ⅰ	33.8	中小型	N85° W	121・122	82	
36	SI7603	3F・G	地床炉 1717	710	690	97	隅丸方形Ⅰ	40.7	中大型	N71° W	123 ～ 126		
37	SI7604	2・3F・G		730	665	91	隅丸方形Ⅰ	42.3	中大型	N10° E			○
37	SI7605	2・3G					（方）					84	○
38	SI7606	3・4E		535	495	93	円形	33.0	中小型	N10° E	127 ～ 130		
38	SI7607	4E	地床炉 7168	670	645	96	方形Ⅰ	23.6	小型			258	
39	SI7608	3・4E・F	地床炉 7132	750	730	97	隅丸方形Ⅰ	35.6	中小型				
39	SI7609	4E・F	地床炉 1719	748	728	97	隅丸方形Ⅰ	43.9	中大型	N86° E	131 ～ 134		
40	SI7610	4・5E・F	地床炉 1720	600	580	97	円形	28.2	中小型		135・136		＜ SB7703
40	SI7611	3・4F	地床炉 1718	690	670	97	円形	37.8	中大型				
41	SI7612	4F・G	石囲炉 454	680	680	100	円形	36.3	中小型		137・138	30	
41	SI7613	3・4G			770		（円）				139		
42	SI7614	4・5E		630	610	97	円形	31.3	中小型				
42	SI7615	5・6E・F	地床炉 2915	850	830	98	円形	56.4	大型			79	
43	SI7616	5・6E・F	地床炉 2914	850	750	88	隅丸方形Ⅱ	53.8	大型	N70° E	140 ～ 142	104	
43・44	SI7618	4・5F	地床炉 2903	775	695	90	円形	44.5	中大型	N50° E	143・144		
44	SI7617	5・6E・F	石囲炉 2913	905	850	94	円形	60.1	大型	N22° W	145	162・187・194・196	
45	SI7619	5F	地床炉 2912	615	560	91	隅丸方形Ⅰ	31.7	中小型	N67° W	146		

図版 No.	遺構 No.	位置	炉	計測値（cm）		短径／長径×100	平面形と分類	床面積（㎡）	大きさの区分	主軸	出土遺物		備考
				長径	短径						土器・土製品	石器・石製品	
45	SI7620	5・6F・G	地床炉 883	870	790	91	隅丸方形Ⅰ	57.5	大型	N82° W	147・148		
46	SI7621	4・5F・G	地床炉 2942		895		（方）				149・150		
46	SI7622	5・6G					（円）						
46	SI7623	6C・D	地床炉 7057		645		（方）				151		
47	SI7624	6C・D		535	535	100	方形Ⅰ	25.9	中小型				○
47	SI7625	6C・D			575		（方）						
47	SI7626	6・7C・D		520	480	92	隅丸方形Ⅰ	21.4	小型	N25° W			○
48	SI7627	6・7C・D	地床炉 310	810	735	91	隅丸方形Ⅰ	54.4	大型	N51° E	152 ～ 155		
48	SI7628	6D・E	地床炉 355	610	525	86	隅丸方形Ⅰ	29.5	中小型	N50° E	156		
49	SI3907	7・8C・D	石囲炉 918				（円・方？）				157・158		
49	SI7629	7C・D	（地床炉 995）				（方）				159・160		○
49・50	SI7630	7・8C・D		730	600	82	楕円形	33.8	中小型	N51° W		234	○
50	SI3908	8C・D	石囲炉 998				（円）			N42° W	161	215・256	
50	SI7631	6・7D		590	545	92	円形	26.0	中小型	N15° E	162		
51	SI8353	7D・E		480	375	78	長方形	15.2	小型	N38° W	164・165		
51	SI7800	7D・E		455	425	93	円形	14.7	小型	N19° W	166		
51	SI8498	9C・D			610		（円・方？）				163		
51	SI3909	9C・D	地床炉 920		840		（円・方？）				167・168		
52	SI7801	9・10C・D		765	580	76	長楕円形	37.6	中大型	N39° W	169 ～ 171		○
52	SI8354	9・10C・D		800	560	70	長楕円形	37.5	中大型	N42° W	172		
53	SI3910	8・9D・E	地床炉 937	650	580	89	円形	29.8	中小型	N74° E			
53	SI3911	8・9D・E	地床炉 1604	595	575	97	円形	26.8	中小型				
54	SI7802	8・9D・E	石囲炉 1000	730	655	90	円形	38.6	中大型	N19° E			
54	SI7803	8D・E		765	655	86	隅丸方形Ⅱ	43.5	中大型	N68° E			○
55	SI7804	8D		665	590	89	隅丸方形Ⅱ	33.4	中小型	N68° E	173 ～ 175		○
55	SI7632	5・6E		640	560	88	円形	28.9	中小型	N16° W			○
55	SI7805	5・6E		655	550	84	楕円形	29.4	中小型	N56° W	176		○
56	SI7806	6E		590	585	99	円形	28.3	中小型		177		
56	SI7807	6F		580	580	100	方形Ⅰ	31.4	中小型	N82° W	178		
56	SI7808	6F・G		510	475	93	方形Ⅰ	21.0	小型				
57	SI7809	6G	地床炉 884		690		（円）						
57	SI7810	7・8E		830	685	83	楕円形	45.6	中大型	N65° E	179		
58	SI7811	7E		585	560	97	円形	25.8	中小型				○
58	SI7812	7E・F		460	410	89	円形	14.9	小型	N52° E	180 ～ 182		
58	SI7813	7E・F		675	550	81	隅丸長方形	31.7	中小型	N13° E	183		
59	SI7814	7・8E・F		655	595	91	円形	31.9	中小型	N3° E			
59	SI7815	7F		715	550	77	隅丸長方形	32.3	中小型	N12° W			
59	SI7816	7・8E・F		470	405	86	方形Ⅱ	17.2	小型	N69° E	184		○
59	SI7817	7・8E		515	415	81	長方形	18.5	小型	N42° E	185 ～ 188		
60・61	SI3912	8E・F	石囲炉 2207	1110	900	81	隅丸長方形	85.9	特大型	N80° W	189 ～ 193・1039	6・15・160・191・193・283・317	＞SI3913
61・62	SI3913	8E・F	石囲炉 2225	860	815	95	円形	54.8	大型		194 ～ 198	16・87	＜SI3912
62	SI8361	8E・F	地床炉 2411	510	455	89	隅丸方形Ⅱ	20.1	小型	N82° W	199		＜SI3913
63	SI7818	7・8F・G	地床炉 4382	1010	920	91	隅丸方形Ⅰ	79.4	特大型	N78° W	200・201		
64	SI7819	7F		545	415	76	隅丸長方形	21.1	小型	N78° W			
64	SI7820	6・7E ～ G		575	570	99	円形	26.9	中小型		202・203		
64	SI7821	6・7G	地床炉 4136		680		（円）				204		
65	SI7822	7・8F・G	石囲炉 2429		830		（方）				205・206・（208 ～ 212）		
65	SI7823	7・8G	地床炉 2430		930		（円）				207・（208 ～ 212）		
65	SI7824	7・8G	石囲炉 2427				（円）				（208 ～ 212）		
66	SI8355	10C・D	（地床炉 3726）	480	465	97	円形	17.8	小型		213		
66	SI7825	10C・D	（地床炉 341）	630	550	87	隅丸方形Ⅱ	30.9	中小型	N82° W	214 ～ 216		○
66	SI8356	10D・E	石囲炉 919	760	640	84	楕円形	40.2	中大型	N9° E	217 ～ 222	176	＜SI8477
67	SI8357	10・11D・E	石囲炉 983	695	665	97	円形	37.8	中大型				
67	SI7826	11C・D	石囲炉 182		710		（円・方？）				223・224		
67	SI7827	11D	地床炉 1446	470	430	91	隅丸方形Ⅰ	17.6	小型	N42° W			
68	SI7828	11・12D		450	370	82	長方形	15.2	小型	N38° E			○
68	SI7829	12D		390	375	96	方形Ⅰ	13.0	小型	N56° W			○
68	SI7830	11D・E	地床炉 774	665	615	92	隅丸方形Ⅰ	35.4	中小型	N5° E			
68	SI7831	12D・E		540	445	82	隅丸長方形	20.2	小型	N78° W	225・226		○
69	SI7832	13D・E		465	350	75	長方形	15.0	小型	N44° W	227・228		○
69	SI1415	14C・D	地床炉 190	620	550	89	円形	27.9	中小型	N82° W	229・230		
69	SI7833	13・14C・D		665	625	94	円形	34.6	中小型	N53° W	231		○
70	SI7834	13・14D		735	695	95	円形	41.7	中大型	N51° E			○
70	SI7835	13・14D		760	580	76	隅丸長方形	38.4	中大型	N62° E	232・233		○
71	SI7836	14・15C・D		680	640	94	隅丸方形Ⅰ	38.2	中大型	N20° E			○
71	SI7837	14・15C・D		550	535	97	隅丸方形Ⅰ	26.3	中小型				○
71	SI7838	14・15C・D					（方）						○
72	SI7839	15D		670	485	72	隅丸長方形	29.2	中小型	N78° W			○
72	SI8478	9・10E	（地床炉 246）	570	490	86	楕円形	22.8	小型	N87° W			○
73	SI8472	9・10E		490	490	100	隅丸方形Ⅰ	19.4	小型	N89° W			
73	SI2372	10E	地床炉 808	645	610	95	円形	32.4	中小型	N75° W	235 ～ 238		
74	SI8477	10E		385	370	96	隅丸方形Ⅰ	12.7	小型		239		＞SI8356
74	SI8099	10E	（地床炉 251）	470	435	93	隅丸方形Ⅰ	17.8	小型	N19° E			○
74	SI2371	10E	地床炉 202	470	450	96	方形Ⅰ	17.9	小型			13	
75	SI8484	9・10E・F		450	445	99	円形	16.6	小型		240 ～ 242		
75	SI8495	10E・F		580	445	77	隅丸長方形	22.1	小型	N5° W	243		
75	SI8100	10E・F	（地床炉 256）	550	510	93	円形	22.4	小型	N44° W			○
76	SI8094	10・11E・F	（地床炉 2049）	490	465	95	隅丸方形Ⅰ	20.3	小型	N22° W			○
76	SI8095	10E・F		515	500	97	円形	21.2	小型		244 ～ 246		○
76	SI2373	9・10F	地床炉 824	750	675	90	円形	39.6	中大型	N38° E	247 ～ 250		

図版 No.	遺構 No.	位置	炉	計測値（cm）		短径／長径×100	平面形と分類	床面積（㎡）	大きさの区分	主軸	出土遺物		備考
				長径	短径						土器・土製品	石器・石製品	
77	SI8488	9・10F	地床炉 816	705	660	94	円形	36.1	中小型	N80° W	251 ～ 253	305	
77	SI2375	9・10F・G	地床炉 815	570	510	89	円形	21.3	小型	N29° W	254		
78	SI8098	9・10F・G		720	690	96	円形	39.0	中大型		255		○
78	SI8439	9・10F・G		490	470	96	方形Ⅰ	20.5	小型				○
78	SI7841	9G					（円）				256		○
79	SI7842	9G					（方）			N48° E			
79	SI8490	9・10G					（円・方？）						○
79	SI8054	10F・G	地床炉 2067		495		（円）			N84° E			
79	SI8492	10F・G		485	455	94	隅丸方形Ⅰ	19.1	小型	N13° E	257		
80	SI8491	10F		555	510	92	円形	22.6	小型	N28° E			○
80	SI201	10・11F・G	地床炉 300	975	825	85	隅丸方形Ⅱ	68.2	大型	N79° W	258 ～ 280・1063・1093	36・60・81・165・190・199・214・249・251・288・299	○
81	SI2000	11D・E	石囲炉 1952	645	630	98	隅丸方形Ⅰ	34.9	中小型		281 ～ 285		
81	SI8473	11E・F		470	430	91	隅丸方形Ⅰ	16.7	小型	N68° W	286・287		○
81	SI8474	11E		460	440	96	方形Ⅰ	18.3	小型				○
82	SI1951	11E・F	地床炉 1943	660	645	98	円形	34.6	中小型		288		
82	SI8061	10・11F	地床炉 1944	650	610	94	隅丸方形Ⅰ	34.5	中小型	N64° W	289・290		
83	SI8059	11・12F	石囲炉 1942	700	550	79	隅丸長方形	32.5	中小型	N78° W			
83	SI8462	12E		680	580	85	隅丸方形Ⅱ	35.3	中小型	N83° W			○
83	SI8470	11・12F・G			470		（方）			N72° W			○
83	SI8471	11G			520		（円）				234		○
84	SI8461	12E	（地床炉 638）	465	455	98	円形	17.3	小型				○
84	SI8463	12E		545	505	93	円形	22.3	小型	N62° W			○
84	SI8466	11・12E		505	450	89	隅丸方形Ⅱ	19.9	小型	N7° W			○
84	SI8092	11・12E・F	（地床炉 608）	600	565	94	円形	26.2	中小型	N25° W	291		○
85	SI8465	11・12E・F		570	470	82	隅丸長方形	23.3	小型	N36° W	292		○
85	SI8467	12F	（地床炉 676）	520	480	92	円形	18.5	小型	N67° E			○
85	SI8468	12F	（地床炉 677）	475	465	98	隅丸方形Ⅰ	19.2	小型				○
85	SI8469	12F		470	410	87	隅丸方形Ⅱ	16.5	小型	N46° W			○
86	SI8475	12・13F・G			560		（方）			N80° W			○
86	SI8496	13E		710	510	72	長楕円形	28.6	中小型	N30° W			○
86	SI8497	13E・F		640	600	94	円形	30.7	中小型	N16° W			○
86	SI7843	12E・F		545	520	95	円形	22.9	小型				○
87	SI7844	12・13E・F		620	560	90	円形	29.4	中小型	N7° E			○
87	SI7845	14F		680	545	80	隅丸長方形	33.0	中小型	N90°			＜ SI7846、○
87	SI7846	14F・G		530	445	84	隅丸方形Ⅱ	19.3	小型	N11° W			＞ SI7845、○

（炉）

図版 No.	遺構 No.	建物名	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	平面形	建物内での位置	出土遺物			重複	備考
				長径	短径	深さ				土器・土製品	石器・石製品	動・植物遺存体		
21	地床炉 549	SI3387	3D18	82	48	10	17.45	楕円形	やや偏る	55				
21	地床炉 550	SI3388	3D24	（58）	44	10	17.40	楕円形	中央			木の実徴	＞ P3042	篩い
22	石囲炉 564	SI3389	4D21	（76）	（60）	8	17.50	楕円形？	中央					
23	地床炉 582	SI3390	4C24	28	〈28〉	12	17.35	円形	中央					
23	地床炉 3201	SI3496	4D19・24	（32）	28	31	17.10	楕円形	中央					
24	石囲炉 567	SI1200	4D18・23	66	60	8	17.50	円形	中央	72 ～ 74	186	木の実徴		篩い
25	地床炉 1101	SI3400	4D23・5D3	（120）	90	18	17.35	楕円形	中央					
26	地床炉 1120	SI7642	4C20	80	70	35	17.30	円形	中央		197			
27	地床炉 1130	SI3396	5C23	108	58	7	17.55	楕円形	やや偏る			木の実徴		篩い
27	地床炉 1131	SI1810	5C24	116	104	14	17.50	楕円形	中央			木の実徴		篩い
28	石囲炉 1124	SI1190	5D19	（88）	（80）	8	17.55	円形	中央		220			
29	石囲炉 1125	SI7645	5D24	（60）	56	5	17.55	楕円形	中央					
31	石囲炉 404	SI446	2E9・10	144	100	24	17.40	楕円形	中央	93・94		魚類・木の実徴		（篩い）
31	石囲炉 1075	SI6150	2E14・18・19	（88）	（68）	12	17.40	楕円形	中央					
32	地床炉 1025	SI6375	2E17・22	145	76	6	17.50	楕円形	中央					
34	石囲炉 1056	SI6345	2F22・23	70	（60）	12	17.65	楕円形	中央	115				
35	石囲炉 406	SI2917	3E23	120	90	20	17.55	楕円形	中央			魚類・木の実徴		（篩い）
35	石囲炉 1716	SI7601	3F18	80	68	10	17.60	楕円形	中央	118		木の実徴		篩い
36	地床炉 1717	SI7603	3F18	（52）	〈40〉	10	17.60	楕円形	中央	123 ～ 126				
38	地床炉 7168	SI7607	4E8	52	30	12	17.30	楕円形	中央					
39	地床炉 7132	SI7608	4E24	40	40	12	17.40	円形	中央					
39	地床炉 1719	SI7609	4F3・4	112	〈80〉	12	17.55	楕円形	中央	131		木の実徴		篩い
40	地床炉 1720	SI7610	4F4	40	36	8	17.55	円形	中央	135・136		木の実徴	＜ P464	篩い
40	地床炉 1718	SI7611	3F23	100	72	10	17.50	楕円形	中央			魚類多、木の実少		篩い
41	石囲炉 454	SI7612	4F17・18	110	（64）	24	17.55	楕円形	中央	137・138	30	魚類・木の実徴		（篩い）
42	地床炉 2915	SI7615	5E14・15・19・20	392	292	8	17.65	不整形	中央		79			
44	地床炉 2903	SI7618	5F7・11・12	242	210	15	17.40	不整形	中央			木の実徴		篩い
43	地床炉 2914	SI7616	5E23・24、5F3・4	190	96	24	17.45	不整形	中央	140 ～ 142	104			
44	石囲炉 2913	SI7617	5F9・14	（104）	116	25	17.50	楕円形	中央	145	162・187・194・196	哺乳類・魚類徴	＞ P8612・8613	
45	地床炉 2912	SI7619	5E12・13・17・18	100	78	8	17.65	不整形	中央					
45	地床炉 883	SI7620	5F20	244	200	12	17.85	不整形	中央	147		木の実徴		
46	地床炉 2942	SI7621	5G6・7	300	224	12	17.65	不整形	中央	149		哺乳類徴		
46	地床炉 7057	SI7623	6C23	〈45〉	30	20	17.35	楕円形	中央	151				
48	地床炉 355	SI7628	6D18	60	42	12	17.60	不整形	中央					
48	地床炉 310	SI7627	6D9	110	56	8	17.60	楕円形	中央				＜ P361	
49	石囲炉 918	SI3907	7C24	68	72	10	17.40	楕円形	中央	158				
49	（地床炉 995）	SI7629	7C23・24	72	72	32	17.30	円形	やや偏る					旧土坑
50	石囲炉 998	SI3908	8C23・24	（48）	（80）	12	17.30	楕円形	中央	161	215・256			

図版No.	遺構 No.	建物名	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	平面形	建物内での位置	出土遺物			重複	備考
				長径	短径	深さ				土器・土製品	石器・石製品	動・植物遺存体		
51	地床炉 920	SI3909	9C23	92	70	5	17.45	楕円形	中央					
53	地床炉 1604	SI3911	8E5	44	22	5	17.25	楕円形	中央					
54	地床炉 937	SI3910	9D17・22	128	54	5	17.40	楕円形	中央					
57	石囲炉 1000	SI7802	8E4・5	〈96〉	(76)	5	17.10	楕円形	中央					
57	地床炉 884	SI7809	6G8	60	54	12	17.55	円形	中央			木の実徴		籠い
60	石囲炉 2207	SI3912	8F2	110	94	24	17.45	円形	やや偏る	190	6・15・191・193・283・317	魚類多、木の実少		
62	石囲炉 2225	SI3913	8F2・3・7・8	88	64	12	17.50	楕円形	中央		16	魚類多、木の実徴	＜P2225	
62	地床炉 2411	SI8361	8F2・3	64	60	20	17.40	円形	ほぼ中央			木の実徴		
63	地床炉 4382	SI7818	7F24	60	45	18	17.50	楕円形	中央			木の実徴		籠い
64	地床炉 4136	SI7821	7G7	54	38	12	17.60	楕円形	中央					
65	石囲炉 2429	SI7822	7G10	112	104	12	17.60	円形	中央？	205				
65	地床炉 2430	SI7823	7G10・15	(66)	60	52	17.50	円形	中央？					
65	石囲炉 2427	SI7824	8G11	(48)	(40)	50	17.30	楕円形？	中央？					
66	（地床炉 3726）	SI8355	10D3	32	28	8	17.10	円形	中央					旧土坑
66	（地床炉 341）	SI7825	10D4・9	100	82	18	17.35	楕円形	中央	215				旧土坑
66	石囲炉 919	SI8356	10D23・10E3	68	56	8	17.45	楕円形	やや偏る	217	176	木の実徴		籠い
67	石囲炉 182	SI7826	11C23	108	(56)	26	17.30	楕円形	中央？					
67	地床炉 1446	SI7827	11D9	78	〈42〉	20	17.60	楕円形	中央					
67	石囲炉 983	SI8357	10D20	(72)	(76)	5	17.55	楕円形	中央					
68	地床炉 774	SI7830	11D23・11E3	80	36	8	17.40	不整形	中央					
69	地床炉 190	SI1415	14D2	60	52	8	17.40	円形	中央			魚類徴		
72	（地床炉 246）	SI8478	10E11	56	52	10	17.40	円形	ほぼ中央					旧土坑
73	地床炉 808	SI2372	10E12・13・18	110	80	14	17.40	楕円形	中央	235		哺乳類・木の実徴		
74	（地床炉 251）	SI8099	10E14	(48)	48	15	17.45	楕円形	中央				＜P250	旧土坑
74	地床炉 202	SI2371	10E18・19	60	36	7	17.30	楕円形	中央		13	哺乳類徴		
75	（地床炉 256）	SI8100	10E22	58	40	14	17.50	楕円形	ほぼ中央					旧土坑
76	（地床炉 2049）	SI8094	10F4・5	116	108	10	17.60	円形	中央					旧土坑
76	地床炉 824	SI2373	10F11・12	56	48	10	17.55	楕円形	中央			木の実徴	＜P866・867	籠い
77	地床炉 815	SI2375	9F25	60	54	8	17.65	円形	中央			魚類徴		
77	地床炉 816	SI8488	9F20	52	50	8	17.60	円形	中央	251				
79	地床炉 2067	SI8054	10G3	74	60	10	17.55	楕円形	中央				＜P2045	
80	地床炉 300	SI201	10F20	86	80	10	17.65	円形	中央			哺乳類多、魚類徴、木の実少		籠い
81	石囲炉 1952	SI2000	11E8	60	60	8	17.50	円形	中央	281		木の実徴		籠い
82	地床炉 1944	SI8061	11F7	56	50	10	17.55	円形	中央			木の実徴		籠い
82	地床炉 1943	SI1951	11E23・24	84	〈56〉	5	17.65	楕円形	中央	288				
83	石囲炉 1942	SI8059	11F19・20	(76)	(76)	5	17.60	楕円形？	中央					
84	（地床炉 638）	SI8461	12E14	66	60	20	17.45	円形	中央					旧土坑
84	（地床炉 608）	SI8092	12E16・21	54	54	16	17.55	円形	中央					旧土坑
85	（地床炉 676）	SI8467	12F13	82	66	16	17.55	楕円形	中央					旧土坑
85	（地床炉 677）	SI8468	12F12	50	46	10	17.65	円形	中央					旧土坑

（柱穴）

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
19	SI7634	1853	2D18	32	28	36	16.6	壁	上		
19	SI7634	2541	2D10	30	28	31	17.3	壁	上		
19	SI7634	2542	2D15	36	34	59	17.0	壁	上		
19	SI7634	3030	2D18	32	24	55	17.0	壁	下		
19	SI7634	3033	2D19	36	30	36	17.2	壁	下		
19	SI7634	3035	2D24	35	30	34	17.2	壁	下		
19	SI7634	3036	2D20	36	27	40	17.1	壁	下		
19	SI7634	3048	2D10	26	22	30	17.1	壁	下		
19	SI7634	3049	2D4	32	30	44	17.1	壁	下	土51	
19	SI7634	3051	3D11	28	19	35	17.1	壁	下		
19	SI7634	3475	2D4	20	18	15	17.2	壁	下		
19	SI7635	506	2D19	27	26	54	17.2	壁	上		
19	SI7635	501	2D8	30	27	43	17.3	壁	上		
19	SI7635	525	3D11	30	30	10	17.5	壁	上		
19	SI7635	3013	2D20	35	20	50	17.1	壁	下		
19	SI7635	3027	2D14	28	20	23	17.2	壁	下		
19	SI7635	3032	2D9	50	43	70	16.8	壁	下		
19	SI7635	3462	2D4	20	18	8	17.3	壁	下		
19	SI7635	3464	2D19	18	18	18	17.2	壁	下		
19	SI7635	3471	3D1	48	42	23	17.0	壁	下		
19	SI7635	3472	3D1	35	30	24	17.0	壁	下		
19	SI7635	3473	2D5	32	29	12	17.1	壁	下		
19	SI7635	3478	2D20	18	18	30	16.9	壁	下	土52	
20	SI7636	510	3C21	30	26	49	17.0	壁	上		
20	SI7636	512	3C22	30	30	59	17.2	壁	上		
20	SI7636	524	3D11	20	20	10	17.1	壁	上		
20	SI7636	528	3D13	30	25	17	17.1	壁	上		
20	SI7636	530	3D12	30	30	40	17.3	壁	上		
20	SI7636	551	3D9	20	18	26	17.3	壁	上		
20	SI7636	3058	3D9	30	28	32	17.1	壁	下		
20	SI7636	3383	3C23	30	26	38	17.1	壁	下		
20	SI7636	3455	3D9	38	28	14	17.0	壁	下		
20	SI7636	3472	3D1	35	30	24	17.0	壁	下		
20	SI7637	527	3D13	23	22	10	17.2	壁	上		
20	SI7637	554	3D15	50	30	23	17.3	壁	上		
20	SI7637	553	3D9	22	17	33	17.2	壁	上		
20	SI7637	1842	3D18	40	28	50	16.4	壁	上	土54	
20	SI7637	1862	3D20	36	25	36	17.1	壁	上		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
20	SI7637	1874	3D24	30	30	25	17.2	壁	上		
20	SI7637	1879	3D24	30	30	62	16.9	壁	上		
20	SI7637	3043	3D18	30	24	17	17.3	壁	下		
20	SI7637	3060	3D20	34	34	15	17.2	壁	下		
20	SI7637	3382	3D8	30	29	28	17.2	壁	下		
20	SI7637	3458	3D8	38	27	40	16.6	壁	下		
20	SI7637	3042	3D15	32	30	48	16.9	主	下		
20	SI7637	3045	3D13	26	22	26	17.3	主	下		
20	SI7637	3108	3D20	34	28	40	17.0	主	下	土53	
20	SI7637	3456	3D18	32	32	54	16.8	主	下		
21	SI3387	531	3D17	32	32	46	17.4	壁	上		
21	SI3387	572	3E3	32	30	46	17.1	壁	上		
21	SI3387	1136	3E4	40	28	36	17.1	壁	上		
21	SI3387	1137	3E3	49	32	11	17.4	壁	上		
21	SI3387	1871	3D14	40	30	45	17.1	壁	上		
21	SI3387	3041	3E4	38	35	45	17.0	壁	下	石227	
21	SI3387	3055	3D22	56	33	46	17.0	壁	下	土56・57	
21	SI3387	3056	3D18	40	40	28	16.8	壁	下		
21	SI3387	3107	3D14	50	36	64	16.9	壁	下		
21	SI3387	3377	3D25	20	11	50	17.1	壁	下		
22	SI3388	1803	3D19	40	32	67	16.9	壁	上	土58～60,骨	
21	SI3388	1854	3E2	24	22	50	17.1	壁	上		
21	SI3388	3373	3E5	34	26	26	17.2	壁	下		
21	SI3388	3480	3D25	22	22	47	17.0	壁	下		
22	SI3388	6002	3E10	(43)	41	46	17.0	壁	下		
22	SI3388	6011	3E9	36	(34)	(34)	17.1	壁	下		
21	SI3388	1877	3D22	36	30	35	17.2	主	上		
21	SI3388	3040	3D25	48	44	61	17.0	主	下		
21	SI3388	3054	3D19	30	21	15	16.7	主	下		
22	SI3388	6145	3E3	51	(41)	102	16.6	主	下		
22	SI3389	563	4D16	50	48	28	17.2	壁	上		
22	SI3389	1802	4D17	36	30	72	16.8	壁	上		
22	SI3389	1863	4D17	24	20	48	17.0	壁	上		
22	SI3389	1869	3E5	37	30	46	17.0	壁	上		
22	SI3389	3109	4E1	30	22	24	17.2	壁	下		
22	SI3389	3110	4E1	34	26	58	17.0	壁	下		
22	SI3389	3116	4E2	34	32	26	17.2	壁	下		
22	SI3389	3378	3D25	27	22	24	17.0	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
22	SI3389	3453	3D25	25	22	34	16.8	壁	下		
22	SI3389	1821	4D22	58	46	74	16.9	主	上	±63	
22	SI3389	3105	4D22	50	45	44	17.0	主	下	±61・62	
22	SI3389	3111	4D21	26	20	35	17.1	主	下		
22	SI3389	3372	4D16	24	24	25	17.3	主	下		
23	SI3390	3066	4C23	34	28	28	17.1	壁	上		
23	SI3390	3073	4C23	24	24	24	17.1	壁	下		
23	SI3390	3199	4C25	25	25	18	17.0	壁	下		
23	SI3390	3214	4D3	28	24	23	17.0	壁	下		
23	SI3390	3218	4D4	30	26	23	17.0	壁	下		
23	SI3390	3219	4C24	34	34	42	16.9	壁	下	±64	
23	SI3390	3225	4C25	26	22	24	17.1	壁	下		
23	SI3390	3354	4C23	26	23	32	17.1	壁	下		
23	SI3496	578	4C22	40	34	11	17.4	壁	上		
23	SI3496	585	4C25	32	30	26	17.3	壁	上		
23	SI3496	3067	4C22	50	40	44	17.0	壁	下		
23	SI3496	3071	4C22	38	35	20	17.2	壁	下		
23	SI3496	3076	4C22	55	50	32	17.2	壁	上		
23	SI3496	3090	4D3	40	36	58	16.8	壁	下	±65	
23	SI3496	3205	4D4	40	32	53	16.9	壁	下		
23	SI3496	3215	4D4	28	25	22	17.2	壁	下		
23	SI3496	3226	4C25	22	21	37	17.0	壁	下		
23	SI3496	2509	4C24	76	56	42	17.0	主	上	±66	
23	SI3496	3438	4C23	58	30	40	16.8	主	下		
23	SI3397	581	4D1	40	32	13	17.5	壁	上		
23	SI3397	552	4D6	44	36	12	17.5	壁	上		
23	SI3397	2521	4D13	50	40	66	16.8	壁	上		
23	SI3397	2530	4D9	45	40	38	17.1	壁	上		
23	SI3397	2531	4D6	26	24	52	17.0	壁	上		
23	SI3397	2532	4D6	28	28	38	17.0	壁	上		
23	SI3397	2536	4D1	33	29	43	17.1	壁	上		
23	SI3397	3065	4D3	38	30	38	17.0	壁	下		
23	SI3397	3074	4D13	48	30	74	16.7	壁	下	±67・68	
23	SI3397	3086	4D2	55	32	24	17.2	壁	下		
23	SI3397	3087	4D12	24	24	35	17.1	壁	下		
23	SI3397	3088	4D2	30	28	32	17.2	壁	下		
23	SI3397	3089	4D1	24	23	24	17.3	壁	下		
23	SI3397	3097	4D12	50	34	56	16.9	壁	下		
23	SI3397	3197	4D14	30	30	30	17.2	壁	下		
23	SI3397	3203	4D4	46	32	28	17.1	壁	下		
23	SI3397	3062	4D8	20	19	12	17.0	主	下		
23	SI3397	3064	4D3	38	36	38	17.1	主	下		
23	SI3397	3069	4D7	36	34	60	17.0	主	下	±69	
23	SI3397	3079	4D2	35	35	36	17.1	主	下		
24	SI3495	543	4D7	26	24	17	17.4	壁	上		
24	SI3495	555	4D7	50	40	75	16.8	壁	上		
24	SI3495	597	4D14	30	26	20	17.2	壁	上		
24	SI3495	1801	4D18	40	8	22	17.4	壁	上		
24	SI3495	1198	4D8	50	40	20	17.3	壁	上		
24	SI3495	1804	4D18	36	34	32	17.3	壁	上		
24	SI3495	1824	4D18	54	50	56	17.4	壁	上	±70	
24	SI3495	1867	4D12	42	42	38	17.1	壁	上		
24	SI3495	1868	4D12	40	40	38	17.1	壁	上		
24	SI3495	2514	4D7	50	43	42	17.1	壁	上		
24	SI3495	2522	4D9	30	30	28	17.3	壁	上		
24	SI3495	2523	4D8	30	30	54	17.0	壁	上		
24	SI3495	3083	4D12	38	37	54	16.9	壁	下		
24	SI3495	3084	4D12	53	52	42	17.0	壁	下		
24	SI3495	3098	4D12	56	50	44	17.0	壁	下		
24	SI3495	3208	4D9	26	24	28	17.1	壁	下		
24	SI3495	3217	4D9	16	14	26	17.2	壁	下		
24	SI3495	3323	4D14	26	22	20	17.3	壁	下		
24	SI3495	3326	4D14	22	10	28	17.0	壁	下		
24	SI3495	3358	4D8	36	34	16	17.3	壁	下		
24	SI3495	3370	4D7	44	38	20	17.2	壁	下	±71	
24	SI1200	595	4D20	60	60	56	16.9	壁	上	±76	
24	SI1200	1823	4D13	40	36	15	17.4	壁	上		
24	SI1200	1835	4D23	35	30	55	17.0	壁	上	±77	
24	SI1200	1866	4D17	40	25	50	17.0	壁	上		
24	SI1200	2519	4D20	48	34	44	17.1	壁	上	±75	
24	SI1200	3095	4D17	44	44	68	16.9	壁	下	±78	
24	SI1200	3113	4D22	26	16	32	17.1	壁	下		
24	SI1200	3231	4D24	35	32	19	17.2	壁	下		
24	SI1200	3325	4D14	30	25	32	17.2	壁	下		
24	SI1200	3336	4D25	25	24	22	17.2	壁	下		
24	SI1200	3339	4E4	30	27	37	17.1	壁	下		
24	SI1200	3351	4E3	25	25	31	17.1	壁	下		
24	SI1200	1814	4D19	56	52	46	17.1	主	上	±79・80	
24	SI1200	1826	4D23	50	44	20	17.3	主	上		
24	SI1200	1828	4D24	30	30	40	17.2	主	上		
24	SI1200	3101	4D18	46	42	34	17.1	主	下		
25	SI3400	1808	4E3	46	46	56	17.0	壁	上		
25	SI3400	1820	4E5	48	40	42	17.2	壁	上		
25	SI3400	1829	4D25	36	30	37	17.2	壁	上		
25	SI3400	2503	4E5	54	40	76	16.8	壁	上		
25	SI3400	2527	4D24	30	30	50	17.0	壁	上		
25	SI3400	2529	4D24	50	39	44	17.1	壁	上		
25	SI3400	2742	4E3	(48)	(40)	14	17.6	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
25	SI3400	3340	4D24	36	29	36	17.0	壁	下		
25	SI3400	3432	4D23	35	32	63	16.8	壁	下		
25	SI3400	7146	4E9	(34)	22	16	17.3	壁	下		
25	SI3400	7147	4E9	39	28	34	17.1	壁	下		
25	SI3400	7230	4E8	23	22	15	17.3	壁	下		
25	SI3400	7253	4E9	32	(30)	12	17.3	壁	下		
25	SI3400	7260	4E9	46	42	30	17.1	壁	下		
25	SI3400	1844	4D24	34	30	50	17.1	主	上		
25	SI3400	3119	4D23	58	36	44	17.0	主	下		
25	SI3400	7231	4E3	46	42	18	17.0	主	下		
25	SI7640	592	4D10	25	20	76	16.8	壁	上	±82	
25	SI7640	599	4D10	64	62	34	17.2	壁	上		
25	SI7640	1114	5D7	36	34	26	17.5	壁	上		
25	SI7640	1115	5D7	50	44	12	17.5	壁	上		
25	SI7640	1187	5D17	26	26	14	17.3	壁	上		
25	SI7640	1189	5D12	38	32	22	17.4	壁	上		
25	SI7640	1825	5D17	60	58	36	17.3	壁	上		
26	SI7640	1884	5D6	30	28	30	17.2	壁	上	骨	
25	SI7640	1895	5D6	34	26	40	17.1	壁	上		
25	SI7640	2512	4D20	30	30	44	17.0	壁	上		
26	SI7640	2516	4D9	28	21	48	17.0	壁	上	±84	
25	SI7640	2517	4D14	56	40	70	16.8	壁	上		
26	SI7640	2539	4D10	36	28	48	17.0	壁	上		
26	SI7640	3127	4D14	40	36	48	17.0	壁	下		
26	SI7640	3128	4D14	34	28	25	16.9	壁	下		
26	SI7640	3157	4D25	60	44	64	16.8	壁	下	±83	
26	SI7640	3185	4D25	30	25	78	16.6	壁	下	±81	
26	SI7640	3188	5D7	50	44	28	17.1	壁	下		
25	SI7640	3213	4D14	32	30	36	17.1	壁	下		
25	SI7640	3222	4D9	50	19	38	17.0	壁	下		
25	SI7640	3229	5D16	38	34	21	17.2	壁	下		
25	SI7640	3314	5D21	35	22	21	17.0	壁	下		
25	SI7640	3329	4D19	40	34	20	17.2	壁	下		
26	SI7640	3348	4D25	32	30	34	17.1	壁	下		
25	SI7640	1118	5D16	35	26	50	17.1	主	上		
25	SI7640	1819	4D19	62	50	66	16.9	主	上		
25	SI7640	3180	5D6	45	35	40	17.0	主	下		
25	SI7640	3221	4D10	43	42	30	17.2	主	下		
26	SI7642	594	4D24	55	45	75	16.9	壁	上	±85	
26	SI7642	1183	5D21	44	32	19	17.0	壁	上		
26	SI7642	1805	4D15	20	20	16	17.4	壁	上		
26	SI7642	1806	4D24	23	23	14	17.5	壁	上		
26	SI7642	1830	4D24	32	30	44	17.2	壁	上	±86	
26	SI7642	1882	5D11	34	34	62	16.9	壁	上		
26	SI7642	1891	5E1	36	30	48	17.1	壁	上		
26	SI7642	3137	4E4	40	22	25	17.1	壁	下		
26	SI7642	3138	4E5	30	28	26	17.1	壁	下		
26	SI7642	3139	5D16	40	25	32	17.1	壁	下		
26	SI7642	3140	4E4	40	35	40	17.0	壁	下		
26	SI7642	3145	4D24	30	26	23	17.2	壁	下		
26	SI7642	3146	5D16	32	28	28	17.2	壁	下		
26	SI7642	3311	5E1	32	30	24	17.1	壁	下		
26	SI7642	3327	4D19	24	24	26	17.2	壁	下		
26	SI7642	3347	4E5	27	16	50	17.2	壁	下		
26	SI7642	3494	4D24	74	40	45	17.0	壁	下		
27	SI7641	1113	5D6	56	50	32	17.2	壁	上	±87	
27	SI7641	1194	4D10	48	32	28	17.3	壁	上		
27	SI7641	2520	4D19	32	28	58	17.0	壁	上		
27	SI7641	3118	4D20	45	22	46	17.0	壁	下		
27	SI7641	3150	5D17	40	30	28	17.1	壁	下		
27	SI7641	3151	5D21	55	46	46	16.9	壁	下		
27	SI7641	3152	5D21	52	45	24	17.1	壁	下		
27	SI7641	3169	5D12	34	33	24	17.2	壁	下		
27	SI7641	3177	5D7	48	38	46	17.0	壁	下		
27	SI7641	3211	4D10	42	40	39	17.0	壁	下		
27	SI7641	3319	4D15	30	26	28	17.2	壁	下		
27	SI7641	3330	4D25	30	22	25	17.1	壁	下		
27	SI7641	3335	4D25	38	35	26	17.2	壁	下		
27	SI3396	1147	5D3	40	34	48	17.1	壁	上		
27	SI3396	3166	5D3	30	28	18	17.2	壁	下		
27	SI3396	3187	5D2	44	35	24	17.2	壁	下		
27	SI3396	3195	5C21	44	30	40	16.9	壁	下		
27	SI3396	3202	5D2	35	32	37	17.0	壁	下		
27	SI3396	3232	5C21	32	28	31	17.2	壁	下		
27	SI3396	3403	5C24	22	20	36	17.0	壁	下		
27	SI3396	3404	5C24	25	20	24	17.3	壁	下		
27	SI3396	3406	5D4	34	32	43	17.0	壁	下		
27	SI3396	3411	5D3	20	20	16	17.0	壁	下		
28	SI1810	1149	5D2	48	32	58	17.1	壁	上		
27	SI1810	1148	5D8	44	36	28	17.1	壁	上		
28	SI1810	1150	5C22	40	40	30	17.3	壁	上		
27	SI1810	1152	5D9	30	24	22	17.4	壁	上		
28	SI1810	1153	5D9	46	36	65	17.0	壁	上	±88	
27	SI1810	1611	5C25	32	32	34	17.2	壁	上		
27	SI1810	1612	5D5	35	35	35	17.2	壁	上		
27	SI1810	3167	5D3	40	28	24	17.2	壁	下		
27	SI1810	3193	5C22	30	30	24	17.1	壁	下		
28	SI1810	3240	5D5	32	26	57	16.6	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
28	SI7643	1163	5D20	30	24	42	17.2	壁	上		
28	SI7643	1174	5D7	32	28	22	17.3	壁	上		
28	SI7643	1816	5D15	36	28	60	17.0	壁	上		
28	SI7643	1843	5D7	37	30	50	17.1	壁	上		
28	SI7643	2502	5D12	28	28	22	17.1	壁	上		
28	SI7643	3172	5D8	40	36	24	17.2	壁	下		
28	SI7643	3238	5D10	45	35	38	17.0	壁	下		
28	SI7643	3251	5D4	30	24	36	17.0	壁	下		
28	SI7643	3281	5D19	37	35	17	17.3	壁	下		
28	SI7643	3282	5D19	40	25	18	17.3	壁	下		
28	SI7643	3283	5D19	32	30	31	17.2	壁	下		
28	SI7643	3284	5D19	38	35	22	17.2	壁	下		
28	SI7643	3285	5D19	24	20	13	17.3	壁	下		
28	SI7643	3286	5D19	30	29	32	17.1	壁	下		
28	SI7643	3420	5D8	35	20	17	17.0	壁	下		
28	SI7643	3489	5D8	17	16	7	17.1	壁	下		
28	SI7643	1154	5D8	30	26	56	17.0	主	上		
28	SI7643	3265	5D9	40	35	38	17.0	主	下		
28	SI7643	3276	5D14	57	26	41	17.0	主	下		
28	SI1190	1161	5D15	53	40	32	17.3	壁	上		
28	SI1190	1173	5D23	50	36	24	17.4	壁	上		
28	SI1190	1177	5D23	56	44	32	17.4	壁	上		
28	SI1190	2505	5D23	30	24	48	17.1	壁	上		
28	SI1190	3153	5D18	32	30	20	17.2	壁	下		
28	SI1190	3160	5D18	30	27	28	17.2	壁	下		
28	SI1190	3168	5D18	35	30	30	17.1	壁	下		
28	SI1190	3253	5D25	40	32	29	17.1	壁	下		
28	SI1190	3264	5D14	44	40	31	17.0	壁	下		
28	SI1190	3279	5D20	52	30	58	16.9	壁	下		
28	SI1190	3280	5E4	41	35	31	17.1	壁	下		
28	SI1190	3295	5D24	30	28	24	17.2	壁	下		
28	SI1190	6940	5D20	40	40	42	17.1	壁	下		
28	SI1190	1164	5D19	35	32	63	16.9	主	上		
28	SI1190	1168	5D13	48	30	50	17.1	主	上		
28	SI1190	3301	5D23	54	40	24	17.1	主	下		
28	SI1190	3305	5D24	50	48	46	17.0	主	下		
29	SI7644	1191	6D11	50	48	16	17.2	壁	上		
29	SI7644	1838	5D25	46	44	13	17.6	壁	上		
29	SI7644	3243	5D15	28	21	18	17.2	壁	下		
29	SI7644	3257	5D14	24	21	31	17.1	壁	下		
29	SI7644	3262	5D14	48	36	29	17.1	壁	下		
29	SI7644	3263	5D14	30	26	43	17.0	壁	下		
29	SI7644	3293	5D25	32	30	30	17.1	壁	下		
29	SI7644	3303	5D24	30	24	32	17.1	壁	下		
29	SI7644	3401	5D19	40	32	50	17.1	壁	下	±92	
29	SI7644	3425	5D18	23	22	12	17.0	壁	下		
29	SI7644	3443	5D24	25	24	34	16.9	壁	下		
29	SI7644	3444	5D19	22	20	36	16.9	壁	下		
29	SI7644	6931	5D25	36	32	30	17.2	壁	下		
29	SI7644	6932	5D25	65	34	25	17.1	壁	下		
29	SI7644	6934	6D16	44	34	24	17.2	壁	下		
29	SI7644	6937	6D16	28	24	16	17.2	壁	下		
29	SI7644	6938	6D16	26	24	20	17.2	壁	下		
29	SI7644	6962	6D11	42	40	31	17.1	壁	下		
29	SI7644	6963	6D11	48	48	42	17.0	壁	下	±90・91	
29	SI7645	1167	5D25	35	35	18	17.4	壁	上		
29	SI7645	1172	5E3	40	36	16	17.4	壁	上		
29	SI7645	1176	5D23	50	48	32	17.3	壁	上		
29	SI7645	1896	5E4	24	24	44	17.2	壁	上		
29	SI7645	1900	5D18	44	44	34	17.2	壁	上		
29	SI7645	2501	5D23	42	31	40	17.1	壁	上		
29	SI7645	3274	5D19	32	27	30	17.1	壁	下		
29	SI7645	3282	5D19	40	25	18	17.3	壁	下		
29	SI7645	3288	5E4	23	20	30	17.1	壁	下		
29	SI7645	3292	5E3	48	38	32	17.1	壁	下		
30	SI7646	431	2E7	48	(26)	(86)	16.7	壁	上	±97	
30	SI7646	509	2D23	26	25	17	17.3	壁	上		
30	SI7646	1027	2E8	75	52	14	17.4	壁	下		
30	SI7646	1039	2E10	17	15	9	17.5	壁	上		
30	SI7646	3008	2E2	50	16	40	17.1	壁	下		
30	SI7646	3010	2D23	36	25	30	17.2	壁	下		
30	SI7646	3011	2D24	32	28	32	17.2	壁	下		
30	SI7646	3015	2D22	26	16	30	17.2	壁	下		
30	SI7646	3026	2D23	22	18	23	17.3	壁	下	±96	
30	SI7646	3028	2D24	40	34	37	17.3	壁	下		
30	SI7646	3029	2D23	36	32	41	17.1	壁	下		
30	SI7646	3468	2D25	26	22	18	17.2	壁	下		
30	SI7646	3469	2D25	22	21	8	17.2	壁	下		
30	SI7646	3483	2E5	30	30	18	17.1	壁	下		
30	SI7646	6154	2E7	28	(25)	38	17.1	壁	下		
30	SI7646	6178	2E10	26	(17)	34	17.2	壁	下		
30	SI7646	6386	2E8	30	24	9	17.3	壁	下		
30	SI7646	6401	2E10	(26)	25	19	17.2	壁	下		
30	SI7646	6404	2E10	(25)	22	20	17.2	壁	下		
30	SI7646	6413	2E9	28	22	12	17.1	壁	下		
30	SI7646	6414	2E9	36	(31)	9	17.3	壁	下	±98	
30	SI446	570	2E3	30	30	10	17.5	壁	上		
30	SI446	1033	3E6	32	27	17	17.4	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
30	SI446	1028	2E8・13	47	40	10	17.4	壁	下		
30	SI446	1042	3E11	27	20	10	17.4	壁	上		
30	SI446	1043	2E20	45	27	28	17.3	壁	上		
31	SI446	1080	2E19	51	35	27	17.1	壁	下		
30	SI446	1852	2D25	34	32	38	17.1	壁	上		
30	SI446	1857	2D25	40	40	34	17.2	壁	上	±1101	
30	SI446	3477	2D24	34	26	20	17.1	壁	下		
30	SI446	6067	2E13	21	20	16	17.5	壁	下		
30	SI446	6170	2E3・8	(70)	60	19	17.3	壁	下		
30	SI446	6328	2E19	34	23	16	17.3	壁	下		
30	SI446	6329	2E19	34	31	23	17.2	壁	下		
30	SI446	6407	2E14	27	26	7	17.2	壁	下		
30	SI446	3003	2E5	58	46	36	17.3	主	下		
30	SI446	6175	2E8	36	(30)	23	17.1	主	下		
30	SI446	6371	2E10	(46)	37	38	17.1	主	下		
30	SI446	6372	2E14	66	51	27	17.1	主	下		
30	SI446	1064	2E10	32	24	24	17.3		上	±95	SH
31	SI6150	1031	2E20	50	33	9	17.4	壁	下	±99	
31	SI6150	1060	2E19	57	46	34	17.3	壁	上		
31	SI6150	1079	2E12	34	31	33	17.3	壁	下		
31	SI6150	1092	2E13	29	26	15	17.4	壁	下	±100	
31	SI6150	6163	2E13	34	34	23	17.3	壁	下		
31	SI6150	6353	2E23	28	22	13	17.4	壁	下		
31	SI6150	6354	2E24	26	25	20	17.3	壁	下		
31	SI6150	6357	2E14	56	(38)	61	16.8	壁	下		
31	SI6150	6362	2E17	37	34	40	17.2	壁	下		
31	SI6150	6365	2E14	(40)	38	44	17.0	壁	下		
31	SI6150	6368	2E17	32	30	50	17.0	壁	下		
31	SI6150	6370	2E23	33	27	36	17.2	壁	下		
31	SI6150	6385	2E9	30	28	21	17.2	壁	下		
31	SI6150	1077	2E18	(36)	30	34	17.1	主	下		
31	SI6150	6171	2E19	58	44	15	17.4	主	下		
31	SI6150	6382	2E19	33	31	35	17.1	主	下		
32	SI6375	1066	2E17	70	(40)	16	17.3	壁	下		
32	SI6375	1074	2F3	32	28	(26)	17.3	壁	上		
32	SI6375	6037	2F1	26	(11)	16	17.3	壁	下		
32	SI6375	6038	2F2	34	(32)	42	17.2	壁	下		
32	SI6375	6333	2E17	25	23	21	17.3	壁	下		
32	SI6375	6334	2E17	52	37	16	17.4	壁	下		
32	SI6375	6341	2F7	35	(28)	69	16.9	壁	下	±101	
32	SI6375	6358	2E18	23	22	12	17.4	壁	下		
32	SI6375	6363	2E23	27	23	15	17.4	壁	下		
32	SI6375	6367	2E23	33	(33)	41	17.2	壁	下		
32	SI7647	485	2F13	37	29	28	17.4	壁	上		
32	SI7647	1072	2E23	35	24	42	17.2	壁	上		
32	SI7647	1091	2F13	45	43	41	17.3	壁	上		
32	SI7647	1094	2F3	30	(27)	(44)	17.2	壁	上		
32	SI7647	1096	2E22	(34)	32	43	17.2	壁	上		
32	SI7647	6048	2F8・9	31	(28)	34	17.3	壁	上		
32	SI7647	6050	2F11	32	(24)	51	17.1	壁	下		
32	SI7647	6081	2F12・17	36	30	24	17.4	壁	下		
32	SI7647	6086	2F9	37	27	41	17.1	壁	下	石176	
32	SI7647	6087	2F11	31	(31)	91	16.8	壁	下		
32	SI7647	6088	2F12	(34)	29	23	17.4	壁	下	±103	
32	SI7647	6132	2E22	19	16	15	17.4	壁	下		
32	SI7647	6157	2E22	30	24	17	17.4	壁	下		
32	SI7647	6272	2F3・4	32	30	40	17.2	壁	下		
32	SI7647	6274	2F13	32	25	20	17.5	壁	下		
32	SI7647	6280	2F11	18	16	21	17.4	壁	下		
32	SI7647	6410	2E21	(26)	20	21	17.1	壁	下		
32	SI7647	486	2F11	82	62	26	17.4	主	下		
32	SI7647	1069	2F2	30	(14	54	17.2	主	下	±102	
32	SI7647	6052	2F8	44	31	21	17.4	主	下		
33	SI7648	409	2F19	50	42	(25)	17.4	壁	上		
33	SI7648	451	2F5	(236)	18～50	4	17.5	壁	上		SD
33	SI7648	492	2F12	30	25	11	17.6	壁	上		
33	SI7648	493	2F12	22	18	16	17.5	壁	上		
33	SI7648	496	2E23	36	28	16	17.5	壁	上		
33	SI7648	1002	2F19	22	20	8	17.6	壁	上		
33	SI7648	1003	2F19	24	23	16	17.6	壁	上		
33	SI7648	1006	2F18	33	(22)	16	17.4	壁	下		
33	SI7648	1055	2F7	32	(20)	45	17.2	壁	下		
33	SI7648	1069	2F2	30	(14)	54	17.1	壁	下		
33	SI7648	1081	2F7	(23)	23	(49)	17.2	壁	上		
33	SI7648	6015	2F18	38	32	35	17.1	壁	下		
33	SI7648	6068	2F9	21	19	14	17.5	壁	下		
33	SI7648	6125	2E25	20	17	16	17.4	壁	下		
33	SI7648	6129	2E24	27	20	17	17.4	壁	下		
33	SI7648	6136	2E23	23	20	11	17.5	壁	下		
33	SI7648	6298	2F15	38	27	31	17.4	壁	下		
33	SI7648	6364	2E24	(30)	27	15	17.4	壁	下		
33	SI7648	6393	2F5	30	(28)	13	17.3	壁	下		
33	SI7648	6394	2F15	32	26	26	17.2	壁	下		
33	SI7648	6406	2F15	25	23	34	17.2	壁	下		
33	SI6376	489	2F3	34	32	40	17.2	壁	上		
33	SI6376	1005	2F18	43	(33)	7	17.3	壁	下		
33	SI6376	1007	2F18	29	27	10	17.5	壁	下		
33	SI6376	1083	2F7	50	41	43	17.2	壁	下	±105	

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
33	SI6376	1054	2F9	(62)	59	55	17.2	壁	下	石 98	
33	SI6376	6039	2F6	38	(36)	38	17.2	壁	下		
33	SI6376	6040	2F12	54	41	32	17.4	壁	下		
33	SI6376	6066	2F3	27	21	11	17.5	壁	下		
33	SI6376	6092	2F17	53	41	33	17.3	壁	下		
33	SI6376	6099	2F11	23	20	23	17.3	壁	下		
33	SI6376	8821	2F8	26	24	8	17.3	壁	下		
33	SI6376	1093	2F8	47	36	46	17.2	主	上		
33	SI6376	6085	2F12	41	34	26	17.3	主	下		
33	SI6376	6261	2F7	71	51	48	17.2	主	下	土 106	
33	SI6376	6281	2F13	37	(23)	43	17.2	主	下	土 104	
34	SI453	407	2F18	19	32	16	17.5	壁	上		
34	SI453	416	2F18	20	12	21	17.5	壁	上		
34	SI453	427	2F17	12	6	34	17.6	壁	上		
34	SI453	442	2F17	24	6	19	17.6	壁	上		
34	SI453	449	2F17	10	(6)	14	17.5	壁	上	土 113・114	
34	SI453	460	2G3	22	11	14	17.5	壁	上		
34	SI453	467	2G3	44	35	44	17.2	壁	上		
34	SI453	468	2G3	16	15	12	17.5	壁	上		
34	SI453	469	2F24	(20)	16	13	17.5	壁	上		
34	SI453	470	2F24	24	6	18	17.4	壁	上		
34	SI453	471	2F24	19	17	18	17.4	壁	上		
34	SI453	474	2F19	(31)	20	15	17.5	壁	上		
34	SI453	475	2F18	(16)	(12)	11	17.5	壁	上		
34	SI453	477	2F18	30	15	11	17.4	壁	上		
34	SI453	1048	2F17	10	5	45	17.2	壁	上		
34	SI453	1049	2F17	11	11	30	17.4	壁	上		
34	SI453	1057	2F17	13	11	33	17.4	壁	上		
34	SI453	1061	2F22	24	23	20	17.5	壁	上		
34	SI453	1065	2G3	30	18	13	17.5	壁	上		
34	SI453	1067	2G3	18	14	16	17.5	壁	上		
34	SI453	1070	2F22	32	(30)	22	17.5	壁	上	土 112	
34	SI453	1088	2F24	44	16	8	17.6	壁	上		
34	SI453	487	2F18	55	53	49	17.2	主	上		
34	SI453	1071	2F22	(52	40	35	17.3	主	上		
34	SI6345	417	2F21	26	26	37	17.3	壁	下	土 116・117	
34	SI6345	1004	2F18	27	22	5	17.6	壁	下		
34	SI6345	1006	2F18	33	(22)	16	17.4	壁	下		
34	SI6345	1019	2F16	48	44	28	17.4	壁	下		
34	SI6345	6041	2F21	24	(12)	18	17.4	壁	下		
34	SI6345	6047	2F16	53	40	38	17.2	壁	下		
34	SI6345	6080	2F17	31	24	22	17.4	壁	下		
34	SI6345	6173	2F22	248	55	22	17.5	壁	下		SD
34	SI6345	6270	2F17	45	(18)	20	17.4	壁	下		
34	SI6345	6273	2F23	23	19	18	17.5	壁	下		
34	SI6345	6317	2F21	23	19	22	17.3	壁	下		
34	SI6345	6342	2F22	26	24	33	17.2	壁	下		
34	SI6345	6387	2F23	22	(13)	9	17.4	壁	下		
34	SI6345	6399	2F23	25	23	12	17.4	壁	下		
34	SI6345	8846	2F18	29	25	28	17.4	壁	下		
34	SI6345	8850	2G2	22	15	12	17.5	壁	下		
34	SI6345	8852	2G3	28	18	16	17.5	壁	下		
34	SI6345	8853	2F18	34	31	9	17.4	壁	下		
34	SI6345	8864	2F23	24	21	14	17.3	壁	下		
34	SI6345	8865	2F23	33	27	16	17.3	壁	下		
35	SI2917	2952	3E24	20	19	23	17.2	壁	下		
35	SI2917	2953	3E24	47	42	26	17.2	壁	下		
35	SI2917	2954	3F4	52	32	34	17.2	壁	下		
35	SI2917	2955	3F4	38	37	16	17.4	壁	下		
35	SI2917	2956	3F3	28	25	43	17.1	壁	下		
35	SI2917	2957	3F3	25	24	15	17.4	壁	下		
35	SI2917	2958	3F3	48	35	40	17.1	壁	下		
35	SI2917	2959	3F3	(26)	20	24	17.3	壁	下		
35	SI2917	2960	3F3・8	(39)	28	42	17.1	壁	下		
35	SI2917	2961	3F2	39	24	30	17.2	壁	下		
35	SI2917	2962	3F2	23	20	32	17.2	壁	下		
35	SI2917	2963	3F2	25	19	36	17.2	壁	下		
35	SI2917	2964	3F2	19	18	25	17.3	壁	下		
35	SI2917	2965	3F2	(25)	22	14	17.4	壁	下		
35	SI2917	2966	3E22	31	22	42	17.1	壁	下		
35	SI2917	2967	3E22	30	29	16	17.4	壁	下		
35	SI2917	2968	3E17	26	23	18	17.4	壁	下		
35	SI2917	2969	3E17	26	17	18	17.1	壁	下		
35	SI2917	2970	3E18	21	17	10	17.4	壁	下		
35	SI2917	2971	3E18	43	36	23	17.3	壁	下		
35	SI2917	2972	3E18	31	23	22	17.3	壁	下		
35	SI2917	2973	3E19	39	34	26	17.2	壁	下		
35	SI2917	2974	3E19	43	33	22	17.3	壁	下		
35	SI2917	6165	3F3・4	39	(34)	12	17.4	壁	下		
35	SI2917	6189	3E24	48	33	37	17.1	壁	下	土 120	
35	SI7601	1722	3G3	36	(24)	18	17.5	壁	上		
35	SI7601	1728	3G4	26	(24)	6	17.6	壁	上		
35	SI7601	1774	3G3	28	(24)	24	17.4	壁	上		
35	SI7601	1791	3G4	20	(20)	28	17.4	壁	上		
35	SI7601	1792	3F25	(38)	(28)	28	17.4	壁	上		
35	SI7601	2602	3F25	(30)	(28)	16	17.5	壁	上		
35	SI7601	2689	3G4	(24)	(24)	12	17.5	壁	上		
35	SI7601	2690	3G4	(16)	(16)	10	17.5	壁	上		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
35	SI7601	2694	3G4	(24)	(24)	10	17.6	壁	上		
35	SI7601	6097	3F7・12	47	(46)	(33)	17.1	壁	下		
35	SI7601	6106	3F9	29	28	13	17.4	壁	下		
35	SI7601	6169	3F22	46	44	48	17.1	壁	下		
35	SI7601	6190	3F12	44	32	17	17.4	壁	下		
35	SI7601	6207	3F8	(36)	30	18	17.4	壁	下		
35	SI7601	6238	3F16	47	36	4	17.5	壁	下		
35	SI7601	6241	3F22	40	36	18	17.2	壁	下		
35	SI7601	6265	3F7	69	42	52	17.0	壁	下		
35	SI7601	7309	4F21	24	(24)	14	17.4	壁	下		
35	SI7601	8625	3F15	40	35	21	17.3	壁	下		
36	SI7602	1725	3F24	30	(28)	10	17.5	壁	上		
36	SI7602	1730	3G4	26	(24)	10	17.5	壁	上		
36	SI7602	1768	3F23	40	28	28	17.3	壁	上		
36	SI7602	1770	3F23	28	24	38	17.2	壁	上		
36	SI7602	1773	3F23	20	(20)	22	17.4	壁	上		
36	SI7602	2693	3G3	(38)	(36)	22	17.4	壁	上		
36	SI7602	2696	3F9	(32)	(28)	68	16.6	壁	下	土 121	
36	SI7602	6128	3F12	44	25	14	17.4	壁	下		
36	SI7602	6168	3F8	41	35	44	17.1	壁	下	土 122、石 82	
36	SI7602	6194	3F9	51	40	26	17.3	壁	下		
36	SI7602	6233	3F17	28	(27)	(35)	17.3	壁	下		
36	SI7602	6246	3F17	40	26	18	17.3	壁	下		
36	SI7602	6292	3F8	24	21	28	17.3	壁	下		
36	SI7602	6293	3F8	31	28	17	17.4	壁	下		
36	SI7602	6299	3F22	31	29	29	17.3	壁	下		
36	SI7602	7279	3F20	35	24	44	17.1	壁	下		
36	SI7602	7365	3F25	28	24	10	17.5	壁	下		
36	SI7603	1764	3G2	(32)	28	28	17.4	壁	下		
36	SI7603	1785	3G9	38	36	30	17.4	壁	上		
36	SI7603	1787	3G4	(63)	(45)	30	17.4	壁	下		
36	SI7603	1798	3F20	13	(12)	24	17.3	壁	上		
36	SI7603	1800	3F25	30	(30)	20	17.4	壁	上		
36	SI7603	6166	3F12	65	48	18	17.2	壁	下		
36	SI7603	6193	3F13	25	18	31	17.3	壁	下		
36	SI7603	6236	3F16	38	31	19	17.0	壁	下		
36	SI7603	6237	3F16	48	43	19	17.3	壁	下		
36	SI7603	6256	3F21	(30)	28	27	17.3	壁	下		
36	SI7603	6288	3F12	32	27	45	17.1	壁	下		
36	SI7603	6428	3F14	40	25	13	17.2	壁	下		
36	SI7603	7381	3G2	22	22	43	17.2	壁	下		
37	SI7604	1018	2F15	36	32	9	17.6	壁	上		
37	SI7604	1082	2F19	36	(31)	44	17.3	壁	上		
37	SI7604	1084	2F19	(48)	(28)	48	17.2	壁	上		
37	SI7604	1016	2F24	33	29	13	17.6	壁	上		
37	SI7604	1015	2F24	38	32	12	17.6	壁	上		
37	SI7604	1014	2G4	20	18	11	17.6	壁	上		
37	SI7604	1721	3G3	20	20	22	17.4	壁	上		
37	SI7604	1762	3G3	29	28	28	17.3	壁	上		
37	SI7604	1793	3F18	42	38	32	17.3	壁	上		
37	SI7604	6025	2G5	(53)	50	29	17.3	壁	下		
37	SI7604	6031	3G1	43	(23)	11	17.6	壁	下		
37	SI7604	6064	2F24	35	29	17	17.5	壁	下		
37	SI7604	6123	3F12	29	27	18	17.4	壁	下		
37	SI7604	6160	3F11	27	22	25	17.3	壁	下		
37	SI7604	6211	3F12	33	(30)	34	17.3	壁	下		
37	SI7604	6250	3G1	35	23	17	17.5	壁	下		
37	SI7604	6259	3F11	32	27	27	17.3	壁	下		
37	SI7604	6346	2F19	40	35	19	17.5	壁	下		
37	SI7605	484	3G2	54	45	65	17.0	壁	上	土 129・130	
37	SI7605	1098	2G5	36	26	(30)	17.2	壁	上		
37	SI7605	1779	3G8	45	37	73	16.9	壁	上	土 127	
37	SI7605	6244	2G5	24	22	14	17.4	壁	下	土 128、石 84	
37	SI7605	1073	2G4	34	32	22	17.5	壁	上		
37	SI7605	6351	2G4	30	25	22	17.4	壁	下		
37	SI7605	6390	2G4	48	35	50	17.3	壁	下		
37	SI7605	7314	3G8	32	30	23	17.4	壁	下		
37	SI7605	7382	3G2	21	18	35	17.2	壁	下		
38	SI7606	1732	3E5	40	32	43	17.1	壁	下		
38	SI7606	2746	4E7	48	28	43	17.1	壁	上		
38	SI7606	2671	4E17	(39)	38	24	17.2	壁	上		
38	SI7606	6001	3E9	53	51	33	17.2	壁	下		
38	SI7606	6008	3E14	63	58	52	16.9	壁	下		
38	SI7606	6009	3E9	(36)	32	19	17.3	壁	下		
38	SI7606	6051	3E20	43	(36)	22	17.4	壁	下		
38	SI7606	6216	3E19	22	19	9	17.3	壁	下		
38	SI7606	6217	3E20	23	20	11	17.3	壁	下		
38	SI7606	7136	4E16	38	30	24	17.2	壁	下		
38	SI7606	7138	4E16	30	24	21	17.3	壁	下		
38	SI7606	7161	4E13	34	30	25	17.2	壁	下		
38	SI7606	7248	4E13	27	21	24	17.2	壁	下		
38	SI7607	2747	4E2・7	(46)	(46)	45	16.9	壁	下		
38	SI7607	3344	4E4	24	24	31	17.1	壁	下		
38	SI7607	7114	4E10	38	32	18	17.3	壁	下		
38	SI7607	7115	4E10	36	28	17	17.3	壁	下		
38	SI7607	7116	4E10	30	21	25	17.2	壁	下		
38	SI7607	7128	4E14	27	22	20	17.2	壁	下		
38	SI7607	7131	4E10	25	22	10	17.4	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
38	SI7607	7143	4E13	38	35	10	17.3	壁	下		
38	SI7607	7148	4E4・9	33	22	15	17.3	壁	下		
38	SI7607	7151	4E7	20	18	17	17.2	壁	下		
38	SI7607	7158	4E12	42	29	19	17.2	壁	下		
38	SI7607	7159	4E12	49	32	12	17.2	壁	下		
38	SI7607	7160	4E12	38	38	29	17.1	壁	下	石 256	
38	SI7607	7252	4E13	36	23	12	17.3	壁	下		
38	SI7607	7257	4E15	37	33	24	17.2	壁	下		
39	SI7608	1734	3F4	42	36	34	17.2	壁	下		
39	SI7608	2672	4F2	24	22	9	17.4	壁	上		
39	SI7608	2687	3F4	52	40	36	17.2	壁	下		
39	SI7608	2735	4F6	20	20	24	17.3	壁	上		
39	SI7608	2736	4F6	24	24	46	17.2	壁	上		
39	SI7608	6181	3E19	42	36	29	17.2	壁	下		
39	SI7608	6184	3F4	(38)	26	22	17.3	壁	下		
39	SI7608	6291	3F9	37	35	22	17.4	壁	下		
39	SI7608	7285	4F7	25	23	22	17.2	壁	下		
39	SI7608	7369	4E17	37	35	16	17.3	壁	下		
39	SI7608	7377	4E16	66	60	12	17.3	壁	下		
39	SI7608	7398	4E16	35	32	22	17.3	壁	下		
39	SI7609	1741	4E25	28	25	37	17.1	壁	上		
39	SI7609	1752	4F12・13	24	24	36	17.2	壁	上		
39	SI7609	2667	4F10	38	30	32	17.3	壁	上		
39	SI7609	2706	4F7	42	38	61	16.9	壁	上	±132～134	
39	SI7609	2713	4F14	28	23	27	17.3	壁	上		
39	SI7609	2716	4F10	28	21	18	17.4	壁	上		
39	SI7609	2723	4F10	25	25	16	17.4	壁	上		
39	SI7609	7106	4E25	63	45	11	17.3	壁	下		
39	SI7609	7170	4E18	82	70	16	17.3	壁	下		
39	SI7609	7175	4E22	27	27	24	17.2	壁	下		
39	SI7609	7268	4F5	32	28	20	17.3	壁	下		
39	SI7609	7295	4F13	20	18	17	17.2	壁	下		
39	SI7609	7296	4F13	20	20	20	17.4	壁	下		
39	SI7609	7364	4F2	42	(40)	15	17.3	壁	下		
40	SI7610	1755	4F14	28	22	32	17.2	壁	上		
40	SI7610	2714	4F14	32	24	22	17.3	壁	上		
40	SI7610	2738	4F14	(30)	28	26	17.3	壁	上		
40	SI7610	6860	5F6	31	29	16	17.3	壁	下		
40	SI7610	7165	4F3	18	17	16	17.3	壁	下		
40	SI7610	7167	4E23	51	(43)	20	17.3	壁	下		
40	SI7610	7226	4E23	46	35	38	17.1	壁	下		
40	SI7610	7132	4F1	30	22	8	17.4	壁	下		
40	SI7610	7270	5F1	24	18	10	17.4	壁	下		
40	SI7610	7271	4F10	(54)	39	38	17.2	壁	下		
40	SI7610	7292	4F12	31	29	15	17.4	壁	下		
40	SI7610	7333	4E25	38	(36)	29	17.2	壁	下		
40	SI7610	7389	4F18	37	24	18	17.4	壁	下		
40	SI7611	1753	4F8	(33)	32	42	17.1	壁	上		
40	SI7611	2659	4F13	26	(26)	31	17.3	壁	上		
40	SI7611	2661	4F16	(35)	30	34	17.2	壁	上		
40	SI7611	2731	4F17	(36)	23	20	17.3	壁	上		
40	SI7611	6006	3F9	32	32	24	17.4	壁	下		
40	SI7611	6301	3F5	37	30	10	17.4	壁	下		
40	SI7611	7164	4F2	45	40	20	17.3	壁	下		
40	SI7611	7346	4F16	20	18	26	17.3	壁	下		
40	SI7611	7380	3G2	22	16	15	17.4	壁	下		
41	SI7612	2616	4G3	(42)	38	73	16.9	壁	上		
41	SI7612	2660	4F16	51	50	21	17.4	壁	上		
41	SI7612	2692	4G2	(58)	(50)	24	17.5	壁	上		
41	SI7612	2698	4G1	(52)	(48)	58	17.1	壁	上		
41	SI7612	2701	4F24	24	(21)	41	17.2	壁	上		
41	SI7612	2702	4F19	41	38	18	17.4	壁	上		
41	SI7612	7293	4F13	27	27	24	17.3	壁	下		
41	SI7612	7294	4F13	29	26	17	17.4	壁	下		
41	SI7612	7354	4F24	30	26	56	17.0	壁	下		
41	SI7612	7356	4F19	32	26	36	17.2	壁	下		
41	SI7612	7360	4G2	30	28	12	17.5	壁	下		
41	SI7612	7361	4G1	42	39	22	17.4	壁	下		
41	SI7613	1744	4G8	(29)	28	51	17.2	壁	上		
41	SI7613	1789	3G10	(38)	23	16	17.5	壁	下		
41	SI7613	2604	3G5	55	52	40	16.9	壁	下	±139	
41	SI7613	2612	4G1	25	(24)	24	17.4	壁	上		
41	SI7613	2613	4G1	(38)	36	31	17.3	壁	上		
41	SI7613	2619	4G8	40	(40)	45	17.2	壁	上		
41	SI7613	2621	4G8	24	22	36	17.3	壁	上		
41	SI7613	2623	4G8	43	38	65	17.0	壁	上		
41	SI7613	7283	4G2	24	20	14	17.5	壁	下		
41	SI7613	7284	4G2	20	18	16	17.4	壁	下		
41	SI7613	7331	3G15	53	40	46	17.1	壁	下		
41	SI7613	7374	3G10	38	28	32	17.3	壁	下		
42	SI7614	6866	5E21	62	45	27	17.2	壁	下		
42	SI7614	6872	5E18	40	38	36	17.0	壁	下		
42	SI7614	7014	4E20	25	25	22	17.0	壁	下		
42	SI7614	7077	5E18	52	45	13	17.2	壁	下		
42	SI7614	7079	5E7	60	50	17	14.3	壁	下		
42	SI7614	7103	4E25	22	22	26	17.2	壁	下		
42	SI7614	7107	4E25	44	40	22	17.2	壁	下		
42	SI7614	7108	4E20	40	32	17	17.3	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
42	SI7614	7123	4E10	50	45	14	17.3	壁	下		
42	SI7614	7243	4E20	44	35	20	17.2	壁	下		
42	SI7614	7255	4E15	35	25	14	17.3	壁	下		
42	SI7614	7264	5E7	64	56	40	17.0	壁	下		
42	SI7614	7580	5E13	36	26	20	17.1	壁	下		
42	SI7615	2936	5E10	41	38	22	17.4	壁	上		
42	SI7615	2947	5E23	35	32	36	17.3	壁	上		
42	SI7615	2948	5E7	65	46	62	16.9	壁	上		
42	SI7615	6675	6E11	27	25	18	17.3	壁	下		
42	SI7615	6871	5E17	36	36	11	17.3	壁	下		
42	SI7615	6996	5F10	92	46	40	17.0	壁	下		
42	SI7615	7069	5F4	70	58	14	17.4	壁	下		
42	SI7615	7095	5F3	45	38	33	16.8	壁	下		
42	SI7615	7098	5E17	56	48	28	17.0	壁	下		
42	SI7615	7213	5E8	45	33	30	17.1	壁	下		
42	SI7615	7222	5F4	40	35	14	17.2	壁	下		
42	SI7615	7228	5F5	50	42	28	17.2	壁	下		
42	SI7615	7406	6E11	35	34	21	17.3	壁	下		
42	SI7615	7500	6E21	32	28	16	17.3	壁	下		
42	SI7615	7572	5F4	28	25	15	17.2	壁	下		
43	SI7616	4321	6F6	52	44	55	17.2	壁	下		
43	SI7616	4324	6F1	34	34	39	17.3	壁	下		
43	SI7616	4334	5E25	45	38	17	17.5	壁	下		
43	SI7616	6795	5E19	27	24	24	17.3	壁	下		
43	SI7616	6818	5F7	41	32	25	17.1	壁	下		
43	SI7616	6819	5F7	40	34	26	17.2	壁	下		
43	SI7616	6826	5F13	58	50	21	17.3	壁	下		
43	SI7616	6867	5F2	(74)	64	25	17.2	壁	下		
43	SI7616	6877	5F2	36	24	18	17.2	壁	下		
43	SI7616	6878	5F7	42	35	20	17.2	壁	下		
43	SI7616	6887	5E22	48	28	20	17.2	壁	下		
43	SI7616	6888	5E22	53	48	22	17.2	壁	下		
43	SI7616	6911	6E21	56	50	31	17.3	壁	下		
43	SI7616	6913	5E25	55	50	38	17.2	壁	下		
43	SI7616	6914	5E25	35	29	7	17.5	壁	下		
43	SI7616	7053	5F13	50	45	35	17.0	壁	下		
43	SI7616	7076	5E17	54	28	14	17.2	壁	下		
43	SI7616	7190	5F15	44	40	46	17.1	壁	下		
43	SI7616	7224	5F14	42	38	19	17.3	壁	下		
43	SI7616	7578	5E18	36	34	8	17.3	壁	下		
43	SI7618	2726	4F10	39	32	20	17.4	壁	上		
43	SI7618	2934	5F14	51	41	12	17.5	壁	上		
43	SI7618	2945	5F17・22	48	43	17	17.5	壁	上		
43	SI7618	6793	5F9	70	58	9	17.2	壁	下		
44	SI7618	6858	5F1	39	37	23	17.2	壁	下		
44	SI7618	6869	5F1	32	26	15	17.3	壁	下		
43	SI7618	7054	5F18	63	50	55	16.9	壁	下		
44	SI7618	7058	5F16	60	44	48	16.8	壁	下	±144	
44	SI7618	7071	5F18	40	35	28	17.2	壁	下		
44	SI7618	7074	5F19	48	44	56	17.0	壁	下		
43	SI7618	7085	5F3	23	20	20	17.2	壁	下		
43	SI7618	7093	5F3	40	34	47	16.8	壁	下		
43	SI7618	7186	5F18	50	42	33	17.2	壁	下		
43	SI7618	7191	5F9	58	39	11	17.3	壁	下		
43	SI7618	7192	5F3	30	26	14	17.1	壁	下		
43	SI7618	7202	5F14	80	56	23	14.3	壁	下		
43	SI7618	7336	4F10	30	28	8	17.5	壁	下		
43	SI7618	7564	5F23	40	34	10	17.3	壁	下		
44	SI7618	7566	5F9	58	50	20	17.2	壁	下	±143	
44	SI7617	2911	5F2	45	28	10	17.6	壁	上		
44	SI7617	2933	5F19	56	38	19	17.3	壁	上		
44	SI7617	2949	5F6・7	42	35	21	17.4	壁	上		
44	SI7617	4333	6F1	37	31	14	17.5	壁	下		
44	SI7617	6701	5F19	56	52	28	17.2	壁	下		
44	SI7617	6702	5F19	40	35	34	17.2	壁	下		
44	SI7617	6822	5E23	41	37	23	17.2	壁	下		
44	SI7617	6852	5F12	60	48	13	17.4	壁	下		
44	SI7617	6881	5F2	35	30	20	17.2	壁	下		
44	SI7617	6882	5F2	34	28	18	17.2	壁	下		
44	SI7617	6901	5F20	45	32	31	17.3	壁	下		
44	SI7617	6906	6F11	42	36	7	17.5	壁	下		
44	SI7617	6912	5E25	43	36	27	17.3	壁	下		
44	SI7617	6968	5F17	43	(34)	38	17.2	壁	下		
44	SI7617	6971	5E23	32	30	31	17.0	壁	下		
44	SI7617	7325	5E24	(56)	50	22	17.1	壁	下		
44	SI7617	7501	6E21	30	29	22	17.4	壁	下		
44	SI7617	7511	6F11	48	45	33	17.2	壁	下		
44	SI7617	7540	6F6	31	20	15	17.4	壁	下		
44	SI7617	7609	6F11	48	42	26	17.3	壁	下		
45	SI7619	6700	5F24	33	30	23	17.3	壁	下		
45	SI7619	6703	5F19	60	56	35	17.2	壁	下		
45	SI7619	6829	5F19	60	50	35	17.2	壁	下		
45	SI7619	6850	5F12	30	28	13	17.4	壁	下		
45	SI7619	6884	5F7	29	(22)	15	17.3	壁	下		
45	SI7619	6894	5F7	37	28	24	17.2	壁	下		
45	SI7619	6895	5F7	33	33	14	17.3	壁	下		
45	SI7619	6967	5F22	43	39	28	17.3	壁	下	±146	
45	SI7619	7201	5F14	42	39	25	17.3	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
45	SI7619	7203	5F9	43	38	35	17.1	壁	下		
45	SI7619	7527	5F8	34	34	15	17.4	壁	下		
45	SI7620	2927	5G4	23	23	33	17.4	壁	上		
45	SI7620	2941	5F9	47	38	18	17.5	壁	上		
45	SI7620	4305	6G1	27	22	16	17.5	壁	下		
45	SI7620	4308	6G2	33	30	43	17.3	壁	下		
45	SI7620	4319	6F17	32	27	35	17.3	壁	下		
45	SI7620	4384	6F22	33	28	40	17.3	壁	下		
45	SI7620	4385	6F22	28	26	20	17.5	壁	下		
45	SI7620	4388	6F12	50	29	45	17.2	壁	下	土148	
45	SI7620	4391	6F6	42	42	32	17.4	壁	下		
45	SI7620	6692	5G4	51	42	20	17.4	壁	下		
45	SI7620	6698	5G3	62	43	33	17.3	壁	下		
45	SI7620	6699	5F23	39	34	31	17.3	壁	下		
45	SI7620	6978	5F13	45	20	41	17.3	壁	下		
45	SI7620	7054	5F18	(40)	32	55	17.2	壁	下		
45	SI7620	7055	5F10	76	(43)	68	16.9	壁	下		
45	SI7620	7541	6F6	35	35	22	17.3	壁	下		
45	SI7620	8601	5F8	35	35	18	17.3	壁	下		
45	SI7620	8602	5F13	35	30	16	17.3	壁	下		
46	SI7621	1745	4G9	(32)	25	16	17.5	壁	上		
46	SI7621	1747	4G4	22	20	20	17.4	壁	上		
46	SI7621	2631	4G14	40	42	32	17.5	壁	上		
46	SI7621	2704	4G9	54	52	14	17.5	壁	上		
46	SI7621	2727	4G4	43	(42)	46	17.2	壁	上		
46	SI7621	6685	5G8	48	46	30	17.3	壁	下		
46	SI7621	6694	5G3	35	32	31	17.3	壁	下		
46	SI7621	6695	5G3	37	23	30	17.3	壁	下		
46	SI7621	6697	5G3	(50)	42	33	17.3	壁	下		
46	SI7621	6830	5F23	84	60	40	17.2	壁	下		
46	SI7621	6966	5F23	40	35	33	17.0	壁	下		
46	SI7621	7274	4F25	20	20	24	17.3	壁	下		
46	SI7621	7315	4F25	74	65	62	16.9	壁	下	土150	
46	SI7621	7562	5G8	20	20	22	17.3	壁	下		
46	SI7622	2910	5G13	124	51	36	17.3	壁	上		SD
46	SI7622	4335	6G6	(44)	44		17.3	壁	下		
46	SI7622	4336	6G6	40	34	19	17.5	壁	下		
46	SI7622	6680	5G10	49	34	42	17.2	壁	下		
46	SI7622	6897	5G9	36	25	21	17.3	壁	下		
46	SI7623	329	6D5	65	50	15	17.5	壁	下		
46	SI7623	366	6D4	46	30	12	17.5	壁	上		
46	SI7623	6023	6C22・6D2	37	36	26	17.0	壁	下		
46	SI7623	6788	6D2	32	23	7	17.2	壁	下		
46	SI7623	6802	6C25	43	24	23	16.9	壁	下		
46	SI7623	6928	6D4	44	30	18	17.1	壁	下		
46	SI7623	6989	6D4	38	30	19	17.1	壁	下		
46	SI7623	7026	6C21	56	40	53	16.8	壁	下		
46	SI7623	7039	6C21	20	(20)	10	17.2	壁	下		
46	SI7623	8603	6D3	52	35	25	17.0	壁	下		
46	SI7623	8604	6C24	40	38	19	17.1	壁	下		
47	SI7624	313	6C23	50	48	12	17.5	壁	上		
47	SI7624	4486	6D13	45	38	30	17.1	壁	下		
47	SI7624	4487	6D12	44	36	26	17.1	壁	下		
47	SI7624	4490	6D8	42	40	23	17.2	壁	下		
47	SI7624	6926	6D4	32	27	15	17.1	壁	下		
47	SI7624	6928	6D4	44	37	18	17.1	壁	下		
47	SI7624	6982	6D7	40	20	30	17.1	壁	下		
47	SI7624	7000	6D1	38	37	12	17.2	壁	下		
47	SI7624	7021	6D1	40	34	10	16.9	壁	下		
47	SI7624	7033	6D1	28	(28)	15	17.2	壁	下		
47	SI7624	7035	6C22	27	21	18	17.3	壁	下		
47	SI7624	7041	6D1	35	32	24	17.1	壁	下		
47	SI7624	7042	6D1	(60)	38	8	17.2	壁	下		
47	SI7624	7043	6D1	32	26	18	17.1	壁	下		
47	SI7624	7044	6D1	44	43	18	17.1	壁	下		
47	SI7624	7449	6C23	27	25	10	17.2	壁	下		
47	SI7624	8459	6D9	29	29	21	17.1	壁	下		
47	SI7625	327	6C25	40	32	7	17.6	壁	上		
47	SI7625	367	6D5	42	38	20	17.4	壁	上		
47	SI7625	3392	6C22	54	35	26	17.0	壁	下		
47	SI7625	6504	6C25	31	24	25	17.1	壁	下		
47	SI7625	6513	6D2	30	24	5	17.1	壁	下		
47	SI7625	6576	6D8	32	31	25	17.1	壁	下		
47	SI7625	6577	6D8	40	38	31	17.0	壁	下		
47	SI7625	6579	6D8	32	27	21	17.1	壁	下		
47	SI7625	6583	6D2・3	(40)	38	63	16.8	壁	下		
47	SI7625	6589	6D5	(36)	34	16	17.2	壁	下		
47	SI7625	6573	6D10	60	26	30	17.2	壁	下		
47	SI7625	6803	6C25	30	28	17	17.0	壁	下		
47	SI7625	369	6C25	53	30	11	17.6	壁	上		
47	SI7625	8458	6D9	(45)	45	32	17.0	壁	下		
47	SI7625	8460	6D8	36	28	17	17.2	壁	下		
47	SI7626	322	7C1	28	22	10	17.6	壁	上		
47	SI7626	324	7C21	26	25	29	17.6	壁	上		
47	SI7626	3509	7C21	38	30	16	17.2	壁	下		
47	SI7626	3520	7D1・6	32	27	10	17.2	壁	下		
47	SI7626	3524	7D6	32	28	10	17.1	壁	下		
47	SI7626	3545	7D2	47	45	34	16.9	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
47	SI7626	3547	7D2	37	26	25	17.0	壁	下		
47	SI7626	4497	6D4	46	40	48	16.8	壁	下		
47	SI7626	6505	6C24	46	37	23	17.1	壁	下		
47	SI7626	6569	6D10	50	(43)	16	17.2	壁	下		
47	SI7626	6607	6C24	44	35	28	17.2	壁	下		
47	SI7626	8605	6C25	42	42	16	17.0	壁	下		
47	SI7626	6927	6D4	32	31	25	17.0	壁	下		
48	SI7627	356	6D15	46	34	15	17.5	壁	上		
48	SI7627	320	6D18	106	100	29	17.4	壁	上		
48	SI7627	358	6D19	30	30	15	17.5	壁	上		
48	SI7627	359	6D24	50	28	8	17.5	壁	上		
48	SI7627	3522	7D6	42	32	18	17.2	壁	下		
48	SI7627	3523	7D6	33	30	16	17.0	壁	下		
48	SI7627	3525	7D6	36	34	10	17.1	壁	下		
48	SI7627	4488	6D18	32	30	22	17.4	壁	下		
48	SI7627	4495	6D5	36	26	23	17.1	壁	下		
48	SI7627	6501	7D6	30	29	30	17.1	壁	下		
48	SI7627	6511	6C24	63	45	19	17.2	壁	下		
48	SI7627	6556	6D12	54	52	8	17.0	壁	下	土152～155	
48	SI7627	6567	6D15	60	45	18	17.2	壁	下		
48	SI7627	6590	6D5	32	23	16	17.2	壁	下		
48	SI7627	6598	6D5	38	31	14	17.2	壁	下		
48	SI7627	6600	6D5	42	31	15	17.2	壁	下		
48	SI7627	6771	6D18	24	24	10	17.3	壁	下		
48	SI7627	6773	6D18	24	24	18	17.2	壁	下		
48	SI7627	6801	6D4	35	30	16	17.1	壁	下		
48	SI7627	6944	6D11	60	57	43	16.9	壁	下		
48	SI7627	7005	6D2	35	35	10	17.1	壁	下		
48	SI7627	7011	6C23	45	38	36	16.9	壁	下		
48	SI7627	7056	6D6	42	38	22	17.1	壁	下		
48	SI7627	7459	7D6	28	20	18	17.1	壁	下		
48	SI7627	7468	6D20	23	20	14	17.1	壁	下		
48	SI7627	7471	6D20	48	28	22	17.0	壁	下		
48	SI7628	4485	6D14	36	30	21	17.2	壁	下		
48	SI7628	4493	6D8	29	25	16	17.2	壁	下		
48	SI7628	4494	6D13	40	33	14	17.2	壁	下		
48	SI7628	6610	6D14	29	26	35	17.0	壁	下		
48	SI7628	6762	6D22	68	46	76	17.0	壁	下		
48	SI7628	6804	6D7	(70)	(60)	64	16.7	壁	下	骨	
48	SI7628	6941	6D11	40	29	8	17.2	壁	下		
48	SI7628	6942	6D11	35	35	58	17.0	壁	下		
48	SI7628	6946	6D16	36	30	17	17.1	壁	下		
48	SI7628	6947	6D16	(60)	(38)	13	17.2	壁	下		
48	SI7628	7067	6E3	44	42	102	16.3	壁	下	土156	
48	SI7628	7472	6D19	36	36	65	16.9	壁	下		
48	SI7628	7484	6D22	32	31	12	17.2	壁	下		
49	SI3907	916	7D5	48	40	10	17.4	壁	上		
49	SI3907	3508	7C22	64	46	27	17.1	壁	下		
49	SI3907	3514	7D3	55	45	16	17.1	壁	下		
49	SI3907	3517	7D2	36	30	18	17.1	壁	下		
49	SI3907	3544	7C21	(50)	42	26	17.1	壁	下		
49	SI3907	3602	8C21	27	22	17	17.1	壁	下		
49	SI3907	3849	8D1	29	26	12	17.1	壁	下	土157	
49	SI7629	3513	7D3	60	56	24	17.1	壁	下	土159・160	
49	SI7629	3516	7C24・7D4	76	58	26	17.1	壁	下		
49	SI7629	3542	7C24・25	65	55	34	17.0	壁	下		
49	SI7629	3543	7C25	58	52	26	17.0	壁	下		
49	SI7629	3548	7C22	40	36	24	17.0	壁	下		
49	SI7629	7457	7C22	32	30	12	16.7	壁	下		
49	SI7629	7621	7C25	33	32	22	16.6	壁	下		
50	SI7630	376	8D3	46	40	35	17.1	壁	上		
49	SI7630	966	8D11	43	34	20	17.3	壁	上		
49	SI7630	969	8D12	82	72	40	16.7	壁	上	石232	
50	SI7630	3592	7D10	32	37	16	17.1	壁	下		
49	SI7630	3603	8C21	37	30	20	17.1	壁	下		
49	SI7630	3604	8C21	34	27	16	17.1	壁	下		
50	SI7630	3606	8C22	35	27	21	17.1	壁	下		
50	SI7630	3625	8C22	85	(55)	34	16.9	壁	下		
49	SI7630	3627	8D8	45	44	24	17.0	壁	下		
49	SI7630	3630	8D8	41	36	20	16.9	壁	下		
49	SI7630	3845	8D11	37	33	14	17.3	壁	下		
50	SI7630	3957	8D13	(42)	(40)	32	16.9	壁	下		
50	SI3908	3605	8C22	38	35	22	17.1	壁	下		
50	SI3908	3619	8C25	35	32	17	17.1	壁	下		
50	SI3908	3629	8D3	44	36	28	16.9	壁	下		
50	SI3908	3994	8D4	34	29	25	16.9	壁	下		
50	SI3908	3995	8D4	34	33	18	17.0	壁	下		
50	SI3908	3997	8D2	37	34	31	16.9	壁	下		
50	SI7631	3526	7D6	30	27	14	17.1	壁	下		
50	SI7631	3527	7D7	30	27	24	17.1	壁	下		
50	SI7631	3528	7D7	42	36	15	17.1	壁	下		
50	SI7631	3529	7D8	40	30	17	17.1	壁	下		
50	SI7631	3530	7D8	34	28	17	17.1	壁	下		
50	SI7631	3540	7D22	49	36	30	17.1	壁	下		
50	SI7631	3551	6D20	50	44	20	17.0	壁	下	土162	
50	SI7631	3558	7D18	22	18	16	17.2	壁	下		
50	SI7631	3559	7D18	28	25	16	17.2	壁	下		
50	SI7631	3570	7D13	40	26	14	17.3	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
50	SI7631	3571	7D13	28	23	17	17.2	壁	下		
50	SI7631	3920	7D13	25	23	14	17.1	壁	下		
50	SI7631	6563	6D15	(88)	(52)	26	17.1	壁	下		
50	SI7631	6564	6D15	(64)	34	22	17.3	壁	下		
50	SI7631	8307	7D18	63	57	23	17.0	壁	下		
51	SI8353	3538	7D17	52	36	30	16.9	壁	下		
51	SI8353	3550	7D22	52	46	15	17.1	壁	下		
51	SI8353	3565	7D18・19	463	30	22	17.2	壁	下	±164・165	SD
51	SI8353	3572	7D19	31	30	38	17.0	壁	下		
51	SI8353	3574	7D19	30	26	41	16.9	壁	下		
51	SI8353	6523	7E3	36	32	30	17.1	壁	下		
51	SI8353	6524	7E3	34	32	34	17.0	壁	下		
51	SI8353	6620	7E3	38	32	41	16.9	壁	下		
51	SI8353	8457	7E2	48	37	21	16.8	壁	下		
51	SI7800	2279	7E8・9	80	60	25	17.6	壁	上	±166	
51	SI7800	2280	7E9・14	50	44	14	17.5	壁	上		
51	SI7800	2284	7E9・10	40	35	32	17.4	壁	上		
51	SI7800	4431	7E10	77	36	41	17.1	壁	下		
51	SI7800	4462	7E10	32	25	45	17.0	壁	下		
51	SI7800	4463	7E10	35	25	42	17.0	壁	下		
51	SI7800	4465	7E5	(36)	25	37	17.1	壁	下		
51	SI7800	6529	7D25	26	23	14	17.2	壁	下		
51	SI7800	6531	7D24	32	28	12	17.3	壁	下		
51	SI7800	6625	7E9・14	40	36	27	17.2	壁	下		
51	SI7800	6627	7E5	60	48	38	17.0	壁	下		
51	SI7800	6629	7E5	31	28	12	17.3	壁	下		
51	SI7800	6750	7E3 ～ 7E25	430	53	26	17.0	壁	下		SD
51	SI8498	3660	9C21	142	36	20	17.1	壁	下		SD
51	SI8498	3667	9D3・4	390	52	16	17.1	壁	下		SD
51	SI8498	3668	9D3	55	40	48	16.8	壁	下	±163	
51	SI3909	387	9C25	35	30	16	17.4	壁	上	±168	
51	SI3909	903	9D7	45	40	22	17.3	壁	上		
51	SI3909	902	9D8	40	35	13	17.4	壁	上		
51	SI3909	3650	9D1	44	42	42	16.9	壁	下		
51	SI3909	3651	9D1・2	82	64	16	17.1	壁	下		
51	SI3909	3656	9C21	43	35	22	17.0	壁	下		
51	SI3909	3673	9D5	55	50	50	16.9	壁	下		
51	SI3909	3698	9D5	36	30	24	17.0	壁	下		
51	SI3909	3699	9D5	55	46	36	16.9	壁	下	±167	
51	SI3909	3989	9C25	31	24	18	17.0	壁	下		
52	SI7801	371	9C24	55	45	15	17.4	壁	上	±169	
52	SI7801	386	9C25	40	35	28	17.3	壁	上		
52	SI7801	390	9D3	55	48	21	17.3	壁	上		
52	SI7801	957	10D1	31	30	38	17.1	壁	上		
52	SI7801	3653	9D7・8	54	40	23	17.0	壁	下	±171	
52	SI7801	3654	9D3	42	39	20	17.1	壁	下		
52	SI7801	3666	9C24	44	35	22	17.1	壁	下		
52	SI7801	3669	9C23	32	30	25	17.1	壁	下		
52	SI7801	3675	9C25	66	55	40	16.8	壁	下		
52	SI7801	3676	9C25	(40)	(32)	24	17.1	壁	下		
52	SI7801	3685	9D13	50	42	54	16.5	壁	下		
52	SI7801	3686	9D14	52	47	34	16.9	壁	下		
52	SI7801	3690	9D15	64	(53)	38	16.9	壁	下		
52	SI7801	3692	9D15	60	48	33	17.0	壁	下		
52	SI7801	3693	10D6	64	60	32	17.0	壁	下	±170	
52	SI7801	3694	10D6	54	50	30	17.0	壁	下		
52	SI7801	3701	9C25	36	32	14	17.1	壁	下		
52	SI7801	3712	10D1	40	40	30	17.0	壁	下		
52	SI7801	3750	9D13	63	53	27	17.0	壁	下		
52	SI7801	3985	10D1	40	35	24	17.0	壁	下		
52	SI8354	947	10D6	75	55	22	17.3	壁	上		
52	SI8354	384	10D6・7	60	40	24	17.3	壁	上		
52	SI8354	3663	9D4	82	74	27	17.0	壁	下	±172	
52	SI8354	3671	9C25	56	44	42	16.9	壁	下		
52	SI8354	3684	9D14	37	33	16	17.1	壁	下		
52	SI8354	3689	9D20	62	46	20	17.0	壁	下		
52	SI8354	3700	9D4・9	30	26	20	17.1	壁	下		
52	SI8354	3706	10C21	52	48	40	16.9	壁	下		
52	SI8354	3714	10C22	44	37	36	16.9	壁	下		
52	SI8354	3715	10D2	37	34	15	17.0	壁	下		
52	SI8354	3939	10D11	31	29	15	17.0	壁	下		
52	SI8354	3942	10D11	25	23	14	17.1	壁	下		
52	SI8354	3971	9D4	36	35	16	17.1	壁	下		
52	SI8354	3972	9D8	44	42	18	17.1	壁	下		
52	SI8354	3973	9D8	38	35	20	17.1	壁	下		
52	SI8354	3974	9D8	38	36	22	17.1	壁	下		
52	SI8354	3988	9C25	30	27	20	17.0	壁	下		
53	SI3910	977	9D13	34	26	27	17.2	壁	上		
53	SI3910	3635	9D21	44	38	23	17.0	壁	下		
53	SI3910	3636	8D20	54	50	36	16.9	壁	下		
53	SI3910	3647	9D11	42	36	36	16.9	壁	下		
53	SI3910	3680	9D12	78	60	51	16.8	壁	下		
53	SI3910	3682	9D18	55	52	68	16.6	壁	下		
53	SI3910	3786	9E1	57	56	20	17.0	壁	下		
53	SI3910	3789	9E1・2	57	(45)	46	16.8	壁	下		
53	SI3910	3917	9D23	55	50	50	16.8	壁	下		
53	SI3910	3943	9E3	(58)	(50)	20	17.1	壁	下		
53	SI3910	3945	9E3	52	35	16	17.0	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
53	SI3911	3611	8D25	40	40	32	16.9	壁	下		
53	SI3911	3773	8E3	40	40	36	16.9	壁	下		
53	SI3911	3774	8D23	42	28	22	17.0	壁	下		
53	SI3911	3777	8E8・9	62	54	38	16.9	壁	下		
53	SI3911	3779	8E9	30	28	16	17.0	壁	下		
53	SI3911	3785	9E1	(56)	48	45	16.9	壁	下		
53	SI3911	3864	8E10	42	40	60	16.8	壁	下		
53	SI3911	3914	8D25	35	22	28	16.9	壁	下		
54	SI7802	2255	9E6	66	44	12	17.4	壁	上		
54	SI7802	3613	8D19	32	31	14	17.1	壁	下		
54	SI7802	3768	8D23	40	35	20	17.1	壁	下		
54	SI7802	3770	8E3・8	47	45	40	16.9	壁	下		
54	SI7802	3788	9D21	35	(32)	28	17.0	壁	下		
54	SI7802	3797	8E8	49	40	25	17.1	壁	下		
54	SI7802	3992	9E1・2	36	35	16	17.1	壁	下		
54	SI7803	1587	8E2・7	48	44	18	17.0	壁	上		
54	SI7803	2248	8E9	52	36	10	17.4	壁	上		
54	SI7803	2249	8E10	26	22	20	17.3	壁	上		
54	SI7803	3576	8D17	35	32	20	17.1	壁	下		
54	SI7803	3610	8D18	52	34	18	17.1	壁	下		
54	SI7803	3614	8D19	28	26	40	16.9	壁	下		
54	SI7803	3617	8D25	42	38	39	16.7	壁	下		
54	SI7803	3634	8D18	34	34	26	17.0	壁	下		
54	SI7803	3760	8D21	38	27	18	17.1	壁	下		
54	SI7803	3761	8E2	22	21	16	17.1	壁	下		
54	SI7803	3782	8E5	32	28	16	17.1	壁	下		
54	SI7803	3795	8E7	32	29	22	17.1	壁	下		
54	SI7803	3803	8E13	37	28	17	17.2	壁	下		
54	SI7803	3999	8D17	32	30	16	17.1	壁	下		
55	SI7804	908	8D17	45	40	26	17.3	壁	上		
55	SI7804	912	8D3	38	35	33	17.1	壁	上	±175	
55	SI7804	914	8D11	84	60	16	17.2	壁	上	±173	
55	SI7804	967	8D11	74	35	16	17.3	壁	上		
55	SI7804	3577	8D17	40	40	20	17.1	壁	下		
55	SI7804	3578	8D17	70	36	24	17.0	壁	下		
55	SI7804	3599	8D1	34	30	24	17.0	壁	下	±174	
55	SI7804	3600	8D1・2	45	40	20	17.1	壁	下		
55	SI7804	3609	8D18	41	40	15	17.1	壁	下		
55	SI7804	3616	8D14	33	28	17	17.1	壁	下		
55	SI7804	3846	8D6	47	40	10	17.1	壁	下		
55	SI7804	3847	8D6	34	30	20	17.0	壁	下		
55	SI7804	3998	8D2	36	33	22	17.0	壁	下		
55	SI7632	6669	6E7	42	36	36	17.2	壁	下		
55	SI7632	6670	6E7	31	30	20	17.3	壁	下		
55	SI7632	6672	6E12	34	32	22	17.3	壁	下		
55	SI7632	6673	6E12	28	26	15	17.4	壁	下		
55	SI7632	6759	6E2・7	(36)	28	17	17.4	壁	下		
55	SI7632	6761	6E2	44	(38)	19	17.2	壁	下		
55	SI7632	6769	6E7	37	30	22	17.3	壁	下		
55	SI7632	6775	6E2	26	(26)	14	17.4	壁	下		
55	SI7632	6808	5E14	40	33	28	17.2	壁	下		
55	SI7632	6809	5E15	(26)	(25)	12	17.4	壁	下		
55	SI7632	6918	5E20	29	23	20	17.4	壁	下		
55	SI7632	7087	6E1	(54)	44	23	17.2	壁	下		
55	SI7632	7208	5E9	33	30	31	17.2	壁	下		
55	SI7632	7478	5E5	31	23	20	17.2	壁	下		
55	SI7632	7585	5E4	30	26	26	17.2	壁	下		
55	SI7805	2935	5E10	32	32	40	17.2	壁	上		
55	SI7805	4350	6E16	54	38	48	17.1	壁	下		
55	SI7805	4420	6E7	34	31	15	17.4	壁	下		
55	SI7805	6766	6E7	28	28	24	17.3	壁	下		
55	SI7805	6767	6E7	44	30	23	17.3	壁	下		
55	SI7805	6776	6E2	56	40	69	16.8	壁	下		
55	SI7805	6811	5E15	(40)	(30)	46	17.0	壁	下		
55	SI7805	6917	5E20	41	24	30	17.3	壁	下		
55	SI7805	6964	6E1	38	34	18	17.2	壁	下		
55	SI7805	7088	6E1	44	(41)	51	16.9	壁	下	±176	
55	SI7805	7210	5E10	29	26	24	17.3	壁	下		
55	SI7805	7479	5E5	30	30	21	17.2	壁	下		
55	SI7805	7492	6E12	35	24	18	17.3	壁	下		
55	SI7805	7607	6E12	30	30	72	16.7	壁	下		
56	SI7806	4018	6E25	96	70	78	16.7	壁	下	±177	
56	SI7806	4396	6E15	50	39	56	16.7	壁	下		
56	SI7806	6707	6E12	26	25	16	17.4	壁	下		
56	SI7806	6708	6E23	42	23	18	17.4	壁	下		
56	SI7806	6716	6E13	52	46	39	17.0	壁	下		
56	SI7806	6718	6E12	31	27	19	17.4	壁	下		
56	SI7806	6720	6E17	31	30	20	17.4	壁	下		
56	SI7806	7553	6E17	53	49	40	17.0	壁	下		
56	SI7806	7407	6E13	45	43	42	17.0	壁	下		
56	SI7807	4317	6F16	30	27	19	17.5	壁	下		
56	SI7807	4318	6F17	41	38	26	17.4	壁	下		
56	SI7807	4325	6F1	33	27	42	17.3	壁	下		
56	SI7807	4326	6F1・2	44	36	29	17.4	壁	下		
56	SI7807	4393	6F6	54	42	30	17.4	壁	下		
56	SI7807	6643	6F18	26	25	21	17.3	壁	下		
56	SI7807	6655	6F17	54	49	44	17.2	壁	下		
56	SI7807	6711	6F4	22	20	17	17.3	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
56	SI7807	6712	6F4	31	20	20	17.2	壁	下		
56	SI7807	6727	6F6	33	22	16	17.4	壁	下		
56	SI7807	6740	6F11	(56)	54	50	17.1	壁	下	土 178	
56	SI7807	6780	6F11	(42)	32	32	17.3	壁	下		
56	SI7807	6781	6F12	54	(36)	24	17.4	壁	下		
56	SI7807	6902	6F14	(49)	34	30	17.3	壁	下		
56	SI7807	7509	6F6	(60)	44	44	17.4	壁	下		
56	SI7807	7516	6F14	31	27	24	17.4	壁	下		
56	SI7807	7518	6F18	(30)	22	18	17.4	壁	下		
56	SI7808	4295	6G7	32	26	38	17.3	壁	下		
56	SI7808	4306	6G1	36	34	9	17.6	壁	下		
56	SI7808	4307	6F21	41	34	30	17.4	壁	下		
56	SI7808	4329	6F21	49	38	49	17.2	壁	下		
56	SI7808	4337	6F18	26	20	33	17.4	壁	下		
56	SI7808	4378	6G7	31	27	12	17.5	壁	下		
56	SI7808	4380	6F21	43	42	32	17.3	壁	下		
56	SI7808	6543	6F21	62	54	32	17.3	壁	下		
56	SI7808	6642	6F17	33	29	14	17.6	壁	下		
56	SI7808	6661	6G4	30	25	28	17.2	壁	下		
56	SI7808	6662	6G3	26	25	25	17.2	壁	下		
56	SI7808	6664	6G7	23	11	26	17.3	壁	下		
57	SI7809	4284	6G4	42	35	31	17.2	壁	下		
57	SI7809	4286	6G4	32	30	23	17.3	壁	下		
57	SI7809	4296	6G7	22	18	18	17.5	壁	下		
57	SI7809	4299	6G6	38	31	29	17.4	壁	下		
57	SI7809	4372	6G10	47	39	38	17.2	壁	下		
57	SI7809	6659	6G3	42	42	41	17.2	壁	下		
57	SI7809	6660	6G3	46	43	42	17.2	壁	下		
57	SI7809	6738	6G11	66	60	74	16.8	壁	下		
57	SI7810	1577	8E21	32	29	28	17.5	壁	上		
57	SI7810	2421	8E12	24	24	10	17.5	壁	上		
57	SI7810	3763	8E1・2	32	30	12	17.2	壁	下		
57	SI7810	3764	8E7	28	26	30	17.0	壁	下		
57	SI7810	3801	8E12	73	68	40	17.0	壁	下		
57	SI7810	3809	8E16	31	26	20	17.2	壁	下		
57	SI7810	3810	8E17	30	27	20	17.2	壁	下		
57	SI7810	4473	7E25	30	26	19	17.3	壁	下		
57	SI7810	6530	7E4	34	(28)	9	17.2	壁	下	土 179	
57	SI7810	6555	7E3	44	43	31	17.2	壁	下		
57	SI7810	6616	7E4	36	31	25	17.1	壁	下		
57	SI7810	6628	7E5	30	30	15	17.2	壁	下		
57	SI7810	6750	7E3 ～ 7E25	546	42	26	17.2	壁	下		SD
57	SI7810	8311	8E1	26	24	16	17.2	壁	下		
58	SI7811	1540	7E22・23	24	22	17	17.6	壁	上		
58	SI7811	2283	7E14	32	28	12	17.6	壁	上		
58	SI7811	2395	7E25	53	35	15	17.5	壁	上		
58	SI7811	4066	7E17	28	27	21	17.3	壁	下		
58	SI7811	4076	7E17	32	30	21	17.4	壁	下		
58	SI7811	4226	7E25	30	30	29	17.2	壁	下		
58	SI7811	4230	7E15	69	50	16	17.3	壁	下		
58	SI7811	4248	7E24	25	23	23	17.3	壁	下		
58	SI7811	4452	7E20	28	22	24	17.4	壁	下		
58	SI7811	4455	7E12	34	34	34	17.1	壁	下		
58	SI7811	4471	7E20	(44)	35	40	17.1	壁	下		
58	SI7811	4477	7F4	57	50	48	17.0	壁	下		
58	SI7811	6630	7E13	35	30	16	17.2	壁	下		
58	SI7812	1539	7E23	40	34	15	17.6	壁	上		
58	SI7812	4048	7E21	45	40	24	17.2	壁	下		
58	SI7812	4077	7E22	35	28	19	17.3	壁	下		
58	SI7812	4079	7E22	32	29	18	17.3	壁	下		
58	SI7812	4089	7F8	30	27	19	17.4	壁	下		
58	SI7812	4243	7F7	19	18	26	17.3	壁	下		
58	SI7812	4406	7F3	32	30	22	17.3	壁	下		
58	SI7812	4409	7E23	40	35	28	17.2	壁	下		
58	SI7812	6557	7E8・13	(64)	32	22	17.3	壁	下		
58	SI7812	6558	7F1	(25)	31	27	17.3	壁	下		
58	SI7812	6559	7F1	(18)	25	28	17.3	壁	下		
58	SI7812	6560	7F1	(22)	27	26	17.3	壁	下	土 180	
58	SI7812	6561	7F1	(28)	26	28	17.3	壁	下	土 182	
58	SI7812	7403	7E21	20	19	23	17.3	壁	下		
58	SI7812	7411	7F1	(22)	15	30	17.3	壁	下		
58	SI7812	7412	7F1	(24)	22	30	17.3	壁	下		
58	SI7812	7413	7F1	(18)	22	30	17.3	壁	下		
58	SI7812	7414	7F1	76	22	29	17.3	壁	下	土 181	
58	SI7812	7416	7F7	20	19	28	17.3	壁	下		
58	SI7812	7531	7F3	42	32	14	17.4	壁	下		
58	SI7812	7534	7F8	45	36	12	17.4	壁	下		
58	SI7812	7608	7F1	35	(29)	34	17.3	壁	下		
58	SI7813	1528	7F2	16	14	18	17.3	壁	下		
58	SI7813	1537	7F7	28	28	14	17.7	壁	上		
58	SI7813	1541	7E22	40	38	20	17.4	壁	上		
58	SI7813	1589	7F2	32	26	22	17.6	壁	上		
58	SI7813	4073	7E23	30	25	25	17.3	壁	下		
58	SI7813	4080	7E22	27	25	28	17.3	壁	下		
58	SI7813	4090	7F7	30	26	27	17.3	壁	下		
58	SI7813	4091	7F7	23	20	22	17.4	壁	下		
58	SI7813	4170	7F8	25	18	18	17.3	壁	下		
58	SI7813	4173	7F9	18	18	20	17.3	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
58	SI7813	4181	7E22	(24)	18	20	17.4	壁	下	土 183	
58	SI7813	4223	7F5	33	29	30	17.2	壁	下		
58	SI7813	4227	7E24	50	42	28	17.2	壁	下		
58	SI7813	4234	7E25	(58)	28	24	17.3	壁	下		
58	SI7813	4251	7E25	(43)	(38)	40	17.1	壁	下		
58	SI7813	4255	7F2・7	31	25	34	17.2	壁	下		
58	SI7813	6533	7E18	39	38	34	17.2	壁	下		
58	SI7813	7529	7F7	34	29	24	17.3	壁	下		
58	SI7813	7535	7F2	22	20	12	17.4	壁	下		
58	SI7813	7545	7F10	22	22	16	17.3	壁	下		
59	SI7814	1573	7E20	22	20	18	17.5	壁	上		
59	SI7814	3808	8E21	28	27	28	17.2	壁	下		
59	SI7814	3832	8F1	43	37	15	17.3	壁	下		
59	SI7814	3833	8F1	34	28	16	17.3	壁	下		
59	SI7814	3878	8F6	35	33	20	17.2	壁	下		
59	SI7814	3906	7F10	58	47	29	17.2	壁	下		
59	SI7814	4085	7F3	26	19	19	17.4	壁	下		
59	SI7814	4086	7F3	36	24	32	17.2	壁	下		
59	SI7814	4171	7F8	26	18	24	17.3	壁	下		
59	SI7814	4174	7F9	26	22	24	17.3	壁	下		
59	SI7814	4403	7F8	30	(27)	17	17.4	壁	下		
59	SI7814	4404	7F8	36	31	17	17.4	壁	下		
59	SI7814	4411	7E23	30	26	35	17.2	壁	下		
59	SI7814	6537	7E23	38	29	29	17.2	壁	下		
59	SI7815	1509	7F12	36	34	16	17.6	壁	上		
59	SI7815	1511	7F11	30	20	16	17.6	壁	上		
59	SI7815	2266	7F14	51	46	10	17.5	壁	上		
59	SI7815	2391	7F11	30	28	26	17.5	壁	上		
59	SI7815	4081	7F2	28	24	21	17.4	壁	下		
59	SI7815	4083	7F2	23	22	22	17.4	壁	下		
59	SI7815	4096	7F6	(54)	(41)	22	17.4	壁	下		
59	SI7815	4100	7F11	22	20	18	17.4	壁	下		
59	SI7815	4110	7F13	43	37	23	17.3	壁	下		
59	SI7815	4114	7F13	30	30	24	17.3	壁	下		
59	SI7815	4242	7F12	50	49	36	17.2	壁	下		
59	SI7815	4270	7F12	44	40	44	17.1	壁	下		
59	SI7815	4407	7E23	32	31	32	17.2	壁	下		
59	SI7815	4432	7F9	37	35	42	17.1	壁	下		
59	SI7815	4437	7F4	44	42	22	17.2	壁	下		
59	SI7815	4440	7F9	44	40	21	17.3	壁	下		
59	SI7815	4475	7F13	(38)	(28)	21	17.3	壁	下		
59	SI7815	7418	7F6	54	47	23	17.4	壁	下		
59	SI7816	2261	8E21	28	22	14	17.5	壁	上		
59	SI7816	2419	8E11	30	20	9	17.5	壁	上	土 184	
59	SI7816	3900	8F6	154	48	17	17.3	壁	下		SD
59	SI7816	3904	8F1・2	100	72	56	16.9	壁	下		
59	SI7816	3905	8F2・7	80	29	15	17.3	壁	下		SD
59	SI7816	4224	7F4・5	22	21	20	17.3	壁	下		
59	SI7816	4225	7F4	39	39	48	17.1	壁	下		
59	SI7816	4247	7F10	30	30	19	17.3	壁	下		
59	SI7816	4249	7F4	37	30	14	17.4	壁	下		
59	SI7816	4250	7E25	(29)	26	44	17.1	壁	下		
59	SI7816	4446	7F5	31	22	20	17.3	壁	下		
59	SI7816	7543	7F4・5	53	39	22	17.2	壁	下		
59	SI7816	7547	7F10	30	27	18	17.2	壁	下		
59	SI7816	7548	7F10	24	22	12	17.3	壁	下		
59	SI7816	7549	7F10	32	18	12	17.3	壁	下		
59	SI7816	7550	7F10	38	28	14	17.3	壁	下		
59	SI7817	1561	8E16	58	49	14	17.5	壁	上		
59	SI7817	1564	8E17	49	36	13	17.2	壁	上		
59	SI7817	1565	8E22	43	36	15	17.5	壁	上		
59	SI7817	1575	7E20	46	42	8	17.6	壁	上		
59	SI7817	1594	7E15	40	37	13	17.5	壁	上		
59	SI7817	1663	8E18	30	30	15	17.5	壁	上		
59	SI7817	3804	8E11	30	28	34	17.1	壁	下		
59	SI7817	3805	8E11	24	23	14	17.3	壁	下		
59	SI7817	3811	8E12	34	32	18	17.2	壁	下		
59	SI7817	3813	8E17	29	26	18	17.2	壁	下		
59	SI7817	3850	7E25	(50+α)	41	30	17.2	壁	下		
59	SI7817	3851	8E21	(70)	44	25	17.2	壁	下		
59	SI7817	3852	8E21	(65)	(36)	20	17.2	壁	下		
59	SI7817	4471	7E20	(43)	39	40	17.1	壁	下		
59	SI7817	6750	7E3 ～ 7E25	112	33	30	17.2		下	土 185 ～ 188	SD
60	SI3912	1574	8E16	28	25	7	17.6	壁	上		
60	SI3912	1578	8E16	44	30	12	17.5	壁	上		
60	SI3912	2214	8F17	40	31	10	17.5	壁	上		
61	SI3912	2216	8F11	30	24	22	17.4	壁	上		
60	SI3912	2267	8F14	50	44	14	17.5	壁	上		
60	SI3912	2288	8F18	42	36	44	17.5	壁	上		
61	SI3912	3800	8E12	38	35	34	17.0	壁	下		
60	SI3912	3802	8E13	27	23	16	17.2	壁	下		
61	SI3912	3806	8E16	28	24	33	17.1	壁	下		
61	SI3912	3807	8E16	26	25	38	17.1	壁	下		
60	SI3912	3826	8E20	35	26	20	17.2	壁	下		
60	SI3912	3829	8F1	38	32	18	17.2	壁	下		
60	SI3912	3867	8F5	40	30	23	16.9	壁	下		
60	SI3912	3901	8F11・12	104	76	24	17.3	壁	下		
60	SI3912	3963	8E19	30	26	16	17.2	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
61	SI3912	3967	8F17	25	22	26	17.2	壁	下		
60	SI3912	7961	8F13・18	46	44	66	16.7	壁	下		
60	SI3912	3818	8E22	64	41	30	17.2	主	下		
61	SI3912	3819	8E22	68	63	36	17.1	主	下		
60	SI3912	3821	8E18・23	58	50	40	17.1	主	下		
60	SI3912	3822	8E19・24	101	50	36	17.2	主	下		
60	SI3912	3823	8E24	60	42	30	17.2	主	下		
60	SI3912	3837	8F1・2	145	74	60	16.9	主	下		
60	SI3912	3854	8E24	70	58	50	16.9	主	下	土1039, 石158	
61	SI3912	3860	8F4	64	50	58	17.0	主	下		
61	SI3912	3870	8F9	90	80	64	16.8	主	下		
61	SI3912	3876	8F8・13	108	84	56	16.9	主	下	土192	
61	SI3912	3895	8F7・12	95	70	45	17.0	主	下	土193	
61	SI3912	3897	8F7	90	66	45	17.0	主	下	土191	
61	SI3913	1562	8E18	54	39	13	17.5	壁	上		
61	SI3913	1566	8E24	48	37	10	17.5	壁	上		
61	SI3913	2215	8F12・13	94	54	18	17.5	壁	上		
61	SI3913	2231	8F9・10	31	20	12	17.5	壁	上		
61	SI3913	2235	8E24	76	62	12	17.5	壁	上		
61	SI3913	2330	8F11	34	28	13	17.5	壁	上		
61	SI3913	2417	8E21	34	34	14	17.5	壁	上		
61	SI3913	3815	8E17	24	22	24	17.2	壁	下		
61	SI3913	3816	8E17	26	24	18	17.3	壁	下		
61	SI3913	3817	8E21	25	23	16	17.3	壁	下		
61	SI3913	3820	8E17	65	43	25	17.2	壁	下		
61	SI3913	3828	8E21	(32)		25	17.2	壁	下		
61	SI3913	3830	8F1	50	37	20	17.2	壁	下		
61	SI3913	3869	8F5	46	40	14	17.2	壁	下		
61	SI3913	7962	8F13	34	31	20	17.1	壁	下		
61	SI3913	7969	8F14	32	30	37	16.9	壁	下		
62	SI3913	3836	8F1・2	77	50+α	58	16.9	主	下		
62	SI3913	3838	8E22・23	110	88	50	16.9	主	下	石87	
62	SI3913	3859	8E23・8F3	(105)		74	16.8	主	下	土198	
62	SI3913	3872	8F3・4	73	52	30	17.1	主	下		
62	SI3913	3874	8F4・9	80	75	50	16.9	主	下	土194・195	
61	SI3913	3875	8F8・13	80	70+α	40	17.0	主	下		
61	SI3913	3896	8F7・12	108	62	44	17.0	主	下		
62	SI3913	3903	8F6・7	106	75	60	16.8	主	下	土196・197	
62	SI8361	1585	8E21	49	40	28	17.4	壁	上		
62	SI8361	2217	8F7・8	50	46	14	17.5	壁	上		
62	SI8361	3831	8F1	38	30	20	17.3	壁	下		
62	SI8361	3834	8F1	46	34	20	17.3	壁	下		
62	SI8361	3839	8E23	60	50+α	70	16.7	壁	下		
62	SI8361	3840	8F3	(55)		42	25	17.2	壁	下	
62	SI8361	3871	8F8	62	(50)	50	16.9	壁	下	土199	
62	SI8361	3877	8F1・6	31	30	30	17.2	壁	下		
62	SI8361	3879	8F6	37	35	24	17.2	壁	下		
62	SI8361	3898	8F6・11	76	48	34	17.2	壁	下		
62	SI8361	3966	8E22	41	36	42	17.0	壁	下		
63	SI7818	1507	7F22	36	30	21	17.5	壁	上		
63	SI7818	1516	7F17	31	30	9	17.5	壁	上		
63	SI7818	2264	7F9・14	46	42	16	17.5	壁	上		
63	SI7818	2315	7G10	40	34	14	17.6	壁	上		
63	SI7818	2346	7G7	42	40	13	17.8	壁	上		
63	SI7818	3893	8G1・6	60	44	22	17.3	壁	下		
63	SI7818	3899	8F16～8G1	510	50	27	17.3	壁	下		SD
63	SI7818	3900	8F6・11	330	50	17	17.3	壁	下	土200	SD
63	SI7818	4104	7F12	38	36	30	17.3	壁	下	土201	
63	SI7818	4105	7F12	30	26	22	17.3	壁	下		
63	SI7818	4113	7F8	34	32	20	17.3	壁	下		
63	SI7818	4134	7G2	41	38	38	17.2	壁	下		
63	SI7818	4135	7G7	42	35	28	17.3	壁	下		
63	SI7818	4138	7G7	34	32	30	17.3	壁	下		
63	SI7818	4195	7G8	24	24	21	17.4	壁	下		
63	SI7818	4237	7F22	43	32	31	17.3	壁	下		
63	SI7818	4238	7G2	38	(26)	38	17.2	壁	下		
63	SI7818	4239	7G2	40	(36)	36	17.2	壁	下		
63	SI7818	4253	7G14	30	28	25	17.4	壁	下		
63	SI7818	4359	7G2	43	32	43	17.1	壁	下		
63	SI7818	7524	7F17	30	29	16	17.3	壁	下		
63	SI7818	7528	7F12	34	32	22	17.3	壁	下		
63	SI7818	8024	8G6	39	34	40	17.4	壁	下		
63	SI7818	8081	7G10	52	46	43	17.2	壁	下		
63	SI7818	8607	7F15	(38)	(32)	26	17.2	壁	下		
63	SI7818	1517	7F23	34	26	22	17.6	主	上		
63	SI7818	1525	7F18	50	38	60	17.1	主	上		
63	SI7818	4116	7F14・19	41	41	14	17.4	主	下		
63	SI7818	4177	7F20	48	34	16	17.4	主	下		
63	SI7818	4188	7G3	39	30	48	17.2	主	下		
63	SI7818	4218	7F20	30	28	24	17.3	主	下		
63	SI7818	8069	7G5	42	40	29	17.2	主	下		
63	SI7818	4325	7G4	45	32	42	17.3	主	下		
64	SI7819	1510	7F11	20	18	23	17.5	壁	上		
64	SI7819	1514	7F12	32	26	22	17.6	壁	上		
64	SI7819	1527	7F18	22	22	25	17.5	壁	上		
64	SI7819	4112	7F13	50	37	24	17.3	壁	下		
64	SI7819	4115	7F13	37	36	22	17.3	壁	下		
64	SI7819	4118	7F21	24	18	15	17.4	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
64	SI7819	4125	7F22	33	28	17	17.4	壁	下		
64	SI7819	4129	7F23	32	31	30	17.3	壁	下		
64	SI7819	4130	7F23	(37)	27	30	17.3	壁	下		
64	SI7819	4183	7F22	(27)	(27)	38	17.2	壁	下		
64	SI7819	4186	7F23	(32)	(30)	16	17.4	壁	下		
64	SI7819	4258	7F23	18	(18)	19	17.2	壁	下		
64	SI7819	4264	7F23	40	30	37	17.2	壁	下		
64	SI7819	4274	7F16	22	(18)	25	17.3	壁	下		
64	SI7819	4275	7F16	24	(19)	21	17.3	壁	下		
64	SI7819	4276	7F16	12	(15)	24	17.3	壁	下		
64	SI7819	4277	7F16	15	(15)	22	17.3	壁	下		
64	SI7819	4278	7F16	19	(17)	25	17.3	壁	下		
64	SI7819	4279	7F16	24	(21)	26	17.3	壁	下		
64	SI7819	4280	7F11	26	(25)	30	17.3	壁	下		
64	SI7819	4370	7F16	33	(28)	47	17.1	壁	下		
64	SI7820	2348	7G2	40	30	22	17.5	壁	上		
64	SI7820	4051	6F20	51	51	70	16.6	壁	下	土202・203	
64	SI7820	4120	7F22	(36)	36	29	17.3	壁	下		
64	SI7820	4146	7G6	35	27	14	17.5	壁	下		
64	SI7820	4160	6G10	20	20	24	17.4	壁	下		
64	SI7820	4235	7F22	(22)	18	31	17.3	壁	下		
64	SI7820	4236	7F22	(22)	22	33	17.3	壁	下		
64	SI7820	4285	6G4	22	22	21	17.3	壁	下		
64	SI7820	4287	6F24	30	30	38	16.9	壁	下		
64	SI7820	4364	7F22	(20)	20	24	17.3	壁	下		
64	SI7820	4365	7F22	(24)	23	28	17.3	壁	下		
64	SI7820	4366	7F22	(30)	23	26	17.3	壁	下		
64	SI7820	4367	7F21	(31)	30	24	17.3	壁	下		
64	SI7820	4368	7G2	34	30	23	17.3	壁	下		
64	SI7820	4369	7F16	(47)	(24)	31	17.2	壁	下		
64	SI7820	7569	7G6	20	17	27	17.3	壁	下		
64	SI7820	7589	7G6	20	16	18	17.4	壁	下		
64	SI7821	2353	7G1	40	36	10	17.9	壁	上		
64	SI7821	2368	7G8	34	30	13	17.7	壁	上		
64	SI7821	4124	7F22・7G2	40	32	14	17.5	壁	下		
64	SI7821	4152	6G5	42	33	36	17.3	壁	下		
64	SI7821	4153	6G5	31	30	25	17.4	壁	下		
64	SI7821	4157	6G10	17	17	20	17.4	壁	下		
64	SI7821	4158	6G10	26	20	20	17.4	壁	下		
64	SI7821	4159	6G10	30	29	22	17.4	壁	下		
64	SI7821	4162	6G10	33	30	25	17.4	壁	下	土204	
64	SI7821	4167	7G1	36	34	18	17.4	壁	下		
64	SI7821	4190	7G3	32	28	19	17.4	壁	下		
64	SI7821	4196	7G8	18	(13)	9	17.4	壁	下		
64	SI7821	4197	7G8	18	17	25	17.3	壁	下		
64	SI7821	4263	7G3	26	25	32	17.3	壁	下		
64	SI7821	4292	7G12	(33)	25	32	17.3	壁	下		
64	SI7821	4357	7G2・3	48	42	32	17.2	壁	下		
65	SI7822	2303	8G2	46	38	40	17.3	壁	上		
65	SI7822	2313	8G7	40	40	16	17.6	壁	上		
65	SI7822	2316	8G1	44	32	32	17.5	壁	上		
65	SI7822	2394	7F24	32	23	16	17.6	壁	上		
65	SI7822	3887	8G7	51	36	15	17.4	壁	下		
65	SI7822	3890	8G7	43	39	22	17.3	壁	下		
65	SI7822	3891	8G2	40	35	28	17.3	壁	下	土206	
65	SI7822	3894	8F21	35	33	16	17.4	壁	下		
65	SI7822	4189	7G3	40	(33)	36	17.3	壁	下		
65	SI7822	4193	7G8	30	28	18	17.4	壁	下		
65	SI7822	4216	7F25	38	35	36	17.2	壁	下		
65	SI7822	4302	7G3	28	25	33	17.3	壁	下		
65	SI7822	7577	7F24	25	22	15	17.2	壁	下		
65	SI7823	2307	8G7	36	32	19	17.5	壁	上		
65	SI7823	2318	7G4・5	60	58	38	17.6	壁	上		
65	SI7823	2326	7G3・4	50	38	25	17.4	壁	上	土207	
65	SI7823	3886	8G7	40	36	13	17.4	壁	下		
65	SI7823	3892	8G1・2	54	43	19	17.3	壁	下		
65	SI7823	4194	7G8	33	27	21	17.5	壁	下		
65	SI7823	8074	7G5	46	41	26	17.3	壁	下		
65	SI7824	2304	8G7	(50)	25	14	17.6	壁	上		
65	SI7824	2305	8G7	(39)	32	13	17.6	壁	上		
65	SI7824	2308	8G7	34	25	26	17.5	壁	上		
65	SI7824	2312	8G7	28	28	18	17.6	壁	上		
65	SI7824	4203	7G4・5	50	42	8	17.7	壁	上		
65	SI7824	2329	7G9	30	22	9	17.7	壁	上		
65	SI7824	4200	7G9	36	32	26	17.4	壁	下		
65	SI7824	4210	7G5	50	(39)	34	17.2	壁	下		
65	SI7824	4211	7G5	27	(27)	36	17.2	壁	下		
65	SI7824	8068	8G1	50	38	25	17.3	壁	下		
66	SI8355	337	10C24	36	33	61	16.9	壁	上	土213	
66	SI8355	3503	10C24	56	46	40	16.9	壁	下		
66	SI8355	3708	10C22	54	45	25	17.1	壁	下		
66	SI8355	3709	10C22	56	46	20	17.1	壁	下		
66	SI8355	3716	10D2	47	42	20	17.0	壁	下		
66	SI8355	3737	10D4	33	31	15	17.2	壁	下		
66	SI8355	3925	10D8	25	22	20	17.0	壁	下		
66	SI8355	3951	10D4	43	38	33	16.9	壁	下		
66	SI8355	3959	10D8	47	43	25	16.9	壁	下		
66	SI7825	982	10D15	72	64	15	17.3	壁	上	土214	

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
66	SI7825	988	10D15	49	42	33	17.2	壁	上		
66	SI7825	945	10D8・13	90	60	14	17.4	壁	上		
66	SI7825	949	10D14	65	20	10	17.4	壁	上		
66	SI7825	3504	10C24	46	32	42	16.9	壁	下		
66	SI7825	3722	10D3	48	38	16	17.1	壁	下		
66	SI7825	3724	10C23	28	27	15	17.1	壁	下		
66	SI7825	3725	10C23	46	43	20	17.1	壁	下		
66	SI7825	3727	10D2・3	50	45	20	17.1	壁	下		
66	SI7825	3728	10D3	37	34	18	17.1	壁	下		
66	SI7825	3731	10D8	41	28	11	17.2	壁	下		
66	SI7825	3739	10C25	82	75	25	17.0	壁	下	±216	
66	SI7825	3929	10D5	56	42	26	16.8	壁	下		
66	SI7825	3930	10D15	50	48	22	16.9	壁	下		
66	SI7825	3980	10D5	40	35	24	17.0	壁	下		
66	SI8356	338	10D20	48	35	57	16.9	壁	上	±222	
66	SI8356	342	10D22	61	39	18	17.3	壁	上		
66	SI8356	343	10D17・18	90	55	20	17.3	壁	上		
66	SI8356	926	10D20	30	25	20	17.3	壁	上		
66	SI8356	929	10D19	45	35	26	17.1	壁	上		
66	SI8356	2387	10E2	25	23	20	17.3	壁	上		
66	SI8356	3747	10D25	54	40	50	16.8	壁	下		
66	SI8356	3935	10E5・11E1	64	40	16	17.1	壁	下		
66	SI8356	3947	10D22	40	36	10	16.7	壁	下		
66	SI8356	4881	10E5	53	28	21	17.1	壁	下		
66	SI8356	5708	10E8	46	(32)	26	17.1	壁	下		
66	SI8356	5836	10E9	84	58	54	16.8	壁	下	±221	
66	SI8356	5885	10E8	62	40	39	16.9	壁	下		
66	SI8356	5900	10E2・7	74	44	39	16.9	壁	下		
66	SI8356	3949	10D25	45	40	48	16.9	主	下		
66	SI8356	3961	10D23	28	26	14	16.9	主	下		
66	SI8356	5882	10E3	40	38	42	16.9	主	下		
66	SI8356	5834	10E5	52	38	30	17.0	主	下		
67	SI8357	332	10D19	40	30	17	17.3	壁	上		
67	SI8357	775	11D22	58	52	15	17.3	壁	上		
67	SI8357	1975	11E2	32	25	8	17.4	壁	上		
67	SI8357	3930	10D15	50	48	22	16.9	壁	下		
67	SI8357	3932	10D24	53	46	40	16.9	壁	下		
67	SI8357	3950	11D11	43	36	20	16.9	壁	下		
67	SI8357	3962	10E4	33	31	14	17.2	壁	下		
67	SI8357	3983	10E4	43	28	18	17.0	壁	下		
67	SI8357	4878	11E1	33	(15)	7	17.3	壁	下		
67	SI8357	4882	11E1	60	(18)	20	17.1	壁	下		
67	SI8357	4884	11E1	37	(15)	10	17.3	壁	下		
67	SI8357	5197	11D11	40	40	48	16.7	壁	下		
67	SI8357	5215	11D22	35	32	12	17.2	壁	下		
67	SI8357	5217	11D22・23	80	68	32	17.0	壁	下		
67	SI8357	5340	11D17	59	56	22	17.0	壁	下		
67	SI7826	3743	11C21	37	32	36	16.8	壁	下		
67	SI7826	3744	11C21	39	26	32	16.8	壁	下		
67	SI7826	5205	11C24	38	36	30	17.0	壁	下		
67	SI7826	5211	11D3	32	29	20	17.0	壁	下		
67	SI7826	5212	11D4	58	49	58	16.7	壁	下	±223	
67	SI7826	5336	11D1	27	27	20	17.1	壁	下		
67	SI7826	5337	11D2	33	27	26	17.2	壁	下		
67	SI7826	5364	11D2	34	34	54	16.8	壁	下		
67	SI7826	5365	11D3	32	30	34	17.0	壁	下	±224	
67	SI7826	5376	11D4	40	30	36	16.9	壁	下		
67	SI7826	5378	11D4	38	30	26	17.2	壁	下		
67	SI7827	776	11D15	26	20	8	17.2	壁	上		
67	SI7827	171	11D8	56	44	20	17.2	壁	上		
67	SI7827	1417	11D14	26	23	12	17.3	壁	上		
67	SI7827	1418	11D14	32	24	12	(17.4)	壁	上		
67	SI7827	5198	11D13	43	39	38	16.8	壁	下		
67	SI7827	5334	11D3	55	44	20	17.0	壁	下		
67	SI7827	5335	11D4	31	30	20	17.0	壁	下		
67	SI7827	5342	11D13	40	30	20	16.9	壁	下		
67	SI7827	5344	11D13	32	28	20	17.0	壁	下		
67	SI7827	5345	11D14	27	27	20	17.0	壁	下		
67	SI7827	5346	11D14	29	29	26	16.9	壁	下		
67	SI7827	5372	11D8・13	57	55	14	17.0	壁	下		
67	SI7827	5375	11D4	34	30	20	17.1	壁	下		
68	SI7828	783	11D5	36	27	20	17.3	壁	上		
68	SI7828	784	11D5	33	29	24	17.1	壁	上		
68	SI7828	1405	11D4	46	42	20	17.2	壁	上		
68	SI7828	1435	11D9	29	25	22	17.2	壁	上		
68	SI7828	5299	11D5	28	28	10	17.2	壁	下		
68	SI7828	5321	12D6	46	44	16	17.0	壁	下		
68	SI7828	5326	12D1	75	35	12	17.2	壁	下		
68	SI7828	5327	12D1	48	40	14	17.0	壁	下		
68	SI7828	5329	11D9	(25)	(24)	14	16.7	壁	下		
68	SI7828	5331	11D9	56	35	12	16.9	壁	下		
68	SI7828	5360	12D11	26	22	32	16.7	壁	下		
68	SI7829	172	12D6	37	33	38	17.1	壁	上		
68	SI7829	5226	12D3	42	34	22	17.0	壁	下		
68	SI7829	5296	12D8	26	24	12	16.9	壁	下		
68	SI7829	5312	12D1・2	70	48	10	17.1	壁	下		
68	SI7829	5313	12D2	50	38	12	17.2	壁	下		
68	SI7829	5310	12D1	30	28	22	17.1	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
68	SI7829	5322	12D6	35	28	14	16.9	壁	下		
68	SI7829	5325	12D1	41	30	16	17.2	壁	下		
68	SI7829	5352	12D1	44	22	16	17.1	壁	下		
68	SI7829	5383	12D2	32	30	18	17.1	壁	下		
68	SI7830	777	11D19	32	27	24	17.2	壁	上		
68	SI7830	1408	11D19	26	26	15	17.3	壁	上		
68	SI7830	1424	11D19	58	47	15	17.3	壁	上		
68	SI7830	1990	11E4	(44)	40	16	17.3	壁	上		
68	SI7830	4804	11E8	44	41	15	17.2	壁	下		
68	SI7830	5187	11D21	43	40	18	17.1	壁	下		
68	SI7830	5192	11D21	76	73	36	16.9	壁	下		
68	SI7830	5194	11D21	23	20	10	17.2	壁	下		
68	SI7830	5195	11D17	66	48	14	17.1	壁	下		
68	SI7830	5196	11D16	70	42	20	17.1	壁	下		
68	SI7830	5425	11E7	34	28	14	17.1	壁	下		
68	SI7830	5972	11E1	44	40	22	17.1	壁	下		
68	SI7830	8028	11E7	31	30	15	17.1	壁	下		
68	SI7831	1411	12D25	25	24	48	17.0	壁	上		
68	SI7831	1414	12D25	27	25	61	16.9	壁	上		
68	SI7831	1421	12D19	26	25	22	17.2	壁	上		
68	SI7831	4738	12E10	33	30	14	17.2	壁	下		
68	SI7831	4741	12E8	24	22	15	17.2	壁	下		
68	SI7831	4836	12E9	39	37	23	17.1	壁	下		
68	SI7831	5237	12D19	68	48	36	16.9	壁	下		
68	SI7831	5242	12D22・23	63	57	32	17.1	壁	下		
68	SI7831	5293	12D23	78	50	20	17.0	壁	下		
68	SI7831	8456	12E3	28	26	24	17.1	壁	下		
68	SI7831	5294	12D23	54	40	36	17.1	内	下		
68	SI7831	5303	12D23	33	(30)	18	17.2	内	下		
68	SI7831	5384	12E3	70	57	24	17.1	内	下		
68	SI7831	8169	12E3	30	24	19	17.1	内	下		
68	SI7831	147	12D24	30	28	41	17.0	内	上		
68	SI7831	177	12D24	39	31	32	17.2	内	上	±225・226	
68	SI7831	1293	12E4・5	66	50	32	17.2	内	上		
68	SI7831	1295	12E4	24	22	12	17.4	内	上		
68	SI7831	1402	12D24	37	35	17	17.2	内	上		
68	SI7831	1412	12D24	30	26	50	16.8	内	上		
68	SI7831	5243	12E3	52	(31)	22	17.2	内	下		
68	SI7831	5283	12D24	38	29	10	17.2	内	下		
68	SI7831	5284	12D24	31	24	10	17.2	内	下		
69	SI7832	5264	13D17	37	32	13	17.2	壁	下		
69	SI7832	183	13D18	35	35	13	17.3	壁	上	±227・228	
69	SI7832	184	13D18	38	36	11	17.3	壁	上		
69	SI7832	4822	13E3	25	22	25	17.0	壁	下		
69	SI7832	4823	13E3	49	30	8	17.2	壁	下		
69	SI7832	4825	13E3	44	41	19	17.1	壁	下		
69	SI7832	4826	13E2	26	25	11	17.2	壁	下		
69	SI7832	4828	13E3	20	18	6	17.2	壁	下		
69	SI7832	4864	13E3	43	36	31	16.9	壁	下		
69	SI7832	5156	13D19	28	28	14	17.2	壁	下		
69	SI7832	5157	13D19	90	72	50	16.7	壁	下		
69	SI7832	5158	13D19・24	48	22	20	17.1	壁	下		
69	SI7832	5253	13D24	38	29	18	17.1	壁	下		
69	SI7832	5258	13D24・14D4	42	42	20	17.1	壁	下		
69	SI7832	5259	13D22	40	30	38	16.9	壁	下		
69	SI7832	5260	13D22	40	30	20	17.2	壁	下		
69	SI7832	5261	13D22	26	20	18	17.2	壁	下		
69	SI7832	5262	13D22	32	30	14	17.0	壁	下		
69	SI7832	5265	13D17・18	40	38	16	17.2	壁	下		
69	SI7832	5266	13D18	25	22	14	17.2	壁	下		
69	SI7832	5268	13D18	34	34	28	17.0	壁	下		
69	SI1415	143	14D7	33	21	50	16.9	壁	上		
69	SI1415	151	14D6	51	38	20	16.9	壁	上		
69	SI1415	712	14D1	34	33	35	16.9	壁	上		
69	SI1415	713	14D1	32	21	34	17.3	壁	上		
69	SI1415	724	14D6	35	34	32	17.1	壁	上		
69	SI1415	725	14D6	30	26	25	17.2	壁	上		
69	SI1415	726	14D7	56	54	11	17.1	壁	上		
69	SI1415	727	14D8	24	24	13	17.3	壁	上		
69	SI1415	728	14D8	53	47	13	17.1	壁	上		
69	SI1415	730	14D3	45	37	21	17.2	壁	上		
69	SI1415	740	14C23	44	36	16	17.1	壁	上		
69	SI1415	1442	14C23	66	50	30	17.1	壁	上		
69	SI1415	5076	14C21	28	23	14	17.1	壁	下		
69	SI1415	5163	14D6	41	36	20	17.1	壁			
69	SI1415	5177	14C21	30	30	34	16.9	壁	下		
69	SI7833	146	13D10	20	17	21	17.3	壁	上		
69	SI7833	734	13D5	36	34	22	17.1	壁	上		
69	SI7833	732	14C23	58	39	22	17.1	壁	上		
69	SI7833	739	14D3	30	27	13	17.3	壁	上		
69	SI7833	738	14D8	43	42	11	17.2	壁	上		
69	SI7833	5074	14C22	60	40	20	17.1	壁	下		
69	SI7833	5082	14D11	30	27	22	17.1	壁	下		
69	SI7833	5139	14D11	50	45	24	17.1	壁	下		
69	SI7833	5141	14D8	62	48	14	17.1	壁	下		
69	SI7833	5147	14D3	35	25	36	16.9	壁	下		
69	SI7833	5172	14D11	92	56	54	16.7	壁	下		
69	SI7833	5176	14C21	43	42	22	17.2	壁	下	±231	

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
69	SI7833	5391	14D12・17	65	54	30	17.0	壁	下		
70	SI7834	196	14D22	32	27	20	17.2	壁	上		
70	SI7834	742	14D18	37	30	25	17.1	壁	上		
70	SI7834	5079	14D2	48	37	22	17.1	壁	下		
70	SI7834	5085	14D16	75	61	22	17.1	壁	下		
70	SI7834	5125	14D18	51	46	22	17.2	壁	下		
70	SI7834	5142	14D8	28	24	10	17.2	壁	下		
70	SI7834	5143	14D14	38	35	10	17.2	壁	下		
70	SI7834	5160	13D15	34	32	12	17.1	壁	下		
70	SI7834	5161	13D15	74	50	16	17.1	壁	下		
70	SI7834	5164	14D14	32	30	14	17.1	壁	下		
70	SI7834	5174	14D1	60	(55)	14	17.2	壁	下		
70	SI7834	5247	14D3	60	54	42	16.9	壁	下		
70	SI7834	5248	13D10	40	36	36	16.9	壁	下		
70	SI7834	5275	13D20・14D16	80	(54)	38	16.9	壁	下		
70	SI7834	5276	13D20	32	28	14	17.1	壁	下		
70	SI7835	116	14D6・7	382	75	26	17.3	壁	上	± 232	SD
70	SI7835	164	14D23	31	28	17	17.3	壁	上	± 233	
70	SI7835	737	14D13	40	34	13	17.3	壁	上		
70	SI7835	744	14D13	40	38	14	17.3	壁	上		
70	SI7835	1443	13D10	45	31	17	17.3	壁	上		
70	SI7835	5064	14D18	52	40	22	17.0	壁	下		
70	SI7835	5080	14D6	38	36	34	17.0	壁	下		
70	SI7835	5120	14D18	40	38	20	17.0	壁	下		
70	SI7835	5121	14D22	43	41	22	17.0	壁	下		
70	SI7835	5159	13D20	29	18	14	17.1	壁	下		
70	SI7835	5183	14D22	62	40	18	17.0	壁	下		
70	SI7835	5250	13D10	30	28	18	17.1	壁	下		
70	SI7835	5255	13D15	46	40	22	16.8	壁	下		
70	SI7835	5269	14D21	37	31	16	17.1	壁	下		
70	SI7835	5270	14D21	30	28	10	17.2	壁	下		
70	SI7835	5271	13D20	26	22	10	17.1	壁	下		
70	SI7835	5274	13D20	30	25	12	17.1	壁	下		
71	SI7836	745	14C23	31	21	10	17.0	壁	上		
71	SI7836	747	14D14	70	53	31	17.1	壁	上		
71	SI7836	716	14D7	32	31	23	17.1	壁	上		
71	SI7836	5043	14D15	40	36	18	17.0	壁	下		
71	SI7836	5045	14D15	46	40	16	17.1	壁	下		
71	SI7836	5046	14D15	30	20	16	17.1	壁	下		
71	SI7836	5050	15C21	52	46	20	17.0	壁	下		
71	SI7836	5060	14D15	58	53	24	16.7	壁	下		
71	SI7836	5070	14C25	76	74	14	17.1	壁	下		
71	SI7836	5072	14C24	50	40	16	17.1	壁	下		
71	SI7836	5099	14D15	41	38	24	16.9	壁	下		
71	SI7836	5134	14D13	34	33	34	17.0	壁	下		
71	SI7836	5135	14D13	29	25	26	17.0	壁	下		
71	SI7836	5138	14D7	40	32	20	17.1	壁	下		
71	SI7836	5150	14D3	100	50	12	17.2	壁	下		
71	SI7836	5180	15D1	40	31	20	16.9	壁	下		
71	SI7836	5184	14D10	66	62	22	16.8	壁	下		
71	SI7836	5387	14D7	44	42	20	17.0	壁	下		
71	SI7836	5394	14C25	40	40	26	17.0	壁	下		
71	SI7837	764	15D2	73	63	20	17.0	壁	上		
71	SI7837	750	14C24・25	69	40	15	17.2	壁	上		
71	SI7837	5039	15D11	95	80	16	17.0	壁	下		
71	SI7837	5051	15C21	52	48	22	16.9	壁	下		
71	SI7837	5100	15D11	70	58	14	17.0	壁	下		
71	SI7837	5118	14D9	38	34	14	17.1	壁	下		
71	SI7837	5144	14D9	85	67	18	17.1	壁	下		
71	SI7837	5182	15D2	84	70	12	16.9	壁	下		
71	SI7838	791	15C21	32	21	18	17.1	壁	下		
71	SI7838	185	15C23	34	32	14	17.0	壁	上		
71	SI7838	112	15D3	110	80	22	17.0	壁	上		
71	SI7838	767	15D2	90	85	30	16.9	壁	上		
71	SI7838	5395	14C25	21	20	24	17.0	壁	下		
72	SI7839	158	15D18	27	26	15	17.1	壁	上		
72	SI7839	793	15C22	31	53	12	17.1	壁	上		
72	SI7839	795	15C22	65	35	21	17.1	壁	上		
72	SI7839	797	15D16	26	19	20	17.1	壁	上		
72	SI7839	798	15D6	44	36	21	17.0	壁	上		
72	SI7839	5027	15D13	32	32	16	16.9	壁	下		
72	SI7839	5029	15D13	16	16	18	16.9	壁	下		
72	SI7839	5031	15D8	30	24	20	16.9	壁	下		
72	SI7839	5038	15D1	39	33	20	16.9	壁	下		
72	SI7839	5053	15D3	31	25	30	16.8	壁	下		
72	SI7839	5054	15D3	40	34	26	16.8	壁	下		
72	SI7839	5098	15D6・11	78	56	34	17.0	壁	下		
72	SI7839	5101	15D11	32	30	14	16.8	壁	下		
72	SI7839	5112	15D1	66	60	16	16.9	壁	下		
72	SI7839	192	15D13	27	17	31	16.9	内	上		
72	SI7839	703	15D12	29	23	14	17.3	内	上		
72	SI7839	5026	15D13	30	27	10	17.0	内	下		
72	SI7839	5028	15D13	34	31	14	17.0	内	下		
72	SI7839	5030	15D8	34	30	14	17.0	内	下		
72	SI7839	5032	15D6	44	38	30	16.8	内	下		
72	SI7839	5040	15D12	55	48	20	16.9	内	下		
72	SI7839	5059	15D11	59	42	20	16.9	内	下		
72	SI7839	5086	15D11	66	42	14	17.0	内	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
72	SI7839	5113	15D1	42	25	18	17.0	内	下		
72	SI7839	5181	15D1	62	49	20	16.9	内	下		
72	SI7839	5244	15D3	32	29	16	16.9	内	下		
72	SI7839	5392	15D2	54	50	18	16.9	内	下		
72	SI8478	267	10E21	44	40	7	17.5	壁	上		
72	SI8478	273	10E17	65	48	44	17.2	壁	上		
72	SI8478	827	10E7	42	39	20	17.3	壁	上		
72	SI8478	5656	9E20	45	40	40	17.0	壁	下		
72	SI8478	5657	9E20	38	33	27	17.2	壁	下		
72	SI8478	5665	10E12	35	30	20	17.0	壁	下		
72	SI8478	5675	9E20	40	40	30	17.1	壁	下		
72	SI8478	5908	10E22	32	26	17	17.3	壁	下		
72	SI8478	8077	10E18	50	40	19	17.1	壁	下		
72	SI8478	8173	9E15	46	41	35	16.8	壁	下		
72	SI8478	8440	9E15	42	32	29	16.9	壁	下		
72	SI8478	8442	10E6	33	30	16	17.0	壁	下		
72	SI8478	8443	10E6	38	32	19	17.2	壁	下		
72	SI8478	8608	10E21	40	38	41	17.0	壁	下		
73	SI8472	265	10E12	30	30	14	17.4	壁	上		
73	SI8472	5649	10E22	56	42	13	17.3	壁	下		
73	SI8472	5652	10E21	35	32	19	17.3	壁	下		
73	SI8472	5653	10E21	38	26	18	17.3	壁	下		
73	SI8472	5654	9E25	32	29	16	17.3	壁	下		
73	SI8472	5689	10E21	46	42	27	17.1	壁	下		
73	SI8472	5699	10E12	46	36	20	17.2	壁	下		
73	SI8472	5702	10E17	64	62	37	17.1	壁	下		
73	SI8472	5866	10E11	48	38	43	16.9	壁	下		
73	SI8472	5902	9E20	49	32	17	17.2	壁	下		
73	SI8472	5903	9E25	45	36	30	17.1	壁	下		
73	SI8472	8152	9E15	46	40	28	16.9	壁	下		
73	SI8472	8441	9E15	34	31	20	17.0	壁	下		
73	SI2372	270	10E22	32	24	22	17.3	壁	上		
73	SI2372	5635	10E24	42	36	19	17.2	壁	下		
73	SI2372	5639	10E23	52	50	37	16.9	壁	下		
73	SI2372	5661	10E16	28	24	20	17.3	壁	下		
73	SI2372	5664	10E11	40	38	25	17.1	壁	下		
73	SI2372	5672	10E16	60	50	35	17.0	壁	下		
73	SI2372	5709	10E8	42	28	20	17.1	壁	下		
73	SI2372	5857	10E14	48	36	42	16.9	壁	下	± 238	
73	SI2372	5867	10E11	56	53	18	17.2	壁	下		
73	SI2372	5876	10E19	52	40	38	17.0	壁	下		
73	SI2372	5878	10E19	46	30	22	17.2	壁	下		
73	SI2372	5983	10E9	35	30	33	17.1	壁	下		
73	SI2372	8159	10E8	39	39	17	17.1	壁	下		
73	SI2372	8371	10E7	38	32	34	17.0	壁	下		
73	SI2372	263	10E12	42	40	15	17.4	内	上		
73	SI2372	832	10E8	64	44	20	17.3	内	上		
73	SI2372	5641	10E23	54	44	26	17.2	内	下		
73	SI2372	5645	10E18	40	40	33	17.1	内	下	± 236	
73	SI2372	5695	10E17	60	50	53	16.8	内	下		
73	SI2372	5696	10E12	(20)	28	12	17.2	内	下		
73	SI2372	5700	10E12	36	34	33	17.0	内	下		
73	SI2372	5860	10E14	48	36	44	17.0	内	下	± 237	
73	SI2372	5863	10E8	(62)	50	53	16.8	内	下		
73	SI2372	5875	10E19	27	25	20	17.2	内	下		
73	SI2372	5883	10E8	52	44	53	16.7	内	下		
73	SI2372	5897	10E17	50	45	30	17.1	内	下		
74	SI8477	262	10E13	32	24	31	17.2	壁	上		
74	SI8477	5666	10E13	30	26	24	17.1	壁	下		
74	SI8477	5842	10E14	36	28	15	17.2	壁	下		
74	SI8477	5845	10E15	26	22	27	17.1	壁	下		
74	SI8477	5848	10E9	26	20	19	17.2	壁	下		
74	SI8477	5850	10E19	30	28	21	17.2	壁	下		
74	SI8477	5854	10E19	(48)	42	28	17.0	壁	下		
74	SI8477	5855	10E19	30	24	18	17.2	壁	下		
74	SI8477	5881	10E19	40	36	35	17.1	壁	下		
74	SI8477	5884	10E8	32	26	29	18.0	壁	下		
74	SI8477	5988	10E18	50	34	11	17.2	壁	下		
74	SI8477	5989	10E18	(24)	32	25	17.1	壁	下		
74	SI8477	5990	10E18	30	27	15	17.2	壁	下		
74	SI8477	8079	10E13	52	50	23	17.0	壁	下	± 239	
74	SI8099	4967	10E15	32	20	29	17.1	壁	下		
74	SI8099	5495	10E20	34	26	17	17.1	壁	下		
74	SI8099	5496	10E15	40	35	13	17.2	壁	下		
74	SI8099	5501	10E20	46	36	8	17.3	壁	下		
74	SI8099	5643	10E18	44	34	34	17.1	壁	下		
74	SI8099	5679	10E13	38	32	23	17.2	壁	下		
74	SI8099	5680	10E13	32	23	14	17.2	壁	下		
74	SI8099	5713	10E18	30	26	18	17.2	壁	下		
74	SI8099	5852	10E9	36	32	31	17.1	壁	下		
74	SI8099	5858	10E10	(32)	26	8	17.3	壁	下		
74	SI8099	5862	10E8	44	28	13	17.1	壁	下		
74	SI8099	5870	10E19	(24)	32	39	16.9	壁	下		
74	SI8099	5871	10E19	40	30	33	17.0	壁	下	骨	
74	SI8099	5925	10E20	(40)	38	12	17.3	壁	下		
74	SI8099	8425	10E10	40	26	25	17.0	壁	下		
74	SI2371	835	10E15	28	24	16	17.4	壁	上		
74	SI2371	5633	10E24	44	34	19	17.3	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
74	SI2371	5637	10E23	27	23	17	17.4	壁	下		
74	SI2371	5642	10E23	37	33	33	17.1	壁	下		
74	SI2371	5703	10E17	52	42	24	17.2	壁	下	骨	
74	SI2371	5751	10F13	32	30	39	16.9	壁	下		
74	SI2371	5777	10E20	(14)	18	9	17.3	壁	下		
74	SI2371	5843	10E14	38	(20)	23	17.1	壁	下		
74	SI2371	5846	10E14	34	30	21	17.1	壁	下		
74	SI2371	5849	10E20	26	24	19	17.2	壁	下		
74	SI2371	5874	10E19	30	28	30	17.1	壁	下		
74	SI2371	5909	10E17	40	(26)	29	17.2	壁	下		
74	SI2371	5985	10E13	44	34	26	17.1	壁	下		
74	SI2371	5987	10E17	40	40	30	17.0	壁	下		
74	SI2371	8158	10E20	21	21	29	17.0	壁	下		
75	SI8484	247	10E11	(48)	(26)	10	17.5	壁	上		
75	SI8484	5663	10E16	35	35	34	17.1	壁	下		
75	SI8484	5673	10E17	36	28	17	17.2	壁	下		
75	SI8484	5676	9E15	48	40	26	17.2	壁	下		
75	SI8484	5691	10E21	46	(40)	29	17.1	壁	下		
75	SI8484	5704	10E22	60	48	19	17.3	壁	下		
75	SI8484	5717	10E22	30	24	22	17.3	壁	下		
75	SI8484	5721	10F1	30	28	20	17.3	壁	下		
75	SI8484	5898	10E17	33	30	22	17.2	壁	下		
75	SI8484	5996	9E19・20	110	70	47	16.9	壁	下	±241・242	
75	SI8484	8151	9E24	66	60	37	16.9	壁	下	±240	
75	SI8484	8439	9E20	26	23	14	17.1	壁	下		
75	SI8100	807	10E13	48	34	14	17.5	壁	上		
75	SI8100	5617	10F2・3	76	72	36	17.0	壁	下		
75	SI8100	5618	10F2	(64)	50	28	17.0	壁	下		
75	SI8100	5627	10E23	(32)	(22)	10	17.4	壁	下		
75	SI8100	5629	10F3	30	(24)	15	17.3	壁	下		
75	SI8100	5630	10F3	34	30	35	17.1	壁	下		
75	SI8100	5640	10E18	45	(20)	16	17.3	壁	下		
75	SI8100	5650	10E21	38	36	42	17.0	壁	下		
75	SI8100	5658	10E16	30	24	23	17.2	壁	下		
75	SI8100	5659	10E16	36	34	17	17.3	壁	下		
75	SI8100	5662	10E16	(40)	33	22	17.2	壁	下		
75	SI8100	5671	10F3	(24)	30	17	17.2	壁	下		
75	SI8100	5697	10E12	38	30	21	17.1	壁	下		
75	SI8100	5712	10E18	42	32	37	17.1	壁	下		
75	SI8100	5911	10F1	(44)	40	29	17.1	壁	下		
75	SI8100	8057	10E12	45	38	27	17.1	壁	下		
75	SI8495	292	10E23	32	30	14	17.5	壁	上		
75	SI8495	805	10F1・6	42	42	20	17.4	壁	上	±243	
75	SI8495	2018	10F9	24	24	12	17.6	壁	上		
75	SI8495	5593	10F7	60	38	25	17.2	壁	下		
75	SI8495	5608	10F4	46	36	20	17.3	壁	下		
75	SI8495	5619	10F8	54	(18)	21	17.3	壁	下		
75	SI8495	5636	10E24	48	40	29	17.2	壁	下		
75	SI8495	5707	10E24	52	36	22	17.2	壁	下		
75	SI8495	5714	10E22	48	42	20	17.3	壁	下		
75	SI8495	5718	10E22	28	24	15	17.3	壁	下		
75	SI8495	5719	10E21	42	40	31	17.1	壁	下		
75	SI8495	5720	10F1	(34)	32	17	17.3	壁	下		
75	SI8495	5726	10F7	38	34	220	17.3	壁	下		
75	SI8495	5823	10F9	28	23	20	17.3	壁	下		
75	SI8495	5826	10F9	42	40	24	17.3	壁	下		
75	SI8495	5831	10F4	25	24	17	17.3	壁	下		
75	SI8495	8177	10F9	30	(20)	17	17.2	壁	下		
76	SI8094	254	10E24	38	36	25	17.5	壁	上		
76	SI8094	1978	10F10	34	31	35	17.3	壁	上		
76	SI8094	2022	10F8	43	38	10	17.6	壁	上		
76	SI8094	5623	10E23	41	36	13	17.4	壁	下		
76	SI8094	5625	10F3	40	32	14	17.4	壁	下		
76	SI8094	5631	10E24	24	24	11	17.3	壁	下		
76	SI8094	5632	10E24	28	27	10	17.3	壁	下		
76	SI8094	5646	10F3・8	52	40	38	17.0	壁	下		
76	SI8094	5670	11F1	32	30	30	17.3	壁	下		
76	SI8094	5796	10F10	26	24	17	17.3	壁	下		
76	SI8094	5797	10F9	30	24	12	17.4	壁	下		
76	SI8094	5798	10F9	30	26	26	17.2	壁	下		
76	SI8094	5827	10F8・9	(34)	23	21	17.3	壁	下		
76	SI8094	5970	10E25	94	84	35	17.1	壁	下		
76	SI8094	8206	10F10	43	32	19	17.3	壁	下		
76	SI8094	8135	10F8	36	32	17	17.2	壁	下		
76	SI8095	5449	10F10	36	34	26	17.2	壁	下		
76	SI8095	5498	10F5	32	30	26	17.2	壁	下		
76	SI8095	5507	10F10	88	76	35	17.2	壁	下	±244	
76	SI8095	5568	10F13	30	28	14	17.4	壁	下		
76	SI8095	5587	10F8	72	50	22	17.3	壁	下		
76	SI8095	5595	10F8	28	22	11	17.3	壁	下		
76	SI8095	5597	10F8	28	24	10	17.3	壁	下		
76	SI8095	5599	10F8	28	20	14	17.2	壁	下		
76	SI8095	5620	10E24	31	27	12	17.3	壁	下		
76	SI8095	5621	10E24	22	20	11	17.3	壁	下		
76	SI8095	5622	10E24	34	32	38	17.1	壁	下		
76	SI8095	5624	10F3	40	36	24	17.3	壁	下	±245	
76	SI8095	5644	10F3	42	42	39	17.1	壁	下		
76	SI8095	5648	10F3	70	56	24	17.2	壁	下	±246	

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
76	SI8095	5775	10F5	36	32	19	17.3	壁	下		
76	SI8095	5794	10F14	56	46	31	17.2	壁	下		
76	SI8095	5924	10E24	30	26	15	17.3	壁	下		
76	SI8095	5968	10F5	38	34	23	17.2	壁	下		
76	SI8095	5969	10F5	30	26	18	17.2	壁	下		
76	SI2373	2079	10F18	46	38	14	17.6	壁	上		
76	SI2373	5545	10F17	54	48	21	17.3	壁	下		
76	SI2373	5554	10F16	28	27	23	17.4	壁	下		
76	SI2373	5555	10F16	38	32	28	17.3	壁	下		
76	SI2373	5558	10F18	22	20	15	17.4	壁	下		
76	SI2373	5616	10F2	54	20	26	17.2	壁	下		
76	SI2373	5667	10F13	28	24	26	17.2	壁	下		
76	SI2373	5678	10F2	74	44	33	17.1	壁	下		
76	SI2373	5762	10F1	52	(32)	36	17.0	壁	下		
76	SI2373	5771	9F10	66	50	17	17.3	壁	下		
76	SI2373	5784	9F15	26	22	14	17.3	壁	下		
76	SI2373	5803	9F15	57	40	39	17.0	壁	下		
76	SI2373	5918	10F8	34	27	17	17.3	壁	下		
76	SI2373	5926	9F5	47	40	35	17.0	壁	下		
76	SI2373	5974	10F13	41	38	24	17.2	壁	下		
76	SI2373	8126	10F2	(52)	34	21	17.1	壁	下		
76	SI2373	5556	10F16	58	56	42	17.1	内	下		
76	SI2373	5582	10F13	60	58	45	17.0	内	下		
76	SI2373	5584	10F8	62	(34)	34	17.1	内	下		
76	SI2373	5596	10F2	(65)	(54)	48	17.0	内	下		
76	SI2373	5611	10F13	46	42	27	17.2	内	下		
76	SI2373	5614	10F16	(94)	78	54	17.0	内	下	±247・248	
76	SI2373	5757	10F1・2・6・7	88	64	45	16.9	内	下	±249・250	
76	SI2373	5760	10F6	78	64	34	17.1	内	下		
76	SI2373	5801	9F15	54	50	28	17.1	内	下		
76	SI2373	5888	9F15	85	78	53	17.0	内	下		
77	SI8488	237	9F14	20	16	10	(17.6)	壁	上		
77	SI8488	295	9F10	44	40	10	17.5	壁	上		
77	SI8488	863	9F25	32	24	10	17.2	壁	上		
77	SI8488	5535	10F21	60	40	20	17.4	壁	下		
77	SI8488	5543	10F22	20	18	12	17.4	壁	下		
77	SI8488	5544	10F22	20	18	12	17.4	壁	下		
77	SI8488	5808	10F17	85	74	60	16.9	壁	下	±253	
77	SI8488	5816	10F6	92	70	59	16.8	壁	下		
77	SI8488	5887	10F6	44	37	31	17.2	壁	下		
77	SI8488	5922	9F9	38	36	18	17.2	壁	下		
77	SI8488	8112	9F24	(64)	(62)	44	17.0	壁	下		
77	SI8488	5755	10F12	52	40	50	17.3	壁	下		
77	SI8488	8421	9F25	40	(32)	19	17.2	壁	下		
77	SI8488	8446	9F14・19	58	56	44	16.8	壁	下		
77	SI8488	5540	10F21	40	38	35	17.3	主	下		
77	SI8488	5615	10F16	(80)	77	55	17.2	主	下	石303	
77	SI8488	5756	10F21	(24)	50	27	17.1	主	下		
77	SI8488	5766	9F19	52	(36)	15	17.4	主	下		
77	SI8488	5829	9F10	80	64	60	16.8	主	下	±252	
77	SI8488	5890	9F25	50	42	31	17.2	主	下		
77	SI8488	5979	10F11	50	38	45	17.0	主	下		
77	SI8488	5991	9F14	56	(46)	23	17.1	主	下		
77	SI8488	5992	9F19	(80)	(53)	16	17.0	主	下		
77	SI8488	8044	10F11	(46)	(38)	20	17.4	主	下		
77	SI2375	820	10F16	26	24	14	17.4	壁	上		
77	SI2375	5532	10F21	48	40	32	17.3	壁	下		
77	SI2375	5732	9G5	28	22	18	17.4	壁	下		
77	SI2375	5741	9G4	120	98	51	17.1	壁	下		
77	SI2375	5770	9F24	108	104	50	17.1	壁	下		
77	SI2375	5809	9F15	62	44	44	17.0	壁	下		
77	SI2375	5818	9F19	(49)	59	36	17.1	壁	下		
77	SI2375	5960	10F22	30	28	18	17.4	壁	下		
77	SI2375	8075	9F15	60	49	20	17.3	壁	下	±254	
77	SI2375	8176	9F19	28	24	21	17.2	壁	下		
77	SI2375	8417	9G5	25	23	15	17.3	壁	下		
77	SI2375	8418	10G1	(38)	38	23	17.3	壁	下		
78	SI8098	287	10G1	30	24	10	17.6	壁	上		
78	SI8098	822	9F15	50	48	22	17.5	壁	上		
78	SI8098	231	9F24	40	34	13	17.6	壁	上		
78	SI8098	293	9G5	42	30	11	17.6	壁	上		
78	SI8098	2074	10F23	50	34	40	17.3	壁	上		
78	SI8098	5521	10G2	30	26	19	17.4	壁	下		
78	SI8098	5522	10G2	22	20	11	17.4	壁	下		
78	SI8098	5523	10G2	30	27	19	17.4	壁	下		
78	SI8098	5525	10G2	30	20	14	17.4	壁	下		
78	SI8098	5528	10G1	32	28	12	17.5	壁	下		
78	SI8098	5529	10F23	28	28	14	17.4	壁	下		
78	SI8098	5530	10F23	42	32	15	17.4	壁	下		
78	SI8098	5548	10F18	30	28	17	17.4	壁	下		
78	SI8098	5552	10F18	30	(14)	17	17.4	壁	下		
78	SI8098	5553	10F23	28	26	15	17.4	壁	下		
78	SI8098	5557	10F18	24	20	13	17.4	壁	下		
78	SI8098	5580	10F17	26	20	12	17.4	壁	下		
78	SI8098	5581	10F12	(26)	26	9	17.4	壁	下		
78	SI8098	5586	10G2	80	82	40	17.1	壁	下		
78	SI8098	5733	9G5	48	34	23	17.4	壁	下		
78	SI8098	5746	9F25・9G5	42	36	35	17.3	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
78	SI8098	5768	9F24	62	40	49	17.2	壁	下		
78	SI8098	5769	9F24	52	(42)	45	17.1	壁	下	土:255	
78	SI8098	5815	10F11	38	16	18	17.2	壁	下		
78	SI8098	5817	9F19	40	27	23	17.2	壁	下		
78	SI8098	5819	9F19	48	44	36	17.1	壁	下		
78	SI8098	5821	9F15	42	42	14	17.2	壁	下		
78	SI8098	5822	9F15	38	30	24	17.1	壁	下		
78	SI8098	5865	9F15	32	30	20	17.2	壁	下		
78	SI8098	8056	10F11	37	33	30	17.1	壁	下		
78	SI8098	8142	10F12	40	(36)	22	17.2	壁	下		
78	SI8098	8416	9G5	40	36	24	17.2	壁	下		
78	SI8098	8434	10G2	36	32	13	17.3	壁	下		
78	SI8439	823	10F21	55	34	12	17.5	壁	上		
78	SI8439	289	10G6	38	26	11	17.6	壁	上		
78	SI8439	288	9G10	34	24	9	17.6	壁	上		
78	SI8439	230	9F19	52	44	12	17.6	壁	上		
78	SI8439	5527	10G1	26	16	10	17.5	壁	下		
78	SI8439	5537	10F21	28	22	13	17.4	壁	下		
78	SI8439	5575	10G1	132	68	36	17.2	壁	下		
78	SI8439	5737	9G10	26	16	13	17.3	壁	下		
78	SI8439	5748	9G4	28	26	15	17.5	壁	下		
78	SI8439	5921	9F19・20	(56)	48	30	17.2	壁	下		
78	SI8439	8003	9F24	25	23	17	17.4	壁	下		
78	SI8439	8114	9F20	50	50	40	17.2	壁	下		
78	SI8439	8140	10F16・20	24	24	9	17.4	壁	下		
78	SI8439	8401	9G4	38	38	20	17.3	壁	下		
78	SI8439	8430	9G4	30	28	30	17.2	壁	下		
78	SI7841	212	9G10	23	20	36	17.4	壁	上		
78	SI7841	5813	9G6	58	38	22	17.4	壁	下		
78	SI7841	8001	9G2	40	38	34	17.1	壁	下	土:256	
78	SI7841	8005	9G6・7	64	60	16	17.3	壁	下		
78	SI7841	8006	9G6	30	27	14	17.3	壁	下		
78	SI7841	8102	9G2	32	26	24	17.1	壁	下		
78	SI7841	8104	9G3	40	30	21	17.3	壁	下		
78	SI7841	8108	9G9・10	36	30	22	17.3	壁	下		
78	SI7841	8403	9G4	33	30	22	17.3	壁	下		
78	SI7841	8405	9G3	32	28	11	17.3	壁	下		
78	SI7841	8415	9G3	30	28	10	17.3	壁	下		
78	SI7841	8427	9G10	26	18	14	17.3	壁	下		
79	SI7842	1505	9G2・3	44	30	20	17.5	壁	上		
79	SI7842	5734	9G5	72	54	28	17.1	壁	下		
79	SI7842	5735	9G10	48	46	24	17.4	壁	下		
79	SI7842	5739	9G10	33	30	13	17.2	壁	下		
79	SI7842	5752	9G5・10	56	38	12	17.5	壁	下		
79	SI7842	5804	9G7	32	30	27	17.3	壁	下		
79	SI7842	5805	9G7	38	34	27	17.3	壁	下		
79	SI7842	6000	9G2	54	34	44	17.0	壁	下		
79	SI7842	8002	9G7	27	25	17	17.3	壁	下		
79	SI7842	8105	9G3	32	28	20	17.3	壁	下		
79	SI8490	225	10G6	34	30	17	17.5	壁	上		
79	SI8490	241	9G3・4	38	32	26	17.4	壁	上		
79	SI8490	5736	9G10	30	28	16	17.4	壁	下		
79	SI8490	5744	9G4・5	44	44	37	17.3	壁	下		
79	SI8490	5749	9G3・4	49	32	22	17.4	壁	下		
79	SI8490	5807	9G7・8	80	66	53	17.1	壁	下		
79	SI8490	5893	9G8	74	66	38	17.2	壁	下		
79	SI8490	8103	9G3	32	(28)	22	17.3	壁	下		
79	SI8492	208	10G1	40	36	30	17.4	壁	上		
79	SI8492	215	10G1	28	12	38	17.3	壁	上		
79	SI8492	223	10G1・6	28	25	14	17.5	壁	上		
79	SI8492	224	10G1・6	34	15	19	17.5	壁	上		
79	SI8492	222	10G6	26	22	30	17.4	壁	上		
79	SI8492	2034	10F18・23	40	40	18	17.2	壁	上		
79	SI8492	5503	10G3・8	44	42	14	17.4	壁	下		
79	SI8492	5512	10F23	28	26	19	17.4	壁	下		
79	SI8492	5526	10G1	25	25	11	17.5	壁	下		
79	SI8492	5533	10F21	30	26	19	17.5	壁	下		
79	SI8492	5538	10F21	21	20	14	17.4	壁	下		
79	SI8492	5542	10F21	49	36	24	17.3	壁	下	土:257	
79	SI8492	5546	10F17	50	46	38	17.1	壁	下		
79	SI8492	5571	10G2	57	45	14	17.5	壁	下		
79	SI8492	5971	10G7	30	26	21	17.2	壁	下		
79	SI8054	209	10G1	46	44	35	17.3	壁	上		
79	SI8054	5477	10G4	48	46	25	17.3	壁	下		
79	SI8054	5531	10F23	64	48	39	17.2	壁	下		
79	SI8054	5574	10F22	70	52	32	17.2	壁	下		
79	SI8054	5579	10G1・2	78	64	24	17.5	壁	下		
79	SI8054	5889	10G9	60	48	48	17.1	壁	下		
79	SI8054	5914	10G4	44	30	24	17.2	壁	下		
79	SI8054	8049	10F24	41	33	20	17.3	壁	下		
79	SI8054	8052	10G7	81	60	22	17.4	壁	下		
80	SI8491	2051	10F14	50	48	60	17.4	壁	上		
80	SI8491	5560	10F18	54	40	26	17.3	壁	下		
80	SI8491	5598	10F8	32	28	10	17.3	壁	下		
80	SI8491	5612	10F9	48	40	36	17.2	壁	下		
80	SI8491	5724	10F6	30	26	20	17.2	壁	下		
80	SI8491	5820	10F11	(44)	44	40	17.1	壁	下		
80	SI8491	5853	10F6	32	26	21	17.2	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
80	SI8491	5919	10F8	34	28	15	17.3	壁	下		
80	SI8491	8124	10F7	(40)	40	25	17.1	壁	下		
80	SI8491	8141	10F17	24	22	9	17.4	壁	下		
80	SI201	2030	10F13	63	(48)	22	17.4	壁	上		
80	SI201	5455	11F12	36	33	20	17.4	壁	下		
80	SI201	5457	11F17	47	42	29	17.2	壁	下		
80	SI201	5478	10G4	52	38	48	17.1	壁	下		
80	SI201	5479	10G9	52	36	12	17.4	壁	下		
80	SI201	5489	11F22	58	42	22	17.4	壁	下		
80	SI201	5505	10F10	44	32	24	17.2	壁	下		
80	SI201	5513	10F23	48	44	19	17.3	壁	下		
80	SI201	5549	10F18	32	20	16	17.4	壁	下		
80	SI201	5550	10F23	38	32	14	17.4	壁	下		
80	SI201	5559	10F18	32	32	15	17.4	壁	下		
80	SI201	5569	10F9	34	30	17	17.4	壁	下		
80	SI201	5590	10F13	36	28	26	17.2	壁	下		
80	SI201	8050	11G1	40	34	17	17.3	壁	下		
80	SI201	8051	11G2	36	30	18	17.3	壁	下		
80	SI201	8213	10G9	43	40	20	17.2	壁	下		
80	SI201	8215	10G10	75	62	37	17.0	壁	下		
80	SI201	8217	11F6	65	42	27	17.1	壁	下		
80	SI201	8221	10G10	69	48	16	17.2	壁	下		
80	SI201	2008	11F11	50	42	20	17.5	内3	上		
80	SI201	5463	11F11	(62)	(45)	51	17.0	内3	下	土:280	
80	SI201	5465	11F16	38	32	34	17.2	内3	下		
80	SI201	5470	10F25	24	23	8	17.5	内3	下		
80	SI201	5474	10F19	30	28	13	17.4	内3	下		
80	SI201	5781	10F19	24	24	12	17.4	内3	下		
80	SI201	5793	10F15	24	24	16	17.3	内3	下		
80	SI201	8146	10F19	33	30	21	17.2	内3	下		
80	SI201	8218	11F16	42	34	16	17.3	内3	下		
80	SI201	2004	10F14	54	49	42	17.3	内2	上		
80	SI201	2007	11F11	30	28	12	17.6	内2	上		
80	SI201	2038	10F25	24	23	10	17.6	内2	上		
80	SI201	2039	11F21	36	35	14	17.6	内2	上		
80	SI201	2044	11F21	64	60	14	17.6	内2	上		
80	SI201	8609	10F25	31	22	10	17.3	内2	下		
80	SI201	5467	11F21	52	43	19	17.3	内2	下		
80	SI201	5476	10F24	40	32	17	17.3	内2	下		
80	SI201	5481	10F15	34	32	32	17.1	内2	下		
80	SI201	5518	11F11	70	(45)	40	17.0	内2	下		
80	SI201	5562	10F19	40	22	15	17.4	内2	下		
80	SI201	5564	10F14	35	30	20	17.3	内2	下		
80	SI201	8046	10F25	48	38	10	17.4	内2	下		
80	SI201	2054	10F15	48	44	25	17.2	内2	下		
80	SI201	2005	10F14	26	22	14	17.6	内1	上		
80	SI201	2035	10F24	40	34	62	17.0	内1	上		
80	SI201	2047	10F18	88	70	48	17.2	内1	上		
80	SI201	4922	11F21	24	19	18	17.4	内1	上		
80	SI201	5458	11F17	40	30	31	17.2	内1	下		
80	SI201	5482	11F6	48	36	24	17.2	内1	下		
80	SI201	5485	10G5	40	31	31	17.1	内1	下		
80	SI201	5487	11F11	100	82	59	16.9	内1	下	土:279	
80	SI201	5508	10G4	46	42	18	17.3	内1	下		
80	SI201	5511	10F24	44	20	34	17.2	内1	下		
80	SI201	5566	10F14	34	26	11	17.4	内1	下		
80	SI201	5795	10F14	58	36	38	17.1	内1	下		
80	SI201	8179	10F13	30	26	18	17.3	内1	下		
80	SI201	8223	11F22	28	22	10	17.3	内1	下		
80	SI201	8224	11F22	24	22	8	17.3	内1	下		
80	SI201	8452	10G5	26	24	6	17.2	内1	下		
81	SI2000	1902	11E14	28	24	10	17.4	壁	上		
81	SI2000	1958	11E7	36	29	20	17.3	壁	下		
81	SI2000	4887	11E6	73	44	20	17.1	壁	下		
81	SI2000	4892	11E6	35	32	45	17.4	壁	下		
81	SI2000	4899	11E9	70	48	20	17.1	壁	下		
81	SI2000	4926	11E12	29	28	21	17.1	壁	下		
81	SI2000	4928	11E12	46	29	24	17.1	壁	下		
81	SI2000	4993	11E14	67	36	28	17.0	壁	上		
81	SI2000	5188	11D22	44	34	22	17.1	壁	下		
81	SI2000	5189	11D22	88	60	26	17.1	壁	下		
81	SI2000	5193	11E1	26	20	12	17.2	壁	下		
81	SI2000	5349	11D23	62	56	46	16.9	壁	下	土:285	
81	SI2000	5418	11E14	28	23	19	17.1	壁	下		
81	SI2000	5931	11E13	49	36	15	17.1	壁	下		
81	SI2000	5932	11E9	32	24	18	17.2	壁	下		
81	SI2000	5933	11E9	52	48	25	17.1	壁	下		
81	SI2000	5965	11D24・11E4	44	34	27	17.2	壁	下		
81	SI2000	8026	11E11	56	52	20	17.1	壁	下		
81	SI2000	1973	11E2	(28)	(26)	14	17.3	内	上		
81	SI2000	1974	11E2	34	30	14	17.3	内	上		
81	SI2000	4801	11E9	37	30	23	17.2	内	下		
81	SI2000	4889	11E6	45	37	33	17.2	内	下		
81	SI2000	5213	11D23	36	32	14	17.2	内	下		
81	SI2000	5426	11E12	34	33	21	17.1	内	下		
81	SI2000	5435	11E12	23	22	15	17.1	内	下		
81	SI2000	5439	11E9	32	30	13	17.2	内	下		
81	SI2000	5440	11E13	42	38	18	17.1	内	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
81	SI2000	5967	11E4	32	28	5	17.2	内	下		
81	SI2000	5972	11E1	44	40	22	17.1	内	下		
81	SI2000	8029	11E2	40	33	26	17.1	内	下		
81	SI2000	1923	11F7	64	34	18	17.0	内	上		
81	SI2000	8610	11E13	44	26	17	17.0	内	下		
81	SI8474	1285	11E10	24	24	12	17.4	壁	上		
81	SI8474	1927	11E3	(32)	28	20	17.3	壁	上		
81	SI8474	1928	11E3	36	32	8	17.5	壁	上		
81	SI8474	1959	11E10	48	40	20	17.4	壁	上		
81	SI8474	1960	11E10	65	58	18	17.3	壁	上		
81	SI8474	1963	11E5	26	24	16	17.3	壁	上		
81	SI8474	1977	11E3	(34)	(24)	16	17.3	壁	上		
81	SI8474	1999	11E7	24	24	18	17.3	壁	上		
81	SI8474	4807	11E8	32	26	13	17.0	壁	下		
81	SI8474	4968	11E3	58	44	23	17.1	壁	下		
81	SI8474	5415	11E10	46	40	32	17.0	壁	下		
81	SI8474	5417	11E5	32	29	19	17.1	壁	下		
81	SI8474	5419	11E14	34	25	11	17.2	壁	下		
81	SI8474	5421	11E8	29	28	7	17.2	壁	下		
81	SI8474	5422	11E8	26	26	9	17.2	壁	下		
81	SI8474	5423	11E8	26	24	8	17.2	壁	下		
81	SI8474	5424	11E7	26	25	10	17.1	壁	下		
81	SI8474	8182	11E14	28	26	15	17.1	壁	下		
81	SI8474	8183	11E14	27	24	11	17.1	壁	下		
81	SI8473	4929	11F5	52	46	18	17.3	壁	上		
81	SI8473	4996	11E20	34	34	29	17.1	壁	上		
81	SI8473	5404	11E25	44	44	27	17.1	壁	下		
81	SI8473	5427	11E18	76	62	24	17.2	壁	下	± 286・287	
81	SI8473	5429	11F4	120	100	92	17.0	壁	下		
81	SI8473	5516	11E20	44	26	15	17.3	壁	下		
81	SI8473	5517	11F3	62	44	39	17.1	壁	下		
81	SI8473	8165	11E19	39	36	24	17.0	壁	下		
82	SI1951	1337	11F7	17	16	8	17.6	壁	上		
82	SI1951	1339	11F8	20	20	10	17.5	壁	上		
82	SI1951	1341	11F2	62	28	18	17.5	壁	上		
82	SI1951	1361	11E25	50	40	18	17.5	壁	上		
82	SI1951	1386	11E19	36	27	8	17.5	壁	上		
82	SI1951	1392	11F5	39	34	10	17.5	壁	上		
82	SI1951	1393	11E25	(32)	24	12	17.5	壁	上		
82	SI1951	1397	11E19	32	28	8	17.5	壁	上		
82	SI1951	1966	11F9	24	24	10	17.5	壁	上		
82	SI1951	4695	11F5	36	28	20	17.5	壁	下		
82	SI1951	4860	11E25	32	24	39	17.1	壁	下		
82	SI1951	4903	11F5	66	44	12	17.3	壁	上		
82	SI1951	4904	11F10	22	22	10	17.4	壁	下		
82	SI1951	5432	11E13	94	64	18	17.5	壁	下		
82	SI1951	5948	11F8	38	35	26	17.2	壁	下		
82	SI1951	5952	11F8	31	25	21	17.2	壁	下		
82	SI1951	8162	11E18	32	28	27	16.9	壁	下		
82	SI8061	1334	11F3	20	18	8	17.4	壁	上		
82	SI8061	1371	11F13	33	25	35	17.4	壁	上	± 290	
82	SI8061	1983	11F16	32	30	20	17.5	壁	上		
82	SI8061	1984	11F17	28	20	14	17.6	壁	上		
82	SI8061	1985	11F17	40	38	48	17.2	壁	上		
82	SI8061	2001	11F1	32	24	16	17.5	壁	上		
82	SI8061	2009	11F11	44	25	39	17.2	壁	上		
82	SI8061	5464	11F16	64	32	15	17.4	壁	下		
82	SI8061	5493	11F3	35	32	30	17.2	壁	下		
82	SI8061	5946	10F10	40	34	20	17.2	壁	下		
82	SI8061	5957	11F18	42	38	15	17.3	壁	下		
82	SI8061	8611	11F8・9	72	70	10	17.6	壁	上		
82	SI8061	1323	11F12	36	32	42	17.3	内	上		
82	SI8061	1342	11F2	32	32	12	17.6	内	上		
82	SI8061	1968	11F1	20	18	14	17.5	内	上		
82	SI8061	4798	11F8・13	78	64	40	17.2	内	下	± 289	
82	SI8061	5456	11F17	32	28	28	17.2	内	下		
82	SI8061	5480	11F11	38	34	24	17.2	内	下		
82	SI8061	5490	11F12	60	36	17	17.3	内	下		
82	SI8061	5949	11F8	48	(36)	30	17.2	内	下		
82	SI8061	5950	11F8	49	36	29	17.1	内	下		
82	SI8061	5954	11F2	52	42	32	17.1	内	下		
82	SI8061	5973	11F6	42	32	20	17.3	内	下		
83	SI8059	1327	11F18	34	32	24	17.5	壁	上		
83	SI8059	1379	11F24	50	42	8	17.6	壁	上		
83	SI8059	1954	11F10	34	29	18	17.4	壁	上		
83	SI8059	4754	11G4	27	24	9	17.3	壁	下		
83	SI8059	4775	12F21	13	14	9	17.5	壁	下		
83	SI8059	4906	11F25	46	40	15	17.4	壁	下		
83	SI8059	4999	11F13	86	64	38	17.2	壁	上		
83	SI8059	5484	11F23	62	54	16	17.0	壁	下		
83	SI8059	5958	11F18	28	26	13	17.3	壁	下		
83	SI8059	8240	11F8・9	36	32	7	17.3	壁	下		
83	SI8059	8250	11F23	40	32	14	17.2	壁	下		
83	SI8059	8259	11G4・5	38	(32)	22	17.2	壁	下		
83	SI8470	692	12G2	62	58	19	17.5	壁	上		
83	SI8470	693	12G2	68	42	12	17.6	壁	上		
83	SI8470	1307	11G4	44	32	14	17.6	壁	上		
83	SI8470	1308	11G4	32	24	12	17.6	壁	上		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
83	SI8470	4752	11F25	44	36	14	17.2	壁	下		
83	SI8470	4770	12F21	31	24	16	17.5	壁	下		
83	SI8470	4774	12F21	36	31	10	17.5	壁	下		
83	SI8470	4796	11F25	41	32	18	17.4	壁	下		
83	SI8470	4797	11G5	(28)	24	15	17.5	壁	下		
83	SI8470	4911	12G7	82	64	16	17.3	壁	下		
83	SI8470	4915	11G10	36	33	8	17.5	壁	下		
83	SI8470	8265	12F22	65	60	40	17.0	壁	下		
83	SI8471	1306	11G5・10	62	40	14	17.6	壁	上		
83	SI8471	4699	11G5	26	24	11	17.5	壁	下		
83	SI8471	4702	11G3	44	42	18	17.4	壁	下	± 234	
83	SI8471	4704	11G3	72	45	15	17.2	壁	下		
83	SI8471	4755	11G4	(56)	46	14	17.2	壁	下		
83	SI8471	4913	11G10	34	25	8	17.5	壁	下		
83	SI8471	4919	11G8	42	40	24	17.3	壁	下		
83	SI8471	8253	11G3	(22)	21	19	17.2	壁	下		
83	SI8462	1280	12E5	88	68	18	17.4	壁	上		
83	SI8462	1281	12E10	62	40	16	17.6	壁	上		
83	SI8462	1294	12E4	26	24	16	17.4	壁	上		
83	SI8462	1373	12E15	31	23	20	17.4	壁	上		
83	SI8462	4605	12E20	31	24	12	17.3	壁	下		
83	SI8462	4655	12E24	32	24	11	17.3	壁	下		
83	SI8462	4733	12E10	47	41	14	17.2	壁	下		
83	SI8462	4742	12E3	23	23	15	17.3	壁	下		
83	SI8462	628	12E25	52	48	16	17.2	壁	下		
83	SI8462	4782	12E25	30	26	14	17.2	壁	下		
83	SI8462	4924	12E12	24	18	13	17.3	壁	下		
83	SI8462	4925	12E7	28	24	18	17.2	壁	下		
83	SI8462	4930	12E12	26	25	12	17.3	壁	上		
83	SI8462	4933	12E17	28	28	12	17.3	壁	上		
83	SI8462	4934	12E17	46	38	21	17.2	壁	上		
83	SI8462	4977	12E22	16	12	35	17.3	壁	下		
83	SI8462	8197	12E12	(48)	38	17	17.2	壁	下		
84	SI8461	4601	12E15	40	30	25	17.1	壁	下		
84	SI8461	4607	12E19	30	30	13	17.3	壁	下		
84	SI8461	4660	12E19	32	16	7	17.3	壁	下		
84	SI8461	4667	12E19	38	34	10	17.3	壁	下		
84	SI8461	4736	12E10	16	14	9	17.3	壁	下		
84	SI8461	4737	12E10	35	32	12	17.3	壁	下		
84	SI8461	4740	12E8	50	32	16	17.2	壁	下		
84	SI8461	4835	12E10	45	38	32	17.0	壁	下		
84	SI8461	5000	12E13	26	26	21	17.4	壁	上		
84	SI8461	8170	12E8	40	36	14	17.2	壁	下		
84	SI8461	8198	12E13	42	36	19	17.2	壁	下		
84	SI8461	8199	12E13	23	23	15	17.2	壁	下		
84	SI8463	657	12E18	34	30	14	17.4	壁	上		
84	SI8463	1222	13E16	43	30	12	17.5	壁	上		
84	SI8463	1352	12E24	34	33	12	17.5	壁	上		
84	SI8463	1354	12E23	25	22	15	17.4	壁	上		
84	SI8463	1372	12E15	57	50	14	17.4	壁	上		
84	SI8463	4597	12E15	27	27	6	17.3	壁	下		
84	SI8463	4657	12E18	25	25	8	17.3	壁	下		
84	SI8463	4664	12E14	40	30	15	17.3	壁	下		
84	SI8463	4709	12E20	53	43	15	17.2	壁	下		
84	SI8463	4745	12E25	87	58	16	17.3	壁	下		
84	SI8463	4747	12E24	43	(29)	15	17.3	壁	下		
84	SI8463	8172	12E18	32	26	18	17.2	壁	下		
84	SI8466	602	12E17	24	22	13	17.5	壁	上		
84	SI8466	1382	11E20	26	24	10	17.5	壁	上		
84	SI8466	1385	11E20	35	28	10	17.5	壁	上		
84	SI8466	1394	11E25	30	24	12	17.5	壁	上		
84	SI8466	4670	12E11	20	20	12	17.3	壁	下		
84	SI8466	4679	11E20	25	22	10	17.4	壁	下		
84	SI8466	4681	12E22	30	23	10	17.4	壁	下		
84	SI8466	4686	12E21	125	24	15	17.4	壁	下		SD
84	SI8466	4907	12E22	32	30	22	17.3	壁	下		
84	SI8466	4984	12E22	26	22	18	17.4	壁	上		
84	SI8466	5515	11E20	28	20	12	17.3	壁	下		
84	SI8466	8078	12E12	35	30	14	17.2	壁	下		
84	SI8466	8194	11E15	31	26	23	17.0	壁	下		
84	SI8092	1356	12E22	31	28	16	17.5	壁	上		
84	SI8092	4676	12E11	32	30	25	17.6	壁	上		
84	SI8092	4677	11E15	30	(27)	10	17.4	壁	下	± 291	
84	SI8092	4689	12F1	45	33	18	17.4	壁	下		
84	SI8092	4901	11E19	91	67	39	17.2	壁	上		
84	SI8092	4957	12E11	30	24	18	17.2	壁	上		
84	SI8092	4980	12E17	32	24	18	17.2	壁	上		
84	SI8092	4983	12E22	36	34	28	17.2	壁	上		
84	SI8092	5401	12E22	40	32	17	17.3	壁	下		
84	SI8092	5407	11E24	32	32	15	17.3	壁	下		
84	SI8092	5408	11E24	26	24	18	17.2	壁	下		
84	SI8092	5442	11E15	45	33	13	17.2	壁	下		
84	SI8092	5942	12F1	(60)	56	39	17.1	壁	下		
84	SI8092	8167	12E12	28	24	13	17.2	壁	下		
84	SI8092	8233	11F5	42	40	41	17.0	壁	下		
85	SI8465	603	12E17	22	21	12	17.5	壁	上		
85	SI8465	4673	12E17	34	31	20	17.3	壁	下		
85	SI8465	4685	11E25	42	40	34	17.1	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
85	SI8465	4691	12F1	24	21	14	17.2	壁	下		
85	SI8465	4692	12F1	28	28	16	17.4	壁	下		
85	SI8465	4693	12F6	20	19	13	17.4	壁	下		
85	SI8465	4935	12E23	33	26	14	17.2	壁	上		
85	SI8465	4936	12E23	35	32	10	17.3	壁	上		
85	SI8465	4960	12E17	47	29	23	17.3	壁	上		
85	SI8465	4979	12E22	20	18	10	17.0	壁	下		
85	SI8465	4982	12E16	34	28	21	17.2	壁	上		
85	SI8465	5934	12E21	40	35	22	17.2	壁	下		
85	SI8465	5937	12F2・3	50	40	36	17.1	壁	下	土292	
85	SI8465	8234	11E25	38	32	22	17.2	壁	下		
85	SI8465	8286	12F7	29	26	19	17.2	壁	下		
85	SI8468	1365	12F18	52	38	18	17.5	壁	上		
85	SI8468	4610	12F8・9	38	24	13	17.4	壁	下		
85	SI8468	4618	12F13	70	56	17	17.3	壁	下		
85	SI8468	4765	12F18	90	71	15	17.4	壁	下		
85	SI8468	4940	12F8	52	46	16	17.3	壁	上		
85	SI8468	5941	12F6・7	76	46	27	17.2	壁	下		
85	SI8468	8271	12F17	41	40	24	17.1	壁	下		
85	SI8468	8285	12F7	48	40	20	17.2	壁	下		
85	SI8467	665	12F19	42	34	12	17.5	壁	上		
85	SI8467	667	12F19	40	36	12	17.5	壁	上		
85	SI8467	1209	12F14	34	26	10	17.6	壁	上		
85	SI8467	1946	12F14	24	23	10	17.6	壁	上		
85	SI8467	4614	12F9	45	36	17	17.1	壁	下		
85	SI8467	4615	12F14	18	18	10	17.4	壁	下		
85	SI8467	4617	12F8	25	(15)	10	17.4	壁	下		
85	SI8467	4624	12F18	25	24	7	17.5	壁	下		
85	SI8467	4941	12F8	28	24	15	17.3	壁	上		
85	SI8467	5938	12F8	36	(34)	41	17.1	壁	下		
85	SI8467	8269	12F17	24	20	12	17.3	壁	下		
85	SI8467	8270	12F17	48	34	23	16.9	壁	下		
85	SI8467	8279	12F12	40	34	26	17.2	壁	下		
85	SI8467	8282	12F7・8	48	36	24	17.2	壁	下		
85	SI8467	8284	12F8	26	(22)	24	17.1	壁	下		
85	SI8469	694	12F22	66	48	20	17.5	壁	上		
85	SI8469	4764	12F13	(44)	32	12	17.4	壁	下		
85	SI8469	4767	12F22	56	(50)	8	17.4	壁	下		
85	SI8469	4773	12F21	36	27	13	17.4	壁	下		
85	SI8469	4790	12F18	(79)	(50)	17	17.4	壁	下		
85	SI8469	4945	12F18	30	28	9	17.4	壁	上		
85	SI8469	5940	12F12	44	42	21	17.3	壁	下		
85	SI8469	8273	12F13	32	26	18	17.3	壁	下		
85	SI8469	8275	12F13	56	(42)	22	17.2	壁	下		
85	SI8469	8276	12F13	52	36	18	17.3	壁	下		
85	SI8469	8278	12F12	28	26	20	17.2	壁	下		
85	SI8469	8280	12F7	52	52	29	17.1	壁	下		
86	SI8475	666	12F19	22	22	8	17.6	壁	上		
86	SI8475	682	12F25	70	52	19	17.4	壁	上		
86	SI8475	61	13G1	32	30	9	17.5	壁	上		
86	SI8475	62	13G1	42	40	9	17.6	壁	上		
86	SI8475	4619	12F20	43	32	9	17.4	壁	下		
86	SI8475	4622	12F19	42	37	13	17.4	壁	下		
86	SI8475	4623	12F18	36	34	11	17.4	壁	下		
86	SI8475	4769	12G3	58	48	27	17.2	壁	下		
86	SI8475	4777	12G3	45	45	28	17.2	壁	下		
86	SI8475	4947	12F23	30	28	15	17.3	壁	上		
86	SI8475	4948	12F23	(26)	26	10	17.4	壁	上		
86	SI8475	8267	12F23	50	37	22	17.2	壁	下		
86	SI8496	87	13E16	57	46	12	17.4	壁	上		
86	SI8496	98	13E18	52	38	9	17.4	壁	上		
86	SI8496	616	13E16	50	48	7	17.5	壁	上		
86	SI8496	617	13E16	44	40	7	17.5	壁	上		
86	SI8496	620	13E16	56	29	6	17.5	壁	上		
86	SI8496	626	13E6	76	48	15	17.4	壁	上		
86	SI8496	1274	13E3・4	41	27	18	17.2	壁	上		
86	SI8496	1292	13E7	38	36	16	17.3	壁	上		
86	SI8496	1940	13E9	64	56	44	17.0	壁	上		
86	SI8496	4583	13E18	32	31	10	17.2	壁	下		
86	SI8496	4730	13E6	35	38	13	17.2	壁	下		
86	SI8496	4732	13E6	76	62	20	17.1	壁	下		
86	SI8496	4759	12E15	27	24	15	17.2	壁	下		
86	SI8496	4762	13E6	33	33	15	17.2	壁	下		
86	SI8496	4820	13E14	30	30	10	17.2	壁	下		
86	SI8496	4821	13E9	20	19	8	17.2	壁	下		

図版No.	建物名	遺構No.	位置	計測値（cm）			底面標高（m）	種別	確認面	出土遺物	備考
				長径	短径	深さ					
86	SI8496	4824	13E3	26	26	18	17.1	壁	下		
86	SI8496	4865	13E9	30	22	19	17.0	壁	下		
86	SI8497	80	13F7	58	56	22	17.3	壁	上		
86	SI8497	82	13E22	36	28	22	17.3	壁	上		
86	SI8497	1219	13F1・2	20	13	8	17.1	壁	上		
86	SI8497	1919	13E25	20	13	20	17.2	壁	上		
86	SI8497	4528	13E24	31	26	9	17.2	壁	下		
86	SI8497	4571	13F9	34	23	11	17.2	壁	下		
86	SI8497	4573	13F5	40	24	10	17.2	壁	下		
86	SI8497	4588	13E22	32	25	8	17.3	壁	下		
86	SI8497	4712	13E21	34	26	11	17.3	壁	下		
86	SI8497	4763	13E17	28	27	8	17.2	壁	下		
86	SI8497	4841	13E24	19	18	12	17.2	壁	下		
86	SI8497	4843	13E19	32	20	8	17.2	壁	下		
86	SI8497	4844	13E18	45	34	11	17.2	壁	下		
86	SI8497	4849	13F5	19	19	10	17.2	壁	下		
86	SI8497	4850	13F4	72	48	11	17.2	壁	下		
86	SI8497	4855	13F8	49	38	10	17.2	壁	下		
86	SI8497	4856	13F8	45	28	8	17.3	壁	下		
86	SI7843	1235	12E19	52	48	13	17.5	壁	上		
86	SI7843	4656	12E19	42	33	13	17.3	壁	下		
86	SI7843	4663	12E19	33	21	11	17.3	壁	下		
86	SI7843	4671	12E17	41	41	28	17.2	壁	下		
86	SI7843	4786	12E24	18	16	8	17.3	壁	下		
86	SI7843	4931	12E13	33	26	12	17.3	壁	上		
86	SI7843	4937	12F3	28	27	16	17.3	壁	上		
86	SI7843	4986	12E16	26	24	21	17.2	壁	上		
86	SI7843	8196	12E21	38	34	14	17.2	壁	下		
86	SI7843	8295	12E22	34	25	26	17.1	壁	下		
86	SI7843	8299	12F3	64	42	18	17.2	壁	下		
87	SI7844	668	12F14	40	34	12	17.5	壁	上		
87	SI7844	671	12F15	38	36	14	17.5	壁	上		
87	SI7844	1210	12F14	32	20	7	17.6	壁	上		
87	SI7844	1213	12F15	20	18	8	17.5	壁	上		
87	SI7844	1216	13F6	54	52	10	17.4	壁	上		
87	SI7844	4594	13F11	32	27	9	17.3	壁	下		
87	SI7844	4609	12F3	52	24	14	17.3	壁	下		
87	SI7844	4616	12F13	21	21	11	17.4	壁	下		
87	SI7844	4641	13F11	23	22	9	17.3	壁	下		
87	SI7844	76	13F1	30	25	12	17.3	壁	上		
87	SI7844	4717	13F1	15	14	11	17.3	壁	下		
87	SI7844	4720	12F4	60	30	10	17.3	壁	下		
87	SI7844	4746	12F5	30	21	12	17.3	壁	下		
87	SI7844	8277	12F14	36	30	16	17.3	壁	下		
87	SI7845	8	14F12	74	71	38	17.0	壁	下		
87	SI7845	18	14F5	32	30	11	17.2	壁	上		
87	SI7845	19	14F10	38	36	8	17.2	壁	上		
87	SI7845	1921	14F2・7	45	33	18	17.2	壁	上		
87	SI7845	4518	14F3	38	29	14	17.0	壁	下		
87	SI7845	4521	14F4	37	24	11	17.1	壁	下		
87	SI7845	4522	14F9	74	32	10	17.1	壁	下		
87	SI7845	4525	14F4	20	20	6	17.1	壁	下		
87	SI7845	4526	14F3	34	27	6	17.1	壁	下		
87	SI7845	4529	14F4	45	32	7	17.1	壁	下		
87	SI7845	4542	14F15	40	38	10	17.1	壁	下		
87	SI7845	4544	14F19	56	40	16	17.1	壁	下		
87	SI7845	4550	14F19	45	34	16	17.1	壁	下		
87	SI7845	4554	14F18	32	16	17	17.1	壁	下		
87	SI7845	4634	14F3・4	72	56	15	17.0	壁	下		
87	SI7845	4651	14F17	42	32	10	17.1	壁	下		
87	SI7846	12	14F18	30	26	8	17.3	壁	上		
87	SI7846	1931	14F15	38	32	18	17.2	壁	上		
87	SI7846	1932	14F20	30	23	18	17.1	壁	上		
87	SI7846	4540	15F21	16	15	12	17.1	壁	下		
87	SI7846	4541	15F21	18	16	11	17.1	壁	下		
87	SI7846	4549	14F14	40	26	17	17.1	壁	下		
87	SI7846	4551	14F18	30	21	6	17.2	壁	下		
87	SI7846	4553	14F18	47	30	20	17.1	壁	下		
87	SI7846	4555	14F23	32	25	10	17.2	壁	下		
87	SI7846	4557	14F25	22	18	14	17.1	壁	下		
87	SI7846	4558	14F24	63	48	17	17.1	壁	下		
87	SI7846	4560	14G4	30	24	18	17.1	壁	下		
87	SI7846	4562	14F23	58	56	18	17.1	壁	下		
87	SI7846	4577	14F23	36	28	11	17.1	壁	下		

C　掘立柱建物

図版 No.	遺構 No.	位置	分類	計測値（m）								床面積（㎡）	主軸	出土遺物		備考
				主軸全長	桁行長①	桁行長②	梁行長①	梁行長②	梁行長③	突出長①	突出長②			土器・土製品	石器・石製品	
88	SB3491	2D	A 類？										N78° W	293 ～ 295		
89	SB3492	2D	B1 類				2.45						N82° W	296 ～ 302	78・113・307	＞ SB3493
90	SB3493	2D	B1 類				2.6						N80° W	303・304		＜ SB3492
91・92	SB6377	2・3E	B2 類	4.60	4.6	4.5	4.1	4.1				18.7	N40° W	305 ～ 317	70・91・189	＜ SI446
93	SB7701	3・4G	A 類	10.00			3.2			1.00			N10° W	318 ～ 325・1052	241	○
94・95	SB7700	2 ～ 4F	A1 類	10.00	9.15	8.9	3.65	3.8	4.25	0.60	0.50	36.8	N8° W	326 ～ 340	90・266・279・(217)	＜ SB7704、○
96	SB7702	4・5E・F	B1 類	7.25	7.25	6.65	6.1	6.1				42.4	N39° W	341・342		＜ SB7703
97 ～ 101	SB7703	3 ～ 5E・F	A1 類	18.50	18.4	17.5	5.05	4.95		0.40	0.10	89.8	N40° W	343 ～ 378	(11・207・217・270・276・287)	＞ SB7702、＞ SI7610、＜ SB7704
102 ～ 104	SB7704	3 ～ 5E・F	A2 類	20.90	20.1	19.5	4.6	4.1	5.05	0.75	0.40	98.6	N33° W	379 ～ 385	(11・207・217・270・276・287)	＜ SB7700、7703
105 ～ 107	SB7705	4 ～ 6E・F	A2 類	13.80	12.6	12.4	5.5	4.85		0.90	0.40	64.8	N39° W	386 ～ 402	21	
108	SB7706	5・6C・D	B1 類				4.05						N25° W	403 ～ 409	222	○
109・110	SB7707	5・6C・D	B1 類	7.90	7.9	7.5	4.5	3.85				32.1	N33° W	410 ～ 417・450 ～ 457	166	○
111 ～ 115	SB7708	6・7D ～ F	A1 類	19.90	18.5	18.3	4.6	4.4	5.35	0.85	0.60	91.3	N75° W	418 ～ 449・458 ～ 488・1048・1062	116・182・202・278・(202)	＜ SB7710・7711 ＞ SB7709
116・117	SB7709	6・7E・F	B1 類	9.70	9.7	9.55	5.9	5				52.5	N80° W	489 ～ 503	(202)	＜ SB7708、○
118・119	SB7710	6・7E・F	A2 類	14.10	12.5	11.45	4.05	4.45		1.60	0.50	54.4	N75° W	504 ～ 539・1066	(202・275)	○
120 ～ 122	SB7711	6・7D ～ F	A 類	13.70	13.7	13.45	5	5				67.7	N63° W	540 ～ 567	102・(275)	＞ SB7708
123	SB7712	5・6G	A 類				5.2			0.30			N60° W	568 ～ 575	110・200	
124	SB7713	5・6G	A 類				5.1			0.60			N60° W	576 ～ 578		
124・125	SB7714	7D	B2 類		4.35	4.3	3.8	3.7				16.2	N10° E	579 ～ 586		
125	SB7715	13・14D	A1 類	5.70	4.55	4.35	3.25	2.9		0.75	0.50	13.7	N51° E	587		
126	SB7716	14C・D	A2 類	7.60	6.6	6.6	3.4	3.05		0.30	0.60	21.3	N55° E			

（柱穴）

図版 No.	遺構 No.	位置	建物名	計測値（cm）				底面標高（m）	種別	確認面	平面形	出土遺物			重複	備考
				長径	短径	深さ	アタリ					土器・土製品	石器・石製品	動・植物遺存体		
88	1858	2D4	SB3491	75	63	78	16	16.75		上面		294				
88	1860	2D19	SB3491	76	46	50	16	17.10		上面	長楕円					
88	3479	2D18	SB3491	(86)	75	6	20	16.55	棟？	下面					＜ P3004 等	
88	3024	2D14	SB3491	86	61	69	16	16.80		下面	楕円	293				
88	3463	2D8	SB3491	52	43	53	15	16.70	棟？	下面		295				
89	3020	2D9・10・14・15	SB3492	204	148	140	50	16.10		下面	楕円	296 ～ 298	113・307		＞ P3021	
89	3025	2D4・5	SB3492	162	(145)	150	60	15.90		下面		299 ～ 301	78		＞ P3210	
89	3395	2D8	SB3492	226	108	170	45	15.95		下面	長楕円	302				
90	3021	2D14・15	SB3493	(182)	126	141	35	16.05		下面	楕円	303・304			＜ P3020	
90	3394	2D13	SB3493	120	96	173	30	15.75		下面						
91	6005	3E6・7・11・12	SB6377	140	126	121	-	16.30		下面		305 ～ 307	189			
92	6137	2E20	SB6377	161	122	88	30	16.55		下面	楕円	308・309				
92	6138	2E13・14	SB6377	148	140	101	35	16.45		下面		315 ～ 317	70・91			
91	6153	2E5	SB6377	118	112	137	45	16.10		下面		310 ～ 314				
92・93	1777	3G8	SB7701	81	61	99	-	16.70		上面		321	241			
92・93	2605	3G10・15	SB7701	(100)	94	92	-	16.60		上面					＜ P2606	
92・93	2606	3G15	SB7701	(89)	66	112	-	16.55		上面		1052			＞ P2605	
92・93	2607	4G6	SB7701	130	93	80	45	16.90	棟	下面	楕円	324・325				
92・93	2691	3G7	SB7701	-	-	90	-	16.85		上面		323				
92・93	2697	3G5・4G1	SB7701	74	58	83	-	16.80		上面						
92・93	2734	3G10	SB7701	84	(75)	102	-	16.55		上面		322				
92・93	7318	4G1	SB7701	92	91	65	30	17.05	棟	下面	楕円					
92・93	7341	3G4	SB7701	124	67	82	-	16.70		下面		318 ～ 320				
94・95	1712	3F24	SB7700	85	76	64	-	16.70		上面		333 ～ 336				
94・95	1713	3F22	SB7700	69	68	97	-	16.65		上面						
94	1714	3F12・13	SB7700	98	84	108	-	16.50		上面		327	266・279			
94	1715	3F13・14	SB7700	82	70	84	-	16.70		上面						
94・95	1760	3F17	SB7700	111	104	107	35	16.40	棟	下面		339・340	90			
94・95	1771	3F23	SB7700	75	66	104	-	16.80		上面		338				
94・95	2750	3F15	SB7700	97	80	65	-	16.75	棟	上面						
94・95	6195	3F11･12･16･17	SB7700	104	80	103	-	16.50		下面		328・329				
94・95	6252	3G1	SB7700	87	83	126	25	16.30		下面						
94・95	6258	2F20	SB7700	46	42	72	-	17.00		下面						
94・95	6312	2F25	SB7700	106	99	125	25	16.40	棟	下面		337				
94	7623	3F9・10・14・15	SB7700	90		108	35	16.60		下面		326				
94・97・101・102	1701	3F20・25	SB7700・7703・7704	160	140	120	50	16.40		下面		330 ～ 332	217	哺乳類微		アタリ 2
96 ～ 98	455	4E12･13･17･18	SB7702・7703	250	170	136	50	16.05		下面		346				アタリ 2
96・97・100	464	4F4・5	SB7702・7703	176	140	100	50	16.45		上面		369・370			＞地炉 1720	
96 ～ 98	1102	4E4・5・9・10	SB7702・7703	260	150	117	50	16.30		下面		341・343 ～ 345				アタリ 2
96 ～ 98	1703	4E8・9・13・14	SB7702・7703	270	154	120	50	16.30		上面		347・348		哺乳類微		アタリ 2
96・97・100	1705	5E12・13	SB7702・7703	200	140	138	45	16.25		上面	楕円	362 ～ 366				
96・97・100	1706	5E16・21	SB7702・7703	160	150	120	45	16.20		上面		367・368				

図版 No.	遺構 No.	位置	建物名	計測値（cm）				底面標高（m）	種別	確認面	平面形	出土遺物			重複	備考
				長径	短径	深さ	アタリ					土器・土製品	石器・石製品	動・植物遺存体		
97・101	1704	5E6	SB7703	145	110	140	35	16.20	棟	上面	楕円					
97・101	1707	4E19・24	SB7703	150	140	102	30	16.40	棟	上面		377・378				
97・101	1709	4F7	SB7703	150	140	142	45	16.15	棟	下面						
97・99・102	422	3F5・10、4F6	SB7703・7704	230	200	131	55	16.15		下面		353 ～ 356		哺乳類微		
97・100・102	433	4F8・9・13・14	SB7703・7704	160	160	119	50	16.50		下面			11			
97・99・102	435	3F14・15	SB7703・7704	203	198	130	65	16.20		下面		357 ～ 361				アタリ 2
97・101・102	437	4F12・13・17・18	SB7703・7704	216	161	127	70	16.35		下面		371 ～ 373	276・287			
97・101・102	458	4F16・21	SB7703・7704	203	180	119	60	16.40		下面		374 ～ 376	207			
97・99・102	1702	4E8・9・13・14	SB7703・7704	230	160	159	45	15.95		下面		349 ～ 352・381	270			アタリ 2
102・104	457	4F3	SB7704	83	66	111	45	16.45	棟	上面						
100・102・103	465	4F4・5・9・10	SB7704	96	81	111	35	16.55		上面		383				
102・103	1708	4E23	SB7704	95	80	103	35	16.40		上面		379・380				
102・104	1710	4F11	SB7704	94	83	112	40	16.40	棟	上面		385				
102・104	2748	5E7・8	SB7704	105	85	123	40	16.35	棟	上面	楕円	384				
102・103	2749	5E17	SB7704	128	105	115	35	16.35		下面	楕円					
102・103	3181	5C22	SB7704	78	78	48	-	17.10		下面						
102・103	6890	5E13	SB7704	80	80	67	35	16.80		下面						
102・104	7122	4E20	SB7704	116	98	76	40	16.65	棟	下面						
102・103	7124	4E10、5E6	SB7704	120	87	68	-	16.75		下面	楕円					
102・103	7127	4E14・19	SB7704	89	65	80	30	16.35		下面						
102・103	7358	5E21	SB7704	72	66	105	40	16.45		下面		382				
105・106	479	4F15	SB7705	135	100	104	-	16.55		上面	楕円	388				
105・107	2918	5F17・22	SB7705	142	138	87	-	16.55		下面		396 ～ 402	21			
105・106	6791	5F9	SB7705	106	84	63	-	16.80		下面	楕円					
105・106	6825	5F13	SB7705	168	138	86	50	16.60		下面		394・395				
105・106	6889	5E18	SB7705	122	104	89	40	16.55		下面		389				
105・107	6918	5E20、6E16	SB7705	?	52	50	-	17.00	棟	下面						
105・106	6930	5F5	SB7705	106	93	78	40	16.80		下面		393				
105・106	6991	5F1	SB7705	96	94	91	45	16.55		下面		390・391				
105・107	6999	5F16	SB7705	102	96	95	40	16.40	棟	下面						
105・106	7051	5E22	SB7705	102	90	83	45	16.55		下面						
105・107	7059	5F3・8	SB7705	122	114	76	-	16.60	棟	下面						
105・106	7206	5E14	SB7705	152	100	105	-	16.45		下面	楕円	386・387				
105・106・116	879	6E21・22	SB7705・7709	285	172	83	(40)	16.85		下面		392・491 ～ 493				
108	307	6C21、6D1	SB7706	200	190	174	50	15.95		下面		407				
108	1165	5D13・14	SB7706	140	126	142	40	16.15		下面		408・409	222			
108	1837	5D2・7	SB7706	166	118	150	50	16.00		上面	楕円	403 ～ 406				
109・110	1617	5D15・20、6D11・16	SB7707	198	166	132	55	15.85		下面		412				
109・110	4064	6C23、6D3	SB7707	192	159	148	90	16.10		下面		410・411	166			
109・110	6542	6D9・10	SB7707	170	162	110	50	16.25		下面		413 ～ 415				
109・110・116	7118	6D16・17・21・22	SB7707・7709	278	160	102	70	16.30		下面		416・417				アタリ 2
111・113	3501	6D20、7D16・21	SB7708	182	130	93	40	16.35		下面	楕円	448・449				
111・113	4013	6D25、6E5、7D21、7E1	SB7708	206	194	136	60	16.25		下面		450 ～ 457・1112		哺乳類微		
111・112	4044	6D23・24、6E23	SB7708	250	222	114		16.30		下面		421 ～ 427・1048	182			
111・114	4050	6E25、6F5	SB7708	170	116	108	45	16.30		下面		464 ～ 469			＞P4049	
111・115	4053	6F19	SB7708	(154)	130	108	40	16.55	棟	下面		486 ～ 488・536			＜P4054	
111・114	4056	6F10	SB7708	(196)	173	122	55	16.40		下面		470 ～ 476	278		＜4327・4007	
111・112	4057	6E23、6F3	SB7708	170	(156)	80	55	16.55		下面		441 ～ 443・526	202（P4058と共有）		＜P4060	
111・115	4351	6F4	SB7708	128	110	93	30	16.50	棟	下面		482	116	哺乳類微		
111・113	6539	6F7・8	SB7708	170	166	107	45	16.60		下面		444 ～ 447・1062		木の実		
111・114	6805	6D19・20	SB7708	143	122	120	35	16.15	棟	下面		480・481				
111・112	7009	6D18・19	SB7708	165	124	107	40	16.00		下面	楕円	418 ～ 420				
111・114	7065	6E10、7E6	SB7708	110	98	87	55	16.50		下面		458・459			＜P6549	
111・115・116	6515	6E9・10・14・15	SB7708・7709	226	158	88	40	16.35	棟	下面		483 ～ 485				
116	6536	6E14・15	SB7709	160	(136)	116	50	16.30		下面						
111・113・118	4004	6E20、7E16	SB7708・7710	182	156	114	50	16.25		下面		460 ～ 463		木の実		
111・114・118	4008	6F15・20	SB7708・7710	138	134	70	40	16.70		下面		477 ～ 479				
111・114・118	4059	6E13・17・18	SB7708・7710	190	184	93	55	16.60		下面		432 ～ 440・504・505				
111・112・118	4398	6E7・8・13	SB7708・7710	222	198	120	45	16.30		下面		428 ～ 431				アタリ 2
111・113・118	6562	6F12・13	SB7708・7710	193	110	115	45	16.50		下面		512 ～ 515		哺乳類微		
116・117	4041	6D24・25	SB7709	202	173	89		16.40		下面		494 ～ 498				
116・117	4062	6E11・12・16・17	SB7709	210	166	98		16.50		下面	楕円	490				
116・117	7090	6E6・7	SB7709	150	112	97		16.45		下面	楕円	489				
115・116・118	4058	6E24	SB7709・7710	211	171	115	50	16.35		下面	楕円	499 ～ 503				
114・118	4049	6F5	SB7710	(196)	(145)	110	50	16.30		下面		523 ～ 527			＜P4050	

図版 No.	遺構 No.	位置	建物名	計測値（cm）				底面標高（m）	種別	確認面	平面形	出土遺物			重複	備考
				長径	短径	深さ	アタリ					土器・土製品	石器・石製品	動・植物遺存体		
118・119	4054	6F13・14	SB7710	174	130	132	55	16.30	棟	下面	楕円	536 ～ 539・1066			＞P4053	
112・118	4060	6E23	SB7710	140	125	86	40	16.50		下面		506 ～ 508	202（P4057と共有）			
118・119	4346	6F9	SB7710	142	139	134	40	16.40	棟	下面		533 ～ 535				
118・119	4353	6E14・19	SB7710	140	114	107	40	16.55	棟	下面		529 ～ 531				
118・119	6522	6F2・3	SB7710	174	136	118	60	16.30		下面	楕円	509 ～ 511				
118・119	6538	6E4	SB7710	140	124	80	-	16.70		下面		528・532		魚類微、哺乳類少		
118・119	6549	6E5・10、7E6	SB7710	197	149	90	50	16.50		下面	楕円	516 ～ 522・544	275（P6548と共有）		＞P7065、＜P6548	
120・122	997	8D16	SB7711	128	128	(117)	35	16.05	棟	上面		565				
120・121	3505	7D21・22	SB7711	105	100	78	35	16.55		下面		540	102			
120・121	4007	6F4・5・9・10	SB7711	146	142	85	55	16.55		下面		548 ～ 554			＞P4056	
120・122	4015	7E12	SB7711	88	71	108	-	16.30		下面	楕円	566・567				
120・121	4016	7E11	SB7711	98	90	88	40	16.50		下面		545				
120・121	4018	6E20・25	SB7711	132	87	90	-	16.45		下面	長楕円	546・547				
120・122	4265	7F7	SB7711	105	100	122	30	16.40		下面		564				
120・122	4408	7E23	SB7711	94	86	114	-	16.40		下面		561 ～ 563		哺乳類微		
120・122	6534	7E18	SB7711	100	82	100	-	16.45		下面	楕円	557 ～ 560				
120・121	6548	7E6	SB7711	250	106	86	25	16.45		下面	長楕円	541 ～ 544	275（P6549と共有）		＞P6549	
120・121	6634	7E8・9・13・14	SB7711	152	88	113	40	16.35		下面	長楕円					
120・121	6744	7E4	SB7711	79	78	96	-	16.45		下面		555・556				
123	4009	6G8・9	SB7712	181	155	108	65	16.55		下面		571・572				
123	4014	6G2・3・7・8	SB7712	142	(142)	120	45	16.50	棟	下面		573 ～ 575	110・200			
123	4304	6G1	SB7712	165	140	122	-	16.50		下面		568				
123	6993	5G15、6G11	SB7712	(155)	(142)	123	55	16.40		下面		569・570				
124	4293	6G13	SB7713	92	86	100	40	16.70		下面						
124	4294	6G7	SB7713	110	74	102	40	16.65	棟	下面		576 ～ 578				
124	7622	6G6	SB7713	88	80	84	-	16.80		下面						
124・125	961	7D4・9	SB7714	128	88	41	-	16.65		上面		584 ～ 586				
124・125	962	7D14・15・19・20	SB7714	128	97	91	25	16.45		上面	楕円	582・583				
124	3506	7D12・17	SB7714	130	110	75	30	16.50		下面		579 ～ 581				
124・125	3507	7D2・7	SB7714	102	100	91	-	16.45		下面						
125	5081	14D6	SB7715	79	70	40	-	16.95		下面						
125	5084	14D22	SB7715	64	58	28	-	16.90		下面		587				
125	5126	14D18	SB7715	50	38	30	-	16.95	棟	下面						
125	5132	14D13	SB7715	70	43	20	-	17.10		下面	長楕円					
125	5249	14D6	SB7715	42	40	21	-	17.05	棟	下面						
125	5277	13D15	SB7715	76	45	32	-	16.95		下面	長楕円					
126	5088	14D3	SB7716	42	38	26	-	17.00		上面						
126	5044	14D15	SB7716	56	41	16	-	17.10	棟	下面	楕円					
126	5048	14D10・15	SB7716	80	74	44	-	16.75		下面						
126	5066	14D3・4	SB7716	103	70	26	-	17.10		下面	楕円				＜P729	
126	5078	14D2	SB7716	48	48	22	-	17.10	棟	下面						
126	5114	14D13	SB7716	80	56	20	-	17.10		下面	楕円					
126	5117	14D9	SB7716	58	58	36	-	16.90		下面						
126	5130	14D19	SB7716	66	56	24	-	17.10		下面						
126	5136	14D7	SB7716	68	46	47	-	16.75		下面	楕円					
126	5173	14D6・7	SB7716	78	65	70	-	16.60		下面						

D　杭列

図版 No.	遺構 No.	位置	確認面	長さ（m）	柱穴間隔（m）					主軸	出土遺物			重複	備考
					1	2	3	4	5		土器・土製品	石器・石製品	動・植物遺存体		
127	杭列 1	5D ～ F	上下面	15.0	3.3	2.6	2.3	3.7	3.0	N75° W	588				
128	杭列 2	5D、6D ～ F	上下面	16.6	5.3	5.6	5.7			N90° W	589 ～ 592				

（柱穴）

図版 No.	遺構 No.	位置	確認面	遺構名	計測値（cm）				底面標高（m）	平面形	出土遺物			重複	備考
					長径	短径	深さ	アタリ			土器・土製品	石器・石製品	動・植物遺存体		
127	P1619	5D20	上面	杭列 1	80	(80)	130		16.20	円形				＜P1617	
127	P3260	5D25、5E5	下面	杭列 1	92	83	96	40	16.40	円形					
127	P7205	5E9・10	下面	杭列 1	(112)	88	94		16.50	円形	588				
127	P7334	5E15	下面	杭列 1	76	65	92		16.50	円形					
127	P7323	5E24・25	下面	杭列 1	64	64	75		16.70	円形					
128	P7227	5F4・5・9・10	下面	杭列 1	108	75	72		16.70	楕円形					
128	P1615	5D15	上面	杭列 2	(130)	90	114	40	16.35	楕円形	589			＜P1859	
128	P7046	6D21・6E1	下面	杭列 2	104	96	109	32	16.50	円形	590 ～ 592				
128	P7612	6E11	下面	杭列 2	104	90	95		16.25	円形				＝P4062	
128	P6734	6F2	下面	杭列 2	108	64	48		17.10	長楕円形					

E　柱穴（P）

1）大型

図版No.	遺構 No.	位置	確認面	平面形	計測値（cm）				底面標高（m）	出土遺物			重複	備考
					長径	短径	深さ	アタリ		土器・土製品	石器・石製品	動・植物遺存体		
129	1865	2D23	上面	楕円形	160	110	153	50	16.00	594・595				
129	302	6C21	下面		210	(205)	186	35・60	15.75	596・597		哺乳量多		
129	1859	5D10	下面	楕円形	190	130	150	40・80	16.00	598			＞P1615	
130	304	6C21	上面	楕円形	170	150	152	40	16.00	599・600				
130	399	6D11	下面	円形	100	90	134	40	16.20	601				
130	4327	6F5・10	下面	円形	100	82	100	30	16.40	602			＞P4056	

2）小型

図版No.	遺構 No.	位置	確認面	平面形	計測値（cm）				底面標高（m）	出土遺物			重複	備考
					長径	短径	深さ	アタリ		土器・土製品	石器・石製品	動・植物遺存体		
130	571	3D24	上面	円形	24	24	64		16.85	603	128 ～ 153			
130	1850	2E3	上面	円形	40	35	62		16.95	604・605	282			

F　埋設土器（SH）

図版No.	遺構 No.	位置	確認面	計測値（cm）			埋葬状態	欠損状態	付随物	埋設方法	出土遺物			重複	備考
				長径	短径	深さ					土器・土製品	石器・石製品	動・植物遺存体		
131	6340	2E22	下面	26	23	22	A	4	a	i	673				
131	1046	2G4	下面	20	20	9	A	2	a	i	674				
131	583	4C24	上面	29	29	18	A	1	b	i	675・676				
131	872	6F12	上面	42	33	6	A	2	a	i	677				
131	930	7D6	上面	38	30	30	A	1	a	i	678		魚類少量		
131	3554	8D4	下面	36	30	23	A	2	a	i	679				
131	3753	8E9	下面	45	39	23	A	2	c	i	680				
131	825	10E20	上面	22	18	21	A	2	a	i	681				
131	181	13D11	上面	36	27	18	A	2	a	iii	684				
131	180	13D11	上面	47	34	36	A	2	a	iii	683	173			
131	242	9G4	上面	24	22	15	B	3	a	i	682				
131	659	17D22・17E2	上面	26	24	15	A	1	a	i	685			＜P639	

G　袋状土坑（SK）

図版No.	遺構 No.	位置	確認面	計測値（cm）			平面形	出土遺物			重複	備考
				長径	短径	深さ		土器・土製品	石器・石製品	動・植物遺存体		
132	5686	10E8・9	下面	132	128	51	円形	686 ～ 691		魚類・哺乳類特に多		
132	1318	11F3・4・8・9	上面	172	157	56	不整円形	692・693		哺乳類微量		
132	1317	11F9	上面	155	152	52	円形	694・695		哺乳類微量		
133	1316	11F13・14	上面	160	113	69	楕円形	696 ～ 709		哺乳類微量		
133	1912	11F19・20・24・25	上面	182	142	56	楕円形	713 ～ 717		魚類・哺乳類微量		
133	4998	11F14	上面	124	115	46	円形	718 ～ 721・1071		哺乳類微量		

H　土坑（SK）

図版No.	遺構 No.	位置	確認面	計測値（cm）			平面形	断面形	主軸	出土遺物			重複	備考
				長径	短径	深さ				土器・土製品	石器・石製品	動・植物遺存体		
134	SK536	2D8・13	上面	230	107	76	長楕円形Ⅱ	台形状	N80° W	722 ～ 725			＞P3020・3021	
134	SK535	2D9・10・14・15	上面	208	120	25	長楕円形Ⅰ	皿状	N57° E	726・727	4		＞P3394・3395	
135	SK1861	2D20	上面	109	94	36	円形	半円状	N32° W	728 ～ 730、1103				
135	SK1864	2D20	上面	100	74	18	楕円形	皿状	N10° E					
135	SK3454	3D9	下面	87	69	14	不整方形	皿状	N12° E				＜P3454	
135	SK6148	2E12	下面	70	37	13	長楕円形Ⅰ	皿状	N62° E					
135	SK3216	3D18・19・23・24	下面	248	181	68	楕円形	台形状	N28° E	731・732				
135	SK1035	2E8・9・13・14	上面	99	50	20	長楕円形Ⅰ	皿状	N47° W					
135	SK6174	2E14	下面	(99)	83	28	円形	台形状	N12° E				＜P6357	
135	SK6427	3E24	下面	(134)	118	40	円形	皿状	N90° W				＞P2975・6188・6200	
135	SK1023	2E14・15	上面	(124)	70	22	長楕円形	皿状	N82° W	733	107		＜SK1026、＞P6372	
135	SK1026	2E14・15・19・20	上面	119	61	24	長楕円形Ⅰ	皿状	N82° W				＞SK1023・P6382	
135	SK6020	3E19・20	下面	63	53	8	楕円形	皿状	N21° W				＜P2975・6188・6200	
135	SK450	2F10	上面	68	54	10	不整楕円形	皿状	N13° W	1065				
135	SK1053	2F10	上面	70	70	17	不整円形	皿状	N10° W					
136	SK444	2F14・19	上面	(112)	-	10	隅丸方形	皿状	N59° W				＜SD445	
136	SK6310	3G1	下面	90	70	33	楕円形	半円状	N2° W					
136	SK6300	3F3	下面	60	38	11	長楕円形Ⅰ	皿状	N58° E					
136	SK6248	3F14	下面	70	41	13	長楕円形Ⅰ	皿状	N61° W				＞P6030・6029	
136	SK589	4C23・24	上面	-	-	23	円形	弧状						
136	SK1127	4C24・25、4D4・5	上面	87	65	130	不整長楕円形Ⅰ	階段状	N7° W	734		哺乳類微	＜P584	
136	SK1108	5C21	上面	166	72	18	長楕円形Ⅱ	皿状	N90° W					
136	SK573	4C21、4D1	上面	150	94	26	不整楕円形Ⅰ	皿状	N16° W					
136	SK1121	4D25、5D21	上面	92	70	14	楕円形	皿状	N39° E					
136	SK1870	4D22・23	上面	90	80	17	円形	皿状	N28° W					
136	SK3220	5C21	下面	154	70	66	長楕円形Ⅱ	台形状	N80° E	735				
136	SK3148	4D18・23	下面	(104)	71	24	長楕円形Ⅱ	皿状	N62° W	736			＜石囲炉 567	
136	SK3147	5E1	下面	120	-	28	長楕円形	皿状	N11° E	737				
136	SK1620	6E1	上面	80	70	16	円形	皿状	N1° W					
137	SK473	4G7・8・12	上面	240	144	49	長楕円形Ⅰ	弧状	N39° W					
137	SK6725	6G8	下面	(153)	(124)	(44)		皿状	N10° E	738・739			＜P4009	

図版No.	遺構 No.	位置	確認面	計測値（cm）			平面形	断面形	主軸	出土遺物			重複	備考
				長径	短径	深さ				土器・土製品	石器・石製品	動・植物遺存体		
137	SK6663	6G9	下面	(93)	91	(30)		皿状	N5° W	740			＜P4009	
137	SK7321	4G3	下面	91	75	11	円形	皿状	N4° E					
137	SK3502	7C23・7D3	下面	126	115	30	円形	弧状	N82° W	741 ～ 744				
137	SK3591	7D9・10	下面	146	86	51	長楕円形Ⅰ	台形状	N12° E	745				
137	SK917	7D14	上面	105	95	12	円形	皿状	N4° E	746・747		哺乳類微	＞SK3596	
137	SK3596	7D14	下面	107	96	40	円形	台形状	N77° E				＜SK917	
137	SK997	8D16	上面	85	72	10	円形	皿状	N90° W					
138	SK3597	8D18	下面	92	90	30	円形	台形状	N53° E	748				
138	SK3615	8D14・19	下面	95	68	30	隅丸長方形Ⅰ	台形状	N80° W					
138	SK3758	8E4・9	下面	128	104	40	円形	台形状	N30° W	751	127			
138	SK3857	8E10・15	下面	(165)	77	26	長楕円形Ⅱ	台形状	N49° W				＜P3863	
138	SK3858	8E10・15	下面	126	90	20	楕円形	皿状	N63° W				＜P3864	
138	SK3856	8E13・14	下面	110	84	12	楕円形	皿状	N55° E					
138	SK3754	8E19	下面	78	61	20	楕円形	皿状	N65° E	748・749、1102				
138	SK3855	8E24・25	下面	145	140	15	円形	皿状	N21° E		161		＜P2235・2236・3861	
138	SK3902	8F12・13	下面	137	120	20	円形	皿状	N73° E					
138	SK2337	8G6	上面	86	74	12	円形	皿状	N13° E				＞SK2338	
138	SK2338	7G5・10、8G6	上面	(124)	84	17	楕円形	皿状	N31° E	750			＜SK2337	
138	SK2274	8F25、8G5	上面	132	100	21	楕円形	皿状	N73° E					
139	SK3695	9D5・10、10D1・6	下面	166	162	60	円形	台形状	N66° W	752 ～ 755	188・242・277			
139	SK3922	10D13	下面	140	116	25	円形	皿状	N50° E	756 ～ 759	269		＜SK945	
139	SK3946	10D21・22、10E1・2	下面	300	245	33	円形	皿状	N86° W	760 ～ 763			＜P381・342・382	C14 測定
140	SK907	9D11	上面	110	85	12	楕円形	皿状	N67° E					
140	SK936	9D17	上面	155	45	12	長楕円形Ⅱ	皿状	N7° W					
140	SK331	9D8・13	下面	142	91	31	隅丸長方形Ⅰ	台形状	N77° E					
140	SK901	9D8	上面	95	70	16	不整楕円形	皿状	N40° E					
140	SK934	9D14・19	上面	170	130	37	楕円形	皿状	N59° W					
140	SK385	9D19・24	上面	145	90	33	長楕円形Ⅰ	皿状	N45° W	764				
140	SK348	9D14・15・19・20	上面	149	83	38	長楕円形Ⅰ	弧状	N85° W	765・766、1090				
140	SK340	10D2	上面	95	75	24	楕円形	弧状	N77° W	767・768				
140	SK334	10D18	上面	134	89	23	楕円形	皿状	N17° E		281			
140	SK945	10D8・13	上面	90	60	14	楕円形	皿状	N73° W				＞SK3922	
141	SK2237	9E2・7	上面	125	54	23	長楕円形Ⅱ	皿状	N72° E					
141	SK2257	9E7	上面	106	87	13	円形	皿状	N45° W				＞SK2256	
141	SK2256	9E7	上面	120	50	18	長楕円形Ⅱ	皿状	N75° E				＜SK2257	
141	SK278	9E15	上面	100	48	23	長楕円形Ⅱ	弧状	N34° E					
141	SK814	9F13・14	上面	122	53	36	長楕円形Ⅱ	台形状	N24° W					
141	SK206	9G4・9	上面	132	80	30	長楕円形Ⅰ	皿状	N72° E				＜P847	
141	SK2366	9F22	上面	92	32	14	長楕円形Ⅱ	皿状	N42° E					
141	SK125	11C21	下面	-	-	80		台形状	?	769				
141	SK109	11C23・24	上面	-	69	17	長楕円形	台形状	N35° W					
141	SK1407	11C24・25	上面	137	104	25	楕円形	弧状	N82° E					
141	SK1406	11D24・25、11D5	上面	97	24	8	長楕円形Ⅱ	皿状	N5° W					
142	SK122	11D5	上面	145	126	24	不整方形	皿状	N7° E	770・771				
142	SK5285	12C23	下面	122	90	20	隅丸方形	皿状	N56° E					
142	SK5225	12D3	下面	(100)	68	18	楕円形	皿状	N57° E					
142	SK5228	12C24	下面	(95)	(82)	14	楕円形	皿状	N56° W					
142	SK5229	12C25	下面	(123)	(105)	8	楕円形	皿状	N52° W					
142	SK5305	13C21	下面	(68)	42	10	長楕円形	皿状	N75° W				＞SK5306	
142	SK5306	12C25、13C21	下面	88	58	10	楕円形	皿状	N10° E				＜SK5305	
142	SK156	12D11・12・16・17	下面	174	164	83	隅丸方形	弧状	N31° E	772・773				
142	SK5353	12D11・16	下面	194	100	44	長楕円形Ⅰ	弧状	N86° W					
142	SK5278	13D11・16	下面	90	60	36	楕円形	台形状	N75° W				＜SH181	
143	SK123	11D24・25、11E4・5	下面	305	240	30	楕円形	皿状	N68° W	776 ～ 786				
143	SK5240	12D24・25	下面	(180)	120	40	楕円形	弧状	N2° E				＜SK5239	
143	SK5239	12D24	下面	72	(42)	25	長楕円形Ⅰ	台形状	N67° W				＜SK5238、＞SK5240	
143	SK5238	12D24	下面	82	78	28	不整円形	台形状	N12° E				＞SK5239	
143	SK1388	11E24・25	上面	132	74	22	不整長楕円形Ⅰ	皿状	N8° W					
143	SK1324	11E19・24	上面	180	94	13	長楕円形Ⅰ	皿状	N47° E					
143	SK4997	11E14・15	上面	196	88	52	長楕円形Ⅱ	弧状	N28° E					
143	SK4985	12E22・23、12F2・3	上面	109	94	14	円形	皿状	N18° E					
144	SK4791	12F12・13・17	下面	(344)	-	30	隅丸方形	皿状	N73° W				＜SK4792	
144	SK4792	12F6・7・11・12・16・17	下面	408	238	65	長楕円形Ⅱ	台形状	N79° W				＞SK4791・4793・4794	
144	SK4794	11F15・20・25、12F11・16・21	下面	(276)	(263)	42	不整楕円形	弧状	N10° E				＜SK4792	
144	SK4793	11F10・15、12F6・11	下面	(287)	156	40	長楕円形	皿状	N4° E				＜SK4792	
144	SK697	12F17・18	上面	198	90	18	長楕円形Ⅱ	皿状	N25° E		109			
144	SK1279	12E5	上面	(95)	(80)	9	円形	皿状	N52° W					
144	SK637	12E15	上面	64	50	13	楕円形	皿状	N40° E					
145	SK1231	12E14・15	上面	80	57	18	長楕円形Ⅰ	皿状	N40° W				＜SK636	
145	SK636	12E14・15・19・20	上面	107	72	22	長楕円形Ⅱ	皿状	N75° W				＞SK1231	
145	SK695	12F22	上面	80	75	15	円形	皿状	N64° E				＞SK696	
145	SK696	12F16・17・21・22	上面	100	82	8	円形	皿状	N54° W				＜SK695	
145	SK4768	12F23・24、12G3・4	下面	(188)	(146)	60	楕円形	階段状	N25° E					

図版No.	遺構No.	位置	確認面	計測値（cm）			平面形	断面形	主軸	出土遺物			重複	備考
				長径	短径	深さ				土器・土製品	石器・石製品	動・植物遺存体		
145	SK680	12F23	上面	115	77	23	楕円形	皿状	N90° W					
145	SK79	13F2・3・7・8	下面	211	203	42	不整円形	弧状	N33° W	775			＜SK79	
145	SK78	13F2・3・7	下面	268	-	40	不整円形	弧状	N40° W	774			＞SK78	
145	SK75	12F20・25、13F1・6	下面	294	212	56	不整楕円形	台形状	N9° W					
145	SK1208	12F15・20、13F11・16	上面	77	68	8	円形	皿状	N0°					
146	SK5177	14C21	下面	100	62	34	長楕円形Ⅱ	台形状	N46° W					
146	SK5065	14D4	下面	80	68	10	円形	皿状	N20° W					
146	SK5185	14D10	下面	108	94	30	隅丸方形	弧状	N53° E					
146	SK5049	14D10	下面	90	46	34	長楕円形Ⅰ	台形状	N21° E					
146	SK115	14D2・3・7・8	上面	196	115	31	長楕円形Ⅰ	皿状	N43° E	788	103		＜P717	
146	SK5280	13D5、14D1	下面	91	67	18	不整円形	皿状	N69° W	787			＞P5179	
146	SK5115	14D9・14	下面	72	64	16	円形	皿状	N43° W					
146	SK748	14D14・19	上面	108	90	35	円形	皿状	N26° E					
146	SK5252	13D9・14	下面	98	52	26	長楕円形Ⅰ	台形状	N90° W					
146	SK5128	14D17・22	下面	92	78	48	円形	台形状	N16° W				＜5116	
146	SK4816	14E7・8	下面	152	100	25	楕円形	皿状	N63° W	789				
146	SK1270	14E3・8	上面	(170)	90	22	長楕円形Ⅰ	弧状	N77° E					
147	SK1269	14E4	上面	82	(75)	14	円形	皿状	N10° E					
147	SK4877	14E9・10・14・15	下面	188	130	41	楕円形	弧状	N5° E					
147	SK614	13E11・16	上面	86	(81)	8	楕円形	皿状	N43° E				＜SK615・SX4788	
147	SK615	13E16	上面	(72)	(46)	8	楕円形	皿状	N31° W				＞SK614	
147	SK36	13E20	上面	70	42	9	長楕円形Ⅰ	皿状	N42° W					
147	SK1234	13E20・25	上面	90	60	13	楕円形	皿状	N80° W				＞SK655	
147	SK655	13E25	上面	(76)	58	18		弧状	N85° E				＜SK1234	
147	SK1937	14E4・5・9・10	下面	298	188	85	長楕円形Ⅰ	台形状	N0°					
147	SK1271	14E1・6	上面	64	42	12	楕円形	皿状	N76° W				＞P1272	
147	SK741	14D11・16	上面	169	124	38	楕円形	台形状	N74° W				＜SK160	
147	SK160	14D16・17	上面	(273)	161	22	長楕円形Ⅰ	弧状	N3° W	790 ～ 792			＞SK741	
147	SK612	13E11・12・17	上面	132	84	42	長楕円形Ⅰ	台形状	N29° E				＞SK611	
147	SK611	13E17	上面	(90)	72	34		台形状	N90° W				＜SK612	
147	SK1244	14E16・17	上面	166	100	30	長楕円形Ⅰ	弧状	N9° W					
148	SK40	13E15・20	上面	118	64	12	長楕円形Ⅰ	皿状	N32° W					
148	SK35	13E20・25、14E16	上面	148	128	18	円形	弧状	N62° W					
148	SK656	13E25	上面	82	80	18	円形	皿状	N75° W					
148	SK100	13F4・9	上面	100	78	14	楕円形	皿状	N26° W					
148	SK21	14E22・23	上面	108	102	20	円形	皿状	N0°	793				
148	SK1242	14E21・22	上面	-	(93)	13		皿状	N34° E				＜SX33・SK1243	
148	SK1243	14E21・22	上面	(160)	124	15		皿状	N40° W				＜SX33、＞SK1242	
148	SK34	14F8・9	上面	216	146	30	長楕円形	弧状	N17° E					
148	SK1206	14F2	上面	100	80	15	楕円形	弧状	N88° E				＞SX4766	
148	SK9	14F12・17	上面	88	62	12	楕円形	皿状	N80° W					
148	SK6	14F11	上面	64	38	9	長楕円形	皿状	N6° W					
148	SK10	14F13	上面	108	96	13	円形	皿状	N18° E					
149	SK15	14F17	上面	84	64	12	楕円形	皿状	N47° W					
149	SK24	13G1・2	上面	110	94	42	円形	台形状	N43° E					
149	SK707	15C22・23	上面	133	90	11	隅丸長方形Ⅰ	弧状	N90° W					
149	SK769	15D17・22	上面	129	118	22	円形	皿状	N7° E	794				
149	SK28	13F23、13G3	上面	64	53	15	円形	皿状	N48° E					
149	SK5001	17D1	下面	77	56	9	楕円形	皿状	N19° W					
149	SK107	16C23、16D3	上面	124	106	36	円形	台形状	N2° E					
149	SK5025	15D18・23	下面	111	109	14	不整円形	皿状	N33° E					
149	SK5009	17D12・13	下面	(112)	108	28	隅丸方形	弧状	N15° W	795				
149	SK5020	16D4・9	下面	150	64	32	長楕円形Ⅱ	皿状	N62° W					
149	SK5019	16D9	下面	130	62	36	長楕円形Ⅱ	弧状	N81° W					
149	SK1267	15E1	上面	88	66	16	楕円形	皿状	N90° W					
149	SK5011	17D12・13	下面	116	95	28	円形	皿状	N59° W				＜108	
149	SK5096	16D17・18・22・23	下面	128	76	14	長楕円形Ⅰ	皿状	N63° W				＞SK5097	
149	SK5097	16D18・23	下面	(63)	(53)	14		皿状	N52° E				＜SK5096	
149	SK1936	15E3・8	上面	54	24	12	長楕円形Ⅱ	皿状	N70° E					
149	SK1935	15E8	上面	52	24	14	長楕円形Ⅰ	皿状	N67° E					
150	SK4645	15E20・25、16E16・21	下面	219	177	40	不整楕円形	弧状	N40° W	796				
150	SK4629	16E11 ～ 13・16・17・21・22	下面	-	343	32		弧状	N9° E	797 ～ 801・1083	236		＜SK4630・4643	
150	SK4643	16E17・22	下面	(113)	(96)	24		弧状	N80° E				＞SK4629	
150	SK4630	16E21	下面	94	88	16	円形	皿状	N30° E				＞SK4629・4644	
150	SK4644	16E21	下面	(100)	79	25	円形	弧状	N30° E				＜SK4630	

I　不明遺構（SX）

図版No.	遺構 No.	位置	確認面	計測値（cm）			平面形	断面形	出土遺物			重複	備考
				長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）			土器・土製品	石器・石製品	動・植物遺存体		
154	6185	3E12 ～ 14・17 ～ 19・22	下面	530	365	29	不整長楕円形	皿状	886 ～ 893、1084	255			風倒木
154	1579	7E10・15、8E6・7・11・12	上面	450	250	16	不整長楕円形	皿状	894・895				
154	1554	8E9・10・12 ～ 15・18 ～ 20	上面	680	300	26	不整長楕円形	皿状	896				
154	1596	7F3 ～ 5・8 ～ 10	上面	463	325	20	不整長楕円形	皿状					
154	1597	7F14・18・19	上面	366	240	15	不整長楕円形	皿状					
154	1599	8F11・16	上面	206	150	12	楕円形	皿状					
154	1569	8E25、9E16・17・21	上面	540	112	10	不整長楕円形	皿状				＜ SX207	
154	207	9E16・17・21・22、9F1・2	上面	290	142	46	不整長楕円形	台形状	897・898			＞ SX1569	
154	2204	8F12・16・17	上面	264	72	28	不整長楕円形	台形状	899				
154	1576	9E22、9F2・3・7・8	上面	425	120	30	不整長楕円形	皿状	900				
155	5541	11E21 ～ 23、11F1・2	下面	446	304	62	楕円形	皿状				＜ SX5436	風倒木
155	5436	11E16 ～ 18・21 ～ 23	下面	518	226	105	長楕円形	弧状	903 ～ 905			＞ SX1261・5541	風倒木
155	1261	11E11・12・16 ～ 18・23	下面	580		102	不整長楕円形	皿状	1087			＜ SX5541	
155	5892	9E24・25、9F4・5・10	下面	450	360	70	不整楕円形	皿状	901・902				風倒木
155	118	13C24・25	上面	174	133	40	不整長楕円形	箱状	906 ～ 909	238	哺乳類微		
155	128	13D17・22	上面	285	96	40	不整長楕円形	弧状					
155	104	12C24・25、13C21	上面	344	173	24	不整楕円形	皿状		77			
155	131	12D10・15・20、13D11・15	上面	428	395	22	不整方形	皿状			哺乳類微		
155	106	16D13・14・19・20・24・25	上面	481	166	70	不整長楕円形	台形状					
155	4789	12G3 ～ 5・8 ～ 10	下面	496	230	82	隅丸方形	皿状					
155	4788	13E11・12・16・17	下面	416	278	40	不整長楕円形	皿状	910			＞ SK164	
156	5127	14D16・17・21	下面	260	160	18	不整楕円形	皿状				＞ SX5116	
156	5116	14D16	下面	140	100	28	不整長楕円形	皿状				＜ SX5127	
156	1	14E6・7・11・12	上面	300	270	45	不整円形	皿状					
156	33	14E21、14F1・2	上面	246	144	48	不整長楕円形	弧状				＞ SX4766 等	
156	4766	14E21・22、14F1・2・7	下面	418	245	35	不整長楕円形	皿状				＜ SX33	
156	32	13F14・15・19・20、14F11・16	上面	480	250	65	不整長楕円形	皿状					
156	4758	13F9・10・14・15、14F16	下面	400	210	83	不整長楕円形	台形状					
156	4646	13G4・5・9・10、14G1・6	下面	387	238	32	不整形	皿状	911				
156	20	14F21 ～ 23、14G1 ～ 3・6 ～ 8	下面	540	360	110	不整楕円形	弧状					風倒木
156	5010	17D11 ～ 13・16 ～ 18・21・22	上面	480	370	90	楕円形	弧状					
156	117	14D19・20・24・25、14E4・5、15D16・21	下面	470	290	110	不整長楕円形	弧状	912				

J　中・近世

図版No.	遺構No.	位置	確認面	計測値（cm）			平面形	断面形	主軸	出土遺物	重複	備考
				長径	短径	深さ						
157	SB545	3・4C・D	Ⅱb層	800	320				N29° E			
157	P519	3D4	Ⅱb層	40	29	62	円形					
157	P520	3D5	Ⅱb層	44	30	40	円形					
157	P544	4D6	Ⅱb層	20	20	12	円形					
157	P580	4D6	Ⅲb層	25	20	6	円形					
157	P543	4D7	Ⅱb層	26	24	17	円形					
157	P542	4D7	Ⅱb層	30	28	30	円形					
157	P541	4D8	Ⅱb層	25	20	35	円形					
157	P517	3C25	Ⅱb層	50	20	33	円形					
157	P1813	4D4	上面	32	32	8	円形					
157	P518	3C25	Ⅱb層	40	30	29	円形					
157	P537	4C21	Ⅱb層	32	32	23	円形					
157	P538	4C22	Ⅱb層	34	30	20	円形					
157	P539	4C22	Ⅱb層	32	32	20	円形					
157	SK521	3D20	Ⅱb層	75	60	26	不整円形	弧状		211-9 ～ 11		
157	SK522	3D2	Ⅱb層	162	123	16	長楕円形Ⅱ	皿状	N71° W			
157	SK523	3D4・9	Ⅱc層	189	96	26	楕円形	皿状	N72° E			
157	SD301	6・7ライン	上面	3700	520	70			N78° W	211-1・2		哺乳類骨微量（縄文）

K　最下面

図版No.	遺構 No.	位置	計測値（cm）			平面形	断面形	主軸	出土遺物			重複	備考
			長径	短径	深さ				土器・土製品	石器・石製品	動・植物遺存体		
164	地床炉 8501	4D24	106	88	12	円形	皿状						
164	地床炉 8502	4D19	66	55	6	円形	皿状						
164	地床炉 9151	4E12	56	32	7	長楕円形Ⅰ	皿状	N38° E					
164	SK8815	2E8	122	70	13	不整長楕円形Ⅰ	皿状	N78° W					
164	SK8872	2F2・7	144	102	65	楕円形	弧状	N68° W		86			
164	SK8804	2E21・22	〈65〉	40	15	円形	皿状	N50° W					
164	SK8505	4D13	55	50	15	円形	皿状						
164	SK9111	3G9	54	34	15	長楕円形Ⅰ	皿状	N14° W					
164	SK8514	4D10・5D6	63	55	9	円形	皿状						
164	SK8515	4D15・5D11	94	73	26	不整円形	弧状	N82° W					
164	SK8516	5D17	96	42	24	不整長楕円形Ⅱ	弧状	N85° W					

2. 遺　　物

A 土 器

図版No.	報告No.	種別	遺構名・出土地点・層位	器種	系統	細別	時期	法量（cm）				文様			胎土	色調	残存率		備考
								口径	器高	器高	胴大	口頸部	胴部	地文			口	底	
162	1	竪穴	SI1291（12E6）Ⅱb層	深鉢	3群	BⅣ1	3					横線		LR	4	2	1		
162	2	竪穴	SI1291（12E）Ⅲb層	深鉢	1群	関東	3	16.0				横線		LR	1	5	1		
162	3	竪穴	SI1291（12E）Ⅲb層	深鉢	1群	関東	3	20.0				横線		LR	1	5	3		
162	4	竪穴	SI1291・Ⅱb層・4層	深鉢	1群	関東	2	26.0				円刺突	斜行文？		3	3	4		
162	5	竪穴	SI1291（12E1・2-Ⅱb層、4層16・32・33・、5層）、12E2 Ⅱb層	深鉢	4群					11.0					3	2		34	底：A1類
162	6	竪穴	SI1291（12E1・2・6・7）1・2・4・5・6・8層、Ⅱb層、Ⅲb層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	34.8			37.8	縦沈線・刺突	渦巻文	RL	4	2	10		
162	7	竪穴	SI1291（12E1・2　1層、4層、4～8層47・48・52～54、8層	深鉢	4群					12.0				RL	3	1		31	底：A1類
162	8	竪穴	SI1291（12E1・2層）・4層3	浅鉢	3群			22.0					渦巻文	LR	2	2	8		
162	9	竪穴	SI1291（12E7-4層20）	深鉢	4群	AⅠ		30.0				刺突		LR	3	2	4		
162	10	竪穴	SI1291（12E2-2層、4層573）	深鉢	3群	BⅠ1	2新	28.4				楕円形文		RL	3	1	18		
162	11	竪穴	SI1291（12E7）2層、4層20・22・38	深鉢	3群	BⅠ1	2新	45.0			20.2	楕円形文		RL	3	1	1		
162	12	竪穴	SI1291（12E2・4層、12E7-2層）	深鉢	4群	B		29.0							4	3	10		
162	13	竪穴	SI1291（12E1・7）2層、4層	深鉢	4群	B		11.0							4	4	8		0.39㎏
162	14	竪穴	SI1291（12E2-2層）、8層	壺	1群	関東					9.4		菱形文		3	3			
162	15	竪穴	SI1291（12E1-4～8層47・48・49・52・54、12E2-2層、12E2-8層、12E6-4層）	深鉢	4群									RL	4	3			
162	16	竪穴	SI1291（12E7　4層22、12E6Ⅲb層、12E2・2層、12E2・6層、12E1・4層、5層、8層）	深鉢	4群	BⅡ		24.0	31.0	12.0				LR	4	3	9	9	9.91㎏。黒色吹きこぼれ痕
163	17	竪穴	SI1291（12E1 4層15）	深鉢	3群	BⅠ1	2新							RL	3	1			
163	18	竪穴	SI1291（12E6）3・5層	深鉢	1群	関東	2新	16.5				菱形・渦巻文		LR	4	2	20		
163	19	竪穴	SI1291（12E1 3・8層）	深鉢	3群	A?								LR	3	2			
163	20	竪穴	SI1291（12E）4層	深鉢	1群	関東	2新	21.0				円形浮文		LR	1	5	1		
163	21	竪穴	SI1291（12E）4層	深鉢	3群	BⅠ1	2新	24.5				刺突		LR?	4	2	4		
163	22	竪穴	SI1291（12E1 4層14）	深鉢	3群	B	2新	31.0				円刺突		RL	3	2	4		
163	23	竪穴	SI1291（12E）4層	深鉢	3群	B?	2新					楕円形文			3	1	4		
163	24	竪穴	SI1291（12E1）4層1	深鉢	3群	B	2新				30.0		縦沈線	RL	3	2			
163	25	竪穴	SI1291（12E4）4層	深鉢	4群	AⅠ		24.0			22.4	円刺突		RL	3	1	3		
163	26	竪穴	SI1291（12E2）4層	壺	1群	関東	2新	19.0				刺突			2	4	2		
163	27	竪穴	SI1291（12E2）4層7・30	壺	1群	関東	2新	7.2		4.0	8.0		枠状文	RL	3	2	6	4	0.24㎏
163	28	竪穴	SI1291　（12E2）4層1	鉢	3群	Ⅰ		30.0							3	2	2		
163	29	竪穴	SI1291（12E6）　4層29	注口	1群	関東	2新	10.0						LR	5	1	21		
163	30	竪穴	SI1291（12E1）4層39	深鉢	4群	BⅡ		29.0						LR	4	3	8		13.89㎏
163	31	竪穴	SI1291（12E7）4層	深鉢	4群	BⅡ		19.7						LR	4	2	5		
163	32	竪穴	SI1291　（12E6）4・5層	浅鉢	3群			24.0				渦巻文			3	1	6		
163	33	竪穴	SI1291（12E6　3層、4層24　8層）、P5876［SI2372］	深鉢	3群	BⅡ1	2新	14.8			16.5	縦沈線		RL	4	1	20		2.84㎏
163	34	竪穴	SI1291（12E1-4～8層52・54、12E6-4層26、12E6-8層）	深鉢	3群	BⅠ1	2新	14.7				刺突		RL	3	1	12		
163	35	竪穴	SI1291（12E1　4～8層54、12E1 8層、12E6　4層、12E7　4層）	深鉢	1群	関東	2新	17.0				刺突	X字状斜行文		4	3	14		
163	36	竪穴	SI1291（12E2）4層、8層62	深鉢	3群	BⅣ6	2新	32.0			31.0	横線	渦巻文	LR	4	2	6		
163	37	竪穴	SI1291（12E1・2・6）　4・5・6・8層、4～8層、Ⅱb層	深鉢	3群	BⅠ1	2新	19.5	29.7	10.0	20.9	円刺突・弧線		LR	4	1	15	31	8.08㎏。底：A1類
163	38	竪穴	SI1291（12E6）4層、8層	深鉢	3群	B		13.0				刺突					6		
164	39	竪穴	SI1291（12E　4層、5層18、8層53）、SI123・2層p161・162・195	深鉢	3群	BⅠ1	2新	43.4	72.0	10.4	47.8	刺突・楕円形文		RL	3	1	10	36	71.60㎏
164	40	竪穴	SI1291（12E1・2・6・7）2層433、4層25・26、6層、8層41・44・45・50・52・55・62	深鉢	4群	AⅠ		38.2	51.0	12.3	34.7	刺突・楕円形文		LR	5	1	12	36	
164	41	竪穴	SI1291（12E1）4～8層50・51、8層60	深鉢	4群	BⅡ		30.7						LR	3	1	8		
164	42	竪穴	SI1291（12E4～8層　51）	深鉢	4群	BⅡ		30.5						RL	4	3	29		
164	43	竪穴	SI1291（12E6）4層（37）、8層	深鉢	4群	BⅡ		18.9						LR	4	1	6		
164	44	竪穴	SI1291（12E6 4層26・27、5層、8層51・61）	深鉢	4群	BⅡ		32.0						LR	3	2	12		46.44㎏
164	45	竪穴	SI1291（12E1）4～8層51	深鉢	4群	BⅡ		22.8						LR	3	3	5		
164	46	竪穴	SI1291（12E7）8層	深鉢	3群	B	2新	16.5				刺突			4	3	5		
164	47	竪穴	SI1291（12E　8層60・63）	深鉢	4群	BⅠ		23.0						RL	3	1	36		不自然な被熱
164	48	竪穴	SI1291　（12E1・2）8層58	深鉢	4群	BⅡ		22.4	22.9	12.0				LR	3	1	13	9	4.10㎏。底：B1類
164	49	竪穴	SI1291（12E1）4～8層54、8層43・56	深鉢	4群	BⅡ		24.0	53.5	9.6	28.6		V字状・横線	LR	3	1	6	12	21.69㎏
164	50	竪穴	SI1291（12E1）8層62	壺？	3群		2				14.6				2	4			
165	51	平地	P3049（2D4）［SI7634］	壺	1群	南境				3.6	10.4		帯縄文	LR	5	2		11	
165	52	平地	P3478（2D20）［SI7635］	深鉢	4群									LR・綾繰り	4	3			
165	53	平地	P3108（3D20）［SI7637］	深鉢	3群										3	3	1		
165	54	平地	P1842（3D18）［SI7637］	深鉢	3群	B?								不明	4	2			
165	55	平地	地床炉549（3D18）［SI3387］	深鉢	3群	A?						指頭圧痕			3	2	2		
165	56	平地	P3055（3D22）［SI3387］、P2977（?）	深鉢	4群	AⅠ		26.0			27.0	楕円形文		LR	5	1	5		
165	57	平地	P3055（3D22）［SI3387］	深鉢	4群						25.2			LR、L撚？	4	3			黒色吹きこぼれ痕
165	58	平地	P1803（3D19）［SI3388］	深鉢	3群	B											2		
165	59	平地	P1803（3D19）［SI3388］	深鉢	4群	A						楕円形文					3		
165	60	平地	P1803（3D19）［SI3388］、P1875（3D23）、土器集中Ⅰ	深鉢	4群	BⅡ		35.0						RL・LR	3	1	2		
165	61	平地	P3105（4D22）［SI3389］	深鉢	4群	BⅡ		31.0						RL・LR	3	1	4		
165	62	平地	P3105（4D22）［SI3389］	深鉢	4群	BⅡ		29.4						LR	3	1	8		
165	63	平地	P1821（4D22）［SI3389］	鉢	4群	Ⅱ		11.6	10.3	5.0	12.8			LR	3	1	4	28	0.79㎏
165	64	平地	P3219（4C24）［SI3390］	深鉢	1群							円刺突	弧線	?	4	2	2		

図版No.	報告No.	種別	遺構名・出土地点・層位	器種	系統	細別	時期	法量（cm）				文様			胎土	色調	残存率		備考
								口径	器高	器高	胴大	口頸部	胴部	地文			口	底	
165	65	平地	P3090（4D3）［SI3496］	深鉢	3群	B?				8.8	17.5		縦沈線		4	3		31	
165	66	平地	P2509（4C24）［SI3496］	深鉢	3群	?		30.0				横線			4	1	2		
165	67	平地	P3074（4D13）［SI3397］	深鉢	3群	A?									4	1			
165	68	平地	P3074（4D13）［SI3397］	深鉢	3群	A?						指頭圧痕			3	1	2		
165	69	平地	P3069（4D7）［SI3397］	深鉢	3群	B?							縦沈線						
165	70	平地	P1824（4D18）［SI3495］	深鉢	4群	BⅡ											1		
165	71	平地	P3370（4D7）［SI3495］	深鉢	3群	B?							縦沈線	RL	4	4	1		
166	72	平地	石囲炉567（4D18）［SI1200］	深鉢	4群					10.5					3	1		36	
166	73	平地	石囲炉567（4D18・23）［SI1200］	深鉢	3群	B?						円刺突		?	3	2	1		
166	74	平地	石囲炉567（4D18・23）［SI1200］	注口	3群?								隆帯有	LR	3	1			
166	75	平地	P2519（4D20）［SI1200］	深鉢	3群	A?						円刺突	縦沈線		4	1	4		
166	76	平地	P595（4D20）［SI1200］	深鉢	3群	A	1?	24.0				円刺突	蛇行文	LR	3	1	9		
166	77	平地	P1835（4D23）［SI1200］	深鉢	3群	A					15.0		縦沈線	LR	3	3			
166	78	平地	P3095（4D17）［SI1200］	深鉢	4群									LR	4	2			
166	79	平地	P1814(4D19)[SI1200]、P7145(4E10)	深鉢	3群	B?				7.4	32.8		縦沈線	LR	3	1		20	底：A2類
166	80	平地	P1814（4D19）［SI1200］	注口	3群										5	6			
166	81	平地	P3185（4D25）［SI7640］	深鉢	3群	A?							縦沈線	RL	3	1			
166	82	平地	P592（4D10）［SI7640］	深鉢	3群	B							縦沈線		4	4	1		
166	83	平地	P3157（4D25）［SI7640］	深鉢	3群	B?		20.0					縦沈線		3	1	7		
166	84	平地	P2516（4D9）［SI7640］	注口	3群	Ⅱ	1	26.0			35.5	楕円形文	縦沈線		3	4	28		
166	85	平地	P594（4D24）［SI7642］	浅鉢	3群										4	1			
166	86	平地	P1830（4D24）［SI7642］、P2528（4D7）覆土、4D24Ⅲb層	深鉢	4群	BⅡ		22.2							3	3	7		
166	87	平地	P1113（5D6）［SI7641］	深鉢	4群	AⅠ		23.0				刺突		LR	4	1	1		
166	88	平地	P1153（5D9）［SI1810］	深鉢	3群			25.0				横線	縦沈線	RL	4	2	2		
167	89	平地	SI1190（5D）床面P1	深鉢	4群								格子目文		3	1			
167	90	平地	P6963（6D11）7・11層［SI7644］	深鉢	3群	B	2新	14.6				円刺突	弧線	RL	4	2	11		
167	91	平地	P6963（6D11）［SI7644］	深鉢	3群	B						円刺突			3	2	1		
167	92	平地	P3401（5D19）［SI7644］	鉢	3群							円刺突			4	1	3		
167	93	平地	石囲炉404（2E9）［SI446］	深鉢	3群	AⅠ	1			8.7	19.7		縦沈線		3	1		36	
167	94	平地	石囲炉404 （2E9）［SI446］P2	深鉢	4群						20.4				3	1			
167	95	平地	SH1064（2E10）［SI446］	壺	4群			9.0			15.9				4	1	26		1.81㌫
167	96	平地	P3026（2D23）［SI7646］	深鉢	3群	A	1?						縦沈線	RL	4	1			
167	97	平地	P431（2E7）［SI7646］	浅鉢	4群			30.0				楕円形文		LR	4	2	2		
167	98	平地	P6414（2E9）［SI7646］	深鉢	4群	BⅡ		27.4						LR	4	1	9		
167	99	平地	P1031（2E20）［SI6150］	深鉢	3群	A		18.0				楕円形文			4	4	4		
167	100	平地	P1092（2E13）［SI6150］	深鉢	3群							楕円形文			3	1	3		
167	101	平地	P6341（2F7）［SI6375］	深鉢	3群	B		14.0				刺突			3	1	4		
167	102	平地	P1069（2F2）［SI7647］	深鉢	3群			30.0				楕円形文		RL	5	1	4		
167	103	平地	P6088（2F12）［SI7647］	深鉢	3群	A						逆U字状			7	3	2		
167	104	平地	P6281（2F13）［SI6376］	深鉢	3群							指頭圧痕			4	1	1		
167	105	平地	P1083（2F7）［SI6376］	深鉢	3群	B							縦沈線	LR	3	2			
167	106	平地	P6261（2F7）［SI6376］	深鉢	3群	AⅠ4		22.0				円刺突			4	3	4		
167	107	平地	SI453（2F12・18）床面	壺？	1群	気屋？							縦位刺突		4	1			
167	108	平地	SI453（2G2）床面	鉢	3群			22.0							5	1	2		
167	109	平地	SI453（2G2）床面	深鉢	3群	B							縦沈線		5	4			
167	110	平地	SI453（2G3）床面	深鉢	4群	BⅡ		30.4						LR			9		
167	111	平地	SI453（2G2）床面	深鉢	4群	BⅡ								LR	3	1	1		漆付着
167	112	平地	P1070（2F22）［SI453］	深鉢	4群	BⅡ		11.4	11.1	5.4					4	4	4	15	0.57㌫。底：A1類
167	113	平地	P449（2F17）［SI453］	深鉢	3群	A?	1					円刺突			4	2	2		
167	114	平地	P449（2F17）［SI453］	深鉢	3群			30.0				横線			3	2	2		
167	115	平地	石囲炉1056（2F22・23）［SI6345］	深鉢	4群?					8.4					3	2		36	底：B1類
167	116	平地	P417（2F21）［SI6345］	壺？	3群								縦沈線		4	1			
167	117	平地	P417（2F21）［SI6345］	鉢？	3群			15.0				楕円形文			5	2	4		
167	118	平地	石囲炉1716（3F18）［SI7601］	深鉢	4群?					11.0				不明	3	1		34	底：B1類
168	119	平地	SI2917（3E23）床	深鉢	4群					9.6				R撚	5	2		32	底：B2類
168	120	平地	P6189（3E24）［SI2917］	深鉢	3群	A	1			9.8	31.0		縦沈線		3	1		32	
168	121	平地	P2696（3F9）［SI7602］	深鉢	3群	AⅠ4	1?	22.0				円刺突			5	3	6		
168	122	平地	P6168（3F8）［SI7602］	深鉢	3群							指頭圧痕			4	1	1		
168	123	平地	地床炉1717［SI7603］（3F18）、3F23Ⅲb層	深鉢	3群	AⅠ4	1?			7.6	18.2				3	1		36	底：A3類
168	124	平地	地床炉1717（3F18）［SI7603］	深鉢	4群?					9.6					5	3		36	
168	125	平地	地床炉1717（3F18）［SI7603］	深鉢	4群?					11.0					3	1		36	
168	126	平地	地床炉1717（3F18）［SI7603］	鉢	4群			24.0			32.0	楕円形文		LR	4	2	3		
168	127	平地	P1779（3G8）［SI7605］	深鉢	3群			26.0						LR	4	2	1		
168	128	平地	P6244（2G5）［SI7605］	深鉢	3群	AⅠ		30.0				円刺突		RL	3	4	2		
168	129	平地	P484（3G2）［SI7605］1層	深鉢	3群	BⅡ3	2新			7.3	17.8		渦巻文		3	4		36	2.90㌫。底：A2類
168	130	平地	P484（3G2）［SI7605］1層	深鉢	3群			32.0					縦沈線		3	1	2		
168	131	平地	地床炉1719（4F3・4）［SI7609］	深鉢	3群	AⅠ1	1					横線	縦沈線	RL	4	3	1		
168	132	平地	P2706（4F7）［SI7609］1層	深鉢	3群	A						円刺突			4	4	3		
168	133	平地	P1709（4F7）［SB7703］、P2706（4F7）［SI7609］	深鉢	1群?			17.0				横線	縦沈線		4	3	7		
168	134	平地	P2706（4F7）［SI7609］1層	深鉢	3群								縦沈線		4	3			
168	135	平地	地床炉1720（4F4）［SI7610］	注口	3群					4.2	20.0		楕円形文		6	1		11	
168	136	平地	地床炉1720（4F4）［SI7610］	深鉢	4群?					10.0					3	2		34	底：B1類
168	137	平地	石囲炉454（4F18）［SI7612］	深鉢	4群?					8.5					3	1		36	底：A1類
168	138	平地	石囲炉454（4F17）［SI7612］	注口	3群										6	3			
168	139	平地	P2604（3G5）［SI7613］	鉢	3群		2	18.0				楕円形文	渦巻文		4	1	2		
168	140	平地	地床炉2914（5F3・4）［SI7616］	深鉢	4群?					9.6				R撚	4	2		19	底：B1類
168	141	平地	地床炉2914（5E3・4）［SI7616］	深鉢	3群							指頭圧痕	縦沈線	RL	4	3	2		
168	142	平地	地床炉2914（5E3・4）［SI7616］	深鉢	3群			28.0					縦沈線		3	1	2		
169	143	平地	P7566（5F9・14）［SI7618］	深鉢	3群			16.5				横線	縦沈線	?	4	5	3		
169	144	平地	P7058（5F16）［SI7618］	深鉢	3群	BⅡ1		30.0				斜線			5	2	3		

図版No.	報告No.	種別	遺構名・出土地点・層位	器種	系統	細別	時期	法量（cm）				文様			胎土	色調	残存率		備考
								口径	器高	器高	胴大	口頸部	胴部	地文			口	底	
169	145	平地	石囲炉 2913（5F9・14）[SI7617]	深鉢	4群?					9.4					4	2		31	
169	146	平地	P6967（5F22）[SI7619]	深鉢	4群?								格子目文	LR	4	2			
169	147	平地	地床炉 883（5F20）[SI7620]	深鉢	4群	A Ⅱ		14.0				円刺突		LR・RL	4	3	9		
169	148	平地	P4388（6F12）[SI7620]	深鉢	3群							円刺突	縦沈線		4	2	4		
169	149	平地	地床炉 2942（5G6）[SI7621]	深鉢	3群							楕円形文	縦沈線	RL	3	3	2		
169	150	平地	P7315（4F25）[SI7621]	深鉢	1群	関東		30.0				横線		LR	3	1	2		
169	151	平地	地床炉 7057（6C23）[SI7623]	深鉢	4群					8.5				LR	3	1		36	底：B1類
169	152	平地	P6556（6D12）[SI7627]	深鉢	3群							円刺突			5	1	5		
169	153	平地	P6556（6D12）[SI7627]	深鉢	3群	B Ⅳ 1	3	30.0				横線			3	1	8		
169	154	平地	P6556（6D12）[SI7627]	深鉢	4群	B Ⅱ		13.4		7.4				RL	4	2	4	15	底：不明
169	155	平地	P6556（6D12）[SI7627]	深鉢	4群	B Ⅱ		30.0						LR	3	1	4		
169	156	平地	P7067（6E3）[SI7628]	深鉢	3群										4	2			
169	157	平地	P3849（8D1）[SI3907]	深鉢	3群								縦沈線	RL	4	2			
169	158	平地	石囲炉 918（7C24）[SI3907] 1層	深鉢	3群	A Ⅰ 4	1			7.5					3	2		36	底：A1・2類
169	159	平地	P3513（7D3）[SI7629]	深鉢	3群	B							縦沈線		4	3			
169	160	平地	P3513（7D3）[SI7629]、7D3 Ⅲb層	深鉢	4群	B Ⅱ		33.6						RL・LR	4	1	4		
169	161	平地	石囲炉 998（8C23・24）[SI3908]	深鉢	3群					8.4			U字状？		3	1		30	
169	162	平地	P3551（6D20）[SI7631]	深鉢	3群			30.0					縦沈線		3	3	1		
169	163	平地	P3668（9D3）[SI8498]	深鉢	4群?								条線		4	2			
169	164	平地	SD3565（7D18・19）[SI8353]	深鉢	3群	A							渦巻文？		5	2			
169	165	平地	SD3565（7D18・19）[SI8353]	深鉢	1群	綱取						円刺突	対弧文？	LR	3	1	3		
170	166	平地	P2279 [SI7800]（7E9）1層、P6634 [SB7711]（7E9・14）3・4・7・9層・埋土、P4470（7E8）1層、P6550（7E8・13・14）1層	深鉢	3群	B Ⅰ 1	2古	24.6			22.2	渦巻文、楕円形文	縦線＋蛇行文	RL	4	1	12		8.31㎏
170	167	川・平地	SD5186（9E4・5・9・10 Ⅲa1層10、10D13 Ⅲa1層、10D23 Ⅲa層）、P3699（9D5）[SI3909]、SK347（9D9・10）1層、9D3 Ⅲb層、9D4 Ⅱb層・Ⅲa層・Ⅲb層、9E5 Ⅲa層、10D4 Ⅲa層、10D15 Ⅲb層、10D22 Ⅲa層	深鉢	3群	B Ⅰ 7	2古	30.0		10.8		指頭圧痕、刺突	条線による対弧文		3	1	15	9	
170	168	平地	P387（9C25）[SI3909]	深鉢	3群			27.5				楕円形文			3	1	2		
170	169	平地	P371（9C24）[SI7801]、P373（9C24、9D4）1層、9D4 Ⅲb層	深鉢	3群	B Ⅳ 1	3	23.0				横線・縄文帯		LR	4	2	6		
170	170	平地	P3693（10D6）[SI7801]	深鉢	3群			22.0				円刺突	縦沈線		6	1	4		
170	171	平地	P3653（9D7・8）[SI7801]	深鉢	3群	B Ⅱ 1		40.0							4	2	1		
170	172	平地	P3663（9D4）[SI8354]	深鉢	4群?					12.0				LR	4	1		6	
170	173	平地	P914（8D11）[SI7804]	深鉢	3群			23.0				楕円形文	縦沈線	RL	3	2	2		
170	174	平地	P3599（8D1）[SI7804]	深鉢	3群							円刺突	縦沈線	LR	4	3	1		
170	175	平地	P912（8D3）[SI7804]	深鉢	3群			27.0				横線			3	2	1		
170	176	平地	P7088（6E1）[SI7805]	深鉢	3群			32.0				円刺突			4	2	2		
170	177	平地	P4018 [SI7806]	深鉢	3群	B Ⅱ 1	2新					円刺突	渦巻文	RL	5	2	4		
170	178	平地	P6740（6F11）[SI7807]	深鉢	3群								縦沈線		3	1			
170	179	平地	P6530（7E4）[SI7810]	深鉢	1群	綱取		30.0					隆帯	LR	5	1	2		
170	180	平地	P6560（7F1）[SI7812]	深鉢	3群			28.0				横線		LR	3	1	2		
170	181	平地	P7414（7F1）[SI7812]	深鉢	3群								縦沈線	RL	4	2	2		
170	182	平地	P6561（7F1）[SI7812]	深鉢	3群	A?	1?	30.0				指頭圧痕			4	1	4		
170	183	平地	P4181（7E22）[SI7813]、7E22 Ⅲb層	深鉢	3群	B Ⅰ 1	2	26.0				円刺突	渦巻文		3	3	6		
170	184	平地	P2419（8E11）[SI7816]	深鉢	1群	綱取							対弧文？	LR	3	1	1		
170	185	平地	SD6750（7E3 ～ 25）[SI7817]	深鉢	3群	A Ⅰ 1	1	34.0				指頭圧痕	磨消縄文	LR	4	1	1		
170	186	平地	SD6750（7E3 ～ 25）[SI7817]	深鉢	3群			32.0				円刺突		LR	4	2	2		
170	187	平地	SD6750（7E3 ～ 25）[SI7817]	深鉢	3群		1～2	26.0				指頭圧痕			4	2	2		
170	188	平地	SD6750（7E3 ～ 25）[SI7817]	深鉢	3群									RL	5	2			
171	189	平地	SI3912（8F4・9）、9F12・13 Ⅱb層	深鉢	4群	A Ⅱ		40.6		10.0		刺突			3	2	11	34	底：A1・2類
171	190	平地	石囲炉 2207（8F2）[SI3912]	深鉢	3群	B1	2新			8.4				RL	5	2		36	
171	191	平地	P3897（8F7）[SI3912]	深鉢	3群							楕円形文			3	1	2		
171	192	平地	P3876（8F13）[SI3912]	鉢？	3群								渦巻文	LR	5	1			
171	193	平地	P3895（8F7・12）[SI3912]	深鉢	4群	B Ⅱ		42.0						LR	3	1	2		
171	194	平地	P3874（8F4・9）[SI3913]	深鉢	3群							横線			4	1	2		
171	195	平地	P3874（8F4・9）・P3875 [SI3913]	深鉢	3群			21.0				横線			5	1	4		
171	196	平地	P3903（8F6・7）[SI3913]	深鉢	3群	B						楕円形文			5	1	4		
171	197	平地	P3903（8F6・7）[SI3913]	深鉢	3群	B Ⅰ 1						楕円形文		RL	3	2	1		
171	198	平地	P3859（8E23・8F3）[SI3913]	深鉢	3群	A		16.0				円刺突	縦沈線		4	2	4		
171	199	平地	P3871（8F8）[SI8361]	深鉢	3群							指頭圧痕			4	3	1		
171	200	平地	SD3900（8F6・11）[SI7818]	深鉢	3群	B		20.5					縦沈線	RL	4	4	2		
171	201	平地	P4104（7F12）[SI7818]	深鉢	3群	B							斜線		3	2	1		
171	202	平地	P4051（6F20）[SI7820]	深鉢	3群	B Ⅱ 1									4	2			
171	203	平地	P4501（6F20）[SI7820]	注口	3群	Ⅱ	2	10.9			16.6		渦巻文？		3	1	8		2.00㎏
171	204	平地	P4162（6G10）[SI7821]	深鉢	4群	B Ⅱ		22.0						RL	4	1	4		
171	205	平地	石囲炉 2429 [SI7822]（7G10）	深鉢	3群	A?	1			7.2			縦沈線	RL・LR	5	1		27	底：A2類
171	206	平地	P3891（8G2）[SI7822]	深鉢	3群							横線			4	2	1		
171	207	平地	P2326（7G3・4）[SI7823]	深鉢	3群							指頭圧痕		LR	5	1	2		
171	208	平地	SI7822 ～ 7824（8G6）床面	深鉢	3群	B Ⅳ 1	3					横線			6	2	2		
171	209	平地	SI7822 ～ 7824（7G15）床面	鉢	1群	南境		18.5					渦巻文？	RL	6	2	1		
171	210	平地	SI7822 ～ 7824（8G1）床面	深鉢	3群	B Ⅳ 1	3	25.0				横線			3	2	7		
171	211	平地	SI7822 ～ 7824（8G6）床面	鉢	1群	南境							磨消縄文	LR	3	1	4		
171	212	平地	SI7822 ～ 7824（8G11）床面	鉢	1群	南境					19.0		弧線		4	2			
172	213	平地	P337（10C24）[SI8355]	深鉢	3群										3	1	1		
172	214	平地	P982（10D15）[SI7825]	深鉢	3群							横線			5	1	2		
172	215	平地	地床炉 341（10D4・9）[SI7825]	深鉢	1群	東北南	3?						波状文		4	3			
172	216	平地	P3739（10C25）[SI7825]	深鉢	1群								J字隆帯	?	4	2			
172	217	平地	石囲炉 919（10D23・10E3）[SI8356]	鉢	1群	関東	2			8.0			横線		2	3		32	内：黒色付着 底：A1類
172	218	平地	SI8356（10D・E）Ⅱb層	深鉢	3群	B Ⅱ 1	2新					斜線		RL	4	3	2		
172	219	平地	SI8356（10D24・10E3）床面	深鉢	3群	B Ⅱ 1	2新					刺突列		RL	4	3			

図版No.	報告No.	種別	遺構名・出土地点・層位	器種	系統	細別	時期	法量（cm）				文様			胎土	色調	残存率		備考
								口径	器高	器高	胴大	口頸部	胴部	地文			口	底	
172	220	平地	SI8356（10E3）床面	鉢	1群	関東	2新					円形浮文			2	4	3		
172	221	平地	P5836（10E9・10）［SI8356］	深鉢	3群	B						楕円形文		RL	4	1	3		
172	222	平地	P338（10D20）［SI8356］	深鉢	3群	B							縦沈線		3	2	3		
172	223	平地	P5212（11D4）［SI7826］	深鉢	3群										3	2	2		
172	224	平地	P5365（11D3）［SI7826］	深鉢	3群	BⅠ1						楕円形文		RL	4	1	3		
172	225	平地	P177（12D24）［SI7831］	深鉢	3群	B						円刺突			5	1	5		
172	226	平地	P177（12D24）［SI7831］	深鉢	3群	BⅡ1						縦沈線			4	2	1	6	
172	227	平地	P5258（13D24）［SI7832］	深鉢	3群	B							縦沈線	RL	4	1			
172	228	平地	P183（13D18）［SI7832］	深鉢	3群	BⅠ1	3?	40.0				刺突	渦巻文？	L撚	3	2	2		
172	229	平地	SI1415（14D2）Ⅱb層	深鉢	3群	B						円刺突			3	3	1		
172	230	平地	SI1415（13D21）Ⅱb層	深鉢	3群	B							縦沈線	RL	5	1			
172	231	平地	P5176（14C21）［SI7833］	深鉢	3群	B							縦沈線		4	2			
172	232	平地	SD116（14D6・7）［SI7835］	深鉢	3群	BⅠ1						円刺突		LR	4	1	2		
172	233	平地	P164（14D23）［SI7835］	深鉢	3群	B							縦沈線	RL	5	2			
172	234	平地	P4702（11G3）［SI8471］、P5702（10E17）［SI8472］	深鉢	3群	BⅠ1	2					円刺突		RL	4	1	2		SI4702［SI8471］3層と接合
172	235	平地	地床炉808（12E12・13）［SI2372］	注口	1群	関東									2	5			
172	236	平地	P5645（10E18）［SI2372］	深鉢	1群	関東	3					縦位区画		LR	1	5	5		
172	237	平地	P5860（10E14）［SI2372］、P5861（10E14）	深鉢	4群	BⅡ		30.0	44.0	12.4	33.4		格子目文		3	2	1		23.46㌫。底：不明
172	238	平地	P5857（10E14）［SI2372］	深鉢	3群	B						円刺突			3	2	3		
172	239	平地	P8079（10E13）「SI8477］	深鉢	3群	BⅡ1						刺突列		RL	3	2			
173	240	平地	P8151（9E24）［SI8484］	深鉢	3群							横線		LR	4	1	2		
173	241	平地	P5996（9E19・20）［SI8484］	深鉢	3群	BⅤ	2新						斜線		5	2			
173	242	平地	P5996（9E19・20）［SI8484］	深鉢	3群	B1					46.2				3	2			
173	243	平地	P805（10F1・6）［SI8495］	深鉢	3群	B						楕円形文		RL	4	2	4		
173	244	平地	P5507（10F10・15）「SI8095］	深鉢	3群	B						刺突		LR	4	3	1		
173	245	平地	P5624（10F3）［SI8095］	深鉢	3群	B						楕円形文	縦沈線	?	3	4	2		
173	246	平地	P5648（10F3）「SI8095］	浅鉢													2		大木7b式
173	247	平地	P5614（10F16）［SI2373］	深鉢	3群	B						楕円形文			5	2	4		
173	248	平地	P5614（10F16）［SI2373］	深鉢	1群	関東						渦巻文			1	4	7		
173	249	平地	P5757（10F1・2・6・7）［SI2373］	深鉢	3群							横線			4	1	1		
173	250	平地	P5757（10F1・2・6・7）［SI2373］	深鉢	3群	BⅤ?							縦沈線	RL	4	1			
173	251	平地	地床炉816（9F20）［SI8488］	深鉢	3群	BⅤ?				7.6			横線		5	2		36	底：A類？
173	252	平地	P5829（9F10）［SI8488］	深鉢	3群	B						横線		RL	5	3	2	21	
173	253	平地	P5808（10F17）［SI8488］	深鉢	4群	BⅡ								RL・LR	5	2	3		
173	254	平地	P8075（9F15）［SI2375］1層、9F15Ⅲb層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	18.7		7.7		縦沈線	刺突列		4	2	29	13	
173	255	平地	P5769（9F24）［SI8098］	深鉢	1群	関東				10.0			渦巻文？		5	1			
173	256	平地	P8001（9G2）［SI7841］	深鉢	3群	B							縦沈線		5	1	1		
173	257	平地	P5542（10F21）［SI8492］	深鉢	4群?								条線		4	2			
173	258	平地	SI201（11F22Ⅱb層、12D4Ⅱb層）	深鉢	3群	BⅠ1	2新	39.2				楕円形文			5	2	12		
173	259	平地	SI201（11F22Ⅱb層）	深鉢	3群	BⅠ1	2新	36.0				楕円形文		LR	4	2	6		
173	260	平地	SI201（11F11Ⅱb層）	深鉢	3群	B	2新	24.0				刺突	縦沈線	LR	3	2	2		
173	261	平地	P5487（11F11・12）［SI201］	深鉢	3群	B	2新					円刺突			4	1	3		
173	262	平地	SI201（11F6）床面	深鉢	3群	B	2新	18.0				楕円形文			5	1	4		
173	263	平地	P5487（11F11・12）［SI201］	深鉢	3群	B	2新					楕円形文	縦沈線		5	2	5		262と同一か
173	264	平地	SI201（10F15・19）Ⅱb層	深鉢	3群	BⅣ1	3					横線			5	1	4		
173	265	平地	SI201（10F15）Ⅱb層	深鉢	3群	BⅡ1	2新					斜沈線			4	1	2		
173	266	平地	SI201（10F15）床面	深鉢	3群	BⅣ1	3					横線			4	4	2		
173	267	平地	SI201（11F11）床面	深鉢	3群	BⅣ1	3					横線			4	2	2		
173	268	平地	SI201（10F15）床面	深鉢	3群	BⅣ1	3					横線			4	2	2		
173	269	平地	SI201（10F15）Ⅱb層	深鉢	3群	BⅠ1	2新					楕円形文	縦沈線		4	4	5		
173	270	平地	SI201（10F15）床面	深鉢	3群		1～2					指頭圧痕			5	1	3		
174	271	平地	SI201（11F12）Ⅱb層	深鉢	3群		1～2	24.0				指頭圧痕			4	2	3		
174	272	平地	SI201（10F10）Ⅱb層	深鉢	3群	B	2新	30.0				円刺突			4	1	2		
174	273	平地	SI201（10F12）床面	深鉢	1群	南境？						蛇行文			3	1	2		
174	274	平地	SI201（10F15）床面	深鉢	4群	BⅠ		21.0			18.2				4	4	4		
174	275	平地	SI201（10F20）Ⅱb層	深鉢	1群	関東	3					横線			6	3	2		
174	276	平地	SI201（10F20）床面	深鉢	3群	B	2新					横線			4	1			
174	277	平地	SI201（10F20）Ⅱb層	深鉢	3群	B	2新						縦沈線	RL	4	2			
174	278	平地	SI201（10F15）Ⅱb層	浅鉢	1群	関東	3	33.0				横線			2	1	5		
174	279	平地	P5487（11F11・12）［SI201］	鉢	3群			15.6							4	2	7		
174	280	平地	SI201（11F12Ⅱb層、10F15床面）、P5463（11F11）［SI201］、P5467（11F21）［SI201］、11F16Ⅱb層・Ⅲb層、11F17Ⅲb層、11F20Ⅱb層	注口	3群	Ⅰ類	1～2	31.8			39.0	横線	渦巻文＋弧線	LR	3	1	5		17.02㌫
174	281	平地	石囲炉1952［SI2000］	深鉢	4群?					11.0					5	2		24	底：不明
174	282	平地	SI2000（11E8p1）床面	深鉢	3群	BⅠ1	2新					円刺突			3	1	2		
174	283	平地	SI2000（11E8p2）床面	深鉢	3群	B							縦沈線		5	1	2		
174	284	平地	SI2000（11E8p2）床面	深鉢	3群	B1				11.0	27.4			RL	4	2		6	
174	285	平地	P5349（11D23）［SI2000］	鉢	3群							円刺突			3	1	1		
174	286	平地	P5427（11E18）［SI8473］	深鉢	3群	B						斜刺突			5	3	2		
174	287	平地	P5427（11E18）［SI8473］	深鉢	3群	B							縦沈線	RL	4	2			
174	288	平地	地床炉1943「SI1951］（11E23・24）	深鉢	3群	B							縦沈線		3	1	1		
174	289	平地	P4798（11F8・13）［SI8061］	深鉢	3群	B						縦沈線			4	2	1		
174	290	平地	P1371（11F13）［SI8061］	深鉢	3群	B						縦沈線		RL	4	1	2		
174	291	平地	P4677（11E15）［SI8092］	深鉢	3群								渦巻文？		4	1			
174	292	平地	P5937（12F2・3）［SI8465］	深鉢	3群										5	1	2		
174	293	掘立	P3024（2D14）［SB3491］覆土	深鉢?	2群		1	10.0				把手有			5	3	6		
174	294	掘立	P1858（2D4）［SB3491］覆土	深鉢	3群			28.0				横線			5	1	2		
174	295	掘立	P3463（2D8）［SB3491］1層	深鉢	4群	BⅡ		35.0						LR	5	2	2		
174	296	掘立	P3020（2D9・10）［SB3492］覆土	深鉢	1群?		1?	26.0				円刺突			4	3	2		

図版No.	報告No.	種別	遺構名・出土地点・層位	器種	系統	細別	時期	法量（cm）				文様			胎土	色調	残存率		備考
								口径	器高	器高	胴大	口頸部	胴部	地文			口	底	
174	297	掘立	P3020（2D9・10）[SB3492]	深鉢	3群			40.0				斜刺突	縦沈線		5	2	3		
174	298	掘立	P3020（2D9・10）[SB3492] 覆土	深鉢	1群	綱取						方形？			4	4	2		
174	299	掘立	P3025（2D4・5）[SB3492] 覆土	深鉢	3群			34.0				横線			4	2	2		
174	300	掘立	P3025（2D4・5）[SB3492] 覆土	深鉢	3群			30.0							4	2	2		
174	301	掘立	P3025（2D4・5）[SB3492] 4層	深鉢	3群	B	2新						縦沈線	RL	4	1			
174	302	掘立	P3395（2D8）[SB3492] 4層	深鉢	3群			18.0				円刺突			5	2	3		
175	303	掘立	P3021（2D14・15）[SB3493]	深鉢	3群	B						横線			4	3	1		
175	304	掘立	P3021（2D14・15）[SB3493] 覆土	深鉢	3群	A	1?						縦沈線	RL	3	1	2		
175	305	掘立	P6005（3E6・7・11・12）[SB6377] 埋土上層	鉢	3群?							斜沈線			3	3	2		
175	306	掘立	P6005（3E6・7・11・12）[SB6377] 埋土上層	深鉢	3群	B						斜刺突	縦沈線	RL	4	4	1		
175	307	掘立	P6005（3E6・7・11・12）[SB6377] 埋土上層	深鉢	3群									RL	4	1	1		
175	308	掘立	P6137（2E20）[SB6377] 埋土下層	深鉢	3群	A						楕円形文			3	4			
175	309	掘立	P6137（2E20）[SB6377] 埋土下層	深鉢	3群	A	1?						縦沈線		3	4			
175	310	掘立	P6153（2E5）[SB6377] 柱痕	深鉢	3群	B Ⅰ1	2	36.0				楕円形文		RL	5	1	5		
175	311	掘立	P6153（2E5）[SB6377] 覆土	深鉢	3群	B Ⅰ1	2	29.0				楕円形文		RL	5	2	4		
175	312	掘立	P6153（2E5）[SB6377] 覆土	深鉢	3群			29.0				横線			3	2	4		
175	313	掘立	P6153（2E5）[SB6377] 柱痕	鉢	3群							楕円形文			3	1	2		
175	314	掘立	P6153（2E5）[SB6377]	深鉢	4群	B Ⅱ		33.0						RL	3	3	1		
175	315	掘立	P6138（2E13・14）[SB6377] 柱痕	深鉢	1群	関東							磨消縄文	LR	2	5			
175	316	掘立	P6138（2E13・14）[SB6377] 埋土上層	深鉢	3群	B							縦沈線		3	2			
175	317	掘立	P6138（2E13・14）[SB6377]	深鉢	4群	B Ⅱ		30.0						RL・LR	4	2	2		
175	318	掘立	P7341（3G4）[SB7701]	深鉢	3群	B Ⅰ1	2新					楕円形文		RL	3	1	3		
175	319	掘立	P7341（3G4）[SB7701]	深鉢	3群	B						楕円形文		LR	5	2	2		
175	320	掘立	P7341（3G4）[SB7701]	深鉢	4群	B Ⅱ		27.4						RL	5	2	11		
175	321	掘立	P1777（3G8）[SB7701] 埋土	深鉢	4群	A Ⅰ						円刺突		LR	5	2	2		
175	322	掘立	P2734（4G6）[SB7701] 3層	深鉢	3群										5	1	1		
175	323	掘立	P2691（3G7）[SB7701] 埋土	壺	1群	十腰内		10.2				円文	円文	LR	5	2	8		
175	324	掘立	P2607（3G10）[SB7701] 1層	深鉢	3群	B						円刺突		RL・LR	5	1	2		
175	325	掘立	P2607（3G10）[SB7701] 1層、3G4・5集中	深鉢	4群								格子目文		3	2			
175	326	掘立	P7623（3F10）[SB7700]	深鉢	3群							円刺突		RL	3	2	1		
175	327	掘立	P1714（3F13）[SB7700] 埋土	深鉢	3群							楕円形文			3	1	1		
175	328	掘立	P6195（3F11・12・16・17）[SB7700]	深鉢	3群	B						斜刺突			4	2	1		
175	329	掘立	P6195（3F11・12・16・17）[SB7700]	深鉢	3群							円刺突			4	4	1		
175	330	掘立	P1701（3F20・25）[SB7700・7702・7703] 1層	深鉢	3群	B						横線			3	2	1		
175	331	掘立	P1701（3F20・25）[SB7700・7702・7703] 8層	深鉢	3群			22.5				指頭圧痕			5	2	2		
175	332	掘立	P1701（3F20・25）[SB7700・7702・7703] 1層	深鉢	3群	A							縦沈線		4	4			
176	333	掘立	P1712（3F24）「SB7702・7703] 19層	深鉢	3群	B							縦沈線		3	1			
176	334	掘立	P1712（3F24）「SB7702・7703] 31層	深鉢	3群							楕円形文			3	2	2		
176	335	掘立	P1712（3F24）「SB7702・7703] 埋土	深鉢	3群							円形			4	1	4		
176	336	掘立	P1712（3F24）[SB7700] 埋土	深鉢	3群										5	4			
176	337	掘立	P6312（2F25）[SB7700]	鉢	3群	B						楕円形文			4	1	1		
176	338	掘立	P1771（3F23）[SB7700] 1層	深鉢	4群	B								LR	5	3	1		
176	339	掘立	P1760（3F17）[SB7700]	注口	3群										5	2			
176	340	掘立	P1760（3F17）[SB7700]	深鉢	4群	B Ⅰ		38.0						LR・RL	3	2	6		
176	341	掘立	P1102（4E4・5・9・10）[SB7702] 29層	深鉢	3群	B		18.0				楕円形文		RL	3	3	2		
176	342	掘立	P455（4E12・13・17・18）[SB7702] 2・46層、4E17 Ⅱb層	深鉢	3群	A Ⅰ1	1	14.4			13.0	縦沈線、コ字沈線			5	2	12		1.55㎏
176	343	掘立	P1102（4E4・5・9・10）[SB7703] 7層	深鉢	3群							指頭圧痕		LR	4	3	2		
176	344	掘立	P1102（4E4・5・9・10）[SB7703] p1	深鉢	4群	B Ⅱ		44.0						LR	3	2	4		
176	345	掘立	P1102（4E4・5・9・10）[SB7703] 19層	深鉢	3群										5	2			
176	346	掘立	P455（4E12・13・17・18）[SB7703] 27層	深鉢	3群										5	2			
176	347	掘立	P1703（4E8・9・13・14）[SB7703] 5層	深鉢	3群	B							縦沈線	RL	5	2			
176	348	掘立	P1703（4E8・9・13・14）[SB7703] 埋土	深鉢	3群	B						渦巻文？			4	4	2		
176	349	掘立	P1702（4E8・9・13・14）「SB7703]	深鉢	4群	B Ⅱ		42.0						LR	5	2	1		
176	350	掘立	P1702（4E8・9・13・14）「SB7703]	深鉢	4群	B Ⅱ		30.6						LR	5	2	4		
177	351	掘立	P1702（4E8・9・13・14）「SB7703]、P4054（6F14）[SB7710]	深鉢	4群	B Ⅱ							格子目文		4	2	2		
177	352	掘立	P1702（4E8・9・13・14）[SB7703] 埋土・13・19層	深鉢	4群	B Ⅱ		34.0					縦沈線		5	2	5		
177	353	掘立	P422（3F5・10、4F6）[SB7703] 35層	深鉢	3群										4	3	1		
177	354	掘立	P422（3F5・10、4F6）[SB7703] 34層	深鉢	3群	B		16.0				縦沈線			5	3	2		
177	355	掘立	P422（3F5・10、4F6）[SB7703] 18層	深鉢	4群	B Ⅱ		28.0							3	4	3		
177	356	掘立	P422（3F5・10、4F6）[SB7703] 埋土	深鉢	4群					11.4					5	2			
177	357	掘立	P435（3F14・15）[SB7703・7704] 1層	深鉢	3群	B		32.0							5	1	2		
177	358	掘立	P435（3F14・15）[SB7703・7704] 2層	深鉢	3群										5	1	2		

図版No.	報告No.	種別	遺構名・出土地点・層位	器種	系統	細別	時期	法量（cm）				文様			胎土	色調	残存率		備考
								口径	器高	器高	胴大	口頸部	胴部	地文			口	底	
177	359	掘立	P435（3F14･15）［SB7703･7704］7層･埋土	深鉢	4群	BⅡ		35.0						RL	5	1	1		
177	360	掘立	P435（3F14・15）［SB7703・7704］21層	深鉢	3群	B		37.0						LR	5	2	2		
177	361	掘立	P435（3F14・15）［SB7703・7704］27層	深鉢	3群	B		30.0							3	1	2		
177	362	掘立	P1705（5E12・13）［SB7703］一括・1層	深鉢	3群	A									5	2			
177	363	掘立	P1705（5E12・13）［SB7703］19・20層	深鉢	3群	B				8.8			縦沈線		5	1		22	底：A1類
177	364	掘立	P1705（5E12・13）［SB7703］20層	深鉢	3群	B						渦巻文			4	2			
177	365	掘立	P1705（5E12・13）［SB7703］埋土	深鉢	4群						35.0		格子目文		4	2			
177	366	掘立	P1705（5E12・13）［SB7703］6・7・13・15・19層、P1706（5E16・21）［SB7703］、5E12Ⅲb層、5E13Ⅱb層、5E16・21Ⅲb層	深鉢	4群	BⅡ		31.2						R・L撚	5	1	13		
178	367	掘立	P1706（5E16・21）［7703］埋土	深鉢	3群	B						渦巻文			4	1			
178	368	掘立	P1706（5E16・21）［7703］覆土	深鉢	3群	A	1						縦沈線		3	1			
178	369	掘立	P464（4F4・5）［SB7702～7704］埋土	深鉢	3群	B		26.0				楕円形文			4	3	2		
178	370	掘立	P464（4F4・5）［SB7702～7704］	深鉢	4群	BⅡ		10.0							3	2	3		
178	371	掘立	P437（4F12・13・17・18）［SB7703］1層	深鉢	3群	B						楕円形文			4	4	1		
178	372	掘立	P437（4F12・13・17・18）［SB7703］14層	深鉢	3群	B		17.0							5	1	3		
178	373	掘立	P437（4F12・13・17・18）［SB7703］	深鉢	4群	BⅡ		23.4			24.2			LR・RL	5	1	6		10.00㌫
178	374	掘立	P458（4F16・21）［SB7703］1層	深鉢	3群	B						楕円形文			3	1	1		
178	375	掘立	P458（4F16・21）［SB7703］14層	深鉢	3群	B		23.0				楕円形文			4	2	4		
178	376	掘立	P458（4F16・21）［SB7703］18層、4F23Ⅲb層、4G3Ⅱb～Ⅱc層	深鉢	3群	AⅠ1	1～2	30.0				指頭圧痕		RL	5	1	5		
178	377	掘立	P1707（4E19・24）［SB7703］9層	深鉢	4群	AⅠ	1					指頭圧痕		LR	3	1	2		
178	378	掘立	P1707（4E19・24）［SB7703］埋土	深鉢	3群	BⅠ4	2							LR	3	2			
178	379	掘立	P1708（4E23）［SB7704］埋土	深鉢	1群?			22.0				縦隆帯		L・R撚	5	2	1		
178	380	掘立	P1708（4E23）［SB7704］埋土・9・20・21・39層	深鉢	4群	BⅡ		26.4						L撚	3	1	15		12.72㌫
178	381	掘立	P1702（4E8･9･13･14）［SB7704］4層･埋土	深鉢	4群?										4	1			
178	382	掘立	P7358（5E21）［SB7704］1層、5E21Ⅲb層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	26.0				縦沈線			3	3	11		
178	383	掘立	P465（4F4・5・9・10）［SB7704］	注口	1群	関東									4	1			
178	384	掘立	P2748（5E7・8）［SB7704］2層	壺	1群	関東		5.0							1	3	7		
178	385	掘立	P1710（4F11）［SB7704］5層	深鉢	4群?							指頭圧痕			3	1	1		
178	386	掘立	P7206（5E14）［SB7705］	深鉢	3群	B						円刺突	縦沈線		4	3	2		
178	387	掘立	P7206（5E14）［SB7705］	深鉢	3群	B							縦沈線		4	2			
178	388	掘立	P479（4F15）［SB7705］1層	深鉢	3群	B									4	1			
178	389	掘立	P6889（5E18）［SB7705］埋土	深鉢	1群?										4	3			
178	390	掘立	P6991（5F1）［SB7705］6層	深鉢	1群	関東						横線		RL	2	5	1		
178	391	掘立	P6991（5F1）［SB7705］6層	深鉢	3群	B									5	3	1		
178	392	掘立	P879（6E22）［SB7705・7709］2層	深鉢	4群	BⅠ		30.0						LR	3	2	2		
179	393	掘立	P6930（5F5）［SB7705］	深鉢	3群	B		18.0				横線			4	2	2		
179	394	掘立	P6825（5F13）［SB7705］	深鉢	3群	B?				11.6					4	4		4	
179	395	掘立	P6825（5F13）［SB7705］埋土	深鉢	3群	B									4	4			
179	396	掘立	P2918（5F17・22）「SB7705］	深鉢	3群	BⅣ1	3?					横線		LR	4	4	1		
179	397	掘立	P2918（5F17・22）［SB7705］	深鉢	3群	B	3					横線			5	1	1		
179	398	掘立	P2918（5F17・22）［SB7705］	深鉢	3群	BⅠ1	3	44.0				斜刺突		RL	4	2	5		
179	399	掘立	P2918（5F17・22）「SB7705］	深鉢	3群	BⅡ1?									6	2			
179	400	掘立	P2918（5F17・22）「SB7705］	深鉢	3群									LR	4	4			
179	401	掘立	P2918（5F17・22）「SB7705］	深鉢	4群	BⅡ		35.0							5	3	10		
179	402	掘立	P2918（5F17・22）［SB7705］	浅鉢	1群	関東	3	54.0				横線			4	1	6		
179	403	掘立	P1837（5D2）［SB7706］1層	深鉢	3群	A?		30.0				指頭圧痕			4	2	2		
179	404	掘立	P1837（5D2）［SB7706］1層	深鉢	3群	B		30.0				指頭圧痕		LR	4	2	2		
179	405	掘立	P1837（5D2）［SB7706］5層	深鉢	4群	BⅡ		44.0						LR	4	3	2		
179	406	掘立	P1837（5D2）［SB7706］18層、P1840（5C22）	深鉢	3群	BⅠ1		36.0				横線		LR	4	2	3		
179	407	掘立	P307（6D1）［SB7706］9層	深鉢	3群	B?						円刺突			4	4	1		
179	408	掘立	P1165（5D13・14）［SB7706］4層	注口	3群	A							渦巻文？		4	2			
179	409	掘立	P1165（5D13・14）［SB7706］4層	深鉢	1群	南境？									4	3	1		
179	410	掘立	P4064（6C23・6D3）［SB7707］16層	深鉢	3群	B?		20.0				円刺突		RL	3	1	4		
179	411	掘立	P4064（6C23・6D3）［SB7707］埋土	壺	3群	?					15.0	横線			4	3			
179	412	掘立	P1617（5D20）［SB7707］5・17層	深鉢	3群	B		12.0				円刺突			4	3	6		
179	413	掘立	P6542（6D9・10）［SB7707］17層	深鉢	3群	B		24.0				円刺突			4	1	2		
179	414	掘立	P6542（6D9・10）［SB7707］17層	深鉢	3群	A?					24.0		縦沈線	RL	4	3			
179	415	掘立	P6542（6D9・10）［SB7707］22層	深鉢	3群	B		31.0				円刺突			4	2	4		
179	416	掘立	P7118（6D21）［SB7707・7709］1層	深鉢	3群	B?		25.0				楕円形文			5	3	2		
179	417	掘立	P7118（6D21）［SB7707・7709］5層	浅鉢	3群	?		28.0				渦巻文			4	2	2		
180	418	掘立	P7009（6D18）［SB7708］12層	深鉢	1群	南境？		11.6							4	3	3		
180	419	掘立	P7009（6D18）［SB7708］埋土	深鉢	3群	B?		31.5				円刺突		RL	5	2	2		
180	420	掘立	P7009（6D18）［SB7708］埋土	深鉢	3群	B?		34.0					格子目文		4	2	1		
180	421	掘立	P4044（6D23）［SB7708］柱痕	深鉢	3群	B		10.0						RL	4	2	5		
180	422	掘立	P4044（6D23）［SB7708］1層	深鉢	3群	B?								RL	4	1			
180	423	掘立	P4044（6D23）［SB7708］5層	深鉢	3群	B							縦沈線		4	2			
180	424	掘立	P4044（6D23）［SB7708］10層、P393（6D24）	深鉢	3群	B8	2新	40.0				楕円形文	渦巻文		4	2	3		
180	425	掘立	P4044（6D23）［SB7708］17層	深鉢	3群	?		37.0				円刺突			4	3	1		
180	426	掘立	P4044（6D23）［SB7708］20層	深鉢	4群?					4.2					5	4		36	底：B2類？

図版No.	報告No.	種別	遺構名・出土地点・層位	器種	系統	細別	時期	法量（cm）				文様			胎土	色調	残存率		備考
								口径	器高	器高	胴大	口頸部	胴部	地文			口	底	
180	427	掘立	P4044（6D23）[SB7708] 22層	深鉢	3群	B?							縦沈線	RL	3	2			
180	428	掘立	P4398（6E8）[SB7708・7710] 6層	深鉢	3群	B Ⅰ 4									5	2			
180	429	掘立	P4398（6E8）[SB7708・7710] 13層	深鉢	3群	A		38.0				指頭圧痕		RL	5	1	2		
180	430	掘立	P4398（6E8）[SB7708・7710] 13層	深鉢	3群	B		30.0							5	2	2		
180	431	掘立	P4398（6E8）[SB7708・7710] 一括	深鉢	1群	関東		20.0					円刺突		4	2	2		
180	432	掘立	P4059（6E18）[SB7708] 11層1層	深鉢	3群	B		21.0				楕円形文		LR	4	1	5		
180	433	掘立	P4059（6E18）[SB7708] 柱痕	深鉢	3群	B		23.0				円刺突			5	2	1		
180	434	掘立	P4059（6E18）[SB7708] 柱痕	深鉢	3群	B							縦沈線	RL	4	1			
180	435	掘立	P4059（6E18）[SB7708] 1層	深鉢	3群	B							縦沈線		5	2			
180	436	掘立	P4059（6E18）[SB7708・7710] 7層、6E18 Ⅲb層	深鉢	3群	B							縦沈線		5	1			
180	437	掘立	P4059（6E18）[SB7708] 7層	深鉢	4群?	A Ⅰ		39.0				円刺突		LR	4	2	1		
180	438	掘立	P4059（6E18）[SB7708・7710]	深鉢	3群	A		28.0				楕円形文			4	1	3		
180	439	掘立	P4059（6E18）[SB7708・7710]、6E18 Ⅱb層	深鉢	3群	B		40.0				楕円形文		LR	5	1	5		
180	440	掘立	P4059（6E18）[SB7708] 一括	深鉢	3群	B		15.0				円刺突	縦沈線		6	4	3		
180	441	掘立	P4057（6E23）[SB7708] 2層	深鉢	3群	B							縦沈線		4	3			
180	442	掘立	P4057（6E23）[SB7708] 3層	深鉢	3群	B		28.0				楕円形文			4	3	1		
180	443	掘立	P4057（6E23）[SB7708] 3層	深鉢	3群	B							縦沈線		4	1			
180	444	掘立	P6539（6F8）[SB7708] 1層	深鉢	1群	関東		15.0					渦巻文		1	5	8		
180	445	掘立	P6539（6F8）[SB7708] 17層	深鉢	3群	?		26.0							4	1	3		
180	446	掘立	P6539（6F8）[SB7708] 5層	深鉢	3群	B?							渦巻文	LR	3	2			
180	447	掘立	P6539（6F8）[SB7708] 8層	深鉢	3群	?		30.5				円刺突			4	1	3		
181	448	掘立	P3501（7D16）[SB7708] 覆土	深鉢	3群	A		26.0				楕円形文		LR・RL	5	2	4		
181	449	掘立	P3501（7D16）[SB7708]	深鉢	4群	B Ⅱ		30.0							4	2	3		
181	450	掘立	P4013（6D25・6E5・7D21・7E1）[SB7708] 1層	深鉢	3群	B		34.0				横線	縦沈線		5	2	2		
181	451	掘立	P4013（6D25・6E5・7D21・7E1）[SB7708] 柱痕	深鉢	3群	B						縦刺突			5	3	2		
181	452	掘立	P4013（6D25・6E5・7D21・7E1）[SB7708] 1層	深鉢	4群	B		32.0							3	1	3		
181	453	掘立	P4013（6D25・6E5・7D21・7E1）[SB7708] 5層	深鉢	4群	A		30.0				指頭圧痕			3	2	2		
181	454	掘立	P4013（6D25・6E5・7D21・7E1）[SB7708] 10層	深鉢	3群	A?							縦沈線		4	2			
181	455	掘立	P4013（6D25・6E5・7D21・7E1）[SB7708]	壺	3群			8.6							3	2	2		
181	456	掘立	P4013（6D25・6E5・7D21・7E1）[SB7708]	深鉢	3群	B		28.0				斜刺突	縦沈線	RL	4	2	5		
181	457	掘立	P4013（6D25・6E5・7D21・7E1）[SB7708] 埋土	深鉢	3群	B		22.5				楕円形文	縦沈線		3	2	2		
181	458	掘立	P7065（7E6）[SB7708] 1層	深鉢	3群	B							縦沈線		5	1			
181	459	掘立	P7065（7E6）[SB7708] 4層	深鉢	3群	B									5	2			
181	460	掘立	P4004（6E20）[SB7708・7710] 1・2層	深鉢	3群	B				12.0			縦沈線		4	2			
181	461	掘立	P4004（6E20）[SB7708・7710] 2層	深鉢	4群	B Ⅱ								L・R撚	4	2		5	
181	462	掘立	P4004（6E20）[SB7708・7710] 4層	深鉢	3群	B		40.0				楕円形文		LR	5	2	2		
181	463	掘立	P4004（6E20）[SB7708・7710] 4層	深鉢	3群	B		38.0				楕円形文	縦沈線	R撚	4	1	2		
181	464	掘立	P4050（6E25・6F5）[SB7708] 柱痕	深鉢	3群	B		20.0					縦沈線		4	2	3		
181	465	掘立	P4050（6E25・6F5）[SB7708] 1層	深鉢	3群	B							縦沈線	RL	3	3			
181	466	掘立	P4050（6E25・6F5）[SB7708] 11層、P4058（6E24）[SB7709・7710] 5層	深鉢	3群	A Ⅱ 2	1	30.0				円刺突	逆U字	LR	3	1			
181	467	掘立	P4050（6E25・6F5）[SB7708] 埋土	深鉢	3群	?		18.0				楕円形文			4	2	2		
181	468	掘立	P4050（6E25・6F5）[SB7708] 埋土	深鉢	3群	B		25.0					縦沈線		5	2	1		
181	469	掘立	P4050（6E25・6F5）[SB7708]、P4055（6F18）	深鉢	4群?	A Ⅰ	1?	31.0				指頭圧痕			5	1	4		
181	470	掘立	P4056（6F10）[SB7708] 柱痕	深鉢	4群	B Ⅱ		30.0					格子目文		5	2	3		
181	471	掘立	P4056（6F10）[SB7708] 柱痕	深鉢	3群	B		29.0					縦沈線	RL	6	2	2		
181	472	掘立	P4056（6F10）[SB7708] 5層	深鉢	?	?							蛇行隆帯	LR	4	1	3		
181	473	掘立	P4056（6F10）[SB7708] 6層	深鉢	1群	綱取		30.0					対弧文?	LR	5	1			
181	474	掘立	P4056（6F10）[SB7708] 6層	深鉢	3群	A		26.5				円刺突	縦沈線	RL	5	2	1		
181	475	掘立	P4056（6F10）[SB7708] 埋土	深鉢	3群						15.0				3	1	2		
182	476	掘立	P4056（6F10）[SB7708] 柱痕、P4018（6F5・10）[SB7711]	深鉢	4群	B Ⅱ							格子目文		5	2			
182	477	掘立	P4008（6F15・20）[SB7708] 柱痕	深鉢	4群	B Ⅱ		25.0						?	3	2	4		
182	478	掘立	P4008（6F15・20）[SB7708] 2層	深鉢	3群	B		34.5				円刺突		RL	5	2	4		
182	479	掘立	P4008（6F15・20）[SB7708] 3層	深鉢	3群	B		13.0				横線		RL	3	2	2		
182	480	掘立	P6805（6D19）[SB7708] 5層	深鉢	3群	A	1?	40.0				横線			5	4	2		
182	481	掘立	P6805（6D19）[SB7708] 6層	深鉢	3群	B		32.0				横線	縦沈線	LR	4	3	3		
182	482	掘立	P4351（6F4）[SB7708] 柱痕	深鉢	3群	B		26.0				楕円形文			4	3	1		
182	483	掘立	P6515（6E9）[SB7708・7709] 3層	深鉢	3群	A Ⅱ 2	1							RL・LR	5	1			
182	484	掘立	P6515（6E9）[SB7708・7709] 8層	深鉢	3群	B							縦沈線		4	3	2		
182	485	掘立	P6515（6E9）[SB7708・7709] 埋土	深鉢	1群	綱取						縦隆帯		RL・LR	4	3	1		
182	486	掘立	P4053（6F19）[SB7708] 1層	深鉢	3群	B							縦沈線		5	2			
182	487	掘立	P4053（6F19）[SB7708] 3層	深鉢	3群	B							縦沈線	RL	4	1			
182	488	掘立	P4053（6F19）[SB7708] 埋土	深鉢	3群	?		12.6				斜沈線			3	3	4		
182	489	掘立	P7090（6E6・7）[SB7709] 1層	深鉢	3群	B Ⅳ 1	3	20.0				横線			4	2	6		
182	490	掘立	P4062（6E16）[SB7709] 9層	深鉢	3群	?		36.0				斜刺突			5	1	3		
182	491	掘立	P879（6E22）[SB7705・7709]	注口	2群?		1						円刺突	刺突	3	4	2		
182	492	掘立	P879（6E22）[SB7705・7709]	注口	3群	?									5	1			
182	493	掘立	P879（6E22）[SB7705・7709]	深鉢	4群?	B						円刺突			4	2	2		
182	494	掘立	P4041（6D25）[SB7709] 1層	深鉢	3群	B?					35.0		縦沈線		4	2			
182	495	掘立	P4041（6D25）[SB7709] 柱痕	深鉢	3群	B?							縦沈線	LR	5	2			
182	496	掘立	P4041（6D25）[SB7709] 柱痕	壺	3群			8.0							4	2	4		
182	497	掘立	P4041（6D25）[SB7709] 7層	深鉢	3群	?						楕円形文			5	2			
182	498	掘立	P4041（6D25）[SB7709] 埋土	深鉢	3群	B		23.5				円刺突	縦沈線	RL	4	2	4		

図版No.	報告No.	種別	遺構名・出土地点・層位	器種	系統	細別	時期	法量（cm）				文様			胎土	色調	残存率		備考
								口径	器高	器高	胴大	口頸部	胴部	地文			口	底	
182	499	掘立	P4058（6E24）［SB7709］4層	深鉢	3群	B								縦沈線	RL	4	3			
182	500	掘立	P4058（6E24）［SB7709］埋土	深鉢	3群	?						指頭圧痕				5	3	4		
182	501	掘立	P4058（6E24）［SB7709］21層	深鉢	1群?								隆帯			3	1			
182	502	掘立	P4058（6E24）［SB7709］埋土	深鉢	3群	B								縦沈線		5	3			
182	503	掘立	P4058（6E24）［SB7709］10層	深鉢	3群	B					13.0			縦沈線	RL	4	2			
183	504	掘立	P4059（6E18）［SB7710］柱痕、P4058（6E24）［SB7709］	深鉢	4群	BⅡ		30.0							R・L撚	4	2	1		
183	505	掘立	P4059（6E18）［SB7710］埋土、P4018（6F5・10）［SB7711］	深鉢	3群	B						円刺突				4	1	3		
183	506	掘立	P4060（6E23）［SB7710］11層	深鉢	3群	B								縦沈線	RL	4	1			
183	507	掘立	P4060（6E23）［SB7710］	深鉢	3群	B		16.5				横線		縦沈線	RL	4	2	5		
183	508	掘立	P4060（6E23）［SB7710］埋土	深鉢	4群	BⅡ		28.0							LR	5	2	5		
183	509	掘立	P6522（6F3）［SB7710］柱痕、6F2Ⅱb層	深鉢	3群	B		20.0				円刺突		縦沈線	RL	5	1	3		
183	510	掘立	P6522（6F3）［SB7710］柱痕	深鉢	3群	?						斜刺突			LR	3	1			
183	511	掘立	P6522（6F3）［SB7710］柱痕	深鉢	4群	BⅡ		10.4							LR	3	2	5		
183	512	掘立	P6562（6F12・13）［SB7710］1層	深鉢	3群	A								縦沈線		5	2			
183	513	掘立	P6562（6F12・13）［SB7708・7710］埋土	深鉢	3群	B						縦刺突		縦沈線		5	1	2		
183	514	掘立	P6562（6F12・13）［SB7708・7710］埋土	深鉢	3群	B		33.0				楕円形文		縦沈線	RL	3	1	3		
183	515	掘立	P6562（6F12・13）［SB7708・7710］一括	浅鉢	3群		3	36.0				横線				3	1	3		
183	516	掘立	P6549（7E6）［SB7710］1層	深鉢	3群	BⅣ1	3					横線				4	2	1		
183	517	掘立	P6549（7E6）［SB7710］3層	深鉢	3群	A?	1?	30.0				円刺突				5	3	3		
183	518	掘立	P6549（7E6）［SB7710］3層	深鉢	3群	B		21.0				円刺突		縦沈線	RL	4	1	8		
183	519	掘立	P6549（7E6）［SB7710］5層	深鉢	3群	A?	1?	31.0				指頭圧痕				4	2	3		
183	520	掘立	P6549（7E6）［SB7710］10層	深鉢	3群	BⅠ1		42.0				斜刺突			LR	5	2	4		
183	521	掘立	P6549（7E6）［SB7710］10層	深鉢	3群	BⅠ3		26.0				指頭圧痕	渦巻文		RL	5	2	1		
183	522	掘立	P6549（7E6）［SB7710］11層	深鉢	3群	A	1?	30.0				指頭圧痕	縦沈線		LR	3	1	3		
183	523	掘立	P4049（6F5）［SB7710］1層	深鉢	3群	?		21.0								5	1	3		
183	524	掘立	P4049（6F5）［SB7710］1層	深鉢	3群	B						横線	縦沈線			5	4	1		
183	525	掘立	P4049（6F5）［SB7710］1層	深鉢	1群?	関東		19.6						枠状文	LR	4	1	7		
183	526	掘立	P4049（6F5）［SB7710］柱痕、P4057（6E23）［SB7708］	深鉢	3群	B								縦沈線	RL	5	1			
183	527	掘立	P4049（6F5）［SB7710］6層	深鉢	3群	B		40.0				楕円形文	縦沈線			4	1	2		
184	528	掘立	P6538（6E4）［SB7710］4・5層	深鉢	3群	?		20.0								3	2	3		
184	529	掘立	P4353（6E14・19）［SB7708・7710］柱痕	深鉢	3群	B?		36.0				楕円形文			LR	5	2	2		
184	530	掘立	P4353（6E14・19）［SB7710］1層、6E4Ⅱb層、6E18Ⅱb層	深鉢	3群	B?		32.0				円刺突多			LR	5	2	8		
184	531	掘立	P4353（6E14・19）［SB7710］1層	深鉢	3群	B								縦沈線		4	2			
184	532	掘立	P6538（6E4）［SB7710］7層	深鉢	3群	A?	1?	25.0				斜刺突			RL	5	1	2		
184	533	掘立	P4346（6F9）［SB7710］柱痕	深鉢	1群?									縦隆帯		3	3			
184	534	掘立	P4346（6F9）［SB7710］13層	深鉢	3群	B		20.0				円刺突		縦沈線		3	3	4		
184	535	掘立	P4346（6F9）［SB7710］埋土	深鉢	3群	B								縦沈線		3	3			
184	536	掘立	P4054（6F14）［SB7710］2・3層、P4053（6F19）［SB7708］	深鉢	3群	B						円刺突		縦沈線	RL	5	3	8		
184	537	掘立	P4054（6F14）［SB7710］2・3層	深鉢	4群	BⅡ		22.0							LR	5	2	15		
184	538	掘立	P4054（6F14）［SB7710］4層	深鉢	3群	B		32.0				指頭圧痕				3	2	2		
184	539	掘立	P4054（6F14）［SB7710］	鉢	3群	Ⅱ		20.0				横線				3	4	3		
184	540	掘立	P3505（7D21・22）［SB7711］	深鉢	3群	?		30.0				横線				4	2	3		
184	541	掘立	P6548（7E6）［SB7711］柱痕	深鉢	3群	?		40.0				指頭圧痕			RL	3	2	2		
184	542	掘立	P6548（7E6）［SB7711］5層	深鉢	3群	B								縦沈線		4	2			
184	543	掘立	P6548（7E6）［SB7711］6層	深鉢	3群	B		11.0						縦沈線		3	4	6		
184	544	掘立	P6548（7E6）［SB7711］、P6549（7E6）［SB7710］	深鉢	3群	A	1?							横線	LR	5	2			
184	545	掘立	P4016（7E11）［SB7711］一括	深鉢	3群	A	1?								LR	5	2			
184	546	掘立	P4018（6E25）［SB7711］1層	深鉢	3群	B								逆U字	LR	3	1			
184	547	掘立	P4018（6E25）［SB7711］柱痕	深鉢	3群	B									LR	5	2			
184	548	掘立	P4007（6F5・10）［SB7711］柱痕	深鉢	3群	B		22.0				楕円形文	縦沈線			5	3	4		
184	549	掘立	P4007（6F5・10）［SB7711］1層	深鉢	3群	B		30.0				円刺突				5	1	3		
184	550	掘立	P4007（6F5・10）［SB7711］5層	壺？	3群	?									L撚	3	1			
184	551	掘立	P4007（6F5・10）［SB7711］6層・10層・埋土	深鉢	3群	A	1?	32.0						縦沈線	LR	3	2	2		
184	552	掘立	P4007（6F5・10）［SB7711］埋土	深鉢	1群	綱取		40.0								5	1	1		
184	553	掘立	P4007（6F5・10）［SB7711］埋土	深鉢	1群	綱取		30.0						渦巻文	RL	6	4	2		
184	554	掘立	P4007（6F5・10）［SB7711］埋土	深鉢	3群	A2		8.0				円刺突				5	2	6		
184	555	掘立	P6744（7E4）［SB7711］柱痕	深鉢	3群	AⅠ4		29.0				楕円形文	縦沈線			4	2	1		
184	556	掘立	P6744（7E4）［SB7711］埋土	深鉢	3群	A								縦沈線	RL	3	2			
184	557	掘立	P6534（7E18）［SB7711］1層	深鉢	3群	B		26.0				横線			LR	5	2	2		
184	558	掘立	P6534（7E18）［SB7711］柱痕	深鉢	3群	B								縦沈線	RL	3	4			
184	559	掘立	P6534（7E18）［SB7711］柱痕	深鉢	3群	B								縦沈線	RL	5	1			
184	560	掘立	P6534（7E18）［SB7711］埋土	深鉢	3群	?		30.0				楕円形文			LR	5	2	3		
184	561	掘立	P4408（7E23）［SB7711］	深鉢	3群	?						円刺突				3	3	1		
184	562	掘立	P4408（7E23）［SB7711］	深鉢	3群	BⅡ1	2新	30.0				縦沈線	縦沈線		RL	5	2			
184	563	掘立	P4408（7E23）［SB7711］	深鉢	1群	関東						横線			LR	2	6			
185	564	掘立	P4265（7F7）［SB7711］1層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	18.0				縦沈線				5	2	6		
185	565	掘立	P997（8D16）［SB7711］	深鉢	3群	?		20.0				斜刺突				4	4	2		
185	566	掘立	P4015（7E12）［SB7711］柱痕	深鉢	3群	A									LR・RL	3	4			
185	567	掘立	P4015（7E12）［SB7711］8層	深鉢	1群	綱取							横隆帯		LR	3	2			
185	568	掘立	P4304（6G1）［SB7712］埋土	浅鉢	1群	関東		19.4	10.0	4.8			帯縄文		LR	4	4	4	20	底：A2類？
185	569	掘立	P6993（5G15・6G11）［SB7712］1層	深鉢	3群	B		30.0				斜沈線				2	2	1		
185	570	掘立	P6993（5G15・6G11）［SB7712］	深鉢	3群	B		22.0				縦刺突	縦沈線		LR	5	3	2		
185	571	掘立	P4009（6G8・9）［SB7712］1層	深鉢	3群	B		21.0				縦刺突列			LR	4	2	4		

図版No.	報告No.	種別	遺構名・出土地点・層位	器種	系統	細別	時期	法量（cm）				文様			胎土	色調	残存率		備考
								口径	器高	器高	胴大	口頸部	胴部	地文			口	底	
185	572	掘立	P4009（6G8･9）［SB7712］14･18 層、SD301、SK6725（6G8）	深鉢	4 群	B Ⅱ		40.0							5	1	1		
185	573	掘立	P4014（6G2・3・7・8）［SB7712］1 層	深鉢	3 群	?						円刺突			5	2	2		
185	574	掘立	P4014（6G2・3・7・8）［SB7712］埋土	深鉢	3 群	?		36.0				横線			4	3	1		
185	575	掘立	P4014（6G2・3・7・8）［SB7712］一括	深鉢	3 群	A?		41.0				斜沈線			4	2	2		
185	576	掘立	P4294（6G7）［SB7713］7 層	深鉢	3 群	A?	1?	38.0				円刺突			5	1	3		
185	577	掘立	P4294（6G7）［SB7713］14 層	深鉢	3 群	B		20.0				横線		RL	5	3	1		
185	578	掘立	P4294（6G7）［SB7713］14 層	深鉢	3 群	B Ⅳ 1	3	30.0				横線			4	3	1		
185	579	掘立	P3506（7D12・17）［SB7714］	壺	3 群			11.0							4	3	4		
185	580	掘立	P3506（7D12・17）［SB7714］	深鉢	3 群	B Ⅳ 1	3					横線			5	3	1		
185	581	掘立	P3506（7D12・17）［SB7714］、SD301	深鉢	3 群	B?							縦沈線		4	3			
185	582	掘立	P962（7D14・19）［SB7714］一括	鉢	1 群	関東		20.0				帯縄文		LR	2	2	2		
185	583	掘立	P962（7D14・19）［SB7714］一括	深鉢	3 群	B		26.0				斜刺突	縦沈線		4	4	3		
185	584	掘立	P961（7D4・9）［SB7714］1 層	深鉢	3 群	A	1?						縦沈線	RL	5	1			
185	585	掘立	P961（7D4・9）［SB7714］2 層	深鉢	3 群	B							縦沈線		4	2			
185	586	掘立	P961（7D4・9）［SB7714］2 層	深鉢	3 群	?						横線			4	3			
185	587	掘立	P5084（14D22）［SB7715］	深鉢	3 群	B							縦沈線	RL	5	2			
185	588	杭列	P7205（5E9・10）［杭列 1］3 層	深鉢	3 群	A	1?						縦沈線		4	2			
185	589	杭列	P1615（5D15）［杭列 2］2 層	深鉢	3 群	B		20.0				円刺突			5	2	3		
185	590	杭列	P7046（6D21）2 層［杭列 2］	深鉢	3 群	?		17.0				円文			4	4	3		
185	591	杭列	P7046（6D21）5 層［杭列 2］	深鉢	3 群	B						円刺突			6	3	1		
185	592	杭列	P7046（6D21）5 層［杭列 2］	壺・注口？	3 群					6.6					4	1		23	漆付着
185	593	杭列	P7046（6D21）［杭列 2］	深鉢	4 群	A Ⅱ		11.0	10.0	4.6					5	2	4	23	0.51㌫
185	594	大柱穴	P1865（2D23）12 層	深鉢	1 群?			26.0							4	3	4		
185	595	大柱穴	P1865（2D23）覆土	深鉢	3 群	A?		30.0				円刺突			5	1	3		
185	596	大柱穴	P302（6C21）2 層	深鉢	3 群	B							縦沈線	RL	4	2			
185	597	大柱穴	P302（6C21）3 層	深鉢	3 群	?		28.0				円刺突		LR	4	1	2		
185	598	大柱穴	P1859（5D10）覆土	深鉢	3 群	B							渦巻文		4	4			
185	599	大柱穴	P304（6C21）10 層	深鉢	3 群	B		30.0				縦刺突		RL	4	4	3		
185	600	大柱穴	P304（6C21）覆土	浅鉢	1 群	関東						横線			5	1	1		
186	601	大柱穴	P399（6D11）2 層	深鉢	3 群	B		30.0				円刺突		RL	3	2	2		
186	602	大柱穴	P4327（6F5）1 層	深鉢	3 群	A?	1?	40.0				円刺突			3	6	3		
186	603	小柱穴	P571（3D24）覆土	深鉢	4 群	B		33.0					条線		3	1	1		
186	604	小柱穴	P1850（2E3）9 層	深鉢	3 群	B						縦刺突	縦沈線		4	2			
186	605	小柱穴	P1850（2E3）覆土	深鉢	3 群	A		24.0					縦沈線		5	2	2		
186	606	柱穴	P3018（2D18）覆土	鉢	3 群	Ⅳ		21.0				縦刺突			3	1	5		
186	607	柱穴	P3016（2D18）覆土	深鉢	3 群	?		26.0				楕円形文			5	2	3		
186	608	柱穴	P6091（2F2）	深鉢	3 群	A							縦沈線		3	1	2		
186	609	柱穴	P6053（2F8）	深鉢	2 群		1					刺突		刺突	5	1			
186	610	土坑	P414（2F4）3 層	深鉢	4 群	B Ⅱ		38.0			40.8			RL	4	2	9		
186	611	土坑	P414（2F4）3 層	深鉢	4 群	B Ⅱ		32.0						LR	4	2	7		
186	612	柱穴	P6255（2F15・20）	深鉢	3 群	A?	1?	20.0				楕円形文	縦沈線		4	1	2		
186	613	柱穴	P1845（3D20）	深鉢	4 群	A		33.0				楕円形文		LR	3	1	8		
186	614	柱穴	P6202（3E7）p1	深鉢	3 群	A	1?			9.0			縦沈線	R 撚	4	2		36	
186	615	柱穴	P6001（3E9）	深鉢	3 群	A	1?						縦沈線		5	2			
186	616	柱穴	P6209（3E17）	深鉢	3 群	B Ⅰ 1	2 古	36.2				方形区画	蛇行状	RL	5	1	9		31.77㌫
186	617	柱穴	P6188（3E24）P1 ～ 23、P2975（3E24）1 層	深鉢	3 群	B Ⅰ 1	2 古	23.8			19.8	楕円形文	タスキ状	RL	3	1	18		6.77㌫
186	618	柱穴	P9051（3F）、3E2 Ⅱ c・Ⅲ b 層、3F23 Ⅲ b 層	深鉢	3 群	A	1?	22.0				楕円形文	縦沈線		5	2	6		
186	619	柱穴	P7312（3G9）	深鉢	3 群	B		30.0					縦沈線		3	1	7		
186	620	柱穴	P1109（4C21）1 層	深鉢	4 群	B Ⅱ		26.0						R 撚	5	1	5		
186	621	柱穴	P2528（4D7）覆土	深鉢	3 群	B		37.0				楕円形文	縦沈線	RL	5	2	3		
186	622	柱穴	P3112（4D21）覆土	深鉢	3 群	B						楕円形文	縦沈線		3	2	2		
187	623	柱穴	P564（4D22）	浅鉢	1 群	関東		42.0				横線			5	1	5		
187	624	柱穴	P568（4D16）Ⅲ b 層	深鉢	4 群?	A		29.0				指頭圧痕			3	1	3		
187	625	柱穴	P7259（4E9）、10E15 Ⅱ b 層	注口	1 群?	?		14.0					隆帯	RL	5	1	7		
187	626	柱穴	P2676（4E22）1 層、3E22 Ⅲ b 層	深鉢	3 群	B						円刺突多			3	1	2		
187	627	柱穴	P2673（4E22）1 層	深鉢	3 群	B?		30.0				円刺突	縦沈線		5	2	3		
187	628	柱穴	P2634（4G14）	深鉢	1 群?			16.0				渦巻文			3	1	3		
187	629	柱穴	P2647（4F23）、P2650（4F22）	深鉢	3 群	B		40.0				楕円形文	縦沈線		5	2	4		
187	630	柱穴	P2700（4G2）1 層	深鉢	3 群	A Ⅰ 1					31.9				5	2			
187	631	柱穴	P7028（5C25）、5C25 Ⅲ b 層	深鉢	1 群?	B Ⅱ 6	2	18.9			19.2	横線	渦巻文	RL	4	1	22		3.29㌫
187	632	柱穴	P7350（4G5・10）p1	深鉢	3 群	A?		33.5				楕円形文	縦沈線		5	2	4		
187	633	柱穴	P7040（5D5）	深鉢	3 群	B		30.0				楕円形文			5	1	3		
187	634	柱穴	P6985（5E10）	壺	1 群	関東		11.0		5.6	12.2	横線	渦巻文？		5	2	7	28	底：A3 類
187	635	柱穴	P6536（6E14）2 層	深鉢	3 群	B							縦沈線	LR	5	3			
187	636	柱穴	P2919（5E18・19）1 層	深鉢	3 群	?						円刺突			5	2	3		
187	637	柱穴	P2919（5E18・19）1 層	深鉢	3 群	B?						円刺突			5	2	2		
187	638	柱穴	P7619（5F16）	深鉢											5	3	1		中期？
187	639	柱穴	P6960（6D6）	深鉢	4 群	A		28.0				円刺突		RL	4	3	3		
187	640	柱穴	P7045（6D21）、6D21 Ⅲ b 層	深鉢	3 群	B		30.0				楕円形文	縦沈線		5	2	4		
187	641	柱穴	P7216（6D17）埋土	深鉢	3 群	A Ⅰ 1	1?			8.5	17.3			RL	5	3		27	
187	642	柱穴	P7061（6E6）埋土	深鉢	4 群?	A		35.0				横線			4	2	2		
187	643	柱穴	P6536（6E14）4b 層・埋土	深鉢	4 群?	A		29.0				円刺突			4	2	3		
187	644	柱穴	P4063（6E16）	深鉢	3 群	B		30.0				楕円形文	縦沈線		5	3	2		
187	645	柱穴	P7015（6E）1 層、P6517（6E）	深鉢	3 群	A?								RL・LR	4	2			
188	646	柱穴	P4063（6E16）	壺	1 群	関東		9.2		7.4	15.0		渦巻文	LR	5	2	5	34	
188	647	柱穴	P882（6F11・16）1 層	深鉢	3 群	B	2 新	32.0				斜沈線		RL	5	2	4		
188	648	柱穴	P4002（6F2）1 層	浅鉢	1 群	関東						帯縄文		LR	1	3	2		

図版No.	報告No.	種別	遺構名・出土地点・層位	器種	系統	細別	時期	法量（cm）				文様			胎土	色調	残存率		備考
								口径	器高	器高	胴大	口頸部	胴部	地文			口	底	
188	649	柱穴	P968（7D10）	深鉢	3群	B?		35.0				指頭圧痕		LR	5	2	2		
188	650	柱穴	P975（7D18・19）1層	深鉢	1群	関東						横線			1	4	1		
188	651	柱穴	P975（7D18・19）1層	深鉢	3群	B	3	22.0				横線			5	3	4		
188	652	柱穴	P971（7D22・23）1層	深鉢	1群?			19.0				円文	渦巻状	LR	5	2	4		
188	653	柱穴	P892（7E3）1層	深鉢	3群	A	1?						縦沈線	RL	5	2			
188	654	柱穴	P4241（7G4）1層	注口	3群	Ⅰ	2	10.0			18.0	横線	渦巻文		5	2	8		
188	655	柱穴	P8087（7G10）1層	鉢	3群	Ⅱ		21.0				横線		?	5	3	3		
188	656	柱穴	P3633（8D5）	深鉢	3群	A?						円刺突			4	3	3		
188	657	柱穴	P3643（9D15）	深鉢	3群	BⅡ6	2新	30.0					渦巻文	RL	5	2	5		
188	658	柱穴	P240（9F13・14・18・19）1層	深鉢	3群	BⅠ1	2新	15.6				刺突	縦刺突列		3	4	10		
188	659	柱穴	P240（9F13・14・18・19）Ⅲb層	深鉢	3群	?				9.0			縦沈線		5	1		15	
188	660	柱穴	P3726（10D3）	深鉢	1群	関東						横線		RL	3	4	2		
188	661	柱穴	P5698（10E12）	深鉢	3群	BⅡ1	2新					縦沈線		RL	5	2	1		
188	662	柱穴	P5694（10E17）1層	浅鉢	1群	関東		21.0	9.0	7.0					4	2	9	7	1.05㌫
188	663	柱穴	P5840（10E10）2層、10E9・10Ⅲb層	深鉢	3群	B		30.0				斜刺突	縦沈線	LR	4	3	2		
188	664	柱穴	P8236（11F10）	深鉢	3群	B						円刺突			5	1	2		
188	665	柱穴	P5317（12D2）	深鉢	4群	BⅡ		26.0	34.0	9.8				RL・LR	3	2	5	15	9.87㌫
188	666	柱穴	P142（12D9）1層	深鉢	3群	BⅠ1	2新	19.0				楕円形文	縦沈線	RL	3	1	4		
188	667	柱穴	P771（13D23）	深鉢	3群	B?	2	20.0				車輪突起	縦沈線	RL	4	1	7		
188	668	柱穴	P4779（14E23）1層p3・7、14E23Ⅲb層	深鉢	3群	BⅠ1	2新	23.4				円刺突	縦刺突列	RL	5	2	11		
188	669	柱穴	P5171（15D2）1層、15D2Ⅱb層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	13.0				縦沈線		RL	5	1	16		
188	670	柱穴	P5246（15D18）、11F1Ⅲb層	深鉢	1群	関東		16.0				横線		LR	1	5	8		
188	671	柱穴	P642（17D21・22）	深鉢	4群?					11.2					5	2		28	底：A1類
188	672	柱穴	P643（17E1　P2・4・5・6）、17D21・17E1Ⅱb層	鉢	3群	BⅣ	2	11.8			14.3	渦巻文	横沈線		4	2	30		0.94㌫
189	673	埋設	SH6340（2E22）	深鉢	3群	A?	1?			9.0			U字沈線		5	1		36	底：A1類
189	674	埋設	SH1046（2G4）	深鉢	3群	BⅠ1	2古	24.0			23.0	長方区画	縦刺突列		4	2	6		
189	675	埋設	SH583（4C24）	深鉢	3群	AⅠ1	1?			10.8	21.0			LR	4	2		36	
189	676	埋設	SH583（4C24）	深鉢	4群		1?			11.4				RL	4	2		16	底：A4類？
189	677	埋設	SH872（6F12）	深鉢	3群	B	2						縦沈線		4	2			
189	678	埋設	SH930（7D6）	深鉢	4群					11.0				LR	5	2		29	
189	679	埋設	SH3554（8D5）	深鉢	3群	BⅠ4	2新				22.1	渦巻文	縦刺突列	LR	4	2			
189	680	埋設	SH3753（8E9）、8E9Ⅲb層	深鉢	3群	A?	1?				27.8		逆U字	LR	3	2			
189	681	埋設	SH825（10E20）	深鉢	4群?					7.4				RL	6	2		36	
189	682	埋設	SH242（9G4）	壺	3群						10.7	横線		LR	4	2			内面：漆？
189	683	埋設	SH180（13D11）	深鉢	4群	BⅡ	2	27.0			29.5		U字状		3	3	9		12.94㌫
189	684	埋設	SH181（13D11）、SD5186（12D7）Ⅱb層	深鉢	4群	BⅡ		31.2			32.6			RL	3	1	8		
189	685	埋設	SH659（17D22・17E2）	深鉢	4群					7.0					3	2		12	底：B1類
189	686	袋土坑	SK5686（10E8・9）p13	深鉢	3群			14.0				横線			6	5	5		
189	687	袋土坑	SK5686（10E8・9）	深鉢	4群	BⅡ		11.6				円刺突		LR・RL	3	2	7		
189	688	袋土坑	SK5686（10E9）　4・11・15層	深鉢	4群	BⅡ		28.2	39.3	12.5	29.4		楕円沈線		4	2	36	35	14.69㌫。底：B1類
189	689	袋土坑	SK5686（10E8・9）　6・11・15層	深鉢	4群	BⅡ		30.0						RL	4	1	30		24.99㌫
190	690	袋土坑	SK5686（10E8・9）4層1・4～7、10・11・13・14・19・23	深鉢	3群	BⅠ1	2新				38.0			RL	3	2			
190	691	袋土坑	SK5686（10E8・9）	深鉢	4群	BⅡ		30.0			32.0		C字沈線		7	3	10		17.66㌫
190	692	袋土坑	SK1318（11F3・4・8・9）4層15、一括・19	深鉢	3群	BⅠ1	2新	17.9				円刺突		RL	4	2	30		
190	693	袋土坑	SK1318（11F3・4・8・9）4・5層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	40.4			41.0	渦巻文		LR	4	2	28		
190	694	袋土坑	SK1317（11F3・4・8・9）　3～5層	深鉢	3群	BⅡ1	2新							RL	4	2	1		30.81㌫
190	695	袋土坑	SK1317（11F9）、SK1316（11F13）1層、11F9Ⅱb層	深鉢	3群	BⅣ1	3	35.8				横線・縄文帯		LR	4	2	7		
190	696	袋土坑	SK1316（11F13・14）	深鉢	3群	BⅣ1	3					横線			4	4	2		
190	697	袋土坑	SK1316（11F13・14）2層	深鉢	4群	BⅡ		15.6		6.6				LR	4	2	9	14	1.39㌫。底：A1類
190	698	袋土坑	SK1316（11F13・14）2・4層	深鉢	1群	関東		20.0	15.2	8.3		横線		LR	5	2	8	17	1.93㌫
190	699	袋土坑	SK1316（11F13・14）　下層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	41.0				縦沈線			4	2	2		
190	700	袋土坑	SK1316（11F13・14）3層	深鉢	3群	BⅡ1	2新					斜沈線		RL	4	2	4		
190	701	袋土坑	SK1316（11F13・14）3層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	16.0				縦沈線		RK	4	4	7		
190	702	袋土坑	SK1316（11F13・14）　3層	注口	2群							把手有			4	2	1		
191	703	袋土坑	SK1316（11F13・14）（11F）3層・Ⅲb層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	34.0			30.0	縦沈線		RL	5	2	3		
191	704	袋土坑	SK1316（11F13・14）2・3層	深鉢	3群	BⅠ1		22.0				渦巻文		L撚	4	2	7		
191	705	袋土坑	SK1316（11F13・14）　2・3層	深鉢	4群	AⅠ		19.0			19.8	縦刺突		L・R撚	5	2	10		4.72㌫
191	706	袋土坑	SK1316（11F13・14）2・3層	深鉢	4群	AⅠ		25.4			30.6	円刺突		LR	3	2	17		15.25㌫
191	707	袋土坑	SK1316（11F13・14）5層	深鉢	4群	BⅡ		14.0					縦沈線		5	2	3		
191	708	袋土坑	SK1316（11F13・14）5層	深鉢								X字状							前期末～中期
191	709	袋土坑	SK1316（11F13・14）5層	深鉢	4群	BⅡ		20.0						RL	3	1	3		
191	710	袋土坑	SK1316（11F13・14）5層	深鉢	4群	BⅡ		8.0							4	4	4		
191	711	袋土坑	SK1316（11F13・14）3.4層	深鉢	4群	BⅡ		20.0							5	1	4		
191	712	袋土坑	SK1316（11F13・14）3・4層	鉢	1群	南境		34.0				帯縄文	曲線状	LR	4	2	6		
191	713	袋土坑	SK1912（11F19・20・24・25）1・2・10層、11F20Ⅲb層	深鉢	4群	BⅡ		28.4						RL	3	1	5		
191	714	袋土坑	SK1912（11F19・20・24・25）　1層	深鉢	1群	関東							菱形文？	LR	2	5			
191	715	袋土坑	SK1912（11F19・20・24・25）　1層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	30.0				斜沈線		RL	4	2	2		
191	716	袋土坑	SK1912（11F19・20・24・25）　4層	深鉢	3群	B						横線			4	2	1		
191	717	袋土坑	SK1912（11F19・20・24・25）Ⅲb・3層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	24.0			21.0	縦沈線		RL	4	2	6		
191	718	袋土坑	SK4998（11F14）1・4層	深鉢	4群	BⅠ		11.0			11.4			LR・RL	4	5	6		
191	719	袋土坑	SK4998（11F14）3層9、1・4層	深鉢	4群	BⅡ		26.0						LR	5	1	5		
191	720	袋土坑	SK4998（11F14）3・4層	深鉢	4群	BⅡ		40.0						LR	3	1	6		
191	721	袋土坑	SK4998（11F14）3・4層	深鉢	3群	BⅡ1	2新				36.2	刺突列		RL	3	2			

図版No.	報告No.	種別	遺構名・出土地点・層位	器種	系統	細別	時期	法量（cm）				文様			胎土	色調	残存率		備考
								口径	器高	器高	胴大	口頸部	胴部	地文			口	底	
192	722	土坑	SK536（2D8・13）	深鉢	3群	B?		16.0				斜刺突			5	4	1		
192	723	土坑	SK536（2D8・13）	深鉢	3群	A?	1?					縦刺突			4	2	1		
192	724	土坑	SK536（2D8・13）	深鉢	3群	A?	1?						縦沈線		4	2			
192	725	土坑	SK536（2D8・13）	深鉢	4群	BⅡ		24.0							5	2	2		
192	726	土坑	SK535（2D14）	深鉢	3群	B?							U字状	RL	5	2			
192	727	土坑	SK535（2D14）	深鉢	4群	BⅡ		30.0						LR	7	2	3		
192	728	土坑	SK1861（2D20）p4	深鉢	3群	AⅠ1	1	22.0				指頭圧痕		RL	3	4	9		
192	729	土坑	SK1861（2D20）3層p41・42	深鉢	3群	AⅡ2	1	32.0				楕円形文		LR	3	1	6		
192	730	土坑	SK1861（2D20）3層p21・23	深鉢	4群	B		29.0				縄文帯		LR	5	1	8		
192	731	土坑	SK3216（3D18・19・23・24）	注口	2群	Ⅱ	1	16.4 (18.8)	24.6	9.5	31.3		渦巻文	刺突	4	1	34	36	8.54㎏
192	732	土坑	SK3216（3D18・19・23・24）	深鉢	3群	A	1?					円文			5	1	3		
192	733	土坑	SK1023（2E14・15）	深鉢	4群								格子目文		5	2			
192	734	土坑	SK1127（4C24・25、4D4・5）	深鉢	3群	AⅡ2	1	26.3			25.2	円刺突	逆U字	RL	3	1	26		5.35㎏
192	735	土坑	SK3220（5C21）	深鉢	3群	A?						指頭圧痕			4	2	2		
192	736	土坑	SK3148（4D18・23）	深鉢	3群	BⅠ1						円刺突			5	2	1		
192	737	土坑	SK3147（5E1）	深鉢	3群	B?						楕円形文			4	4	1		
192	738	土坑	SK6725（6G8）	深鉢	3群	B							縦沈線	RL	4	2			
192	739	土坑	SK6725（6G8）	深鉢	4群	BⅡ								LR	4	2	2		
192	740	土坑	SK6663（6G9）1層	深鉢	1群	網取		24.0					蛇行沈線	LR・RL	4	1	1		
193	741	土坑	SK3502（7D3）Ⅲb層	深鉢	3群	BⅠ1	2新	36.4					C字沈線	RL	3	2	9		
193	742	土坑	SK3502（7D3）3層	深鉢	3群	B		19.0					縦沈線	RL	5	2	3		
193	743	土坑	SK3502（7D3）、SD301　2層	深鉢	3群	B?						円文			3	2	1		
193	744	土坑	SK3502（7D3）	深鉢	4群	BⅡ		31.4						LR・RL	5	1	2		13.84㎏
193	745	土坑	SK3591（7D9・10）2層p968	注口	3群		2			9.9			渦巻状	LR	3	2		34	
193	746	土坑	SK917（7D14）	深鉢	3群	B						横線	縦沈線		5	2	2		
193	747	土坑	SK917（7D14）1層	深鉢	3群	A?	1?					指頭圧痕			5	1	3		
193	748	土坑	SK3597（8D18）、SK3754（8E19）	深鉢	4群	BⅡ		26.0	34.0	9.0				LR	4	2	7	36	9.23㎏。底：A2類
193	749	土坑	SK3754（8E19）	深鉢	4群	BⅡ		18.0			20.0			LR	3	1	10		
193	750	土坑	SK2338（7G5・10、8G5）	深鉢	4群	A						円刺突		RL	3	4	3		
193	751	土坑	SK3758（8E4・9）	深鉢	4群	BⅡ		39.2			42.0			LR	3	1	4		
193	752	土坑	SK3695（9D5・10）	深鉢	3群	BⅠ1	2新	31.8				楕円形文			4	2	8		
193	753	土坑	SK3695（9D5・10、10D1・6）	深鉢	3群	BⅣ1									4	2			
193	754	土坑	SK3695（9D5・10）	深鉢	4群	BⅠ		14.0	32.0	7.5	21.6		タスキ状条線		3	2	5	36	5.87㎏。内：粒状炭化
193	755	土坑	SK3695（9D5・10、10D1・6）	深鉢	4群	BⅡ		20.0						LR	4	2	8		
193	756	土坑	SK3922（10D13）p39	深鉢	3群	A?	1?					円刺突	縦沈線		4	3	6		
194	757	土坑	SK3922（10D13）	深鉢	3群	B						楕円形文	縦沈線	RL	5	1	4		
194	758	土坑	SK3922（10D13）	鉢	4群							円文			5	1	3		
194	759	土坑	SK3922（10D13）	深鉢	4群	BⅡ								LR	5	1	3		
194	760	土坑	SK3946（10D21・22、10E1・2）	深鉢	3群	B?						円文		RL	3	1	3		
194	761	土坑	SK3946（10D21・22、10E1・2）1層	深鉢	3群	A	1					横線	逆U字		5	1	3		
194	762	土坑	SK3946（10D21・22、10E1・2）	深鉢	3群	B							縦沈線		5	1			
194	763	土坑	SK3946（10D22）	深鉢	3群	B	2			11.4			渦巻文		4	2		32	
194	764	土坑	SK385（9D19・24）	深鉢	3群	A	1?							LR	4	2			
194	765	土坑	SK348（9D15）	深鉢	3群	B						横線	縦沈線	RL	4	2	5		
194	766	土坑	SK348（9D15）、P347（9D9・10）	深鉢	3群	BⅠ1	2新	36.0				楕円形文		LR	5	1	13		
194	767	土坑	SK340（10D2）1層	深鉢	3群	B							縦沈線		4	1			
194	768	土坑	SK340（10D2）　1層	壺	3群	B					13.0		縦沈線	RL	3	2			
194	769	土坑	SK125（11C21）	深鉢	4群	BⅡ		36.0						LR・RL	3	3	3		
194	770	土坑	SK122（11D5）	深鉢	3群	B?						横線			4	2	3		
194	771	土坑	SK122（11D5）	深鉢	3群	B						横線		RL	3	2	1		
194	772	土坑	SK156（12D12）	深鉢	1群?							縦刺突列			4	4	3		
194	773	土坑	SK156（12D12）	深鉢	3群	B						長方区画			3	1	2		
194	774	土坑	SK78（13F2）	深鉢	3群	B							縦沈線	RL	4	2	1		
194	775	土坑	SK79（13F3・8）4層	深鉢	4群	BⅡ		35.6						LR	5	2	9		
195	776	土坑	SK123（11D24・25　2層p259・263）	深鉢	3群	BⅠ1	2新	25.0				楕円形文		RL	4	2	5		
195	777	土坑	SK123（11D24・25　1層、2層1・6）	深鉢	3群	BⅡ1	2新	16.0			19.8	縦沈線	逆U字	RL	4	1	10		
195	778	土坑	SK123（11D24・25　1層p132）	深鉢	3群	BⅡ1	2新				12.0		渦巻文	RL	4	2	5		
195	779	土坑	SK123（11D24・25　1層、Ⅱb層p30、2層1・162・p224・225）	深鉢	1群	関東		26.0				横線	枠状文	RL	4	2	4		
195	780	土坑	SK123（11D24・25　2層p191・195）	深鉢	1群	関東		20.0					菱形文？		6	3	4		
195	781	土坑	SK123（11D24・25　Ⅱb層p9）	深鉢	1群	関東							対弧文？		3	3	1		
195	782	土坑	SK123（11D24・25　Ⅱb層p84、2層10）	深鉢	3群	BⅡ6		14.0				横刺突列			4	1	6		
195	783	土坑	SK123（11D24・25　Ⅱb層、1層p136・265・289、2層5・7・11・p127・227・263・336・358・401）	深鉢	3群	BⅠ1	2新	29.8				横線	縦刺突列		3	2	9		18.32㎏
195	784	土坑	SK123（11D24・25　2層）	深鉢	4群	BⅡ		42.0					条線		3	2	3		
195	785	土坑	SK123（11D24・25）2層7・11・p178・250・252・272・282・331・332・338・361・387、1層、11D24・25Ⅱb層	鉢	4群	Ⅱ		19.7	17.9	8.9	23.2	円刺突		LR、Lノ撚	3	1	27	36	3.94㎏
195	786	土坑	SK123（11D24・25　1層p283、2層184・246）	深鉢	4群?					9.0					4	3		15	底：B1類
195	787	土坑	SK5280（13D5・14D1）最下層	深鉢	3群	AⅠ3	1	33.4			27.3	円刺突	U・逆U字	RL	4	1	27		16.45㎏
195	788	土坑	SK115（14D8）	深鉢	3群	B							渦巻文		4	1			
195	789	土坑	SK4816（14E7）	深鉢	4群	BⅡ		22.0			24.0			RL	6	1	3		
195	790	土坑	SK160（14D16・17）	深鉢	3群	B						円刺突		RL	4	1	3		
195	791	土坑	SK160（14D16・17）1層	深鉢	3群	B						細沈線		刺突	3	2	2		
195	792	土坑	SK160（14D16・17）	深鉢	3群	BⅠ1						円刺突		RL	6	2	2		
195	793	土坑	SK21（14E22・23）Ⅱb層、14E16Ⅱa層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	17.3	40.4	9.2	24.1	縦沈線		RL	3	1	9	14	9.32㎏。底：A2類
195	794	土坑	SK769（15D17・22）2層	深鉢	3群	B?						円文			5	2	2		
195	795	土坑	SK5009（17D12）	深鉢	1群	関東		18.0				横線			5	4	3		

図版No.	報告No.	種別	遺構名・出土地点・層位	器種	系統	細別	時期	法量（cm）				文様			胎土	色調	残存率		備考
								口径	器高	器高	胴大	口頸部	胴部	地文			口	底	
195	796	土坑	SK4645（15E20・25、16E16・21）	深鉢	3群	B?						楕円形文	縦沈線	LR	5	1	1		
196	797	土坑	SK4629（16E12）、16E11 Ⅲb層、16E17表土・Ⅲb層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	20.0			17.4	縦沈線		RL	5	2	14		
196	798	土坑	SK4629（16E12）	深鉢	3群	B						渦巻文		LR	4	1	4		
196	799	土坑	SK4629（16E12）	鉢	1群	関東							対弧文？	LR	4	2	2		
196	800	土坑	SK4629（16E12）	深鉢	3群	B							縦沈線	RL	5	1			
196	801	土坑	SK4629（16E12）	注口	3群	Ⅰ	2	8.4	13.3	6.9	14.4		横＋4単位縦沈線	RL	5	2	18	27	1.23㎏。底：A1類
196	802	川	SD5186（9G4）Ⅲa層	深鉢	1群？							J字状？		LR	5	1	3		
196	803	川	SD5186（8F13・14 Ⅲa層）、9D22 Ⅲb層	深鉢	3群	B?						楕円形文		RL	5	1	5		
196	804	川	SD5186（8F5 Ⅲa層、9F Ⅲa層・Ⅲa1層）、9F1 Ⅱb層	深鉢	3群	?		36.0				横線			3	3	7		
196	805	川	SD5186（9F1 Ⅱb層、9F6 Ⅲa・Ⅲa1・Ⅲa2層）	深鉢	3群	A	1					円刺突	縦沈線	LR	5	1	9		
196	806	川	SD5186（9E23 Ⅲa・Ⅲa1・Ⅲb層）、9E23 Ⅱb層	深鉢	3群	AⅡ2	1?					楕円形文	渦巻文	RL	5	1	5		
196	807	川	SD5186（9E17）Ⅲa1層、9D17・18 Ⅱb層	深鉢	4群	BⅡ		42.0							5	1	16		
196	808	川	SD5186（9E3 Ⅲa1層）	深鉢	1群?	網取		35.6				斜刺突	対弧文	LR	4	3	4		
196	809	川	SD5186集中Ⅲ（9E10 Ⅲa1層、9F Ⅲa・Ⅲa1層、10D Ⅲa層）、9E4 Ⅲa層、9E5 Ⅱb層	深鉢	3群	A		22.0				円刺突		RL	3	2	13		
196	810	川	SD5186集中Ⅲ（9E14 Ⅲa1・Ⅲa2層）	深鉢	3群	AⅡ1	1	14.0				V字状		RL	4	3	18		
196	811	川	SD5186集中Ⅲ（9E4 Ⅲa1層、9E10 Ⅲa1・Ⅲa2層、9E13 Ⅲa1層）	深鉢	3群	AⅡ6	1	17.0				円刺突	渦巻文？		4	4	6		
196	812	川	SD5186集中Ⅲ（10E1 Ⅲa2層、9E5 p20、10D17 Ⅲa層）	深鉢	3群	AⅡ6?		24.0				突起下に円刺突			4	1	10		
197	813	川	SD5186集中Ⅲ（9E）Ⅲa1層5・8	深鉢	3群	AⅡ2	1	36.9	43.7	14.0	34.6	U字沈線	渦巻文	LR	4	1	20	36	37.03㎏
197	814	川	SD5186集中Ⅲ（9E10）Ⅲa1層、9E17 Ⅱb層	深鉢	3群	AⅡ5	1	29.3			29.3	円刺突	逆U字	LR	4	3	13		
197	815	川	SD5186（9D25集中Ⅲ・Ⅲa層p13、Ⅲa2層p17、9E5集中Ⅲ・Ⅲa2層p7・9、9E14 Ⅲa1層、10E1集中Ⅲ・Ⅲa2層p20）、10E24 Ⅲb層	深鉢	3群	AⅣ8	1	27.2				楕円形＋曲線状沈線	逆U字状沈線？	LR	4	1	21		
197	816	川	SD5186集中Ⅲ（9E5・10 Ⅲa2層）	深鉢	3群	AⅡ5	1	30.0				横線		LR	5	2	5		
197	817	川	SD5186集中Ⅲ（9E14）Ⅲa層	深鉢	3群	AⅡ5	1	32.0				円文			5	2	4		
197	818	川	SD5186集中Ⅲ（9D25）Ⅲa層、9D24 Ⅱb層	深鉢	3群	A		23.0				車輪突起	方形	RL	4	1	5		隆帯文様
197	819	川	SD5186集中Ⅲ（9E5 Ⅲa層、10E1 Ⅲb層）	深鉢	3群	AⅡ2						円刺突			4	3	4		
197	820	川	SD5186集中Ⅲ（9E14 Ⅲa1層、9E15 Ⅲb層）	深鉢	3群	AⅡ5		38.0				縦刺突			5	2	4		
197	821	川	SD5186集中Ⅲ（9E14）Ⅲa・Ⅲa1層	深鉢	3群	BⅠ1	2	20.0				円刺突		RL	5	2	8		
197	822	川	SD5186（9E4 Ⅲa1層集中Ⅲp1、9E4 Ⅲb層、9E5 Ⅲa2層遺物集中Ⅲp11・12、9E5 Ⅲa層・Ⅲa1層、9D25 Ⅲa2層、10D1 Ⅲa層、10D20 Ⅲb層）	深鉢	1群	綱取		38.4				突起下に円刺突2	逆U字＋蛇行沈線	LR	5	1	5		24.76㎏
197	823	川	SD5186集中Ⅲ（9E5）Ⅲa2層	深鉢	3群	B?		30.0				楕円形文	方形？	LR	3	4	3		
198	824	川	SD5186集中Ⅲ（9E10 Ⅲa1層）	深鉢	3群	A?		17.0				円刺突		RL	3	2	5		
198	825	川	SD5186集中Ⅲ（9E10 Ⅲa1層）	深鉢	3群	B		17.0				円文			3	1	7		
198	826	川	SD5186集中Ⅲ（9E10 Ⅲa2層）	深鉢	3群	A?		27.0				環状穿孔			3	1	4		
198	827	川	SD5186集中Ⅲ（9E10・22）Ⅲa1層	深鉢	4群	BⅡ		34.0						LR・RL	5	2	7		
198	828	川	SD5186集中Ⅲ（9E9）Ⅲa2層	深鉢	4群	BⅡ		32.0							4	3	4		
198	829	川	SD5186集中Ⅲ（9E14）Ⅲa2層2	深鉢	4群	BⅡ		28.0						LR・RL	3	1	7		
198	830	川	SD5186集中Ⅲ（9E4）Ⅲa1層	深鉢	4群	BⅡ		40.0									3		
198	831	川	SD5186集中Ⅲ（9E17）Ⅲa1層　p2・3・4	深鉢	4群	BⅡ		30.6						LR	3	2	21		19.05㎏
198	832	川	SD5186集中Ⅲ（10D）Ⅲa層11、(9E)Ⅲa2層8	深鉢	4群	BⅡ		34.0						RL	5	1	8		
198	833	川	SD5186集中Ⅲ（9E Ⅲa2層）	深鉢	4群	BⅠ		32.0			37.0			LR	3	1	9		
198	834	川	SD5186集中Ⅲ（10E2）Ⅲa層	壺	3群			14.0				長方区画?			5	2	6		
198	835	川	SD5186集中Ⅲ（9E10 Ⅲa1層）	注口	3群							横隆帯		RL	4	1	1		
198	836	川	SD5186集中Ⅲ（9E10 Ⅲa1層）	注口	3群			6.4					斜沈線		3	2	9		
198	837	川	SD5186集中Ⅲ（9E5 Ⅲa2層8・p9、9E10 Ⅲa1層）	注口	3群					10.4			弧線		4	1		12	底：不明
198	838	川	SD5186集中Ⅱ（10D Ⅲa層）、10D15 Ⅲb層、11D6 Ⅲb層	深鉢	3群	AⅡ7	1	32.2			31.4	円＋横線	逆U字状沈線？	LR	3	1	26		
198	839	川	SD5186集中Ⅱ（10D）Ⅲa1層	深鉢	3群	AⅡ5	1	40.0				円＋横線		LR	4	3	7		
198	840	川	SD5186集中Ⅱ（10D9）Ⅲa層	深鉢	3群	AⅡ2	1	36.0				円＋横線			3	1	5		
199	841	川	SD5186集中Ⅱ（10D16 Ⅲa層、10D22 Ⅲa1層、10D24 Ⅲa層）	深鉢	3群	AⅡ6	1	50.0				円＋横線			4	2	4		
199	842	川	SD5186集中Ⅱ（10D14）Ⅲa層11	深鉢	3群	AⅡ2	1	38.0				円＋横線			5	2	7		
199	843	川	SD5186集中Ⅱ（10D5）Ⅲa層1	深鉢	3群	AⅡ6	1	34.0				円＋横線	逆U字	LR	3	1	5		
199	844	川	SD5186集中Ⅱ（10D14・16 Ⅲa層）	深鉢	3群	AⅡ2	1					逆U字？		LR	4	3	1		
199	845	川	SD5186集中Ⅱ（10D14 Ⅲa層）	深鉢	3群	A	1					横線			5	1	3		
199	846	川	SD5186集中Ⅱ（10E2 Ⅲa1層　p20）	深鉢	3群	A	1	48.0				円＋横線			4	1	5		
199	847	川	SD5186集中Ⅱ（10D14）Ⅲa層9	深鉢	3群	AⅡ6	1	28.0				円＋横線			4	2	7		
199	848	川	SD5186集中Ⅱ下（10D15 Ⅲb層）	深鉢	3群	A	1	31.0				渦巻文			4	2	3		
199	849	川	SD5186集中Ⅱ（Ⅲa1層）	深鉢	3群	A	1?	26.0				円刺突		RL	3	4	5		
199	850	川	SD5186集中Ⅱ（10D12 Ⅲa層）	深鉢	3群	A?	1?	40.0				楕円形文			3	1	2		
199	851	川	SD5186集中Ⅱ（10D10）Ⅲa層	深鉢	3群	AⅡ1	1	26.0				指頭圧痕			3	1	4		
199	852	川	SD5186集中Ⅱ（10D14 Ⅲa層8、10D19 Ⅲa層）	深鉢	3群	A?		17.0				円刺突			5	4	10		
199	853	川	SD5186集中Ⅱ（10D）Ⅲa・Ⅲa2層	深鉢	2群		1	19.4		6.0	23.6	円刺突	渦巻文		4	4	4	10	
199	854	川	SD5186集中Ⅱ（Ⅲa2層p17）	深鉢	4群	BⅡ		25.0					格子目文	条線	5	1	4		
199	855	川	SD5186集中Ⅱ（10D13）Ⅲa2層	深鉢	4群?	B		30.0							4	1	8		
199	856	川	SD5186集中Ⅱ（10D5　Ⅲa・Ⅲa1・Ⅲb層）	深鉢	4群	BⅡ		37.1	46.0	11.5				LR・RL	4	2	11	29	29.65㎏
200	857	川	SD5186集中Ⅱ（10D10）Ⅲa層5～7	深鉢	4群	BⅡ		28.0							5	1	12		

図版No.	報告No.	種別	遺構名・出土地点・層位	器種	系統	細別	時期	法量（cm）				文様			胎土	色調	残存率		備考
								口径	器高	器高	胴大	口頸部	胴部	地文			口	底	
200	858	川	SD5186 集中Ⅱ（10D10）Ⅲａ層５～７	深鉢	４群	ＢⅡ		24.0	30.0	9.6					５	１	14	22	8.26㌫
200	859	川	SD5186 集中Ⅱ（10D13 Ⅲａ層、10D22 Ⅲｂ層）、10E3 Ⅱｂ層・Ⅲｂ層	鉢	３群	Ⅲ	１	12.4					円刺突＋Ｖ字沈線		５	３	25		0.71㌫
200	860	川	SD5186 集中Ⅱ（10E2）Ⅲａ1 層	浅鉢	１群	関東		40.0				渦巻文			５	２	９		
200	861	川	SD5186 集中Ⅲ（9E5・10・14・23）、集中Ⅱ（10D10、10E1・6・10） Ⅲａ1・Ⅲａ2・Ⅲａ・Ⅲｂ層	深鉢	３群	ＡⅡ５	１	33.8	37.0	10.0	34.0	円＋横線	逆Ｕ字状沈線	LR	４	１	30	36	19.98㌫。底：A1・２類
200	862	川	SD5186 集中Ⅲ（9D15 Ⅲｂ層、9E9 Ⅲａ1 層）、集中Ⅱ（10D13 Ⅲａ層、10D21 Ⅲａ層）	深鉢	３群	A?		16.0				横線＋逆Ｃ字状			３	２	11		
200	863	川	SD5186 集中Ⅲ（9E9 Ⅲａ1・Ⅲａ2 層、9E10 Ⅲａ1 層）、集中Ⅱ（10D16 Ⅲａ層）	深鉢	３群	A	１	20.0				刺突	逆Ｖ字状沈線	R	４	２	５		
200	864	川	SD5186 集中Ⅲ（9D25 Ⅲａ層）、集中Ⅱ（10D13 Ⅲａ層、10D22 Ⅲａ1 層、10E1 Ⅲａ2 層、10E2 Ⅲａ1 層、11D、10D15）、10D14 Ⅲｂ層、10D15 Ⅲａ層・Ⅲｂ層、10D20 Ⅲｂ層、10D21 Ⅲａ層、10D23 Ⅲｂ層、11D16 Ⅲｂ層	深鉢	３群	ＡⅠ１	１	36.0					逆Ｕ字状沈線		４	１	10		
200	865	川	SD5186（10D18）Ⅲａ層、SK141（12D）１層	深鉢	３群	A?		39.0				円刺突			５	２	６		
200	866	川	SD5186（10D17）Ⅲａ層	深鉢	３群	ＡⅡ２	1?	17.0				Ｕ字状	逆U字状	LR	４	２	５		
200	867	川	SD5186（10D22 Ⅲａ・Ⅲｂ層）	深鉢	３群	A	1?	36.0				円文			３	２	５		
200	868	川	SD5186（10D18 Ⅲａ層 14）	深鉢	３群	A	1?					円刺突多			３	１	７		
200	869	川	SD5186（10D20 Ⅲａ層 13）	深鉢	３群	ＡⅡ２	１				27.0		逆U字状	LR	５	１			
200	870	川	SD5186（10D18 Ⅲａ層）、10F24 Ⅲｂ層	浅鉢	３群			30.0				横線		RL	３	２	５		
200	871	川	SD5186（10D20）Ⅲａ層 15	注口	２群		１					把手			３	１	１		
201	872	川	SD5186 集中Ⅰ（11D8 Ⅲａ2 層）	深鉢	３群	ＡⅠ４	１	34.6				指頭圧痕		LR	３	３	17		
201	873	川	SD5186（11D）	深鉢	３群	A	１	38.0				円＋横線			４	２	４		
201	874	川	SD5186（11D11 Ⅲｂ層）	深鉢	１群?			14.0				円＋縦線			５	２	４		
201	875	川	SD5186（11D9 Ⅲａ2 層）	深鉢	４群	ＡⅠ		38.0			36.4	円刺突		RL	５	２	５		
201	876	川	SD5186（11D7 Ⅲａ層）	深鉢	１群	関東		15.0				帯縄文		LR	５	４	５		
201	877	川	SD5186（11D10 Ⅲａ2 層）	深鉢	４群?	A?		36.0				横線			４	２	２		
201	878	川	SD5186（10D23 Ⅲｂ層、11D6 Ⅲａ層）	深鉢	４群	ＢⅡ		25.0						LR・RL	３	２	13		
201	879	川	SD5186（11D9）Ⅲａ2 層	深鉢	４群	ＢⅡ		12.6	14.0	5.6				LR	３	１	３	31	0.77㌫
201	880	川	SD5186（11D6）Ⅲａ2 層	深鉢	４群	ＢⅡ		36.0		13.0				LR	４	１	８	27	底：B2 類
201	881	川	SD5186（11D10 Ⅲｂ層）	鉢	３群	Ⅰ		36.0				Ｃ字刺突			３	４	２		
201	882	川	SD5186（12D7）Ⅱｂ層、13D7・８Ⅱｂ層、11D14	深鉢	３群	ＢⅣ１	３	21.5			18.8	横線	Ｖ字縦線	LR・RL	４	２	11		
201	883	川	SD5186（13D5）Ⅱｂ層	深鉢	３群	ＢⅣ１	３	40.0				横線		?	５	２	６		
201	884	川	SD5186（12D15）Ⅲａ層	深鉢	１群?			22.0				上向弧線			４	１	４		
201	885	川	SD5186（12D15 Ⅲａ層）	深鉢	３群	B					25.4		縦沈線	RL	４	２			
201	886	SX	SX6185 覆土、3E1010 Ⅲｂ層、3E13 Ⅲｂ層	深鉢	３群	ＢⅠ１	２古	18.0			20.0	突起に円刺突	縦＋タスキ状沈線	RL	４	１	４		4.90㌫
201	887	SX	SX6185（3E）	鉢	３群	Ⅳ		21.0				円文	渦巻文？		５	１	11		
201	888	SX	SX6185（3E）	深鉢	３群	A?	２古	38.4				円文	渦巻文		４	４	８		
201	889	SX	SX6185（3E17）p40	深鉢	３群	ＢⅠ１	２古	28.6				長方区画			５	２	８		
202	890	SX	SX6185（3E）	深鉢	３群	ＢⅠ１	２古	38.0				指頭圧痕		LR	５	２	５		
202	891	SX	SX6185、3E17 Ⅱｂ層	深鉢	３群	ＢⅠ１	２古	32.0				指頭圧痕	逆Ｕ字		５	１	７		
202	892	SX	SX6185（3E）	深鉢	４群	ＢⅡ		34.0						LR・RL	４	２	８		
202	893	SX	SX6185（3E13）１層 p293	深鉢	３群	?					29.9		渦巻文	RL	３	１			
202	894	SX	SX1579（7・8E）	深鉢	３群	B						斜刺突	縦沈線	LR	５	１	２		
202	895	SX	SX1579（7E10・15、8E6・11）１層、8E6 Ⅱｂ・Ⅲｂ層、8E11 Ⅱｂ・Ⅲｂ層、8E12 Ⅱｂ層、8E16 Ⅱｂ層	深鉢				40.0					方区画内に刺突	LR	４	２	２		大木 10 式
202	896	SX	SX1554	深鉢	１群	南境？							枠状文？	LR・RL	４	４	２		
202	897	SX	SX207（9E16・17・21・22、9F1・2）１層、P238（9F3・4・8・9）１層、8F20 Ⅱｂ層	深鉢	３群	ＢⅠ１	２新	18.0				楕円形文		RL	４	４	15		
202	898	SX	SX207（9E・F）	深鉢	３群	A?						指頭圧痕		LR	３	２	２		
202	899	SX	SX2204（8F）	深鉢	４群	?		34.0							４	２	２		
202	900	SX	SX1576（9E・F）	深鉢	１群								曲線状	LR	４	５			
202	901	SX	SX5892（9E24・25、9F4・5）	深鉢	４群			34.0				横線		LR	３	４	14		
202	902	SX	SX5892（9F）、9F4 Ⅱｂ層、9F5 Ⅱｂ～Ⅲｂ層、9F10 Ⅲｂ層、10F1 Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲｂ層、10F2 Ⅱｂ層	深鉢	３群	ＢⅠ１	２新	37.0				円文			４	１	４		
203	903	SX	SX5436（11E）	深鉢	３群	ＢⅣ１	３					横線			４	２	２		
203	904	SX	SX5436（11E）	深鉢	３群	ＢⅡ１	２新					縦線		RL	４	４	２		
203	905	SX	SX5436（11E）	深鉢	３群	B	２新	28.0				縦線			４	４	６		
203	906	SX	SX118（13C）	深鉢	３群	B						斜線			４	２	２		
203	907	SX	SX118（13C）	深鉢	３群	B		30.0				横線			４	２	３		
203	908	SX	SX118（13C23）	深鉢	４群	ＡⅡ		20.0				横線		LR・RL	４	４	７		
203	909	SX	SX118（13C）	深鉢	４群	ＢⅡ		30.0		9.0	34.0			?	３	１	７		底：B1 類
203	910	SX	SX4788（13E）	深鉢	３群	B							縦沈線	RL	４	２			
203	911	SX	SX4646（13・14G）	深鉢	３群	B?						円文			３	２	１		
203	912	SX	SX117（14D・E、15D）	深鉢	１群?								渦巻文		３	２			
203	913	包含層	3D14 Ⅱｂ～Ⅱｃ層、3D18 Ⅱｂ層	注口	１群	東北？		10.4					階段状		４	１	９		隆帯による
203	914	包含層	SS1034（2F12）１層、2F2 Ⅲｂ層	深鉢	４群	A		30.0				指頭圧痕		LR	５	２	11		
203	915	包含層	2E12・13・18・22・23 Ⅲｂ層、2E22 Ⅱｂ層	深鉢	３群	B?		35.0				指頭圧痕		LR	５	１	７		
203	916	包含層	3F	深鉢	３群	B		20.0				円文		RL	４	４	１		
203	917	包含層	2E17 Ⅲｂ層	深鉢	４群	A		30.0				円刺突		LR	５	２	３		
203	918	包含層	3E15・20・25・4E11・16・21 Ⅱｂ層	深鉢	３群	B?						指頭圧痕	縦沈線	RL	３	２	２		
203	919	包含層	2E17 Ⅲｂ層	深鉢	３群	ＢⅠ１	２	22.0				円刺突		RL	５	２	６		
203	920	包含層	3F16 Ⅲｂ層、3F17 一括、7F1 Ⅲｂ層	深鉢	３群	ＡⅡ５	１	24.4	22.4	7.8	18.4	円刺突＋横線	渦巻文		３	２	26	34	5.32㌫。底：A1 類
203	921	包含層	4E8 Ⅱｂ層	鉢	１群	Ⅰ		18.0					菱形文？	R 撚	５	５	６		
203	922	包含層	4E8・13 Ⅱｂ・Ⅲｂ層	深鉢	３群	B		18.0				長方形	縦沈線	RL	４	２	８		

図版No.	報告No.	種別	遺構名・出土地点・層位	器種	系統	細別	時期	法量（cm）				文様			胎土	色調	残存率		備考
								口径	器高	器高	胴大	口頸部	胴部	地文			口	底	
203	923	包含層	4G10 Ⅲb層	深鉢	4群	A						円刺突		LR	3	1	3		
203	924	包含層	4G3 Ⅲb層	深鉢	3群	A	1?	21.0				円刺突	縦沈線	RL	4	4	1		
203	925	包含層	4E16・17・22 Ⅱb～Ⅱc層・Ⅲb層	深鉢	3群	A	1?	28.0				楕円形文	縦沈線		4	2	11		
204	926	包含層	4F10、5F6 Ⅱb層、Ⅱb～Ⅱc層、Ⅲb層	深鉢	1群	東北		29.5					多重の波状文		3	3	1		
204	927	包含層	4F16 Ⅲb層	注口	1群	南境							菱形？		3	2			
204	928	包含層	4E25 Ⅱb～Ⅱc層、7E13 Ⅱb層	浅鉢	1群	関東		40.0					横線		5	2	3		
204	929	包含層	5E1 Ⅱb層	深鉢	1群	関東		22.0					横条線		4	5	9		
204	930	包含層	5F14 Ⅲb層	深鉢	3群	BⅡ1	3	25.0				横線			4	2	6		
204	931	包含層	5G3・8 Ⅲb層	深鉢	3群	BⅠ1	3	30.0				縦刺突	V字縦線	RL	5	2	5		
204	932	包含層	5G3・8 Ⅲb層	深鉢	3群	BⅠ1	2			7.8	21.4		蛇行線	RL	3	2		36	
204	933	包含層	5F	深鉢	3群	BⅠ1	2			8.2			鋸歯状		3	1		36	底：B2類
204	934	包含層	5F15	深鉢	4群	BⅠ		25.0			26.8			LR・RL	4	2	1		9.01%
204	935	包含層	5F6 Ⅲb層	器台	?					11.6					4	2		25	底：渦巻文
204	936	包含層	6F12 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅣ1	3	24.0				横線			4	1	4		
204	937	包含層	6F16 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅣ1	3	14.0				横線			4	1	7		
204	938	包含層	6F17 Ⅱb層	浅鉢	3群	B	3	20.0				横線			4	4	5		
204	939	包含層	6F17 Ⅱb層	深鉢	1群	?		36.0				刺突		LR	4	2	3		
204	940	包含層	6D14 Ⅱb層	深鉢	1群	関東				7.4			横線		4	2		25	
204	941	包含層	6E6 Ⅱb層	深鉢	1群	関東		20.0				横線		LR	6	3	5		
204	942	包含層	6E13 Ⅲb層	深鉢	1群	関東		10.0				横線			4	3	6		
204	943	包含層	6G2 Ⅲb層	深鉢				30.0						RL	5	4	3		大木9式？
205	944	包含層	6D25 Ⅲb層	深鉢	1群?							円形浮文			4	1			
205	945	包含層	6G5 Ⅲb層	浅鉢	1群	関東		24.0				横線			4	1	6		
205	946	包含層	6F11 Ⅲb層	深鉢	3群	?		36.0				渦巻文		LR	4	4	4		
205	947	包含層	6D12 Ⅲb層	鉢	1群	南境		16.6					三角状？	RL	5	2	6		
205	948	包含層	6D23 Ⅲb層	深鉢	1群	南境		25.0					曲線状	RL	2	1	2		
205	949	包含層	7E1 Ⅲb層、8C23 Ⅱb層	深鉢	3群	B?		30.0				円刺突			5	2	7		
205	950	包含層	7E8・9 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅠ1	2	20.0				指頭圧痕			4	2	8		
205	951	包含層	7D13 Ⅱb層	深鉢	1群					10.5			蛇行線	RL	4	2		36	底：A類？
205	952	包含層	7E3 Ⅱb層	深鉢	1群	関東		16.0				横線	三角状？	LR	1	5	3		
205	953	包含層	7G14・15 Ⅱb層	深鉢	1群	東北							波状文	LR	3	1			
205	954	包含層	7G7 Ⅱb層	?	1群	関東		13.2				横線	対弧文？		5	2	7		
205	955	包含層	7E14 Ⅱb層	浅鉢	1群			30.0					三角状？		4	2	3		
205	956	包含層	7E5 Ⅱb層	鉢	3群	Ⅱ		15.6					渦巻文		4	2	2		
205	957	包含層	7G2・3 Ⅱb層	浅鉢	1群	関東		46.0		14.0		内：横線			5	1	2	7	底：不明
205	958	包含層	8F3 Ⅱb層	深鉢	1群	関東				8.4		横線	渦巻文	LR	3	1	4	23	底：A2類
205	959	包含層	8G7・8 Ⅱb層	鉢	1群	南境		23.0					三角状？	LR	4	1	3		
205	960	包含層	8D24 Ⅱb層	浅鉢	1群	関東						円形突起			3	1	4		
205	961	包含層	8E3・4 Ⅱb層	浅鉢	1群	関東		38.4				内：横線			5	1	6		
205	962	包含層	8F9 Ⅲb層	深鉢	3群	B?							渦巻文		4	1	4		
205	963	包含層	8E3 Ⅲb層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	22.0				斜線			4	1	9		
205	964	包含層	8F23 Ⅱb層、10F12・14D12・18 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅠ1	2新	33.0				円刺突			4	2	8		遠隔地接合
206	965	包含層	9G7 Ⅱb層、10C23 Ⅱb層	深鉢	3群	B	3	27.0				横線			5	2	5		
206	966	包含層	9G3 Ⅱb・Ⅲa層	深鉢	1群	関東		14.4				横線			2	2	7		
206	967	包含層	9・10E・F Ⅱb層	深鉢	3群	BⅠ1	3?	40.0				斜刺突			5	2	5		
206	968	包含層	9F15 Ⅱb層	深鉢	1群	関東?		16.0				円文	横線		2	5	1		
206	969	包含層	9D23 Ⅱb層	深鉢	4群	B		23.0						RL	4	2	3		
206	970	包含層	9G4 Ⅱb層	深鉢	4群	BⅡ		32.0						無	3	2	2		27.33%
206	971	包含層	9F7 Ⅱb層	壺	4群			8.0						RL	3	2	7		
206	972	包含層	9C24 Ⅱb層	壺	1群	関東		8.0				横線		LR	4	2	8		
206	973	包含層	9E3・8 Ⅲa層	深鉢	3群	AⅣ8	1	33.9				円文	渦巻文	LR	3	2	8		
206	974	包含層	9F5 Ⅱb層	鉢	3群	Ⅱ	2					楕円形文	縦沈線	LR	4	2	2		
206	975	包含層	9G5・20・25 Ⅲb層	深鉢	3群	BⅣ1	3	15.8		3.4	15.4	横線	V字縦線	RL	4	4	6	8	
206	976	包含層	9C24 Ⅲb層	深鉢	3群	?		20.0				円文			4	3	5		
206	977	包含層	9F9 Ⅲa層	壺	4群			10.0						LR	3	4	4		
206	978	包含層	9E12 Ⅲb層	深鉢	2群		1	20.3				橋状把手	上向弧線	LR・RL	3	1	6		
206	979	包含層	10E7 Ⅱb層、10E13 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅣ1	3	31.0				横線			4	4	5		
206	980	包含層	10E13 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅣ1	3					横線			4	3	2		
206	981	包含層	10E7 Ⅱb層、10E13 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅣ1	3	26.0				横線		LR	4	2	3		
206	982	包含層	10D15 Ⅱb層（SD5186集中Ⅱの上層）	深鉢	3群	BⅡ1	2新	40.0				縦線		RL	3	3	4		
206	983	包含層	10D2・3 Ⅱb層	深鉢	4群?	A		28.0				斜刺突			3	2	8		
206	984	包含層	10F15 Ⅱb層	深鉢	1群	関東						菱形文？		LR	4	2	2		
206	985	包含層	10E18 Ⅱb層	深鉢	1群	関東		20.0				帯縄文		LR	4	2	3		
206	986	包含層	10E12 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅣ1	3	20.0				横線		LR	5	2	3		
206	987	包含層	10D8 Ⅲb層、10D9 Ⅱb層	深鉢	4群	BⅠ		36.0			29.8				3	2	4		18.08%
207	988	包含層	10D15 Ⅲb層	深鉢	4群	BⅡ		26.2						RL・条	5	2	7		10.02%
207	989	包含層	10E9 Ⅱb・Ⅲb層、10E10 Ⅱb層	深鉢	4群	BⅡ		26.0			30.0			RL	3	2	6		14.79%。
207	990	包含層	10D18 Ⅲb層	深鉢	4群	A		14.0				斜刺突			4	3	3		
207	991	包含層	10D25 Ⅲb層	注口	1群	東北？		17.2		10.0	28.8		階段状		2	2	2	2	底：A1・2類
207	992	包含層	10E13 Ⅲb層	注口	1群	関東						橋状把手			4	2	2		
207	993	包含層	11E2 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅣ1	2新?	26.0				横線		LR	4	2	4		
207	994	包含層	11F20 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	29.0				縦線		RL	4	2	7		
207	995	包含層	11G3 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	16.0				縦線		RL	4	2	8		
207	996	包含層	11G3 Ⅱb・Ⅲb層	深鉢	3群	BⅠ1	2新	16.0				横線			4	2	6		
207	997	包含層	11D8 Ⅱb層	深鉢	3群	B	2	20.0				横線	渦巻文		4	2	6		
207	998	包含層	11D21 Ⅱb層	深鉢	1群	関東		12.0				横線			4	3	6		
207	999	包含層	11F10 Ⅱb層	深鉢	1群	関東		20.0				横線			2	4	3		
207	1000	包含層	11D6 Ⅱb層	深鉢	1群	関東		14.6				横線	波状文		5	2	4		
207	1001	包含層	11D11 Ⅱb層	深鉢	1群	関東		10.0				渦巻文			2	5	6		
207	1002	包含層	11C21 Ⅱb層	深鉢	1群	関東		14.0				横線		LR	2	5	3		
207	1003	包含層	11D20・24 Ⅱb層	深鉢	4群	BⅡ	3?	14.0						刺突	3	2	6		

図版No.	報告No.	種別	遺構名・出土地点・層位	器種	系統	細別	時期	法量（cm）				文様			胎土	色調	残存率		備考
								口径	器高	器高	胴大	口頸部	胴部	地文			口	底	
207	1004	包含層	11D12・24 Ⅱb層	深鉢	4群	BⅡ		15.0					斜線		3	2	15		
207	1005	包含層	11D・E集中Ⅱb層	深鉢	1群	関東		9.2	13.8	8.6			渦巻文	LR	5	2	7	21	0.53‰。底：A1類
207	1006	包含層	11E18・23・24 Ⅲb層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	29.0				縦線		RL	4	2	4		
207	1007	包含層	11D16 Ⅱb層	鉢	1群	南境		11.0			12.0	横線	曲線状	LR	4	2	8		
207	1008	包含層	12F22 Ⅱb層	深鉢	3群	B		24.0				円刺突			3	2	4		
207	1009	包含層	12D19 Ⅱb層	深鉢	1群	関東		21.0				横線			2	5	2		
207	1010	包含層	12E7 Ⅱb層、13D1 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅣ1	3	16.4				横線			4	2	8		
207	1011	包含層	12D13 Ⅱb・Ⅲb層、13C25 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅡ6	2	21.0					逆U字？	LR	5	2	8		
207	1012	包含層	12E21 Ⅲb層	浅鉢？	3群			25.0				円＋横線			5	2	7		
207	1013	包含層	12D1 Ⅱb層	注口	1群？								渦巻文	RL	5	3			
208	1014	包含層	13D3 Ⅱb層、13D8 Ⅱb層	深鉢	3群	B	3	32.0				横線		LR	3	1	7		
208	1015	包含層	13E5 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	23.0				縦線		LR・RL	5	2	4		
208	1016	包含層	13G5・10 Ⅱb層	深鉢	1群？		3?	31.0				刺突多		RL	4	2	1		
208	1017	包含層	13C22 Ⅱa・Ⅱb層、13D4 Ⅱb・Ⅲb層	深鉢	3群	B	2					斜線			3	1	23		
208	1018	包含層	13D24・25 Ⅱb層	注口	3群	Ⅰ	2	9.1				渦巻文			4	2	15		
208	1019	包含層	14D20 Ⅱb層・Ⅲb層、14D21・24・25 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅡ6	2新	11.0				横線	縦刺突列		4	5	17		
208	1020	包含層	14E13 Ⅱb層、15D16・17 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	29.0				縦線		RL	3	2	8		
208	1021	包含層	14E1 Ⅱb層	深鉢	3群	B		23.5				楕円形文			3	2	6		
208	1022	包含層	14D17 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	40.0				縦線		RL	3	4	5		
208	1023	包含層	14D11・16 Ⅱb層	深鉢	1群	関東		14.0	13.5	6.0	5.4		枠状文？	LR	4	1	5		
208	1024	包含層	14E18 Ⅱb層	深鉢	4群	BⅡ		9.2	11.5	5.2				RL	3	2	10	33	
208	1025	包含層	14D21 Ⅲb層、14D22 Ⅱb層	壺？	3群						15.4		刺突多		4	2			
208	1026	包含層	14E1 Ⅱb層	浅鉢	3群			20.4				横線		LR・RL	5	3	7		
208	1027	包含層	14D16・21・22 Ⅱb層、14D22 Ⅲb層	深鉢	3群	BⅡ1	2新	25.6				縦線		LR	5	2	5	0	
208	1028	包含層	14D21・22 Ⅱb層、14E1・2 Ⅱb層、14E1 Ⅲb層	深鉢	?			46.0			50.0	横線	逆U字？		3	3	2		
208	1029	包含層	14E13 Ⅱb層、16E1 Ⅲb層	鉢	3群	Ⅱ	2	23.4			26.0	楕円形文	渦巻文		3	1	7		
208	1030	包含層	15C21 Ⅱb層	深鉢	1群	関東							菱形文？	LR	3	2			
208	1031	包含層	16D25 Ⅱb層	深鉢	3群	BⅣ1	3	20.0				横線			4	1	5		

B 土製品

報告No.	出土地点・層位	種類・現存状況	法量（cm・g）					文様・調整	成形	残存率		備考
			口径 長さ	器高 厚さ	底径 幅	胴大	重量			口縁	底部	
1032	7G Ⅱb層、7E5 Ⅱb層	土偶（腕・胴部）	13.5	7.0	16.2		765.89	沈線文（正面Ｖ字状・菱形状、背面Ｖ字状・渦巻状）				中実　背面欠損
1033	SD5186（12D11）1層124・317、3F13 Ⅲb層	土偶（腕・胴・脚部）	6.3	1.9	3.8		30.21	沈線文（連弧文・重菱形文・平行沈線）				中実
1034	11D7 Ⅲb層	土偶（腕部か）	2.4	1.6	1.8		3.32	円形刺突・沈線				
1035	7C25 Ⅱb層	土偶（腕？）	1.8	1.3	2.7		5.22	無文				
1036	9G3 Ⅱb層	土偶（肩か）	2.9	2.0	2.8		8.95	縦位・横位沈線				
1038	4E25 Ⅳ層	土偶（脚部）	8.0	6.5	6.0		219.42	沈線文				
1039	SI8356（10D24）46?層17、4G6 Ⅲb層	土偶（脚部）	8.9	7.0	4.8		192.69	無文				
1037	P3854（8F4）	土偶（腰～脚部）	4.0	2.8	5.7		58.95	渦巻文・平行沈線				
1040	SD5186（8F10）Ⅲb層	土偶（脚部）	4.3	3.6	2.5		24.92	無文				
1041	2G8 Ⅳ層	土偶（脚部）	6.5	4.4	6.7		125.27	無文				つま先欠損
1042	6E12 Ⅲb層1	土偶（脚部）	4.8	8.7	5.0		134.60	正面に縦位沈線２条				つま先欠損
1043	8F9 Ⅱb層	土偶（脚部）	4.9	2.9	4.8		26.71	無文				
1044	5E23 Ⅱb層	土偶（脚部）	4.2	4.6	4.0		66.53	前後に円形刺突・内側に弧状沈線				
1045	14E14	土偶（脚部）	3.4	4.3	4.3		52.37	指頭圧痕				
1046	13C24 Ⅱb層	不明（土偶腕部か）	4.1	1.9	2.9		19.94	縄文 RL ↓・浅い沈線				
1047	3F13	耳飾（赤彩）	2.1	1.5	2.0		3.65	全面赤彩　周縁部に打ち欠き痕				
1048	P4044［SB7708］（6D23）床面	耳飾り	1.8	2.6	2.7		8.73	全面赤彩				
1049	SD5186（10D24）Ⅲa層1	垂飾	4.2	1.2	2.9		7.67	全面赤彩				
1050	SI1291（12E7）8層822	垂飾か	6.0	1.5	6.0		47.13	孔１か所　裏面編物圧痕（飛びござ目編み　２本超１本潜１本送）				
1051	4E22 Ⅱb層	筒状	8.5	3.4	4.5		97.32	沈線文				
1052	P2606［SB7701］（3G15）4層	土錘	4.1	1.7	2.6		16.30	溝長軸のみ　貫通孔あり				上下欠損
1053	一括	土錘	3.3	1.8	2.0		10.83	溝長軸＋短軸				
1054	一括	土錘	3.2	1.3	1.6		6.06	溝長軸＋短軸				
1055	一括	土錘	2.4	1.3	1.8		4.89	溝長軸＋短軸				
1056	5E6 Ⅲb層	蓋形	6.0	1.6	6.0		39.34	中央につまみ（欠損）				
1057	17D12 Ⅲb層	土版	6.0	1.8	7.0		67.65	縦位・横位沈線				
1058	7G6 Ⅱb層	土器片円板	5.4	1.1	5.3		39.52	縄文 LR　研磨あり				
1059	SD5186（11D）2層555	土器片円板	3.9	0.9	3.9		13.77	縄文 RL　研磨あり				
1060	P3566（7D13）	土器片円板	4.1	0.6	4.1		11.22	縦位沈線間に縄文か　研磨あり				
1061	6E18 Ⅱb層	土器片円板	3.5	1.2	3.0		14.25	縄文 LR　研磨不明				
1062	P6539［SB7708］（6F8）1層	土器片円板	5.1	0.8	5.5		21.65	横位沈線間に縄文 RL　研磨あり				
1063	10E15 Ⅲb層	土器片円板	6.5	0.9	6.5		33.77	調整不明　研磨不明				表面スス厚く付着
1064	10E15 Ⅲb層	土器片円板	7.5	0.9	7.0		57.02	調整不明　研磨あり				表面スス厚く付着
1065	SK450（2F10）1層	土器片円板	4.7	0.9	4.5		21.91	細沈線か　研磨不明				
1066	P4054［SB7710］（6F14）7層	土器片円板	3.6	0.8	3.6		10.64	縄文　研磨不明				
1067	7F12 Ⅱb層	土器片円板	3.8	0.8	3.5		11.70	無文　研磨不明				
1068	SI201（11F11）130	土器片円板	3.5	1.0	3.8		15.72	無文　研磨不明				
1069	10E10 Ⅲb層	土器片円板	2.6	0.6	2.6		4.57	平行沈線＋縄文 LR か　研磨不明				
1070	2D20 Ⅳ層	土器片円板	2.9	0.8	3.0		7.69	縄文 LR　研磨なし				表面スス付着
1071	SK4998（11F14）3層	土器片円板	3.2	0.6	3.2		6.76	縄文か　研磨なし				

報告No.	出土地点・層　位	種類・現存状況	法　量（cm・g）					文　様　・　調　整	成形	残存率		備　　考
			口径 長さ	器高 厚さ	底径 幅	胴大	重量			口 縁	底 部	
1072	8F1 Ⅱb層	土器片円板	4.3	0.8	4.6		17.16	波状沈線　研磨なし				
1073	P966（8D11）1層	土器片円板	4.2	0.8	4.6		16.64	沈線文　研磨なし				口縁部転用（山形口縁）
1074	10F8 Ⅲb層	土器片円板	5.7	1.0	5.7		34.14	沈線文　研磨なし				つまみ部分欠損
1075	11F15 Ⅱb層	土器片円板	6.4	1.3	6.8		55.35	沈線文　研磨なし				漆要具転用
1076	10E15 Ⅲb層	土器片円板	6.9	1.0	6.5		46.51	調整不明　研磨なし				表面スス厚く付着
1077	SD5186（11D14）1層165・166	皿状	18.6	高5.0 厚2.8	17.0		673.46	内面磨痕、外面被熱。混和材多量混入				石皿模倣か
1078	SD5186（11D）Ⅲa層	皿状	14.9	高4.1 厚3.3	7.2		326.18					
1079	4F4 Ⅱb層	皿状	12.9	高5.7 厚2.8	7.9		344.23					外・底面スス付着
1080	7G6 Ⅱb層	皿状	8.4	高4.8 厚1.4	10.0		112.46					
1081	4G6 Ⅲb層	ミニチュア土器（鉢）	6.7	4.8	7.0		78.22	沈線区画中に渦巻文・縦位沈線				
1082	P6199（3F16）1層、3F16 Ⅲb層	ミニチュア土器（深鉢）	7.0	8.5	3.4		57.19	細沈線文		7	36	
1083	SK4629（16E12）	ミニチュア土器（深鉢）	9.4	10.0	4.9		177.50	無文　底部圧痕（木葉）か	輪	19	36	外面一部スス付着
1084	SX6185（3E）	ミニチュア土器（深鉢）				8.2	29.32	沈線文				外面一部スス付着
1085	SD5186集中Ⅲ（11D6）Ⅲa2層	ミニチュア土器（深鉢か）			4.4		85.22	沈線文＋縄文か　底部圧痕（木葉）か	輪		36	
1086	3G4 Ⅲb層	ミニチュア土器（深鉢か）	5.6				38.27	ミガキ	輪	20		
1087	SX1261（11E）	ミニチュア土器（深鉢か鉢）	6.2				6.95	沈線＋縄文 RL→		4		
1088	9G10 一括	ミニチュア土器（深鉢か鉢）	6.0				20.76	口縁部刺突列、斜位沈線間に刺突		5		
1089	SK1316（11F13・14）218	ミニチュア土器（鉢か）	8.0				3.63	沈線文		10		
1090	SK348（9D15）1層	ミニチュア土器（鉢）	7.6				20.18	沈線文	輪	3		内面下位に黒色付着物
1091	P3665（9C21）	ミニチュア土器（鉢か）			5.0	10.5	72.68	沈線文	輪		27	
1092	13D4 Ⅱb層	ミニチュア土器（壺）	7.0				6.54	沈線文		3		
1093	SI201（11F12）床面	ミニチュア土器（鉢か）			5.5	10.5	117.71	横位沈線間に縄文 RL→か　底部圧痕（木葉）	輪		36	
1094	P4362（7F21）4層	ミニチュア土器（注口か）			4.5	8.8	156.16	沈線文			36	
1095	5F2 Ⅱb層	ミニチュア土器（深鉢か）			5.0		66.67	沈線文	輪		36	
1096	7D19 Ⅱb層	ミニチュア土器			6.0		8.03	横位沈線　ミガキ　底部圧痕（編物）	輪		4	
1097	7D19 Ⅱb層	ミニチュア土器			4.4		12.11	縦位沈線			16	
1098	3E14 Ⅲb層	ミニチュア土器			3.0		19.52	縦位沈線			25	
1099	14G1 Ⅲb層	ミニチュア土器			短3.0 長4.6		24.36	沈線文	手？		33	
1100	P108（16C23、16D7）7層36	ミニチュア土器（壺）				7.6	33.05	無文	輪			
1101	P1857（2D25）［SI446］	ミニチュア土器（鉢）	7.0	4.6	なし		23.06	内外面ケズリ	？		12	
1102	SK3754（8E19）	ミニチュア土器（鉢）	6.8	5.0	4.0		69.82	無文	輪	10	36	
1103	SK1861（2D20）1・3層47	ミニチュア土器			4.4		101.92	無文	輪		36	外面一部スス　内面黒色付着物わずか
1104	10F17 Ⅱb層	ミニチュア土器			5.4		93.23		輪		36	
1105	9D5 Ⅲb層	ミニチュア土器			5.8		97.15				25	外面一部スス付着
1106	9D1 Ⅲa・Ⅲb層	ミニチュア土器			5.0		74.57	底部圧痕（木葉）	輪		36	
1108	13D12・13 Ⅱb層	ミニチュア土器（鉢）	6.0	4.0	3.2		20.21	無文		8	14	
1109	7E18 Ⅱb層	ミニチュア土器（鉢）	5.0	3.3	2.0		29.63	無文	手	22	36	
1110	3E23 Ⅱb層	ミニチュア土器（鉢）	5.4				25.85	無文		11		
1111	8D14 Ⅱb層	ミニチュア土器	4.0	2.0	2.2		11.31	無文		7	36	
1112	P4013（7D21）［SB7708］	ミニチュア土器	4.3	2.0	2.0		20.58		手	9	36	
1113	SK6725（6G8）	ミニチュア土器	5.0	2.6	なし		11.06	無文　内面ケズリ	手	11	12	
1114	6C23 Ⅲb層	ミニチュア土器			5.0		42.73				36	内面一部に黒色付着物
1115	3E10 Ⅲb層	ミニチュア土器			4.6		12.64	ミガキ　底部圧痕（編物）			10	
1116	7E10 Ⅱb層	ミニチュア土器			4.4		9.15	ミガキ			13	
1117	4E25 Ⅱb層	ミニチュア土器			4.8		5.75				13	
1118	5D21 Ⅱc層	ミニチュア土器			3.6		21.79				36	
1119	6D14 Ⅱb層	ミニチュア土器			5.0		20.81				16	
1120	8F10 Ⅱ層	ミニチュア土器			3.6		18.94				36	
1121	11D12 Ⅱb層	ミニチュア土器			3.0		25.53				36	
1122	10D6 Ⅱb層	ミニチュア土器			3.6		26.57				28	
1123	14E12 Ⅱa層	ミニチュア土器（台付）			4.0		20.80				18	
1124	9E1 Ⅱb層	ミニチュア土器			3.3		20.10				25	
1125	3E15 Ⅲb層	ミニチュア土器（台付）			4.0		49.26				36	
1126	9C23 Ⅱb層	ミニチュア土器（台付）					29.93					
1127	7E16 Ⅱb層	ミニチュア土器（台付）			7.2		35.10				0	内外面に黒色付着物
1128	8D25 Ⅲb層	ミニチュア土器（台付）					21.40					台付土器の台部か
1129	P8839（2F19）1層	ミニチュア土器（注口）	8.8			11.5	187.87	横位沈線　ミガキ	輪	25		ススコゲ厚く付着
1130	11E25 Ⅱb層	粘土塊か	12.1	5.3	12.3		683.37					被熱

B　石器・石製品

報告No.	器種	分類	遺構名等	出土地点・層位等	残存	法量（cm・g）				石材	備考
						長さ	幅	厚さ	重量		
1	石鏃	A類		14D18 Ⅱb層	完形	3.8	1.4	0.5	2.2	頁岩Ⅲ	アスファルト付着
2	石鏃	A類		5D5 Ⅲb層	完形	3.8	1.6	0.4	2.4	頁岩Ⅶa	
3	石鏃	A類		6D23 Ⅲb層	完形	3.0	1.7	0.5	1.4	流紋岩Ⅰ	アスファルト付着
4	石鏃	A類	SK535	2D10	先端欠	2.8	1.3	0.4	1.2	頁岩Ⅰ	アスファルト付着
5	石鏃	A類		10E15　Ⅱb層	先端・片脚欠	2.4	1.7	0.3	0.9	頁岩Ⅶa	アスファルト付着
6	石鏃	A類	石囲炉2207［SI3912］	8F2（1層）	先端欠	1.9	1.5	0.5	1.1	頁岩Ⅶa	アスファルト付着
7	石鏃	A類		6D11　Ⅲb層	完形	2.1	1.3	0.3	0.6	頁岩Ⅰ	アスファルト付着
8	石鏃	B類		9G2　Ⅲb層	完形	2.9	2.4	0.7	3.6	頁岩Ⅶa	
9	石鏃	B類	SD5186	11D15　Ⅱb層	完形	3.2	1.7	0.5	2.1	頁岩Ⅶa	アスファルト付着
10	石鏃	B類		5F14　Ⅱb層	完形	2.7	1.6	0.5	1.7	流紋岩Ⅰ	
11	石鏃	B類	P433［SB7703・7704］	4F8（38層）	完形	2.7	1.7	0.5	1.7	頁岩Ⅰ	

報告No.	器種	分類	遺構名等	出土地点・層位等	残存	法量（cm・g）				石材	備考
						長さ	幅	厚さ	重量		
12	石鏃	B類	SI1291	12E7床面	完形	2.7	1.6	0.4	1.4	流紋岩Ⅰ	
13	石鏃	B類	地床炉202［SI2371］	10F19	完形	2.7	1.5	0.5	1.8	頁岩Ⅶa	
14	石鏃	B類		9E1（Ⅲa層）	完形	2.5	2.0	0.6	2.3	鉄石英Ⅰ	
15	石鏃	B類	石囲炉2207［SI3912］	8F2（1層）	片脚欠	2.2	1.3	0.3	0.8	頁岩Ⅰ	
16	石鏃	B類	石囲炉2225［SI3913］	8F8（1層）	片脚欠	2.0	1.4	0.4	0.8	流紋岩Ⅰ	
17	石鏃	B類	SI453	2G3（Ⅱb層）	先端・片脚欠	1.6	1.2	0.3	0.5	流紋岩Ⅰ	
18	石鏃	B類	SI453	2F22（覆土）	完形	1.9	1.5	0.4	0.9	頁岩Ⅶa	
19	石鏃	B類		4E23（Ⅱb・Ⅱc層）	完形	1.7	1.3	0.3	0.5	頁岩Ⅰ	
20	石鏃	C類	地床炉919［SI8356］	10D23（1層）	中茎欠	2.2	1.2	0.4	0.8	流紋岩Ⅱ	
21	石鏃	D類	P2918［SB7705］	5F17（1層）	中茎欠	2.3	1.4	0.4	1.0	流紋岩Ⅲ	アスファルト付着
22	石鏃	F類	SK2946	5E9（1層）	完形	2.7	1.3	0.3	1.0	頁岩Ⅶa	
23	石鏃	E類		8G10　Ⅱb層	先端欠	2.4	1.6	0.4	1.3	流紋岩Ⅰ	
24	石鏃	G類		15D19　Ⅱb層	完形	3.0	2.3	0.7	3.4	頁岩Ⅶb	
25	石鏃	G類		13D18　Ⅱb層	完形	3.1	1.7	0.6	2.5	頁岩Ⅶa	
26	石鏃	G類		8E3　Ⅲb層	片脚欠	2.7	1.8	0.6	2.4	頁岩Ⅰ	アスファルト付着
27	石鏃	G類	P3001	2D4（覆土）	完形	2.2	1.4	0.5	1.4	流紋岩Ⅰ	
28	石鏃	H類		2F23　Ⅲb層	完形	2.8	1.1	0.5	1.0	流紋岩Ⅱ	
29	石鏃	未成品		11E3　Ⅱb層	完形	2.6	2.2	0.7	1.9	流紋岩Ⅱ	
30	石鏃	未成品	石囲炉454［SI7612］	4F17・18（1層）	完形	3.0	2.0	1.0	1.0	流紋岩Ⅱ	
31	石錐	A類		9F21（Ⅲa層）	完形	4.2	1.5	0.7	3.4	流紋岩Ⅱ	
32	石錐	B類		8D7（Ⅱb層）	完形	5.2	3.7	1.2	19.1	流紋岩Ⅰ	
33	石錐	C類	P6176	2E9（覆土）	完形	4.6	4.0	1.5	18.3	頁岩Ⅶb	
34	石錐	C類	SD301	7E（2層）	完形	7.4	5.2	1.0	29.6	頁岩Ⅶa	
35	石匙	A1類	P786	11D13（1層）S2	完形	5.5	2.1	0.7	8.5	頁岩Ⅶa	
36	石匙	A2類	SI201	10F15　Ⅱb層（S14）	完形	8.2	3.8	1.1	33.2	頁岩Ⅶa	
37	石匙	A2類		4E2　Ⅳ層	完形	6.9	3.9	1.2	24.6	珪化岩	
38	石匙	A3類		8D1　Ⅱb層	完形	9.2	5.8	2.1	69.4	凝灰岩	
39	石匙	A3類		9F22　Ⅱb層	完形	5.1	2.2	0.6	5.1	頁岩Ⅶa	
40	石匙	C類	SK873	6E（1層）	完形	6.0	2.6	1.4	14.0	頁岩Ⅰ	
41	篦状石器	A類		7F16　Ⅱb層	完形	8.9	3.5	1.5	48.6	頁岩Ⅶa	
42	篦状石器	B類		試掘確認68T　Ⅱ層	完形	5.1	3.6	1.2	20.5	頁岩Ⅲ	
43	異形石器			2F1　Ⅲb層	完形	2.0	3.3	1.0	3.0	流紋岩Ⅰ	
44	両極石器	剝A類	P7119	5G4・5（2層）	完形	6.4	3.7	1.2	28.0	頁岩Ⅶa	
45	両極石器	剝A類	SI1291	12E2（4層S13）	完形	4.5	4.6	1.3	17.6	流紋岩Ⅰ	
46	両極石器	剝A類	SI453	2F（1層）	完形	3.3	2.0	0.9	3.7	流紋岩Ⅰ	
47	両極石器	剝A類		7D25　Ⅱb層	完形	2.0	1.7	0.9	3.0	黒曜石	
48	両極石器	剝A類		7D10（Ⅱb層）	完形	2.1	1.5	0.9	3.1	黒曜石	
49	両極石器	剝A類		一括	完形	1.7	2.0	0.7	2.2	頁岩Ⅰ	
50	両極石器	剝B類	P1769	3F22（覆土）	完形	5.6	3.6	1.6	24.9	流紋岩Ⅱ	
51	両極石器	剝B類	P7464	6D19（覆土）	完形	5.0	4.4	0.8	13.8	頁岩Ⅶb	
52	両極石器	剝B類		5E19　Ⅱb層	完形	3.3	3.3	1.0	9.9	鉄石英Ⅰ	
53	両極石器	剝B類		10G10　Ⅱb層	完形	2.3	2.3	0.6	3.0	流紋岩Ⅰ	
54	両極石器	礫A類	-	11F4　Ⅱb層	完形	9.9	7.0	1.4	131.8	泥岩	
55	両極石器	礫A類	-	9E18　Ⅱb層	完形	6.4	4.5	2.1	40.0	泥岩	
56	両極石器	礫B類	-	9G4　Ⅱb層	完形	11.3	8.4	1.9	228.0	泥岩	
57	両極石器	礫B類	-	7E5　Ⅱb層	完形	4.7	4.2	0.7	16.7	泥岩	
58	不定形石器	A1類	SI1291	12E1・2・6・7	完形	3.3	4.9	0.8	10.5	流紋岩Ⅰ	
59	不定形石器	A1類		6D1　Ⅱb層	完形	6.5	4.4	1.5	49.1	頁岩Ⅶa	
60	不定形石器	A1類	SI201	11F17（S1）	完形	9.9	3.2	1.0	39.0	頁岩Ⅶa	
61	不定形石器	A1類		10E18　Ⅲb層	完形	4.6	4.4	1.1	21.4	頁岩Ⅶa	
62	不定形石器	A1類	SI1291	12E7（8層S12）	完形	9.1	5.7	2.5	120.0	頁岩Ⅶa	
63	不定形石器	A1類		5C25　Ⅱb層	完形	5.5	8.7	1.7	62.0	頁岩Ⅶa	
64	不定形石器	A1類		7E14　Ⅱb層	完形	2.8	2.0	1.0	5.3	黒曜石	
65	不定形石器	A2類		2E4　Ⅱc層	完形	5.6	13.5	2.2	125.6	頁岩Ⅶa	
66	不定形石器	A2類		3C25　Ⅱb層	完形	6.3	3.3	1.1	17.5	頁岩Ⅱ	
67	不定形石器	A2類	P4002	6F3（2層）	完形	7.2	3.9	1.1	22.0	頁岩Ⅶa	
68	不定形石器	A2類	SI453	2G23　Ⅱb層	完形	3.6	4.7	1.0	12.8	流紋岩Ⅰ	
69	不定形石器	A2類		11F10　Ⅱb層	完形	5.7	5.7	1.8	43.8	流紋岩Ⅰ	
70	不定形石器	A2類	P6138［SB6377］	2E13（埋土・上層）	完形	2.5	1.8	0.4	0.8	流紋岩Ⅱ	
71	不定形石器	A2類		9E4　Ⅱb層	完形	1.9	1.0	0.4	1.1	頁岩Ⅰ	
72	不定形石器	A2類		9E22　Ⅲa層	完形	3.3	2.7	0.9	6.7	頁岩Ⅴ	
73	不定形石器	A2類		8F4　Ⅲb層	完形	5.6	2.5	0.8	8.5	鉄石英Ⅰ	
74	不定形石器	B類	SI1291	12E1・2・6・7（4層）	完形	5.9	3.0	1.5	30.6	頁岩Ⅱ	アスファルト付着
75	不定形石器	B類		6D2　Ⅲb層	完形	5.1	7.6	1.1	47.4	頁岩Ⅶa	
76	不定形石器	B類	P4002	6F3（1層）	完形	6.3	4.5	1.0	17.3	凝灰岩	
77	不定形石器	B類	SX104	12C（2層）	完形	3.5	2.4	0.8	5.5	流紋岩Ⅲ	
78	不定形石器	C類	地床炉2915［SI7615］	5E19（1層）	完形	61	3.7	1.6	36.8	頁岩Ⅶa	
79	不定形石器	C類	P3025［SB3492］	2D4（覆土）	完形	7.7	2.5	1.5	26.3	頁岩Ⅲ	
80	不定形石器	C類	P8025	7G5・10、8G1・6	完形	4.4	4.3	1.2	19.5	流紋岩Ⅰ	
81	不定形石器	C類	SI201	11F（Ⅱb層）S15	完形	3.8	4.7	1.2	17.5	頁岩Ⅶa	
82	不定形石器	C類	P6168	3F8（覆土）	完形	4.9	3.8	0.8	12.6	頁岩Ⅶa	
83	不定形石器	C類		9E12　Ⅲa層	完形	3.5	3.5	1.1	12.6	頁岩Ⅲ	
84	不定形石器	C類	P6244	2G5	完形	4.5	3.4	0.8	11.7	頁岩Ⅶa	
85	不定形石器	C類		6G5　Ⅱb層	完形	4.1	2.9	0.8	8.1	流紋岩Ⅰ	
86	不定形石器	C類	P6018	3F2（覆土）	完形	3.2	2.3	0.9	6.6	頁岩Ⅶa	
87	不定形石器	C類	P3838［SI3913］	8E22（覆土）	完形	2.8	1.8	0.7	3.2	鉄石英Ⅰ	
88	不定形石器	D類	P1778	3G8（覆土）	完形	10.7	8.2	2.3	96.4	流紋岩Ⅱ	
89	不定形石器	D類		10E22　Ⅱb層	完形	4.5	6.1	1.7	33.9	頁岩Ⅱ	
90	不定形石器	D類	P1760［SB7700］	3F17（柱痕）	完形	2.8	3.1	0.7	8.2	流紋岩Ⅰ	
91	不定形石器	D類	P6138［SB6377］	2E13（埋土・上層）	完形	1.8	2.7	0.7	3.0	頁岩Ⅶa	
92	不定形石器	D類	P432	2F11（覆土）	完形	3.3	2.6	0.7	3.7	流紋岩Ⅱ	
93	不定形石器	E類	SD303	6G4（2層）	完形	9.0	7.2	1.8	112.2	凝灰岩	
94	不定形石器	E類	P7091	6E6（覆土）	完形	4.2	5.5	1.2	24.7	頁岩Ⅶa	

報告No.	器種	分類	遺構名等	出土地点・層位等	残存	法量（cm・g）				石材	備考
						長さ	幅	厚さ	重量		
95	不定形石器	E類	SD5186	8F（Ⅲb層）	完形	4.3	3.2	1.1	12.8	頁岩Ⅶa	
96	不定形石器	E類	SD5186	9E（Ⅲa1・2層）	完形	3.9	3.8	1.2	12.1	頁岩Ⅶa	
97	不定形石器	E類	P1054	2F9・14	完形	3.6	5.0	0.8	7.7	流紋岩Ⅱ	
98	不定形石器	E類	SI453	2G23	完形	1.8	3.7	0.5	2.3	流紋岩Ⅱ	
99	不定形石器	E類		6D8	完形	2.2	1.7	0.4	1.6	黒曜石	
100	不定形石器	E類		7E13　Ⅱb層	完形	2.0	1.9	0.9	2.5	黒曜石	
101	不定形石器	E類		2E19　Ⅳ層	完形	1.8	1.4	0.4	1.0	鉄石英Ⅰ	
102	不定形石器	F1類	P3505［SB7711］	7D21（埋土）	完形	7.3	5.5	1.5	48.3	頁岩Ⅶa	
103	不定形石器	F1類	SK115	14D（1層）S1	完形	6.8	4.2	1.2	28.9	頁岩Ⅶb	
104	不定形石器	F1類	地床炉2914［SI7616］	5F4（1層）	完形	7.0	4.2	1.3	25.7	流紋岩Ⅰ	
105	不定形石器	F1類		一括	完形	5.9	1.6	1.1	9.2	黒曜石	
106	不定形石器	F1類	SI1291	12E1（4層）	完形	3.7	4.6	1.3	20.4	流紋岩Ⅰ	
107	不定形石器	F1類	SK1023	2E14（1層）	完形	3.7	5.0	1.2	14.3	頁岩Ⅶa	
108	不定形石器	F1類	SK129	12E1・2・6・7（Ⅱb層）	完形	3.3	2.7	0.9	6.2	流紋岩Ⅰ	
109	不定形石器	F1類	SK697	12F（S1）	完形	4.1	5.4	0.8	14.0	流紋岩Ⅱ	
110	不定形石器	F1類	P4014［SB7712］	6G2・3（埋土）	完形	7.1	3.5	2.3	45.4	頁岩Ⅱ	
111	不定形石器	F2類		11D21　Ⅱb層（S2）	完形	8.1	5.4	3.8	116.3	頁岩Ⅶb	
112	不定形石器	F2類	SI1291	12E1・2・6・7（6層）	完形	4.9	4.2	1.2	24.9	頁岩Ⅶa	
113	不定形石器	F2類	P3020［SB3492］	2D9・10・14・15（15層）	完形	8.1	8.5	2.5	190.0	流紋岩Ⅰ	
114	不定形石器	F2類	SI1291	12E1・2・6・7（1層）	完形	4.1	6.2	2.0	40.6	凝灰岩	
115	不定形石器	F2類	SI1291	12E1・2・6・7（4層）	完形	3.4	2.3	0.8	4.8	流紋岩Ⅰ	
116	不定形石器	G類	P4351［SB7708］	6F4（埋土）	完形	4.7	6.4	1.2	34.1	頁岩Ⅶa	
117	不定形石器	G類	SI453	2F17・18・22・23	完形	6.2	3.6	1.1	20.7	流紋岩Ⅰ	
118	不定形石器	G類		2E18	完形	2.9	4.5	0.6	6.1	頁岩Ⅶa	アスファルト付着
119	不定形石器	G類	SI1291	12E2（8層）S20	完形	5.5	3.1	1.2	16.0	頁岩Ⅶa	
120	不定形石器	G類	SI453	2G2・3	完形	3.3	5.1	1.1	12.1	流紋岩Ⅰ	
121	不定形石器	H類	SI1291	12E1・2・6・7（8層）	完形	4.0	3.8	0.7	11.0	頁岩Ⅲ	
122	不定形石器	H類	SI1291	12E1・2・6・7（4層）	完形	5.0	3.9	1.2	22.8	流紋岩Ⅰ	
123	石核	A類	SK566	4D22（1層）S1	完形	4.4	6.9	6.2	218.0	メノウ	
124	石核	B類		11C24　Ⅱb層	完形	7.2	11.8	7.4	647.0	頁岩Ⅴ	
125	石核	B類		8D24　Ⅱb層	完形	7.0	11.1	10.0	1002.0	流紋岩Ⅰ	
126	石核	C類		12D9　Ⅱb層	完形	6.8	6.5	5.0	265.0	流紋岩Ⅰ	
127	石核	C類	SK3758	8E4・9（1層）	完形	5.3	11.8	5.1	260.0	頁岩Ⅶa	
128	剥片	接合資料	P571	3D24		5.1	6.1	1.9	32.6	流紋岩Ⅰ・Ⅱ	129～134接合
129	剥片	B1類	P571	3D24	完形	4.9	2.7	0.7	6.5	流紋岩Ⅰ	接合
130	剥片	B1類	P571	3D24（S13）	完形	4.8	2.4	0.8	8.5	流紋岩Ⅰ	接合
131	剥片	B1類	P571	3D24（S12）	完形	3.6	3.6	1.0	7.0	流紋岩Ⅰ	接合
132	剥片	B2類	P571	3D24（S16）	完形	2.7	3.3	0.6	3.3	流紋岩Ⅰ	接合
133	剥片	B1類	P571	3D24（S11）	完形	2.5	3.1	0.6	3.5	流紋岩Ⅱ	接合
134	剥片	C1類	P571	3D24（S1）	完形	2.0	2.8	0.7	3.8	流紋岩Ⅱ	接合
135	剥片	B1類	P571	3D24（S2）	完形	4.2	3.3	0.7	6.7	流紋岩Ⅰ	
136	剥片	B1類	P571	3D24（S15）	完形	2.0	3.6	0.6	2.1	流紋岩Ⅰ	
137	剥片	B1類	P571	3D24（S10）	完形	3.0	2.3	0.5	2.2	流紋岩Ⅰ	
138	剥片	B1類	P571	3D24（S3）	完形	3.1	2.8	0.7	5.7	流紋岩Ⅰ	
139	剥片	C1類	P571	3D24（S9）	完形	2.8	3.5	0.4	2.4	流紋岩Ⅱ	
140	剥片	C1類	P571	3D24	完形	2.5	3.7	0.7	3.6	流紋岩Ⅰ	
141	剥片	C1類	P571	3D24（S4）	完形	2.1	2.9	0.8	3.5	流紋岩Ⅰ	
142	剥片	C2類	P571	3D24（S20）	完形	3.5	3.5	0.6	3.9	流紋岩Ⅰ	
143	剥片	接合資料	P571	3D24		3.1	3.7	1.5	14.2	頁岩Ⅶa	144・145接合
144	剥片	B1類	P571	3D24（S8）	完形	3.0	3.7	1.1	10.6	頁岩Ⅶa	接合
145	剥片	B1類	P571	3D24（S6）	完形	3.0	2.4	0.6	3.6	頁岩Ⅶa	接合
146	剥片	B1類	P571	3D24（S19）	完形	4.6	3.6	0.7	11.3	頁岩Ⅶa	
147	剥片	B1類	P571	3D24（S5）	完形	3.5	3.7	1.0	9.0	頁岩Ⅶa	
148	剥片	B1類	P571	3D24（S18）	完形	2.1	2.6	0.7	3.2	頁岩Ⅶa	
149	剥片	B2類	P571	3D24（S14）	完形	3.7	2.6	0.4	3.4	頁岩Ⅶa	
150	剥片	B2類	P571	3D24（S7）	完形	3.7	2.8	0.5	4.2	頁岩Ⅶa	
151	剥片	C1類	P571	3D24	完形	3.3	2.6	0.6	2.8	頁岩Ⅶa	
152	剥片	C1類	P571	3D24（S17）	完形	2.0	2.6	0.5	1.8	頁岩Ⅶa	
153	剥片	C1類	P571	3D24	完形	3.4	3.6	0.5	4.4	頁岩Ⅶa	
154	剥片	B2類	SK917	7D9・14（1層）	完形	3.0	5.1	5.1	1.0	頁岩Ⅶb	アスファルト付着多
155	剥片	B2類	SD301	6E15（2層）	完形	3.6	2.8	0.9	6.3	頁岩Ⅶb	アスファルト付着多
156	剥片	B2類		7G7　Ⅱb層	完形	3.6	2.8	0.9	6.3	頁岩Ⅶb	アスファルト付着多
157	剥片	C2類	SD301	6E24（2層）	完形	3.0	4.0	0.7	5.4	頁岩Ⅶa	アスファルト付着多
158	磨製石斧	大型	SK 314	6D3（1層）S1	基部欠	15.2	7.8	3.7	795	輝緑岩	
159	磨製石斧	大型	-	11D22　Ⅱb層	略完形	17.1	7.7	4.0	747	輝緑岩	
160	磨製石斧	大型	P3854［SI3912］	8F4（1層）	略完形	16.7	6.9	3.6	630	輝緑岩	
161	磨製石斧	大型	SK3855	8E24・25	完形	15.8	7.2	3.6	355	輝緑岩	
162	磨製石斧	大型	石囲炉2913［SI7617］	5F9・14（S1）	完形	15.3	7.4	3.7	670	輝緑岩	
163	磨製石斧	大型		11D6　Ⅱb層	完形	15.0	6.4	3.1	465	輝緑岩	
164	磨製石斧	大型		10E19　Ⅱb層	完形	13.9	6.2	3.1	370	輝緑岩	
165	磨製石斧	大型	SI201	10F14（床直）S7	略完形	13.5	7.3	3.4	520	輝緑岩	
166	磨製石斧	大型	P4064［SB7707］	6C23（1層）S1	刃部欠	13.7	7.6	4.9	580	輝緑岩	
167	磨製石斧	大型		一括	完形	12.3	6.9	3.1	420	輝緑岩	
168	磨製石斧	大型		8E17　Ⅱb層	略完形	9.7	5.3	2.2	180	蛇紋岩	
169	磨製石斧	大型	SD5186	9E10（Ⅲa2層）	基部欠	7.1	4.6	2.2	110	輝緑岩	
170	磨製石斧	中型	SI1415	14C23（S1）	完形	8.8	3.6	1.7	92	緑色凝灰岩	
171	磨製石斧	中型	-	8F9　Ⅱb層	完形	7.9	3.6	1.2	62	蛇紋岩	
172	磨製石斧	小型	-	17D3　Ⅱb層	基部半損	4.6	2.9	0.6	11	泥岩	
173	磨製石斧	小型	SH 180	13D11（3層）S1	完形	4.3	2.3	0.7	10	泥岩	
174	磨製石斧	小型	-	9F14　Ⅱb層	完形	4.7	2.1	1.1	13	緑色凝灰岩	
175	磨製石斧	小型	SI 101	13D3（1層）S2	完形	3.6	1.4	0.6	5	蛇紋岩	
176	磨製石斧	小型	石囲炉919［SI8356］	10D23・10E3（1層）	完形	3.2	1.9	0.6	6	蛇紋岩	
177	磨製石斧	未成品(再生)		6D2　Ⅲb層	略完形	12.7	6.5	4.0	500	輝緑岩	大型

報告No.	器種	分類	遺構名等	出土地点・層位等	残存	法量（cm・g）				石材	備考
						長さ	幅	厚さ	重量		
178	磨製石斧	未成品(再生)	P6086	2F9（S1）	完形	12.0	6.5	3.4	380	輝緑岩	大型
179	磨製石斧	未成品	-	4E1　Ⅲb層	完形	13.7	6.4	2.4	385	輝緑岩	大型
180	磨製石斧	未成品	SI 8356	10D25（1層）S35	完形	15.8	9.0	4.7	960	輝緑岩	大型
181	磨製石斧	未成品	SD5186	9E10（Ⅲa1層）	完形	13.7	7.5	2.1	300	輝緑岩	大型
182	石皿	A類	P4044［SB7708］	6D23・24、6E23（3層）S1	1/6	31.8	19.4	6.2	3330	輝緑岩（粗）	
183	石皿	A類	SK2908	5F17（S3）	半損	21.8	21.9	5.3	2570	閃緑岩	
184	石皿	A類	-	7E21　Ⅱb層）	半損	17.6	17.9	4.5	1710	凝灰岩	
185	石皿	B2類	P6294	6G7（1層）S1	半損	21.1	23.8	6.2	4130	凝灰岩	
186	石皿	B2類	石囲炉567［SI1200］	4D18（1層）S1	1/4	22.1	24.7	13.7	6100	閃緑岩	
187	石皿	B2類	石囲炉2913［SI7617］	5F9・14（1層）S1	両端欠	15.0	18.5	8.0	2990	閃緑岩	
188	石皿	B3類	SK3695	9D5・10、10D1・6（S21）	半損	42.2	13.5	11.7	7600	閃緑岩	
189	石皿	B2類	P6005［SB6377］	3E6・7・11・12（埋土上層）	略完形	9.2	5.4	2.2	130	凝灰岩	
190	石皿	B3類	SI201	11F12（床面）	半損	19.3	26.0	10.1	7400	凝灰岩	
191	石皿	B3類	石囲炉2207［SI3912］	8F2（S6）	完形	32.8	18.0	8.8	7200	花崗岩	
192	石皿	B3類	-	5F8　Ⅱb層	半損	21.9	15.4	6.5	2865	閃緑岩	
193	石皿	B3類	石囲炉2207［SI3912］	8F2（P3）	1/3	15.7	22.4	8.0	3520	花崗岩質閃緑岩	
194	石皿	B3類	石囲炉2913［SI7617］	5F9・14（S2）	1/3	29.4	24.7	10.1	2400	花崗岩	2点接合
195	石皿	B3類	SI1291	12D21（S1）	略完形	22.2	11.2	6.3	2375	輝緑岩	
196	石皿	B3類	石囲炉2913［SI7617］	5F9・14（S5）	略完形	29.0	22.3	17.8	15000	花崗岩	
197	砥石	A類	地床炉SK1120［SI7642］	4c20（覆土）	完形	27.5	14.0	12.6	5920	砂岩	
198	砥石	A類	-	7D4　Ⅱb層	略完形	19.3	15.4	5.4	1412	砂岩	
199	砥石	A類	SI 201	10F15（Ⅱb層）S19	半損	21.5	15.2	3.0	825	凝灰岩	
200	砥石	A類	P4014［SB7712］	6G2・3・7・8（S1）	完形	26.1	15.5	5.5	2660	編ま状花崗岩	
201	砥石	A類	P6200	3E24（S1）	完形	33.2	11.1	9.3	4623	凝灰岩	
202	砥石	A類	P4057･P4060［SB7708･7710］	6E23、6F3	完形	22.7	8.6	3.3	1035	ヒン岩	
203	砥石	B類	SI 101	13D2（2層）S3	半損	15.4	9.8	7.6	815	凝灰岩	2点接合
204	砥石	B類	-	10G8　Ⅱb層	略完形	10.8	6.0	5.4	395	砂岩	
205	砥石	B類	-	10G6　Ⅱb層	完形	7.8	7.0	2.2	78	泥岩	
206	砥石	B類		4G5　Ⅳ層	完形	4.5	4.7	1.7	35	泥岩	
207	砥石	C類	P458［SB7703・7704］	4F21（S1）	略完形	25.6	13.5	6.6	2640	凝灰岩	
208	砥石	C類	P3333	4D22（覆土）S1	半損	13.6	12.8	8.4	780	砂岩	
209	手持ち砥石			7E13　Ⅲb層	完形	6.3	4.5	1.6	25	泥岩	破片転用か
210	手持ち砥石		-	8G12　Ⅱb層	完形	9.5	5.8	1.9	155	砂岩	
211	手持ち砥石		-	7D14　Ⅱb層	完形	20.0	4.7	2.1	177	泥岩	
212	台石		SK6232	3F11（S1）	完形	17.5	12.6	9.8	2820	花崗岩	
213	磨石類	A1類	SI7822 ～ 7824	8G1（Ⅲb層）S6	完形	9.8	8.0	5.4	480	花崗岩	
214	磨石類	A1類	SI 201	10F25（Ⅱb層）S20	完形	10.1	9.2	6.8	950	輝緑岩	
215	磨石類	A1類	地床炉998［SI3908］	8C23（1層）S2	完形	13.2	9.2	6.0	1115	花崗岩	
216	磨石類	A3類	P1746	4G4（1層）	完形	11.0	8.6	4.3	600	輝緑岩	
217	磨石類	B1Ⅰ類	P1701［SB7700・7703・7704］	3F20（北側柱痕1層）	完形	11.4	10.0	5.9	950	輝緑岩	
218	磨石類	B1Ⅱ類	SK 781	14C21（1層）S1	完形	11.0	9.0	6.7	940	花崗岩	
219	磨石類	B1Ⅱ類	SD5186	11D6（1層）	完形	14.1	7.5	5.4	820	花崗岩	
220	磨石類	B3Ⅰ類	石囲炉1124［SI1190］	5D19（Ⅲb層）S1	完形	10.5	8.6	3.8	515	ヒン岩	
221	磨石類	B3Ⅱ類	11D・E集中	11D・E　Ⅱb層	完形	11.8	9.3	5.8	1010	花崗岩	
222	磨石類	C1a類	P1165［SB7706］	5D14（覆土）	完形	9.0	6.5	3.7	310	花崗岩	
223	磨石類	C1c類	-	6E17　Ⅱb層	完形	10.0	9.3	5.9	835	輝緑岩	
224	磨石類	C3a類	SD5186	10E6（Ⅲa2層）	完形	11.0	6.7	2.4	290	輝緑岩	
225	磨石類	C3b類	SD5186　遺物集中Ⅰ	10D23（Ⅲa2層）S1	完形	14.8	8.7	4.6	970	花崗岩	
226	磨石類	C3c類	-	10F18　Ⅱb層	完形	8.3	6.0	3.0	240	ハンレイ岩	
227	磨石類	D3Ⅰc類	-	5E25　Ⅳ層	完形	10.8	9.4	6.5	1020	花崗岩	
228	磨石類	D1Ⅱb類	-	6F1　Ⅱb層	完形	9.0	8.4	6.0	580	輝緑岩	
229	磨石類	D1Ⅱc類	P3041［SI3387］	3E4　S1	完形	11.6	9.4	5.9	990	輝緑岩	
230	磨石類	D2Ⅱa類		9F10　Ⅲb層	完形	11.1	6.3	4.5	390	花崗岩	
231	磨石類	D3Ⅱa類	P6151	2E22　S1	完形	13.8	6.9	3.8	470	輝緑岩	
232	磨石類	D3Ⅱc類	P1078	2E18　S1	完形	11.0	8.3	5.1	690	輝緑岩	
233	磨石類	EⅠ類	SD5186	9F21（Ⅲb層）	完形	22.2	8.5	3.3	830	凝灰岩	
234	磨石類	EⅠ類	P 969［SI7630］	8D12（1層）	完形	11.6	9.5	7.6	1155	花崗岩	
235	磨石類	EⅡ類	-	11E6　Ⅱb層	完形	15.4	7.4	3.9	635	ヒン岩	
236	磨石類	EⅡ類	SK4629	16E16　S3	完形	8.3	8.3	4.6	495	輝緑岩	
237	磨石類	EⅡ類	P3075	4D13（覆土）S1	完形	9.9	8.7	4.9	530	凝灰岩	
238	磨石類	EⅡ類	SX 118	13C24（3層）S1	完形	13.9	10.0	5.7	915	凝灰岩	
239	磨石類	EⅢ類	-	11E13　Ⅱb層	完形	14.0	7.5	6.4	955	花崗岩	
240	磨石類	EⅢ類	SD5186	12D6（Ⅱb層）	完形	8.5	7.6	3.4	230	凝灰岩	
241	磨石類	FⅠa類	P1777［SB7701］	3G8	完形	13.9	5.4	4.4	350	砂岩	
242	磨石類	FⅠb類	SK3695	9D5・10、10D1・6　S28	一端欠	21.2	7.5	4.6	820	輝緑岩	
243	磨石類	FⅠc類		6E9　Ⅲb層	完形	10.2	7.3	2.7	280	輝緑岩	
244	磨石類	FⅡa類	-	11D13　Ⅲb層	完形	16.3	5.3	2.5	340	輝緑岩	
245	磨石類	FⅡa類	P 184［SI7832］	13D18（1層）S1	完形	11.5	6.7	3.5	425	花崗岩	
246	磨石類	FⅡb類	SK2946	5E9（1層）S1	完形	14.0	7.7	4.6	580	輝緑岩	
247	磨石類	FⅡb類	-	10F22　Ⅱb層	完形	13.6	7.5	5.0	630	輝緑岩	
248	磨石類	FⅡc類		9・10E（Ⅱb層）S1	完形	26.0	7.8	5.9	1760	ヒン岩	
249	磨石類	FⅡc類	SI 201	10F15（Ⅱb層）S2	完形	9.9	7.3	4.5	415	花崗岩	
250	磨石類	Ga類	-	10F5　Ⅱb層	完形	6.9	5.4	3.4	119	凝灰岩	
251	磨石類	Ga類	SI 201	10F5　Ⅱb層	完形	15.9	8.0	4.3	765	凝灰岩	
252	磨石類	Gb類	-	9E1　Ⅲa層	完形	11.4	8.2	2.6	365	輝緑岩	
253	磨石類	Gc類	SD5186	11D15（Ⅲb層）	完形	12.6	6.2	5.2	548	花崗岩	
254	磨石類	Gc類	P 789	13D24（1層）S1	半損	14.3	7.5	3.6	682	輝緑岩	
255	多面体敲石		SX6185	3E17（1層）	半損	7.6	8.2	4.2	310	凝灰岩（流紋岩質）	
256	多面体敲石		石囲炉998［SI3908］	8C23（1層）S1	完形	5.3	5.9	5.3	235	頁岩Ⅶa	
257	多面体敲石		SD 5186	11D9（Ⅲa層）	完形	5.6	6.0	4.8	173	アプライト（花崗斑岩）	

報告No.	器種	分類	遺構名等	出土地点・層位等	残存	法量（cm・g）				石材	備考
						長さ	幅	厚さ	重量		
258	多面体敲石		P7160	4E12・17（1層）S1	完形	5.0	5.5	4.9	210	ハンレイ岩	
259	打製石斧	A類		10D9 Ⅲb層	完形	17.1	4.3	2.1	190	泥岩	
260	打製石斧	A類		10D20 Ⅱb層	完形	13.5	4.7	1.4	124	泥岩	
261	打製石斧	A類	-	10E10 Ⅱb層	完形	15.4	4.4	1.8	154	砂岩	
262	打製石斧	A類	SD5186	9E17（Ⅲa1層）	完形	11.1	5.6	1.8	160	泥岩	
263	打製石斧	A類		6D14 Ⅲb層	完形	10.7	2.,7	1.4	50	泥岩	
264	打製石斧	A類	-	2E18 Ⅲb層	完形	8.9	2.6	1.0	31	泥岩	
265	打製石斧	A類	-	2F25 Ⅱb・ⅡC層	完形	6.9	3.0	0.8	19	泥岩	
266	打製石斧	A類	P1714［SB7700］	3F13（覆土9層）	完形	4.5	3.0	0.6	15	泥岩	
267	打製石斧	A類	-	8E23 Ⅱb層	完形	6.0	2.0	0.8	9	泥岩	
268	打製石斧	B類		3D6 Ⅳ層	刃部欠	7.9	4.9	1.3	55	泥岩	
269	打製石斧	未成品	SK3922	10D13（覆土）S1	完形	14.3	7.4	1.7	260	泥岩	
270	打製石斧	未成品	P1702［SB7703・7704］	4E8・9・13・14・21（24層）	完形	17.7	6.7	2.3	480	泥岩	
271	打製石斧	未成品	SD 301	6G8（2層）	完形	12.6	6.2	1.8	156	泥岩	
272	打製石斧	未成品	-	8E5 Ⅲb層	完形	9.3	2.4	1.1	31	泥岩	
273	板状石器		-	6E10 Ⅱb層	完形	7.2	8.6	2.0	188	輝緑岩	
274	板状石器		-	5F1 Ⅱb・Ⅱc層	完形	5.8	6.5	1.6	85	泥岩	
275	板状石器		P6548［SB7711］・P6549［SB7710］	5・10、7E6（覆土）	完形	3.7	4.2	0.9	10	泥岩	
276	石錘		P437［SB7703・7704］	4E17（覆土）	完形	8.1	6.8	1.9	150	ヒン岩	
277	礫器		SK3695	9D5	完形	19.7	17.0	4.2	820	凝灰岩	凹痕有
278	礫器		P4056［SB7708］	6F10（柱痕）	完形	15.1	12.8	2.8	670	輝緑岩	
279	礫器		P1714［SB7700］	3F13（埋土）	完形	12.3	8.0	2.5	190	凝灰岩	
280	礫器		-	7F16 Ⅱb層	半損	6.9	5.1	1.6	74	輝緑岩	黒色物付着
281	礫器		SK 334	10D18（1層）	完形	10.4	8.5	1.9	215	輝緑岩	
282	石棒類	A1類	P1850	2E23（覆土）S1	胴部	37.4	15.7	13.9		流紋岩	
283	石棒類	A1類	石囲炉 2207［SI3912］	8F2（1層）S4	胴部	22.3	13.1	10.2	4745	輝緑岩	
284	石棒類	A1類	包含層、SD301	10G6 Ⅱb層、7E6・12（2層）	胴部	19.8	11.4	12.7	3615	輝緑岩	2点接合
285	石棒類	A1類	SI7822～7824	8G（Ⅱb層）S10	基部片	13.6	8.8	7.0	1012	ヒン岩	
286	石棒類	A2類	-	5D4 Ⅱb層	基部片	12.9	2.3	2.2	89	粘板岩	
287	石棒類	B類	P437［SB7703・7704］	4F17（Ⅲb層）S1	略完形	25.2	4.3	4.2	680	ヒン岩	
288	石棒類	B類	SI201	11F12（床面）	略完形	31.2	8.4	8.6	3890	ヒン岩	
289	大珠			13D5（Ⅱb層）S2	完形	10.0	4.4	2.7	183.2	蛇紋岩	
290	垂飾り		SD5186	11D13（Ⅲa層）	完形	3.6	2.4	1.1	10.0	泥岩	
291	有孔石製品			8F7 Ⅱb層	半損	2.1	4.0	0.6	3.7	泥岩	線刻有り
292	有孔石製品			12E4 Ⅲb層	半損	2.8	7.9	1.2	18.5	泥岩	
293	玦状耳飾り			9F22 Ⅱb層	半損	3.0	1.6	0.5	2.1	泥岩	
294	線状痕有			10E25 Ⅱb層	半損	13.6	7.5	4.6	531.7	輝緑岩	凹痕有り
295	線状痕有		SD301	7E1（1層）	完形	5.3	6.7	1.3	55.7	凝灰岩	
296	擦痕有	A1類		4F14 Ⅲb層	完形	7.8	4.3	1.4	54.8	凝灰岩	
297	擦痕有	A2類	-	10D14 Ⅲa層	完形	6.1	2.7	1.8	32.3	泥岩	
298	擦痕有	B1類	-	6D12 Ⅱb層	略完形	10.6	8.4	2.7	258.0	凝灰岩	
299	擦痕有	B1類	SI 201	11F17（床面）S28	完形	5.9	5.1	1.0	39.9	泥岩	
300	擦痕有	B1類	SD 301	7C22（2層）	略完形	5.6	5.7	0.7	29.2	泥岩	
301	擦痕有	B2類		8E4 Ⅲb層	完形	8.1	6.3	1.4	96.0	泥岩	
302	浮子			2F20（Ⅱb・ⅡC層）	完形	6.7	3.9	1.4	4.6	軽石	
303	線刻礫			14D25 Ⅲb層	半損	7.5	4.3	0.9	39.5	泥岩	
304	逆T字形		SD5186	9E23（Ⅲa層）	一端欠	3.5	4.4	1.7	25.0	泥岩	
305	石冠		P5615［SI8488］	10F16	片基部片	7.1	2.3	2.3	36.3	粘板岩	
306	抉り入り石製品			8G12 Ⅱb層	完形	5.0	4.1	1.1	25.4	凝灰岩	
307	板状石製品	A類（円形）	P3020［SB3492］	2D9・10・14・15（覆土）	完形	5.6	5.1	1.1	21.3	泥岩	
308	板状石製品	B類（四角）	SD 301	6E5（1層）	完形	8.2	6.8	1.6	64.6	凝灰岩	
309	板状石製品	B類（四角）		9D18 Ⅱb層	完形	5.9	4.7	1.2	30.8	凝灰岩	両面加工
310	板状石製品	B類（四角）		10F11 Ⅱb層	完形	5.4	3.9	1.1	27.9	輝緑岩	
311	板状石製品	C類（三角）		10E18 Ⅱb層	完形	4.4	4.3	2.1	37.5	砂岩	
312	板状石製品	C類（三角）		2F19 Ⅲb層	完形	4.4	4.4	0.7	13.7	泥岩	
313	板状石製品	C類（三角）		7G7 Ⅱb層	完形	4.2	3.9	0.7	8.2	泥岩	
314	板状石製品	C類（三角）		9G6 Ⅲa層	完形	5.7	9.3	1.1	45.6	凝灰岩	砥石転用
315	三角立方形石製品		SI1291	12E2（6層）S4	完形	6.6	6.2	3.9	119.1	輝緑岩	
316	三角立方形石製品		-	14D1 Ⅱb層	完形	8.9	8.0	5.9	315.0	輝緑岩	
317	分類不可	A類	石囲炉 2207［SI3912］	8F2（1層）	完形	38.7	6.5	4.6	1157	頁岩？	
318	分類不可	A類	SD5186	9E18（Ⅲb層）	完形	14.0	13.2	3.0	140	凝灰岩	2点接合
319	分類不可	A類		11F4 Ⅱb層	完形	15.8	9.9	4.9	760	輝緑岩	
320	分類不可	B類		2F2 ⅡC層	完形	11.5	5.3	1.8	111	凝灰岩	
321	分類不可	B類		7F14 Ⅱb層	完形	10.4	6.8	1.4	74	泥岩	
322	分類不可	B類	P1890	5D22（覆土）	完形	14.5	12.5	2.2	430	輝緑岩	
323	自然礫	B類		14D11 Ⅱb層	完形	7.4	6.5	1.1	71	泥岩	
324	自然礫	C類		8F3 Ⅱb層	完形	7.1	7.0	2.3	228	輝緑岩	
325	自然礫	I類		10D25 Ⅱb層	完形	9.0	9.0	1.6	146	ヒン岩	
326	自然礫	J類		7E13 Ⅲb層	完形	24.0	8.0	5.8	1520	輝緑岩	男根形
327	自然礫	J類	SK 137	12D8（1層）	完形	13.0	2.0	1.3	62	泥岩	
328	自然礫	K類		11E22 Ⅱb層	完形	9.8	7.6	1.0	81	泥岩	
329	自然礫			7F23 Ⅱb層	完形	2.7	2.0	1.0	8.3	ヒスイ	
330	自然礫			10F2 Ⅱb層	完形	4.2	3.7	1.7	28.2	ヒスイ	

D そ の 他

報告 No.	種別	遺構名等	出土地点・層位等	法 量（cm・g）				備考
				長さ	幅	厚さ	重量	
331	アスファルト塊	SD5186	10E2 Ⅲa1層	8.3	8.2	5.8	193.0	正面にわずかに面あり

陶磁器・漆器観察表

報告No.	出土地点・層位	種別	器種	時期	法量（cm）			文様・調整・施釉	色調	残存率		備考
					口径	器高	底径			口縁	底部	
1	SD301（6E）1層	珠洲焼	片口鉢	吉岡Ⅳ期（13C末～14C）	不明			ロクロナデ 卸し目（条数不明）	浅黄色			
2	SD301（7E）1層	珠洲焼	片口鉢				不明	ロクロナデ 卸し目（条数不明）	灰褐色～にぶい黄褐色			内外面一部に黒色付着物
3	7E20　表採	土師器	皿					ロクロナデ	浅黄橙色	4		
4	7D25 Ⅱ層	土師器	皿	15Cか	11.0			ロクロナデ	浅黄橙色			
5	3F23 Ⅱb層	瀬戸・美濃焼	天目茶椀	大窯1期後半～2期（15C末～16C半ば）			4.4	ロクロナデ　鉄釉 高台周辺錆釉化粧掛け	胎土：淡黄色 釉：暗赤色～赤黒色		9	
6	P517（3C25）覆土	瀬戸・美濃焼	丸皿	大窯3～4期か	8.7	2.1	4.7	ロクロナデ　灰釉 底部外面も施釉	胎土：灰白～灰オリーブ色 釉：オリーブ黄色	9	18	
7	4F21 Ⅱb・Ⅱc層	肥前系陶器	皿	16C末～17C第1四半期			3.8	ロクロナデ　灰釉 底部削り出し高台	胎土：暗灰黄色 釉：暗オリーブ色～オリーブ色		13	
8	7E6 Ⅰ層	肥前系陶器	鉄絵皿	16C末～17C第1四半期				ロクロナデ　灰釉 鉄釉による文様	胎土：橙色 釉：にぶい褐色			
9	SK521（3D20）	漆器	椀		12.3			塗膜のみ残存	赤色	13		

銭貨観察表

報告No.	分類	出土地点・層位	法量（cm・g）				初鋳年	備考
			長さ	幅	厚さ	重さ		
10	天聖元寶	SK521（3D20）	2.5	2.5	0.15	5.43	1023（北宋）	篆書
11上	■■通寶	SK521（3D20）	2.4	2.4	0.15	2.66		真書　重なっているため文字不明
11下	天禧通寶か	SK521（3D20）	2.6	2.6	0.15		1017（北宋）	真書　裏面に布付着

長割遺跡　中期土器観察表

報告No.	出土地点・層位	器種	時期	分類	法量（cm）				文様・調整			胎土	色調	残存率		備考
					口径	器高	底径	胴大	口縁部	胴部	地文			口縁	底部	
1	P8881（3F3）	深鉢	前葉	A－ii－						ii類RL↓		A	1			
2	P9063（4G8）	浅鉢	前葉				8.4					A	1		36	
3	集中（4F）Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅠa－1					Ⅰ類RL→･棒状突起			A	1	16		
4	集中（4F）Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅡ－2	(40.0前後か)				2段区画			A	1	3		
5	集中（4F）Ⅳ層、3F13・15・20、4F11・12・16、4G2 Ⅳ層、4F16 Ⅲb層	深鉢	前葉	AⅠcv2	39.4			39.5	Ⅰ類縦位沈線、口縁下部・頸部はU字状区画内に格子目文	外面ケズリ		A	1	13		
6	集中（4F）Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅦ－iv－					Ⅶ類RL↓か			A	5	1		
7	集中（4F）Ⅳ層	深鉢	前葉	AV－2					爪形文・棒状突起・h状文			A	1	2		
8	集中(4F11･12)Ⅳ層､P2709(4F11･12)1層1・2・4、P1710（4F11）埋土、P422（4F6）32層、4F11・12 Ⅳ層、4F11 Ⅲb層	深鉢	前葉	AⅠ－2	29.1				Ⅰ類縦位沈線		L→	B	1	15		
9	集中Ⅰ（3D4）Ⅳ層1～5・8・10～15・18、3C24・25、3D3・4 Ⅳ層、2D5 Ⅵ層	深鉢	前葉	－iii－			15.5					A	1		10	
10	集中Ⅱ（3D3・4）Ⅳ層1～6・8・9、3D3・4 Ⅱb～Ⅱc層	深鉢	前葉	AⅠbiv2				28.8	Ⅰ類縦位沈線、爪形文・b類LR→		RL→	A	1	3		
11	集中Ⅲ（4C・4D）Ⅵ層47・50・56・62・78・89・93・99、4C23・4D3 Ⅳ層、4D2・3 Ⅵ層	深鉢	前葉	AⅠcii2					Ⅰ類格子目文	ii類RL→・LR↓、B字状文・三叉文		A	1	6		
12	集中Ⅲ（4C22・23）V層13・28、3D2・4C23 Ⅳ層、4D2 V層	深鉢	前葉	AⅠ－ii2					Ⅰ類格子目文	ii類LR･爪形文･三角形陰刻･玉抱三叉文		A	1	3		
13	集中Ⅲ（4C22・23）V層3・6・9・12・17・19～26・28・36、Ⅵ層40・59・64・86、4C22・23 Ⅳ層、4D2 V層、3C24 Ⅵ層	深鉢	前葉	AⅣaiv1	37.0		13.7		Ⅳ類RL・棒状突起2個1対		LR→	A	1	9		
14	集中Ⅲ（4C22）V層	深鉢	前葉	AⅣb－1	24.0				Ⅳb類LR→･棒状突起			A	1	5		
15	集中Ⅲ（4C22・23）Ⅵ層37	深鉢	前葉	－ii－						ii類RL→か、一部爪形文		A1	1			
16	集中Ⅲ（4D2・3）Ⅵ層67	深鉢	前葉									A	1		4	
17	集中Ⅳ（5D17）V層1・2・4・8、Ⅵ層17・18・20、5D12 V層	深鉢	前葉	AⅠ－1					Ⅰ類RL・突起・三叉文			A	1	3		
18	集中Ⅳ（5D17）V層10・14	深鉢	前葉	AⅡc－1	15.9				し字状突起		半隆起線か	A	1	5		
19	集中Ⅳ（5D17）Ⅵ層16	深鉢	前葉	AⅢc－1					し字＋h字状突起			A1	5	2		
20	集中Ⅳ（5D17）V層5・6・12、4C25 Ⅳ層、P3278（5D19）覆土	深鉢	前葉	AⅠa－1	42.2				Ⅰ類RL→			A	1	5		
21	集中Ⅳ（5D17）V層1・2・4、Ⅵ層17・18・20	深鉢	前葉	－ii－						ii類格子目文・RL						
22	集中V(5D17)V層2～4･6･9･11･12･14･15､5D18･23V層､5D18･25 Ⅵ層､P3168(5D23)覆土	深鉢	前葉	AⅠai1	25.5				Ⅰ類縦位沈線			A	1	16		
23	2G4・10 Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅠa－1					Ⅰ類格子目文、渦巻状突起内に格子目文			A	1	5		
24	4F18 Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅠc－1					Ⅰ類縦位沈線、棒状突起に爪形文			A	1	3		
25	4F9 Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅠc－2					Ⅰ類格子目文			A	1	2		
26	4D18 V層	深鉢	前葉	AⅠ－2					Ⅰ類縦位沈線			B	5	3		
27	4C24・25 Ⅳ・Ⅵ層	深鉢	前葉	AⅠbii1					Ⅰ類LR→	ii類格子目文･LR→		A	1	4		
28	P6029（3F7）、3F12 Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅠc－2	13.7				Ⅰ類格子目文			A	5	4		
29	集中（4F）Ⅳ層、4F7・12 Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅡc－1								A	5	4		
30	P2713（4F14）1層､P1744（4G8）､4D4・11・12 Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅡc－1					Ⅱ類地文RL→、渦巻状突起内RL↓			A	1	3		
31	6D1 Ⅵ層	深鉢	前葉	AⅡ－3								A	1	2		
32	4G9 Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅡc－2	(40.0以上)							A	1	1		
33	3D25 Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅡ－2	12.5				爪形文			A	5	4		
34	4F12 Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅡb－1					b類RLまたはLR		RLまたはLR	A	1	3		
35	5D1 V層	深鉢	前葉	AⅡ－								A	1	2		
36	4D2 Ⅵ層	深鉢	前葉	AⅡ－								A	1	1		

報告No.	出土地点・層位	器種	時期	分類	法量（cm）				文様・調整			胎土	色調	残存率		備考
					口径	器高	底径	胴大	口縁部	胴部	地文			口縁	底部	
37	4F18 Ⅳ層、4F9 Ⅴ層	深鉢	前葉	AⅢc－1					軌軸文・爪形文・し字状突起に格子目文			A	1	3		
38	5F1・2 Ⅵ層	深鉢	前葉	AⅢaⅲ1	31.9		13.3	27.4				A	1	1	15	底面スダレ状圧痕
39	5F2 Ⅵ層	深鉢	前葉	AⅣc－2					Ⅳ類 RL ↓			A	1	2		
40	2F Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅣ－2					Ⅳ類 RL →か			C	1	2		
41	5E3・4、5F1 Ⅵ層	深鉢	前葉	AⅣ－ⅳ2	13.7	14.6	6.8		Ⅳⅳ類 RL →		LR→	A	1	29	9	
42	4E12 Ⅵ層	深鉢	前葉	AⅤ－ⅳ2							RL →	C	1	4		
43	5D11・16 Ⅴ層	ミニチュア	前葉	AⅤ－ⅳ3	6.0				半隆起線		RL ↓	A	1	5		
44	3F15 Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅦ－ⅳ2					ⅳ類 LR → ・RL →			A	1	2		
45	4F10 Ⅳ層・Ⅴ層	浅鉢?	前葉	AⅦ－ｖ3					口縁肥厚			A	1	6		
46	3D1 Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅦ－ⅳ1							RL ↓	A	1	2		
47	4E4 Ⅳ層	深鉢	前葉	A－						円形突起	RL→か	A1	1			
48	4D25 Ⅴ層	深鉢	前葉	A－						爪形文・円形突起		A	5			
49	5E13 Ⅵ層	深鉢	前葉	A－						の字状（?）突起		A	1			
50	5D17 Ⅴ層	深鉢	前葉	A－						半隆起線・縦位沈線		A	1			
51	3F8 Ⅳ層	深鉢	前葉	A－						蓮華文・半隆起線・円形突起	不明	A	1			
52	4E23 Ⅵ層	深鉢	前葉	A－ⅱ－						ⅱ類 RL ↓		A	1			
53	2G5 Ⅳ層	深鉢	前葉	A－ⅲ－								A	1			
54	2E12 Ⅳ層		前葉	A－ⅰ－			6.5					D	4		9	
55	4E23 Ⅵ層	深鉢	前葉	A－－						横位隆帯上に絡条体圧痕文		A	1			
56	4F14 Ⅳ層	深鉢	前葉	B－ｖ－			4.8			縦位沈線＋交互刺突・B字状沈線		A	1		20	
57	5E9 Ⅵ層	深鉢	前葉	A－cⅳ－							RL →	A	1			
58	4F6 Ⅳ層	深鉢	前葉	－ⅱ－			12.5			LR →		A	1		7	底面スダレ状圧痕か
59	4D4 Ⅴ層、4D3 Ⅵ層	深鉢	前葉	A－ⅲ－			15.4					A	1		5	底面破断面に炭化物付着
60	3G10 Ⅵ層	ミニチュア	前葉				4.4					E	5		15	
61	4F12 Ⅳ層	深鉢	前葉	A－ⅳ－							RL ↓	A	1		4	
62	6E1 Ⅵ層	深鉢	前葉				12.5					A	1		19	
63	5D1・2 Ⅴ層	深鉢	前葉	－ⅲ－			16.9					A	1		6	
64	P422（3F10・4F6）［SB7703・7704］2・6・22層、P435（3F14・15）［SB7703・7704］6層、P2696［SI7602］（3F9）1層	深鉢	前葉	AⅠdⅱ1	19.0				Ⅰ類縦位沈線、交互刺突・し字状突起・渦巻状突起		ⅱ類格子目文	A	1	8		
65	集中（4F）Ⅳ層、P1709［SB7703］（4F7）埋土、4F3 Ⅳ層、6D11 Ⅵ層	深鉢	前葉	AⅣa－1					Ⅳ類 RL →			A	1	6		
66	P7342･P7374(3G10)､4F14Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅣ－2	25.8				Ⅳ類 RL か・爪形文			D	1	4		
67	P422（4F6）［SB7703・7704］41層、P1701［SB7703］（3F20）14層、P1702［SB7703･7704］（4F1・2）4・7・10層、3F2・5・15 Ⅳ層、4E17・4F2 Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅤ－2					口縁肥厚			F	3	3		
68	P422（4F6）［SB7703・7704］4層	深鉢	前葉	AⅢcⅱ2	9.8					ⅱ類格子目文・B字状文		E	1	2		
69	P3444（5D24）覆土	深鉢	前葉	AⅤ－					棒状突起上に押圧			C	5			
70	P422（4F6）35層、P1702（4F1・2）4・6・7層、4F2・6 Ⅳ層	深鉢	前葉	AⅡe－1					e類 RL →			A2	1	6		
71	P1710（4F11）［SB7703］埋土	深鉢	前葉	－ⅲ－								A	1			
72	P422（3F10・4F6）［SB7703・7704］2・18・24層・柱痕1層、P1702（4F1･2）［SB7703・7704］埋土28～30、3・4・6・7・8・10層、P1702（4E21）埋土27～29、4E22 Ⅲb層	深鉢	前葉	AⅥⅲ3					半隆起線（細）・円形突起			A	1	6		
73	P1840（5C22）11層	深鉢	前葉	A－ⅱ－						ⅱ類細沈線、内面ケズリ		A	1			
74	P464(4F5)[SB7702･7703]16層	深鉢	前葉	A－ⅰ－						ⅰ類沈線		A3	2			
75	P455[SB7702･7703](4E17･18)26層	-	前葉	C－					縦・横位隆帯上に絡条体圧痕文			A	1			
76	確認 71T Ⅲ層	深鉢	前葉	A－ⅱ－						半隆起線X字状、突起・軌軸文		B	1			
77	5C21 Ⅲb下層	深鉢	前葉	A－ⅱ－						ⅱ類 RL		A	1			
78	5E18 Ⅴ層	深鉢	中葉						渦巻文							王冠型土器
79	5G12 Ⅲb層	深鉢	中葉							渦巻文						大木式
80	4G10 Ⅲb層	深鉢	中葉						隆起線文							王冠型土器
81	P1853（2D19）［SI7634］	深鉢	後葉							隆起線文・沈線						

最下面

報告No.	器種	分類	遺構名等	出土地点・層位等	残存	法量（cm・g）				石材	備考
						長さ	幅	厚さ	重量		
82	両極石器	剥A類		4C25 Ⅵ層	完形	6.5	5.2	1.9	44.7	頁岩Ⅶa	
83	両極石器	剥B類		7E2 Ⅵ層	完形	3.5	3.5	1.1	11.4	頁岩Ⅶa	
84	不定形石器	E類		5D3 Ⅵ層	完形	5.2	4.9	1.6	30.0	流紋岩Ⅰ	
85	不定形石器	F1類		3G14 Ⅵ層	完形	4.4	4.5	0.8	12.3	頁岩Ⅶa	
86	不定形石器	F1類	SK8872	2F7（覆土）	完形	4.0	2.2	0.8	5.0	流紋岩Ⅰ	
87	不定形石器	H類		2F Ⅵ層	完形	5.4	4.6	0.8	15.8	頁岩Ⅶa	
88	磨製石斧	未成品	P8839	2F19（1層）	基部欠	10.9	8.3	3.8	600.0	輝緑岩	敲打のみ
89	磨製石斧	大型	P3434	4D21 Ⅴ層	完形	13.0	6.0	3.4	430.0	輝緑岩	刃部敲打
90	打製石斧	A類		3D9 Ⅴ層	完形	10.7	6.3	2.4	190.0	泥岩	
91	磨石類	B3Ⅱ類		11E4 Ⅵ層	完形	10.7	8.1	5.8	725.0	花崗岩	
92	磨石類	EⅡ類	遺物集中Ⅲ	4C23 Ⅵ層	半損	9.8	4.4	4.0	130.0	凝灰岩	
93	磨石類	FⅡa類		4D8 Ⅴ層	完形	16.7	5.3	4.7	650.0	輝緑岩	
94	砥石	C類		5D23・5E4 Ⅵ層	縦半損	26.1	13.5	6.9	1905.0	砂岩	2点接合
95	分類不可	大型剥離		5D21 Ⅵ層	完形	13.3	8.0	1.7	250.0	輝緑岩	
96	分類不可	大型剥離		5F2 Ⅵ層	完形	5.5	3.8	0.8	18.9	泥岩	打製石斧刃部片か

報　告　書　抄　録

ふりがな	ながわりいせき
書名	長割遺跡
副書名	日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書
巻次	ＸＸＸⅦ
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 224 集
編著者名	滝沢規朗・坂上有紀（財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団）、藤根　久（パレオ・ラボ）、 山崎　健（奈良文化財研究所）・納屋内高史（京都大学大学院）、吉川純子（古代の森研究舎）、 株式会社 加速器分析研究所、株式会社 古環境研究所、有限会社 遺物材料研究所
編集機関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒 956-0845　新潟市秋葉区金津 93 番地 1　　TEL　0250（25）3981
発行年月日	西暦 2011（平成 23）年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
長割遺跡（ながわりいせき）	新潟県村上市（にいがたけんむらかみし） 大字下相川字（おおあざしもあいかわあざ） 長割（ながわり）	15-2129	5	38 度 13 分 35 秒	139 度 30 分 12 秒	20070416 ～ 1207、 20080403 ～ 1017	12,500㎡	日本海沿岸東北自動車道建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長割遺跡	散布地	縄文時代 中期前葉	地床炉 3 基、土坑 5 基、ピット多数	土器、石器	
	集落	縄文時代 後期前葉	竪穴建物 1 棟、平地建物 166 棟、掘立柱建物 21 棟、杭列 2 条、埋設土器 12 基、袋状土坑 6 基、土坑 170 基、ピット多数	縄文土器、土製品（土偶・土器片円板、ミニチュア土器、皿状土製品など）、石器、石製品（大珠・線刻礫、石刀など）、動物遺存体（焼骨）	県内最大級の規模を誇る拠点的集落。長軸 18 ｍを超える掘立柱建物を 3 棟検出したが、これらは縄文時代の掘立柱建物の床面積としては、県内最大。

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 224 集

日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書ＸＸＸⅦ

長割遺跡　本文編

平成 23 年 3 月 30 日印刷
平成 23 年 3 月 31 日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒 950-8570　新潟市中央区新光町 4 番地 1
電話　025（285）5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒 956-0845　新潟市秋葉区金津 93 番地 1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　新高速印刷株式会社
〒 950-0963　新潟市中央区南出来島 2 丁目 1-25
電話　025（285）3311

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第224集『長割遺跡』 正誤表追加　　2021年11月追加

頁	位置	誤	正
図版438	上から２段目	７９１	７９２
図版438	上から２段目	７９２	７９１
図版439	上から２段目 ８１１の左側	（番号なし）	８１０
図版446	上から２段目	９４９	９３９
図版446	下から４段目	９３９	９４３
図版467	上から５段目	５７ｂ	５７ｃ

第224集 長割遺跡　正誤表

p.301 土製品観察表

報告No.	出土地点・層位	種類	法量(cm・g)					文様・調整	成形	残存率		備考
			口径	器高	底径	胴大	重量			口縁	底部	
1107	SX1554(7E14)1層	ミニチュア土器(鉢)	4.5	7.1	3.4	5.2	117.41	無文	輪	9	36	

	ページ	行	誤	正
本文編	183	第163図キャプション	4:手根骨(№2537)	4:手根骨(№2533)
図版編	9	3Fグリッド	P435	P453
図版編	236		中期の土器 62q	中期の土器 62a